『PRIDE.13』接近情報もあるゾ!!
桜庭和志、髙田延彦
そして小川直也の周囲に
異変発生!!
衝撃!!
ヒクソンの長男死亡!!
どうなる小川vsヒクソン戦!!
紙のプロレス
RADICAL
2001 35
「純プロレス」を考え倒せ!
500人アンケート実施!!
世間は「純プロレス」をどう捉えてるのか?
3・2「ZERO-ONE」旗揚げ前に咆哮!!
橋本真也
withアレクサンダー大塚
大仁田厚/馳 浩
ノアの怪物ルーキー初登場!!
杉浦 貴
「純プロレス」の生き字引
ジョー樋口
活字「純プロレス」講座
堀辺正史
KOK決勝5秒前!!
リングスのザワメキをキャッチせよ!!
成瀬昌由
坂田 亘
無差別出陣!?
小路 晃
「新プロレス」の鉄槌に目を覚ますか?
シュート活字の始祖
田中正志
とは何者だ!?
「純プロレス」よ
ジャングルを
守るだけじゃなく
ジャングルをつくれ!!
紙のプロレスRADICAL
NO.35
"ジャングル"をつくれ!!
発行元:(株)ダブルクロス
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

提問
起題

今号は「純プロレス」を考えよう!!

ところでホントに「純プロレス」は生ける屍なのか!?

んなこたぁーねーだろッ!!
これからが始まりだろ!!

世紀末の『猪木祭り』、新世紀開けの新日本1・4、全日本1・28と、試合形式は一緒ながら、様々な角度の顔を見せた〝純プロレス〟。『PRIDE』に代表される〝新プロレス〟の台頭によって、「もはや役割は終わった」とさえ言われ、それを象徴するような事件やイベントが相次いだわけだが、ここにきて猪木軍団の拡大、ZERO－ONE、ノアを磁場とした「イニシアティブの取り合い」「プロレス観のつばぜり合い」が激化している。ジャングルを守るだけじゃ〝緑〟は増えないが、「ジャングルをつくりゃあいいじゃねえか!」(byアントン総帥)という機運が高まり、再び四角いジャングルに「闘魂の火種」が炎を吹き上げつつあるわけだ。そういうわけで、いっちょ、〝純プロレス〟の可能性を真っ正面から考えてみる気があるかい? アーッ!?

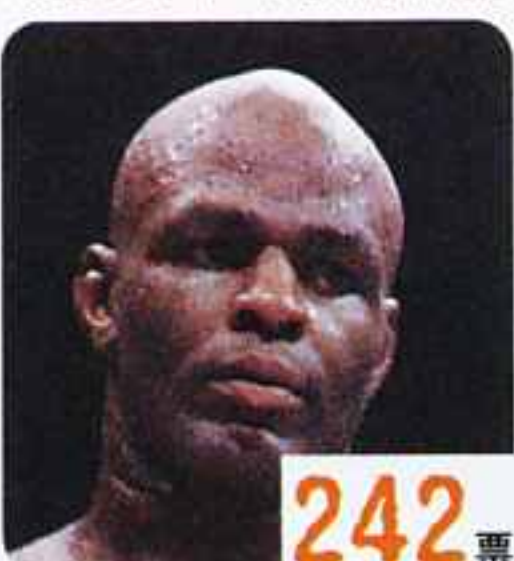
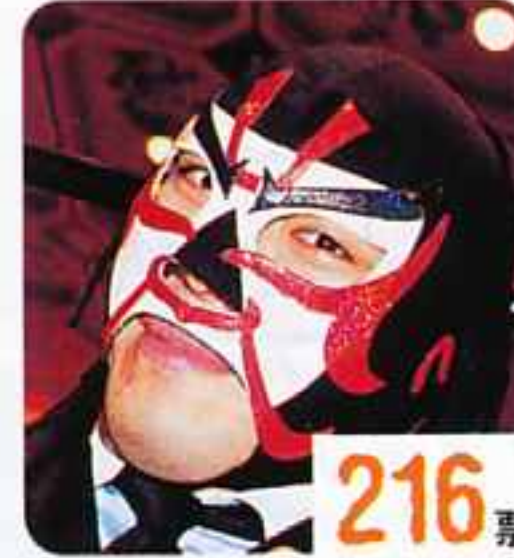
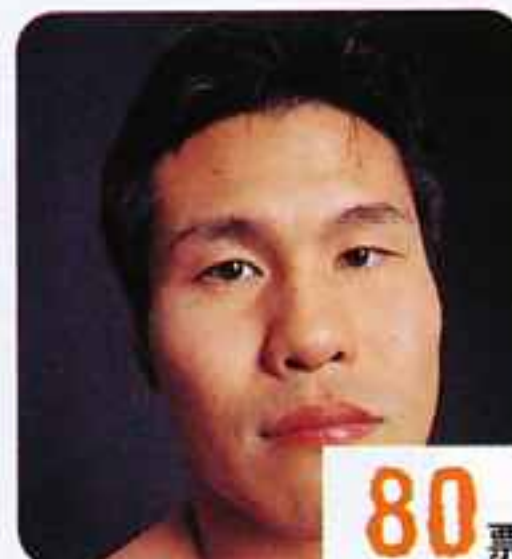
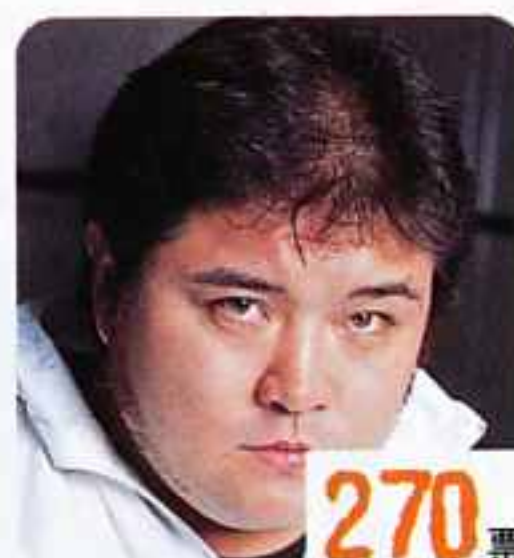
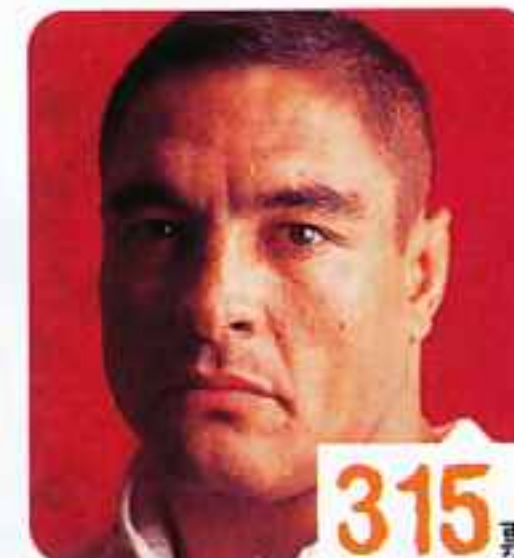
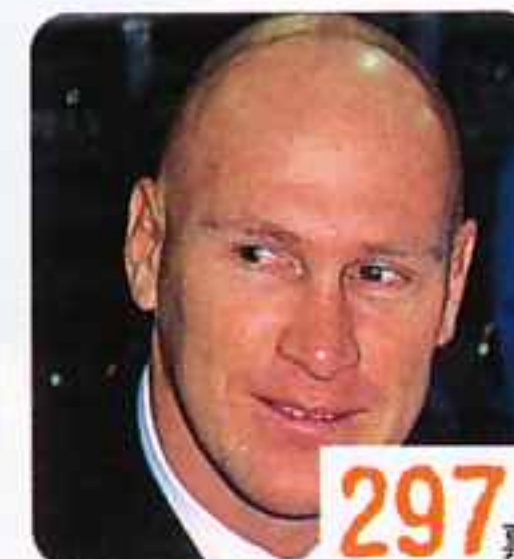
「純プロレス」はやっぱり知名度抜群！しかし世間での最強幻想はいまやK−1、VT（バーリ・トゥード）にあり！どうする「純プロレス」!?

構成／チョロ、水戸泉
text by Choro Izumi Mito
アンケート現場監督／幸田珍
撮影／福島俊彦
photographs by Toshihiko Hukushima

「純プロレス」の危機が叫ばれている今だからこそ、あえて世間に問う！
無差別（5歳〜88歳まで）襲撃アンケート
街頭500人
敢行！
アンケート収集地●渋谷／新宿／池袋／新橋／巣鴨

格闘家のプロレスごっこと揶揄する声も少なくなかった12・31『猪木祭り』、あわや暴動寸前となった1・4新日本、懐かしさを通り越して、古典芸能を見ているかのようだった1・28全日本。3大ドーム大会を通して、一部では「純プロレス・イズ・デッド」という声まで囁かれている今だからこそ、敢えてやります！　本誌が幅広く500人もの世間一般の人々を直撃！　21世紀、世間は「純プロレス」をどう捉えているのか？　目を背けるな！　これが答えだ！

Q.01 下の中からあなたの知っているプロレスラー、格闘家を挙げて下さい。(複数回答可)

TV効果か、知名度は「純プロレス」圧勝!! されど……

わたしもアンケートに答えましたぁ〜♥

ななえチャン
17歳　学生　身長154cm
体重38kg　B85-W58-H80

※このアンケートは各団体及び大会で中心選手として活躍する現役選手からセレクトしました。　(五十音順)

242票 アーネスト・ホースト

107票 秋山準

137票 アレクサンダー大塚

144票 宇野薫

161票 エンセン井上

428票 大仁田厚

318票 小川直也

148票 川田利明

70票 近藤有己

108票 桜井"マッハ"速人

319票 桜庭和志

169票 佐々木健介

258票 佐藤ルミナ

216票 ザ・グレート・サスケ

55票 ザ・ロック

60票 ストーンコールド

367票 高田延彦

80票 田村潔司

323票 長州力

291票 蝶野正洋

183票 天龍源一郎

270票 橋本真也

154票 ハヤブサ

315票 ヒクソン・グレイシー

357票 藤原喜明

209票 フランシスコ・フィリョ

87票 マーク・コールマン

242票 三沢光晴

297票 マイク・ベルナルド

73票 山本喧一

Q.01 CHECK!!

予想通り、老若男女を問わない有名ぶりで1位に輝いたのは大仁田！　ワイドショー効果も手伝って、男のみならず、女性への知名度が絶大だった高田が2位。若い子からはすっかりタレントだと思われていた藤原組長が3位。テレビへの露出度の高さがそのまま反映されたランキングだと言える。そのためか、田村、近藤といった純粋に試合のクオリティーの高さでファンからの支持を得ている選手にとっては厳しい結果となった。金曜8時のゴールデンタイム時代の財産なのか、オーちゃんやサクよりも長州の認知度が高かったことも付け加えておきたい。

Q.02 あなたが最強だと思う格闘技はなんですか？

世間での最強の格闘技のイメージはダントツでＫ－１ どうした「純プロレス」!!

最強格闘技

順位	格闘技	票数
1	Ｋ－１	192票
2	プロレス	72票
3	空手	31票
4	柔道	29票
5	相撲	28票
6	ボクシング	25票
7	柔術（グレイシー）	24票
8	キックボクシング	13票
9	レスリング	12票
10	サンボ	10票

Q.02 CHECK!!

プロレス、Ｋ－１に完敗！ とにかくＫ－１のその支持率たるや、尋常ではなく、１位のＫ－１と２位のプロレスについた差はダブルスコアどころか100票以上の大差！ Ｋ－１が誕生したのは93年のこと。これほどの短期間でプロレスに影も踏ませぬぐらいまで世間に最強のイメージを突き刺したＫ－１に脱帽である。以下の順位で注目すべきは７位の柔術。ヒクソンへの幻想は、今なお世間に浸透中のようだ。プロレスファンには、あまりに厳しい結果となったが、ここはプロレスが可能性を感じさせる〝何でもいいから凄ェこと〟を見せてくれることに期待したい。

最強は〝かかとおとし〟があるやつ！

ひろみチャン（19歳）
だけど、見てるとプロレスが一番痛そうな気が…。

デカイ人ばっかりのＫ－１が一番強い！

匿名希望クン
ゆりチャン（19歳）
『ＰＲＩＤＥ』かＫ－１だったらデートで行ってもいい！

プロレスが最強！…でしょ

まいこチャン（21歳）
プロレス技って痛いよね！ 一番痛かったのはＳＴＦ！

最強!! アーネスト・ホースト

驚愕！ K―1チャンプは世間にここまで認知されていた！

最強格闘家
RANKING

1	アーネスト・ホースト	(K−1)	49票
2	ヒクソン・グレイシー	(グレイシー柔術)	44票
3	マイク・タイソン	(ボクシング)	31票
4	ピーター・アーツ	(K−1)	28票
5	貴乃花	(相撲)	27票
6	桜庭和志	(プロレス)	25票
7	小川直也	(プロレス)	18票
8	武蔵丸	(相撲)	16票
9	ジェロム・レ・バンナ	(K−1)	10票
10	辰吉丈一郎	(ボクシング)	8票

誰も知らないから、ワイドショーに出てた高田でいいです。

ともみチャン（14歳）
格闘技とかプロレスとかって、よくわかんないです。

あの柔道やってた奴、なんて名前だっけ？ そいつが一番！

左・近藤さん（46歳）
中・池田さん（35歳）
右・塚本さん（52歳）
最強の格闘家？ 俺だよ！ 俺！（塚本さん談）

キックとパンチが上手な人が最強だと思います♥

まさえチャン（18歳）
知らなかったけど、最強そうな顔だからマッハが最強！

Q.03
CHECK!!

ランキングに純プロレスラーの姿ナシ！ 純プロレスラーの最高順位は長州力の13位。現IWGPチャンピオンの佐々木健介の得票数はたったの2票！ 1位のホーストのみならず、3位にピーター・アーツ、9位にバンナとここでもK−1強し！ 常に地上波で高視聴率を維持しているK−1に比べ、プロレスはと言うと、新日でさえ深夜枠での放映を余儀なくされているのが現状。そう考えれば、かつてはゴールデンタイムで試合が放送されていた長州が最強となるのも当然か。それにしても一度は引退した長州が最強とは…。こんなんでいいの？

「純プロレスラー」の最高ランクは長州力の13位! それでいいのか「純プロレス」!?

Q.03 あなたが最強だと思う格闘家は誰ですか?

2位ルミナ、3位宇野、総合系が上位を独占！もヤバイぞ「純プロレス」!!

りつこチャン
23歳　会社員　身長161cm　体重44kg
B84-W60-H84

たかチャン
18歳　学生　身長154cm　体重48kg
B80-W60-H85

みさとチャン
17歳　学生　身長158cm　体重48kg
B84-W57-H84

ゆかりチャン
17歳　学生　身長159cm　体重49kg
B80-W60-H83

なつみチャン
18歳　学生　身長162cm　体重48kg
B80-W60-H87

えりチャン
16歳　学生　身長153cm　体重42kg
B85-W59-H84

Q.04

ここで突然ですが……
アンケート中に遭遇したカワイイ女の子に直撃!
彼氏にしたい選手は誰ですかーッ!
(Q.01に写っている選手から選んでもらいました)

髙田が最強! 2
ギャル人気は総
ビジュアル面も

カワイイ娘が厳選!
彼氏にしたい選手

RANKING

順位	選手	票数
1	高田延彦	25票
2	佐藤ルミナ	19票
3	宇野薫	15票
4	桜庭和志	12票
5	桜井"マッハ"速人	7票
6	蝶野正洋	6票
7	小川直也	5票
7	大仁田厚	5票
9	橋本真也	4票
9	ザ・ロック	4票

あやのチャン
17歳　学生　身長148cm
体重40kg　B78-W59-H80

ゆかチャン
16歳　学生　身長156cm
体重40kg　B75-W59-H75

まさみチャン
14歳　学生　身長161.5cm　体重40kg　B79-W59-H80

やすよチャン
17歳　学生　身長156cm
体重43kg　B80-W58-H87

ゆうきチャン
18歳　学生　身長160cm
体重50kg　B98-W58-H98

さちチャン
18歳　学生　身長154cm
体重?kg　B80-W55-H83

Q.04
CHECK!

"アイ・アム・プロレスラー"高田が1位！　とにかく「最近のワイドショーで見たら優しそうだった」という意見が多数をしめた。ルミナ、宇野、マッハに関しては「知らないけど、かっこいい」という意見が大半。上位陣はなんともわかりやすいランキングとなったが、注目すべきは9位の橋本！　プロレスラーらしい酷のある顔に加えて、さらに古き良きプロレスラーを彷彿とさせるルックスの持ち主である破壊王に4票もの得票が集まるとは…。破壊王のようなタイプのプロレスラーを彼氏にしたがる女の子が続出！　そんな素晴らしい時代に早くなってほしいものだ。

カワイイ娘が厳選! 彼氏にしたくない編集者

RANKING

1 坂井"スモー"ノブ

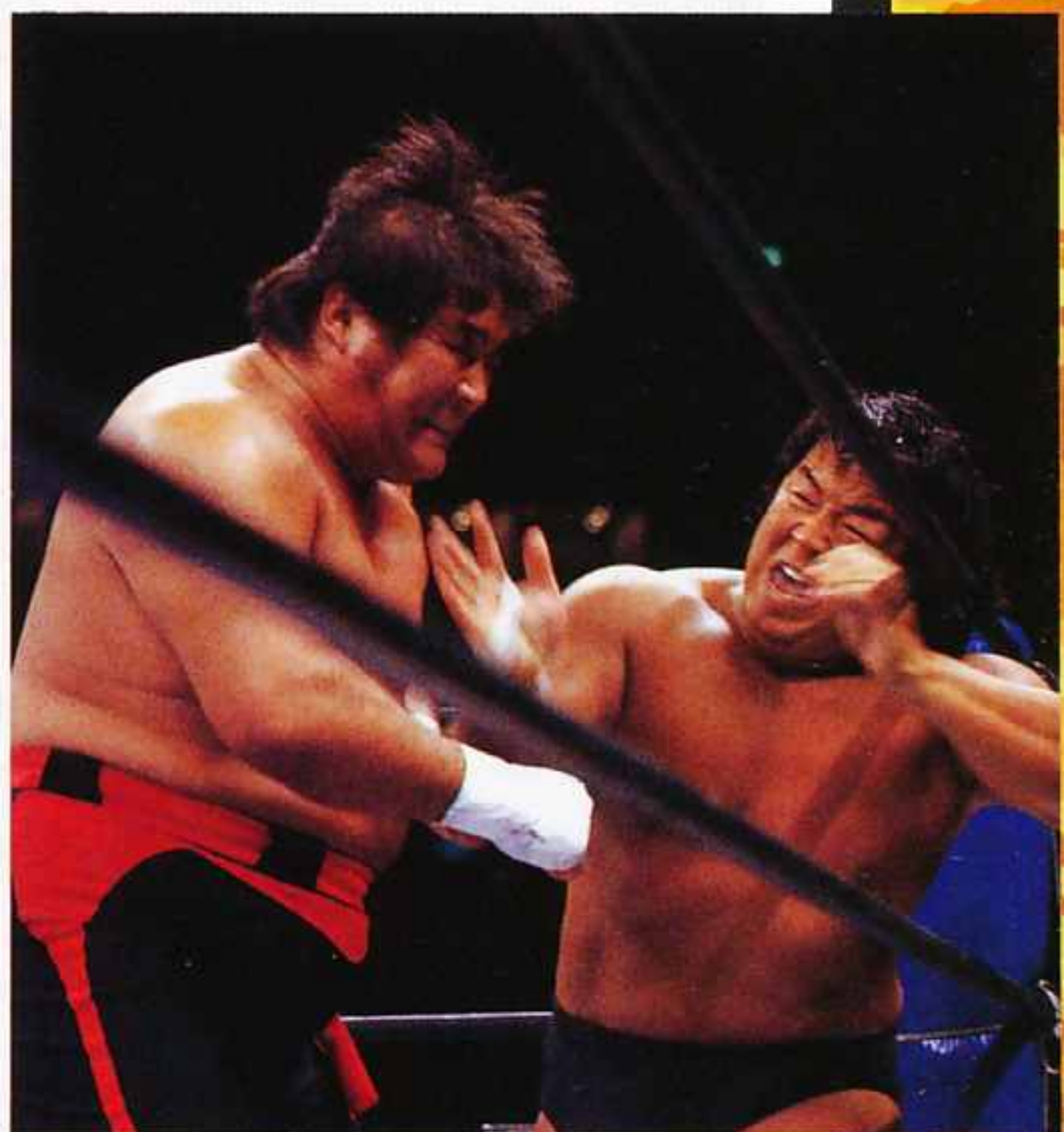
"アイ・アム・スモー編集者"坂井"スモー"ノブが1位。2位以下を10ゲーム以上突き放す横綱の風格で見事にライバル達をシャット・アウト！　どすこ〜い！

Q.05 あなたが観戦したことのある団体、大会はなんですか？（複数回答可）

圧倒的な歴史と時間軸を誇る新日＆全日が1・2フィニッシュ！しかし背後には猛追するK−1、『PRIDE』が……突き放せ「純プロレス」!!

観戦したことのある団体 RANKING

順位	団体	票数
1	新日本プロレス	60票
2	全日本プロレス	59票
3	『PRIDE』	39票
4	K−1	35票
5	リングス	24票
6	全日本女子	13票
6	修斗	13票
	観戦したことがない	392票

俺は力道山の頃からプロレス見てるけど、今よりも昔の方がよかった気がするね。

Y・Hさん（58歳）
昔の方がおもしろかったね。桜庭はいい選手だと思うよ。

Q.05 CHECK!!

純プロレスの２枚看板、新日本＆全日本が１・２フィニッシュ！　「小学生の頃、地元の体育館で見た」といった意見がチラホラ聞かれ、両団体の歴史の重みを痛感。しかし、そのすぐ後には『PRIDE』とK－１が絶賛猛追中！　30年近い歴史を誇る新日本＆全日本に対し、両大会の歴史の浅さを考えると、これはかなり驚異的な数字である。K－１が東京ドームで７万２百人の観客動員記録を樹立したのも、今や『PRIDE』のチケットがプレミア化するのも納得である。ここ最近の総合系ブームでリングス＆修斗も大健闘。どうする純プロレス！

アンケートで思ったこと、感じたこと

どうやら世間では、プロレスラーよりもヒクソンの方が強いと思われているようです。

これを受けてプロレスの危機と言うのは簡単なことかもしれません。しかしながら『紙プロ』が提唱している〝新プロレスラー〟桜庭や小川は充分に世間に届いていると言っていいでしょう。

田村や近藤といった強くてクオリティーの高い試合を提供し続けている〝新プロレスラー〟もいますが、彼らの知名度は一般層に届いているとは言い難く、桜庭や小川のようにテレビを初めとする一般メディアへの露出と試合内容の両輪を転がすことが出来て、初めて世間に風穴を空けることができると言えるでしょう。そういう点で現在Ｋ−１は確かに最強の格闘技です。

さて、そこで浮上してくるのが〝純プロレス〟の問題点です。他の格闘技に比べて知名度の高さは申し分ないにも関わらず、なぜ世間にその強さのイメージが植え付けられなくなったのでしょうか。

もしかしたら21世紀のプロレスは、最強の称号を捨ててショーに徹するという方法もありかもしれません。

しかし、かつて、プロレスのリングは〝四角いジャングル〟と呼ばれ、いつも世間に対して闘いを挑んできました。

アントニオ猪木は「ジャングルを守るよりもジャングルを作れ」という名言を残しています。世紀も変わった今だからこそ、〝純プロレス〟は敢えて新しいジャングルを切り拓くべきなのではないでしょうか。〝純プロレス〟を守るより新〝純プロレス〟を切り開けーッ！　やれんのかーっ！

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
構成／坂井ノブ
photographs by Nobu Sakai
撮影／森鷹博
photographs by Morry
試合写真／平工幸雄
photographs by Yukio Hiraku

橋本真也 [ZERO-ONE]

with アレクサンダー大塚 [格闘探偵団バトラーツ]

破壊王よ、マット界をかましあげろ!!

「純プロレス」受難の時代に、橋本真也の新団体・ZERO－ONEがいよいよ発進する！ 3月2日の旗揚げ戦を目前に控え、ZERO－ONEの事務所を訪ねていくと、そこには旗揚げ戦に出場するアレクサンダー大塚がいた！ どうやら密談中だったようなのだが、ちょうどいい機会なのでインタビューに同席してもらったのだが……橋本が描く新たなる「純プロレス」に、本誌鬼畜編集長も思わず興奮！ そしてアレクは珍しく改心？ 破壊王の主張とは一体何なのか？ さあ、いますぐこのインタビューを読んで、アナタも破壊王に酔え！

――橋本さんに最初に聞きたいのは、昨年末の『猪木祭り』で試合終了後に餅つきやるときに、もの凄い笑顔で走って来たでしょ、花道を（笑）。あれは、一体なにがそんなに嬉しかったんですか？（笑）。

橋本　そのまんまだよ！ 大体さ、年末になるやん！ アントニオ猪木というものに触れて、お祭りに参加できたら……だから、仕事してんだから、終わったら頭おかしくファンの意識だよな。アレクと出会うという嬉しい出来事もあったし（とアレクの肩をボンボンと叩く）。

事務所で密談中のアレクも飛び入り参加！

アレク　んむはぁ。ワイにとっても素晴らしい出会いでした（笑）。

橋本　あの日はもの凄い意味があったんだよ。自分が経営者になった場合、これから面白くしようとしたら、『猪木祭り』に出れる選手じゃなきゃ意味がないんですよ。それで、なんとなくイメージがフッと湧いて、そのまんまアレクに声掛けてた（笑）。

――ホントに行き当たりばったりだったんですね（笑）。

橋本　縁を感じたよ。もうその場で交渉して、説明しちゃったから（笑）。

アレク　そこで個人として、凄いパワーを感じましたからねぇ。控室で会うなり「ちょっと話があるんだけど、とにかく力を貸してくれよ」というお話でした。いきなり（笑）。

橋本　その場であんまり考えずに「いいですよ」みたいになったけど。それが俺からしたら気持ちよかったんだよ。

昨年の大晦日、橋本は『猪木祭り』でビンタを食らったり、お餅をついたりと大ハリキリ。嬉しさを全身で表現して無邪気さ全開！ これが破壊王の魅力だ！

――そういえば橋本さんは、アレクの奥さんも知ってますもんね（アレクの奥さんは元『紙プロ』編集者の、通称・のものも）。
橋本　し、知ってるっていったって、1回か2回しか会ったことないよ！
――ガハハハ！　なにもそんなムキになって言うことない（笑）。誰も「なんかあった」なんて言ってないんだから（笑）。
橋本　そうか（笑）。
アレク　んむはぁ。
橋本　NHK大河ドラマ『信長』のビデオ借りたことはあるんだけどな。でも、真面目な話、ここ何年か猪木さんとといろいろあったけどね。「ブッ殺してやろうか！」と思うぐらいのことがあったからこそ、戻るのも早かったね。もともとはファンだから（笑）。ずいぶん、試合じゃなくて「黒い部分」でやり合ったからなぁ。
――ガハハ！　「黒い部分」！
橋本　「黒い部分」っていう言い方が一番いいやろ？
――バッグンです！
橋本　あの『猪木祭り』はね、俺にとっては凄い収穫だったんですよ。最初は全く出るつもりなかったけど。
――それがなぜ急転直下、出ることになったんですか？
橋本　猪木さん流に言えば「俺を信じろ！」っていうのかな。「これに出たら、得難いものが得られるな」と思ってね。悪く考えりゃ、橋本潰しかもしれないんだけど、新日本とうまくいってないときだったから。どっちを取るかの賭けだったんですよ。でも「いいや！」と思って。
――出た！「いいや！」（笑）。でも、猪木さんと接点持ったのは、ズバリ言って、三沢（光晴）さんが相当不信感持ったんじゃないんですか？

がわんないなら、「いいや!」と思ってた

橋本　持ったけども……ええやん！　それはね、説得する自信があったの。「黒い部分」が何もないから。タヌキ（＝永島勝司・新日本取締役）とか、あのへんみたいに腹黒くないから。「これでわかんなかったら、もういいや！」と思った。
――もしかしたら、そこらへんが突破口になりますよね、これからのプロレスにおいては。政治的駆け引きも、時代性の中で様変わりしていくかもしれない。いまはフロント同士の話し合いが大部分で、選手の入り込む余地はなさそうですからね。
橋本　最近は凄すぎたからね。交渉の部分で崩れることが多かったじゃない、高田（延彦）さんの件にしても。両方とも「自分は悪くない」なんて言ってさ、でも、よく聞いてみりゃタヌキが悪いんだよ！　もう新日本の人間じゃないから言うけど。
――なるほど（笑）。でも、その新日本に1・4に上がって、非常に物議を醸しましたよね。「戻るのは早いんじゃないか」とかいう声も当然あったわけですけど。
橋本　俺もそう思ったしね。
――あ、橋本さんも思った（笑）。それでも上がると決断したのはなぜですか？
橋本　俺がこうなった原因の一つなわけでしょ、長州力は。その長州力とのシングルだったからね。即決したよ。これから協力してくれる人間もいるし、「時代を変えていこう」って人が集まってくれるきっかけになればいいと思ってやりましたよ。
――でも、結果としては暴動寸前の評判になっちゃいましたよね。
橋本　精神的に言えば、あの人は試合こなしただけだよ！　嫌なものをやっただけっていうか。
――試合の結果や内容にはに対しては、いまでも不満はあるんですか？
橋本　不満はある！　ああいうものだったら、もう二度とやりたくない！　見たくもないでしょ？　観客が怒るのも当然じゃない？　ただね、あそこまで怒らせたっていうのは、結果的に「（観客を）掴んだ」と思ったね。
――つ、掴んだ！（笑）。
橋本　だって猪木さんの時代なんか、火つけられて暴動になったこともあったからね。ああいう怒りがなくなったらダメだし、あんな結果だったら怒るのは当然だし。帰り際に「橋本帰れ！」って客が言ったからさ、俺も「お前が帰れ、この野郎」って言ってやったよ（笑）。
――ああ、引き揚げる花道のところで怒鳴ってましたね（笑）。「お前が帰れ！」というエネルギーは、いまプロレス界自体にないですからね。
橋本　ひとつの大きな流れを長州力たちはそういうものを引きづってきてるから、もの凄く強力なんだよ。それを変えるにはエネルギーがいるわけですよ。なおかつ、向こうには「黒い部分」がいっぱいあるし。
――「黒い部分」（笑）。
橋本　でも、変えるときっていうのは、全てうまくいくわけじゃないんだ。1・4みたいなこともあるよ。
――普通だったら、あそこでフェードアウトしてもおかしくないのに、1・13にノアに上がったときも盛り上がったし、旗揚

げ戦を間髪入れずに決めたりと、とにかく脳天気に思えるほどエネルギッシュですよね、最近の橋本さんは（笑）。

橋本　本当に変えようとしてるからね！　そういうエネルギーを持った者をバカにするなってことですよ。だいたい最初っから、すべてがうまく行くわけねえじゃねえか！

——ガハハハ！

橋本　でも、やらないヤツよりマシだろ？

——それはそうです。ところで1・13でアレクをパートナーに選んだのはなぜですか？

橋本　俺にとってアレクは救いの神なんだよ。あのときは新日本の選手が1人も使えない状況だったし。で、アレクもノアに上がって、三沢にやられてさ、悔しい思いをしたと思うんだよ。でも悔しい思いが残ったってことはいいことだと思うんだよね。その悔しさをぶつけてくれればいいし。さらにお客さんが後押ししてくれれば、どんどん追い詰めてっていいと思うし。

——アレクが結構ファンから叩かれたんですよね。持ち味が出せなかったっていうことで。

橋本　あ？　それは別に構わないだろ。そういうのは、よくあるからさ。試合では何言われてもいいんだよ、何もおかしくない。

——やっぱりアレク的には遠慮しちゃった部分がある？

アレク　大いにありますね！　ボクは基本的にいい子ちゃんの部分があったりするんで、ついつい遠慮しちゃったりするのはありますねぇ。

——じゃあ、アレクから見た橋本真也の印象は？　いきなりタッグを組んだわけだけど。

アレク　ぶっちゃけた話、2年前の小川直也戦（99・1・4）で「アチャーッ」って思ってましたから。新日本のトップとしてやってた選手がこんなボロボロにやられて……「ダメだろう、もう」って思ってたんですよ。だから、正直言って僕は交わることないと思ってました、あの姿を見て。

——と言われてます、橋本さん（笑）。

橋本　誰でもそう思うだろ！

アレク　んむはぁ。でも2年経ってみたら、ここまでまた復活してるっていうパワーがもの凄いですよね。

——よくわからないうちに勢いを増してますよね、橋本さん（笑）。

橋本　俺も奢りがあったしね。あれは小川が俺に恨みがあったわけじゃなくて、新日本に対する猪木さんの「黒い部分」を全部俺がもらっちゃったってことだから。「黒い部分」のハケ口になったんだよ、俺が。

——大きなハケ口に（笑）。猪木さんは、橋本さんと接点のある三沢さんに対して、「三沢のやってることには、全く興味がない」って言ってますよね。

橋本　だから、猪木さんが言ってるメッセージをそのまんま受け取るヤツは、たぶんそのまんま終わっちゃうと思う！　猪木さんの言葉には絶対裏がある！　つまり「興味がない＝つまんない」って言われてるわけでしょ。だったら面白いことすればいいだけの話なんだよ。「読まれすぎてるよ」っていう部分もあるんですよ。

——だから、橋本さんには「予測がつかないことをやってくれ！」とファンは期待してるんですよね。

橋本　それでも予測してきやがるからな（笑）。

——今度の両国大会の橋本＆X vs 三沢＆秋山（準）戦のXは、新日本の永田（裕志）選手と言われてますよね。

橋本　結構マスコミでそう言われちゃったから、嫌んなってきちゃって……一番腹立つのは、タヌキがいっつも情報漏らしてるでしょ？　マスコミにリークしてるのはタヌキしかいないもん。

アレク　（急に目を輝かせて）あ、そのXにワイはどうですかねぇ？

——お！　X志願！

アレク　秋山選手が「俺が嫌がることをやるな」って言ったら、それに対して橋本さんが「嫌がることをやる！」って言ってましたよね？　だから嫌がりそうなこととして、大ドンデン返しでワイがXになるっていうのはどうですか？

——という売り込みですね（笑）。

橋本　そうするとなぁ……向こうにも「嫌がること」されるんだよ。カード替えられちゃうぞ！

アレク　……そうですか（ションボリ）。

——橋本さんはズバリ言って、アレクの評価は？　『PRIDE』で大ブレイクをして一気に駆け上がって行くかと思ったら、いまちょっと停滞気味なんですよ。

アレク　て、停滞はしてない……。

——最近、ネットとかでも叩かれ気味なんですよね（笑）。

橋本　そんなもん、いちいち相手にすんな！　叩かれるっていうことは注目を浴びてるんだから。

——ガハハハ！　素晴らしい！　橋本さん

『猪木祭り』出場？　これで三沢がわか

『PRIDE』出るならプロレスにお土産持ってこい！

の魅力はそこですよ！

アレク　いまのは勉強になりましたねぇ（笑）。

橋本　だから、いっぺんに登らなくてよかったと取った方がいいんじゃないか？　階段をしっかり踏みしめて登っていくヤツもいるんだから。悪く取らない方がいいんだよ、なんでも！

アレク　ボクもそう思ってます。

橋本　だって腹立つやん！　俺もインターネットちょっと見てみたら凄いこと書いてってたりすんだよ。「なんだ、こいつ俺のファンじゃねえか」って思ったよ。

――ガハハハハ！　さすがです！　でもアッという間に情報が駆けめぐる世の中で、「純プロレス」の今後はどうなっていくんでしょうかね。

橋本　その「純プロレス」っていう言い方がおかしいやろ！

――おかしいですか！

橋本　俺の考えではね、要は『PRIDE』も何もかも、プロレスの一つにしてかないと、プロレスのメンツが立たないんですよ。「別モンだ」ってやられちゃったらダメでしょう。

――でも、ファンの間では『PRIDE』とプロレスは別物だという認識も広がってるし、その上で『PRIDE』が凄い人気を得ているわけですよ、事実として。

橋本　ああいう格闘技っていうのは、もともとは闘いの枠は狭いんだ。プロレスの方がいろいろ見せられるわけでしょ。それがなぜ、ファンは小さい枠の方に行っちゃったかっていうことが一番問題なんだよ。実際にプロレスをやってる選手は、昔より遥かに試合のダメージは大きいわけ。

――昔より技も激しいですからね。

橋本　なのにそれが伝わらなくなっちゃったんだよね。みんなラリアットばかりやって、そんなことしても長州や（スタン・）ハンセンには勝てないんだよ。

――つまり、いい試合だけやっててもダメだってことですよね。いまのプロレスは、試合前の煽りや期待感は大きいのに、いざゴングが鳴ってみるとしぼんじゃう。確かに激しいことはやってるんですけどね。

橋本　プロレス自体の技は増えてるんだけど、勝負事としては小っちゃくなっちゃってるんだよ！

――いまの橋本さんの「プロレスは全てを含むものだ」っていう意見に関しては、アレクはどう思いますか。

アレク　ボクもそう思い込んでた時期もありました。でも、ここ1年半ぐらい、その部分にどう持っていこうかって、試行錯誤してましたね。でも、むしろいまは、いっそのこと「プロレス」と「格闘技」をキッチリと分けちゃったほうが、ファンもわかりやすいのかなって思うんですよ。

橋本　それは俺は違うと思うぞ！　悲しいことに、新日本から『PRIDE』に上がった人間が負けてしまう。まあ石澤（常光）にしてもそうなんだけど、負けは負けで仕方ない。だけど要は『PRIDE』で得たものをプロレスに持ち帰らなきゃいけないんだよ！　自分の本道がプロレスであるならばね。でも、みんな持ち帰ってこないのが問題なんや！

――『PRIDE』からプロレスに持ち帰る！

橋本　たとえばケンドー・カシンが石澤常光として『PRIDE』に出た、と。試合はあんな結果になって力を発揮できなかったけど、あの緊迫感のある雰囲気で学んだものをなぜ新日本に持ち帰らないんだ？　戻ってきたらまたカシンやって、自分から「プロレスと格闘技は違う」っていうのを見せたいわけでしょ。それは小川直也がやってることと違うんですよ。逆に言えば、小川は得たものを持ち帰ってるから、ビッグになってる！　小川だけやぞ！　いまそれをやってるのは、小川だけやぞ！　あいつのことは褒めたくないけどな（笑）。

――石澤選手は意識の上でもハッキリ分けてるんでしょうね。

橋本　それだったら新日本プロレスに所属してる必要はないでしょ。

――なるほどなぁ。

橋本　その件はね、新日本の会社も怒ってるんだ。俺も新日本の言うことは正しいと思うんですよ。自分の本道をどっちかハッキリ決めて、その本道にいいものを持ち帰る。それをやってるのは桜庭（和志）ですよ。あっち側でプロレスを出してる。桜庭は『PRIDE』が本職だから、プロレスのいい部分を持ち帰ってる。だけどね、〃二足のワラジ〃でプロレスと格闘技を並行していくのは一見カッコよく見えるけど、どっちつかずだったら、その人の人間性を疑われちゃうよ。どっちが本道なの？ってね。だからプロレスラーとして『PRIDE』に出るんであれば、アレクも、『PRIDE』で得たものをプロレスに持ち帰ってほしいんだよ。あるときはプロレスラー、あるときは『PRIDE』戦士じゃダメや！　どっちに出てもいいけど、どっちが本道か決めなきゃ！

アレク　（橋本の目を黙って見つめる）。

橋本　プロレスを大きくするためには、それを持ち帰ってほしい。

――いや、実に素晴らしい意見です。

橋本　プロレスの方が絶対に面白いっていうのを、俺はこれから見せなきゃいけない。それが俺の使命だと思ってるから。だから俺は『PRIDE』で疲れました。じゃあ今度はプロレス一本でやっていきます」っていうのは、絶対許さん！　ハッキリ言って『PRIDE』はプロレスラーで成り立ってんだから。だから、完全に区別するっていうのはこれから考え直してもらって、アレクが〃プロレスラー〃と名乗るんだったら、プロレスにお土産を持って帰ってこなきゃいけない。

――いい話だなぁ。

アレク　（ズッとうつむいて話を聞いていたのだが急に顔を上げ）いまの話聞いて、さっき自分が言った「プロレスと格闘技は分けた方がいい」っていう言葉が揺らいできました……。

橋本　できるはずだよ。

アレク　ワイも、どうすればいいのかってずっと悩んできて……プロレスにたくさんいいものを持って帰りたかったんです。でも……。

橋本　（遮って）そうや、アレク！　それ

『ニッポンの(プロレスの)未来は
Wow×4

ができなかったのはね、相手の問題だよ。プロレスのリングにアレクの相手がいないんだよ。こんなこと言っちゃ悪いけど、プロレスに戻っても相手の質が違うから、気合も違っちゃうんだよ。『PRIDE』のリングではそれだけ精神的に追い込まれてるんだから、バトラーツのリングでも精神的に追い込まれる相手とやんないと。そうしないと緊張感のギャップがありすぎるからな。

――その相手を探していくのも、プロレスラーとしての仕事ですよね。

橋本　そう。ウチに参戦してくれれば、そのうちライバルも見つけることもできるでしょう。いまはライバルがいないやろ？　アレクは。

アレク　そうですねぇ。

――いやぁ～、こうやって話を聞いてると、橋本さんの自信は素敵だよなぁ。

橋本　俺は口だけだから（キッパリ）。ダーッハッハッハ！

こういうこと話すより試合で殴り合った方が早い！

アレク　そういう適当さも好きです（笑）。んむはぁ。

橋本　お前にはお前のプロレスがあるだろうし、俺は俺の道を行く！　それでええやろ。でも、プロレスが好きなことには変わりない。プロレスが好きなんだったら、プロレスを大事にしなきゃな。アレクはたまたま、そのステータスを力で取れたから、「プロレスと格闘技を分けたほうがいい」みたいなことが言えるけど、結局、そのままだとステータスが自分だけのものになっちゃうよ。もっとそれをプロレスに返していかなきゃ。

――結局、スタイル云々じゃなく、精神的なもんだということですね。

橋本　そうだよ！　大体、ストロング・スタイルって、俺よくわかんないんだもん（かわいらしく）。

――ガハハハ！　わかりませんか。

橋本　要は強く見えればいいわけでしょ。それがストロング・スタイルなのか？

1・13ノアの大阪大会で遂に激突した橋本vs三沢は超ハイテンションな感情のぶつけ合いに発展！「純プロレス」復興のキッカケとなるのは間違いなくZERO―ONEvsノアの対抗戦となるはずだ！

――やっぱり「ストロング・スタイル」っていう言葉はもう30年ぐらい使ってて、手垢が付きすぎてるんですよ。

橋本　違うコンセプトを作ればいいのか。何にしようかなぁ？　「スタイル」って言い方もやめようか。

――じゃあ「橋本型」にしますか（笑）。

橋本　いや、これからは「橋本流」とかさ。それカッコいいやん！

――ガハハハハ、橋本流！

橋本　「この流派はデキるな！」とか言ってな（笑）。もう団体が多すぎて団体名だけじゃ、ぶつかり合ったっていうのがわからなくなってきたからさ。よし、流派にしよう！

――そうですか（笑）。でも、猪木さんと馬場さんの時代っていうのは、確かに流派の対立でしたよね。〝猪木流〟と〝馬場流〟の。ノア流とZERO―ONE流の違いがハッキリわかれば面白くなりますよね。

橋本　そうなればいいけどね。

――「プロレス観」の違いがハッキリわかれば、そのぶつかり合いだけでホントは面白くなるはずなんですよね。そう考えると3・2のZERO―ONE旗揚げ戦は凄い大会ですよ。橋本さんは猪木さんの弟子でしょ、三沢は馬場さんの直系。ホントに全日本と新日本が交わるわけですよね。

橋本　お互いにメジャーを背負ってるからね。でも、ノアは難しい団体や（笑）。

――あら（笑）。

橋本　協力してくれるのはありがたいと思うけどね。でも、あっちの試合は、一発一発に魂が入ってるよね。俺が出てって「クソッ」ていう気持ちになってるから。いままでだったら「はい、いらっしゃい」って感じだったんだろうけど、そういうんじゃなかったよ。あいつらは俺が乗り込んだことを嫌がってるからね。秋山とか小橋なんかホントに嫌がってたでしょ。要するに俺らを気に入らないの。気に入らないけど、なんか胸がカッカ、カッカしてるはずだよ。燃えてるはずだから。

――ここ何年かプロレスが停滞してると言われるのは、そのカッカする部分がなかったからでしょうね。

橋本　安全パイ狙ってたんだよね。ただし、試合は凄いことやってんだよ。死人まで出てるんだから。

――でも、猪木さんのいう、〝怒りのエネルギー〟みたいなものは感じない試合が多かったですよ。

橋本　だから、アントニオ猪木は、パンチ一発なんだよ！　北朝鮮でプロレスやったじゃない？　俺たち、現役バリバリの選手が行ってんのよ。確かにそれなりに盛り上がるんだけど、アントニオ猪木が試合やってナックルパート一発やったら、みんな食われちまったよ。あの怒りの表情と、拳にこもった情熱でさ。それだけでお客さんの反応が違うんだよ。あれは悔しかったんだよ。でも、一番伝わってんの。やっぱり猪木さんの試合見て、俺も昔は涙したんですよ。そういうのはね、シュートじゃできない！

――確かにプロレスでしかできないことですよね。

橋本　そういうプロレスをしたいんですよ、俺は。お客さんに感動する瞬間を与えたいんですよ。プロレスなら、そういうことがもっと表現できると思ってますから。

――選手はきっとどこかで、プロレスというものは、バチバチ受け合ったりとするものと、割り切っちゃってる部分があるんでしょうね。

橋本　勘違いしてんだよね。プロレスなんて一つ狂っちゃうと、クソつまんない試合にもなるんだよ。だからこそ、そこに対す

る一瞬の切れ味とか、危機感っていうのは、持たなきゃいけないんだよね。

——ZERO—ONEでは面白いプロレスが見れそうですね。

橋本 選手みんなに意思が伝わんなきゃならないから、いますぐ最高のものを見せれるかどうかはわからんけどね。

——結局、上から下までそういったプロレス観を伝えると作業いうのは、いまは難しいですよね。昔は、自然に組とか一家を形成していくようなエネルギーを時代状況の中で持てたけど、こないだの全日本のドーム大会のように寄せ集めだと難しいですよ。

橋本 ウチだって寄せ集めだよ！ ダーッハッハッハ。でも難しいけど、やらないよりマシでしょ。「難しい」って言葉で片づけるよりは、叩かれながらやったほうがいいじゃん。

——なるほど。迷わず行くわけですね。俄然、旗揚げ戦を見たくなってきました。

アレク あの～、ボクも、バトラーツで自分の見せたいものがあっても、どうしても遠慮する部分が出てきて……。自分の見せたいことを1人ででもやってる方が自分自身でも楽しいし、新しいものもできると思いますね。

橋本 それには自分のことを押し付けるだけじゃなくて、相手のことも受け止めないとな。一方通行で終っちゃうから。魂がこもって、伝えられれば水平チョップ合戦もいいんですよ。それがさ、何にも発生してないときに「オリャー」っていってバチーン、「コリャー」っていってバチーンってチョップ合戦やってもね、いったい何が伝わるの？ そんなのどこまでいっても水平やん！

——ガハハハ！ 水平チョップは水平（笑）。やり合いながら、お互い高度を上げてかないといけないわけですね。

橋本 あとは相手の器量を受け入れてやろうっていう気持ちがあれば、いいものができていくよ。

——格闘技は相手の嫌がることをしないと勝てないとよく言われてますけど、プロレスも同じですよね。

橋本 相手の嫌がることしたら、今度は自分がやられるんだから。相手がキリキリ舞いするものを見せてやればいいんだよ。向こうもこっちがキリキリ舞いするものを出してくればいい。そうやってリングの中でも話題つくりでもやり合っていって、高度を上げていけばいいんだよ！ どんなことがあっても逃げちゃダメや！ それを自分だけ一方通行で、「俺はこうなんだ、俺はこうなんだ」ってやってもね、面白くなるわけがない。

——素晴らしいなぁ、今日の橋本さんは。今日、話を聞いてたら「純プロレス」がもっと面白くなる可能性が見えてきたなぁ。いや、これはホントですよ！

橋本 それには俺ひとりじゃ無理なんだよ。俺はこういう話を三沢とかとしたいんだよ。そこまで話せる間柄になるまでが大変だからな。ハッキリ言って試合で殴り合った方が早いかもしれない。

アレク 何だかZERO—ONE所属になりたくなってきたなぁ（笑）。

橋本 ただね、自分の思うようになんて、簡単にはならない！ 女を口説くのと一緒で（笑）。ホントに「好きだ」と思っても、なかなか言いたいことも簡単に言えないじゃない。チ●コ出すまでに大変な時間と労力がかかるんだよ。

——ガハハハハ！ せっかくいい話をしてたのに（笑）。

橋本 でもね、彼（アレク）が〝本物〟だから声かけたんだよ。ただ、その〝本物〟の部分をバトラーツでも他のリングでも活かしきってほしいよね。『PRIDE』だけじゃなく。

アレク 前日（3月1日）のバトラーツ後楽園大会でも、ZERO—ONEの旗揚げ戦でも見せますよ！

橋本 うん。でもさ、アレクサンダー大塚って凄いリングネームだよな。やっぱりプロなら、そういうインパクトは大事だよ！ 俺も「ナポレオン橋本」に変えようかな？ ダーッハッハッハッ！

——ガハハハハ！ バッグンです！

【01年2月13日、東京・看板が盗まれる前日の ZERO—ONE事務所にて収録】

はしもと・しんや■昭和40年7月3日、岐阜県土岐市出身。昭和59年9月1日、東京・練馬南部球場大会、vs後藤達俊戦にてデビュー。平成11年1月4日、新日本プロレスの東京ドーム大会で小川直也の暴走ファイトの犠牲に。昨年は引退→復帰後、ＺＥＲＯ—ＯＮＥを旗揚げするも、新日本プロレスを解雇される。12月23日にはノアのリングで大森隆男に激勝、今年1月4日には長州と「世紀の茶番」（by『東スポ』）を繰り広げ、13日には三沢＆小川良成と対戦。現在、「純プロレス」の世界にショックを与え続けている。通称「破壊王」。183センチ、113キロ。

あれくさんだー・おおつか■昭和46年7月17日、徳島県徳島市出身。平成7年8月18日、神奈川・南足柄体育センター大会、vs米山サトシ戦にてデビュー。平成10年10月11日、『ＰＲＩＤＥ．4』でヒクソンも対戦を恐れるといわれていた"路上の王"マルコ・ファスに完勝！ 一躍スターダムに。しかし、昨年1月にボブチャンチン、5月にケン・シャムロック、12月にガイ・メッツァーに敗れ、『猪木祭り』でも真価が発揮できず。再浮上に向けて、新たなる道を模索中。通称「ゴリさん」。182センチ、92キロ。

『ニッポンの（プロレスの）未来は Wow×4』

3・2 ZERO-ONE両国国技館大会を絶対見逃すな!

もう誰も止められない! 破壊王・橋本真也が満を持してお届けする21世紀型純プロレスの祭典が3月2日、東京・両国国技館にて行われる。ZERO-ONEは後見人にアントニオ猪木が就任、新日本と契約を更改しなかった蝶野正洋がリングサイドのチケットを8枚押さえたとの情報もあり、何が起こるかわからない状態。猪木嫌いを公言するノア勢の参戦も非常に興味深い。ここで何を見せてくれるのか？ プロレスファンなら必見でしょ？

ZERO-ONE『真世紀創造。』 東京・両国国技館（19:00試合開始）

【対戦カード】

橋本真也&X vs 三沢光晴&秋山準(プロレスリング・ノア)

斉藤彰俊(フリー) vs 藤崎忠優(ZERO-ONE)

丸藤正道(プロレスリング・ノア) vs 星川尚浩(フリー)

※この他にもノー・フィアー（大森隆男&高山善廣、ともにプロレスリング・ノア）が出場予定。しかし、本人たちは参戦拒否を表明中。Xは永田裕志が最有力候補である。（どちらも2月16日の時点での情報です）

チケットは絶賛発売中! 良い席はお早めに!

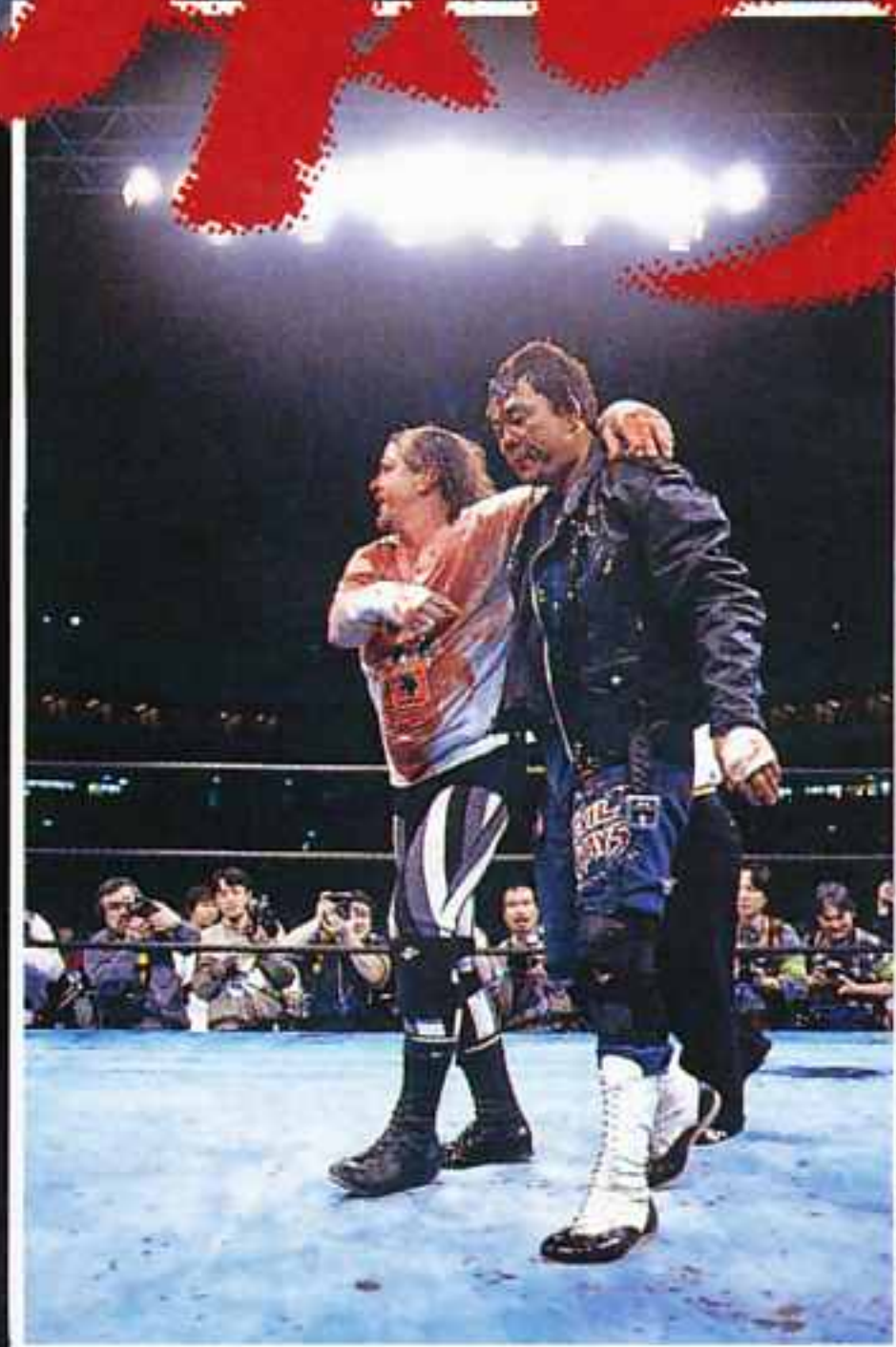
お問い合わせ■ZERO-ONE TEL.03-5730-3401

なお、この旗揚げ戦の模様は『スカイパーフェクTV!』で試合開始時間の19：00から完全生中継される。視聴料は￥2000。ちなみにスカパー側は「ZERO-ONEと1年間、独占的に放送権を契約した」と説明している。破壊王の試合はスカパー！で見よう。

［お問い合わせ］
スカイパーフェクTV!
カスタマーセンター
TEL.0570-039-888

日本で一番有名な現役プロレスラー

大仁田 厚

生ける屍で何が悪い! そんなに嫌なら葬ってみんかい!

巻頭の500人アンケートの結果、日本で一番有名なプロレスラーに選ばれたのが大仁田厚。予想通りとはいえ、世間の人にとって、今やプロレスラーと言えば大仁田厚のことなのだ。K-1や、新プロレスに押され気味の純プロレスの中で、ひとり気を吐く大仁田に、あえて直撃! 大仁田さん、プロレスって終わってしまうんでしょうか?

聞き手／チョロ
interview by Choro

撮影／黒田史夫
photographs by Fumio Kuroda

「ニッポンの（プロレスの）未来は Wow×4

大仁田　（不機嫌そうに）今日はなに話せばいいの？

――今日はですね、簡単に言うと、格闘家のプロレスごっこと揶揄された12・31『猪木祭り』、あわや暴動寸前となった1・4新日ドーム、そして、大仁田さんも出場した1・28全日ドーム大会。この三大ドーム大会を通して、「プロレスは終わった」という声も一部では挙がってるんですよ。

大仁田　そうなの？

――本当にプロレスは終わってしまったのか、大仁田さんに聞ききました！

大仁田　プロレスは終わったよ（あっさりと）。

――終わっちゃったんですか？（笑）。

大仁田　だって、終わってるだろうよ。（手にしていた街頭アンケートを奪い取り）なんだよ、それ？

――これは、今回、街頭で世間はプロレスをどう捉えているかを、500人にアンケートを採ったんですよ。

大仁田　あっそう。

――様々なプロレスラー、格闘家の中で誰が一番知名度があるんだろうと思って聞いてみたんですけど、やっぱりというか、大仁田さんが一番だったんですよ。

大仁田　（興味なさそうに）ふ～ん。それで、二番は誰だったの？

――二番は高田（延彦）さんでしたね。次が藤原（喜明）さんだったんですけど

大仁田　ふ～ん。でもよぉ、知名度なんて別に関係ねえだろ。

――プロレスは、人気商売とも言えますし、やっぱり知名度はないよりあった方がいいじゃないですか（笑）。

大仁田　まあ、ないよりはねぇ（苦笑）。

――それで、最強の格闘技を聞いてみたら、いまはK―1が1位なんですよ。

大仁田　あぁ、そうだろうな。

――K―1は、プロレスの倍以上の票を集めたんですよ。K―1が出てくる前まではプロレスが最強の格闘技だっていうイメージがあったと思うんですけどね。

大仁田　そんなもんだよ。でも、そんなさぁ、プロレスって、もっと深いもんだし、みんなプロレスは格闘技なのか何なのかってよく言うけどよぉ、プロレスはもっと奥深いもんだしねぇ。簡単に分けられるようなもんじゃないし、分けられるんだったら、馬場さんとか猪木さんは存在しないわけだからな。

――存在しませんか！

大仁田　だって、あんな50なんぼになってさぁ、猪木さんだって出てこれねえだろ、普通。じいさんだよ、もう（笑）。

――じいさんですか（笑）。この間、大仁田さんが闘った、ブッチャーとかテリー・ファンクも、もういい歳ですからねぇ。

大仁田　プロレスだから出てこれるっていうのがあるんだし、奥が深いんだよ。だから、20世紀のプロレスが終わったっていうなら、それでいいと思うよ。終わったからなんだって話じゃない？　21世紀のプロレスを作りゃあいいじゃん！

――20世紀のプロレスが終わってたとして、新しい21世紀のプロレスの形がぼんやりとでも見えればいいんですけど、新しい形が見えづらいというか。

大仁田　そう言うけどよぉ、新しい形なんて見えなくてもいいと思うよ。ちゃんと頭使ってる奴はプロレス界で存在してるだろうし。ただ俺はプロレスはもう新しいものに生まれ変わらなきゃいけない時代に来てるんじゃないかなと思うね。

――新しいプロレスっていうと、どういったものになるんですかね。

大仁田　う～ん……プロレスも、新しい時代のエンターテイメントというものを考えて、もっといろいろな形でジャパニーズテイストを入れながら伝えていくっていうやり方をしていかないと難しいよ。

――そういった意味では、大仁田劇場というジャパニーズテイストを詰め込んだエンターテイメント路線を確立したのは大きいですよ（笑）。今の純プロレスの中では1人勝ちなんじゃないですか？

大仁田　（驚いて）えっ、俺？　俺は勝ってねえよ。この間、ドームに出た時なんて第六試合だし、俺なんて別にいてもいなくても関係ないしさぁ（苦笑）。

――アハハハ！　関係ないとはいえ、テリー、ブッチャーというオールドタイムのレスラーの中に入って、いろんな意味で頑張ってたじゃないですか（笑）。

ふ～ん、俺が1位なの？　でもよ、知名度なんて別に関係ねえだろ！

Atsushi Onita

大仁田　だって、俺なんか何も見せなかったもん。ブレンバスターだけだったろ。

――テリーとダブルのスピニングトーホールドも出してたじゃないですか？

大仁田　あれはテリーと「やろうぜ！」って言ってやっただけだよ（笑）。外人レスラーはギャラもらってるとはいえ、馬場さんに愛情があったから来たんだろうしさ。テリーが「どういう試合する？」って言うから、「オールディーズが一番いいよ」って俺が案を投げかけたんだよ。オールディーズにするということはブッチャー、テリーの独壇場になるっていうのは俺自身が、よ～くわかってるわけだから。

――そういう意味で、一歩引いていたと。

大仁田　そうそう。一歩引いたスタンスの中で自分をどう表現したらいいかっていうのをわかってたわけだから。全日本系の俺に上がってもらいたくない人が何だかんだ言ってたけど（苦笑）。でも、それでいい

んじゃないの。まあ無事に馬場さんの三回忌が終えられたっていうのはありがたいことだし、ただあれをしょっちゅうやればさぁ、受け入れられないっていうことぐらい、みんなわかってるよ。

――わかってるんですかね（笑）。

大仁田　オイ、オイ、オイ、そこまでプロレスラーはバカじゃねえよ（笑）。ただ、あの時ウケたからといって、その次もウケるかっていったら違うだろ。あれはあの世界観だからウケるんだよ。

――世界観っていうことで言うと、全日のドーム大会は特殊効果というか演出はほとんど何もなかったじゃないですか？　それを馬場さんらしさって言う人もいますけど、もう少し演出はした方がいいと思うんですよ。ハンセンのセレモニーなんかは、特にそれを感じましたね。

大仁田　う〜ん……俺はカーニバルみたいにしたら一番良かったんじゃないかと思うけどねぇ。だから、川田選手とか渕選手が頑なにそれを守ってるんだから、俺は、それが受け入れられるとは思わないけど、しょうがないんじゃないの。

――しょうがないんですかね（笑）。

大仁田　俺も一回出たから、もういいよ。

――アハハハ！　もういいですか（笑）。話は変わりますけど、新日の1・4の長州対橋本戦で大ブーイングが起こったわけですけど、それが直接の原因かどうかはわかりませんが、その後の観客動員にもかなり響いてるみたいですね。

大仁田　やっぱりプロレスがダメになってきてるんじゃないの？　ダメになってきてるからこそ踏ん張んなきゃいけないだろうし。じゃあ、逆にやめんのかっていう話になってくるわけで。だから長州力も出てきたんだろうし、そういった部分では……オイッ、もうちょっと面白い質問を投げかけてくれよ！（笑）。

Atsushi Onita

――は、はい（笑）。大仁田さんは、1・4の長州対橋本戦には、どういった感想を持ちました？

大仁田　あの試合は、藤波さんが殺し合いだっていうほど殺し合いしてなかったよな（苦笑）。

――それは誰もが思ったことですよね（笑）。あの試合はやっぱり『PRIDE』とかといった総合格闘技が認知されてきた弊害もあると思うんですよ。あれが殺し合いだったら『PRIDE』とかの殴り合いはどうなるんだっていう話ですからね。

大仁田　う〜ん……やっぱり評判が悪かったっていうのはツッコミを入れられる要素がたくさんあったからじゃないの。

――ツッコミといえば、全日のドーム大会では健介選手が「これからは俺達の時代だ！」と宣言してましたけど……。

大仁田　（遮って）遅いよ！　俺達の時代ってもう遅いだろ。もうとっくに俺達の時代は来てるはずだよ。だって新日本のチャンピオンだろ？　そんなこと言う必要がどこにあるの？

――それを言うところが健介選手らしいというか、ツッコミがいがあるというか（笑）。

大仁田　そうだよな（苦笑）。俺の時代とも思ってないしな。全然、俺の時代じゃないよ。俺らはもう生ける屍だよ。

――アハハハ！　生ける屍ですか（笑）。

大仁田　そうだろよ、生ける屍だろうが。

――でも、困ったことに生ける屍の方が（笑）目立っちゃってるんですよね。

大仁田　そうだろ。それはアンタらの責任だろって。そんなに嫌なら葬ってみりゃいいじゃねえかよ！　いくら健介選手が吠えようと何をしようとさぁ、世間の認知度っていうのは変わんないワケよ。

――先ほどの知名度調査にも繋がってき

ますけど、プロレスファン以外の世間にも認知されないと広がりはないし、どんどん先細りしていくだけですよね。

大仁田 （強調して）だから、いろんなことをやらせりゃいいんだよ！ 垣根を取っ払ってさぁ、ちっちゃい世界だけでやってたってダメなんだよ。大仁田厚対アントニオ猪木戦っていうのもそこなんだよ。オイッ、オイッ、オイッ、お前は見たいか？

――そ、それは見たいですよ！

大仁田 見たい？ じゃあ、それでいいじゃん。単純に見たいものをやればいいんだよ。だから、いま俺はプロレスをあったかくしようと思ってやってるけど、難しいよな。離れていったプロレスファンをもう一回戻すっていう作業は。自由だもん、相手の選択は。一回離れた奴が今プロレス見て面白いと思う？

――人にも、そのプロレスにもよるとは思いますけど、難しいところはありますね。

大仁田 だって、この間の全日のドームのマッチメイクは、川田&健介対天龍&馳でしょ？ あそこに大仁田が入るだけで全然違ってたよ。そう思わない？

――それは全然違ってきますね。

大仁田 そういうマッチメイクを出きる人がいないと面白くないんじゃないかなぁ。だって、川田は俺のこと嫌いだろ？

――そうなんですよね。健介さんも嫌いなんだと思いますけど（笑）。

大仁田 健介は大っ嫌いだろ（笑）。二人も大っ嫌いがいて、それが闘ったらどうなるかって見てみたいじゃんよぉ。

――そのカードだったら見たい度はかなりアップしますけどね（笑）。

大仁田 なぁ？

そうだよな。

――その辺は猪木さんも言ってるじゃないですか。新日本も想像できないようなマッチメイクをしないと面白くねえんですと。

大仁田 だから、考えられないようなアントニオ猪木対大仁田厚戦っていうのをやろうとしてんだけど。言ってることとやってることが違うよなぁ、あのオッサンも。みんなさぁ、猪木さんが政権を取って力を蓄えてきたら、口を揃えて「アントニオ猪木は偉大だ」って。お前ら今までアントニオ猪木を排除に回ってたくせによ。俺なんか今まで何も言ったことねえぞ！ それなのに俺だけじゃない、言ってんのは。

――今は三沢さんも猪木さんがバックに付いているんだったら、橋本さんとは関わりたくないとハッキリ言ってますけどね。

大仁田 それはホントに嫌いなんだろうよ（苦笑）。

――そうでしょうね（笑）。

大仁田 俺は別に嫌いじゃないもん。

――例えば、いま橋本さんがZERO―ONE旗揚げでいろいろと動いてますけど、あまり興味はないわけですか？

大仁田 それこそ、あそこは猪木さんに絡みすぎだろ。橋本選手自体は俺は嫌いじゃないし、いい男なんだけど、なんか影に猪木さんがいるような感じだから、もの凄く嫌だねぇ。橋本選手には一人でやって欲しかったね。

――猪木さんが影でちらつくんだったら、俺は正面から猪木さんの所へ行くっていう感じなんですかね。

大仁田 まあ、そうだな。

――確かに、今の時代は、いい試合だけしてればファンが付いてくるというものでもないですからね。やっぱり、あっと驚くカードが必要ですよね。

大仁田 おぉ、そうだよ。いい試合っていうより、プロレスらしい試合すればいいんだよ。だから、今のレスラーが何にこだわってんのかよくわかんねえんだよ。強さにこだわってんだったら格闘技に行きゃあいいじゃねえかよ！ それだけの度胸ねえんだろ！ 健介選手にしろ、川田選手にしろ、やれ「大仁田は嫌いだ」とか言って、何にこだわってんのかよくわかんねえよ。だったらK―1行きゃあいいじゃない？『PRIDE』行けばいいじゃない？ 何にこだわってんのみんな？

――当然、強さにこだわってる部分もあるんでしょうけど、まあ大仁田さんなんかは強さにはこだわってないですよね（笑）。

大仁田 みんなプロレスラーは強いって言うけど何が強いの？ 強いんだったら、どっか格闘技に行きゃあいいじゃねえか。そんな強い強いって言いたいなら。

――まあ、みんながみんな大仁田さんのようにプロレスと格闘技は別物と考えているわけではないですし、大部分のプロレスファンはプロレスラーは強さの象徴であって欲しいと思ってるわけですよ。

大仁田 だって、頭のいいレスラーは言わないよ。武藤選手だって蝶野選手だって言わないじゃない？「俺は強いんだ」って。頭の悪いレスラーが言ってるよ、大体。俺は強いだとか、最強だとかって。

――プロレスのファン離れが加速している原因は、頭の悪いレスラーが増えているからなんですかね？（笑）。

大仁田 やっぱり、決定的に指導者がいないっていうのが大きいだろうな。

――それは単純にプロレスを教える人がいないということですか？

大仁田 そうそう。今の選手は「これ」っていうものがないじゃない？ 長州力だったらリキラリアットっていうのがあるから覚えられるんであって、そういうものがないと覚えられないでしょ。そういった個性だよね。まあ個性っていうのはある種、嫌われるっていうかさ、俺はなんかは個性がありすぎるから（苦笑）。

――まあ「大仁田は嫌い」って言う人も多いですからね（笑）。

大仁田 嫌いっていうのも、言わせるパワーだろ。嫌いって言われる方がまだいいだろ？ なんも言われないより。

――確かに、それはそうですね。で、先ほどの指導者の話でいえば、大仁田さんは馬場さんからプロレスを教わったワケじゃないですか？

大仁田 俺は馬場さんに教わったし、やっぱり馬場さんのやり方っていうのは、端で見てて嫌だったけど……俺は馬場さんの人間が好きだったんだよ。

今のレスラーが何にこだわってんのか、よくわかんねえんだよ!

―やり方が嫌だったというと、それはどういった点ですか？

大仁田　やっぱり、馬場さんっていうのはいろいろなところから攻撃されるわけじゃない？

―猪木さんをはじめとして、馬場さんは、よく攻撃されてましたからね。

大仁田　猪木さんだけに限らないけど、攻撃されても馬場さんは耐えてるわけじゃない。耐える姿っていうのはあまり見たくなかったから。正直、いけゃあいいじゃねえかって思ったけどね。負けてもいいじゃねえかって。

―そういう意味では、試合スタイルもそうですし、全日本の選手は損してる部分がありましたよね。でも、指導者がいないっていうのは、かなり重大な問題じゃないですか？

大仁田　俺だって、まとめようと思ったらまとめられるよ。動けばだけど。「団体やりますよ」って言えばな。でも、俺のところは団体じゃないもん。

―確かに、大仁田厚興行ですからね。団体じゃなくて「俺を見に来い」と（笑）。

大仁田　そうだよ。ウチなんて同好会みたいなもんだよ（笑）。

―同好会って、学生プロレスじゃないんですから（笑）。

大仁田　大体さ、俺がやれんのに、なんで他の奴らがやれないのかが、わからない。俺は団体じゃないもん、ハッキリ言って。なんで団体の奴らはレスラーを育てられないのって逆に、こっちが聞きたいよ。

―大仁田さんが言ってるレスラーっていうのは、ただ、いい試合が出来るレスラーっていうことじゃなくて、自分の見せ方なり、プロデュース能力も含めたレスラーが育っていないということですよね。

大仁田　だってそうでしょ。強いだけの選手をいくら育てたってプロレスは大きくならねえよ。そういう意味で、俺が育てる気になったらいいレスラーは作れるよ。ただ、俺は暇のない中で興行やってんだもん。大仁田厚興行だから、団体じゃないから。みんなさぁ、「俺はレスラーだ！」って偉そうに言ってるけど、団体に所属してるからお客が来るんであってさぁ、じゃあ自分でやってみろって。みんなやってみればいいじゃない。俺達の時代って言うんだったらやれるはずだろよぉ。違う？

―確かに本当に俺たちの時代が来てるんだったら出来るはずですからね。

大仁田　自分でやったらどんなに大変かわかるよ。蝶野選手とかも最近バラエティーとかよく出てるけど、だんだん大仁田の気持ちがわかってきてると思うよ。

猪木さんよぉ、いい加減、早く結論出してくれよ！

予告通り、アントニオ猪木宛ての嘆願書を持って大阪ドーム乗り込んだ大仁田厚。会場周辺は大仁田の姿を確認しようと大パニックに。

―プロレス以外のジャンルに触れてみて、はじめて世間の冷たさを感じることも多いって言いますからね。

大仁田　そうそう。世間を相手にしていくことがいかに大変かわかると思うよ。ほんと大変なんだよ（しみじみと）。

―プロレスファンは何だかんだ言ってあったかいですからね。

大仁田　そうそう。全然違うもんだからな。

―大仁田さんから見て、指導者になり得る人っていうと誰になりますか？

大仁田　（即座に）俺じゃない？

―あっ、大仁田さんでしたか（笑）。

大仁田　だって俺、レスラー作るのうまいよ。そう思わない？　テレビも金も何にもなくてさ、ハヤブサ生んだり、いろんなことやるわけじゃない。大仁田が作ったわけでしょ。大仁田厚って何の土壌もないところから作ったんだよ。だったら一位じゃん！　新日、全日はテレビが付いてるところから始まってるわけだからな。だから、いまプロレスの危機っていうんだったら、メジャー団体がスター選手を作ってこなかったのが原因だよ。

―大仁田さん的には選手を育てるというより、作るっていう感覚なんですか？

大仁田　やっぱりな、育てながら作らなきゃいけねえんだよ。だからって、いま俺にそれをやれって言われても、俺じゃダメだよ、やっぱり。蝶野選手とか武藤選手が作るべきじゃない？

―その二人は選手を作るっていう点では才能を感じてるわけですか？

大仁田　いいもの持ってるよ。そりゃ大仁田に考えさせれば面白いものを作るけどよぉ。ただ、俺はダメだよ。

―大仁田さんは何がダメなんですか？

大仁田　だって、俺はプロレスラーの中の世界にいないからさぁ。俺の場合は人生がプロレスだし。やっぱり、人生とプロレスしてる俺はダメだよ。だから、プロレスの中だけで言ったら、蝶野選手とか武藤選手が良き指導者になるべきなんだよ。どっちがブッカーでどっちが育成するかは別にしてね。あの二人が合体すれば最強の団体ができると思うよ。

―ほぉ〜、大仁田さんの蝶野、武藤評価っていうのはかなり高いんですね。

大仁田　だってそうじゃん。あの2人は、頭がスマートだもん。あとはダメだよ。

―橋本さんじゃダメなんですか？

大仁田　ちょっと違うと思うな。だから、もっと新日本プロレスは武藤選手と蝶野選手に実権を握らせて改革させなければいけないよな。あの2人に改革させればもっと面白いもんができるだろうし、それとメディアと絡ませて、うま〜くやればプロレスの危機なんて言われないはずなんだよ。別に蝶野選手がプロレスやることないんだもん。蝶野選手を、後ろにドーンと構えさせて毎週インタビューで喋らせればいいんだよ。いかに、この選手を売り出すかとか言わせたりね。

―はい。そういえば、馳（浩）さんは、いま本当の意味での「プロレス」が見られるのはノアだけだって言ってたんですよ。まあ人それぞれのプロレス観によっていろんな解釈はあるとは思いますけど。

大仁田　いや、でもそうじゃないの？　だから、ノアがきちんとした形でインディーとかを吸収していって、キャラクター作りに

ニッポンの（プロレスの）未来は Wow×4

徹すれば、かなり面白くなるんじゃないの。

――ボクもそう思います。そういえば、三沢さんも大仁田さんのことは、あまり好きではないみたいですからね（笑）。

大仁田　嫌われてもいいけど、でも俺はノアが成長してるのを願ってるからね。ある種、ノアがプロレスというものを残せる可能性を秘めてる団体だと思ってるし。

――例えば、新日本に飲み込まれたりして欲しくないと思ってるわけですね。

大仁田　それは面白くないよな。それより独自路線を貫いてキャラクター作りに徹した方が遙かにいいよな。それで、日テレの力を借りてドンドン露出していけばいいんだよ。ただ、テレビって言っても、バラエティとかはプロレスラーをアホに扱う癖があるからな（笑）。

――確かに。その辺の見極めも重要ですよね。大仁田さんも場数を踏んで経験してきたんでしょうからね（笑）。

大仁田　失敗だってたくさんしてきたよ（苦笑）。まあでも、いろんな意味でプロレス界に指導者がいないって言ったけど、それは自然の摂理だからな。自然の摂理にはかなわないよ。人間がどう右往左往しようと。それだったらオールスター戦を考えることだな。

――えっ、オールスター戦ですか！

大仁田　全部！（大きな声で）全部プロレスラーを揃えるんだよ！　一番見たいマッチメイクをダーーッと並べて。

――それを実現できたらいいんでしょうけど、でも、よく言われるように、オールスター戦をやってしまったら、その後の自主興行は、どうしてもきつくなってくるじゃないですか？

大仁田　それで消滅するんだったらしょうがないじゃん。まあプロレスがそこまで究極に追い込まれるかどうかだよな。プロレスがホントの意味での危機に追い込まれたときに、今のように自分のところだけ考えてたらどうしようもないよ。

――その通りですね。大仁田さんは『猪木祭り』のように格闘家にプロレスをやらせるっていうのは、どうなんでしょう？

大仁田　（興味なさそうに）別に、いいんじゃないの？

――あまり興味なさそうですね（笑）。一部では、プロレスごっこだって批判する人も多いんですけど。

大仁田　プロレスごっこじゃねえの？　ごっこしてみんな楽しんでたんじゃないの。それで金取れるんだからいいんじゃない。凄いね『猪木祭り』（笑）。

――アハハハ！

大仁田　俺も出してよ、『猪木祭り』。プロレスごっこはうまいからさ（笑）。

――うまくなかったら困りますよ（笑）。

大仁田　でもさぁ、格闘技ごっこじゃなくて、プロレスはプロレスごっこができるんだから面白いじゃない。やっぱり、プロレスは永遠であって欲しいねぇ。自分の育ってきたとこだし。（急に険しい顔になり）そんなことより猪木さんに伝えておいてくれよ。いい加減、早く結論出してくれよって。いつまで待たせるつもりだよ。

【01年2月10日／羽田空港ロビーにて収録】

猪木さんよぉ、いつまで待たせるつもりなんじゃあ!!

Atsushi O

馳先生、タブー発言連発!!

「日本のプロレスはカミングアウトする必要はないと思う!!」

馳

浩

闘う国会議員兼プロレス界統一コミッショナー(就任予定)が爆弾発言!!

衆議院議員とプロレスラーの二足のワラジを履く男・馳浩。
本誌には久々の登場である！　今回のテーマは「純プロレス」！
昨年末から今年の頭にかけて、「純プロレス」の存在意義を
考えさせられる試合が続出、ファンも揺れている。
そこで90年代において「純プロレス」を最も体現した馳先生に
「純プロレスにおける問題点とその克服方法」を聞いてみた。
何にも拘束されない立場だからなのか
過激な問題発言を連発する馳先生に、
我々もド肝を抜かれたロング・インタビュー、さあ急いで読め！

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
構成／坂井ノブ
text by Nobu Sakai
撮影／松本崇
photographs by Takashi Matsumoto

ニッポンの（プロレスの）未来は Wow×4

馳　おー、『紙のプロレス』って、まだやってたのか？　で、何しにきたの？

――馳先生のスキャンダルを暴きに来ました（笑）。

馳　『紙のプロレス』は売れてるのか？

――先生のよく出てる『プロレス激本』よりは売れてると思いますよ（笑）。

馳　えっ！　そうなの？　なんだよ、『激本』の方が売れてると思って、いつもインタビュー受けてるのに（笑）。でも、あの本は最近なんか、ターザンの機関誌みたいになってるよな（笑）。

秘書　先生、電話です！

馳　おう！　ちょっと待ってね……（と電話の方に向かう）。「もしもし！　（大声で）ハァ～セェ～でぇすぅ！　はいっ！　はいっ！　ありがとうございますっ！　（中略）失礼しますっ！」

――しかし政治家らしいインチキくさい大声出しますよね（笑）。あっ、そうだ！　先生、名刺くださいよ。衆議院になってからはもらってないんで。

馳　おお、いいよ！（と名刺を配る）。

――ありがとうございます。（名刺を見つめながら）しかし、馳浩を衆議院に送り込むなんて、国民もどうかしてるよな（笑）。

馳　こういう時代は、俺のようなバカがいないとダメなんだよ！（笑）。

――前回、馳先生に会いに来た時は、参議院会館だったんですよね。

馳　じゃあ、今度来る時は首相官邸だな（笑）。

――ガハハハハ！　どこまで登りつめるんだろうと思って見てますよ（笑）。

馳　でも浮き沈み激しいからね。選挙に落ちればただの人だよ（笑）。

――最近はどうなんですか？

馳　ボチボチだよ。クイズ番組で1千万円取ったけどな（笑）。

――ああ、『クイズ$ミリオネア』！　1千万円は本当に貰えたんですか？

馳　もらった。税金が引かれて大体860万円だけどね。これを次の選挙資金にします（笑）。事務所経費とか大変なんだよなぁ。

――それはともかく、ところで今日は、いわゆる純プロレスについてうかがいたいんです。（00）12・31の『猪木祭り』と（01）1・4の新日、それに1・28の全日という、世紀をまたいで、大きな3つの大会があった。そこから見えたものを馳先生に語ってもらおうと思ってるんですよ。

馳　（ビデオデッキのリモコンをいじりながら）うん。

――12・31大阪ドームの『猪木祭り』は、『PRIDE』に上がってる選手が純プロレスの試合をやったんですよ。「猪木なら何をやっても許される！」というムードがあったのも確かだけど、結構批判の声もあがってたんですよ。

馳　なんで？

――ズバリ言えば、プロレスごっこに見えたということだと思います。

馳　プロレスが出来ないからそう言われるんじゃないの？　プロレスと総合格闘技は似て異なるものだからね。バレーボールの選手とバスケットボールの選手が試合やるようなもんだよ。やる方も大変だったろうし、見る方もどうせ猪木さんのやることだから、お遊びだと思って見ないといけないよ。

――お遊び！　ヒドイこと言いますねぇ（笑）。

馳　ルールが違えば、慣れるのに時間がかかるからな。それがもう付け焼き刃であるんなら、プロレスごっこ以外の何者でもないんじゃないか。

――そうこうしてるうちに、その次の1・4東京ドームの長州vs橋本戦でまた暴動寸前までいきましたよね。

馳　試合自体は面白かったんだけどな。ただあの終わり方はないよな（笑）。鼻血も出してねえのに終わっちゃうのはつまんねえよ（笑）。

――鼻血が出たから終わらせるっていうのもよくわからないですけどね（笑）。

馳　わかりやすいじゃん。プロレスっていうのはわかりやすさが必要だから。

――わかりやすさといえば、1・28東京ドームの全日も、懐かしいレスラーがたくさん出てきて、逆に純プロレスがわかりにくくなってしまったような感じもありますね（笑）。

馳　あれはリバイバルだからな。試合らしい試合はメインぐらいだったろ？

Hiroshi Hase

感慨深げに自らの勇姿（クイズ番組での）を見つめる馳先生。インタビューの冒頭部分は、しっかりと受け答えしつつも、このような体勢で一瞬たりともテレビから目を離さなかった。さすがだ！

『猪木祭り』？ 付け焼き刃であるなら、それはプロレスごっこ以外の何者でもないんじゃない？

――そのお陰で「純プロレスってなんだろう？」「ヤバイんじゃないの、純プロレス」って声も上がってるんですよね。

馳　やっぱりそういう声が上がるということは、一番は、プロレス出来る人が少なくなってきてるからなんじゃないの。教える人がいないんだろうな。いま、まともなプロレスを見ることが出来る団体はノアぐらいじゃないか。

――全日本じゃなくて、ノアですか！

馳　いまの全日は天龍さん、川田選手、渕選手以外は、まだまだプロレスが何たるかっていうのをわかってねえよな。

――1・28を見てても、マスカラスとかテリーやブッチャーが30年前と変わらないことをやるわけですよね。でも、ボク個人はあの人たちの試合とか入場シーンを見てもノスタルジックな気持ちにすらならないんですよね。懐かしいというのを通り越してる（笑）。じつは、あの日は馳さんが一番懐かしい感じがしたんですよ。

馳　俺さえも懐かしいって感覚なのかな、もう。

――コーナーに昇ってTシャツを投げるシーンを見て“ああ、馳浩だぁ”と思いましたよ（笑）。

馳　あれ、幾つまで出来るかな？（笑）

――ガハハハハ！　ある意味で、新日本が猪木さん抜きの体制で全盛期を迎えた頃の象徴といったら、やはり馳さんですからね。その頃を思い出しましたね。

馳　（リモコンをいじり続けながら）俺はドームで負けてる試合の方が多いんだけどな……。

――純プロレスがリバイバルであったり、格闘家に試合をやらせたりで柱が見えにくくなっていうのがあるんですよ。で、今後、馳さんは純プロレスをどう展開させていきたいのかっていうのを聞いてみたいんです

けど。

馳　（質問は一切耳に入らずリモコンをいじり続ける）……え？

――さっきから何してるんですか？（笑）。

馳　東京ドームの俺の試合を見ようと思ってビデオを早送りしてるの。見てないから、いま見ようかなと思って。どっちみち後で話をすることになるからさ（笑）。あ！　これな、俺が出たときの『タイムショック』！

――それ、試合じゃないですよ。

馳　クイズは、ある意味で試合みたいなもんなんだよ（笑）。

――馳先生のクイズ自慢を見てる暇はありません（笑）。

馳　ああ、そう？（『タイムショック』を見せるのをあきらめて）あのね、全日本のドームの試合に話を戻すと、健介と川田選手は、台風みたいで素晴らしかったよ。健介は気持ち良かったよな。国会議員に対して本当に思いやりのカケラもなかったから（笑）。やっぱりね、プロレスっていうのは受けなきゃしゃあないからね。いかに川田（利明）選手と健介に殴られても立っていられるかが勝負だから。

――耐久競技ですね。あの日、健介選手が試合後に「もう俺たちの時代だ！」って叫んだ。でも健介選手はもう34歳でしょ。あれを聞いた時に、正直「遅いよ！」って思いましたけどね（笑）。

馳　「俺たちの時代だ」っていうんなら、健介が社長になんなきゃいけないし、川田選手も社長になんなきゃ「俺達の時代だ」なんて言えないよ。いまだに元子さんや永島のタヌキ親父や長州さんがコソコソやってるんだから。

――けっこう堂々とやってますけどね（笑）。

馳　あいつらがリングの中で主役であることは変わらないけれど、政治力がまったくないんだからさ。

――プロレスには政治力が不可欠ですか。

馳　まだまだ誰かの顔色を伺いながらやらざるを得ないっていうのは問題だよね。

――まだ伺ってるんですか？（笑）。

馳　例えば新日で言えば蝶野（正洋）選手が実権を握らなきゃ。全日で言えば川田選手が選手の育成からマッチメークから全てをやらなきゃ、「俺たちの時代」って誰も認めないだろうな。そういう意味で「俺たちの時代」って言えるのは三沢（光晴）選手ぐらいかもしれないな。そうじゃない？

――リングの内外で力がありますからね。だから、純プロレスが『PRIDE』のようなものに押され気味なのは、新陳代謝を拒んでるっていうのも原因のひとつなんじゃないですか。

馳　選手が現状に甘んじてサラリーマン化してるからな。自分たちの働く場所は自分たちで作るっていう意識がないよね。まして新日本は現場に長州さんがいるから。選手とフロントがお互いにぶつかり合えばいいんだけどな。

――馳先生の目には、ぶつかり合ってるようには見えませんか？

馳　モヤモヤしてるよね。お互いにぶつかり合いたくないんじゃないのかな？　選手が発言力を持ってぶつかって責任感を持つということは、チケットが売れるとか選手をこう売っていくとか、そういうこと全部の責任を取らなければいけないわけだから。そういう見えない苦労を買ってでもやろうという部分がないような気がするな。川田選手にしろ健介にしろ。猪木さんにしても馬場さんにしても、団体を旗揚げしたときには大変な苦労をしたと思うよ。チケットを1枚ずつ手売りして歩いたわけでしょ。だって最初はみんな金持ってるわけじゃないんだから。新日を動かしていくには毎月何億かの金がいるでしょ。それを30年近く継続してきたというのはリングの中だけを見てるんじゃなくて、いろんな社会的なつき合いの中でやってきたはずなんだよ。

1・28全日本ドーム大会のメインイベントでは天龍とタッグを組み、川田＆健介と闘った馳。途中、かなりの長時間を攻め込まれていたが、しっかり観客の目を釘付けにする見事な受けっぷりを披露した。そして、一旦攻めにまわればチョップや裏投げなど目が覚めるような鋭い攻撃を展開した。これが馳先生いうところの「説得力」なのである。

――えらい急に政治的な話になるな（笑）。

馳　まぁ、聞けよ。そこまで覚悟して出来るかって言ったら、いまの選手にそれはないと思う。俺が猪木さんとよく一緒にいた時に「藤波でも長州でも、やるんだったら自分で会社やればいいじゃない。その覚悟がなきゃダメだよ」って言ってたもん。

――それには莫大なエネルギーが必要ですよね。確かに、政治的な部分でも真剣勝負でやっていかないとリング上では伝わりにくいですからね。新日本は所帯が大きくなりすぎたから、現状を維持していくのに精一杯という感じなんですかね。

馳　あれだけいい選手を数多く抱えて、しかも試合に出られない選手までいるわけでしょ。だから、分裂せざるをえないでしょ。全員を抱えたままこのシステムではやっていけないってことは必然だよね。

――猪木さんが凄いのは「分裂するんなら分裂すりゃいいじゃん」とホントに思って軍団抗争なりなんなりをやってたことですよね。いま、新日本は抗争劇があっても、なんとかホントに分裂しないようにしてますからね。

馳　守りに入っちゃうよな。だからなんていうのかな……プロレスを楽しそうにやって欲しいよね（話しながら次第に目がトロンとし始める）。

――楽しそうにやってって言うわりには眠そうですね（笑）。

馳　さっきメシ食ったばっかりだから（笑）。

――ガハハハハ！　とりあえず口だけは動いてるって感じですよ（笑）。

馳　疲れてても口だけは動いてる。それが政治家なんだよ！（笑）。

――ガハハハハ！　猪木さんが、環境問題、地球から緑がなくなってるっていう話をしているときに、凄い言葉を言ったんですよ。「みんな、ジャングルを守らなければいけないっていうけど、守るだけじゃなくて、緑がないんなら、ジャングルを作りゃあいいじゃねえか！」って（笑）。その言葉を聞いて、「やっぱ猪木さんは凄いな」って思ったんですよね。そのエネルギーが、猪木イズムと言われてるものの原点だと思うんですよ。

馳　そうだね。何かを作ろうとする発想や技術、いい人材を生み出そうとするのは楽しいよ。大体猪木さんの話は実現しないことが多いけどさ（笑）。

――ガハハハ！　いや、いまはエネルギーの質の話です（笑）。

ニッポンの（プロレスの）未来は Wow×4

馳　猪木さんは常に新しいものを作ろうとやってきた。俺も新しいプロレスを作るために努力したつもりだったけどね。高岩（竜一）や天山（広吉）や大谷（晋二郎）のような何の実績もない鈍くさい連中をテンションだけは誰にも負けないように教え込んできたからね。

――最近の全日本ではそういうことを教えたりはしてないんですか？

馳　こないだ巡業に参加したときに他の選手の試合を見てて思ったんだけど、リング上を〝全速力〟で走れるレスラーって少なくなったよね。観念的に言ってるんじゃなくて、実際の話だよ。

――全速力！

馳　けっこうリングって思ってるより狭いんだよ。その狭いリングの上で全速力で走ったり、ぶつかったりするのは非常に技術を必要とするからね。それが出来るっていうのが純プロレスのいいとこだね。

――つまり。空間を、より立体的に見せられるってことですね。

馳　そうそう。もし俺がこれから教えるんなら、リング上を全速力で走ったりすることに代表されるような気迫とか、動きが出来るレスラーを作りたいなぁと。それには、技術もそうだけど、プロレスがわかってないとダメだね。

――頭が良くないとダメだってことですか？

馳　ん～、やっぱり頭より感性かな。勝負ってものが何なのかってわかってないと。よくプロレスラーが「客に見せる」って言うけど、勝負に対する執念が技術の中で出て来なければダメなんだよ。客の方に向かってこうやったり（首を掻き切るポーズ）してもね。そんな二番煎じ三番煎じやったって、パフォーマンスにみんながワーッと言ってるだけで何も起こらないもんね。

――ええ。珍しく共感しますね、その意見には（笑）。いまは、気迫の出し方から怒りの表現の仕方までマニュアル通りって感じだからなぁ。

馳　日本人の国民性からいって、食い入るように身を乗り出して見てしまうような、肉体を使ったパフォーマンスがいいよね。猪木さんの相手をジリジリと追い詰めていく時の指先の動きとか、攻めにいく時の瞬発力とかを見習わないとね。いまの中西なんか手をブランブランして緊張感がないよ（笑）。

――ないですか！　そういった猪木さん的なものは教えて身に付くものなんですか？

馳　身に付く！（キッパリ）。

――この前、高田（延彦）選手と「いいプロレスは組織じゃないと組み上げられないかもしれない」という話をしてたんですよ。例えば、組とか一家を形成していくようなエネルギーを持って、一個のものを作り上げていかないと身に付くものも身に付かないというような話だったんですけどね。

馳　高田さんがそう言ってるっていうのは非常に面白いよね。高田さんはセンスのあるレスラーだったから。

――つまり、プロレスというのは、上から下までしっかりとした芯に当たるプロレス観があって、そこから個人個人のプロレス観を表現していくということですね。

健介が「俺たちの時代だ!」と言うなら政治力は不可欠! いまだに元子さんや長州さんや狸オヤジがコソコソやってんだから

Hiroshi Hase

馳　まあ、いまは試合数も少なくなったしね。プロレスって試合数をある程度こなさないとダメだよね。客の前で実際に見せないと覚えられないっていう部分もあるし。いま年間130試合ぐらいでしょ。本当だったら年間200試合以上やんないとダメなんだよね。海外にいるとき、俺は370試合くらいしたんだよ。

――そ、そんなにやってたんですか？

馳　そうだよ（得意げに）。それも毎週テレビに映るから、同じことやってもダメだし。だから、あの当時のプロレスというのはいま見ても面白いし、記憶に残るんだよ。

――でも、レベル的にはいまのプロレスも全然負けてない、むしろ上がってる、というのが、いまの選手の言い分ですよね。

馳　でも、「やりっ放し」じゃん。

――「やりっ放し」？

馳　激しい技を使って自分をアピールするだけなんだよ。そこには何もない。その技が試合の中でどういう意味があるのかってことまでを考えて、技を使ってないよね。何の意味があって、その技を使ってるのかわかんない。

――それはボクも見てて感じますよ。昔の試合は〝なぜ殴り合うのか〟、その意味がわかりましたからね。

馳　いまは試合の中での必然性とか緊張感がないよね。一言で言えば、ヘタだよな！

――ヘタ！　でも激しさから言ったら、健介選手の試合なんかは昔の試合と比べても全然激しいわけだし、それがなぜ記憶に残らずに風化しちゃうのかということですよね。

馳　激しい選手ばっかり増えて、激しくない選手が少なくなったからだよ。激しくない選手というのは、吉村道明さん、寺西勇さんのようなタイプだね。いまの選手はみんなが長州力になろうって感じでしょ？

――ダハハハハ！　珍しく共感しますね（笑）。

馳　例えば、俺は残念ながら、こういう身体つきだから激しくやろうったって笑っちゃうよな（笑）。でも俺にしか出来ないことがあるよ。攻撃を正面からちゃんと受け

たり、技を切り返したり出来る。正攻法なんだけど変化がある、起伏に富んだ試合の中でのストーリー性のある動きが出来る。俺みたいな選手も必要だと思うよ。

――こないだの1・4の試合を見てて改めて思ったんだけど、長州さんも意外と技を正面から受けないタイプですよね。

馳　受けないレスラーがいてもいいけど、それはメインイベンターぐらい。そういう長州さんだってメインイベンターになるまで受けまくってたんだから。

――なるほど。でも「受けることがプロレスである」とすると、時代状況そのものが純プロレスに向かなくなってると思うんですよね。いま人の話なんて、みんな聞かないですもん。自分の話をするばっかりで。

馳　受けることが「弱い」とか「ダサい」とか「損をする」というふうに考えてるレスラーって多いと思わない？　越中さんなんかその典型だよね。

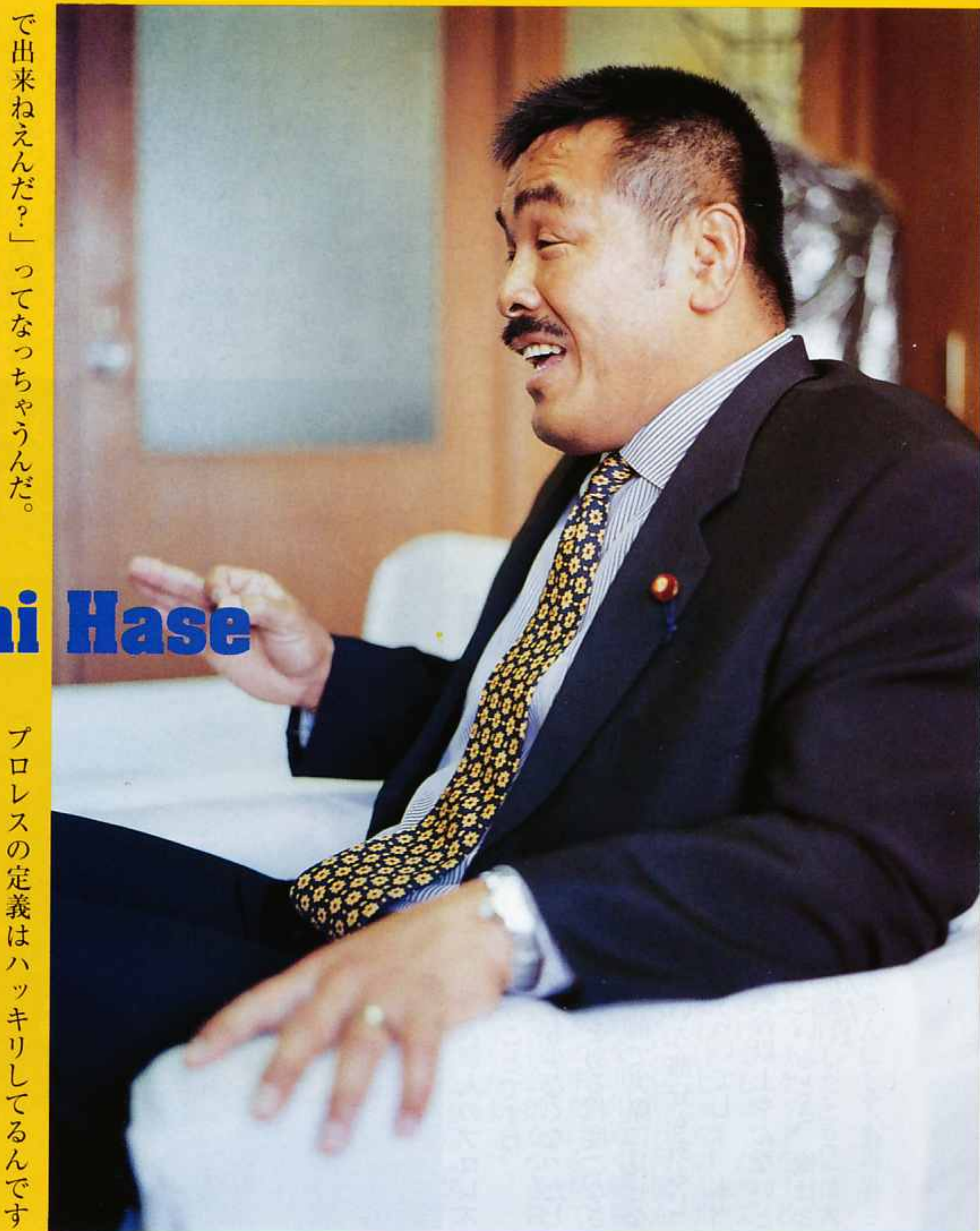
――ガハハハハ！　エッチューさんですか。

馳　試合をすぐ崩しちゃうよね。覚悟を決めて『斬られ半蔵』みたいに受けまくったら、もっとヒートするのに。ヘンなところでカンバックするから（笑）。だから、プロレスに必要なものを、もっと言えば、シッカリ負けることが出来る選手が必要なんだよ！

――はっは〜、負けっぷりってやつですか。

馳　武藤（敬司）ちゃんなんかウマいでしょ。蝶野選手もウマいんだけど、ポジション的にそういうことばっかりやってられないんで、攻めてるけどね。

――長州さんはそういうことを教えないんですか？

馳　長州さんは自分ではわかってるんだけど、言葉で説明するのがヘタ。すぐ「なんで出来ねえんだ？」ってなっちゃうんだ。一緒にやってる時は俺が長州さんの通訳係だったからよかったけどね（笑）。

――通訳係！　でもわかるなぁ、その感じ（笑）。

馳　通訳係してた俺は「長州力の飼い犬」って呼ばれてたからね（笑）。

――ガハハハハ！「飼い犬と呼ばれてたからね」って自分でいう人も珍しいな（笑）。

馳　俺は一番そばにいて顔色伺ってたから、よくわかるの。それを自分なりに解釈して若い選手に教えてた。健介も言葉で教えようとするんだけど、言葉より先に手が出ちゃうからね（笑）。そういう意味で言えば、中西、永田、天山、小島に「どういうことをしなければいけないのか」というトップに立つための哲学をもっと教え込みたかったね。

――ぶっちゃけた話、馳先生の中では純プロレスの定義はハッキリしてるんですか？

馳　定義？　楽しくやること！

――ガハハハハ！　さすが闘う愛の海綿体（笑）。

馳　お客さんがなんにも予備知識がなくても、その試合の中でストーリー性が感じられるようにしないと。攻撃するするなら思いっきりやって、技を受けるんなら思いっきりやられなきゃダメだよね。試合終わって、お客さんに「あ〜、今日も凄かった」って言ってもらわないと。だから、いまのプロレスラーはもうちょっと勝負に対して緊張感を持って欲しいよね。

――でも、勝負論だけで言ったら格闘技に純プロレスはだいぶ押されてますよね。

馳　それはプロレスラー自身が「『K―1』『PRIDE』ばっかりが勝負論で、我々がやってるプロレスに勝負論はいらない」って勘違いしてるからだよ!!（キッパリ）。レスラーが最初から勝負論を放棄しちゃダメ。プロレスのルールで勝つためにはどうしたらいいかっていう必死さが感じられなければね。

――1・28のメインにしても、1・4の橋本vs長州戦にしても、『PRIDE』とかが出てきたことによって、いくら激しい試合をしても「『PRIDE』の方が凄ェじゃん」って見方をされてしまうのも事実ですからね。そういう中でプロレスが今後何を「凄ェ！」と言わせるのかっていうのを、純プロレスは考えていかなきゃならないですよね。

馳　出し惜しみしないことだよね。

――それはマッチメイク的な部分で？

馳　いや、そういうことじゃなく、身体を全て投げ出すような一生懸命さが大事なんじゃないかな。

――身も心もってやつですか（笑）。

馳　そう。あと技とかの部分でいえば、身体を使いきってないなってこと。技のタメがないね。腰入れて殴ったり蹴ったりしないから、単なる軍鶏の喧嘩になってるよね。

――軍鶏の喧嘩（笑）。だから、軍鶏の喧嘩的なものだったら『PRIDE』のゲーリー・グッドリッジの殴り合いを見てた方がリアリティがあるっていうことでしょう。

馳　いまの選手はみんなパワフルなんだけど、倒したら「なんですぐにフォールを奪いにいかないのな？」ってとこあるよね。しかも一回カバーしてキックアウトされたら、そこで諦めてる。カバーの仕方も何十種類もあるんですよ。その場面場面に応じてカバーにいくスピードも違うんですよ。俺は猪木さんに「説得力のない技使うな！」って、いつも言われてたよ。説得力のないことやってちゃダメだよ。たとえば藤波さ

ニッポンの(プロレスの)未来は Wow×4

んのドラゴンスリーパーなんて、どこに説得力あるの？

——ガハハハハハ！　唐突に藤波社長がヤリ玉にあがりますか（笑）。

馳　だって、やっぱり説得力のない技を使ったら、それはダメじゃない？　ストンピング一つにしても当たってないのはダメだよ！　張り手でも指先しか当たってない張り手じゃダメ！　技を受けるときに怖がって相手から目を離すような奴もダメ!!　こないだ全日本の巡業に参加したときに若手のタッグマッチを見てたら、こんなことがあったな。自分は攻めていた。相手をリングの中央で倒したまではよかったんだけど、相手をそのままにして自分のコーナーに戻ってタッチしてんだよ。そういうのを見ると勘弁してくれよ、と思うよね。それじゃ、受けてる方はどうすればいいの？　立たざるをえないじゃん。

——俺はどうすればいいの状態（笑）。

馳　タッグマッチだったら相手の選手を自分のコーナーに持ってきて、なおかつ相手のコーナーを牽制しながらタッチをして次に進めないと。展開が次に繋がらないんだよ。

——たしかに最近の試合は、〝繋ぎ〟に色気がないですよね。

馳　サイドストーリーじゃなくて、試合の中でのストーリーがないと、いつの間にか、お客さんの緊張感が切れるから！（キッパリ）。「なんで足をズッと攻めてたのに、いきなりロープに走らせるの？」とか、そういう必然性が感じられないシーンは多い。攻めてる方もそこからフィニッシュに持っていくプロセスを見せないといけないし、攻められてる方は、足を攻められながら、いかに切り返していくかを見せないといけないんだよ。それは第一試合、第二試合の役割だと思うよ。

——それは前座試合をみっちりやってないとなかなか難しいですよね。ところがいまは、かつてのように一定の期間にみっちりと前座をやらせながら、しごいていく過程がない。そういう状況の中で一体誰がプロレスを教えていくんだって話ですよね。

馳　俺ぐらいかな？（笑）。

——ガハハハハ！　やっぱり議員やってたらダメですよ（笑）。

馳　俺は教えられる立場にあると思うよ。それをやっていかなきゃいけないからこの間も全日本で「合同練習やろうよ！」って言ったんだよ。前座に出る奴からメインで出る奴までの役割は違うんだけど、その制約のされた中で自分の持ち味を出せないんだったらプロ失格だと思う。俺は第一試合に出たら第一試合の役割をしっかりやるよ。でも「さすが馳だ」と思われるものを見せたいから勝負する。それに必要なのはテンションと体力でしょ？　それが出せるようにしていかなきゃいけないし、もしかしたらそこが各団体の経営者が『PRIDE』や『K—1』からプロレスを守る上で大事な部分なんじゃないかな。

「『PRIDE』『K—1』が勝負論で、プロレスには勝負論がいらない」って思ってたらダメ！

——だから、基本や制約を吹っ飛ばすことが自由とか個性だと、思いきり履き違えてる選手も多いですからね。

馳　そうだよ。自由には責任が伴うからね。各々の役割を責任持って果たしたときに自由になれるんだから。WWFはその辺がしっかりしてるから面白いんだよな。

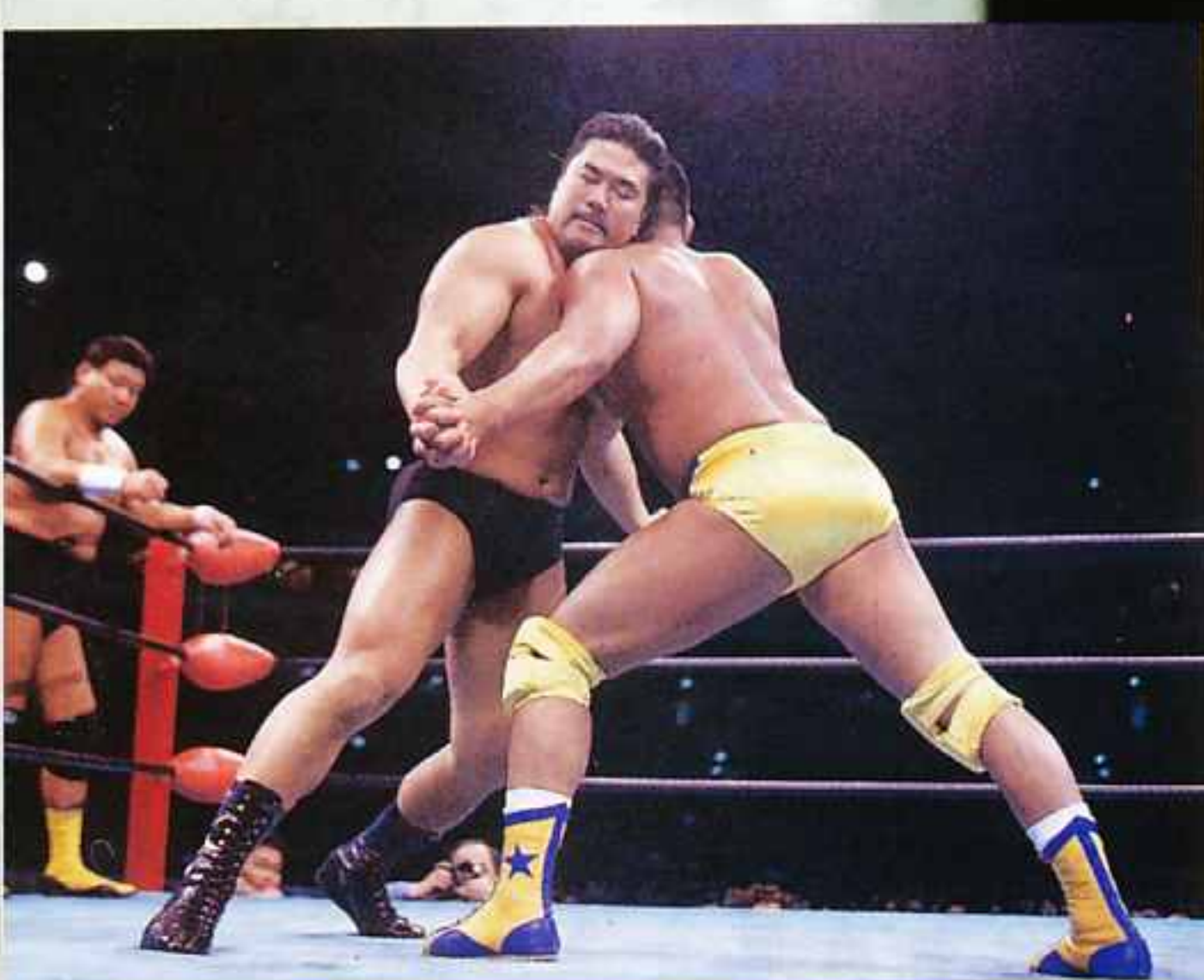
——WWF？

馳　WWFの試合はいまどき珍しく基本通りだよ。見習うところはたくさんあるよ。あれはバカに出来ない。WWFはプロレスのできる選手をちゃんと使ってるもの。HHH、ロック、オースチンにしてもみんなウマいよぉ（しみじみ）。ロード・ドッグもうまいな！　プロレスの公式を知ってるよね。抑え込み方とかのクラシックな部分も知ってるよ。ああいうの見るとちゃんと教えてる人がいるんだなと思うよね。

——いまWWFで上の方を張ってるクリス・ベノワとかクリス・ジェリコは馳先生と同じくカルガリーで鍛えられた選手ですよね。先日、ミスター・ヒトさんが「プロレスの源流はカルガリーにあるんだ」って言ってましたよ（笑）。

馳　ハハハ！　そんなこと言ってたのか！（笑）。まあ俺の話を半分で聞くとしたら、あのオヤジの話は十分の一ぐらいで聞いた方がいいよ（笑）。でも、真面目な話、安達（ヒト）さんの教え方は猪木さんと同じで「説得力のある技を出せ」ということだから。殴るんだったら思いっきり殴ればいい、それに耐えられる身体作りをしろということだから。

——さっきも言ったけど、気迫とか怒りを出すということも、いまやマニュアル通りというか枠の中ですからね。

馳　そうだな。だから、WWFは「エンタ

「二代目・長州力」と言われがちな健介だが、たしかに「長髪」「ラリアット」「黒のショート・タイツ」など、長州風のトータル・コーディネイトで統一されている。

ーテインメントである」と明確にカミングアウトしたけど、見習うべき点は多いよ。

―ズバリ聞きますけど、日本のプロレスもカミングアウトした方がいいと思いますか？

馳　しなくていいと思う！（キッパリ）。

―さすが政治家（笑）。

馳　だって日本人は真面目じゃん。真面目っていうのは観客が真面目って意味ね。デキるプロレスラーさえいれば十分にお客さんは付いてくると思うよ。

―でも、時代そのものが、安定の象徴だった大企業が潰れたり、インターネットが発達したり、昔だったら考えられないことが起こってる。組織中心の生き方じゃなくて、個の時代だとも言われてますよね。プロレス界でも小さなプロモーションがたくさん出てきた。そう考えると、さっき言ってた、"組織として一から組み上げていくプロレス"というのが難しくなってきてるんじゃないですか？

馳　ん～、高田さんが言ったように、プロレスは団体や組織のなかで覚えていくものなんだよ。そういうこと考えると、俺は統一コミッショナーをつくりたい！　統一コミッションを作って、新人選手を集めて1ヶ月は研修を受けさせるとかね。個性を発揮する前に「プロレスとは何なのか？」っていう部分で、プロレスの歴史を学んだり、あるいは実技面を学んだりしてね。いまは殴るのさえちゃんと出来ない選手がいっぱいいるもんね。

―さすが元高校教師！（笑）。

馳　じつは日本のレスリング協会からも「プロレスのコミッショナーになってくれ」って頼まれてるんだ。

―は？　なぜアマレス側が？

馳　いまはアマチュアのトップレベルの選手が行き先がなくて余ってるんだけど、受け皿がないから困るというんだよ。もし、コミッション組織が出来れば、そこでいったん選手をプールして、アマチュアの大会に出してもいいし、プロにデビューさせてもいいし。

―夢のような企画ですね。アマチュアの強豪選手がプロに流れてくる可能性もグッと増えれば面白いですよね。

馳　レスリング協会としても正直言って選手を出したいんだ。いまでもアマレスのトップ選手には選択肢がないから。そういう選手たちの働く場所、活躍出来る場所をプロレス界と協力して作って欲しいと言われてる。

猪木、長州ともリング上の哲学は非常に近いモノがあるのだ！　しかし、1・4の試合を見る限り、頭で考えていることと肉体の限界が噛み合っていない印象を受けた。それに引きかえ、猪木はタッキー相手にも見事な試合を披露している。この差は何なのか？

―それはぜひやった方がいいですよ！　『猪木祭り』や全日のドーム大会を見ててもわかるように、言葉は悪いけど、寄せ集めのイベントは見てて面白くないですよね。大会そのものにもテーマがあって、そのテーマを出る選手が理解してないと。そう考えると、組織や団体で「プロレス観」を植え付けていくしかない。でも、冷静に考えてみるとアメリカは昔から寄せ集めなんですよね（笑）。

馳　寄せ集めだけど、向こうはプロレス学校が日本より発達してるもん。

日本のプロレスはカミングアウトしなくていい　だって日本の観客は真面目じゃん。

―そういえば武藤さんが「プロレス学校やりたい」って言ってますよね。

馳　この前相談に乗ったよ。

―馳先生に相談してる時点で間違いですね（笑）。

馳　バカ！　そんなことないよ（笑）。俺はちゃんとアドバイスしたんだから！　武藤ちゃんは「ZERO―ONEみたいな道場を自費で借りて専門学校みたいなことをやりたい」って言ったけど、現実問題それじゃ長続きしないからね。武藤ちゃん自身も現役選手だし、そればっかりにはかかれないだろうから。それだったらいまある中で新日本プロレスの歴史と信頼感と経営母体を考えれば、あそこの道場を使ってやればいいと思う。そこからアマチュアの試合に出してもいいし、パンクラスや『PRIDE』に出してもいいし、FMWに出してもいいし。

―基礎をしっかりした上で、個人個人のプロレス観が育まれるような環境を作らなきゃいけないですよね。いまのプロレスは、どんなに激しいプロレスをやってても、それぞれのプロレス観が見えないんですよ。

馳　そうそう！　それがさっき言った「やりっ放し」ってことなんだよな。山口さんが言ってる「激しいプロレス」っていうのは"攻める"技術でしょ。たしかに攻める技術はあるかもしれないけど、いまは試合全体をコーディネートする技術がないんだよ。

―試合全体をコーディネートするには、芯となるプロレス観が必要ですよね。

馳　そうだよ、プロレスやるには哲学が必要なんだよ！

―カァ～、珍しくいいこと言いますねェ（笑）。

馳　これは長州さんも猪木さんも賛成してくれるんだけど、よくリングで顔突き合わせて、ガンタレたりするじゃん？　俺は、あれが凄い嫌いなの。「そんなに近くまで間合いを詰めてるのに、なぜ殴ったり蹴ったりしないんだ？」「リングに上がってたら戦場だろ？」っていうことじゃない。基本的には足が届く距離、手が届く距離になったらお互いに攻撃出来るんだから。そんなガンたれたりしたら客のテンションが下がっちゃうじゃん。

―あ、それで思い出した。去年、猪木さんがジャニーズのタッキーとエキシビションをやった大会ありましたよね？　そこで橋本&小川 vs 天龍&B・B・ジョーンズという試合があったんですよ。

ニッポンの（プロレスの）未来は Wow×4

馳　うん。

——あの時に村上一成が試合前に橋本を襲った。橋本が入場のとき、テーマ曲が鳴ってもなかなか出て来なくて、ようやく出てきたと思ったら血だらけで、「小川ぁ〜！　なんで村上に俺を襲わせたぁ〜！」って叫ぶわけですよ。

馳　ハハハハハ、説明すんなって！（笑）。

——それを見た猪木さんが「俺は久しぶりに怒ってる！」。「（橋本が）怒ってるんだったら四の五の言ってないで、殴りかかりゃいいじゃねえか！」って（笑）。

馳　やっぱりレスリングには〝怒り〟がなけりゃダメ。怒りは自分の内から作って出さなきゃいけない。だけど最近は澄ましてるヤツが多いよね。

——そういう部分で「プロレスはプロレスだ」っていう変な割り切りがありますよね。「プロレスと格闘技は別物だ」っていうレベルの割り切りじゃなくて、さっきも言ったけど、気迫の出し方にしても怒りの表現の仕方にしても、マニュアル通りというか枠の中なんですよ。

馳　普段、良識とか世間体とか固定観念で押さえてる、内なる部分のドロドロしたものが出てくるのがプロレスなんだよ。

——そういうものが出てきそうだからこそ、橋本vs長州戦には、みんな期待したわけですよね。

馳　あれは、終わり方はまずかったけどさ、試合自体は俺は好きだよ。でも俺がいま一番見たいのは橋本vs健介かな。あるいは橋本vs川田かな。

——橋本vs健介！

馳　川田選手はウマいよ。健介より数倍ウマいよね。お互いのプロレス観を超一流の選手がぶつけあったら面白くなるんだよ、絶対に。

——それはわかるけど、でも、なぜか健介選手の試合はボクには響かないんですよね。

馳　だってヘタだもん！（キッパリ）。強いよ、健介は。でもプロレスがヘタなの。

——その強くてヘタっていうところが健介選手の大いなる可能性なのに、プロレス観が誰かさんの枠の中なんだよなぁ。

馳　逆に川田選手は、同じ団体内に三沢選手とか小橋選手みたいにちゃんと受けきれる選手がいたから良かったんだよ。今の全日内で川田選手を受け止めきれるのは天龍選手だけだろ。

はせ・ひろし■昭和36年5月5日、富山県小矢部市出身。アマレスでロス五輪に日本代表として出場。昭和60年ジャパン・プロレスに入門後、昭和61年にプエルトリコでデビュー。昭和62年にはジャパン・プロレスの一員として新日本に登場。その後、若手の先生として道場でプロレスを指導する。平成8年からは闘いの場を全日本に移して活躍中。昨年は参議院から衆議院に移って、国会でも活躍中。いずれは窓の向こうに見える首相官邸へ（予定）。

Hiroshi Hase

——なるほど。そういう意味では、いまノアには、基礎の上に成り立ってるプロレス観を持った選手が、いろいろいるから面白いですよね。

馳　ノアの選手は色気があっていいね！

——そこに橋本選手も絡んできてるし。

馳　あのね、この前聞いたんだけど２０１１年以降は地上波がなくなるんだよ。そうなってくると日テレやテレ朝に縛られてた部分がなくなってくる。プロレスラー同士の交流が出来るようになってくるよね。

——交流するようになったら余計大事になってくるのがプロレス観ですよね。「俺は、こういうプロレスをするんだ」っていうプロレス観のぶつかり合いがなければ、単にいい試合やって終わりってことになりますからね。

馳　その部分の責任感をしっかりと持たないといけないのはノアと全日と新日だよね。特にノアなんかは若くていい選手がいっぱいいるんだから、頑張ってほしいよね。

——結局、猪木さんと馬場さんの時代がなんで面白かったかというと、実際にリングで闘わなくても、猪木さんのプロレス観と馬場さんのプロレス観の激突があったから面白かったと思うんですよね。

馳　うん。だから俺が、いま考えているのは、各団体のプロレス観を改めて考え直すためにも、一週間ぐらいの合宿で各団体のトップ連中を集めて『レスリング・サミット』をやりたいなと思ってるんだ。

——サミットですか！　昔から藤波社長もやりたがってますけどね（笑）。

馳　藤波さんにも来てもらってさ（笑）。レスラーみんな集まって合同練習やったり、酒飲んだりね。プロレスについて話をしたりね。昔だったら全日も新日も巡業に出て、中堅レスラーが若い選手に昔はこうだったとか話して、それを若いレスラーが聞いて「カルガリーって面白いんだな」とか「試合っていうのはこういうふうにやらなければいけないんだ」とか学んでいったものだからね。そういう機会があれば、みんなプロレスが好きでこの業界に入って来たんだから、ドンドン伸びていくと思うよ。

——なるほどなぁ。じゃあ、最後にあらためて、今後のプロレス界に最も必要なものは何でしょうか？

馳　やっぱり説得力のある技を使うこと！　そして説得力のある試合展開を心がけることだね！

——と、説得力のない馳先生が言ったところで終わりにしましょうか（笑）。

馳　バカ！　俺が言うからいいんだよ。腰が軽い俺だからさ（笑）。

——最近はリングで腰を振ってないですけどね（笑）。でも、さすがですよね。ジャイアント・スウィングでもしっかり20回転ぐらいしっかりやりますもんね。

馳　あれはバロメーターだからね。俺は50歳になってジャイアント・スウィングで50回すのが夢だから（笑）。

——じゃあ、いつまでも夢をみていてください（笑）。ありがとうございました。

馳　おい！　ホントに俺の『タイムショック』見ていかないのか？

【2月8日、東京・第一議員会館にて収録】

インタビュー後記■　90年代の「純プロレス」を象徴する馳先生の言葉には重みと説得力が感じられた。ここ数年で「プロレス」そのものが大きく変貌してしまったことによって「純プロレス」にシワヨセが来ている現状をどう巻き返すのか？　馳先生は「カミングアウト」しなくていいと語るが、それでは何を見せていけばいいのか？　今後の馳先生の手腕と腰フリには大いに期待したい！

杉浦 貴

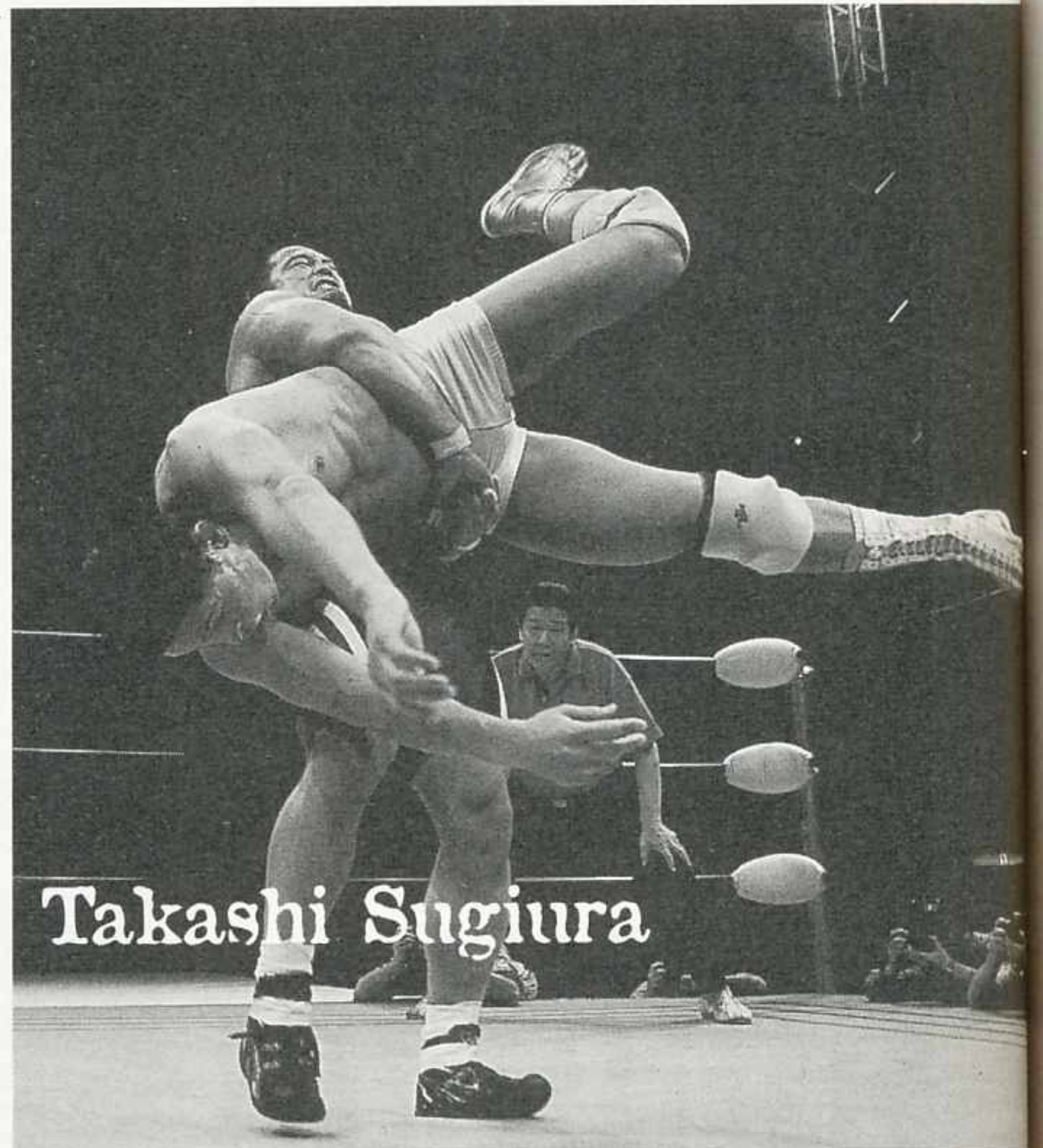
ノアのリングに怪物誕生!!

「純プロレス冬の時代」などといわれている昨今だが、ホントに「純プロレス」は冷え切ってしまったのだろうか？　もし、そう思ってるファンがいるならばこの“怪物”を是非見て頂きたい！　「国体優勝」「社会人選手権優勝」「全日本選手権優勝」と輝かしい実績を引っさげてプロレス界にやってきた、久々の“アマレス出身強豪選手”である。本誌が他誌に先駆けてお届けする初のインタビュー、必読だ！

聞き手／坂井ノブ
interview by Nobu Sakai
撮影／吉場正和
photographs by Masakazu Yoshiba

レスリングにハマって、続けるために自衛隊に入隊しました

——初めてのインタビューだそうですけど、よろしくお願いしますっ！　12月の有明コロシアムでド派手なデビューを飾りましたけど、元々レスリングでかなりの実績がありますよね。
杉浦　（恐縮して）そうでもないスよ。
——いやいや、そのへんは後でじっくりうかがいますから。アマレスのイメージが強いですけど、じつは柔道も二段なんですよね？
杉浦　高校の時に取りました。
——そもそも、小さい頃からずっと格闘技をやってたんですか？
杉浦　いや、高校からです。
——どうして柔道を始めようと思ったんですか？
杉浦　小学校6年生ぐらいの時に初代タイガーマスクを見て、それでプロレスにハマったのがキッカケですね。中学校の時も格闘技の部活があれば入ろうと思ってたんですけど。プロレスラーになりたくて。
——たしか出身は愛知県でしたよね。
杉浦　はい、そうです。愛知の中京高校出身です。
——えっ⁉　そうなんですか？　ノアに上がってる（斉藤）彰俊さんや松永（光弘）さんも中京高校ですよね。
杉浦　（青柳）館長もそうですね。
——彰俊さんからはかなりガラの悪い高校だったと聞いてますけど（笑）。
杉浦　ハハハハ、そうですね。最近はかなり良くなったみたいですけどね、自分の頃はスポーツで入るか悪いヤツかどっちかでしたね（笑）。
——杉浦さんはどっちでした？
杉浦　スポーツです（笑）。他の高校とのケンカはよくありましたけど、自分は全然参加してないです。柔道部の先輩は行ってましたけどね。練習を早めにあがって木刀持って「今日は行ってくるわ」みたいなノリで（笑）。
——それよりは女の子とデートしたりとか？
杉浦　それもなかったですね、男子校でしたから（笑）。
——なるほど。で、高校出た後は大学に進学したんですか？
杉浦　いえ、自衛隊です。そのとき一度「プロレスラーになりたい」って親に言ったんですけど大反対されてダメで……じつは高校の時からレスリングの大会にも出てたんですよ。高校にはレスリング部がなかったので、個人的に参加してました。
——えっ！「やらせてくれ！」って感じですか？（笑）。
杉浦　そうですね。それでレスリングにハマって続けたくなったんですよ。でも、頭が悪くて大学にもいけなくて（笑）。スポーツのコネもないですから。それでレスリングを続けるために自衛隊に入隊しました。

昨年12月23日の有明コロシアム大会でド派手なデビューを飾った杉浦。先輩・志賀健太郎を見事な俵返し（＝スギウラズ・リフト）が炸裂！

——ものすごい入隊理由ですね（笑）。
杉浦　最初は一般の自衛隊にいたんですけど、強い弱いは関係なしに「こいつは将来性あるな」っていうのが認められたら自衛隊の体育学校という機関に入れるんですよ。そこで自分は選抜されました。そこではいきなりオリンピック選手とスパーリングをやらされますからね（笑）。
——過酷ですねぇ。ちなみに杉浦さんはそこで凄い成績を残してますよね。国体を3回優勝して、全日本選手権も1回優勝。凄いじゃないですか！
杉浦　（照れながら）いや～、全然大したことないです。
——メチャクチャ大したことありますよ！
杉浦　あと全日本社会人選手権でも2回優勝してます。
——あ、さらに！（笑）。結構アマレスからプロレスの世界に入ってくる選手って多いですけど、その頃に肌を合わせた選手って誰かいますか？
杉浦　新日本の永田（裕志）さんとはやったことありますね。永田さんが大学生の時です。ボクはまだペーペーの一年目だったんですけど。ナショナルチームの合宿があって、自分は先輩の練習パートナーとして付いて行ったときです。洗濯とかで忙しかったですけど。
——ちなみに、その体育学校の先輩が本田（多聞）さんだったんですよね。一緒に練習もしてたんですか？
杉浦　いいえ。階級も全然違いますし、ボクはグレコ（ローマン）で本田さんはフリー（スタイル）ですから、直接肌を合わせることはなかったですけど。
——本田さんはどんな先輩でした？
杉浦　（言い辛そうに）……酒ですね。
——酒！（笑）。
杉浦　でも、あんまりしゃべらなかったですね。本田さんは幹部でしたし、ボクが入った時にはもうオリンピックも2回出てましたし。雲の上の存在ですよね。
——ちょっと小耳に挟んだ情報なんですけど、その当時は〝兵隊ヤクザ〟って呼ばれてたらしいですね。
杉浦　ハハハハ！　それは本田さんが呼ばれてたんですよ！　本田さんは全然、自衛隊らしくなかったですから（笑）。普通、幹部の人っていったらスーツとかちゃんとした格好で通勤するんですけど、あの人だけはMA－1に日の丸をつけて出勤して、一回右翼関係と間違われて止められたくらいですから。幹部であんなトンだ格好をしている人はいなかったですよ（笑）。自分も酒飲んで騒いだりとか、その程度はしてましたけど、その程度ですから（笑）。
——でも騒ぎ方はハンパじゃないんでしょうね。
杉浦　それはあるかもしれないですね（笑）。とにかく宴会が多いですから。
——普段は演習で山に入ったりもしてたんですか？

杉浦　体育学校という機関はオリンピックのレスリングとかボクシングで金メダルを獲ることが目的なんですよ。だからそういうことは一切やらないですね。朝から晩まで練習ですよ。

――レスリングが仕事なんですね。

杉浦　だから一般の自衛官には「あいつら好きなことやって」って見られてましたね。でも、こっちは厳しい練習やってるし、人生賭けてやってるわけですから。しかも、いい成績を残さないとクビ切られるんですよ。そうすると一般企業に就職するか、一般の自衛隊に入るかなんです。

――一般の自衛隊（笑）。

杉浦　そういう環境でやってますから、そんなこと言われる筋合いはないと思うんですよね。もうオリンピックのためだけにやってましたよ。

――でも、オリンピックに出場する夢は叶わなかったわけですけど……。

杉浦　95年に全日本選手権で優勝したときがちょうどアトランタの選考も兼ねてたんですよ。それで国の代表にはなったんです。でも、アトランタの時はアジア選手権で3番以内に入らないと代表になれないという条件もあって……そこで負けてしまったんです。それで行けなかったんですよ。

――あとちょっとだったんですね。その頃からプロレス入りを考え始めたんですか？

杉浦　そのときはオリンピック出たいって気持ちの方が強かったですね。そのときは全くなかったかな。でも最初のアマレス習いたての頃とか、なかなか勝てなくなってきた頃はちょっと揺れ動きました。でも結局、シドニー・オリンピックも選考会で負けて……そこでレスリングを諦めたんです。

――そこから、どういった経緯で全日本プロレスに入団したんですか。

昔ですか？　言いづらいですけど……（小声で）猪木さんのファンでした

Takashi Sugiura

杉浦　本田さんに相談しまして、それで三沢社長にお会いしたんです。そしたら、なんかアッサリと「いいよ」って感じでした（笑）。そんな簡単でいいのかなって自分も思いましたけどね。履歴書も送ってないのに（笑）。

――プロレスに入ってトレーニングはどうでしたか？　自衛隊で鍛えられててそんなに苦痛はなかったですか？

杉浦　プロレス特有の練習は、知らないことばかりだったんで、キツかったですけどね。基礎体力的なことは別に苦にはならなかったですね。

――スクワットとか腕立てとかがですか？

杉浦　……（長い沈黙）。ここは「いや～、プロは厳しいです」って言っておいた方がいいですかね？（真顔で）。

――アハハハ！　そんな無理に謙遜しなくてもいいですよ！　実際、入門当時からゴツかったですもんね。

杉浦　自分は結構いい年ですからね（笑）。29歳で入ったのに、普通の19歳と同じような身体してたら……ねえ？

――基礎体力的な心配はなかったから三沢さんも「いいよ」って即答したんでしょうね、多分。

杉浦　道場での練習量は本田さんから聞いてたんで、入門前からその倍の練習を積んでました。

――はぁ～、素晴らしい！　プロレス入りしてからの練習は小橋さんが教えてたんですか？

杉浦　そうですね。秋山さんとか、志賀さんにも教えていただきました。

――コーチの方々からは、何かアドバイスはありましたか？

杉浦　秋山さんから、試合スタイルとかのことで「いまさらお前がプロレスっぽいことをやっても、お客はそんなの期待してないから。アマレス的なものをプロレスに多く取り入れるように」とは言われましたね。ホントに「そうだな」って思いますね。今から跳んだり跳ねたりしても……。

――自分では「やってみたいな」という気持ちはないですか。

杉浦　ダイビングヘッドバッドやりたいなって思ってましたけどね。でもトップ・ロープに昇ったら足がすくんでダメでした（笑）。

――すくみましたか（笑）。で、昨年12月にデビューしたわけですけど、デビュー戦が凄かったですね。

杉浦　気持ち良かったです。

――大会場で歓声も凄かったですからね。あのもの凄い俵返しはド肝抜かれましたね！　で、あの技はもう名前が付いてるんですよね、「スギウラズ・リフト」っていう（笑）。

杉浦　勝手に付いてたんですよ（笑）。

――いわゆるカレリンズ・リフトですね。そういえばカレリンも杉浦さんと同じグレコローマンでしたよね。

杉浦　自衛隊時代は部屋に対戦相手をリフトしてるカレリンの大きなポスター貼ってました（笑）。

――そうなんですか！　ちなみにカレリンと前田日明さんの試合は見ましたか？

杉浦　見ましたよ。身体が柔らかいですね！　しかもちょっと内股で（笑）。

――そうですよね（笑）。杉浦さんは……。

杉浦　（即座に）硬いですよ（笑）。

――それも強そうな感じがしますよ。

杉浦　そうですか？　アマレスやってる人にも硬いって言われます（笑）。

――杉浦さんは今年で31歳ですよね。よく秋山さんが「あいつには時間がないんだ」って言ってますけど。

杉浦　その通りですね。まあ、焦りはないですけど、普通の19歳の新人が出来ることよりは、少し高いレベルのことが出来ないといけないと思います。

――ちょうど杉浦さんのデビュー戦の時に橋本（真也）選手が参戦しましたよね。気になりましたか？

杉浦　別に気にならなかったですけど、もし自分がプロレスラーをやってなかったら「ウオーッ！」って感じで見に来てましたね、一番に（笑）。

――アハハハ！　そういう凄い歴史的な注目を浴びる舞台で杉浦さんはデビューしたわけなんですけど、実際かなり大物感が漂ってましたよ。最近では試合後のコメントは強気な発言もけっこうあって、ボクは頼もしいなって思って見ているんですけど。

杉浦　そんな強気なこと言ってますかね？　マスコミの方がそういうイメージで書いてるからじゃないですか（笑）。

――でも、優等生的なキャラよりも、多少強気な方がいいですよ。

杉浦　その方が目立ちますかね？

――そう思います！

杉浦　やっぱ、コツコツやってたら40歳になっちゃいますからね、目立たないと。

――選手としてのピークはいつぐらいになりそうですか？

杉浦　いや～、わかんないですね。でも、体力的にバリバリで出来るのはあと5年ぐらいじゃないですかね。その間にやれるこ

とは全部やっておきたいなって思いますね。
——じゃあ全力疾走ですね。
杉浦　もちろんです！
——楽しみにしてます！

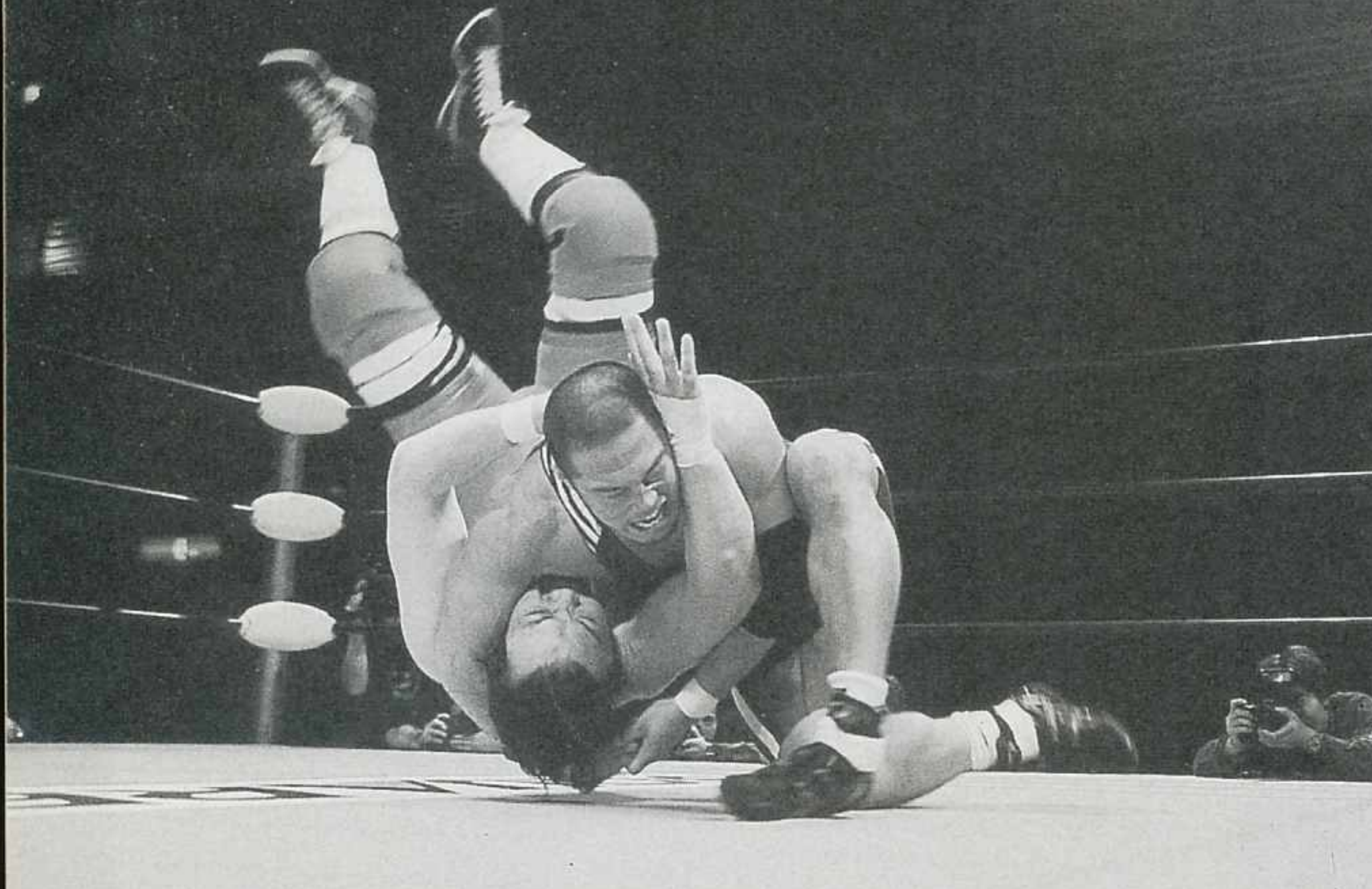
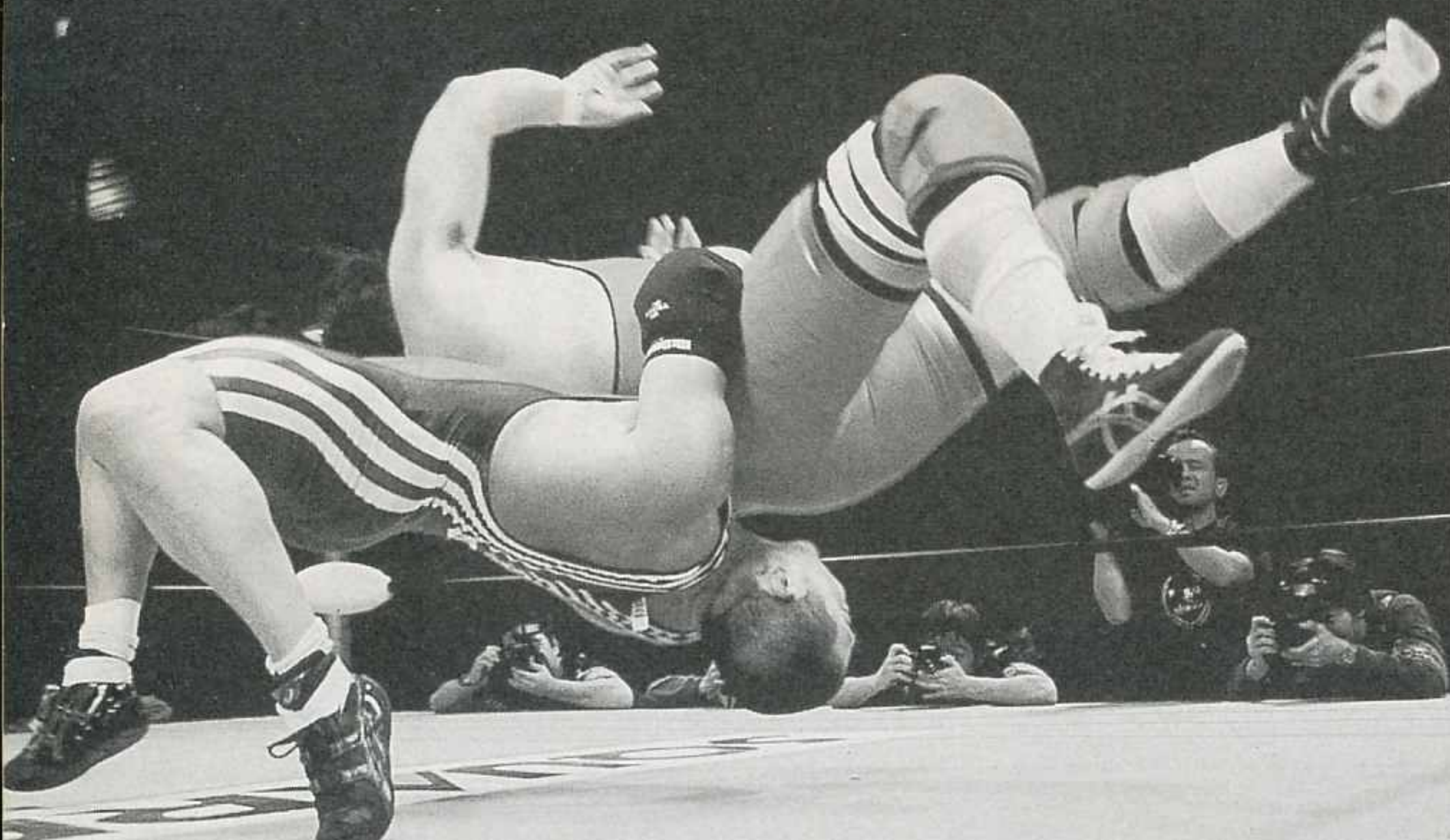
●

いかがだろうか？　世紀末に誕生したプロレスラー・杉浦貴の輝かしい経歴はおわかりいただけたのではないだろうか？　アマレスの猛者で、秋山準や本田多聞といったアマレス出身者たちが大きな期待を寄せる超新星である。とにかく試合で炸裂する俵返しやタックルを是非一度見て頂きたい。その"凄味"は本物のそれである。

1月6日のディファ有明大会では本田多聞と初シングル対決。試合はさながら「多聞のアマレス教室」となった。多聞が「ガンガン来い！」と杉浦に攻めさせていく、過去に見たことないような試合。見事なブリッジや凄いスピードの首投げで挑む。杉浦は己のすべてを出し切ったが完敗、「アマレス技だけじゃ限界がある」とプロレス習得を心に誓う。

さて、ここからはさらに突っ込んで、杉浦選手の素顔に迫ってみた。この21世紀の「純プロレス」を構築していく人材の頭の中には、どのような"プロレス"があるのか？　バーリ・トゥードや修斗やWWFを観てきた者が、「純プロレス」で何を表現しようと考えているのか？　そんな根元的な部分に迫ってみたい。

●

——杉浦さんは今までずっとプロレスを見てたんですか？
杉浦　ええ、見てましたね。プロレスだけじゃなくバーリ・トゥードとか修斗の会場にも行ってたんですよ。
——タイガーマスクでプロレスにハマったという話は最初に聞きましたけど、その後に誰かのファンになりましたか？
杉浦　ちょっと言いづらいですけど……（小声で）猪木さんです。
——なるほど（笑）。言いづらいところで恐縮なんですけど、猪木さんのどんなところが良かったですか？
杉浦　他の格闘技に闘いを挑んだり、世間に闘いを挑んでたところが好きでしたね。こんな話、いいのかな？
——まあ、当時の話ということで（笑）。
杉浦　でも、全日本も好きでしたよ。外人が良かったですよね。テリー・ファンクの引退試合で泣きましたから（笑）。その後もダイナマイト・キッドとデイビーボーイ・スミスは好きでしたねぇ（しみじみ）。で、その後にUWFが出てきたじゃないですか？　そこからハマったんですよ、あっちの路線に。
——いわゆる格闘技路線ですね。
杉浦　これはちょっとマズイですかね（笑）。
——まあ、当時の話ですから（笑）。
杉浦　それでアマレスを始めた時期にUWFが分裂して、ちょっと一旦そこでプロレス熱が冷めたんですけどね。
——プロレスに再び興味を持ったのはどのあたりですか？
杉浦　知ってる人がプロレス入った頃ですね。そんな面識はないんですけど、永田さんとか石澤（常光）さんですね。もちろん本田さんもそうなんですけど。それで『PRIDE』とか修斗が出てきて、そっちも見に行くようになりましたね。その頃、結構アマチュアレスリングの人が総合格闘技に出てたじゃないですか？　だから、結構見てましたね。
——あっ、そうなんですか。いま新しい時代の到来を感じましたよ（笑）。修斗試合も見に行ってたんですか？
杉浦　NKホール大会ですね。あの時はランディー・クートゥアにエンセン井上さんが下から十字極めた試合は見ました！　あと朝日昇選手が銀メダリストのデニス・ホールとやった試合とかはナマで見てますね。
——結構見てますねぇ。ちなみに総合格闘技にいまも興味はあるんですか？
杉浦　好きですよ。
——杉浦さんに結構、出場を期待してるファンや読者は多いんですよ。『PRIDE』では藤田（和之）選手とかアマレス出身者が

凄く活躍してますけど、いかがですか。

杉浦　そういうのを見ると、お世辞抜きに嬉しいですね。特に知ってる人が活躍するのは。

――藤田選手とも接点あったんですか？

杉浦　ええ、レスリングのナショナル・チームで一緒でしたから。凄くイカつい感じだったんで、怖いヤツなのかと思ってたら、気さくに話しかけてくるんで嬉しかった記憶がありますね（笑）。

――そういう話を聞くと、余計に杉浦さんに期待したくなっちゃうんですけどね。秋山さんがよくインタビューで言ってるんですよ、「対抗戦でも何でも、まず最初にバックとったり、マウント・ポジションを奪った方が強く見えるでしょ？」って。それにはアマレスが一番有効ですよね。

杉浦　まったくその通りです。格闘の基本ですからね。下から攻める技術もありますけど、基本的には上の方が有利じゃないですか。殴ったりも出来ますし。プロレスでもアマレスでも、そうですよ。タックルに入るのが当たり前じゃないですかね。

――なるほど。秋山さんは他の若手の選手に「杉浦からタックル習ったり、スパーリングをやればいい」と言ってたそうですね？

杉浦　それは2ヶ月ぐらい道場がなかった時期のことですよね？　みんな個人で練習してたんですけど、その頃自分はずっと自衛隊で練習してましたから。

――実際に自衛隊まで練習しに行った選手はいたんですか？

杉浦　力皇（猛）さんが来ましたね。両足タックルと片足タックルを練習して……最後には、逆にリキさんが自衛隊の選手に相撲を教えて。

――そんなレスリングと相撲の技術交流があったんですか！

すぎうら・たかし■昭和45年5月31日、愛知県名古屋市出身。格闘技をやる前は『キャプテン翼』に憧れてサッカーに熱中。名門・中京高校の柔道部で2段を取得。88年自衛隊に入隊。95年グレコローマン・レスリング全日本選手権優勝。2000年4月に全日本プロレス入団、6月にはノアに移籍。12月23日にデビュー戦で大活躍。今年1月7日のワンナイト・タッグトーナメントでも準優勝（パートナーは丸藤）するなど、猛スピードで急成長中。けっこうオシャレさんだ。撮影中、カメラマンが撮った写真を眺めながら「この女の子紹介してくださいよ！」とせがむなど、根本的に女性は好きな模様。178センチ、96キロ。

高山さんともスパーリングしますよ。足首極められて痛かったです

杉浦　相撲の技術はグレコローマンで必要なんですよ。相撲の腕を返したり、ハズ押しの技術は必要ですからね。

――素敵ですね。秋山さんは「プロレスをやるにしてもアマレスの技術は最低限必要だ」と常々言ってますよね。杉浦さんも道場でタックル教えたりしてるんですか？

杉浦　（言いづらそうに）ボクから教えることはないですけど……聞かれたら「こういうのもありますよ」って言うぐらいで。さすがにボクが講師になってっていうのはないです（笑）。

――いざプロになってみて年齢が近い選手とスパーリングしてみて、どんな感じを受けましたか？

杉浦　（言いづらそうに）う〜ん、どうなんですかねぇ？

――どうなんですか（笑）。

杉浦　アマレスには足関節はないので、極められると怖いですよね。以前、高山さんとスパーリングしたときに足首極められて痛かったです。

――高山さんともそういう練習はしたりするんですか？

杉浦　やりますね。

――そうなんですか！　現在の「純プロレス」と呼ばれる団体の中で杉浦さんみたい

な人が出てきたっていうのは凄く大きいことだと思うんですよ。

杉浦　いや〜、そうなんスかねぇ？　でも、みんなアマレス経験者もプロレスラーになると、アマレスの技術を使わなくなりますよね。なぜなんですかね？

——だいたいの人が、プロレスとアマレスを完全に分けて考えてますからね。

杉浦　でも、いまの自分にはアマレスの技術しかないですからね（笑）。

——三沢さんはよく「プロレスラーはオールラウンドじゃないとダメだ」って言ってますけど。

杉浦　自分は全然ダメですね（笑）。

——そういう意味では何が一番難しいですか？

杉浦　まず息があがりますね。本田さんと初めてシングル（マッチ）やった時に最初の5分ぐらいで、すごく息あがりました。きつかったですねぇ（しみじみ）。

——あの試合も凄かったですね！

杉浦　あんまり盛り上がってなかったんですけどね（笑）。

——いやいや、あの試合は通好みというか、よく見てる人にとっては面白い試合だったと思うんですよ。

杉浦　でも女の子には受けないでしょ？（笑）

——アハハハ！　女の子受けが第一なんですか？（笑）

杉浦　いや、冗談です（笑）。

——ああいう試合は貴重ですよ。

「ニッポンの（プロレスの）未来は wow×4

杉浦　本田さんは言ってましたよ。「そうやって言ってくれる人がいるだけでもやった甲斐がある」って。

——ボクの回りの人も「凄かったね」って言ってましたから。

杉浦　じゃあ良かったです（笑）。

——回りの人は女の子じゃなかったですけどね（笑）。

杉浦　ハハハハ……そうですか（ガックリ）。

——女性の話が出たんで聞かせてもらいますけど、杉浦さんは結婚してるんですよね？

杉浦　はい。子供も一人います。この3月に二人目が生まれます。

——あっ、おめでとうございます。でも『週プロ』の選手名鑑に「趣味・キャバクラ」って書いてありましたけど（笑）。凄いですよね！　試合も大物感が漂ってますけど、こういう面でも大物感ありますよ。

杉浦　普通書かないですよねぇ（笑）。

——「キャバクラ好き」っていうか、「女性全般が好き」って感じですか？

杉浦　そうですよね……（頭を抱えて考え込む）。でも、何ていうんですかね、あのキャバクラの……いいですよね！（力強く）。

——アハハハ！　何がですか（笑）。全然わかんないです！

杉浦　あの雰囲気ですよ！　さりげない感じで接客してくれるから「ひょっとしたら、こいつオレに気があるんじゃねえか？」って錯覚を起こさせるじゃないですか？　あれがいいですね！

——アハハハ！　キャバクラ以外の趣味はないんですか？

杉浦　ボクは無趣味なんですよ。スノボーとか釣りとかはやらないですね。だから自衛隊の時は土曜の夜に朝方まで酒を飲むじゃないですか？　したら次の日は二日酔いでひたすら寝て。そんな感じなんですよ（笑）。

——アハハハ！　とにかく飲みまくるんですね（笑）。

杉浦　趣味が酒飲むことですかね（笑）。

——横に女の子がいれば最高だと？

杉浦　そうですね（笑）。

——じゃあ、最後の質問はビシッと締めたいんで、真面目な質問しますね（笑）。将来こんな選手になりたいってありますか？

杉浦　う〜ん……やっぱりゴールドバーグですね！　格好いいですよ！　自分は身長高くないけど大きい人とやっても力負けしない選手になりたいです。総合格闘技も好きですけど、やはりプロレスでしか表現できないこともあると思うので、それを見せていきたいなと思います！

——わかりました。意外だったんですけど、アメプロとかも見てるんですね。

杉浦　ゴールドバーグが出てたら見ますね。

——WWFは見ないんですか？

杉浦　あんまり見ないですね。クリス・ベノワが出てたら見ますけどね。あと女性マネージャーが出ているときは見ますね（笑）。

——アハハハ！　結局、オチも女性ですか（笑）。

【01年1月31日、東京・ディファ有明にて収録】

Takashi Sugiura

インタビュー後記■従来の「純プロレス」が持つイメージを覆す、とてつもない可能性を秘めたこの超大型新人に本誌は大注目します！　ジャンボ鶴田〜秋山準〜本田多聞と続くアマレス・エリートたちの系譜の中でも、最も総合格闘技系に近い思考の持ち主であろう（プロレスラーとしてのキャリアが浅いからでもあるが）。本誌としては非常に興味深い存在である。

　ノアという超一流の「純プロレスラー」が揃う中で、自分の価値観をプロレスでバンバンぶつけ合うような試合を今後の杉浦には期待したい。あと、ほんの少しの可能性であっても純プロレスの最後の秘境・「ノア」の秘密兵器として総合格闘技進出にも期待せずにはいられない！

紙のプロレス RADICAL Back Number Information

あのボブチャンチンの通訳のお姉さまが熱烈推薦！

ミメサ〜ン RADICALを ヨンデクダサ〜イ

紙のプロレス RADICAL

NO.1〜NO.4/NO.6/NO.8 完売しました。

No.5★徹底検証！ 高田延彦×ヒクソン戦直前大特集号
ドン荒川&藤原組長／前田日明／柳澤龍志／ディック東郷／サスケ／佐山聡

No.7★田村潔司、『紙プロ』初のロングインタビュー記念号
木村健悟／サスケ／前田日明／冨宅飛駈／垣原賢人／モハメドヨネ／冬木弘道

No.9★アントニオ猪木・闘魂連鎖！ 無礼講大特集!!号！
前田日明／高田文夫／春一番／石川雄規！／ TKロングインタビュー／谷津嘉章

No.10★前田日明vsエンセン井上スクープ対談実現記念号！
高田延彦／谷津嘉章／サスケVS松永高司／北沢幹之／冬木弘道／T・山本

No.11★衝撃対談第二弾！ 高田延彦vsエンセン井上
前田日明／佐山聡／福田雅一／ザ・グレート・カブキ／アポロ菅原／石川雄規

No.12★高田延彦、2度目のヒクソン戦直前特集号！
浅草キッド／アポロ菅原／サク／アレク／前田日明／菊田早苗／八木淳子

No.13★アレクサンダー大塚、『PRIDE.4』で大ブレイク記念号
高田延彦　／前田日明／谷津嘉章／浅草キッド／ケンドー・ナガサキ／松永光弘

No.14★世紀の大一番！前田日明×カレリン戦大決定記念号
山本美憂・聖子／金原弘光／高田延彦／サク／村上一成／宇野薫／小路晃

No.15★小川直也、橋本を破壊！ 1・4ドーム大激震号
前田日明／カレリン／馬場さん追悼特集／語ろうマサ・サイトー／佐野なおき

No.16★猪木！ 前田！ エンセン！ ロングインタビュー連発号
田村潔司／坂田亘／高阪剛／山本喧一／コールマン／語ろうジャンボ鶴田

No.17★UFO襲撃三昧！ オーちゃん大特集号！
桜庭和志／高田延彦／アントン／前田日明／山本宜久／成瀬昌由／T・山本

No.18★ブレイク寸前！ サク『PRIDE.5』で完勝記念号！
小川直也／高田延彦／エンセン井上／イーゲン井上／将軍ＫＹワカマツ

No.19★ケアー戦直前！ いま一度高田延彦に大注目号！
小川直也／前田日明／ドン荒川／エンセン井上／上田馬之助／「世界のプロレス」

No.20★小川直也特集！ 人間UFO咆哮三昧号
前田日明／アレク／高田延彦／語ろう藤波辰爾／小路晃&宇野薫／内藤恒仁

No.21★小川直也、橋本を返り討ち！ 恐怖のプロレス大魔王降臨号
大仁田厚／前田日明／鶴見五郎／桜庭和志／CIMA／田中健一／平直行

No.22★サク、ホイラーに完勝この上なし！ 記念号！
前田テロ事件サプライズ座談会／田村潔司／山本喧一／大刀光／馳浩／小川直也

No.23★1・4新日&『PRIDE』GP2大ドーム特集号
高田延彦／大仁田VSエンセン／前田日明／ヒクソン・グレイシー／ヘンゾ

No.24★頭打ちすぎたかアレク!! 『PRIDE』GP特集号
桜庭和志／田村潔司／堀辺正史／サスケ×矢追純一UFO対談／守山竜介

No.25★格闘ロマン続行ーッ!! 藤田和之『紙プロ』初登場記念号
田村潔司／前田日明／小川直也／村上一成／石川雄規&小路晃／ミスター高橋

No.26★世紀の大一番ホイス戦直前！ やっちゃってくれサク！
本誌独占！金無垢のロレックス贈呈式!!前田日明&田村潔司／小川直也／大仁田厚

No.27★サクラバマスク、ホイスを撃破！ 大記念号！
藤田和之／田村潔司／大仁田厚vs馳浩／M・スペーヒー&R・アローナ&R・ババル

No.28★オーちゃん、ヒクソン襲撃準備完了記念号
前田日明／田村潔司／鶴田夫人／ヘンゾ・グレイシー／TKおかん／堀辺正史

No.29★「格闘環境」は激化する！ ノア勢『紙プロ』にフル登場！
秋山準／三沢光晴／丸藤正道&金丸義信／桜庭和志／仲野信市／里村明衣子

No.30★『PRIDE.10』直前！ 燃えよ！ 闘魂の火種!!
村上一成／小川直也／石沢常光／「長州vs大仁田戦」をブッタ斬り／高阪剛

No.31★歴史に残るベスト興行『PRIDE.10』大特集号
小川直也／サク&TK／永源遥／ユセフ・トルコ／川田語録／田村潔司

No.32★リングスvs新日！ 10・9新プロレスvs純プロレス開戦！
小川直也／高田延彦／サク／前田日明／金原弘光／藤波語録／ラッシャー木村

No.33★リングス、『PRIDE』、猪木祭り、世紀末イベント大検証号
小川直也／橋本真也／谷津嘉章／ミスター・ヒト／山本宜久／前田日明

No.34★「猪木祭り」、「長州vs橋本戦」を斬りまくり！ 特大号
小川直也／高田延彦／『紙プロ大賞2000』発表！／金原弘光／ヴォルク・ハン

【バックナンバー申し込み方法】

- ●お申し込み方法は現金書留と郵便振替の2種類があります（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）
- ●現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封し、〒151−0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス『バックナンバー通販』係まで送って下さい。
- ●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、00130−3−769154（株）ダブルクロスまで。代金はNO.5〜NO.10=680円　NO.11〜NO.19=780円　NO.20=880円　NO.21=840円　NO.22〜NO.23=880円　NO.24〜NO.32=840円　NO.33、NO.34=880円　送料1冊=310円　2冊=380円　3冊〜4冊=450円　5冊=520円　6冊以上=700円　※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。
- ●『紙のプロレスRADICAL』バックナンバー常備のえらい店
  ・アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン東京・チャンピオン大阪・リングパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷店・レッスル池袋店・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・横浜"AO"CORNER・ワールドスポーツプラザKINGS（池袋店・渋谷WEST店・新宿アルタ店・名古屋店・大阪店・札幌店・福岡店）

んママママ、
マッジっすか〜!

『紙のプロレス』本誌がナント、従来の価格の50%OFFで〜す!
この機会を逃しちゃゼ〜ッタイ、ダメ!
お客さぁ〜ん、半額だよ〜、半額!(魚屋風)
「えっ! もう買っちゃったよ!」との方々申し訳ございません。
でも、怒らずにこれからも『紙プロ』を宜しくお願いします。

50%OFF!

決算の為、在庫一掃セール!

●50%OFFセール特別棚設置店● アイドール新宿店、大山アメリカン、プロレスマニア館、チャンピオン東京、チャンピオン大阪、リングパレス、バディスラム、タコシェ
※『紙プロ』本誌以外にもTシャツなどの半額商品もあるかも? 今すぐチェケッラッチョ〜ッ!

第5号
特集 たたかいグランプリ
特別寄稿鈴[illegible]彩作J太郎、竹本幹男/ロングインタビ[illegible] デビル[illegible]氏神一番/脅威の連載陣! 高田文夫、[illegible]関、浅草キッド
完売

第16号
特集 新日本凸凹大学校
『紙プロ』的昭和新日総力検証
マサ斉藤、キラー・カン、田中ケロ、破壊王、後藤達俊インタビュー/ユセフ・トルコvs由利徹対談
50%

猪木とは何か?
スキャンダル[illegible]ていた時期の猪木を直撃! どうって[illegible]村[illegible]川談志、告発仕掛人・仙波記者が登場![illegible]PKO発言を誌上再録
完売

第8号
特集 さらば新日本プロレス
ワイド座談会/初登場ザ・グレート・サスケにロングインタビュー/セメントインタビュー関根勤/恐山でジンギスカンを食い、八戸で仮面貴族を見た
50%

第17号
特集 実況パワフル北朝鮮
猪木×永島のナマハゲ対談(© 大仁田)、村松友視がミーハーヒロイズム宣言!? ブル中野、破壊王も登場/巻末特集「藤原組の逆襲」
50%

パンクラス公式読本[矛]
97年夏当時、横浜道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!/なぜか突然、佐山聡が登場!/故・長谷川悟史選手のロングインタビューも掲載
50%

第11号
特集 狂気とは何か?
怒涛の6人インタビュー堀辺正史、T・J・シン、西村知美、佐野量子、ガッツ石松、糸井重里/プチ特集「『週刊プロレス』とは何か?」初代編集長独占手記
50%

第18号
特集 高田延彦さんへ愛をこめて
引退宣言の[illegible]談会/サブ特集「すてきな奥さん」大山[illegible]スケ、ラ[illegible]石川雄規の嫁が登場!/新間寿恒ヒザ蹴[illegible]
完売

パンクラス公式読本[盾]
97年夏当時、東京道場にいたパンクラシストたちを中心に構成!偶然か、必然か?/故・ジャイアント馬場がパンクラスを語った衝撃のインタビューも掲載!!
50%

第12号
特集 色気とは何か?
村松友[illegible]が[illegible]を語る!/「前田日明が某格闘技雑誌編集[illegible]子便所説教[illegible]事件勃発記念座談会/蝶野正洋も登場!/[illegible]猪木も登場
完売

第19号
特集 さようなら紙のプロレス
『紙プロ』の廃刊騒動の顛末。新編集長誕生!/サスケ×高野拳磁『紙プロ』を偲ぶ座談会ミスター・ポーゴ、山崎一夫インタビュー
50%

極真とは何か?
不撓不屈の極真魂が溢れる16人を直撃!/松井章圭館長、磯部清次南米支部長、F・フィリョ、黒澤、ニコラス・ペタス、某格闘技雑誌編集長らインタビュー
50%

第13号
特集 道場破りとは何か?
安生グレイシー道場破り失敗事件記念企画 山本小鉄&上田馬之助に緊急インタビュー/サブ特集「ファミコンプロレスとは何か?」デルフィン登場
50%

第20号
特集 たたかいグランプリ
真樹日佐夫、角田信朗、大槻ケンヂ、村松友視の四大インタビュー/山口昇と東京シュガーベイブ結成記念 ユセフ・トルコ、上田馬之助、遠藤幸吉が登場
50%

紙の前田日明
インタビューという名のエネルギー史
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で掲載した前田インタビューを再構成してディレクターズ・カットで再録!/引退直前の覚悟のインタビューも新規収録!/完全保存版

第14号
特集 神秘とは何か?
佐山聡、大槻ケンヂ、プロボディーガード・清水伯鳳、鈴木みのるが神秘を語る!/遠藤幸吉、高田文夫にロングインタビューを敢行!
50%

第21号
特集 幻的格闘技
古武道を通じてプロレスを考えよう! 前田日明も登場! スクープ・寛水流空手二代目会長の世古典代氏登場!/高田文夫、ユセフ・トルコが登場
50%

気になる申込み方法
●現在は1号〜7号、9号、10号、12号、18号『猪木とは何か?』は完売しました。プロレスショップにはまだあるので元気に探せ!! 気になるお値段は、ナント『紙のプロレス』8号は700円→350円、11号〜22号は780円→390円、パンクラス公式読本『矛』『盾』1260円→630円、『極真とは何か?』1530円→800円と大変お買い得です。 ☆『紙の前田日明』送料込みでサービス価格の2000円となります。 ●送料は1冊=310円、2冊=380円、3〜4冊=450円、5冊=520円、6冊以上は700円となります。

【現金書留送り先】
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス「バックナンバー通販」まで

【郵便振替振込先】
00130-3-769154 (株)ダブルクロス
※どちらの方法にしても、必ず希望の号数を明記してください。
※必ず本誌かRADICALかを明記してください。

第15号
特集 インディペンデントの逆襲
インディーレスラー10人斬り+大物インディー3人 高野拳磁、ポイズン澤田、中牧昭二 巻末特集「K-1とは何か?」石井館長インタビュー
50%

第22号
特集 この人が喝っ!!
巻頭インタビュー・ジョージ高野 プロレス雑誌を斬る!!/高阪剛、セッド・ジニアス、小佐野景浩、熊久保英幸インタビュー/M・マスカラス宣言号
50%

No.35 Main-Event

紙のプロレス RADICAL

2001 No.35 CONTENTS

No.35 Semi-Final

Scandal & Scoop

Radical Fight

Columns

Specal Novels

Another

RADICAL特製ピンナップ

VIVAメヒコ!
●
マサヒロ・マジック・コバヤシ

Art Director
出田さん●San Ideta

Design
Two Three
ヒサくん●Kun Hisa
村松さん●San Muramatsu
マツくん●Kun Matsu
グッチー●Gutty
モリやん●Yan Mori

Saotome no jimusho
トメオ●Tomeo
ハナエ●Hanae

古賀ゆきえ●Yukie Koga

Cover Model
サクラバマシン

Cover Illustration
中川雅博画伯

※「RADICALとは何か?「根源的」、「根本的」って意味。取り扱いに注意してね♥

本誌編集部員・幸田珍がフィリピンパブ勤務のセレナちゃんに求愛中——心もお金も破産寸前

「純プロレス」の古典芸能化をくいとめろ！
プロレスは歩みを止め「闘い」を忘れたときに老いてゆく

ジャングルを守るだけじゃなくジャングルをつくりゃあいいじゃねえか!!

ZERO-ONE旗揚げ！
NOAHの開放政策！
UFOの再飛来！
新日本再結成！
そしてアントン軍団増殖で
「純プロレス」の
“ジャングル”再生か？

文／山口日昇
text by Noboru Yamaguchi

バカヤローーーッ!!

本当に心の底から原稿など書きたくない気分なので、誰に向かってということではなく、まず叫んでみました。

ンムフフフ。

まず、ボクは、非常にはしょって言うと、『PRIDE』に代表されるような、格闘技をショー・ビジネスとして昇華させているものを、「新プロレス」と呼んでいます。これをまず言っておきます。

で、今回のテーマは「純プロレス」です。

「純プロレス」とは何か。

ズバリ言ってしまえば、観客論のみで成り立っているプロレスのことである。

では、『紙プロ』で頻繁に使っている「新プロレス」とは何か。

勝負論と観客論の両輪をダイナミックに転がしながら、「純プロレス」とも「純格闘技」とも違うもののことをいう。

じゃ、かつて我々が熱狂した「猪木プロレス」とは何か。

勝負論と観客論の両輪をダイナミックに転がしながら、「純プロレス」とも「純格闘技」とも違うもののことをいう。

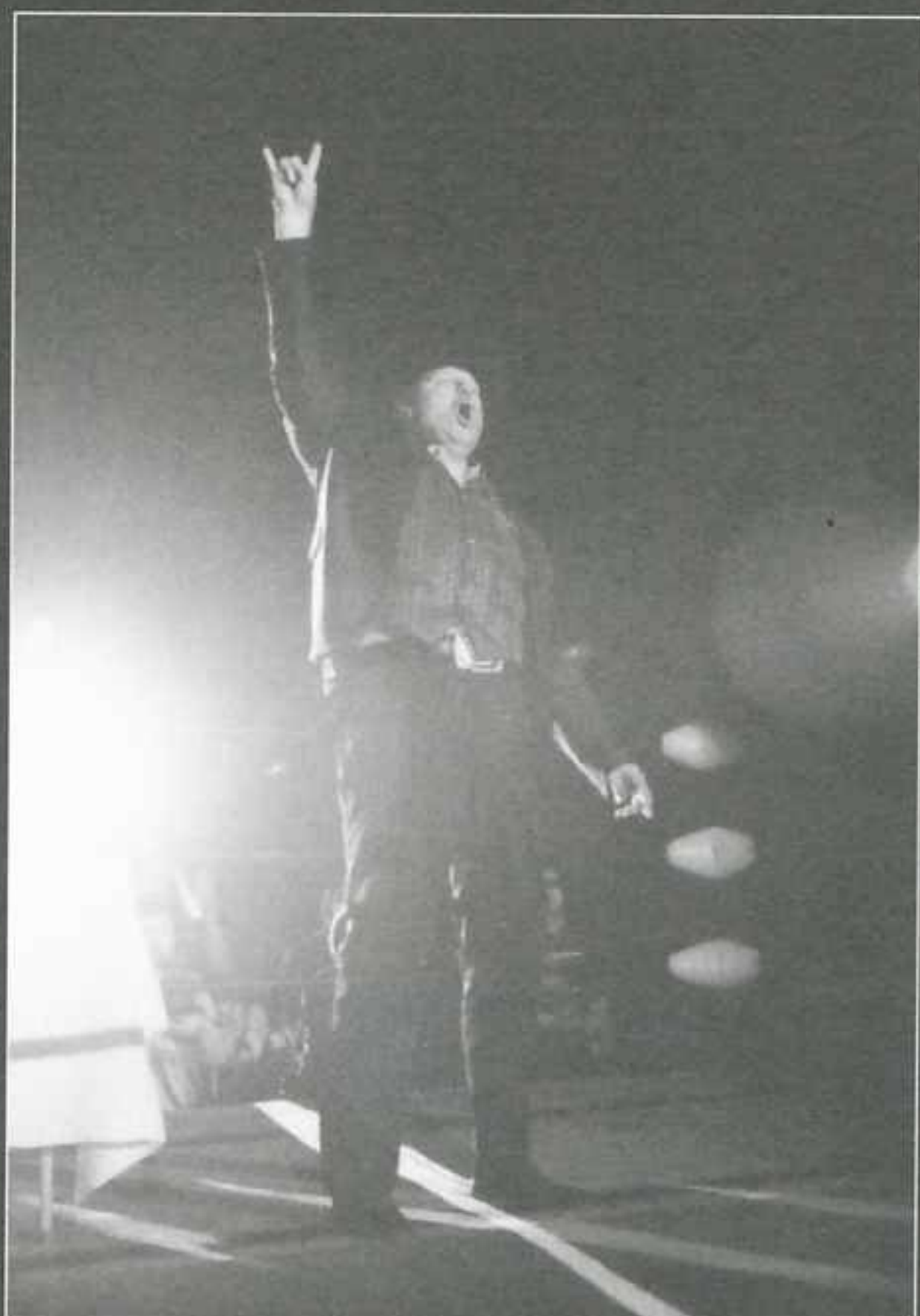
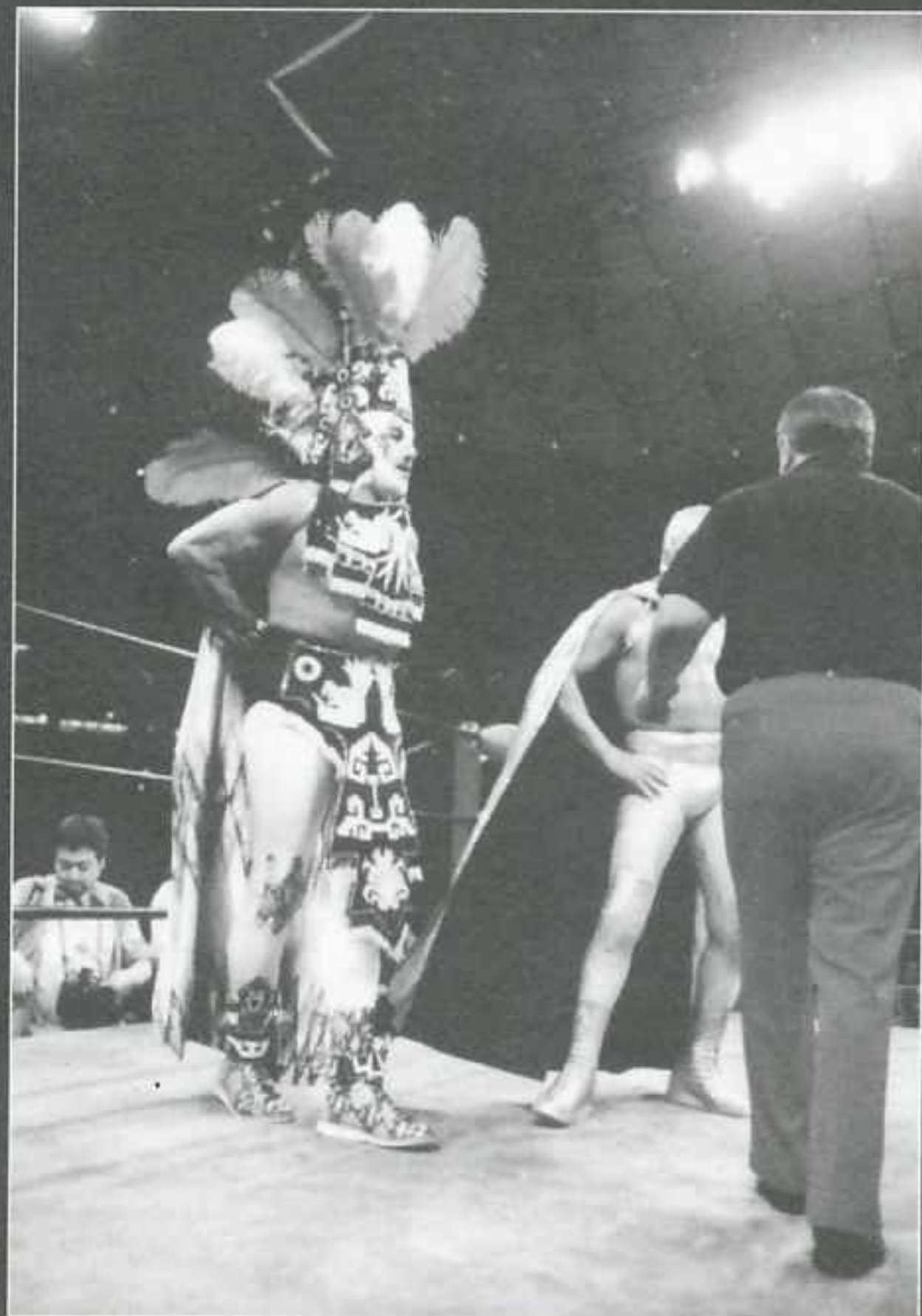
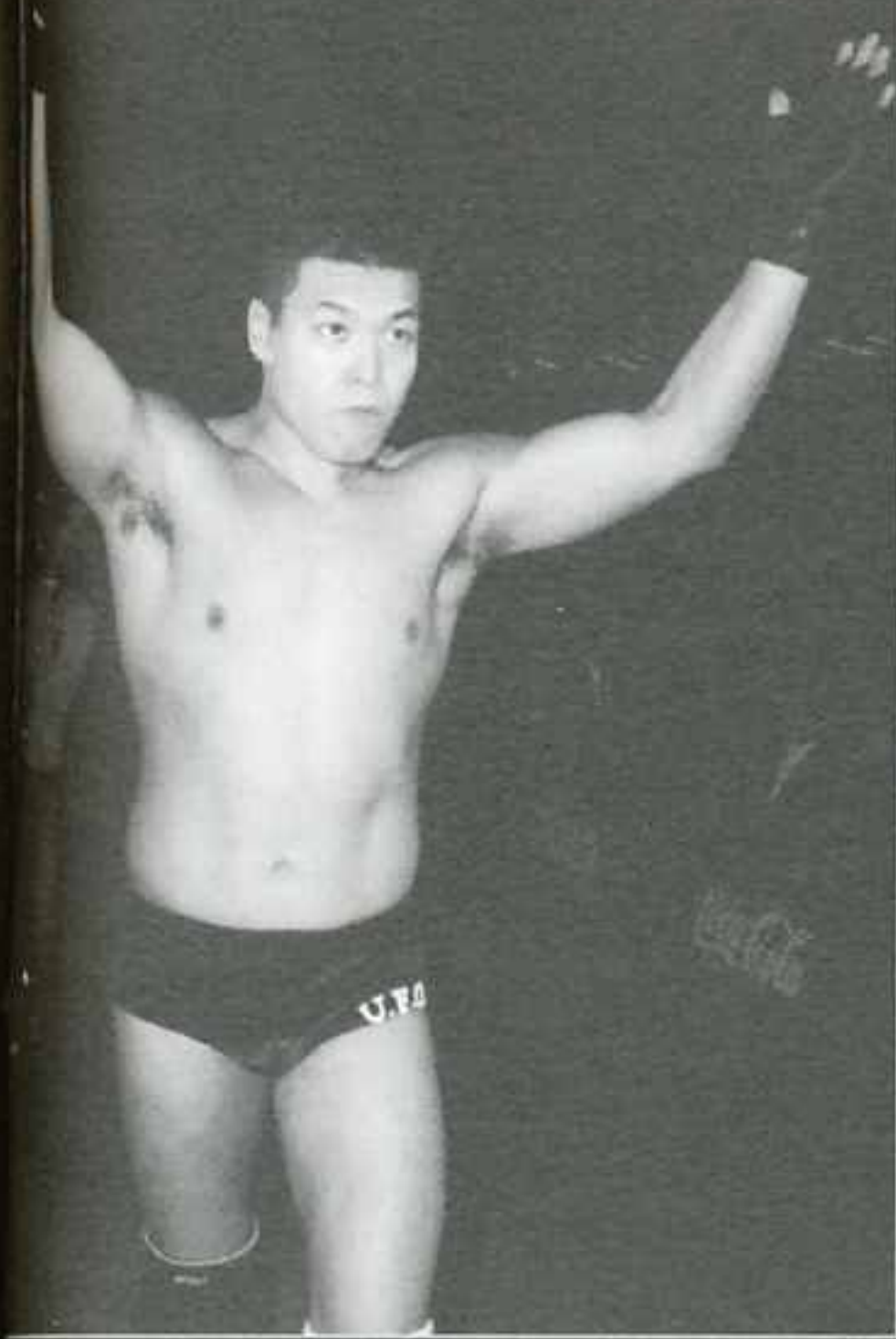
あれ？ さっきの「新プロレス」と一緒だぞ？

しかし厳密にいえば違うものだ。

「新プロレス」は、勝負論と観客論の両輪を転がしているが、〝勝負論〟という車輪のほうが大きい。

「猪木プロレス」は、同じく勝負論と観客論の両輪を転がしてはいるが、〝観客論〟という車輪のほうが大きい。

しかし、「新プロレス」も「猪木プロレス」も両輪を転がしているところは共通している。

ここまでで、勝負論とか観客論とか両輪とか、同じような単語が順番を並べ替えたりしながらたくさん出てきてるので、輪輪輪輪うるさくて、わかりにくく

1・28東京ドーム。ハンセンの引退セレモニーや、オールディーズのビッグネームが集まった「G馬場3回忌追悼記念興行」。やはり〝闘魂〟のない「純プロレス」はジャイアント馬場という巨大な存在があったから輝いたのか

「猪木プロレス」をいま唯一受け継いで展開しているオーちゃん。バーリ・トゥードだけではなく、「純プロレス」でも、希望の光である。オーちゃんにかかる期待は大きい。

てしょうがない！　と思ってる人もいるだろうが我慢してください。もう書き直す時間はありません。リンリン。で、どっちが先にくるかはともかく、勝負論と観客論の両輪をダイナミックに転がすと、見てるほうは、非常にドキドキワクワクして、手に汗握ることになる。

これも「新プロレス」と「猪木プロレス」の共通点だ。

では、現行の「純プロレス」でドキドキワクワクしないのはなぜか。

それは、勝負論がないからである。

●

1・28、全日本プロレスの東京ドーム。

馬場さんの3回忌記念興行。

この日は、マスカラスも、テリー・ファンクも、ブッチャーも出た。ハンセンの引退セレモニーもあって、デストロイヤーまで顔を出した。

子供の頃によく見ていた人たちだ。

しかしノスタルジックな気持ちを抱く暇さえもなかった。懐かしいというのを通り越して、もはや何も感じなかったというのが正直なところである。

ボクには、この日の大会は、刑務所や施設を回る、慰問のイベントを見てるような感じがした。

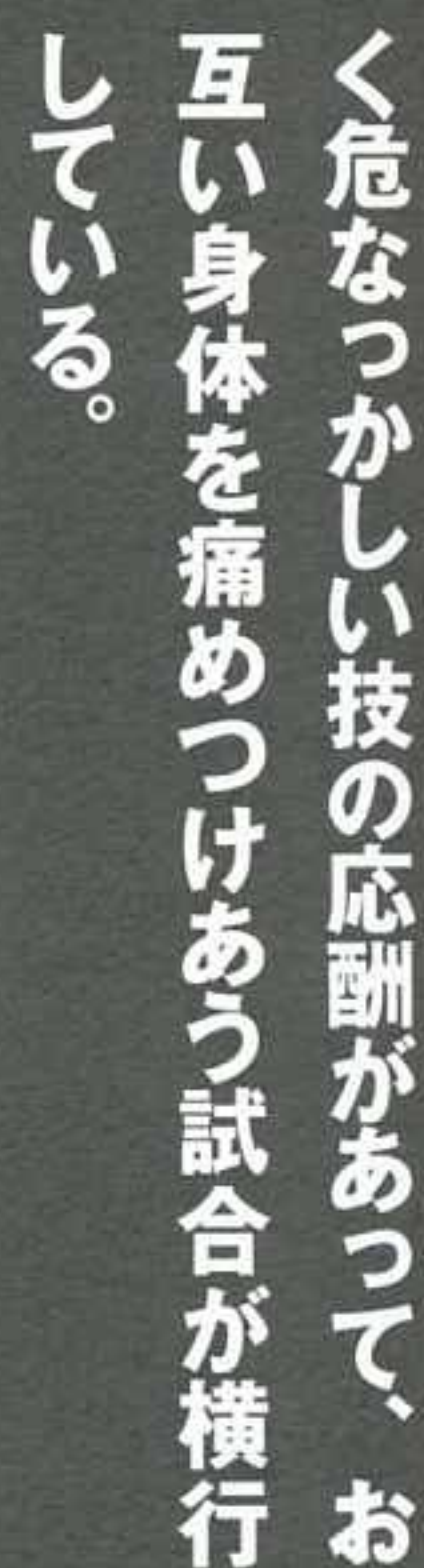
まるで、慰問プロレスである。

これが「純プロレス」と言われるものなら、ズバリ言って、未来はない。

明らかに〝20世紀のプロレス〟は終わったのだ。

ノスタルジックな「純プロレス」ではなく、勢いのある選手たちが繰り広げる現行の「純プロレス」では、激し

「新プロレス」のリングで、輝きを放つサク。これから「純プロレス」との関わりはどうなっていくのだろうか。「純プロレス」を真剣にやっているサクも見てみたい

く危なっかしい技の応酬があって、お互い身体を痛めつけあう試合が横行している。

それでもそこには勝負論がないものが、たくさんある。

やっぱり日本のプロレスには勝負論が必要なのだ。

「新プロレス」の勝負論の〝勝負〟は、格闘技の勝負で決着がつく。

では、「猪木プロレス」の勝負論の〝勝負〟とは何で決着がつくのか。

ここに、「純プロレス」復興の鍵が隠されている気がする。

●

世紀末に行われた『猪木祭り』では、『PRIDE』に出ているバーリ・トゥーダーが、「純プロレス」の試合を行った。アントン総帥プロデュースによる壮大な実験である。

しかし、もともとプロレスは、他格闘技のエキスパートが集まってくる場だった。

力道山時代にも、柔道の木村政彦、遠藤幸吉、大相撲の横綱・東富士などなど、その分野で名を馳せた強者たちが集ってきた場だったのだ。

そういう意味では、『猪木祭り』は、新しいものを創造するというよりは、従来のプロレスとなんら変わりはなかった。

やっぱりそこでどんなことが行われるかが重要なのだ。

『猪木祭り』では、いまをときめく屈強な格闘家たちがプロレスをやったが、そこにも〝勝負〟はなかった。

『PRIDE』に上がっている選手がプロレスの試合をやるということより、やはり、いま「純プロレス」に必要なのは、力道山からアントン総帥にバトンが渡された「闘魂」なのである。

「闘魂とは、人の誠意を踏みにじる覚悟」と、アントン総帥のかつての敏腕マネジャー、新間寿がヒドイことを言っていたが、これは一理ある。そういえば破壊王・橋本真也と話していて非常に面白かった話がある。

格闘技は、相手の嫌がることをやらなければ勝てない。

じゃあ、プロレスはどうか。

リングの内外で相手の嫌がることを仕掛ける。そうする

橋本が蝶野にクーデター指令

東スポ 独占特報

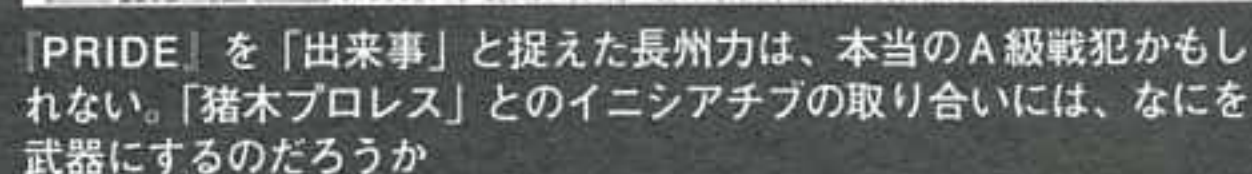
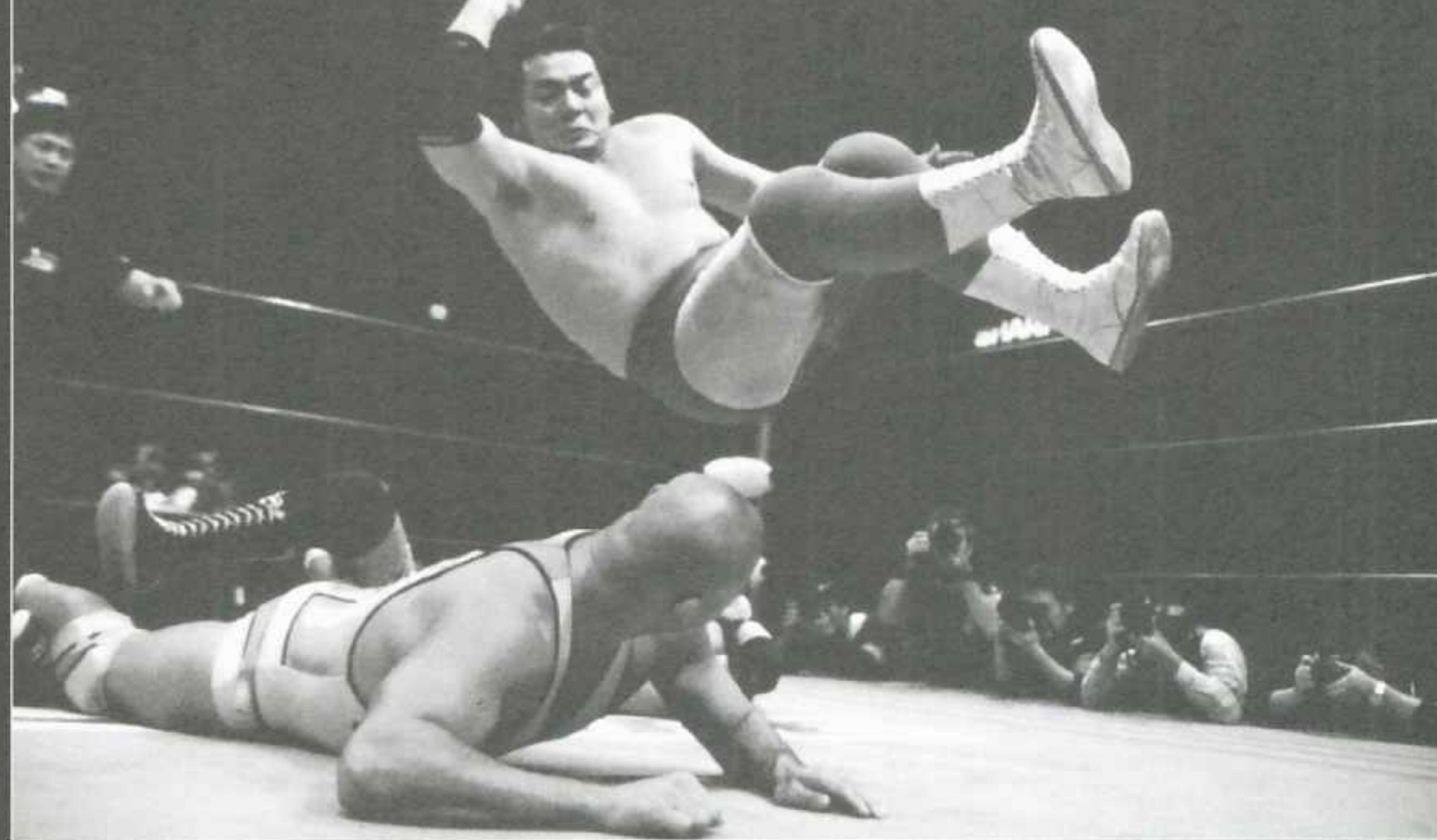
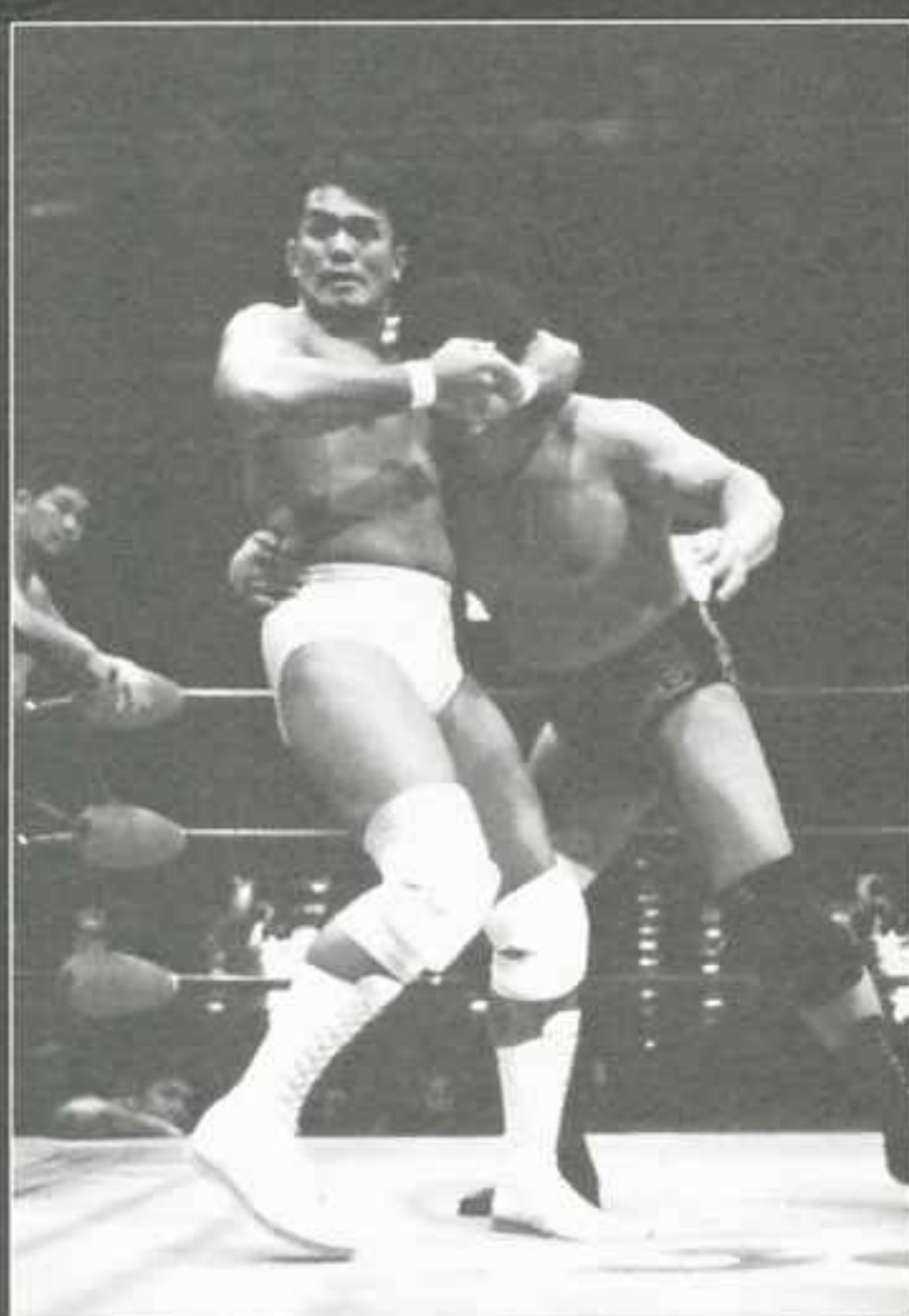
新日激震 長州追放

東京スポーツ

川崎麻世に告ぐ

阪神二軍独立

3月1日大変身スタート

『PRIDE』を「出来事」と捉えた長州力は、本当のA級戦犯かもしれない。「猪木プロレス」とのイニシアチブの取り合いには、なにを武器にするのだろうか

ZERO-ONEのリングに上がる三沢と秋山だが、外交政策にはまだ消極的。このまま"馬場化"していくのか、正面からマット界のイニシアチブを取りに行くのか、その方向性に注目が集まる。秋山という大きなタマを、固定ファンだけに見せていくのはあまりにもったいない

と、〝受け〟が基本のプロレスでは、同じように自分が嫌なことをやり返される。

そこで挫けずにやり返し、相手も挫けずにやり返してくる。そうやってお互いに高度を上げていく。それがプロレスの醍醐味だ。しかし、これは決して水平チョップの応酬とか、パワーボムの応酬とかいう意味ではない。

いまの「純プロレス」は、イニシアチブの取り合いではなく、イニシアチブの譲り合いになっている。

いくら激しい技の応酬を繰り広げても、譲り合いになっては真の迫力は生まれないのだ。

これはリング外の駆け引きもまったく一緒だ。

プロレスも、相手が嫌がることをやらなければ勝てない。格闘技の場合と一緒である。

「猪木プロレス」の勝負論の〝勝負〟は、なにで決着がつくかというと、つまり、精神力ということである。

精神力の部分でシュートでなければならないのである。

その、目に見えない精神力の勝負の決着を、ファンがつけるのだ。

●

いや、まったく何を書いてるかわからなくなってきた。

ああ、東京の空には星がない。

でも、ここまで書いてきて、わかってきたことがある。

「新プロレス」と言うと、ちょっと話が見えにくくなるので、ここではバーリ・トゥードと言うが、そのバーリ・トゥードの攻勢に、なぜ「純プロレス」が押されっ放しだったかということである。

プロレスラーが出ていって、バーリ・トゥードで負け続けたからという表面的な理由だけではない。

バーリ・トゥード側の仕掛けに、「あ

れはまったく別物で、ただの出来事」とそっぽを向いてしまった。

これが押された要因である。

「純プロレス」が嫌がることを仕掛けてきたのだから、バーリ・トゥードが嫌がることをやり返せばいいのだ。

それをやったのが『猪木祭り』だ。

バーリ・トゥード側にとっては、あれをやられるのは非常に嫌なことだったはずだ。

そう考えると、『猪木祭り』の意味が見えてくる。

やり合いながら、お互いの高度を上げていくことが、アントン総帥の狙いなのだ。そうして高度を上げていったときに、真の〝新プロレス〟は勃興するのかもしれない。

やはり、「純プロレス」復興の鍵は、〝イノキ〟であり、〝闘魂〟である。

〝闘魂〟を切り離した「純プロレス」は日本では生き残っていけないだろう。

まずは、「猪木プロレス」を復興すること。

それが柱になれば、観客論のみの「純プロレス」も生き残っていけるはずだ。

現行の「純プロレス」と「猪木プロレス」の違いとは何か。

その違いに気づかなければ、21世紀のプロレスは生まれない。

プロレスは闘いを忘れたときに老いてゆく。

地球に緑が足りないなら、ジャングルを守るだけじゃなく、ジャングルをつくりゃあいいじゃねぇか!!

「純プロレス」に足りないのは、ズバリ言って攻めの姿勢である。

本格的に「闘魂」が動き出した。藤田、安田、そして破壊王！　アントン総帥の今度の標的は「純プロレス」に四角いジャングルを蘇生させることか。やたらと面白くなりそうな雰囲気だ

紙のプロレスRADICAL次号は『PRIDE.13』ド直前の3月23日発売予定!!

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
（通称＝I編集長）
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク

Inoue mode

——さ、井上さん、一回飛ばしてしまいましたが、通常の連載再開です。今回井上さんに語っていただきたいテーマは、ズバリ、「シュート活字」です。井上さんはシュート活字はご存じですか？

井上　シュート活字？　知らん。

——あれですよ、井上さんのお弟子さんの田中正志さんが唱えているヤツですよ。

井上　ああ、それだったらわかるよ。

——いまですね、そのシュート活字の是非論が高まっているんですよ。で、『紙プロ』でも田中さんにインタビューしたりして検証しているんですが、まず、井上さんの見解をお聞きしたいなと。

井上　うん、まずオレなんかが思うのは、（田中氏が）10年から15年早いということだな。早過ぎると。彼が言うようなことをそのまま載せたりする雑誌なんてないだろう？

——実際、マスコミ連中には煙たがられてるみたいですね。ヤオガチ判定みたいな部分だけクローズアップされてるみたいですし。

井上　バカなこと言っちゃイカンよ！　ハッキリ言うて、マスコミの中にはそんな話ばっかりしとるヤツがいっぱいおるんだよ！（ドンッとテーブルを叩く）。

——マスコミの連中こそ喜んでシュートだワークだ言ってますからね。ただ、いままで隠語だったワークだブックだという言葉が、もはやファンレベルでも使われているというのは、シュート活字の功罪でしょうね。

井上　そんなこと言うたら、オレだってフッカーだとかシューターだって言うとるんだもん！　それに元を辿れば佐山がシュートだなんだって使い始めたんだからね。それを彼だけのせいにしちゃいかんよ。だいたいね、シュート活字なんて言ったら、オレだってシュート活字みたいなことはいっぱいしてきたんだから！

——おお！　井上さんがシュート活字の元祖ですか！

井上　オレが何度も口を酸っぱくして言ってるように、ダメなものはダメとハッキリ言わなきゃいけないんだよ。外国人レスラーがダブルブッキングで来日できないと。それを「ケガのため来日できません」と言うからおかしなことになるんだよ！（ドンッ）。もうね、臭い物にフタをできない時代なんだから。オレがデジタルプロレスなんて言っているのは、ペイ・パー・ビューのことだけを言っているんじゃないんだよ！　インターネットを通じて、世界中のプロレスの話題がキャッチできるんだから。

——世界中もそうですし、それこそ団体関係者の立ち話みたいなものまでネットで公表されたりしてますからね。

井上　ただ、オレが言いたいのは、何でもオープンにしていいかというとそうじゃないということだよ！（ドンッ）。例えばキミの親父さんが犯罪者だとして、それをオレが公表していいかというと、そうじゃないんだよ！

——うちの親父はただの居酒屋のマスターです（笑）。

井上　それはね、やっぱり人としての温かい血というかね、同じプロレス村にいる者として、業界に損をさせるようなことを書いちゃダメなんだよ。

——そのへんは田中さんもわかっているようです。逆にもっとプロレスをビジネスとして大きなものにしたいという希望を持っているみたいですから。ただ、ボクなんかよくわからないのが、田中さんがいわゆるワークプロレスの中で闘龍門だとかGAEAが素晴らしいなんて言われても、「はぁ？」としか言えないんですよね（笑）。村松さんや井上さんが猪木さんに、山本さんがUWFにマジックをかけたようなことが、果たして田中さんにできるのか、と。シュート活字だなんだと手法じゃなくて、結局語り部の力量になるんだなと思うんですよ。田中さんってどんな方ですか？

井上　非常に大人しい、理論的な男だよ。いつも大量のファックスを送って来るんだけど、読まないんだよ、オレは。

——読んであげたらいいじゃないですか！（笑）。そういえばあの人、昔『紙プロ』に変な手紙を送ってきて、それでどさくさ紛れに「『紙プロ』で連載させろ！」って言ってきたことあるんですよね。相手にしませんでしたけど。今思い出しました（笑）。

井上　ふーん。

——もう一つ、シュート活字を考える上で、WWFは欠かせないと思うんですけど、井上さんはWWFは観ますか？

井上　たま～に観るけどな。個人的には別に好きじゃない。

——どういうところが物足りないですか？

井上　やっぱり勝負論があそこまで抜け落ちているとな。エンターテイ

今月のお題

I編集長から見た「シュート活字」とは？

前回は「猪木祭り」特別編でお休みとなった、I編集長のマット界時事批評が帰ってきた！「活字プロレス」の始祖であるI編集長に、弟子にあたる田中正志氏が提唱する「シュート活字」について語って頂いた。昭和プロレス記者の目に平成のプロレスマスコミはどう映ったのか？ さあ、今回も変幻自在の喫茶店トークモードをじっくり堪能してください！

聞き手／原一博（元タコヤキ君）

ワニッポンの（プロレスの）未来は Wow×4

ンメントとしてはいいけど。なんかアレだろ、正義の剣を抜いて、「エイヤ！」とかやるんだろ？

――正義の剣で「エイヤ！」？ そんなギミックありましたっけ（笑）。

井上 オレは観てないようで観てるんだから！ さっき言ってた闘龍門だってアレだろ、なんかリングでいやらしいポーズを取ったりするんだろうが？

――いや、おっしゃる通りです（笑）。けしからんですよね、あんないやらしいポーズ（笑）。ちょっと脱線したので戻しますが、シュート活字という手法自体、それは例えば井上さんだったり山本さんだったりがある部分担ってきたのは間違いないですよね。

井上 例えば藤原と安田が試合をすると。ほんで藤原が安田をチョークで絞めるとするだろ？ 藤原くらいの達人になると、1ミリずらしたら落とす、1ミリずらしたら相手を蘇生させることなんて簡単なんだよ。しかし、普通に観ておったら、そういうのはわからないんだよ。それで「あの安田ってのは弱い」「つまらない試合だ」となるんだよな。そうじゃないと。安田がダメなんじゃなくて、藤原が凄いんだと。そういうことをオレは伝えたかったんだよ。でも団体関係者なんかからすると、観たままでいいんだよな。だから、そんなことばっかり書いていて、オレもよく怒られたのを思い出したよ。その時代でのシュート活字だな、オレは。だから、いま、活字プロレスがダメになっている中で、シュート活字というのはプロレス界の救世主になる可能性はある。

――なるほど。今回はいつになく真面目なシメでした（笑）。また来月もお願いします！

オレだってシューターとかフッカーとか言うとる。彼だけのせいにしちゃイカン!!

昭和一ケタ世代による

平成グッズ批評

第一回 アントンTシャツ

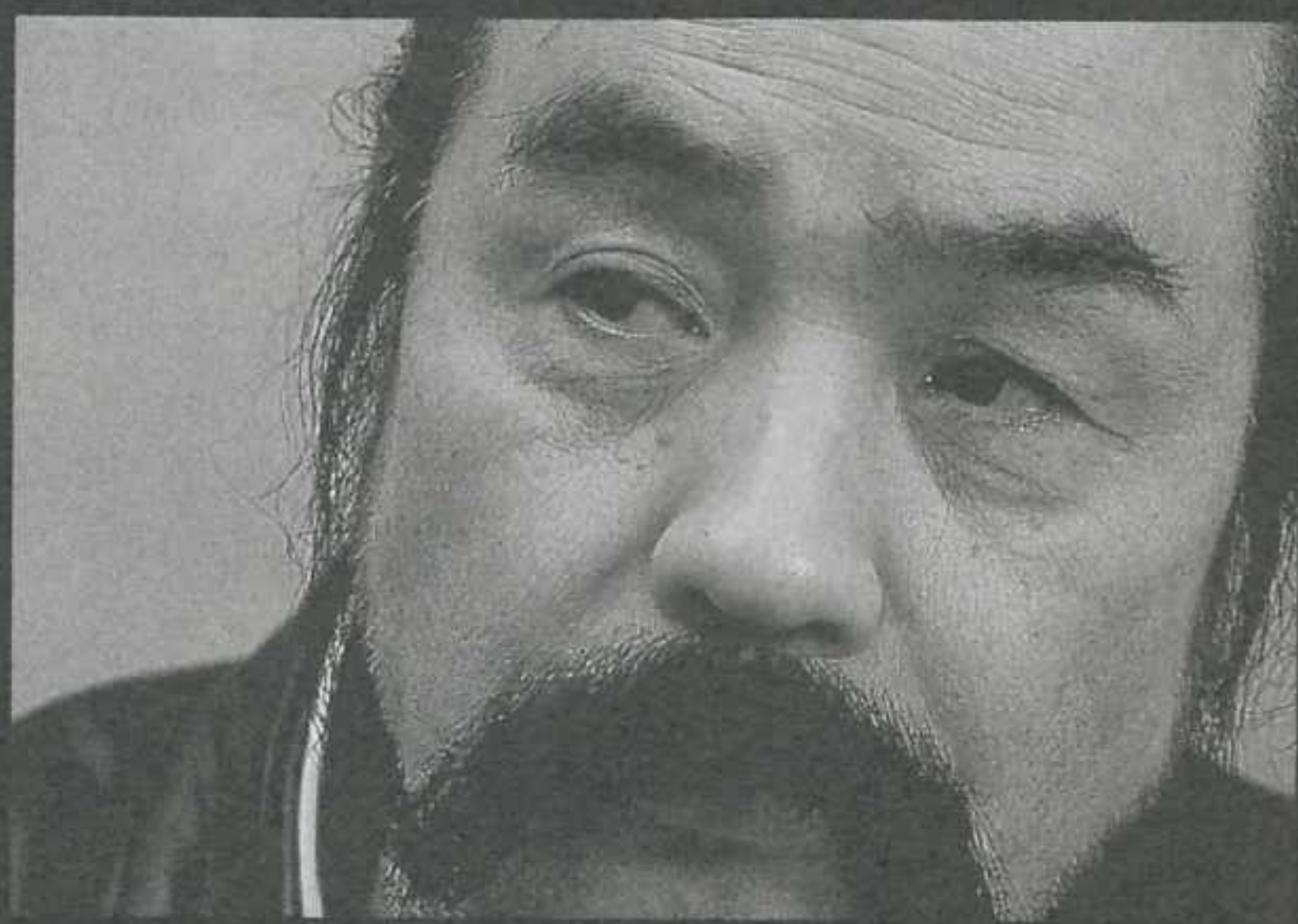
ANTON

©井上きびだんご
（ヒンドゥーハリケーン）

うん、平凡だな（キッパリ）。言うちゃ悪いけど。まず色がダメ。オレならそうだな、緑に赤とかな。それにこの猪木のイラストもこんなんじゃダメ。もっとアゴをグーンと伸ばすとかな。それにインパクトのあるキャッチフレーズも入れないと。例えば？ 猪木のイラストの横に大きく「なんだバカヤロー！」っていうのはどうだ？ なに、それは荒井注だって？ じゃあ「さけんなコノバカヤロー！」ならいいだろう。そういう一言がないとダメだよ。このTシャツをオレが着るかだって？ 言うちゃ悪いけど着ない（キッパリ）。というわけで点数はこれ！

5点（10点中）

いのうえ・よしひろ■1934年、岡山県出身　若い頃は大阪の新開地でドスを持ったヤクザと喧嘩したり武勇伝は数知れず　週刊ファイト　編集長を長く務め、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者　現・ビートたかしのターザン山本やゴングのＧＫ金沢編集長など、プロレスマスコミ業界には井上さんの弟子が多数いる　現在も　ファイト　で鋭すぎる批評コラムを連載中（必読）

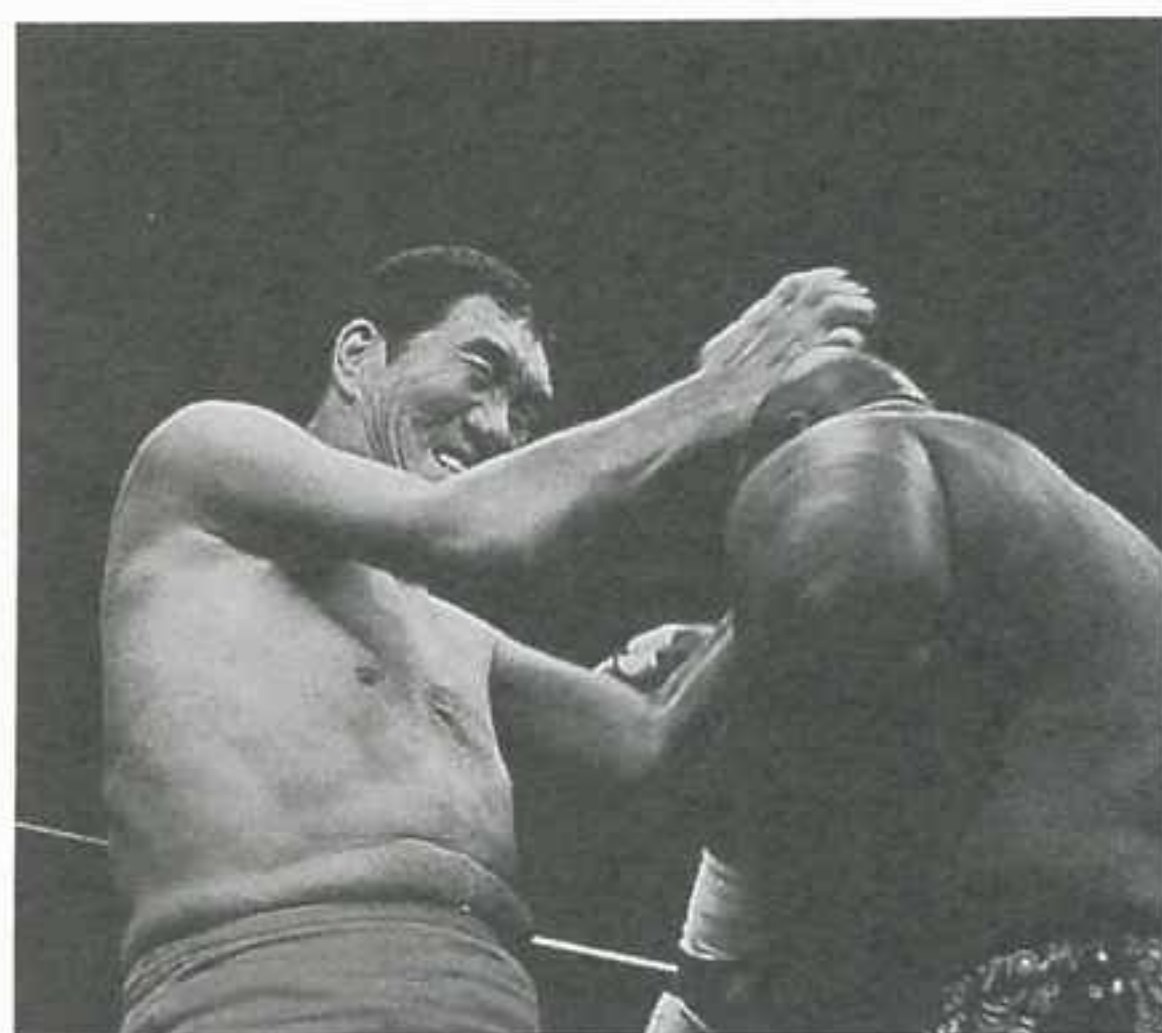
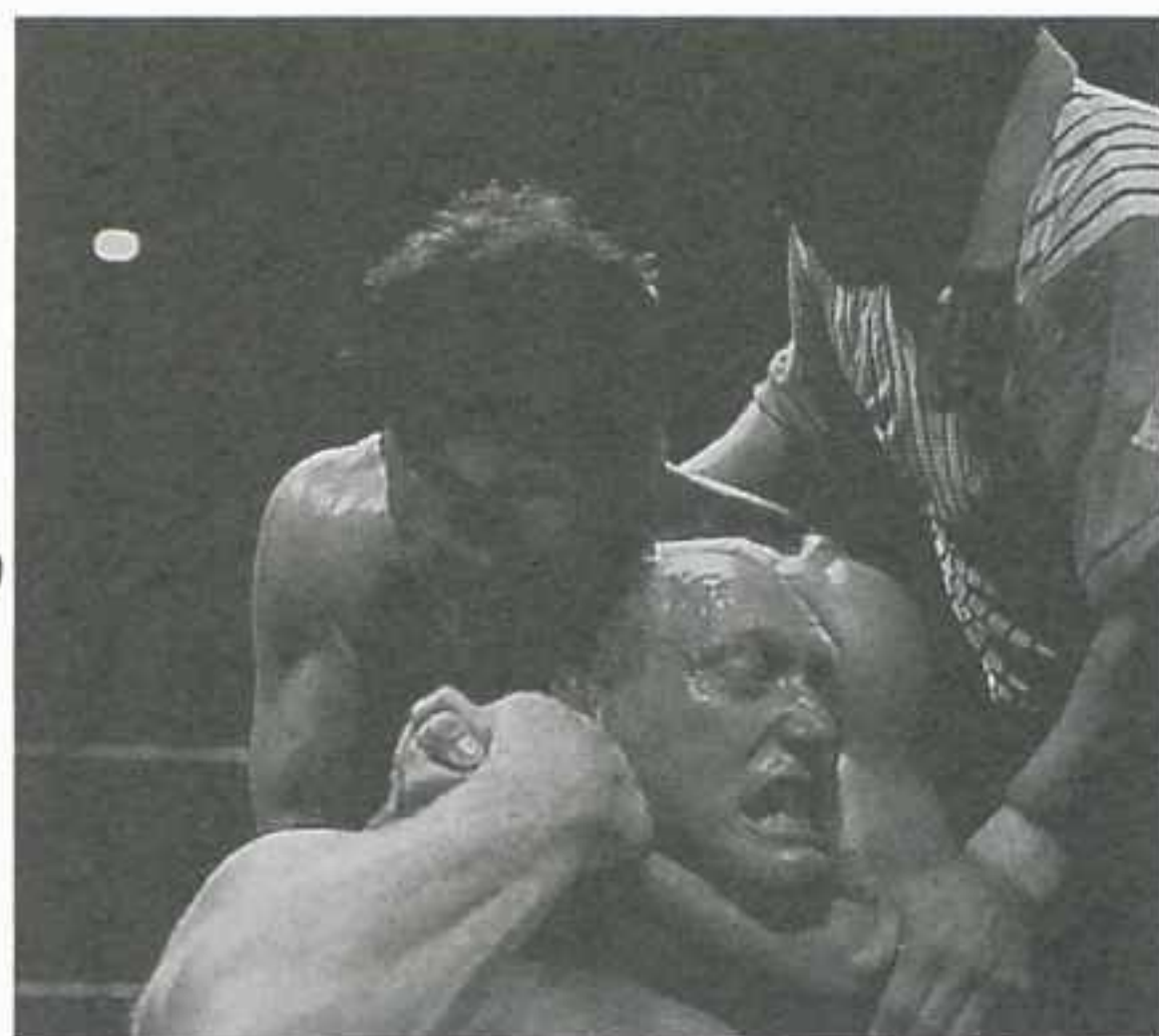
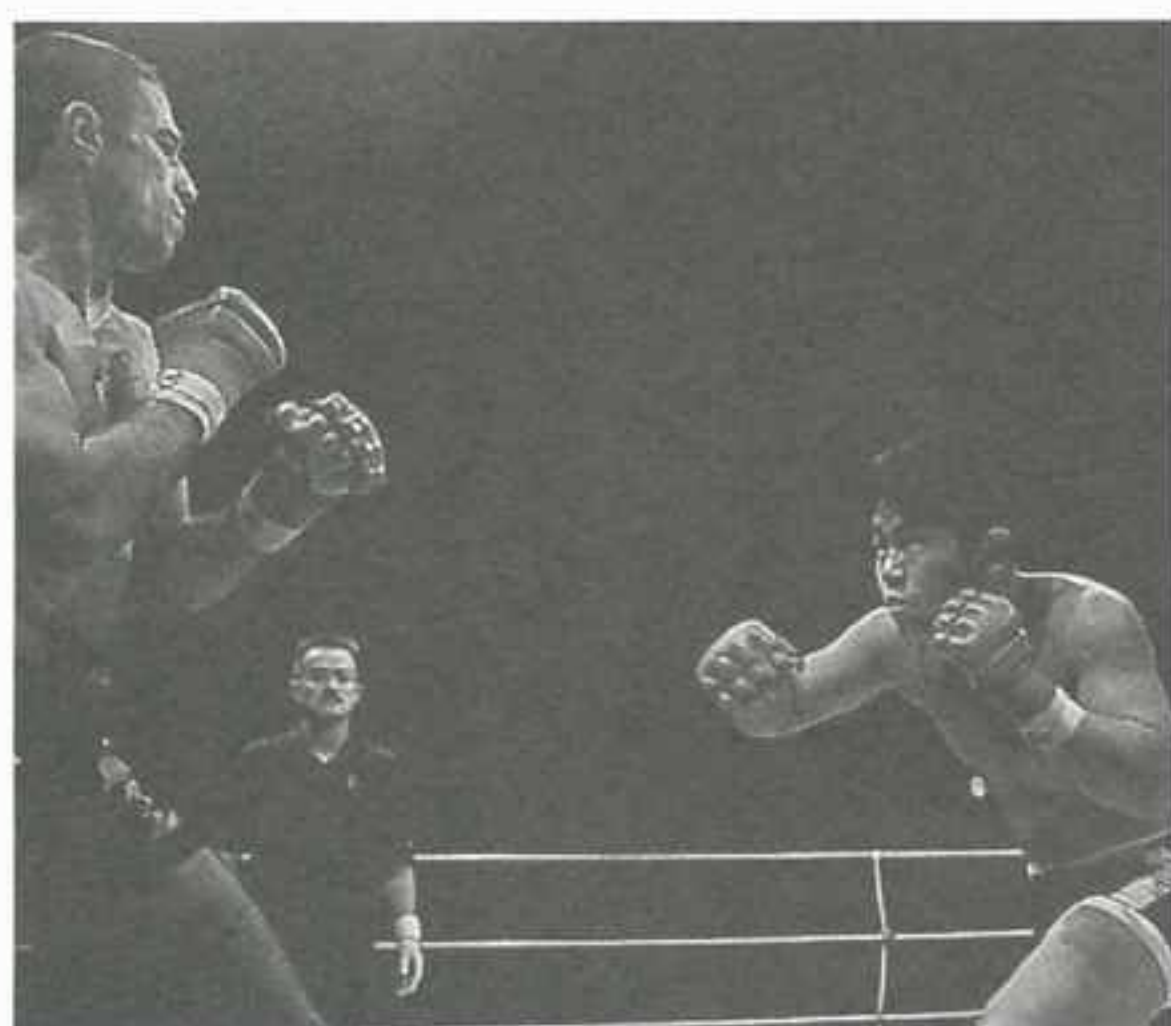
大提言 青春の

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

驚愕の"純プロレス論"を大公開!

純プロレスが生き残るには「シナリオがある」とハッキリ言うしかない!

"純プロレス"は終わるのか？
なぜ今、"純格闘技"は面白いのか？

青春の大発見シリーズ第4弾！ 毎度、毎度大好評の堀辺師範の「ド素人のための格闘技講座」。今回はちょっと趣向を変えて、スペシャルバージョン「純プロレス講座」をお送りしよう。堀辺師範が新プロレス時代の純プロレスに大提言！ その言葉はマット界のタブーをも超越した、まさに「命懸けの論理」！ ド素人たちよ、心して読め！

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
構成／堀江ガンツ
text by Gunts Horie

なぜ「純プロレス」では生き残れないのか？

堀辺　今日のテーマは「膠着」ですか？（笑）。

――ズコッ！ それはターザン山本講師に任せときましょう！（笑）。今日は、世紀末から新世紀にかけて、『ReMix』や『DEEP』など、"純格闘技"の大会が、まだまだミクロではあるけども、今後に期待できる爆発の仕方をした。ファンの評判も非常によかった。そこで、なぜいま「"純格闘技"が熱を持って見られるようになってきたのか」ということを解き明かしてもらいたいわけです。それに絡めて、「"純プロレス"がなぜ膠着状態に陥っているのか」ということも（笑）。

堀辺　なるほど。わかりました（笑）。まず「なぜ"純格闘技"に面白味が出てきたか？」ということですけど、ひと言で言っちゃえば「観客側の見る目が高くなった」ということに尽きるんです！

――目が肥えた。

堀辺　そうです！ 力道山から始まったプロレスも、約半世紀の歴史が経ちましたけど、その半世紀の間にずいぶんプロレスファンは騙されてきたんですよォォ！

――だ、騙されてきた！

堀辺　そう！ ぶっちゃけて言っちゃえばね（笑）。

――いっそ、今日はぶっちゃけますか！ 覚悟を決めます（笑）。

堀辺　騙されたという象徴的な出来事なんていうのは、特に新日本を中心とした各種の暴動事件がありましたよね？

――今年の正月にも新世紀早々ありましたね（笑）。

堀辺　その暴動事件の回数というのは、プロレスに対して「騙されたこと」、あるいは「不満」の爆発の回数なんですよォォ！ だから暴動事件を繰り返してきた新日本というのは、特にプロレスファンを騙してたと思うんですよ、ハッキリ言ってしまうと。

――全日本と比べて、新日本の方がファンを騙してきたということですか（笑）。

堀辺　だから、ファンを騙せていた時期は全日本より、新日本のほうが圧倒的に人気がありましたよね。でも、騙せ続けていたものが、だん

だん「バリバリッ！」という、何かが壊れたような変な擬音が聞こえてくるわけですよ（笑）。

——ガハハハ！ 祇園盛者の鐘の音という感じですね。擬音だけに（笑）。

堀辺 ええ、諸行無常ですね。もう「バリバリッ！」というか、「バレバレッ！」という音が聞こえてきてるわけです（笑）。

——「バレバレッ！」。そのまんまですね（笑）。

堀辺 だから昨日まで盛んだったものが、「バレバレバレーッ」と、ほころびが出てきて、真実が少しずつ見えてきたんですよ。

——ボクは騙されてたとしてもヘッチャラですけど、その「騙してた」っていうのは、簡単に言うと「プロレスは格闘技である」と騙してたということですか？

堀辺 そういう形でやってきたと思うんですよ、特に新日本は。だからいわゆる「異種格闘技戦」でみんなを夢中にさせて、それによってジャイアント馬場が完全にアントニオ猪木の軍門に下ったわけですよね。でも、いまはみんな「異種格闘技戦はプロレスだった」って知ってるんですよ。そういう大きなことも含めて、プロレスファンの側から言うと「騙され続けた」っていう恨みがプロレスに対してあるんです！

——う、恨み!?

堀辺 恨みです!!（キッパリ）。なんでかというと、愛情がないところからは恨みは出ないんです！

——愛情がないところからは、恨みは出ませんか！

堀辺 はい。冷静に見てる人には「裏切られた」という感覚はないだろうし、そこからは当然恨みは出てこないですよね。本当のコアなプロレスファンであればあるほど、「裏切られた」という思いが強くなって、それが恨みになっているんです！

——たとえば、修斗の一部の選手なんかは、プロレスに恨みを持ってる人がかなりいますよね。

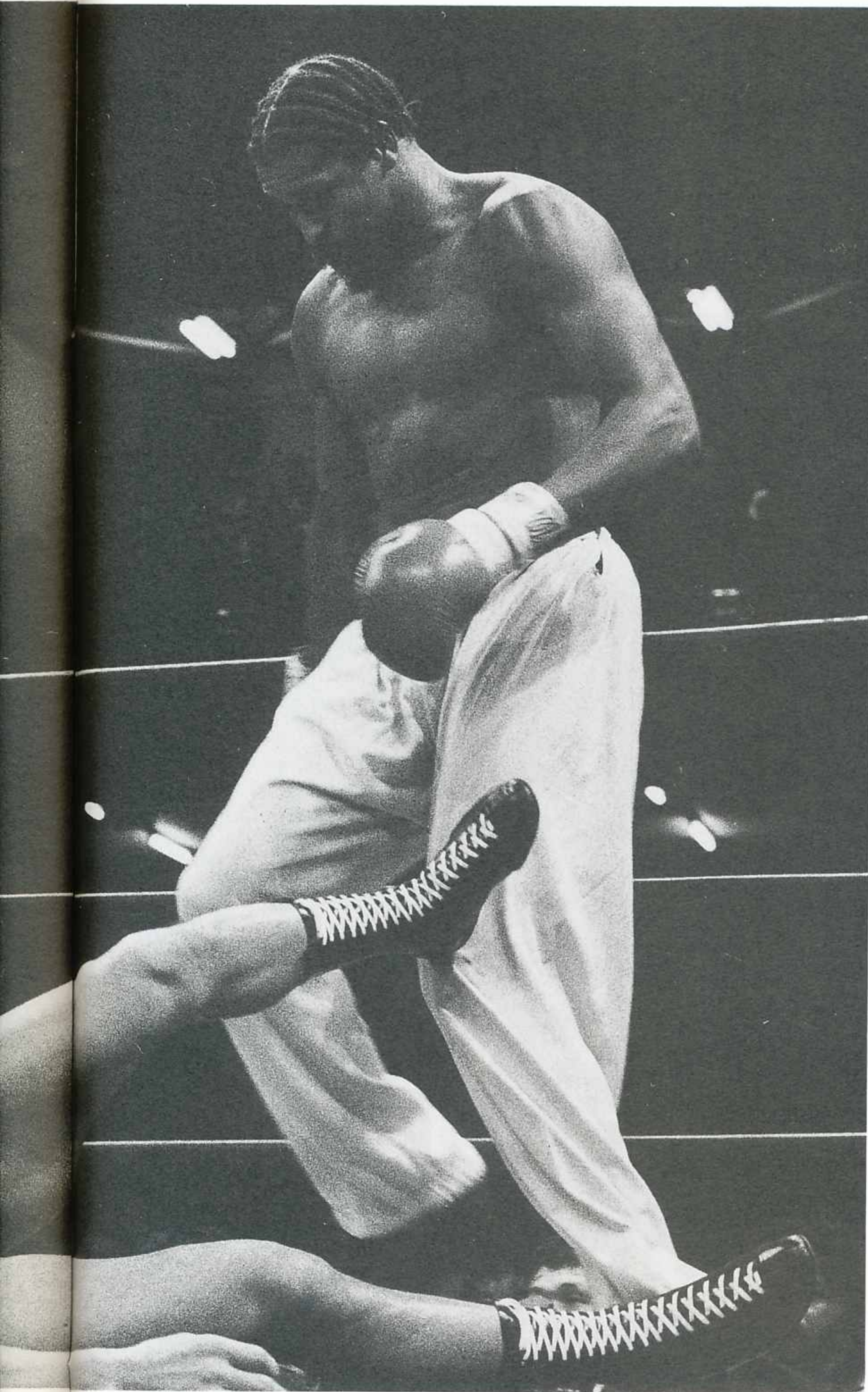
堀辺 はい。それは元々プロレスファンであったから、逆にその反対側っていうことを強く意識したんじゃないかと思うんですよね。プロレスを愛してなかったらば、プロレスを否定するという気持ちにもならないだろうし、淡々と格闘技をやってるだけでしょうから。

——それに加えて、一生懸命やってるのに〝純格闘技〟は人気がなかなか出ない。それに比べるとプロレスは人気が高い。「プロレスよりも俺たちのやってることのほうがハードなはずなのに、なぜだ？」っていう部分での恨みもあるでしょうね。

堀辺 そうですね。格闘技というものに内在する法則性で、観客を無視するところがあるというのは事実なんです。選手の側から言うと「勝ちたい」というのが全てであって、お客さんにどう思われるかということは二の次になってくるわけですよね。だからそういった意味での〝観客不在〟というものが格闘技の中に内在してるということは、一応踏まえておく必要はありますね。

——それで、過渡期において、「本当の真剣勝負は面白くないものなんだよ」という開き直りに近い論も出てきた。アマチュア格闘技である場合は、それが完全に許されるわけだけど、〝プロフェッショナル〟という冠がついた場合は当然観客論も含まれてきますよね。

堀辺 それは含まれなければいけないです！ やはりチケット売って、しかも自分がそれによって生活するわけですから。アマチュアリズムを横滑りして、アマチュアと同じ理屈をプロの人が言ったら、プロということを疑われます。そういう意味でプロという冠がついた以上は「真剣勝負だからつまらない」という論にアグラをかくような怠慢をしちゃいけないということは、間違いないことです！

——逆にプロレス側は「単に真剣勝負をやっても面白くないだろう」という論に、実に長い間アグラをかい

時代性の中でリアリティーがあった「異種格闘技戦」も今は「プロレスだった」とみんなが知ってるんです!!

ていたツケが、だいぶ出てきてるということですね。そのツケが「バレバレッ」という擬音になったと（笑）。

堀辺　ハッハッハ。そうですね。でも、その「格闘技なんて面白くない」という評判がたっていたのにも理由があるんですよ。いままでの格闘技というのは、実際の闘いではあり得ないような形でしかルールの設定がなかったんです！　たとえば柔道、相撲、空手などは、それぞれ打撃や寝技はやってはいけないというルールがあります。そういう枠組そのものが現実の闘い（＝喧嘩）ではあり得ないような形になってたんですね。つまり、いままでは現実ではあり得ないような状況設定の中でしか真剣勝負が行われなかったんです。だから大衆から見ると、「そういった格闘技の試合は真剣勝負だというけども、実際の闘いと違うんじゃないの？　だから面白くないね」となる。簡単に言うとそれだと思うんですよ。

――逆に言えばプロレスの方が、実際の喧嘩に近く見えたと。

堀辺　そうです、当時はそうだったんです！　ここを忘れちゃいけない！

――猪木さんが異種格闘技戦をやっていた当時は、あれが実戦に近いものだという認識はありましたし、力道山の頃は力道山の頃で、その時代性の中ではリアリティーがある闘いだったわけですよね。

堀辺　一般大衆レベルではそうなんです！　力道山の時代に、柔道の木村政彦、大相撲の横綱・東富士という、いまで言うとリアル格闘技のトップがプロレス入りしましたよね。これは大衆側に相撲や柔道に対して、「真剣勝負だって言うけども、ホントの闘いとは全然違うんじゃないの？」っていう素朴な疑問があったんですよ。やっぱり柔道や相撲は喧嘩に見えないんです！

――確かに競技には見えても、表面的には喧嘩には見えませんね（笑）。

堀辺　昔の男っていうのは、いまの若い子と違って、どんなおとなしい男でも1回ぐらい喧嘩してるから、喧嘩になったらどうなるかっていうのを知ってるんですよ。だから、殴り合いだけとか、組み合うだけとか、そんなことはあり得ないということを知ってるんです！

――ましてや、はたき込みで終わりなんてことはあり得ないということも（笑）。

堀辺　その素朴な面から見たら、力道山のプロレスのほうが、大衆レベルから見たら遥かにリアリティーがあった。これがプロレスというものが力を持ち得た理由です！　日本人が力道山を応援したのは、力道山が本当に強いと思った時点で爆発した。ましてや敗戦ショックの残る中で、自分たちがやられた白人を力道山が復讐してくれるという構図まで生まれた。しかもそれがリアリティーのあるものとして受け止められたわけだから、これは国民が熱狂しないわけないですよォ！

――猪木さんの時代もその余韻がまだ残っていて、しかも異種格闘技戦で、プロレスと他の格闘技が闘ったら「どっちが強いか？」ということをやってくれたわけですよね。

堀辺　しかも、多くの人は「プロレスラーの方が強いだろう」と思ってたんですよ。それには2つの理由があって、まず身体が違う。筋肉量が違うし、身長も違う。それと普段やってる試合では、流血しても試合続行してる。普通の格闘技なんて、流血なんかしたらすぐストップですよォォォォ！

――よくてドクターチェックですね（笑）。

堀辺　ましてや凶器で殴られても続行してるわけでしょ。喧嘩をしてる人たちから見たら、プロレスの方が遥かに喧嘩に近いんですよ。リアリティーがあるわけ。だから特に日本

では、リアリティーがあると感じられたということによってプロレスが支持されたということを踏まえておかねばならないんです！

——つまり、戦後の日本の文化や時代背景とプロレスというのは、もの凄く密接な関係がある。最近、大企業が倒産したりとか、組織のあり方も変わってきて「個の時代だ」と言われてる。それも〝純プロレス〟が元気がなくて、〝純格闘技〟が元気があるということと密接な関係があると思うんですよ。そういう意味で、戦後栄えた〝プロレス〟の役割は、もうすでに終わってるとも言えますよね。

堀辺　ハッキリ言って、ここ1～2年ぐらいで純プロレスっていうのはなくなると思います！（キッパリ）。

——な、なくなりますか！（笑）。

堀辺　これは『Ｒｅｍｉｘ』を見たときに感じましたね。藪下（めぐみ）選手が嬉しそうに真剣勝負をやってる姿を見たときに、それを強く感じました。もう、そういう時代が来てるんですよォ！

——「そういう時代」というのは、プロレスよりも〝純格闘技〟のほうがリアリティーがある時代ということですよね。じゃあ、なぜ〝プロレス〟にリアリティーが無くなって、いまの〝純格闘技〟にリアリティーが立ち昇るわけですか。

堀辺　はい！　それはシナリオがないってことです！（アッサリ）。

——た、単刀直入ですね（笑）。

堀辺　この際、物事は正確に言わないと、伝わらないですから。これはプロレスに限らず社会全体に言えることですが、シナリオがあるか、ないかってことに全て尽きます！（キッパリ）。ドラマというのは、シナリオを用意することによって作られるという発想を持つ人もいるけども、現代は、シナリオのないところで起きた事件が、真のリアリティーとして伝わる時代なんですよ。なぜかというと、プロレスファンはずっと騙され続けてきたから。だから目が肥えて、臭覚が発達したんですよ！　もう、いまのプロレスファンは猫みたいに発達した臭覚がありますよォ！

——ガハハハ。いまのプロレスファンは猫ですか！（笑）。

堀辺　本物とニセ物を嗅ぎ分ける力が備わってるんです！　これは本物の鰹節なのか、絵に描いた鰹節なのか、3メートルぐらい離れたとこにいても、臭いでわかっちゃうわけです！　そういう時代なんですよォォ！

——先生、絵に描いた鰹節は臭いはしません（笑）。つまり、いまはリアリティーよりもリアルが求められてるというわけですか。

堀辺　そうです！〝ティー〟じゃないんです！　リアルそのものでなきゃいけないんですよォ！　なぜかというと、観客の目が肥えてしまってるから。そして、それはプロレスだけの問題じゃないんですよね。いまの消費者っていうのは、長年過剰なコマーシャルに騙され続けた、苦い経験をいっぱい持ってるんですよォ！

——コマーシャルといえば、一番最初にチキンラーメンが出たときは、「栄養満点」っていうコピーがついてたんですよね（笑）。いま「インスタントは食いすぎちゃいけない」とメーカーでさえ言ってるのに。

堀辺　だから時代そのものが、「これは本物なのか、偽物なのか」ということを前提にして見るということが尺度になってきてるんですよ。

——つまり、プロレスは「キング・オブ・スポーツだ」「最強の格闘技だ」というコピーだけでは通用しなくなったということになりますよね。

堀辺　それは大衆が成熟してない時代だから、そのコピーが利いたわけです。でも、いまのように、みんながいろんなこと知ってしまってるから、くだらないシナリオを書いても意味がないんですよォ！　だから藪下や村浜、美濃輪が面白かった前提条件はそれなんです！　全ての共通するところはシナリオのない闘いということなんですよォォ！（テーブルをバンバン叩く）。

「プロレスはプロレスだ」という馬場の発言は「騙せない」という良心の叫びなんですよォ！

——その書き尽くされたということを証明したのが1・4の長州vs橋本戦ですね（笑）。

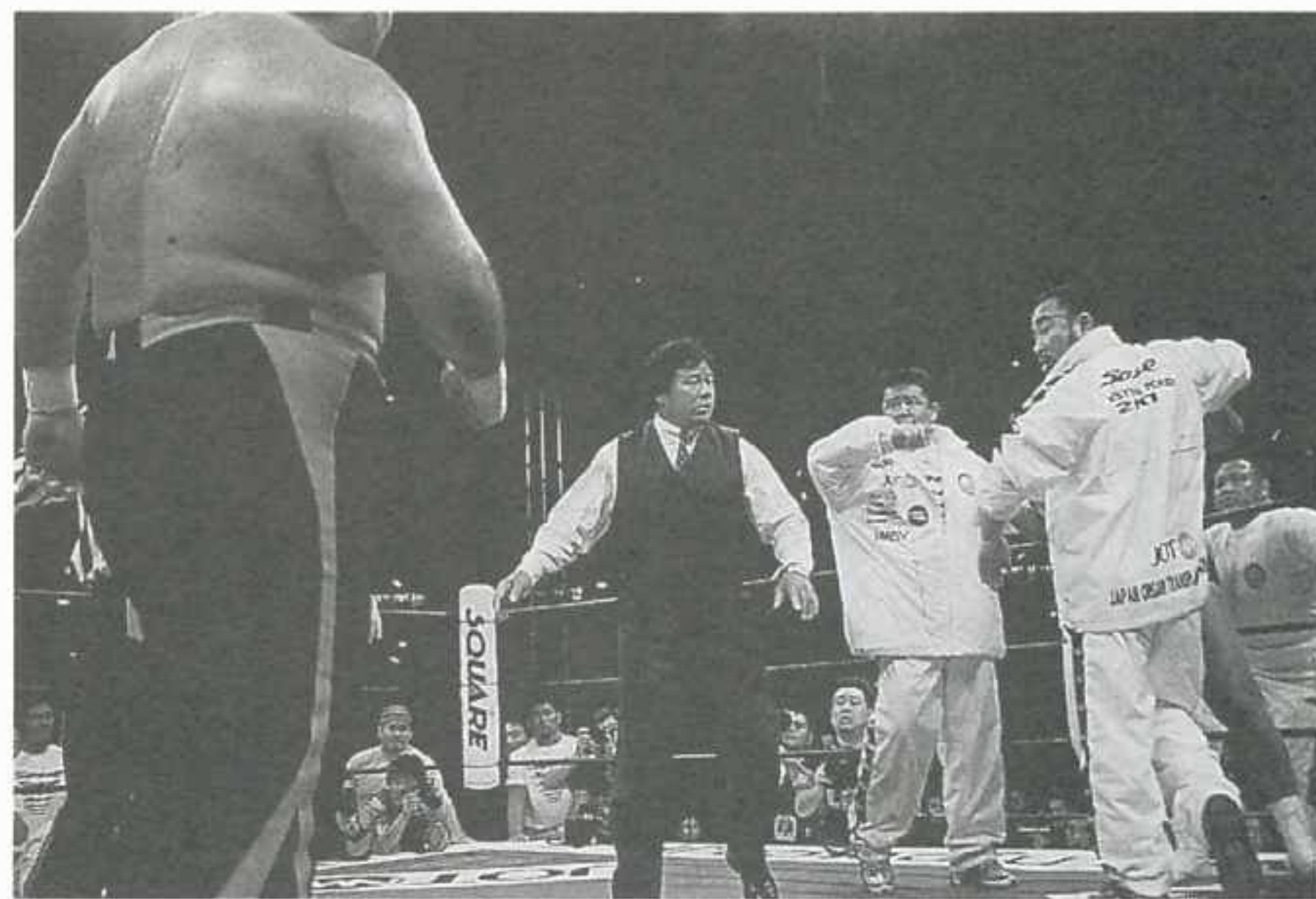
堀辺　そういうことですね。自分たちでは通用するシナリオだと思ってるんだけど、見る側はみんな見切っちゃってるんですね。見る側が見切っちゃってるということは、やる側がいくら苦労しても、もうシナリオは作れないってことなんですよ。それが〝純プロレス〟じゃ生き延びられないという理由です！

なぜシナリオがある世界は通用しなくなったのか？

——でも、シナリオという意味で言うと、たとえばＷＷＦとかは、優秀なシナリオライターを何人も使って繁栄してますよね。

堀辺　まずＷＷＦを論ずるときにね、忘れちゃいけないことがあるんです。それはアメリカの人たちが茶の間であれを見てるときに「あれは格闘技だ」と、誰も思ってないってことですよ！　ドラマや映画を見るのと同じように見てるんです。「シナリオがある」という前提が了解された上で成り立ってるわけなんですよ。だから〝純プロレス〟が生き延びたいんであれば、ＷＷＦ同様ハッキリそれを言うことです。「これはシナリオがあるんだ」と。それが〝純プロレス〟に残された道ですよ。そしてそこで「シナリオはあるけども、面白かったでしょ？」と言えるかどうかが重要なんですよォォ！　でも、日本のプロレス団体にその勇気があるでしょうかね。

——いま、選手の側でもカミングアウトすべきと言う人がかなり増えてますからね。

堀辺　役者さんだってね、たとえば東野英治郎が『水戸黄門』やってたけど、誰もが、あれは本当の水戸黄門がタイムスリップしてきたとは

すべてのプロレスファンが呆れ返った、2001年ワーストアングル大賞受賞確実の「1・4我々は殺しあいをしてるんじゃない事件」。もはや中途半端な仕掛けは通用しない時代だということが、満天下にさらされた一件であった。

青春の**大提言**　堀辺正史

思ってませんよね（笑）。でも大衆は「水戸黄門って本当にこういう人だったんじゃないかな？」って感情移入しちゃったわけですよ。だから長く続いたわけです。それが作り物なんだということを理解した上で、なおかつ、まるでタイムスリップしたように、その世界に入っていく。そして水戸黄門が「助さん格さん、そろそろいいでしょう」って言ったときに「パチパチパチ」と拍手したくなる。そのとき、誰も冷めてないんですよ。それはなぜかと言うと、彼らに芸があるからですよォォォ。

——馬場さんは『水戸黄門』が好きでしたけど、馬場さんのプロレスというのは、カミングアウトはしなかったにしても、ボクらが子どもの頃から「シナリオがある」ということは漠然とわかってましたよね（笑）。

堀辺　みえみえです！（キッパリ）。だって足を上げると、吸いつけられるように、レスラーが自分から走って行くんだから（笑）。でも、あれはひとつの〝絵〟でしょ？　あれを見て、ほのぼのとしたものとか、馬場という人柄とかが全部伝わって、「今日はいいもの見たな」って会場を後にするわけですよ。だから全日本プロレスにジャイアント馬場がいなかったら、求心力がなくなったでしょ。じゃあ、ジャイアント馬場がリアリティーというものを追求してやってたかっていったら、やってないんですよ。

——だから馬場さんが「プロレスはプロレスだ」という名言を残してますよね。あれはつまり、色気のない言い方をすると「プロレスはシナリオがあるんだよ」ということを暗に言ってたってこととも取れますね。

堀辺　そう言いたかったんですよ。でも社長だったから、そういうものをハッキリと言えない立場だったんです。でも「プロレスはプロレスだ」っていう、大人にはわかるような色気ある言葉でそれを伝えてるんですよね。そしてこれは私の馬場論なんですけど、馬場という人は極めて善良な人間です。だからこそ、自分で「プロレスは格闘技」って言うのを嫌がるんですよォォォ！

——正平だけに、正しく平らなわけですか。

堀辺　そこが猪木と馬場の違いですよね。だから、猪木が異種格闘技戦をやったときに「なんてことやるんだ。そんな恥の上塗りはやってほしくない」っていうのがね、馬場の気持ちだったわけ。「俺はそんなことはやらないよ」と。だから「プロレスはプロレス」っていう言葉はね、彼の良心の叫びなんですよォ！　だから全日本に対しては、こっちも暖かい気持ちになっちゃうのね（笑）。そこにジャイアント馬場っていう人の独特の生き方と、プロレスラーとしてのポジションっていうのがハッキリしてたってことですよね。格闘技には一切踏み込みたくないし、自分たちがやってるものを積極的に「格闘技だ」と言ってファンを騙すつもりはないと。

——そして、格闘技にもプロレスのフィールドに踏み込んでほしくないと強固なバリアを張ってましたね。逆に猪木さんの場合は、ダイナミックに壁を突破して、世間一般の見方をすれば、実に卑怯な手を使って大衆の心をつかみましたからね（笑）。

堀辺　裏を返せば、それが面白いんですよ（笑）。

——巨大なパラドックスですよね（笑）。余計なことや卑怯なことが喝采を得るという。いま先生に言われて気付きましたけど、馬場さんのプロレスは、十六文キックそのものが、もはや無言のカミングアウトをしてたわけですよ（笑）。

堀辺　ハハハ。はい。で、観客もそれを知ってて、認めてたわけですよ。許してるんですよ。ただ「シナリオがあるなんて野暮なこと言うのはやめよう」と、そういうことだったんですよね。それがいままでの日本の社会ですよ。日本の戦後というのはシナリオがあったんですよ。それで21世紀が来たときにシナリオがなくなったんです。全てのシナリオが立てられなくなったんです！

——なぜシナリオが通用しなくなってきたのか、そして日本の戦後はなぜシナリオを必要としていたのか。日本の社会というのは、癒着や談合であったりとか、その温床みたいなもんじゃないですか（笑）。

堀辺　それは極端に日本の社会を特色づけてますね（笑）。

——それは当然いい面もあっただろうし、日本の社会に合ってたから、これだけ繁栄してきたわけですよね。ところがなぜ、急転直下で先生のいうようなシナリオがない社会になってきたんですか？

堀辺　それはハッキリしてますよ。アメリカの圧力です（笑）。

——あら〜。圧力ですか（笑）。

堀辺　アメリカはグローバルスタンダードという形で、「なにはともあれ実力勝負でやりましょう」「保護

するのはよくない、保護してたら力を発揮できない」と市場解放を求めてきたわけです。これは実際はアメリカの国益を第一に考えられたモノなんだけれども、ここに一つの真実があるわけですよ。これが世界中を揺るがして、多くの現実社会に生きてる大人たちを「これからは自分の能力を磨かないとヤバイな」「学歴とか見てくれじゃ通用しない」という意識に変えさせたんです。でも大衆がそうなってるのに、プロレスラーの意識だけが昔のまんまなんですよ!

――プロレス界だけが社会に取り残されていると（笑）。

堀辺　プロレスラーというのは、大衆に夢を与える存在で、大衆よりも英雄的だったんですよ、過去は。

――過去（笑）。

堀辺　力道山も猪木も馬場も英雄だったんです。ところが、いまのように世の中そのものが実力主義になってきたときに、一般の民衆のほうが一生懸命頑張ってやってるんですよ。シナリオがない世界で生きてるんですから。それでリングの中で行われてることにシナリオがあるってことを知っちゃってるわけでしょ。自分たちよりヤワな生き方をリング上でやってる人を誰が英雄視すると思います？　英雄というのは一般大衆ができないことをやれる人をもって英雄をいうんですよ!

――確かにそうですよね。力道山なんか戦後の国民が落ち込んでるときに、鬼畜米英をブッ飛ばすわけですから。

堀辺　そうです。ところがね、社会はここ2～3年の間に大きく変わっちゃったわけです。それなのにリングの上が化石みたいになってきて、一つも変わってない!　プロレスファンだって一般社会に生きてるわけだから、その人たちから見ると、リングの中でやってることが甘っちょろく見えるわけですよ。それじゃスターなんて生まれるわけないですよね。大衆ができないことをやるのがスターなんだから。

――つまり、藪下めぐみが一夜にしてスターになったっていうのも、大衆ができないことをやったということですよね。

藪下めぐみの出現によって新日本プロレスの男たちは全否定されたんです!!

堀辺　そうですよ。片方のグンダレンコは191センチ、150キロで、藪下は57キロぐらいですよね。100キロ差があって、あれだけのことができたってことにみんな感動してるんですね。彼女の中に英雄を感じ取ってるんですよ。

――藪下の英雄ぶりというのは、力道山やアントニオ猪木と同質の英雄なんですか?

堀辺　いや、同質じゃない。やっぱり力道山、猪木、馬場っていうのは、形そのものが英雄なんですよ。まず身体がデカイ。国民の平均身長より、はるかに高いでしょ。これが過去の英雄の条件。でも、藪下なんて逆ですよ、平均身長より低いんですから（笑）。桜庭和志だって、そこらへん歩いてるような人と変わんないでしょ。だから、昔の英雄像といまの英雄像の違いはハッキリある。見てくれはどうであれ、問題は内容なんですよ。実社会でも学歴ではなくて実際に仕事をやってみて「これだけこなせたら、これだけの給料出すよ」ってシステムに変わってきた。それと同じことがマット界に起きてるんです。実際にリアル格闘技をやって勝ってみたら、顔つきが英雄に見えなくても、国民の平均身長の半分しかなくても……。

――半分!（笑）。極端ですね。

堀辺　それでもいいんですよ～!　実力主義時代に生きる人々というのは、そういう中にリアリティーを感じ取れる感性を持ってるんですよ。

――つまりプロレスのリング上で起きてることよりも、いまは大衆のほうが進んでるわけですね。

堀辺　そういう時代じゃなかったら、桜庭は英雄になれなかったですよ。だから猪木が「桜庭なんてカッコ悪いの、が、なんで英雄になるんだ?」って言ってもね、それは猪木がいまの世の中をわかってないんです。昔の考えだったら猪木の説は正しいんだけど、いまの観衆は桜庭を理解するだけの生活をしてるんですよ。だから桜庭が7～8年前にグレイシー狩りをやっても「あ、勝ったね」で終わってたでしょうね。

――「勝ったからどうしたんだ?」っていう世界（笑）。

堀辺　そう。だから、どういう時代の空間の中でそれが起きたかってことを抜きにしては考えられないですね。そもそも、力道山が大人気を得たのは、敗戦ショックから立ち直ってないときにオルテガとかシャープ兄弟とかをバッカバカやってくれたから、爆発的人気を得たんであって、戦後40年ぐらい経ったときに外人をバッタバッタと倒したところで熱狂したかといったら、それは無理だと思うんですね。

――やっぱり時代性というものが大きいんですね。

堀辺　そうです。だからターザンの言葉でいうと「プロレスは時代の合わせ鏡」ですよ。

――たぶん、それも誰かのパクリだと思うんですけどね（笑）。村松（友視）さんだったかなぁ。

堀辺　いずれにしてもね、そういう意味ではプロレスというジャンルが、「時代の合わせ鏡」というのは真実なんですよ。

『DEEP』はなぜ「膠着」しなかったのか?

――いまは一夜にしてスターが生まれる可能性があるけど、昔はスターになるまでの軌跡にもシナリオがありましたよね。

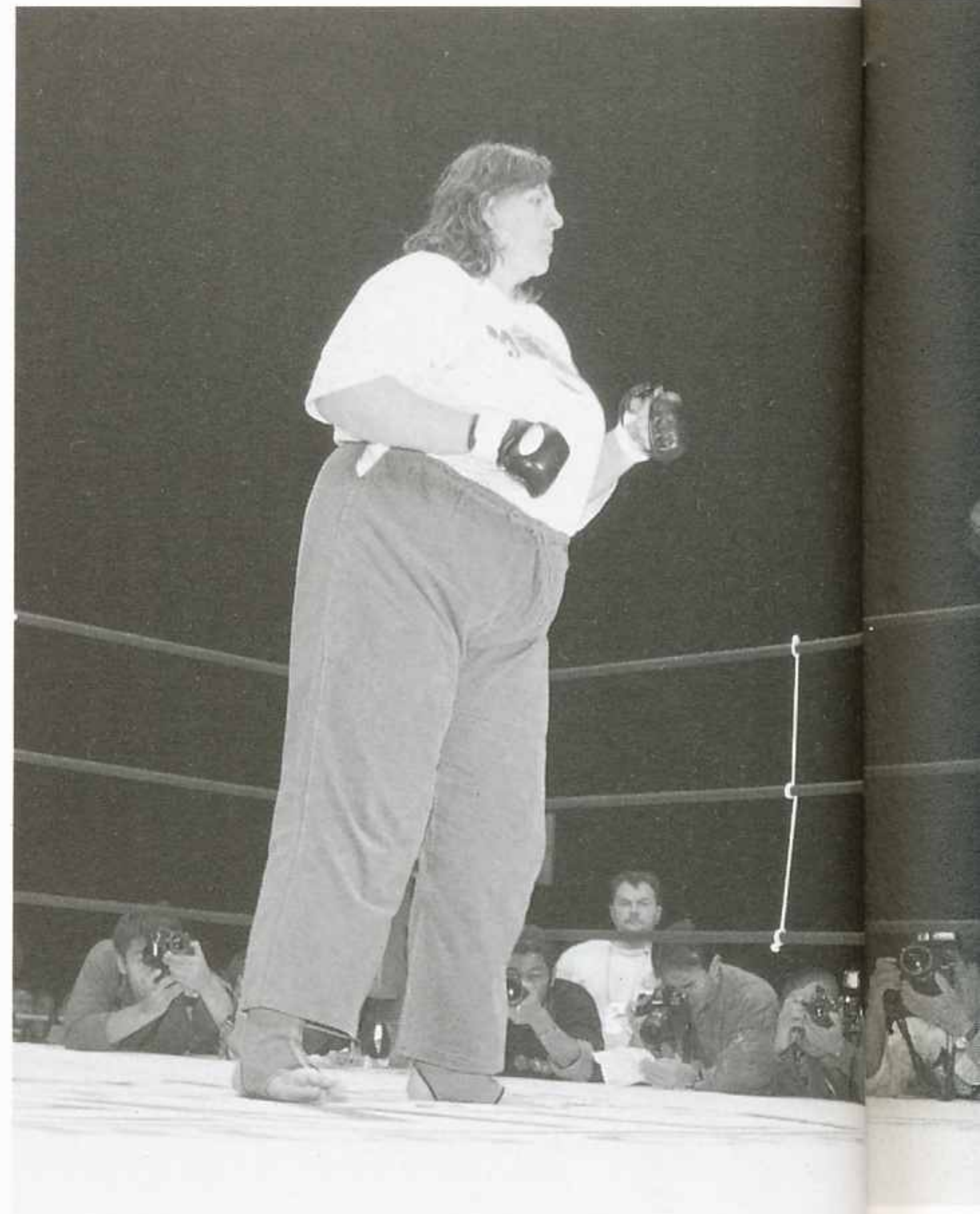
堀辺　ハッキリ言って、団体があるレスラーに目をつけて「この人を売り出したらいいんじゃないか」っていうのをピックアップして、それなりに計画的に売り出していってスターに育てあげたと思うんですよ。ところが、いまはそういう時代じゃないんです。それをやるには、時間がかかるし、いろんな企画を立てなきゃいけないし、お金を使わなきゃいけない。企業コストという点で言ったらば、プロレスの方がスター作り

は、はるかに莫大な投資をしなきゃいけない。格闘技は上がるヤツは上がるし、落ちるヤツは落ちるんだから、団体側がスター作りをする必要がないんですね。「スターは見てる側が作る時代」に突入した、これが重要です。桜庭選手もそういう形で出てきたわけですから。

——桜庭のキャラクターは団体で作ろうと思っても作れないですよね。あのキャラクターは思いついても、団体はやらないですよ（笑）。

堀辺　だから、桜庭の人気は大衆が選んだからこそ根強いんです。見てるほうが自主的に選んだんだから、これは長持ちする。

——そういう時代の中で、女子の総合格闘技が出てきたということに関しては、先生はどういった感想を持ってますか？

堀辺　いや、正直言ってこれは信じられなかったですよ！『ReMix』はビデオで見たんですけど、実際に見るまではね、正直言って「総合格闘技という名のプロレスをやるんだろう」と思ってたんです。そしたら本気でやってるんだよね（笑）。その本気の中から藪下が出たわけ。ビデオには観客の表情も映ってましたけど、藪下が勝ったときの喜びよう！　これはまさに、大きな意味で考えた場合の〝プロレス〟がどういう時代に突入したかっていうことの象徴的な事件ですよね。しかも女子がやったんだから。あれを以って「プロレスが終わった」と言えるわけです。新日本プロレスの男たちは藪下によって全部否定されたわけですよォォォ！

——ガハハハ！　藪下は新日本の男たちを全否定しましたか！（笑）。

堀辺　藪下みたいな小さな人間が100キロも重い人間とやって見事に勝ってるんですよ。藪下は勇気もあったよね。しかも試合を楽しんでるでしょ。あれこそが新しい時代の「楽しいプロレス」ですよ。彼女を見てね、私は「YAWARAちゃんが他流試合をやったらこうなるんじゃないか？」っていうふうに見えましたよ。

——20世紀というのは女性が解放された歴史も側面にありますよね。その20世紀最後の年に女子の総合格闘技が出てきたということは、非常に意味深ですよね。

堀辺　だから、逆に「男たちはなにやってるのか！」ってことですよね。『ReMix』を見て、男たちが「よし、やろう！」ってならなかったら、ハッキリ言って「お前たち、●●●ついてんのか！」ってなっちゃいますよォォォ！（テーブルをバンバン叩く）。

——先生、テーブルが壊れます（笑）。

堀辺　『ReMix』はいいもの見せてもらいましたよ。女子があれをやったことに大きな価値があったんですよ。

——その『ReMix』の約1ヶ月後には『DEEP2001』という大会が行われました。これは正直言って、みんなあんまり期待してなかったんですよね（笑）。

堀辺　そうでしょうね。

——ところが、面白くない試合もあったものの、最後の2試合が盛り上がったこともあって、「もしかしたら。有名プロレスラーが大挙して出ない〝純格闘技〟であっても、〝純プロレス〟よりも面白いんじゃないか？」というところまできてるわけですね。

堀辺　やっぱりメインの村浜vsホイラーと美濃輪vsリボーリオが一番よかったですね。村浜と美濃輪を見て、日本人も随分成長したなっていう印象受けました。それと、いい試合だったということは、最近よく、いろんなところでターザン山本も言ってる、「膠着」という問題から解放されていたことが第一だと思いますね。村浜や美濃輪の試合になんで膠着がなかったかっていうと、二人ともバーリ・トゥードのセオリーを肉体で知ってるからですよ。村浜選手なんかもホイラーが何をしてくるかわかっていたから防げたんです。だからセオリーを知りつつ、勝ちに行くというモチベーションが高い選手が闘うと膠着が起きないんですよ。でもね、ターザンからすると、美濃輪の試合も膠着に見えたと思う（笑）。

——ダハハハ。ターザンはリングスのKOKを見ても、「面白いのか面白くないのか、さっぱりわからんなぁ」って言ってましたからね（笑）。

堀辺　あの試合は美濃輪が下になって、ハーフガードでマウントに来るのを防ぐという展開が続いていたんですよ。でも、あれは膠着じゃないんです！　なぜかというと、美濃輪は相手が何をしてくるかということがよくわかっていて、足を抜かれないように身体をいろんな角度に動かしていたし、リボーリオはなんとか隙を見つけてマウントに行こうする。そういう細かいながらも高度な攻防が行われていたんですよ。こういった攻防は『PRIDE・12』の試合でもたくさん見受けられました。だから『PRIDE・12』は全部膠着」って言ってるターザンの「膠着問題」というのは、根本的に間違いがあるんです！

——ガハハハ！　ターザンは根っから間違ってる！（笑）。

堀辺　では、なぜ観客の目に「膠着」と映ったのかを説明しましょう。

——ゼヒ、お願いします（笑）。

堀辺　たとえば、いまここで火事が起きたとします。

——火事ですか！

堀辺　そうしたら、そのへんにたまたま化学薬品があって爆発したりして、消防車が駆け付けて放水してもなかなか消えない。それで大火事になって、消防車が10～15台って来て、やっと消したと。こういう状態になったら、これは最大のエンターテインメントです！

——最大のエンターテイメント！（笑）。確かに野次馬はたくさん集まるでしょうね。

堀辺　そうです。周りの人は、みんな仕事やめて出てきて、みんなでワイワイガヤガヤ喜んで見ますよ。これは別に他人の不幸を喜んでるんじ

『PRIDE.12』を「膠着」の一言で片付けるのは寝技の攻防がわかってない証拠ですよォ！

ゃなくて、実は火事の持つスペクタクル性に心惹かれてるんです。ですから、ここでは寝技を火事と比較することにします！

——寝技を火事と比較！　実に興味深いですね（笑）。

堀辺　たとえばプロレスの世界では、昔の猪木なんかは手四つの体勢で相手に力で押さえ込まれたのをブリッジでグワッ、グワワワーッと持ち上げて返しますよね（実演しながら）。で、それを見て観客は「ウワーッ」と盛り上がるわけですよ。これは火事に例えると、火が延々と燃えてるところに消防車が来たり、あるいはヘリコプターが来て上から化学薬品を撒いて消火しているところなんですよ。エンターテイメント性があるんです！　でもね、それはリアルファイトじゃないからそうなる（アッサリ）。

——またアッサリと（笑）。

堀辺　やっぱり大きな動作を取ると、遠くから見ても攻防がわかって、スペクタクル性が出るんですよ。それは火がワンワン燃えてるところをガーッと放水しても、なかなか消えないほうが野次馬としては面白いのと同じなんです。プロレスの攻防というのは、火が一番燃え盛ってるところで行われるようなものなんですよ。だから誰が見てもわかりやすくて面白いんです。

——だからこそ、火事場のクソ力が必要なわけですね（笑）。

堀辺　ところが！　火事にはいろんな段階がある。たとえば、家の中で天ぷらを揚げてたら、油に火がついちゃった。あわてて自分のエプロンかなんかでバッと消した。これも火事ですね。

——ダハハハ！　人知れない火事。それじゃスペクタクル性はあんまりないですね。

堀辺　そんなのじゃスペクタクル性はないんですよ。でも奥さんにしたら必死なんですよね、火事ですから。考えてみてくださいよ、自分が火事の当事者の心理になったら、誰が「消防車が来るぐらいになるまでのスペクタクル性が見たい」っていうのを納得しますか？　近所の人を楽しませるために、そんなことやったら大切な家が燃えちゃうでしょ？（笑）。

——ご近所が喜んでも、自分の家が全焼したらたまったもんじゃないですね（笑）。

堀辺　だからエプロンとか、手で消せる段階で消そうと努力するでしょ。これも消火活動ですよ。だから美濃輪がやっていたのは、この初期段階での消化活動なんです！

——初期段階での消化活動！

堀辺　美濃輪はまずハーフガードでマウントを防いだ。次にこれが破られると、マウント取られる瞬間にクルッとひっくり返って腰をすぐ立てるんですよ。ここです、美濃輪が上手いのは！　つまり、火事が起きて、ほかのものに点火した瞬間にパッと消す。これを何度もやってたわけですよォォォ！（火事のように炎上）。でも、寝技というのは身体と身体が密着してて、空間が小さいということだから、大きな動作は絶対起きないんです。その小さな点を繋いでいって、点から線、線から面へと、少しずつ隙間を作ってひっくり返すんですよね。だから消火活動に例えると、マッチに火が点いた瞬間に指で消すのが寝技の攻防ですね。で、それは、奥さんが、できるだけ早くエプロンで消すっていう消火活動と全く同じ心理なわけです。

——寝技の攻防は奥さんと同じ（笑）。

堀辺　でも、その小さな動作を読み取ることができないために、観客が「膠着、膠着」と騒ぐわけですね。

——消化活動を経験したことのない人たちが騒ぐというわけですね。

堀辺　そういうことです。そのリアルな消火活動という意味を理解してないんですよ。だから、寝技の攻防というものが、理解できないんですね。

——じゃあターザンは消火活動を理解できない。もしくは、そういう試合に対して「膠着するな」というのは、火に油を注ぐというか、もはや放火魔とも言えますね（笑）。

堀辺　でも、私がこの間、ターザンにも説明しておいたので、今回の「膠着問題」は一件落着したわけです（笑）。

——ガハハハ！　それはターザンにとってはいままで自分が言ってたことを否定することになりますね。

堀辺　はい。なっちゃったんですね（笑）。

——ただ、火が上がって、家が燃えて、消防車とかたくさん来たほうが面白いんじゃねぇかと思うのが猪木さんなんですよね（笑）。

堀辺　だから、リアルファイトを求めるんだったら、見る側も、最大に燃えたところの火を消すことだけがスペクタクル性だって思うことをやめることです。そうしないと今後の格闘技を理解することはできなくなります！　そうならないために、これからのマスコミの役目として、格闘技を見る目をファンに教えていかなきゃならない。いよいよ格闘技の時代に突入するわけですし、しかも格闘技の方程式というのは常に塗り替えられていますから、その都度ファンに教えていかねばならないんですよ。

——「膠着」というのは、格闘技だけじゃなくて、〝純プロレス〟の世界でもあり得るんですよね。試合を見ててもつまらないという「膠着」が（笑）。たとえば試合前にスキャンダラスに煽って、客に期待させるだけさせる。長州vs橋本戦なんていうのは、関係者まで「何か起こりそうだ」と思ってたわけですよ。リング外の仕掛けは成功してた。でも、いざゴングが鳴ると、リング内に何も起こらない。つまり、リング外のスキャンダルに、リング内の出来事が超えられない。これも、ボクは「膠着」じゃないかと思うんですよ。

堀辺　それも立派な膠着ですね。

——それは格闘技の世界でも同じだと思うんですね。ブラジルの世界的な強豪選手と当たるというのも一つのスキャンダルだと捉えれば、それに負けないスキャンダラスな動きや展開を美濃輪なり村浜がリング上で見せてくれた。それはたぶん技術面でも膠着がないということなんだろうけど、概念的にも膠着してないんですよね。

堀辺　それはプロ格闘技で考えたら、絶対に必要なファクターの一つですね。

——だからいま、リング外のスキャンダルに負けちゃう試合がいかに多いかってことなんですよ。しかも格闘技の試合よりも、なぜか〝純プロレス〟の試合のほうが目立つんですよ（笑）。

堀辺　それがまたプロレスをダメにしてる大きな理由になってるんですよね。

——大技を出せば膠着してないと思ってる選手がいかに多いかって話なんですよ。

堀辺　そのへんは、プロレスラーが時代状況の把握ができてないんです

ね。
——面白い格闘技の試合というのは、頭脳vs頭脳の闘いでもありますからね。
堀辺　頭と、それを駆使する肉体から成り立ってますからね。根本的には頭脳ですね。

なぜ「猪木プロレス」は支持されてきたのか？

——ここまで話を聞いてきて、時代性の中で〝純プロレス〟が役割を終えつつあるというのはわかりましたけど、〝純プロレス〟が残っていくために、一体どうしたらいいのかということも、一応プロレス雑誌なんで（笑）、先生にこの際聞いときたいですね。
堀辺　古典芸能として残すべきですね。しかし、古典芸能っていうのも、世間様が言うほど生やさしい世界じゃない。古典芸能っていうのは様式が決まるでしょ。プロレスでいうと、〝純プロレス〟という言葉がいま出てきてるように、〝純〟というものが付くことによって「これはリアルファイトではないんですよ」ということを前提にしてやらなきゃいけないんだから。それが前提にされてるにもかかわらず「この連中が格闘技に出たら強いんじゃないの？」って幻想抱かせるとかね、それができるかどうかが今後の〝純プロレス〟

の課題じゃないですか？
——重層的な幻想の立て方。それはムチャクチャ難しいですね。
堀辺　難しいんですよ。桜庭だってこないだ『猪木祭り』に出て、プロレスの難しさを感じたと思うんですよ。そしてあの『猪木祭り』というのも、一過性のものだからみんなが見たんであって、ああいう形のプロレスがずっと続くとなったら誰も見ないと思います。でも〝純プロレス〟が残るか残らないかということを最終的に決めるのは大衆だから。非常に運命の岐路に立ってることは確かです。
——それと同時に、いままで「プロレス」が担ってきた、国民にエネルギーや感動を与え続けるという役割を、21世紀という時代の中で、本当に「格闘技」が担えるかどうかも、まだわからないですよね。
堀辺　それはまだ定かではないですね。ただ〝純プロレス〟がヤバイということを、関係者が主体的に受け止めて再生できるかどうかもまだわからないし、格闘技が上昇してるというけども、国民的なエネルギーを集めるぐらいのものになり得るかどうかも、まだハッキリ見えないですね。
——その中で〝純プロレス〟というものが、どうしたらいいんだっていうのを、まだ誰も正面から考えてないような気がしますね。
堀辺　ただ原則だけはハッキリしてますよ。〝純プロレス〟はリアル格闘技じゃないんだということをハッキリさせたらいいんです！　で、試行錯誤していく中で答えが見えてくると。ひょっとしたら、また逆転する可能性だってあるし。「リアル格闘技じゃないけども、俺はこっちのほうが面白いよ」という人がたくさん出るかもしれないしね。
——それは大いにあり得ますね。
堀辺　あり得るんですよ！　決して悲観材料だけじゃないんです。ただ、いまのままではダメなんですよ。
——そういうことなんですよね。さっきの話では、馬場さんが「プロレスはプロレスだ」と言葉で言い、なおかつ十六文という肉体言語で、カミングアウトしてたようなものだとなりましたけど、考えてみればそれを邪魔したのが猪木さんなんですよね（笑）。
堀辺　そうなんです。でも猪木が余計なことしてくれたからこそUWFがあり、UWFがあったから桜庭が出てきて、そして日本で総合格闘技というものが、いまやアメリカよりも本場になりつつあるんです。そういう流れですね。

純格闘技の面白さを見せつけた1・8『DEEP2001』での美濃輪vsリボーリオ戦（写真上）と村浜vsホイラー戦。この2試合に共通していたことは、一見膠着しているようでいて、緊張感が途切れなかったこと。これらの試合を楽しむための、見方を提示していくこともこれからの課題である。

——馬場さんというのはアメリカン・プロレスの権化であり、実際アメリカでスターになった人だし、しかも尊敬する人がバディ・ロジャースというリック・フレアーの親玉みたいな人なんです。これはプロレスの定義がハッキリしてますよね。
堀辺　一貫不動ですよね。
——それをかき回したのが猪木さんですよね。恐らく、物事を動かすときには、猪木さんのような余計なことをしないと動かない。でも、この先、猪木さんみたいな余計なことをする人は世界的に〝純プロレス〟を眺めても、出てこないと思うんですよ（笑）。
堀辺　いないと思いますよ。それに猪木が支持されたのは、日本という特殊風土だからこそ、大衆が支持したんですよ。なぜかというと、日本は鎌倉時代から700年間ぐらい武士の社会が続いたという、〝武〟というものを持った人が支配階級になってた国なんです。
——じゃあ猪木さんには〝武〟があったということですか？
堀辺　結局それは、闘いのリアリティーをちょっとでも追求していこうというのは、日本の国民性に合ってるということです。だから猪木という人は現代の日本人の枠を壊すようなものを持ってたわけです。戦国

日本の観客は「死生感」を求めるんです
猪木が馬場を超えられたのはそこですよォ！

乱世の武将のようなダイナミックに変革していく意欲とか、過酷な戦（いくさ）に臨む姿勢が支持されたんですよ。

――それが「世界王者とのストロングマッチ、大物日本人対決、格闘技世界一決定戦」などですね。

堀辺 だって日本人はスポーツよりも、命が懸かった闘いをする人のほうが尊敬されるんですよ。ヨーロッパとかは逆に、そういうことは野蛮だという価値観からスポーツという概念が生まれてきた。でも日本というのは、スポーツに行こうとすると「それは逃げだ。スポーツは遊びだ」とかね。戦時中は「スポーツ」を「遊戯」と訳してたくらいだから。その翻訳の仕方で、日本人がどういう価値観を持ってたかわかりますよね。遊戯っていうのは、遊びだから。「遊びはいけない、真剣にやれ」ってなるでしょ。真剣っていう字は刀の「真剣」だからね。生死が概念としてうしろにあるんです！

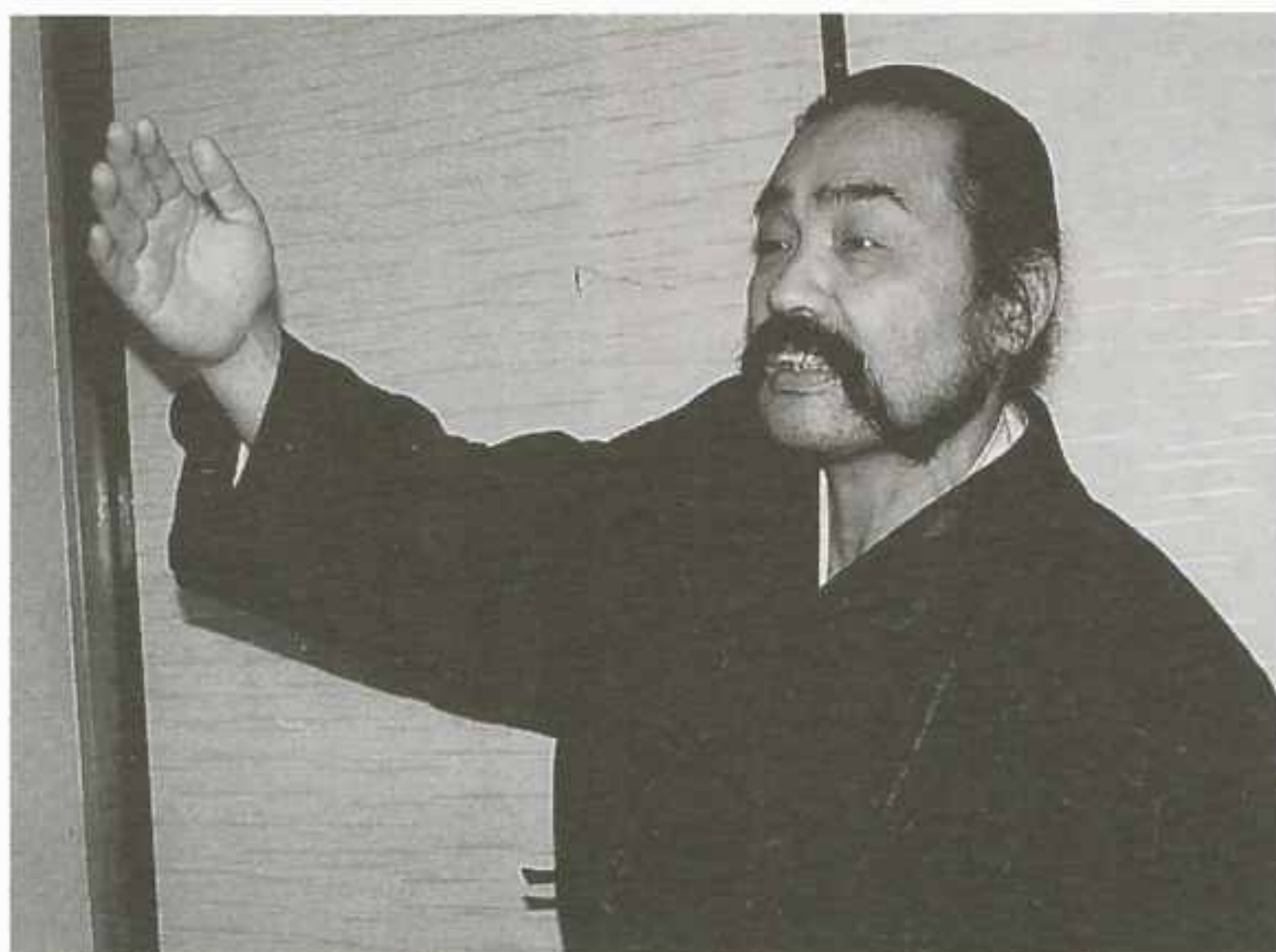
――そして、プロレスにその死生感を取り入れたのが猪木さんだったわけですね。

堀辺 それにシビレたわけですよ〜、大衆は。猪木の試合に死生感を垣間見るところに多くの日本人はシビレてるわけです！

――まさに命懸けの論理ですね（笑）。

堀辺 だから「明るく、楽しく」っていう全日本プロレスの標語っていうのは、アメリカ人にこそ相応しいですよ。日本人は死生感が見たくて闘いを見てるわけだから。だから「明るく楽しくエンターテイメント」っていうのは、〝純プロレス〟が生き残る道ではあるけど、究極的には日本の土壌では支持されないですよ。

――だからこそ、『PRIDE』なりなんなりの、ウチで言ってる〝新プロレス〟が、〝純プロレス〟に取って代わらないと、先細りするということですね。

堀辺 そういうことです！ 団体を存続させたいんだったら、それに取って代わったとこだけが、唯一団体として残ってくわけですよ。WWF的なものが日本でも根付く可能性はあるけども、根本は死生観が見たいんです。だから、猪木がなんで馬場を超えられたかっていう答えも、実はそこにあるんですよ。日本人のそういう文化的土壌っていうのが、馬場より猪木の方が果たしてたってことなんです!! だからいまでもみんな「馬場より猪木が好きだ」って言うわけです！

【ほりべせいし】1941年茨城県水戸市生まれ。日本武道傳骨法創始師範。50年に渡って命懸けで「喧嘩」を追求し、“路上の完全拳法”骨法を完成させる。本誌を初めとする格闘技評論、執筆活動とその活動は多岐にわたる。秘伝の骨法整体セミナーも大好評。その整体の腕は男性機能を瞬く間に回復させることもできるというので、悩

――つまり、猪木さんがやってきたことのリアルな発展型が総合格闘技なんですね。

堀辺 そういうことですね、発展型ですね。

――そして馬場さんの「プロレスはプロレスだ」というものの発展型がWWFだと。

堀辺 はい。そう言えば一番よくわかりますね。

――21世紀になっても、やっぱり猪木vs馬場なんですね（笑）。

堀辺 続いてますね、馬場的なもの、猪木的なものという概念で言えばね。

――未来永劫的に、その二つがせめぎ合わないとダメなんですかね？（笑）。

堀辺 二つがあったほうがダイナミックで面白いですね。両方あったほうが、論議の対象になるし、お互いがお互いを意識して頑張り合うという点では、いい世界ですよね。たとえば議会制民主主義と同じですよ。一党独裁になったらダメになるでしょ。そういう意味でプロレスというものがあって、格闘技があって、お互いに意識し合って発展してるんですね。そこに力の作用、反作用があったほうが発展しますからね。「格闘技だけ」、「プロレスだけ」ってなると、一党独裁と同じで堕落するんですよォォォ。しかし、とにかくこういう時代だから、誰がスターになってもおかしくないということが重要です。昔は団体の長が気に入った人を「お前をスターにするよ」って作れた。それができなくなったということは、団体の長の力も低下したってことですよ。だから選手にとってはいい時代ですよね。『PRIDE』に出ていい試合すれば、団体の長に従わなくてもスターになれる。逆に団体の長からすれば不幸な時代だね、統制効かないですから。

――それこそ下克上ですよ〜（笑）。ハッキリ言って、団体の長は頭抱えてると思いますよ。

――それは、プロレスに限らず、組織の長にとってはそうでしょうね。プロレスでも、頭抱えてる長は多いですし。先生は、頭抱えてないんですか？（笑）。

堀辺 私の頭はゼッッッッタイに膠着しないんです!!

――ボクの頭が膠着しそうなんで、今日はこれでやめときます（笑）。長い間、ありがとうございました。

【01年2月6日／東中野・割烹『大はし』にて収録】

堀辺師範が日本テレビ『ヤミツキ』に出演 ヒロミ・ゴーと魅惑の遭遇だ!

アーチーチーアーチー！ 燃えてるんだろうか〜！ というわけで、火事とバーリ・トゥードを比較した数日後、堀辺先生がヒロミ・ゴーと魅惑の初遭遇をはたした！ これは日本テレビ『ヤミツキ』で共演したもの。この日は「整体」がテーマとのことで、遂に堀辺師範の“ゴールドフィンガー”が披露されるので必見！ 収録の合間にプロレスの話ばかりしていたという、テリー伊藤との絡みにも注目だ。放送は3月5日午後11時37分。

昭和プロレスの凄みに触れる
実録! 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

マット界の生き字引が語るレフェリー&外人係奮闘記

聞き手／吉田豪
interview by Go Yoshida
構成&撮影／坂井ノブ
text & photographs by Nobu Sakai
資料提供／ジョー樋口
photographs by Joe Higuchi

プロレス界の最長老 ジョー樋口

（プロレスリング・ノア「監査役」）

オールド・ファンなら感涙必至の超大物が遂に『紙プロ』に降臨！ プロレス創世記から、マット界に身を投じ、レスラー、レフェリー、外人係というハードワークに体当たりでぶつかってきたジョー樋口の登場である。現在は富士山の麓で暮らしながら、ノアの監査役として今なおプロレスと関わり続けるマット界の最長老の話の一代記を通じてボクらは改めて「プロレスとは何なのか?」を問い直そうではないか！ さあ、ジョーさんのヤンチャかつ一本気な生き様に触れて、泣け！

——いや～、ようやくジョーさんに会えて本当に嬉しいです！

ジョー そう？ こんな年寄りは何も話はないよ（笑）。

——いえいえ、ベテランの方ほど話は抜群に面白いですから。

ジョー わざわざ、こんな所まで来てもらっちゃってねえ。何だか、ここ2、3日で富士山が大噴火かって騒いでるけど、爆発でも何でもしてくれよという感じだからさ（笑）。

——もう恐れるものはないと（笑）。

ジョー まあ、いまこうしてノアの選手やスタッフのご厚意でお世話になってるけど、最終的には現役40年間以上で何もかもやり尽くした様な形であまり表に出ていかないしね。ただ、今回は会社から連絡を頂いて、お宅たちがノアを一生懸命に応援してくださってるっていうんで、年寄りでもいくらかお役に立てればということで出てきたんです。

——ありがとうございます！ いまはノアの監査役をなさってるんですよね。

ジョー そんな大それたことはないんだけどね（笑）。ノアのみなさんとは長いお付き合いだし、やはり理想のプロレスというか新しいお客さんに喜んでもらえるスタイルでみんながんばっているでしょ。そこで年寄りの名前でも片隅にでもあったら、昔の人に分かってもらえると思ってね。かえって彼らにしたら邪魔なのかもしれないけど、みんなが忘れず子守してくれるんで助かります（笑）。

——子守ですか（笑）。レフェリーを引退されたのは97年の3月でしたよね。それからすぐにこちらの方に移住されたんですか？

ジョー いや、ある人に頼まれて、引退してから1年か2年は外人バスに乗ってたのよ。でも、全然約束が違うから、御大（＝ジャイアント馬場）が亡くなった時点でオレもおしまいにしたの。それでこっちに来て、毎日田舎のおっさんみたいな格好してるけど、よう知ってるもんだね。オレは本当に有名なはずはないんだけど、分かるんだよね。

——バレちゃいますか（笑）。やっぱり、その髪型が大きいですよね。

ジョー だけど、普段は帽子被ってるから頭は見せないんだけどね。昨日、若いお兄ちゃんに声かけられて。「去年から声かけたかったんですけど、ジョー樋口さんですよね」って言うんだ。「何で分かるの？」って聞いたら、元レスラーの笹崎の親戚らしくてね。何だかんだ言ったってプロレス界じゃオレが一番古狸だから、誰かに見られてたら悪いことは出来ねえなあ……（しみじみと）。

——ダハハハ！ やっぱりジョーさんの世代だと、身体の大きさとか厚さからして違いますよ。以前、取材で吉村道明さんや遠藤幸吉さんにお会いしたんですけど、やっぱりいまでも凄い体格してましたからね。

ジョー （ビックリした表情で）えっ？ 吉村の兄貴に会ったの？

——ええ。一回、取材でお会いしました（本誌9号参照）。

ジョー 元気だった？

——いろいろ物忘れが激しくなってますけど、相変わらずデカくてパワフルでしたね。

ジョー どこで会ったの？

富士山大噴火って騒いでいるけど爆発でも何でもしてくれよ（笑）

——猪木さんの引退試合の前に上京されたんですよ。その時に駿河海さんとかもいらしてました。

ジョー はぁ～！ 駿河海はまだ元気でやってるの？

——元気ですよ。だけど、やっぱり遠藤幸吉さんとユセフ・トルコさんがいちばん元気です（笑）。この4人が集まったとき、トルコさんが何か言う度に吉村さんは「こいつの話は信用しない方がええぞ」ってピシャリと言われてましたけどね（笑）。

ジョー ホントそうだよ（笑）。お宅たちは、その時分からもうマスコミをやってたの？

——そんなわけないですよ（笑）。

ジョー オレもあの時代の人間ですからね。

——もちろん知ってますよ。まずは順を追ってうかがいたいんですけれども、ジョーさんは子供の頃からかなりやんちゃだったらしいですね。

ジョー そうですね（笑）。横浜出身なんですけど、もう風光明媚で環境に恵まれてたから。でも不幸にしてバカな戦争があったでしょ。今の格闘技戦争と一緒でバカげたことをやってるヤツがいたから、中学に入った時点から人生が狂っちゃったよね。

——戦争中もサボって敵性音楽のジャズを聴いていたという、不良っぽくてシビレる話がありますけど（笑）。

ジョー 何故かと言うと、オレの住んでるエリアが外人さんが多かったんです。それで子供の時から近所の悪ガキを集めて、本牧のチャブ屋っていうのが30軒ぐらいあって。そこは外国の船員とか東京あたりの大会社の社長とか、超ハイクラスの人が遊びに行く所だったんです。1階がバーとダンスを踊るところで、2階が休むところで（笑）。そこはジャズがかかって、外人の船長さんとかが格好良いユニフォームを着てダンスを踊るんで、それに興味があったんです。でも戦争が始まってそういうところがみんなダメになっていった。ミッキー安川って知ってるでしょ？

——もちろんです！ ボクはミッキーさん、大好きなんですよ！

ジョー あれが同じ小学校で、オレの弟と同級生なんですよ。彼の家が2軒のお店を持っていて、これは優雅なものでしたよ（しみじみと）。

——それがジャズの目覚めだったってことですね。

ジョー そうです、それで、うまいことに隣のお兄ちゃんがジャズマニアだった。

——当時のジャズ好きっていったら、かなりの不良ですよね（笑）。

ジョー はい。その代わり、隠すのが大変だった。憲兵がうるさいから。その頃に川崎のいすず自動車に勤労奉仕に1年間、バカみたいに横浜から通うんですけどね…、行く気がしねえんだよ（笑）。

——ダハハハ！ バカみたいで（笑）。

ジョー 退屈であほらしくてやってられないんだ。そのうちに看護婦をうまくねじ巻いて、肋間神経痛だと診断書を出させて別の部署に逃げちゃってね（笑）。でも、今度は事務仕事だったからケツが痛くて、とてもじゃないけど一日座ってられないの（笑）。それで身体が治ったって言って鋳物のシリンダーを作る部署に行ったのよ。そこは汚れる仕事だから、風呂も入れて待遇がいい。力仕事だけど、そこが一番面白かったよ。そんな感じで悪ガキでしたよ（笑）。

——その頃、すでに柔道をやってらしたんですよね。そっちの方でも相当強かったんですか？

ジョー 柔道は講道館に行ってても、明治の活きのいい学生とかにも負けた記憶がないのよ（キッパリ）。

——かぁ～、凄いですね！

ジョー 戦後は身体を持て余してたから、横浜の国際柔道場で柔道を教えるのを手伝ってた時期があってね。そこの先生は外人が苦手だから全部オレに任しちゃう（笑）。だからアメリカのＣＩＡとか偉いヤツを教えたりしてましたよ。

97年3月1日、全日本の武道館大会でレフェリーを引退したジョーさん。このとき68歳である。

3・25
『PRIDE 13』も接近!!

──え〜っ！　CIAに柔道を叩き込んでたんですか（笑）。

ジョー　CIAって今でこそ何だか分かるけど、その時分はCIAのことなんていわれても、何のことか分かるわけがないじゃん（笑）。それは食うためにやってましたよ。ああいうところに行かないと御馳走が食べられないから。まだ日本人が残飯を食べてる時代だよ。お兄さん達は分からないと思うけど、ひどいもんよ。

──そんな時代に御馳走を食べて、ジャズを聴いてたんですか（笑）。メチャクチャかっこいいですよ！

ジョー　でもさ、防空壕を掘って穴蔵の中へ入ったりしてたんだよ。モグラじゃあるまいし家族6人も7人もうずくまって寝るんだよ？　食べるものもさつまいもをやっと仕入れてきて蒸かして食べるぐらいのものだよ。そういう時代だったんだよ。だからこの歳になってもある程度、辛いことも我慢出来ると思うよ。

──それで、ジョーさんが通っていた柔道の町道場が木村政彦さんのプロ柔道にも関係してたことで、プロレス界との接点ができるんですね。

ジョー　そうですね。その横浜の道場の先生が、遠藤幸吉と一緒にプロ柔道をやっていたんですよ。

──その頃から遠藤幸吉さんとはお知り合いだったんですか？

ジョー　知ってたましたよ。プロ柔道の人たちは木村政彦さんも山口利夫さんでもよく知ってますよ。

──その後、山口さんが全日本プロレス協会を立ち上げたときにはジョーさんも参加するわけですけど。

ジョー　ええ。でも、九州一円を回ってえらい目にあった（しみじみと）。

──何があったんですか？　プロ柔道の興行だと売り上げで全部酒を飲んじゃったって壮絶な話は聞いたことがありますけど（笑）。

ジョー　やっぱり柔道家は金儲けはダメですよ。

──つまり、柔道家は強さを商売に出来ないっていうことですか？

ジョー　そう。「選手が集まらないから手伝って欲しい」ってわざわざ手紙が来て、（ミスター）珍を連れていったのよ。でも何も金をくれないしさ……。みんなプロモーターが持ち逃げしたよ。

──山口利夫さん同様、プロ柔道の中心だった牛島（辰熊）さんや木村さんも商売は下手だったんですか？

ジョー　牛島さんも木村さんも強かったし、大した人物ですよ。だけど商売は下手！　ボクは個人的に好きだよ。木村さんは晩年、拓大の柔道部長になったでしょ。一回、挨拶に行こうと思ったけど、木村さんが気まずい思いをしたらいけないと思ってやめておいたのね。

──ボクも木村さんは大好きなんですよ。その木村さんがブラジル遠征をしたときに、いまのグレイシー一族の長老であるエリオ・グレイシーを倒してるわけですけど。

樋口寛治　殿

（上）「吉村の兄貴」こと吉村道明はプロレスに挫折しかけたジョーさんを何度も救った。（左）「トルコ式浴場等あらゆる体育向上に必要なる最新式諸設備の」（本文より）リキ・パレスのオープンセレモニーの招待状だ！　秘蔵の逸品！

ジョー　ああいうのは強いって言ったって、自分らの籠の中だけのルールで「強い」って言ってるだけだからね。たとえばカール・ゴッチでもビル・ロビンソンでもみんな「強い」って言うけども、これればっかしは誰が強いなんて決めつけられないよ。ルールによって違うこともあるし、人間である以上、コンディションの悪い時もあるしね。

──こちらとしても「スパーリングをやったら強かった」とか、肌を合わせた人の証言ぐらいしか信じられないわけですからね。

ジョー　ただね、すべてをわかったような顔をして能書きを言う人が多いけども、それは見てる側のお客さんが判断してくれることで、一介の選手が人様のことを言ったり、自分を売るために煽ったりとかするのは、たとえプロでも醜いですよ。

──この世界、そうやって何かを言う人の方が目立ちますからね。

ジョー　そうそう（大きくうなずきながら）、お宅の言う通り！　でもオレは辞めた人間だし、人の悪口は言わないから。沢山色んなこともあるし、コノヤローと思うこともあるけども、もう誰かしら分かってくれるだろうとね。

──でも、黙っているとやっぱり伝わりづらい部分ってあるじゃないですか。例えばユセフ・トルコさんなんかは馬場さんが死ぬ直前まで「馬場、オレと勝負しろ！」「オレは今でも勝てる」ってとか言い続けていたわけですけど（笑）。

ジョー　そうなの？　あのヤロー、弱いくせに！（怒）

──そうなんですか！　ボクらは試合を見たことがないので……。

ジョー　（遮るように）弱いんだよ！

──「オレは力道山を極めた」とか凄いことを言ってましたけどね。

ジョー　そんなぁ〜？　あいつは日本選手権で一番最初に負けやがったんだよ！　昔の力さんがいた頃、大阪には木村さんの団体とか、オレがいた団体とか、韓国人主体の団体とか色々あったんですよ。その各団体が集まって日本選手権というのを体重別でやったんですけど、トルコなんか一番最初に負けてましたよ。元々が素質があった選手じゃないんだから。ただちょっと変わったキャラクターだっただけでね。

──そ……、そうなんですか!?　トルコさんは柔拳の出身ですよね。

ジョー　まあ昔の話は止めましょう。いろいろ出てくるから（笑）。

──あんまり人の悪口は言いたくないでしょうしね。それで大阪の全日本プロレス協会に入って、ジョーさんの自伝（『心に残るプロレス名勝負』（経済界・刊）で言うところの"吉村の兄貴"に出会うわけですが。

ジョー　当時、大阪に合宿所があったんです。あの当時、合宿所で吉村の兄貴の隣だった。よく兄貴にひっついて遊びに行ってたよ。兄貴はお酒を飲まないけど、女の子がいっぱいいるところが好きなの（笑）。色気もないくせに、ただわいわいやってるとこがね。お金はないけど結構楽しい時だったよ。だけど大阪にいたって先が見えないしね。

──それで、吉村さんが先に日本プロレスに移ったんですか？

ジョー　そうですね。その頃「もう、このまま続けていてもダメだ」

猪日

乱世の武将の
変革していく
（いくさ）に
んですよ。
―それが「
グマッチ、
技世界一決
堀辺 だって
も、命が懸か
うが尊敬され
パとかは逆に
だという価値
概念が生まれ
うのは、スポ
「それは逃げ
とかね。戦
「遊戯」と訳
の翻訳の仕
う価値観を持
ね。遊戯って
「遊びはいけ
てなるでしょ
の「真剣」だ
してうしろに
―そして、
を取り入れた
けですね。
堀辺 それに
大衆は。猪

堀辺 青春の大

と思って、「親が病気だ」とか適当に言ってオレは辞めたんです。そしたら山口利夫さんが「選手権があるから出てくれ」って連絡があって出たわけです。さっき言った、トルコも出場した大会ですよ。そのときにオレと吉村の兄貴は勝ち残って、準決勝、決勝に出たわけよ。それは蔵前国技館でやったんだけど。それを運良く力さんが見ていてね。オレは引き分けをやっちゃったんだよ。そしたら試合後に「何やってるんだよ、あそこで極められただろうが。こうやるんだよ」って力さんがアドバイスをくれてね。そこから段々いろんな話をするようになったんです。そのうち「吉村もいるんだし日プロに来たら?」って言われてね。「お世話になります」って入ったんだけど、結局は身体が大きくならないし、一旦はプロレス界から去ったんです。でもやっぱりこの道に戻ってきちゃったということは縁があるんだろうな（笑）。

―でも、力道山さんが亡くなってからの日プロは金銭的にも大変だったんじゃないんですか?

ジョー そうだね。末期の日プロにはいい話がひとつもなかったんだよ。会社の中の状況も、社会的な状況も含めてね。あの頃からマスコミの取材合戦が始まっちゃったし。

―つまり、良いこと以外も書くようになったわけですね。

ジョー そうです。それで嫌になっちゃってね。たまたまアメリカのほうで大物プロモーターと親しい関係にあったので、日プロを辞めてアメリカに行くつもりだったんですよ。それは吉村の兄貴も認めてくれたからね。仕事先もすべて手配してくれて、ビザ関係とかがボクは分からないから、米沢っていう御大の配下におった人間に聞こうと思って電話したら、あのヤローが御大に言っちゃったわけですよ（笑）。

―ダハハハハ！ 馬場さんに御注進しちゃいましたか（笑）。

ジョー そしたら御大が「何だよジョーさん。日プロを辞めるんだったらうちに来てよ」みたいな話になったんじゃないの? それで会って話をしたわけよ。そしたら「協力してくれないか」って。でもオレはアメリカに行く約束をしてたから、オレの一存じゃどうしようもないし。

―もうアメリカに行くのが決まってたわけですからね。

ジョー それで吉村の兄貴に相談したんです。「じつは馬場から誘われたんです」って言ったら、「馬場だったら人間的も良いから協力してやれよ」と。でも、やはり日プロを辞めるのも「馬場のところに行くから辞める」じゃ筋が通らないわけよ。だから妨害も入ったよね。結局は強引に日プロを辞めて、アメリカのプロモーターにも頭を剃ってお詫びして回って、いろんないきさつがあって、全日本の旗揚げから参加したんだけどね。

★Wrestling Program★
GULF ATHLETIC CLUB
PAUL BOESCH, PROMOTER
FRIDAY, APRIL 9, 1971 — HOUSTON, TEXAS — PRICE: 25¢
TONIGHT'S WINNER WILL BE US-AMERICAN CHAMPION
WILL MEET DORY FUNK, JR. HERE WITHIN 30 DAYS
CHAMPION!
CHALLENGER!
CHIEF WAHOO
PROMOTER PAUL BOESCH and HIGUCHI SAN
TORU TANAKA

アメリカのプロモーターとも親交の深いジョーさん。アメリカに行けば、その日行われるタイトルマッチのチャンピオン（ワフー・マクダニエル）&挑戦者（トール・タナカ）よりも大きな写真で紹介されるVIPなのだ。

は御大だけなんだよ!!

―それ以来ずっとスキンヘッドなんですよね（笑）。そうやってまで入った全日本はいかがでしたか?

ジョー そりゃ死に物狂いで働いたよ。今みたいに沢山の人が働いてた時代じゃないからね。オレは御大の人間性は好きだったし、吉村の兄貴も賛成してくれたから全日本に入ったんです。個人的にプライベートでの付き合いはないんだけども、話してみて人間の情愛というか人間の心を感じ取ったわけだから。全日本を良くするように微力ながら一生懸命にやってきたつもりなのよ。でも、結果的に御大は先にあの世に逝かれたわけでしょ? そうすると、オレが全日本でやってきた生き様を証明してもらえるのがあの人しかいないんだよ。

―元子さんじゃそれが出来ないと。

ジョー オレは人の悪口を言うのも、未練たらしいのも嫌いだから、それはお宅らが外野席から入って解釈して頂きたい（笑）。

―わかりました（笑）。

ジョー オレは縁の下の力持ちで25年間痛い思いをして、一心不乱に働いてきた。こぼせばキリのないことはいっぱいあったよ。だけど、一旦はお世話になった以上、ボク自身にしたらあっち向けこっち向けの人間性は嫌なわけ。やはり夢を持ってこの歳まで生きてきたんだから、その夢をある程度開花してこの世を去りたいじゃない? でも、やっぱりプロである以上、お金儲けをして、家族にも楽をさせてやりたい。それは誰でも人間である以上、プロ意識はあるわね。だけど結果的にはあの人が先に逝ったから……。まあ、何もなかったけどね（笑）。

―結果的には報われなかった、ということなんですか?

ジョー これは誰を恨むのではなくてね。オレのことを何もかも分かってくれるのは社長であり、トップスターであったジャイアント馬場以外にはないわけですよね。その他に誰が社長になろうが、オレの生き方を理解してくれてた人はジャイアント馬場しかいないわけですよ。たとえ少々でも貢献したという自負があるんだよね。でも、それが結果的に嫌な思いで辞めていくと。汚い話で言えば、使うだけ使って放り出されたようなもんよ。自分自身で「辞める」とは言ったんだけどね。だけど人間にはそれ以上のものがあると思うんだよね。そういうことが理解出来ないところに居たくないじゃない?

―それで全日本からノアに行かれた形になったわけですけども、ぶっちゃけた話、そのきっかけになったのは何が大きかったんですか?

ジョー やっぱりオレはどんな場合にも、人の痛みが分かる人とお付き合いがしたい。まあ、これはオレの個人の気持ちだけどね。

―なるほど。三沢社長にこれだけの人が付いてきた理由はそこにあるってことなんですね。

ジョー そうですよね。こんな年寄りは忘れられてバイバイされたってしょうがないことだから。だけど、（同席したノアの西永レフェリーを見ながら）こうやって東京からわざわざ来てくれるし、それはホントに嬉しいですよ（笑）。だから、心のぬくもりがあるのが嬉しいことなんですよ。人間というのは「夢や希望は持ってもいいけど、野望を持ってはダメだ」ってことなんですよ、結局。

―でも、プロレス界は野心を持ってる人が多いじゃないですか?

ジョー それを言うなよ（笑）。野心はいけない。お宅たちは書く材料があるから結構なことなんだろうけどね。ボクはそういう教訓を頭には描いてたんだけども、何もかもうまくはいかなくて、人生がメロメロになって辞めていった（笑）。野望を持てば、嫌な野心を持つでしょ。でも、希望を持てば人間は努力するのよ。偉そうに聞こえるけどね（笑）。特に会社のオーナーとか社長とかいう人なんかは気を付けないといけないですよ。たとえば、お宅の雑誌はどこかのバックあるの?

―いえいえ、全然ないです（笑）。

ジョー （驚いた表情で）はぁ～、立派なものだねぇ。

―その代わり、もの凄い借金があったりするんですけどね（笑）。

ジョー だけど、そういう志をもって自分たちが本当にやりたいと思って、借金する分にはいいじゃないですか。組織をリードする人間は確かに金儲けは必要ですよ

3・25
『PRIDE 13』も接近!!

ね。金が儲からなきゃ何も続かないから。でも往々にしてオーナーとか組織のリードする人間は選手に「やれ」っていうばかりで、何も分からないくせに自分の利潤の追求の為に選手をリードして行こうとするから、そこにギャップが出来ると思うんですよ。

―うちの場合はオーナーが一人で借金を背負ってますからね（笑）。

ジョー オレが言いたいのはそういうことなんだよ！ やっぱり夢を持って人生を生きていかないと。最初から野心を持ってると悪いことしかない。だけど夢を持って生きていくということは最高の人生だね。

―勉強になります！

ジョー 逆に、これはお宅らに聞きたいんだけど、現在のノアの試合内容とか雰囲気とかどういう感じですか？ 正直に言ってよ（笑）。

―いまはいろいろ格闘技とか出てきてますけど、純プロレスの世界では試合内容に関しては間違いなくトップですよね。これはお世辞抜きで。

ジョー ありがとうございます！ 分かって頂けるのはありがたいんですけど、いまのプロレス界はいろんな味があちこちに散らばりすぎているから、そこがちょっと悲しいよね。

―確かに、いまのプロレス界は分散されすぎちゃった気もしますよね。

ジョー やはり、三沢社長にしても、他の選手やスタッフにしても、長年いた組織から辞めて、みんな目的とプライドを持って新しい団体をやろうと思ってますから。それなりの覚悟があるから、皆さんにそういうふうに見て頂けたら将来も明るいし、希望を持ってやれるよね。だから、ファンの人があっちに行ったり、こっちに行ったりといった錯覚を起こさないようになってほしいんだけど。

―錯覚ですか（笑）。では、ジョーさんの目からご覧になってプロレス界の現状はいかがですか？

ジョー 辞めてから思うことなんだけど、我々がやっていたプロレスがどこに行っちゃったのかという疑問を持つ時があるよ。K―1だなんだって、マスコミもお客さんも騒いでるしょ。今のK―1の選手は、ある程度はお客さんのニーズに合ってるのか知らないけど。それ以外にも色んな格闘技が出てるでしょ。だけど、オレたちが最初に体験したプロレスは、そう簡単に出来るプロスポーツじゃなかったわけですよ。

―もともと敷居がもの凄く高かったんですね。

ジョー そう！ 敷金も家賃も高いんだよ（笑）。そう思うと力道山という人は本当に偉い人だなと思いますよ。そもそもは力道山という人がプロレスをアメリカから持って来て、当時は普通の一般の人から認知されてないんですよ。アマチュアの柔道とかよりも、ずっと認知されてなかったものをあの位置にまで持って行った。現在のテレビ業界の土台を盛り上げたのもあの人だし、それだけのご苦労があったんです。その力さんの功績は忘れちゃいけないんだよ。

―同感です！

ジョー それにプロスポーツだから、お客さんが満足して帰ってもらうのが宿命だわな。でも、当時はプロスポーツの格闘技っていうものを疑問視しているマスコミが半分以上だったから、マスコミは悪口や欠点を書いたりしたけどね。

―そういうもの相手の勝負っていう部分もあったわけですね。

ジョー そうそう。自分が体験してきたそのプロセスっていうのが並大抵じゃないからね。だから「K―1をどう思われますか？」って言われても分からないね（キッパリ）。

―それはそうでしょうね。

ジョー 三沢社長がそういうアレを一番最初に感じ取ったんじゃないの？

―プロレスに対する危機感はヒシヒシと感じられますよね。いまはグレイシー柔術とか顔面パンチありの総合格闘技が出てきて、ファンがそちらの方に流れつつあるんですよ。そっちの迫力を見ちゃうと、プロレスの凄さが薄れてくるみたいで。

ジョー でもね、ああいうのも長続きしないんですよ。日本の人は割と単純社会というかね。アメリカのお客さんは、仮に10ドル払って見に行ったら10ドル分楽しんで帰る。でも、日本の場合は相撲で横綱が負けたら座布団を投げるでしょ？ プロレスもあれと一緒よ。

―なんかあればすぐ文句を言う体質があるというか（笑）。

ジョー いろんなものが出てきたことによって。あちこちに気が散ってる状態なんですよね。いまの若い人はおいしいもの食べて、お金を持って、力が有り余ってるけども、女性の人に蹴っ飛ばされて「ごめんなさい」って言う世の中になっちゃってるからね。

―ジョーさんとしては、そういう状況は我慢ならんと（笑）。でも、いまはプロレスに単純に凄みが薄れてると思うんですよ。馬場さんを見て「デケェ！」とか外人を見て「恐ェ！」とかいうような、一目見て分かるものがなくなってきてますからね。

ジョー 力さんが最初にプロレスを持って来た自分の時代背景は、日本が終戦間もない頃だからね。その中で外人選手を痛めつけたら「わぁ～」ってなるでしょ。だからそれは単純でいいんですよ。それに能書き付けて、理屈を付けて、プロレスとか格闘技に名前を付けて訳の分からないのが出てきてるでしょ？ お客さんが喜んで帰ってもらえる本当の名勝負っていうものを提示しないと。今のマスコミの人は正直言って、何が本当の名勝負なのか理解してない！ もっともらしいことを書いてるけど、記者の人も分かってないよ。殴ったり蹴ったりするのがプロレスの本流じゃないもの。違う？

―勉強になります！

ジョー ちゃんと勉強して書いてくれないと。それを何もかもごっちゃにして見られたんじゃたまったもんじゃない！ だって、プロレスを見て感動してくれたお客さんが、今までどれだけいると思うの？ 今の格闘技はバンと殴られて、倒れて、それだけで終わりですよ。そういうのは何かが残るのかね？

―スポーツ化してゲーム性が高くなり過ぎると、ドラマがなかなか生まれなくなりますからね。ジョーさんが長いリング生活で、どういうものが名勝負だと思うわけですか？

ジョー ボクが裁いてた中でも沢山ありますよ。レフェリーが裁いていて本当に気合いが入るような試合が名勝負なんです！ 自分の身体で実感が湧くのよ。終わった後で疲れが抜けちゃうような満足があるわけよ。それが一番この商売でやっててよかったなと思う瞬間ですよ（笑）。でも、どの試合がどうだったとかは覚えてない（キッパリ）！ だから、具体的に聞かれても、覚えてないことの方が多いんだよ（笑）。

―ダハハハ！ そうなんですか？

ジョー でも、せっかくここまで来てくれたのに、それじゃ悪いでしょ。だから昔の資料を持って来

オレの生き様を証明できるのは 御

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

日本唯一の「NWA公認レフェリー」であるジョーさんが、初めてアメリカで試合を裁いた模様を報じる71年の『東スポ』である。

たから、これ見て書いて。終わったら返して。
——あっ、わざわざありがとうございます（笑）。全日本でのお仕事としては、レフェリー以外にもいろいろやられてたんですよね？
ジョー　（急に）だからそれをオレが言いたいのよ！　オレが御大から言われたのは「メインの試合でレフェリーやってくれ」と。だけど、いざ全日本に入ったら人間が少ないから、外人係もさせられてね。若い人をサポートに付けてくれるんだけど外人のことをわかんないことが多いから、結局はオレが一人でやることになっちゃう。そしたらその若い奴が他の部署に回されちゃう。
——結局、そっちも一人で任されちゃったわけですね。
ジョー　オレはレフェリーで目一杯働いて、外人係でやんちゃな連中のプライベートまで管理してたよ！　オレがそこまでやってるのを見てたのは、先に逝かれたあの人しかしないんだよ。だけどもその後のフォローが何もないわけ、だから辞めるしかなかったの。そんな所で身も心も削って死ぬまでがんばる必要はないわけだから。やっぱり自分だって少しは心の癒す時間が欲しいもの。
——そうですか……。ホントに過酷な状況だったわけですね。
ジョー　もう悔しいというより、情けなかったね。なんで人間社会って情けないことが多いのかって思ったよ。自分が何もかも正しいって言うんじゃなくてね。自分が一生懸命に働いた辛さをたとえ一人でもわかっていて下されば、やってきて良かったっていう実感が湧くんだけどな。
——レフェリーと外人係は日本プロレスの頃からやられてたんですよね。
ジョー　でも、あの頃は上の連中がそれだけの努力を認めてくれたですよ。だからそういう風に分かってくれると、どんなに働いても気分的に違うじゃない？　それが「勝手に働いてよ」ってなったら、人間なんて哀れなもんよ……（しみじみ）。
——しかも、ジョーさんがやってた頃の外人担当はとんでもないぐらい大変だったと思うんですよ。
ジョー　それを分かってくれる人がいなくなっちゃたらね。もう一人いるんだけど、その人は全然でしょ？
——ダハハハハ！　まあ、誰とは言わないですけどね（笑）。
ジョー　そう。それが悔しいのよ。
——あの頃の外人選手は、見るからに荒くれ者揃いですからね（笑）。当然、今みたいに物わかりのいい選手が多かったわけではないだろうし。
ジョー　今いる外人達だって言うことを聞くいい奴じゃないんだよ。それまでに外人達をキッチリ仕込んでいくプロセスがあったわけだから。
——つまり、ジョーさんがケンカしながら仕込んでいったんですね（笑）。
ジョー　よその国から来て働いてくれるんだから、オレは誠心誠意やってやるよ。だけどもあんまりわけの分からないことを言ったら、相手が世界チャンピオンだろうが、オレは正面からケンカしたからね。そしたら向こうがびびったよ（笑）。
——その辺は、さすが元レスラーというか（笑）。
ジョー　そういうことじゃないよ。やっぱりオレはハマっ子だから、向こう見ずなんだよな。
——ハマっ子は向こう見ず！
ジョー　あの時分はまだ元気だったからなぁ。中身の入ってるでかいビール瓶が24本入ってるケースを持ち上げてレスラーに叩き付けたからね。
——それって、無茶苦茶なパワーじゃないですか！
ジョー　ペドロ・モラレスと誰かが二人で「ジョーさん、我慢して」って二人で羽交い締めにしやがってね……それでもオレは「来い！」って言ったんだよ。そしたら相手がロッカーの影に隠れちゃって出てこねえんだよなあ。
——ダハハハハ！　レスラーがビビっちゃいましたか（笑）。
ジョー　ロッカールームで揉めたんだけど、リングで試合をしてる選手も何事かと思ったらしいよ。中身の入っているビールだから、投げたらもの凄い音がするんだね（笑）。
——そりゃそうですよ（笑）。
ジョー　ちょうどそのときは、もう死んじゃったウィルバー・スナイダーが試合やってて、ビックリしたらしいよ。その後、オレはタクシー拾って、高崎から東京まで帰っちゃったな。
——高崎からタクシーですか（笑）。
ジョー　若い衆が事情を話したら、ウィルバーが怒ってね、その選手を捕まえて、「何様のつもりだ！　ジョーが怒るのも当たり前だろ！」って。えらいやられたらしいよ（笑）。
——制裁されましたか（笑）。それって待遇面とかで揉めてたんですか？
ジョー　そうじゃないんですよ。ウソばかりつきやがるし、オレの好意をわざと面白おかしくしてね、みんなの笑いを誘ったりして。汚ねえ野郎なの！　人がモノ食ってる時に近くに来てね、「おいしそうだな？」とか聞くわけよ。「おいしいよ。食べればいいじゃねえか」って言ったら、「金が無えから食べられねえ」とかね。
——みみっちい話ですねえ（笑）。

東京スポーツ　30円
馬場世界守る
NWAダブル選手権詳報
長島エ軍の要求に仰天
馬場、堂々2フォール
逆転だ飛行機投げだ

74年12月7日、馬場vsブリスコのNWA世界戦を裁いたジョーさんも一面に登場。このリキんだ表情がたまらない！

ジョー　まあ、そんな感じでトラブルがあってね。あの当時はみんなビール好きだから、だいたい2ケースか3ケース控室に置いてあったんだ、試合後に飲むために。それをオレはブワーッと持ち上げて、叩きつけた！　そしたら飛んで逃げてってたよ。よく持ち上がったと思うけど（笑）。
——火事場の馬鹿力ですか（笑）。
ジョー　そうそう。外人係ってのは、そういう苦労をして、我慢するところは我慢しなきゃいけない。正直言って、あれはお金をナンボ積まれてもやりたくない仕事だね。
——それにテリー・ファンクの寝坊とか、ディック・マードックの悪ふざけとかにしても、そうとう凄かったらしいじゃないですか。
ジョー　ああ。でも、あいつらはテキサス人だから。
——陽気なわけですね。
ジョー　だから怒ったことはあるけど、心の底から怒れないのよ。それは癪に触る悪さじゃないから。それより、みみっちい奴が腹立ってくるんだよ。ことお金のことに関するとそっぽ向いて、悪ふざけだけはひどくてね。そういう奴が腹立つんだ！
——ちなみにブルーザー・ブロディとは衝突しなかったんですか？
ジョー　ブロディは誰の言うことも信用しなかったけど、オレだけにはわりと言うこと聞いてくれたよ。一度、全日本を出ていったんだけど「お前の言う通りだった。これからは絶対にお前の言うことはちゃんと聞くから」って言ってくれてね。でも、ああいうふうに心が良くなったときに逝っちゃうんだよな（しんみり）。
——ああ……。ようやく分かり合えたと思ったときですね。
ジョー　人間、本当の姿になったときにいなくなっちゃうんだよなあ。オレが説教した人間は、みんないなくなっちゃうんだよ……。ホント、寂しいよ（しみじみと）。
——散々手こずらされた挙げ句、先に逝っちゃうわけですからね。
ジョー　親身になってお説教したヤツもいるし、忠実に慕ってくれた人間もいるしね。でも、自分にプラスになることもあったよ。悪い面ばかりじゃなかったですから。
——ちょっとしんみりしちゃった

昭和プロレスの凄みに触れる
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス

スーパースター列伝

ので話題を変えてレフェリングについてもおうかがいしたいんですが、ジョーさんから見て、こいつは上手いなっていうレフェリーは誰ですか？

ジョー　教えるとか大げさなことじゃなくて、やっぱり忠実に守ってやってくれてるのはこの男だけ（と横にいる西永レフェリーの肩を叩く）。だから、安心して辞めたんです。やはり真面目に取り組んでいるというか、消化試合みたいに上がってるんじゃしょうがないし、やはり気合いを入れてやらないとね。

――ジョーさんは、やっぱりいちばんインパクトのあったレフェリーだとボクは思ってるんですよ。

ジョー　オレは自慢じゃないけど、ことレフェリングだったらオレは負けない自信はあるよ（キッパリ）。

――一番身体を張ったレフェリーでしたよね。ジョーさんの時代はレフェリーをやっていても、いろいろ言われたと思うんですよ。「反則ちゃんと見ろ、この野郎！」とか（笑）。

ジョー　ああ、そんなのいいんですよ。「いつまで寝てんだ！」とかいうのもあったし（笑）。

――「失神多いぞ！」みたいな（笑）。

ジョー　寝てるわけじゃないよ。痛けりゃ起きるより、寝てる方がましだから（キッパリ）。自分が一生懸命やってる中で試合に巻き込まれてアクシデントが起こるんだから、しょうがないと思うけどね。

――あくまでも不可抗力、と。

ジョー　マスコミ、カメラマン、お客さん、あらゆる角度から見てるわけですよね。選手が一生懸命やってる中で邪魔にならないように気も配らなきゃいけないし、ただカウントするだけじゃないの。そういうことを常に頭に入れてやってるわけよ。じゃないと選手だけじゃなくて、みんなに失礼だから。やはり三者一体になって試合が成り立つわけですよ。

――特にプロレスは、他のスポーツとは比較にならないぐらいレフェリーの役割が大きいですよね。

ジョー　いまは技と技のぶつかり合いだけの綺麗な試合が多いからいいですよ。でもね、人の気持ちを逆撫でするような、とんでもない選手ばっかりだった頃は本当に困ったよねぇ（しみじみ）。

――自伝でもジョーさんは、「現役時代よりレフェリーになってからの方は受け身が上手くなった」って書いてましたよね。

ジョー　フハハハハ！　でも本当にそうですよ。いまになって、あちこちに軟骨が出てきちゃって困るのよ。膝は両方ダメだしね。

――受け身の取りすぎですか？

ジョー　うん。リング上段のロープから放り出されたりしたからね（笑）。

――それは、ジョーさんだったらここまでやっても大丈夫みたいな信頼感がレスラーとの間にあったからだと思うんですよね。

ジョー　そういう痛さもなにも、いい思い出になってくれたらいいんだけど……。ほら、見てコレ（とヒジの飛び出た軟骨を見せる）。

――うわっ！　スゴイですねぇ。

ジョー　右腕の筋も3、4本切れてるんですよ。右手はマットの叩きすぎで指もまっすぐ伸びないから。何もかもおシャカだよ。こんなだもん。変な話、今じゃ字も書

オレが説教した人間は、みんな逝っちゃうんだよ……ホント、寂しいよ

（上）最強タッグ黎明期の凶悪外人レスラーの試合を裁き続けたジョーさんは、ときに失神しながらも身体を張りまくった。（下）荒くれ者揃いだった昭和・全日、ここで外人係をやるのには想像を絶する体力と精神力が必要なのだ。

けないもん。哀れでしょうがないよ。まあ、長くこの世界でお世話になりすぎたね。

——だけど、いまも身体は分厚いし、凄みは感じますよ！ 元レスラーっていう匂いがプンプンしますから。

ジョー そうかい？ まあ、わざわざここまで来てもらってアホな話ばっかりで申し訳ないね（笑）。

——ところで、最近は試合とか見に行かれてるんですか？

ジョー あまり行かないですけど、旗揚げ戦と暮れにやったノアの大会は行きましたよ。

——有明コロシアム大会ですね。

ジョー そう。解説がいなくてね、『サムライTV！』の。それでオレにお鉢回してきやがるんだよ！

——きやがりましたか（笑）。

ジョー しゃべるのはあんまり好きじゃないんですよ。アホなことは簡単に言えるんですけどね（笑）。やっぱりキチッとした公の場っていうのは。それで4試合も座ってたらお尻が痛くなっちゃってね。

——いまも相変わらず座ってるの苦手なんですね（笑）。

ジョー いまは体育系なんてキレイな言葉があるけど、オレなんか●●系だから（笑）。

——そりゃあレフェリーやってても体ぐらい張るし、外人係やってもケンカぐらいするわけですよね（笑）。

ジョー それでいいんじゃない（笑）。

——ダハハハハ！ 最後にちょっと、アントニオ猪木とジャイアント馬場の二人についてお聞きしたいんです。

とくにジョーさんの生き様を見て、自らスカウトに乗り出した馬場については、とても語り尽くせないほどの思いを抱いているのだろう。我々にもすべては語っては頂けなかった。

ジョー そうだねえ、御大は体が大きいわりには、どちらかと言ったら物事に慎重なところがあるわけだよね。

——そうですね。

ジョー うん。猪木の場合は常に前向きに何かをしようという、何かを探し求めるという感じでね。

——深く考えないで突き進んで行きますからね（笑）。

ジョー そういう正反対な人間同士だよね。世の中に出てトップになる人っていうのは、支えになって下さる方がご立派な人なんじゃないかな。その人も本人も一緒になって伸びていくんじゃないの？ 逆にそれが原因で心の広い人も段々狭くなって行くから、ホントに恐いよ。猪木みたいにマイペースなのに、何かを求めていける御仁はうらやましいよね。それが結果的にゼロになっても、本人は喜んで人生を謳歌してるわけだよね。

右手はマットの叩きすぎで指もまっすぐ伸びないから！

コツコツやってても周りに付いてる人の影響でみみっちくなっちゃうと何のために生きてるのか分からなくなるっていう、そこの違いじゃない？

——つくづくジョーさんは、みみっちいのが嫌いなんですね（笑）。

ジョー 日プロの頃、新幹線で移動するときに猪木とゆっくりいろんな話をしたこともありますよ。それはもう昔の昔だけど、猪木は常に何かを求めてたね。やっぱりブラジルに家族と行ってるから、大陸系の人間なんでしょう。日本みたいに狭いところで、四六時中ガチャガチャやってる人間じゃないよ。

——ホントに対照的ですね。

ジョー 今の世の中、利用できる間はチヤホヤするけど、その人間が味もそっけもなくなったら寄りつかないという、そういう寂しい人間がいるでしょ？ 偉そうに言うつもりはないけど、そういう人が多いんだよね。これは何かしてやったから返してくれってわけじゃないよ。とことん信頼して付き合った以上は、どういう状況になってもお付き合いしたいでしょ。だから話したらオレが辛くなることもあるの。だから勘弁して……。

——わかりました……。

ジョー お宅たちが外部から見て、解釈するのはご自由ですよ。オレ個人に解答を求められても辛いから、堪忍してちょうだい。いつか、オレの言ってることが分かるときも来ると思いますよ。

——そうですか……。

ジョー お宅たちみたいに、これからの長い人生があると沢山思い出を作ったり、楽しいこともあるだろうけど、オレなんかこの先に何もないんだもん（笑）。まあ、振り返ってみれば、楽しいプロレス人生だったと思いますけどね。

——そんな、まだまだお元気じゃないですか！ これからもテレビの解説したりとか頑張りましょうよ！

ジョー 解説はもういいよ（笑）。お宅の雑誌もせっかくスタートさせた仕事なんだろうから、ご商売が繁盛するように影ながら応援してますよ。

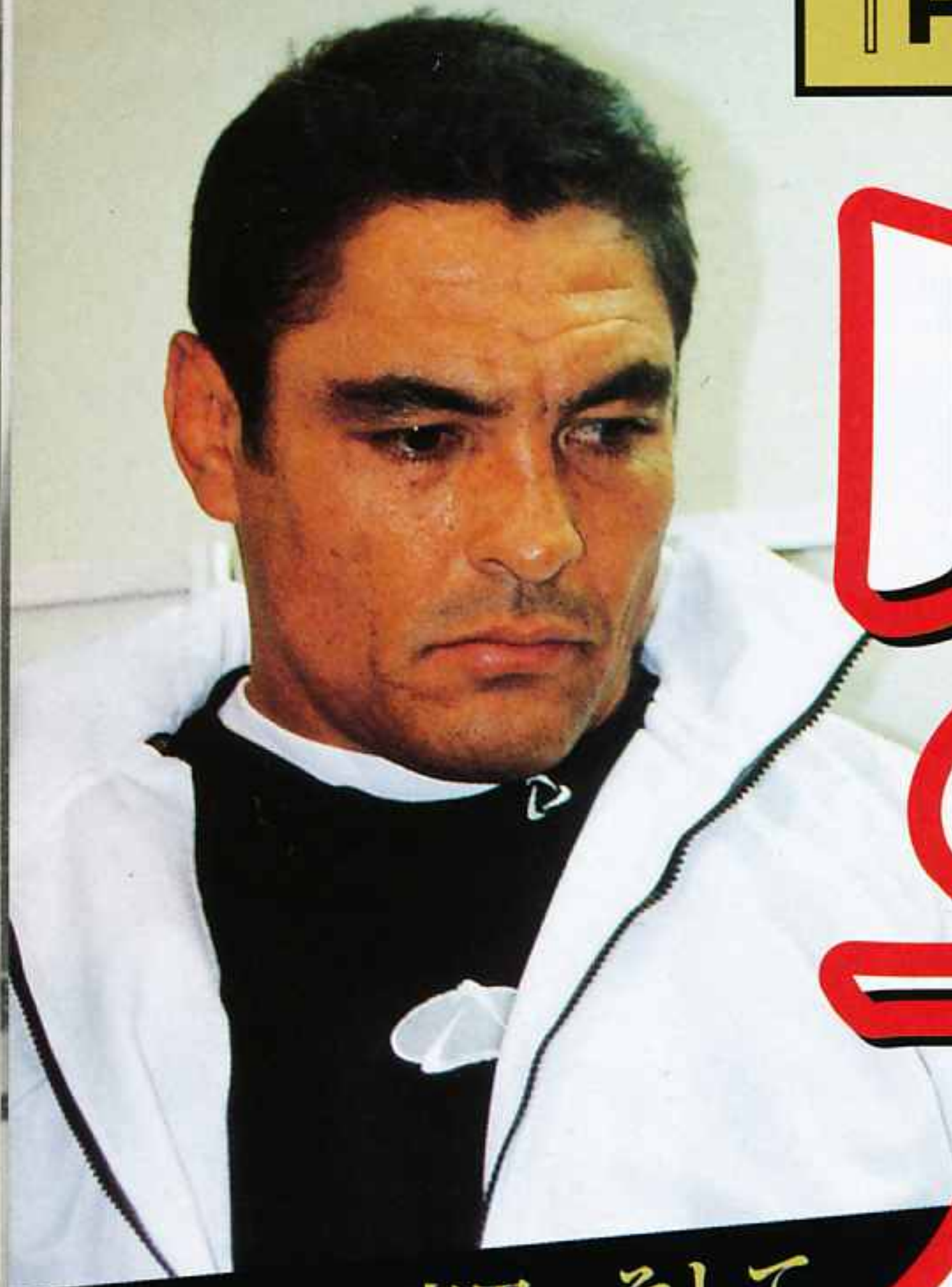
——ありがとうございます（笑）。

【01年2月6日 山梨・ハイランド・パークホテルの喫茶店にて収録】

インタビュー後記■ ジョーさんは71歳という年齢にもかかわらず、とてつもなく元気！ ハマっ子らしいベランメエ口調と、丁寧に言葉を選びながら話すギャップが非常に印象的だった。

「言いたいことはありますけど」と語るジョーさんの言葉にウソはないだろう。実際、諸事情により掲載は出来なかったが、ジョーさんはとんでもない修羅場をいくつもくぐり抜けているのだ。普通ならば愚痴のひとつは飛び出すところだが、ジョーさんは決して泣き言は言わない。これにはジョーさんのダンディズムを強烈に感じた！

ジョーさんは「お客さんに喜んでもらうこと」の重要性をインタビュー中に何度も繰り返し力説した。『紙プロ』読者の多くが、昭和・全日でジョーさんの勇姿をご覧になっていることだろう。我々の脳裏に焼き付いている、あの素晴らしい時代の記憶を壊さないようにしてくださったのかもしれない。我々はそんな優しさに感謝しようじゃないか。ありがとう、ジョーさん！

じょー・ひぐち■本名・樋口寛治。1929年、神奈川県横浜市出身。54年に大阪の全日本プロレス協会に入団。その後、静岡の山口道場を経て、力道山にスカウトされて日本プロレスへ移籍。60年にプロレスラーとして引退するが、63年に外人係兼レフェリーとして日本プロレスに復帰。72年には全日本プロレス旗揚げから参加、97年に引退。00年、ノアに監査役として参加する。現在は富士山の麓で生活中。ちなみに「Joe」の指輪はゴリラ・モンスーンから寄贈されたもの。ジャズ好きで、ニューオリンズ・セインツのトレーナーとワークブーツでキメたB-BOYファッションがたまらなくかっこいい！

3・25
『PRIDE.13』も接近!!
「新プロレス」
噂の万華鏡!!
桜庭、髙田、そして
小川直也の周辺に異変発生!!
衝撃のNEWSを
ブッタ斬り!!
39 SAKU
Where there's a will
SAKU
Where there's a will
●ヒクソンの長男が交通事故死!! どうなる小川vsヒクソン戦!!●
●ヒクソンを力でモギ取るつもりか? 髙田の“忘れ物”は小川直也?●
●近藤の『桜庭挑戦劇』に影の仕掛人あり!!●
●3・25の『PRIDE.13』のカードは?●

長男事故死で、ヒクソンの次戦はいったいどうなる？

ハクソン君事故死の衝撃と波紋と謎！小川vsヒクソン戦は延期か、それともヒクソン引退か？

A　衝撃のニュースがあったね。ヒクソンの長男のハクソン君が2月9日にニューヨークでバイク事故にあって亡くなった。残念なことにまだ19歳だったんだけど。

B　それにしても晴天の霹靂でしたね。

A　最近では、高田延彦の奥さんの向井亜紀さんの件が世間を騒がせたばかりだったからね。向井さんが子宮ガンだと判明して、授かってた子供の命と母体をどっちを取るかというシビアな状況に立たされて、最終的に子宮を摘出した。なにかそういうコメントのしようのない、痛ましい件が続いてるね、ここのところ。ハクソン君の件は、詳しい情報は入ってきてる？

C　ヒクソン夫婦はロスに住んでるんですけど、ハクソン君は、ファッションモデルの仕事もやってたそうで、その関係でニューヨークに住んでいたんですよ。で、バイクを運転中、交通事故にあったということですよね。

B　へぇ〜、ファッションモデルやってたんですか。最初に来日したときはまだ子供だったけど、すっかり大人っぽい顔立ちになって、最近はハイアン似の、けっこういい男になってましたよね。

A　ヒクソン夫婦も名前が売れるズッと以前に、日本で西友のポスターのモデルになったり、ヒクソンがアクションスターに転向する意志を持っていたり、芸能方面に非常に関心がある一家だからね。"サムライ"という部分とは別の顔だけど。

B　そういえば、ヒクソンが『水曜スペシャル』のバーゴンの中身だったとかいう、ガセネタがネット上で流れたこともありましたね。

A　まったくネット時代っていうのは、名前の知れてる人にとっては受難の時代だね。あることないこと書かれて。それを乗り越えるタフさがないと、生き残っていけないよ。

昨年5・26船木を失神ＫＯに葬ったヒクソン。彼はこのまま"400戦以上無敗"のまま引退してしまうのか。日本マット界にとってはそれは避けたいところだが……

C　でも死因が交通事故ではなくて、怪死だという関係者もいるんですよ。取材してみたら、本当はまだ死因はわかってないっていう人もいますね。

A　グレイシーだからっていうわけじゃないけど、確実な情報が入ってこないから謎も多いよね。今回の件は。ハクソン君といえば気性の荒いことでも有名だったね。

B　あれは高田が最初にヒクソンに負けたとき（97・10・11）、試合後の控え室前の通路でしたよね。さすがにショックを受けてる山口日昇（本誌鬼畜編集長）の目の前をハクソン君が通って、勝ち誇りながら廊下にツバを吐いた。それを見た山口は「あんなのがなんでサムライなんだよ。ブッ殺してやろうかと思った」って当時は怒ってましたよね。いまとなっては笑い話ですけど（笑）。

A　桜庭vsホイラー戦（99・11・21）の試合直後にも、レフェリーストップの判定に不満をもったハクソン君が、レフェリーの島田裕二にペットボトルを投げつけたこともあったね。

B　あのときは島田さんも怒ってましたけど、「ハクソン君事故死！」という情報を伝えたら、まだ知らなくて、相当驚いてましたね。

A　なんて言ってた？

B　「ペットボトル投げつけられたり、リング上で『ファック』って言われたのが走馬燈のように蘇ってきますねぇ」とか「実は『コロシアム２００１』から『ハクソンとの因縁試合をやらないか？』ってオファーが来てて、それに向けてある『虎の穴』で練習してたんだけどなぁ」なんて必死で冗談を言うものの、「でも亡くなっちゃったら、もうギャグにも出来ないよなぁ」なんて言って、なんだか寂しそうでしたね。「ハクソンもまた将来、面白い"グレイシー"になると思ってたから、ショックですね。機会があったら、あの世で闘ってみたいっていう言葉くらいしか言えないですね、いまは。心からお悔やみ申し上げます」ということでした。

A　やっぱり喧嘩しようが怒りが沸こうが丁々発止やり合おうが、元気が一番ってことだよなぁ。ヒクソンとキム夫人は、当然だけど、相当ショックを受けてるみたいだね。

C　関係者によると、遺体と対面したキム夫人のショックの受けぶりは、相当だったらしいです。『コロシアム２００１』の関係者は、11月３日に仮押さえしていた東京ドームで小川vsヒクソン戦を実現させるために、今月下旬に渡米して契約交渉を行う予定だったんですよ。でも、「非常に愛の深い親子で、いまは心情的にも契約の話はできない」と交渉の延期を示唆するコメントを13日にしてますね。その時点では、「ヒクソン夫妻はまだニューヨークのどこにいるかもわからない。ただ近日中に弔問に訪れたい。今後のことは、す

ヒクソン長男事故死

ハクソン君の死亡を報じる新聞記事。このニュースはマット界にアッという間に広まり、さまざまな形で波紋を広げた。ヒクソンの胸中はいかに。

べては1度会ってから」とも言ってました。この事故によって、小川vsヒクソン戦自体が、来年の2月か3月に延期になる可能性も出てきた。それどころか、ヒクソンはもう試合を行わないんじゃないかという声も上がってます。小川自身は、この件に関しては、どんなコメントをしてるんですか？

A　突然のことだったんで、やっぱり揺れ動いているというかショックを受けてるよね。いつものような軽口や文句は当たり前だけど出なかった。「俺も子供を持つ身として、事故は本当に残念。ご冥福をお祈りします」と言うだけだったね。

C　ヒクソンが引退してしまうんじゃないかという推測に対しては？

A　「ヒクソンが試合をやれなくても、それは仕方がない。そうなったらそうなったでしょうがないでしょう」と言っていた。小川にしてはやり切れない思いだろうけど、さすがに気持ちの切り替えは早くて、橋本真也に対して「Xは俺にやらせろ」と吠えていた（笑）。ZERO－ONE旗揚げや、猪木の元にいろんな選手が集まってる状況や、新日本の内乱は、オーちゃんにも当然波及してくるだろうから、これから「純プロレス」でも、小川の出番は増えていくでしょう。2・18の新日両国、3・2のZERO－ONEには弟分の村上一成も乗り込むことだしね。

B　でも、いまの時期にこんなこと言うのは不謹慎かもしれないですけど、今回の事故でヒクソンが試合を行わないということは本当にあるんですかね？　ふつうの会社の重役クラスでも、一等親族が死んでも1週間が限度ですよ、休めるのは。

C　でも、格闘家という仕事は闘いに対してモチベーションが下がっちゃったら、リングに上がることは強要できないからねぇ。「息子に自分の生き様を見せるためにリングに上がっていた」という関係者もいるんだけど、もしそうなら、精神的支柱を失ったのは辛いでしょうね。

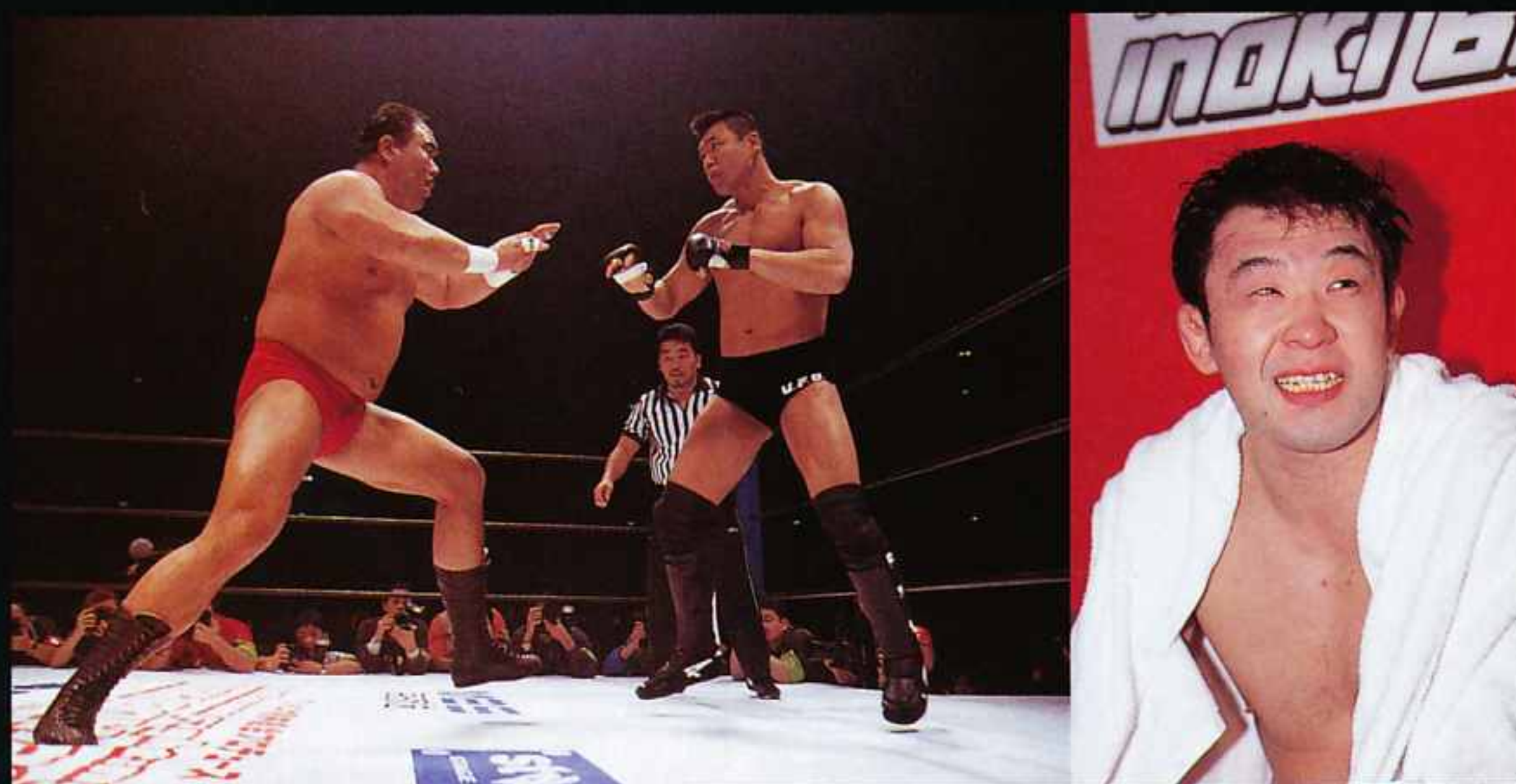
B　ヒクソンは、2月から4月にかけて、映画撮影のスケジュールが入ってましたよね。

A　その撮影の合間に小川戦の正式契約までこぎつけたかったみたいだね、『コロシアム』サイドは。ヒクソンの次の対戦相手は、小川、桜庭、長州の順の実現度だったけど、桜庭はなんて言ってる？

C　先日、CM撮影の際に記者に囲まれて「もうこれで引退しても仕方がないんじゃないですかね。頑張ってくださいとしか言えません」というコメントをしてます。

A　そうか。もともと次の闘いが最後というふうに言われてもいたけど、頑張ってモチベーションを復活させてほしいけどね。いずれにしても、今後の展開は、ヒクソン自身が口を開かないと見えてこないね。ハクソン君の事故に関しては、本誌としても、心よりご冥福をお祈りします。

「新プロレス」噂の万華鏡!!

3・25シウバ戦が決定した桜庭の今後の展開は？

11・3東京ドームで実現濃厚と言われていた小川vsヒクソン戦。もうひとりヒクソン戦を待望されていた桜庭和志は、3・25『PRIDE.13』で強豪ヴァンダレイ・シウバと対戦が決まった。ある意味、ヒクソンよりも手強い相手だ

桜庭の次の相手はシウバ!! 対グレイシー以外の新しい展開が見えるか？

A　ところで、桜庭の『PRIDE.13』の相手がヴァンダレイ・シウバになることがDSEから発表されたね。

C　シウバは前戦で、ダン・ヘンダーソンを判定で破ったときや、"膠着大王"ガイ・メッツァーをKOしたときのモチベーションの高さは尋常じゃなかった。今度こそ桜庭が危ないっていう声は多いですね。

B　桜庭の忙しさは尋常じゃないですよね。先月は月に60本も取材や撮影があったそうですから。飲みのほうもあるでしょうし（笑）、練習不足が一番心配ですよね。実際練習時間が十分取れないみたいだし。

A　でも、ビクトー戦でも、ヘンゾ戦でも、今度こそ危ないと言われたときに、サクは信じられない強さを発揮するからね。確かにシウバのようなバーリ・トゥードのセオリーを熟知した上で、オリジナルの組み立てを持ってる選手には、サクが負ける確率は多いんだろうけど、それでも大丈夫だと思うね。それより、トップという立場から『PRIDE』の今後のことを考えちゃったり、取材攻勢も含めて、そういう目に見えないプレッシャーで集中力を欠いちゃったら怖いよね。集中できれば大丈夫でしょう。面白い試合になるだろうし。

C　でも、このシウバ戦が組まれたことで、『PRIDE』は、桜庭vsヒクソン戦を完全に諦めたという見方をする関係者もいるね。たしかにヒクソン戦を照準に入れてたら、シウバ戦は危険すぎて組めないというのは的を得てると思いますよ。

A　シウバに勝つにせよ負けるにしろ、「純プロレス」とどう関わっていくのかっていうことも含めて、サクとしては今後の岐路に立たされてるよね。

B　「いや、別に。なんにも考えてないです」とか本人は言いそうですけどね（笑）。

A　シウバを突破したとしても、次の大きな目標というか、大きなテーマがいまのところ見えないけど、今後は桜庭が防衛戦を行っていく感覚になるから、シンドイよね。

B　ここらで、リングス以外のリングに上がりたがってる田村潔司とやるしかないんじゃないですかね？

A　それは見たいけどね。

B　でも、近藤有己の桜庭への挑戦も揉めましたしねぇ（笑）。

A　それは後で話そう（笑）。でも確かに日本人の他団体対決を実現させる突破口を、各団体の関係者には、もっと真剣に模索してほしいよね。

高田延彦の"忘れ物"の正体は小川直也なのか？

佐竹と桜庭だけに伝えた高田の"忘れ物"の相手。どうなる高田の『PRIDE』最終試合

A 高田延彦の"忘れ物"の件だけど、やっぱりモーリス・スミスじゃないようだな（笑）。

B あの推測は面白かったですねぇ。『ナイガイ』の（笑）。

C 去年10月の『PRIDE.11』でボブチャンチンに完敗を喫した高田が、11月に入ってから、「"忘れ物"を取りに行く。もう一度『PRIDE』のリングに上がる」っていう発言をしたんですよね。

B 「もう一丁！」ですね。高田は「ノー問題」とか「ノーヒント」とか、短い言葉の流行語をつくるのがウマイですよね（笑）。

A 本人は意識してやってるわけじゃないんだろうけどね（笑）。でも、奥さんの向井亜紀さんの件が発覚したのが、ボブチャンチン戦が発表された当日で、ボブチャンチン戦もやるべきか降りるべきか悩んだっていうのも、もう有名な話だよね。

C それを高田は敗戦の言い訳にはしてないんですけど、もう一度集中してバーリ・トゥードに挑みたいということなんでしょうね。で、自分の中にテーマを持って、なおかつモチベーションをあげていける相手が"忘れ物"ということですよね。

A 前号で掲載したインタビューでもわかるけど、高田は『猪木祭り』で4年ぶりに「純プロレス」回帰を果たしたものの、試合内容に関しては納得がいかなかったみたいだね。だから、今後「純プロレス」に気合いを入れてシフトしていくためにも、"忘れ物"を取りに行って、なおさらバーリ・トゥードにケジメを付けたいという思いは強くなったみたいだよ。

B "忘れ物"の相手としては、『ナイガイ』が一面で打ったM・スミス、他にはホイスとの再戦、桜庭和志との師弟対決、タイソンやホリフィールドの名前まで挙がってましたよね。ヒクソンとの"3度目"も驚天動地であるんじゃないかなんていう声もありましたよね。あとは、小川直也……。

A その小川だよ！ "忘れ物"の正体は！

B そ、そうなんですか!? それは高田本人から聞いたんですか？

A いや、聞いてない（笑）。

昨年10・31『PRIDE.11』。夫人のヘビーな件を抱えながら、ボブチャンチンという高い山に挑んだ高田。一敗地にまみれたが、高田の"挑む心"は賞賛に値する

B ズコッ！

A でも、間違いないと思うよ。高田は去年の年末の時点で、佐竹と桜庭には相手の名前は伝えてあると言ってたんだよ。桜庭はともかく、いくら練習仲間とはいえ、佐竹に伝えてあるっていうところから勘ぐって小川じゃないかと目はつけていたんだけどね。

C ある日、練習中にフと、小川ならモチベーションをあげて『PRIDE』最終試合に臨めると思ったということですよね。

A やっぱり、盟友・佐竹の仇討ちに俺が行くっていう思いがあるのも推測できるし、かつて小川に挑発されていたこともあるしね。

B 一昨年の記者会見の席では花束まで投げつけられた仲ですからね（笑）。

A 高田が「チンピラだよ、チンピラ」っていう名言を残したときね（笑）。高田にとって小川は鼻持ちならない存在だったんだろうけど、いまはそういう次元じゃなく、ある意味で小川の存在を認めて「闘ってみたい」という部分があるだろうね。

B 高田は格闘登山家ですからね。より高い山に登ってみたいという。

C ある意味、"グレイシー"や、ケアー、ボブチャンチン、コールマンらと同じ位置に見ているということですよね。

B ところで、"忘れ物"が小川というのは、何が根拠なんですか？

A いや、今回の高田のスタンスは、アウトラインが決まってからじゃないと相手の名前を出さない、決まってないものを言いたくない、というものだったけど、実現させるには関係者が動かなきゃならない。佐竹と桜庭だけが知っているという状態を続けられるもんじゃないから、情報は入ってくるでしょ。実際に交渉のスタートラインには立ってるし。

C 実はボクも、あるラインからその話は聞いてたんですけど、高田自身が小川の名前を出さないので、表に出る前に立ち消えになったのかなと思ってたんですよ。実現の可能性はあるんですか？

A それはまだわからない。というのも、一昨年、小川が『PRIDE』に上がったのも、ヒクソン、高田を標的にしてたからでしょ。で、半年以上、いろんな手を使って、高田に対戦要求してたんだけど、高田の心は動かなかった。だから、"何をいまさら"という思いが小川のほうにあるようなんだよ。その気持ちもわかるんだよな。

C それに、今度のさいたまスーパーアリーナ（3・25『PRIDE.13』）では、佐竹の小川へのリベンジマッチが組まれる予定だったんですよね。でも、猪木さんが、「小川は逃げない。もっと強くなった佐竹とやりたいはず」と言ってるように、小川サイドとしても、いまこの時期にやる必要はないんじゃないかという思いがある

みたいですね。

B　確かにいま見たいカードではないですよね、なにか伏線がないと。

C　今日（2・16）、DSEが記者会見を開いて3・25のカードを発表したんですよ。桜庭vsシウバ、ボブチャンチンvsケンシャム、ヘンゾvsダン・ヘンダーソンという、世界中のVTファンが大喜びする3カードだったんですけど、プロレスファンが喜びそうな安田忠夫のカードは発表されなかったんですね（笑）。でも、安田参戦は確実で、その相手は佐竹が濃厚ですね。

B　『PRIDE．11』と『猪木祭り』で小川にイカれた者同士で、リベンジ権を賭けた対戦ってわけですかね。

A　俺も現時点では確定マークは打てないけど、実現濃厚だと思うね。去年の夏に、「新日本の選手とやらせてください」と佐竹は猪木に頭を下げたこともあるしね。

桜庭vsヒクソン戦を力でモギ取るために、高田は小川直也と闘いたいのか？

B　でも、小川の『PRIDE．13』出場はあるんですか？

C　新日本の内部闘争や、ZERO－ONE旗揚げ、猪木軍団結成の不穏な動き（笑）なんかがあるから、「純プロレス」からのオファーが相次いでるって話ですよ。

A　引っ張りダコみたいだね。でも、ヒクソン戦もどうなるかわからないし、小川が「面白い」と思える相手じゃないと、出てこないんじゃないか。

B　佐竹が安田戦になるなら、小川vs高田戦が急転直下3・25に組まれるっていうことはありえないんですかね？

A　俺も最初は、あっても3月の次の『PRIDE』、5月か6月かと思ってたんだけど、3・25で行われるように関係者が動いてるっていう情報も掴んでるんだ。

B　え！　もし3・25に組まれたら凄いことになりますよ。超ビッグ・カードじゃないですか！　今回、ウチでプロレスファンじゃない一般の女の子にアンケート取ったら、「彼氏にしたいプロレスラー＆格闘家ナンバーワン」の座は、高田がゲットですよ！　対象はギャルですよ、ギャル（笑）。

C　ギャルって（笑）。でも38歳で、「彼氏にしたい人」に選ばれるっていうのは、20代のボクからみれば憧れですよ（笑）。やっぱり夫人の向井亜紀さんのヘビーな件があっても、毅然とした態度で通したことが好印象に繋がってるんでしょうね。

B　いま高田の好感度と評価はうなぎのぼりですよ。

A　さっきの、盟友である佐竹の仇討ちに出ていくっていう推測も含めて、強い選手に挑んでいく姿が、訴えるものがあるんだろうね。加えて、夫人の大変な一件にも目を背けずに、キッパリとした態度だったから当然だろうね。美談というのは、とかくうさん臭いものなんだけど、高田の場合は、ほんとにいろんな面で頑張ってるから届くんだろうね。

B　だから、もしいま小川vs高田が実現したら、究極のベビーフェイスvsヒールの図式になるんじゃないですか。

A　小川だったら、ヒールにぴったりの存在だからな。あの憎々しい態度は（笑）。

C　"忘れ物"発言があった頃から、「高田の"忘れ物"が小川だったら、その勇気を認めて心底応援する」っていうファンが多かったからね。

A　いまはリアルな時代だから、強い者が勝つっていう現実を突きつけられるかもしれないけどね。勢いは完全に小川のほうだから。それも含めて見てみたいね。

C　それともうひとつ、高田が小川から力でヒクソンをモギ取って、桜庭vsヒクソン戦を実現させたいっていう意味もあるんじゃないですかね。

A　それはあるだろうね。ハクソン君の事故死によって白紙に戻った感もあるけど、ヒクソンの次戦候補は小川が一歩リードしてたのは事実だから。高田にとってはサクvsヒクソン戦は悲願だろうから、自分ができることは、小川戦を実現させて勝って、サクvsヒクソン戦実現のサポートをすることだと思ってるんじゃないかな。

B　そうだとしたら美しいですよね。

A　だからこの一戦が実現するかどうかはわからないけど、あとは、高田自身が小川の名前を口にして、ファンの後押しがあれば、オーちゃんの気持ちも動くかもしれないね。ヒクソン戦のスケジュール等があるから一概には言えないけど。

「新プロレス」噂の万華鏡!!

小川が次に『PRIDE』のリングに上がるのはいつ？

昨年10・31、高田が練習を共にする盟友・佐竹雅昭を斬って落とした小川直也。ヒクソン戦を照準にいれているが、今年のオーちゃんの飛行っぷりは、どんな軌道を描くのか。純プロレス、バーリ・トゥードと小川への挑戦者は増えてきそうだ

Show氏パンクラス出入り禁止事件の衝撃真相とは？

A　2・4のパンクラス後楽園大会で石川英司に勝った試合後に、近藤有己が「桜庭選手とやりたい」と爆弾発言をしたよね。

B　「パンクラスは落ち目だから」という余計な発言までありました（笑）。

C　これは業界で話題になってますけど、この仕掛け人はＳｈｏｗ氏なんですよね。

B　実にワンダフルですねぇ。あれだけパンクラスに入れあげてたＳｈｏｗ氏が、パンクラスから出入り禁止になるとは（笑）。

A　パンクラスの尾崎社長は、発言の真意を近藤に問いただしたところ、Ｓｈｏｗ氏の名前が出てきたらしい。

C　尾崎社長は、近藤が「桜庭に挑戦したい」なんて言うなんて、まったく青天の霹靂だったんでしょうね。それまでに何も聞いてなかったらしいから。他団体の選手の名前を下交渉なしに出すのはトラブルの元だと、尾崎社長は嫌うでしょうからね。

A　Ｓｈｏｗ氏が後楽園大会の数日前に、近藤と食事したらしいんだよ。

B　六本木の「瀬理奈」で食事して、そのあと飲み屋とキャバクラに行ってＳｈｏｗ氏は自腹で15万円使ったって、なぜかターザン山本のＨＰ『マイナーパワー』に書いてありましたね（笑）。

A　ダハハハ。で、近藤が「もっと上を目指したい」みたいなことを言ったらしいんだよね。そこで「だったらいま輝いてるのは小川と桜庭なんだから、どっちかと闘って勝てばいいじゃない」って言ったんだって。

B　で、近藤が「どうやったら闘えますかね？」って聞いたんですよね。

A　だから、「誰かがセッティングしてくれても、自分で『やろう、やりたい』と思わない限り出来ないんだから」と言ったらしいんだよ。

C　それで、尾崎社長の確認を取らずに発言してしまったと。でも、尾崎社長からしてみれば提携している『ＵＦＣ―Ｊ』や『ＤＥＥＰ』に顔が立たないというのもあるだろうし、そりゃあ怒りますよ。

A　「あんた、なんてことしてくれたんだ」ってＳｈｏｗ氏は尾崎社長に怒られて出入り禁止、選手への電話も禁じられたらしい（笑）。でも、Ｓｈｏｗ氏からすると、なんらかの行動に出れば」と食事の席で言っただけで、「あれは近藤の意志」と釈明したらしいけどね。そうしたら、「その言い方は卑怯だし、やり方が汚い」って、また怒られたらしいよ（笑）。近藤の発言を受けて、ＤＳＥの森下社長が「いきなり桜庭は無理だけど、『ＰＲＩＤＥ』に上がってくれるなら、ヘンゾとマッチメイクしてもいい」と言ったんだよね。

B　近藤とパンクラスにとってはヘンゾとやれるなんてチャンスだと思うんですけどね。

A　それはそうだと思うよ。負けたっていいんだから。でも、『ＰＲＩＤＥ』のペースで事が運ぶのは尾崎社長の美学ではダメなんだろうね。去年の夏、尾崎社長と森下社長が会うきっかけをつくったのもＳｈｏｗ氏なんだけど、やることやること裏目に出る。そういうワンダフルな素質があるんだよなぁ。

B　近藤が願望を口にしたんだから、積極的に動いてほしいですよね、尾崎社長には。

昨年５月の時点では、ヒクソン戦を臨んでいた近藤。年末にＴ・オーティズに敗れ、その夢は遠のいたが、これを機にもっと積極的に働きかけてもいいんではないだろうか。尾崎社長とよく話し合って（笑）

3・25　さいたまスーパーアリーナ

『PRIDE.13』願望込みの仰天カード大発表

（一部予想！ but 外れてもノー責任!!）

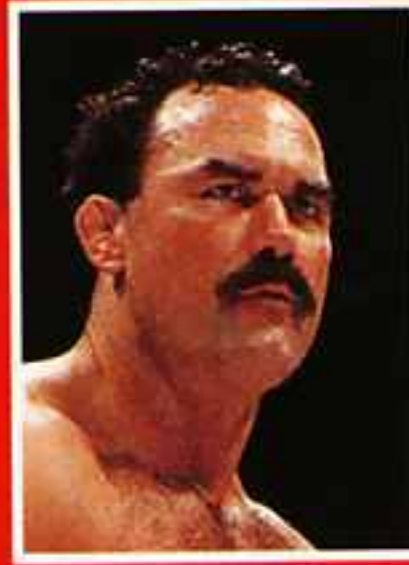
全世界の格闘技ファン垂涎の一戦!!

桜庭和志×ヴァンダレイ・シウバ

いつの間にかヒクソンに変わって世界中の強豪から狙われる立場にまで昇りつめたサク。今回その対戦相手の座を“戦慄のヒザ小僧”シウバが遂に射止めた！　シウバは知名度こそ劣るものの、ＶＴの実力ではグレイシー一族以上と言われる強豪中の強豪。しかも今回から両手両足が付いた状態での蹴りが認められるため、ルール的には打撃系のシウバ断然が有利。このため一部では「桜庭危うし！」の声も上がる中、サクはこの“最強のチャレンジャー”をどう料理するのか!?　キラーサクに期待！

新・闘魂伝承対決！
空手と相撲が大激突!?

佐竹雅昭×安田忠夫

アントン入りした安田の『PRIDE』参戦が早くも決定！　対戦相手は16日現在未定だが、同じく昨年猪木に師事した佐竹が濃厚。はたして安田の挑戦は丁と出るか、半と出るか!?

ドン・フライ
驚愕の初参戦か？

ドン・フライ×ビクトー・ベウフォート

衝撃ニュース！　“黒のアルティメット王”ドン・フライの『PRIDE』初登場が噂にのぼっている。この一戦が実現すれば凶器グローブ疑惑まで浮上したフライのパンチがビクトーの顔面をぶち抜くか!?

格闘技世界戦、勃発!!

イゴール・ボブチャンチン×ケン・シャムロック

ケアーとのリマッチを退け、もはやどうにも止まらない勢いのボブチャンチンにシャムロックが挑戦！　ハードパンチを売り物にする両者だけに、ＫＯ決着は必至！　この一戦に膠着はありえない！

夢の対決！
ヘンゾvsKOK王者実現

ヘンゾ・グレイシー×ダン・ヘンダーソン

ミドル級屈指の実力者である、初代KOK王者ヘンダーソンとヘンゾの夢の対決が実現！　この勝者とサクvsシウバの勝者で真のミドル級世界一決定戦が『PRIDE.14』で実現か!?（気が早い？）

二転三転し、正式発表が遅れていた『PRIDE・13』の一部主要対戦カードが締めきり真際に遂に発表になった！

見てみ、このラインナップ！超満員の観衆を集めながら、内容的にはミソをつけてしまった前回の『PRIDE・12』の評判を一気に挽回しようという、DSEの意気込みが伝わってくるような豪華カードである。

今回正式発表されたのは、桜庭vsシウバ、ヘンゾvsヘンダーソン、ボブチャンチンvsケン・シャムロックの3試合。これだけでも凄いが、『PRIDE・GP』を回避してまで開催した今大会だけに、まだまだ驚愕の追加カードが期待できそうだ。とりあえず現段階では上記のような〝猪木プロデュース〟のスペシャルマッチも実現濃厚だという。すげぇ！

チケットは早くもほぼ完売状態。21世紀も『PRIDE』の独走状態からスタートする！

チケット絶賛発売中!!

◆3・25（日）さいたまスーパーアリーナ
◆開場15:00　◆試合開始17:00

◆チケット情報（入場料/全席指定・消費税込み）
VIP●100,000円（特典付：専用入場ゲート、グッズ付）
SRS●23,000円　スタンドS●13,000円
スタンドA●7,000円
★桜庭応援シート〈スタンドS●13,000円　応援グッズ付〉をDSE、PRIDEオフィシャルサイトにて販売

◆チケット発売所
PRIDEオフィシャルサイト　http://pride.jside.com
チケットぴあ、ローソンチケット他

◆全てに関するお問い合わせ　DSE　03-5775-5700

2月の総合系ビッグマッチはリングスだけじゃない！まさに裏KOKな注目大会がアメリカで開催！

構成／水戸泉
text by Izumi Mito

2.24 キング・オブ・ザ・ケージ7

アレクがメッツアーと再戦！ ここで負けたらアレク・イズ・デッド？

前号、本誌選定のMWP（モスト・ワースト・パーソン）に輝いたアレクが、アメリカの地でかつての“膠着大王”メッツアーとのリマッチに挑む！ MWP受賞の決定打となったと言っても過言ではない前回の敗戦からちょうど2ヶ月。またしても敗れて、MWPを防衛なんてしようものなら、もはや言い訳無用！ アレクに浮上の余地ナシ！ まさに、アレク・デッド・オア・アライブな一戦である。金網から生還しろ！ 頼むぞ、アレク！

高田道場 in USA リコ・ロドリゲス＆今村雄介参戦！

高田道場が二人の刺客をアメリカに送り込む。“若大将”リコは高田道場に移籍してから初のキング・オブ・ザ・ケージへの参戦。メインでポール・ブエナテロなる未知なる相手と対戦。そしてもう一人の男こそが“高田道場の新鋭”今村雄介である。中学、高校、大学時代にレスリング日本一に輝いたキャリアもさることながら、毎日、高田道場の猛者共にかわいがられてきた凄玉である。対戦相手はアレックス・アンドラデ。この男のデビュー戦は各自注目！

柔道＆サンボ日本一 大器・大山利幸VTデビュー！

昨年はアブダビ・コンバット、コンテンダーズにも出場。マニア間では評価の高い職人肌が遂にバーリ・トゥードデビュー戦に挑む！ 相手は『PRIDE.11』でアレクに敗戦し、その後バトラーツマットにも登場したマイク・ボーグ。大山の打撃への対応を不安視する声もあるようだが、実はアマ修斗でも得意の組技を封印して、打撃だけで優勝していいるだけに、そんな心配はノー問題！ ここは大山が踏みだした新たな第一歩に刮目せよ！

2.23 UFC-30

宇野薫UFC電撃参戦！ 念願のパルヴァー戦、あっさり実現！

パルヴァーってどんな選手？

本名ジェンス・パルバー。少年時代からのレスリングキャリアの持ち主だが、ハードヒッターとして知られる猛者。昨年11月のUFCで、あまりにも強烈な左フック一撃で相手を破壊！ 試合タイムは僅か10秒！ そのときの対戦相手が、修斗のリングでルミナと2度対戦経験のあるジョン・ルイスだったために、一気に日本の格闘ファンの間にも名前が知れ渡った“ぶっこわし屋稼業”。UFCでの戦績は3勝1分。これまた修斗で馴染み深いジョン・ホーキからも勝利を収めている。いずれにせよ、宇野と好勝負を演じられる選手であることは間違いナシ！

修斗王座返上からわずか2カ月、
星の王子、アメリカへ行く。
早くもUFC王者に君臨か？

UFC−30 主要対戦カード

▼UFC世界ミドル級選手権（5分5R）
ティト・オーティズ<王者>
vsエヴァン・タナー<挑戦者>

▼UFC世界バンダム級 初代王者決定戦（5分5R）
ジェンス・パルバーvs宇野薫

▼ヘビー級戦（5分3R）
ペドロ・ヒーゾvsジョシュ・バーネット
ボビー・ホフマンvsマーク・ロビンソン

▼ミドル級戦（5分3R）
ジェレミー・ホーン
vsエルビス・シノシック

▼ライト級戦（5分3R）
ファビアーノ・イハvsフィル・ジョンズ

宇野薫、UFC参戦！ ジェーン・パルヴァーとのタイトルマッチに挑む！

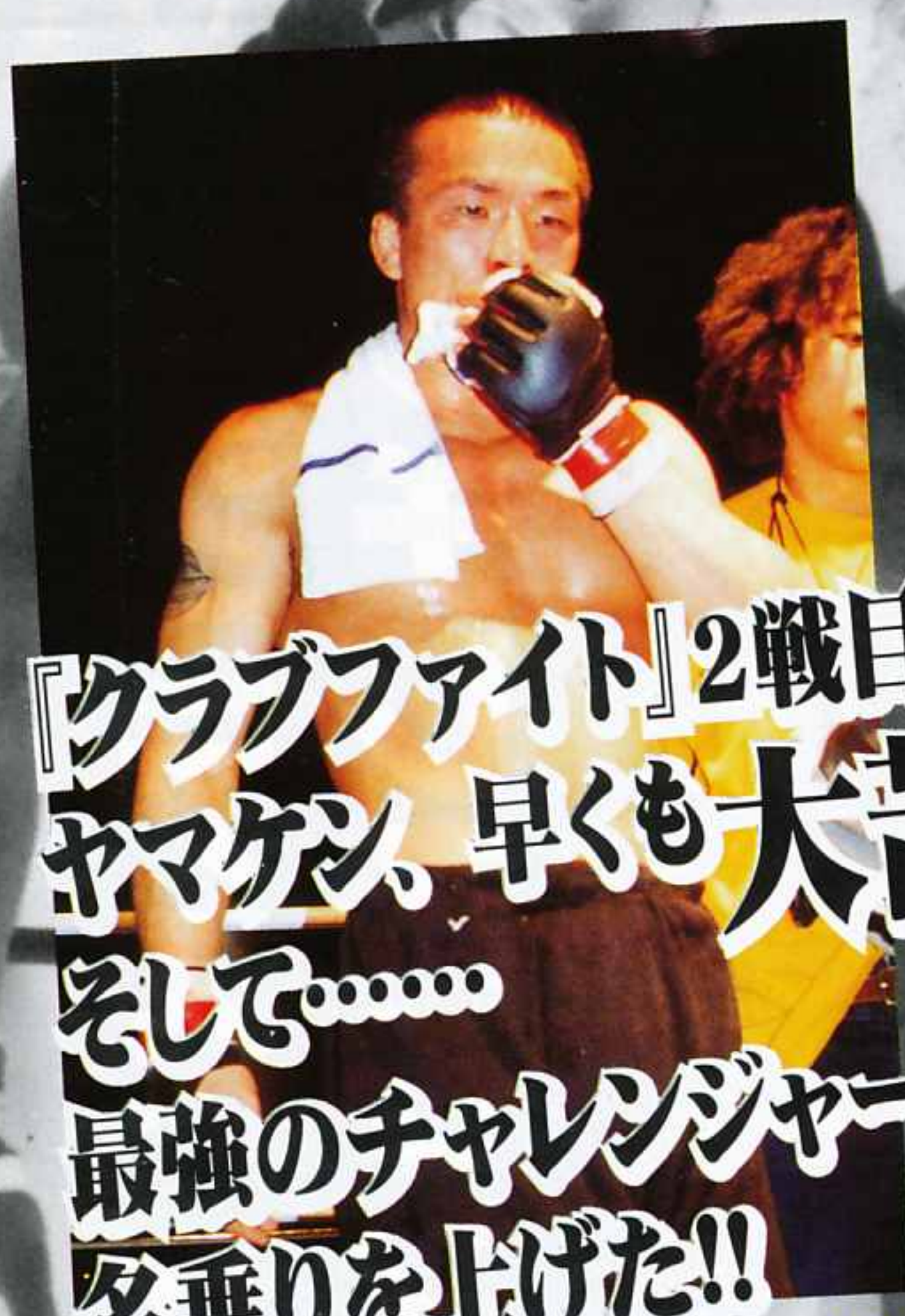
本誌のインタビューで宇野自身がパルヴァー戦を熱望していたのはまだ先月のことで、宇野陣営もこんなに早く対戦が実現するとは思っていなかったぐらいの電撃参戦である。パルヴァーは知名度こそ低いものの、“パルヴァライザー”（粉砕器）の異名通り、アグレッシブなこの上なしの闘いぶりで連勝街道を爆進し、今のUFCには欠かすことのできない実力者。しかしながら、挑む気持ちで勝負に望んだときの宇野の強さはルミナ戦で実証済みだけに、ここであっさりUFC王座に君臨する可能性は小さくはないはずである。

ルミナを返り打ち＆修斗王座返上～猪木祭りへの出場で一気に格闘技ファンの間でヒールに登りつめた宇野だが、今回の一戦でそんな周囲の雑音をシャット・アウトしてほしいところだ。

日本でもお馴染みの選手がズラリと登場するUFC−30は2月23日、ニュージャージーで開催！

さらにその翌日、遠く離れたカリフォルニアで開催される『キング・オブ・ザ・ケージ7』ではアレクとメッツアーのリマッチが！ さらに今村と大山の二人の超新鋭がVTデビュー戦に挑む！ 高田道場所属の今村のセコンドにはサクが！

アメリカの2大なんでもあり大会にこれだけの見所を用意されたら、さすがに貧乏なことだけが自慢の本誌編集部でも、指をくわえているわけにはいかないでしょう！ ということで本誌UFC＆キング・オブ・ケージ完全密着リポートを敢行ーッ！

この号が発売日される頃には、すでに決戦直前！ 次号を待て！

『クラブファイト』2戦目で
ヤマケン、早くも大苦戦！
そして……
最強のチャレンジャーが
名乗りを上げた!!

驚愕！
あのセッド・ジニアスが
パンクラスに現わる！
鈴木みのるに挑戦状!?

え～～紙の～～っ!!なニュース満載!!
特ホウ王国

スキャンダルを経営に結び付けられないヤツは、経営者失格だ！　とアントンが叫ぶように、マット界にはスキャンダルが溢れている。ここでは、数あるスキャンダルの中でも、本誌だけが掴んだ独占スクープを一挙に公開！　皆さん、一緒に叫びましょう！　え～～～～～～～～ッ!!

Jd'道場潜入リポート！
なんと『ReMix』のヒロイン
藪下めぐみが素人男と
ガチンコスパーリング！

引退したエンセンが
独占激白！
え！「大仁田さんになるヨ」宣言!?

悲しき天才

セッド・ジニアス、パンクラスに現る！「キャッチレスリング？面白いじゃないか！」

2・4後楽園ホール

時代の先っちょを行く独走スクープ!!

見てみ、この驚愕のツーショット!!"21世紀の星""海人"船木誠勝と"20世紀最大のレスラー""鉄人"セッド・ジニアスの世紀を超えた歴史的握手の瞬間である！

この誰も予想だにしなかった夢の組み合わせはいかにして実現したのか!?

話は今年の1月中旬にまで遡る。本誌編集部に突如一本の電話が掛かってきた。電話の主は"ネイチャー・ボーイ"セッド・ジニアス。なんでも「パンクラスの2・4後楽園ホール大会に視察にいきたいので、チケットが手に入らないか」というのだ。

パンクラスのチケットの手配を本誌に頼むとは、さすがジニアス、どうかしてる。んなもん無理に決まってるので、やんわりと突っぱねると、ジニアスはなんと自らパンクラスの事務所に電話をして直接「招待券がほしい」と嘆願！　これまた無理に決まってる……と思いきや、なぜかホントにチケットが送られて来たというのだ。いいぞ、パンクラス！

こうして悲しき天才は晴れてパンクラス後楽園大会に来場。会場内でジニアスは尾崎社長、船木誠勝プロデューサーと名刺交換に成功！　パンクラスとUNWのハイブリッド（混合）はこうして歴史的第一歩が記された。そして試合後本誌はジニアスを直撃。パンクラス初観戦の感想と今後の展望を語ってもらった。では、どうぞ！

——パンクラス初観戦となったわけですけど、いったいどこに興味をもったんですか？

ジニアス　UNWの次回興行で、ちょうどキャッチのような試合を組もうと思ってたんだよ。そしたら、同じ頃に鈴木選手も俺と同じようなことを考えて、キャッチレスリングを始めるって聞いて興味を持ったんだよね。

——で、実際に御覧になった感想はいかがですか？

ジニアス　鈴木選手の試合は凄く面白かった！　俺的には今日見たなかでは一番面白かったね。鈴木選手がやった試合っていうのは、俺なんかがルー・テーズの所で毎日やっていたようなことと同じような感じなんだよね。ある意味、革新的な感じであり、ある意味、原点回帰でもある。もともとプロレスっていうのは、アマレスのエキスパートがお客さんの前でレスリングの技術をいかにお客さんにわかりやすく見せるかっていうので始まったわけだからね。そうやって見るとキャッチレスリングっていうのは、百年前のプロレスのスタイルなのかもしれない。

——今日は鈴木選手が負けてしまいましたが、結果についてはいかがですか？

ジニアス　まぁ、今日は負けちゃったけど、鈴木選手はキャッチレスリングっていうもの。レスリングの原点的なものの種を蒔いている時期だと思う。だからある種、模索してる部分もあるだろうし、いろいろ試したいこともあるだろうから、あまり勝敗にはこだわらなくていいんじゃないかな。

——では、ジニアス選手はキャッチレスリングのルールで鈴木選手と闘ってみたいという気持ちはあるんですか？

ジニアス　どうだろうね？　それよりもテーズ道場にいた選手とか、基礎のしっかりした選手だけども日の目に当たっていない選手がアメリカにはたくさんいるんだよ。パンクラスさんがそういう選手の受け皿になってくれれば、

この日は、ジェイソン・デルーシアに三角絞めで敗れてしまった鈴木。試合後には近い将来の引退をほのめかすような発言もあった。引退前にもう一度、鈴木の大勝負が見たい！

きた。電話の主は"ネイチャー・ボーイ"セッド・ジニアス。なんでも「パンク

嘆願！　これまた無理に決まってる…
…と思いきや、なぜかホントにチケッ

クラス初観戦の感想と今後の展望を語
ってもらった。では、どうぞ！

——今日は鈴木選手が負けてしまいま
したが、結果についてはいかがです

んいるんだよ。パンクラスさんがそう
いう選手の受け皿になってくれれば、

紙の特ホウ王国

これはマット界のためにもなるし、パンクラスのためにもなるし、そういう選手のためにもなると。だからそういう選手をパンクラスに送り込みたい気持ちがあるね。

——グラバカのように"チーム・悲しき天才"が出たら面白いですよね（笑）。

ジニアス　明日からまたアメリカに行くんだけど、そういう選手を発掘してくるから。それからUNWに呼ぶための誰もが知ってる大物とも接触してくるから楽しみにしててよ。まぁ、今日はとにかくパンクラスの試合を見て面白かった、と。あと鈴木さんとの試合はなるようにしかならないんじゃないの。機会はないことはないと思う。

鈴木選手の試合はプロのレスリングですよ

※このインタビュー後「鈴木選手への手紙」と表した文面がジニアスから届いた。ここではそれを全文紹介しよう。

「鈴木選手の持っている一番のものはアマレスだと思う。昨今の格闘技界の変貌により、パンチ、キック等、いろいろなものにチャレンジ、紆余曲折し、今改めて自分の原点に戻ったのでは。原点に戻りつつ最終地点に到着したのかもしれないですね。「プロレスとは何か?」「プロレスのレスとは何か?」、プロレスとは、やはりプロのレスリングであり、レスリングのプロがやるプロのレスリングであるはず。決してムーンサルトとフランケンシュタイナーができればいいレスラーというものではないはずである。昔、NWA世界ヘビー級選手権試合"チャンピオン"ルー・テーズ対"挑戦者"カール・ゴッチ戦なんていう試合もあったんですよ。どんな試合だったんでしょうかね？　想像しただけでもワクワクしちゃいますよね。ラリアットのかまし合い、ムーンサルト、フランケンシュタイナー、有刺鉄線へのぶつけ合いなんかもあったんですかね？　それで笑いが出るってことはどれだけ現代のプロレスがレスリングからかけ離れてしまっているかということの証拠ですよ。今日の鈴木選手の試合は誰が見てもレスリングですよね。プロのレスリングですよ」

はたしてこれはジニアスから、鈴木みのるへの挑戦状なのか!?　かたやテーズの弟子、かたやゴッチの弟子。闘いのテーマは整ったといえる。どうする鈴木、どうするパンクラス！　ホワッチュワナ・ドゥー!!

取材／堀江ガンツ

新ルールスタート！

2.4 パンクラス後楽園リポート

どうした!? パンクラス！

文○大坪ケムタ

パンクラス自主興行として一発目の大会、2月4日後楽園ホール。この日の感想をひとことで言えば「どうした!? パンクラス」に尽きる、良くも悪くも。まず選手入場時7年間親しんできたテーマ曲『ハイブリッド・コンシャス』が新テーマに変更、ついでに休憩中・客出し時は船木絶賛CM出演中のくるりの『ばらの花』が。この日のような一見が多いと思われる客層へのアピールとしてつかみはOK！　そして突如露出度は低いがラウンドガールが！　これでルールから変わってるんだから、こりゃもはや別プロモーターの興行と言ってもおかしくはない。そして客層がいつもと明らかに違う。満員はこれまでもあったが、この婦女子の多さはなんだ？　こんなに女子便所が混んだパンクラスは見たことねぇぞ、とそういう良い意味の「どうした!?」なのだ。

それでは試合が悪い意味で「どうした!?」だったのかというと、決してそうではないのだな。第一試合でアッサリ一本を取られた（しかも笑顔）鈴木みのるはどうかと思うが、続く中台宣vs菊池一仁のアグレッシブな闘いに会場沸く沸く。パンクラスの若手同士の試合＝ポジション取ってボチボチ殴りあう、なイメージを持っていた人には意外な一戦だっただろう続いての本隊vsグラバカの4連戦、注目はこの日から修斗から転戦の佐々木有生とタフさが身についてきた渡辺大介。最後は技術に勝る佐々木が腕ひしぎ逆十字にきって落としたが、序盤の打撃のラッシュや高々と持ち上げてのテイクダウンと渡辺の迷いなき打撃は評価に値する。今年は渡辺と石井のWダイスケがグラバカ勢を迎え撃つ主力になるのではないのだろうか。少なくともパンクラスをずっと見ている連中は、同期でも謙吾よりは彼ら二人の方に注目してるハズ。

そして注目の近藤のグラバカとのファーストコンタクト、vs石川英司戦。徹底して密着する石川に「いつも通り」苦戦の近藤、そして「いつも通り」の逆転劇、今回はヒザが決め手。ティト戦で近藤の強運は途切れてなかった・・一朝一夕にティトに対抗できるレベルのレスリングテクニックが出来るワケがない。この危うい風車の理論ファイトはまだまだ続くだろうが、それは中途半端な安全策を取らない近藤の良さの表れ。近藤危機一髪劇場をもっと！

その後のファイナル・セミの2試合が菊田の負傷ノーコンテスト・渋谷の不完全燃焼なTKO勝ちと終わったので、スッキリとはいかないまでも、パンクラス変わったかも？　と満足して帰れる大会だったのは間違いない。ルール変更によって試合の大勢が変わるような試合こそなかったが、スタンド状態の近藤が寝転がった石川の頭を蹴りに行った所はヒヤっとさせられたし、改めて今年のテーマになるであろう本隊vsグラバカという構図が見えてきた。この流れで行けば上半期の大バコは近藤十アマレスの下地がある渋谷・美濃輪と菊田・佐々木・石川の3vs3対抗戦でイケるのではないだろうか？　地味だけど。

しかしその後がいけない！　試合後の記者会見での近藤の「桜庭とやりたい」発言が予想以上に波紋を呼び、翌日DSE森下社長が「プライド13でヘンゾに勝ったら」とマッチメイクまで進む発展ぶり。すると「その時期は大阪大会があるからダメ」とのお返事、スポークスマンはもちろん尾崎社長。断るなら断るで「後日、改めてウチの選手をお邪魔させてもらいますから」の一言が言えてれば盛り下がらずにすんだのに…。一時はプライド参戦も報じられているだけに、今回の一幕は「やっぱやんないの？」と期待感を失わせた。せめて匂いだけでも振り撒いておけば・・。

2・4パンクラスを見た限り、闘いの「場」としてはかなり良い雰囲気になってきていると思う。客入りも含めてプロモーターとしては合格点だろう。しかし近藤の発言に関する収拾風景を見てる限りでは、選手を抱える「団体」としては相変わらず・・そのギャップが「どうした!?　パンクラス」と言いたいのだ。

本隊の選手数も増えているし、石井や渡辺、その下の世代である中台や菊地らの試合を見れば「パンクラス、意外と面白いじゃん」と言わせるものはあると思う。グラバカという対抗勢力もある。しかし団体が方針を誤れば・・。船木プロデューサー、コーナーからミサイルキック食らわすような方向性、待ってます！

再起戦を苦戦しながら白星で飾った近藤の試合後の「桜庭さんと闘いたい」発言は予想以上の波紋をよんだ。それは裏を返せばそれだけ近藤の大舞台への進出が期待されている証拠。殻を突き破れ近藤！

大阪に初上陸した『クラブファイト』。ヤマケンが賞金首となり、有名無名プロアマ問わず、格闘家の挑戦を受ける闘いのステージである。今回、2回目にして早くも強豪選手がヤマケンの前に立ちはだかった。その男の名は秋山賢治。元・大道塾王者にして、現在は日本屈指の裏バーリ・トゥーダーとして、その名を轟かせている男だ。

立ち上がりは、互いのスキルをぶつけ合う緊張感のある攻防が展開されたが、残り時間3分を切るとヤマケンはスタミナが切れ、秋山のマウントパンチを浴びまくり！　会場はヤマケンの地元にもかかわらず、秋山コールが鳴り響いた。どうしたヤマケン？

そんなヤマケンに対し、対戦表明をぶち上げたのが、ヒクソン戦実現に向けての署名集めが話題となっている、キングダム・エルガイツの入江秀忠である。ヤマケンが『クラブファイト』とともに、手掛けている格闘家版スター誕生『タイタンファイト』の第一回目のスポンサー、チケット&トラベルT-1の二見氏がスポンサー契約の内容をめぐりヤマケンサイドとトラブルとなり、問題解決の方法として「100万円の損害を大会のチケットを当店で販売することで穴埋めしたい」と、入江を対ヤマケンの刺客として送り込んだのだった。ネタ的には面白そうだが、さすがに話が話だけに、まず実現はないだろうと傍観していたのだが、当の入江本人から「純粋に格闘家として山本選手と闘いたいので話を聞いてもらえますか？」との連絡が入った。さっそく入江に真意を語ってもらった。

◆

ボクは純粋に格闘家として山本さんと闘ってみたいと思ってるんですよ。山本さんの、無名でも強い奴と闘おうという姿勢が好きだったし、同じように道場持って興行やってる立場なんで、お互い協力しあえればいいなと思って名乗りを上げたんです。山本さんがやってる『クラブファイト』のリングでも全然構わないですけど、ウチの方として希望するのはルール的な部分で時間無制限一本勝負ですね。出来ればなんですけど、決着はKOかギブアップ、セコンドのタオル投入のみのルールを希望してます。もちろんやるからには勝ち負けというよりも完全燃焼するまでドツキ合ってみたいですね。「山本さんが勝っている、サンボの選手とやってから」と言われればそれもしょうがないですし、確実にその次に山本さんとの闘いが実現する約束があるならばやっても構いません。ただサンボの選手とやった後に「考える」とかの発言があるとボクは困るんですよ。山本さん側は「格が違う」というようなことを言ってるみたいですけど、一体"格"っていうのは何なんですかね？　実力のことなんですか？　それともネームバリューなんでしょうか？

山本さんとは末期のキングダム時代に道場でスパーリングやってるし、ボクの実力は知ってるはずだと思ってました。だから、それでボクの実力がないと言ってるのであれば、それはおかしい。でも、山本さんはあの頃から闘う時のオーラとかそういうものがあったんで、先輩として凄い尊敬してた部分もあったんです。もちろん安生さん金原さんとかも一緒にやっていければいいなと思ってましたけど、その中で山本さんみたいな選手がキングダムの主導権を握ってやっていってくれればいいなというのはありましたから。

今も、山本さんに100%勝てるとかそういうのは思ってないんですけど、ボクは正直立ち止まってる時間はないんで、勝ってドンドン先にいかなけれ

最強の挑戦者登場!?
秀忠激白「Uイズ・デッド」にはさせない!

入江がヒクソンに続きヤマケンにも対戦表明！そして絶叫!!

ヤマケン、ボコられてドロー！入江の挑戦を受けるのか!?

序盤はヤマケンと秋山（禅道会）が互いにアグレッシブに仕掛け合い、動きのある展開が見られた。しかしながら、ラスト２分は秋山がマウントからヤマケンを殴り続け、そのままタイムアップドロー。顔面を防御するので精一杯だったヤマケンは「返す力がありませんでした」と素直に語った。また試合終了直前、会場には「秋山コール」が自然発生し、完全にこの日の主役は秋山の手に。ヤマケン、それでええんかい？（いや、ダメだ！）

山本さんの、無名でも強い奴と闘おうという姿勢が好きだったし、同じよう

ボクは正直立ち止まってる時間はないんで、勝ってドンドン先にいかなけれ

クラブファイト史上 絶叫格闘マシーン入江

ばいけないし、とりあえず確約を下さいってことです。なんなら署名とれっていうんなら、取りますし（笑）。ヒクソン戦も別に諦めたわけじゃないくて、署名は2000通以上は達してるんで、来年までにはなんとか1万通集めようと思ってるし、いろんなところに一人3000通ぐらい集めてくれって頼んでるところもあるし、どんどん増えてるのは増えてるんですよ。

それで、もし山本さんと闘えて、勝ったら『クラブファイト』の会場で署名を取りたいですね（笑）。あと、山本さんは「Uイズ・デッド」って言ってますけど、ウチは「UWF・アライブ」ですからね（笑）。あと「Uの残党を潰す！」っていうヤマケンさんの考え方とも共通だと思うんですよ。逆にUの残党として潰してくれと（笑）。

ボクはUを背負うというほど長い歴史には携わってないですけど、ただこの前のUWFトーナメントで優勝してしまった以上は簡単には負けられない立場にいると思ってますんで。ボクは目一杯練習して、全てを懸けて挑戦したいんです。ヤマケンさん、ボクと闘ってくださぁ〜い！（絶叫）

1・27　CLUB FIGHT　その他の試合

ヤマケンこけてもこいつがいるぜ！その名は梁 正基!!

セコンドに薮下めぐみを引き連れ、気合い十分の高橋洋子（Jd´）だったが、対戦相手の尾上佳子（禅道会）が、なんと大雪のため会場入り出来ず中止となった。もう一丁！

師匠であるヤマケンが苦戦したのとは対称的に、『第１回タイタンファイト』優勝者である梁正基（POD）は藤井敏也（剛道館）にチョークスリーパーで圧勝。期待度MAX！

「大和魂の最後の試合でした！」と何の前触れもなく『PRIDE．12』のリング上から衝撃発言をブッ放したエンセン井上。突然過ぎる引退発言？にファンや関係者も激しく動揺した。

その真意を探るべく前号でエンセンのマネージャー・プナニ酒井氏に探りを入れてみたところ、どうやら「即引退」というわけではなさそうだ、ということまでは判明した。

ならば今号では直接話を聞くしかない！　というわけでエンセン本人を直撃である。まず、現在のエンセンの率直な気持ちをズバリ聞いてみた。

「『もう一度やる』っていう気持ちも、『二度と戻らない！』っていう気持ちも、どっちもない。フラットな状態」

と穏やかな表情でエンセンは言った。いわゆる「白紙」の状態だ。その白紙の上に、「復帰」という文字が書き込まれるのか、「引退」という文字が書き込まれるのか、それは誰にもわからない。そもそも、こういう事態を招いた原因は何なのだろうか？

「ワタシは身体、年齢、何も問題はないヨ。問題は　”心“だけ」

問題は”心“！

「たとえばワタシが試合でタップしないのは、ワタシの”心“がタップしたくなかったから。ファンのこと、家族のこと、ここでタップしたらファンや道場生が減っちゃうとかは考えないヨ（笑）」

ようするに「他人のために闘っているわけではない」ということだ。たしかに、エンセンはずっと自分の”心“に忠実に闘ってきた。見ていて辛くなるほどだ。エンセンの”心“は『PRIDE．10』のボブチャンチン戦で多くの人に見えたと思う。でも、それじゃ身体が壊れちゃうぞ！

「そうネ、ひとつずつの試合に”心“を懸けすぎたかもしれない。もうちょっと

エンセン井上独占激白!!
大仁田さんみたいになろうかな（笑）

本誌のvsケアー評に激高したエンセンに
――しかし、エンセンは昨年12月の
後の大和魂」を宣言してしまった。あの
にはどうしても納得出来なかったので、
帰の噂が絶えないのか？　そして復帰す
はすべて、この本文中にある！（坂井ノブ）

楽にやればいいのかもしれない。でも、それだとエンセンじゃなくなっちゃうヨ。いまのままだと”心“が半分くらいしかないヨ。それで試合したら中途半端になっちゃう」

しかし、”心“は時とともに移り変わる。前号を読んだ方ならおわかりいただけると思うが、エンセンは今年の1月2日に自殺を目撃している。そこで”心“に大きな変化があったようなのだが……そのことも聞いてみた。

「車を運転してたら何かが落ちてきたのが見えて、靴が転がってきた。『ウワッ、嫌だなぁ』と思ったけど、何か手伝えることあると思って、倒れてる人に近づいて行ったヨ。地面にくっついたようになって、カレーみたいな赤いモノが散らばってた。そのうち家族が降りてきたネ。お母さんは『ベルト掴んで立てなたのに〜』って泣いて混乱して立てなくなってた……お母さんは落ちた瞬間を見ちゃったみたいネ。ネエ、それ以上の悩みごと、ある？　息子が目の前で自殺するなんて……あのお母さん、きっと死ぬまでつらいヨ。だから何か助けてあげたかった」

修羅場である。そんな現場に立ち会ってエンセンは何を感じたのだろうか？　不謹慎かもしれないが、あえて聞いてみた。

「特に知らない人だったたし、その落ちた瞬間しか出会わなかったけど、その亡くなった人がエンセンの”心“に深く入っちゃった。これは小さいことじゃないヨ、人の命のことだから。ずっと、その人のこと、”心“に引っかかってる」

さらにエンセンは話し続ける。

「格闘技に繋がるような問題じゃないヨ！　格闘技のリングに”心“を持っていけないとか、そういう問題じゃない。ワタシの生活の中には、あのお母さんほどの悩みはないヨ。あの悩みを見ちゃったら……自分の悩みなんてホントに小さいと思ったネ」

いくら他人とはいえ、生死の問題にくらべたら、どんな問題も小さくなるのは当然。格闘技どころではない、というのが正直な気持ちだろう。

しかし、エンセンはいままでにも数え切れないほどの格闘技以外の問題を抱えてきたし、それに真っ正面から衝突して、傷つきながら大きくなってきた。”心“に重荷を背負ったエンセンだが、これで潰れるようなことはないと信じたいが……ちょっと話がヘビーになりすぎた。話題を変えよう。

現在エンセンは何をして日々過ごしているのかを聞いてみた。指導者とし

試合当日、エンセンは重症のモノモライだった。不完全な体調（ではなかったと本人は言うが）で、最後の試合……それじゃあまりに寂しすぎる。いまは“心”の回復を待ちたい。全身全霊を試合に注ぎ込むエンセンだけに、悔やみきれない敗戦だ。

紙の特ホウ王国

て格闘技は続けていく、と『PRIDE.12』後にコメントしていたが……。
「練習はしてるヨ、復帰するためじゃないけど（笑）。生徒に教えるためにも、もっと技術を覚えたいヨ。3月には京都にジムもオープンするし、生徒もドンドン教えたいネ！　それと、こないだタイに行って練習してきたんだけど、面白かったヨ！（キックの）山木ジムの会長に紹介してもらってセンティアンノーイ（・ソールンロート＝ムエタイの元ルンピニー・ライト級王者）とも協力してやっていくことになったネ。日本で彼のセミナーやったり、ジムで立ち技を教えたりネ。今度、3月2日

「いまは引退!」と改めて宣言! されど……

復帰したら

「アナタ、ボコボコにするよ！」と、怒られてから今月で丸１年が経つ『PRIDE.12』のリング上で「最野蛮人がアッサリと引退？　ボク直接話を聞きに行った。なぜ、復る気はホントにないのか？　答え

の修斗の大会で美憂の弟・山本KID徳郁（※これがリングネーム）がデビューするから、その試合前にミットを持ってもらったり出来るヨ」
リング外ではとにかく大忙しのようだ。しかし、そこまでタイで技術を身につけるんだったら、やっぱり試合をするつもり？と勘繰りたくもなる。
そういえば引退→復活といえば、一人思い当たる男がいる。そう、エンセンも大ファンだという大仁田厚である。その大仁田も一度引退したが、2年ほどで復帰して大ブーイングを浴びたのをエンセンは知っているのか？
「ウソッ？　そんなことあったの!?　ハハハハ！　かわいそうネ。『ウソツキ！』って言われたの？　でも、それは『嫌い』っていう人気でしょ」
たしかにエンセンの言うとおりだ。大仁田語録の中には「イヤよ、イヤよも好きのうちじゃ」というものがある。現在の大仁田人気の原点は、その最初にブーイングがあったからこそ。
もし仮に、エンセン復帰が決まったら……大仁田の復帰時と同じ状況が訪れる可能性もある。
「面白いネ！　大仁田さんみたいにブーイングされるかな？（笑）。でも、復帰するときは"心"から復帰する。だからウソツキじゃないヨ！」
つまり、復帰するときは完全に"心"が復帰モードで固まったときということだろう。その時点での"心"にはウソをついていないということだ。でも、一度は引退を匂わせるような言葉がメディアに踊った以上、それは「ウソ」ととられても致し方ないのでは？
「ワタシ、そのときの気持ちに正直なだけ。あんまり前のことは気にしない。だから昔のインタビュー記事見ると、『こんなこと言っちゃってる！』とか自分でビックリすることが多いネ（笑）」
オイッ！オイッ！と大仁田シャウトでツッコミを入れたくなるが、この無邪気さこそエンセンの最大の魅力だと、ボクは思っている。だから誰が何と言おうと、復帰はむしろ大歓迎だ。
エンセンは一瞬一瞬、自分の"心"に忠実であろうとする。逆に言えば「自分の"心"に正直すぎる」のだ。
「もし目の前に『ウソツキ』とか言うヤツ来たら？　ブン殴るかもしれないネ（笑）。大仁田さんみたいにタバコ吸って入場しようか（笑）。〔冗談だけどネ、〕」
エンセンのTシャツが「大和魂」から「邪道」に？　そんなことはないと思うが、大仁田ばりの熱い復活を期待せずにはいられない！

謎に包まれたJd'スポーツ教室潜入リポート！

ReMixのヒロイン 藪下めぐみがJd'道場で誰の挑戦でも受ける!!

本誌キャットファイター チョロ、挑戦するも2回タップの完敗！

"キャットファイト界の超新星" 本誌・松澤チョロも藪下に挑戦！ ガチンコでロメロスペシャルを出すなど、その実力は田村潔司も認めるチョロであるが、この日は3分間で2度のタップを奪われ完敗。エロ殺法も不発に終わった。スパー後、動けないチョロに感想を求めると、「プ、プロレスラーは……凄い！」と絶叫。新間寿か！

藪下めぐみがキャットファイト転向⁉

某日、本誌編集部に『ＲｅＭｉｘ』が生んだ女子プロレス界のニューヒロイン藪下めぐみが、夜な夜な素人男とスパーリング行っているという衝撃情報が入ってきた。

ギョ！　女と男が闘うとは、まさか藪下が「猫の穴軍団入りか？」という、胆略的すぎる推測をした我々は、その真偽を確かめるべく早速キャットファイト評論家・松澤チョロを帯同し、横浜市のJd'道場へと向かった。

スバリ言って文字数も限られているので結論を急ごう。そこで行われていたのは、「Jd'スポーツ教室」。これはJd'各選手が月一でインストラクターを努めて道場を解放するというもので、藪下はそこで自分が先生を勤める日に、参加者のスパーリングの挑戦を毎回受けているのだ。

取材に行った日の参加者は8人（猫戦士チョロ含む）。『ＲｅＭｉｘ』での藪下人気を考えると意外にも少ない参加者であるが、ほとんど宣伝らしい宣伝を見たことがないので、この教室の存在事体が知られていないのだろう。そのため毎回参加メンバーはほとんど同じだという。

少人数ゆえに、教室のムードは実にアットホーム。藪下得意のインチキ関西弁が飛び交う中、基礎運動からはじまり、リングに上がっての柔道式受け身の練習。さらには背負い投げの打ち込み練習等が行われ、ここまでは要は藪下の柔道教室。いよいよこのあと、スパーリングとなる。驚くべきことに、このスパー、希望者は誰でも藪下に挑戦できるというもの。そのため藪下は毎回1時間に渡って代わる代わる希望者全員とガチンコで闘っているのだ。すげぇ！　内容も容赦ないもので、アームロック狙いと見せ掛けて、腕十字に行くというコンビネーションまで披露し、見るだけでも価値があった。というわけで、いいものを見せてもらった後、藪下ミニインタビューを収録してきたので、それをお届けしよう。

——そもそも、受講生とのスパーリングをやり始めたのはどういうきっかけからなんですか？

藪下　練習メニューは自分が勝手に作ってるんですけど、みんなに「何かやりたいことある？」って聞いたら、私とスパーリングをやりたいと言った方がいたんですよ。それで自分の練習にもなるし、教えるよりやるほうが簡単だからいいかなって（笑）。

——でも、男のファン相手に現役の女子レスラーが無差別でスパーをやるなんて凄いことですよ（笑）。

藪下　私自身は柔道時代ずっと男子と練習してたんで、全然違和感ないんですよぉ。でも、ムキになってかかってこられても困るんですよね。私はやっぱり本気ではできないし、受ける時は受けないといけないですからね。あと怪我させたら嫌ですね。だから一応、「怪我しても責任は持ちません」という承諾書は書かせてるんですよ。まぁ、シップぐらいは貼りますけど（笑）。

——アハハハ！　シップだけ（笑）。ところで今日来た人に聞くとみんな口を揃えて「普段の藪下さんはこんなもんじゃない」って言うんですけど、普段はそんなに鬼コーチなんですか（笑）。

藪下　だって、ここに来るんだったら、私はファンの人としては見てないんですよ。

——「プロレスの道場に入ったら、そこは娑婆じゃない」っていいますもんね。

藪下　そうそうそう（笑）。だから、私はファンも選手も関係なくモノとか椅子とか投げますよ！

——投げますか——ッ！　Jd'の道場幻想が一気に高まりましたね（笑）。

藪下　でも変に敬語使うよりそういう方が親しみ易くないですか？　でもホントに口は悪いんで、来る人は覚悟して下さい（笑）。

——将来的にこういうジムの指導員になりたいとか願望はあるんですか？

藪下　私は実家に帰って柔道をちびっ子に教えたいんですよ。いま、お父さんが道場やってるんですけど。私は私の道場が欲しいんです。だから結婚相手も柔道やってる人がいいですね。そうしたらラクじゃないですかぁ（笑）。「ちょっと今日見といて」とか言って、私はパチンコ行っちゃったり（笑）。そんなんがいいですね。

【00年2月5日／横浜市　Jd'道場にて収録】

取材／堀江ガンツ

【やぶした　めぐみ】Jd'吉本女子プロレス所属。『ＲｅＭｉｘ』で巨漢グンダレンコを破り一躍脚光を浴びる。現在、坂井澄江、ザ・ブラディー、ファング鈴木と『ID4』を結成中。

さあ君も藪下の腕十字を味わってみないか？

Jd'スポーツ教室情報

この「Jd'スポーツ教室」に参加したい人は、一般3000円、ファンクラブ会員2000円で受講できます。現在、藪下の回は月一で不定期だが、「来て下さる方がいるんでしたら、私は月二でも月三でもいいんで、言葉遣いは悪いですけど来てくださ〜い」とのことなので、まよわず行くべし！

問い合わせ＆申し込み
吉本女子プロレス■TEL.03-5561-0522

賛否両論が大爆発!! 禁断の「シュート活字」第2弾

謎の"新・活字プロレス"「シュート活字」の源流を知りたい人は……

読め!!

この人物はホントに危険です!!

シュート活字の始祖
田中正志
ロングインタビュー【後編】

3つの謎がいま明らかに!!
❶なぜ田中正志氏はプロレスマスコミの裏街道を突き進むのか?
❷なぜいまのマスコミはダメなのか?
❸「シュート活字」はどうやって生まれたのか?

今回はクイズなしのインタビューです

果たしてこの男がホントに活字プロレスを救うのか?

前号で衝撃の初登場を果たした「シュート活字」の提唱者・田中正志氏のインタビューには、さっそく賛否両論が激しく巻き起こっている。ただ、マニア層と初心者層ではその反応に温度差があったように感じられた。このままシュート活字は単なるマニアの共通言語となってしまうのだろうか? そこで鍵となるのが、提唱者である田中氏自身でるとボクは思う。思えば、I編集長やターザン山本といった「活字プロレス」の革命児たちは、いつもその強力なキャラクターと鋭い論理で我々を激しく魅了してくれたものだ。その両者ほどの圧倒的な説得力(もちろんキャラクター込)が田中氏にあれば、今後もっと「シュート活字」は広まっていくであろう。さあ、今回はその実像を読み込んで頂きたい。（坂井ノブ）

聞き手&撮影／坂井ノブ
interview & photographs by Nobu Sakai

謎に包まれたJd'スポーツ教室潜入リポート!

Re:Mixの藪下めぐみが

【前号の結末部】

――では、ビジネス的な観点を抜きにして、田中さんにとってのベストレスラーというのは誰ですか?

田中 それは、やはり昭和世代的に猪木と言わざるえないんじゃないですか? でも、「シュート活字」的な観点が入ってくると変わってきます。ビンス・マクマホンと石井館長の2人は梶原一騎、マス大山、新間寿、アントニオ猪木をも超えたと思うんです(キッパリ)。

――えーっ! 超えちゃいましたか!

田中 ええ、これは間違いないです(キッパリ)。

ここで前号のインタビューは終わっている。田中氏の主張する「シュート活字」による評価では、ビンスと石井館長が業界を切り開いてきた先駆者たちよりも高いのだ。一体、何がどう凄いというのだろうか? さっそく続きを聞いてみよう。

田中 梶原一騎、マス大山、アントニオ猪木、新間寿といったらボクの世代のヒーローですし、素晴らしいと思います。ボク自身も大好きなんですけどね。

――それでもビンス・マクマホンと石井館長が凄いというのは、どういった理由からですか?

田中 やはり90年代のプロレス界にエンターテイメント革命を起こしたWWFと、90年代の格闘技界にシュート革命を先導したK―1はハズせないということなんです。どちらもテレビを上手く利用して、世間を巻き込んだわけでしょ。彼らのビジネスの規模は、ハッキリ言って前の世代を超えてますから。好き嫌いを抜きにしても、これは認めないといけないんですよ!(ドンとテーブルを叩く)。

――ま、まあ、その2人はレスラーじゃないですけど、業界を覆す一大ムーブメントを巻き起こしましたからね。

田中 そうなんです。ボクらが新しいモノを追って行く流れの中で、ホントにシュートだけの全ガチの興行を行う団体が出来ちゃったんです。同じくエンターテイメントですと言い切って、裁判の席でもばらして開き直ってやる団体も出て来たことも衝撃でしたしね。それならば書く方の立場も変わらなければいけないなと思ったんですよ。

――なるほど。その2つがあったから、「シュート活字」が生まれたと。そこが田中さんは他のマスコミと決定的に違いますよね。井上さんやターザン山本さんはどこまでいっても猪木さんなんでしょうけど……田中さんにとっては石井館長とビンスでしたか!

田中 ええ。

――たとえば、猪木さんの場合は『PRIDE』のような総合系の試合が出てくると、プロレスが"闘い"として見えなくなるから、シロ・クロを付けないUFOのようなグレーゾーンのモノを作ろうとしますよね。

田中 ボクなんかは、篠(泰樹)さんともそういうことを話すんですけど、それはむしろ間違いなんじゃないかと思うんですよ。篠さんの考えでは「オレは『Re―Mix』でプロレスと格闘技を絶対に交ぜないよ。オレはプロレスと格闘技を完全に分けて、その両端をやるんだ。だから、完全なプロレスもやりたい。そこの目玉は、一般のヤツをプロレスラーにするというギミックなんだ」と。なるほどなと思いました。そういう関係者も、今後は増えていくと思います。

――それで生まれたのが渋谷女子プロレスですね。1%の真実と99%のファンタジーが売りという(笑)。

田中 それは非常に素晴らしい発想だと思いますよ。猪木さんはいまだにグレーなモノがいいという考え方ですけど、それはもう古いと思うんです。

――いや、たしかに時代は格闘技とエンターテインメントに二極分化しつつありますからね。でも、そういう部分を積極的に評価するマスコミって、皆無に近い状態なんですよ。井上さんとかターザンみたいに猪木さんだけを追い続ける人も多いですから。

田中 そうですね。これは隔世遺伝なんですよ。

――へ? どういうことですか?

田中 井上さんとボクはオリジナルにこだわるんです。「世界で最初にこれを言ったのはオレだ」というモノをたくさん持ってますから。(唐突に)でもね、ターザンはパクリ屋なんですよ(怒)。知り合った当時から、20歳のガキのボクが言ったことをそのまま次の日には記事に書いているんですから!(ドンとテーブルを叩く)。

――アハハハ! やってることは昔から変わらないんですね(笑)。ウチの編集長も、かなりそれをやられてますけど。

田中 そうでしょ? 「この野郎、何なんだ?」と思いましたよ(怒)。**【この後、さまざまなマスコミ人にかみつきまくったのだが、大幅カット。その理由はP92参照】**まぁ、あの当時、1980年の猪木vsウィリー戦の仕組みを見破って同人誌にせよ活字にしてたのはボクだけですよ! 凄い殺気のある素晴らしい試合だったと思いますけどね。だいぶ経った頃に仕掛け人の梶原一騎自身がバラしてましたよね?

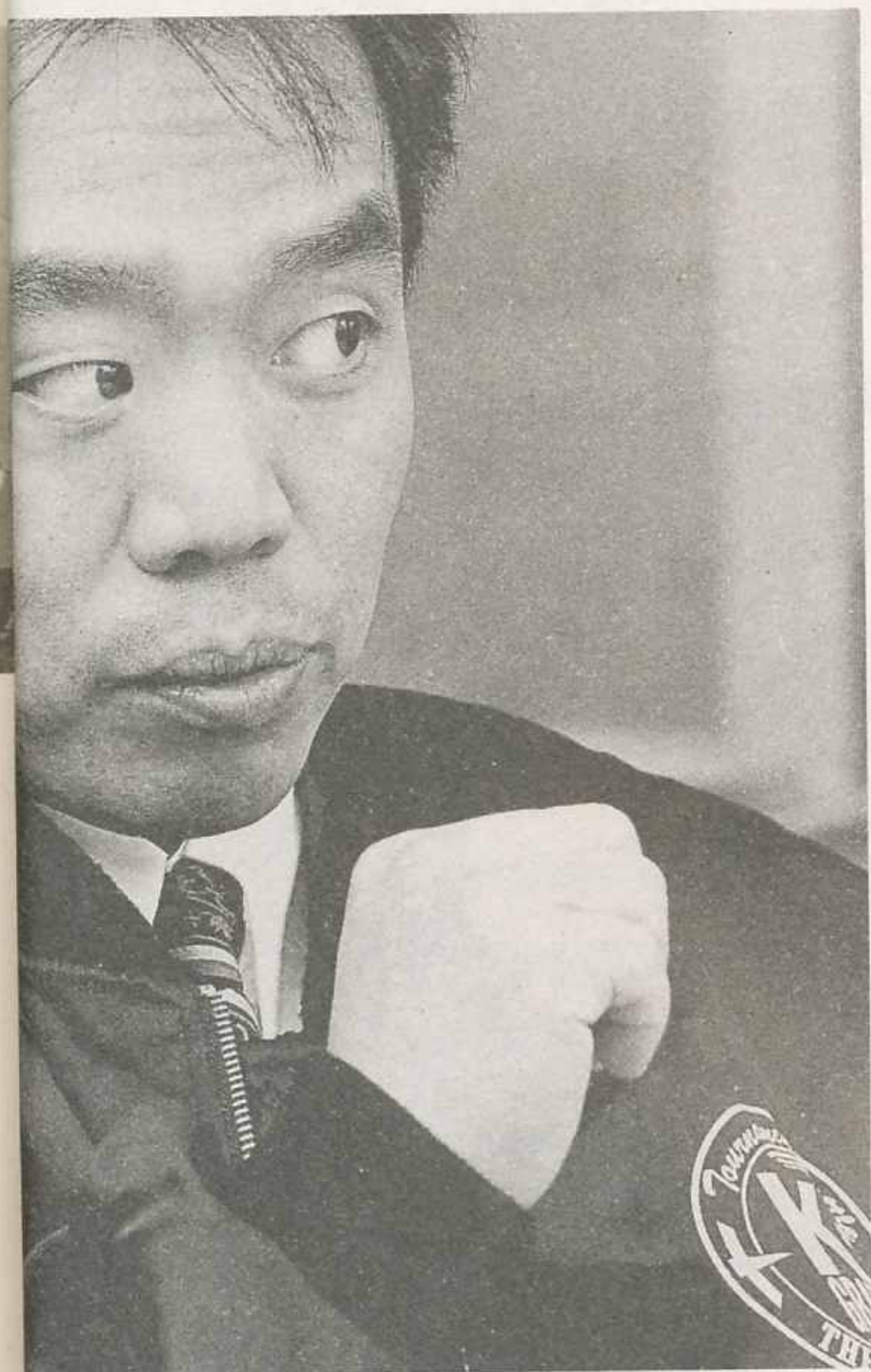
――ええ。でも、それだけ早くからシュート活字的なことをやっていれば目立つでしょうし、流用もされると思うんですよ。その辺に対する恨みというのは、たくさんあるわけですね。

田中 それはありますね!(力強く)。

――それで、ターザンにもxxにも、もう亡くなられた△△にも怒っていると(笑)。

田中 そういうことです。『週プロ』が活字プロレスの頂点を極めた頃もね、ボクから言わせると、ターザンは全部井上さんが昔言っていたことを書いていただけですよ。全然、オリジナルがなくてね。さっきも言ったように、ボクには「誰も言っていないことを言え」という教えが摺り込まれてますから。

ターザン山本にとっての猪木さんは ビジネス上の運命共同体。でも、 井上さんにとっては恋愛なんです！

日本の格闘技界とアメリカのプロレス界に革命を起こした「シュート活字的二大MVP」がK－1の石井和義館長とWWFのビンス・マクマホンJr．である。田中氏は、この両者は猪木をも超えたという。

——いや、ホントに田中さんは〝アメリカの井上さん〟ですね（笑）。

田中 結局、ターザンにとっての猪木さんは、ビジネス上での運命共同体なんですよ。猪木で私財を貯えたから一生猪木でいいんだ、というね。でも、井上さんは違うんですよ。あれは恋愛です！（キッパリ）。井上さんが片思い日記として延々と猪木さんのことを書き続けているんですよ。

——なるほど。わかりやすいですね。

田中 ボクは別に恋愛感情を抱かないですけどね。

——例えば、前号で高く評価していたGAEAの選手とかにも恋愛感情を抱かないんですか？

田中 （慌てて）そ、それは……あります。

——アハハハハ！ なんだ！ あるんじゃないですか（笑）。

田中 （赤くなって）あるというか、各レスラーに対してね……。

——誰ですか？

田中 ボクはいろいろ好きですよ。シュガー（佐藤）も好きですけど、一番好きなのは加藤園子ですよ！ あのムッチリ太ももが一番いいね。

——う～ん……コメントが難しいですねぇ（笑）。

田中 あと杉山代表には異常に興味があります。

——それは経営者としての杉山さ……。

田中 （遮るように）ああいう女を落としたいね（キッパリ）。

——アハハハハ！ まあ、そちらから興味のアンテナが向いて、深く研究していくということもありますけど（笑）。

田中 ボクはそれでいいと思います。

——そ、そうですね（笑）。

田中 ボクは常に「現役であれ」ということを言ってるんですけど、やはり猪木も素晴らしいとは思いますけど、それぞれの時代の中で素晴らしいものがあるんですよ。つまり、「現役」というのは、常に時代と共に変化していくということなんです。

——具体的にいうと、どういうことでしょうか？

田中 たとえば音楽の世界だと古い世代のファンはいまだに「レッド・ツェッペリン」とかディープ・パープルが一番だ」とか言ってるんですよ。オレはそれが嫌なんです！ ヘッドバンガーって呼ぶんですけど、現役のヘビメタ愛好家として、来月発売の新譜情報を追いかけていたいです。

——な、なるほど。でも、普通は田中さんの年代だと、ツェッペリンとかになりますよね。現在はどのへんを聞いてるんですか？

田中 イヤーダ・ドット・コムに出演する時の自分のテーマ曲はアイアン・メイデンなんです。「ジューダス・プリースト猪木論」とか「桜庭和志とイングウェイ・マルムスティーンの錬金術」といった原稿やコンサート評も遊びで書いていて、インターネットのヘビメタ掲示板で読めますよ。フジテレビの『PRIDE』中継のテーマ曲に使われているレイジ・アゲインスト・ザ・マシーンもいいですねぇ。

——あっ、レイジはOKなんですか？ こないだ解散しちゃいましたけど……現役バリバリですね！

田中 あれはいいセンスだと思います。原点回帰思想でもUWFと一致してますから。とにかくそういう、今のバンドも聞いてるんです。これは音楽もプロレスも同じことで、今面白いモノを評価しようじゃないか！ということなんです。それが何かというと、純プロレスなら闘龍門とGAEAでしょう。

——そうですね。しかも田中さんは以前バンドをやっていたとんですよね。当時はどういった音楽をやってたんですか？

田中 クイーンとかクリームとかディープ・パープルのコピーをやってました。

——それで大学に入学して、すぐに学生プロレスに転向したわけですか？

田中 いいえ。最初は当然、軽音楽部とかロック系のサークルに入ろうと思ってたんですよ。でも、いざ入ってみたらガッカリしたんですよ。

——なぜですか？

田中 高校生バンドと大学生バンドを比べた場合、高校生バンドの方がクリエイティブだったんですよ。つまり、同志社に入っちゃうと、どうせ4年後に就職するわけでしょ？ 「年に一回の文化祭で女の子にウケればいいんだ。だから、ヒット曲のコピーをやってりゃいいんだ」という考え方なんですね。ところが、ボクは高校の頃にコピーをやってましたから、もうコピーバンドはしたくない、オリジナルで勝負したかったんです。そうしたら孤立してしまって、「お前、勝手にやれ」って感じになってね（しみじみ）。そこでボクは全くバンドに興味がなくなってしまったんです。そのとき、ボクと同じような考え方を持った人間がたくさんいて、それが集まってプロレス研究会を作ったんです。それが同志社プロレス、つまりDWAを作ったんですよ。当時はNWA幻想が凄かったですから、それにあやかったんですが、アライアンス（＝同盟）ってのは英語としては変ですね。まぁ当時は誰も、単語の意味まで気づいてませんでしたけど。

——いわゆる学生プロレスですね。

田中 それも僕らがオリジナルなんです。日本全国の大学の中で一番最初に学生プロレスをやりました。

——あれっ？ アマチュア・プロレスの老舗でJWAというのがありましたけど、あれよりも早かったんですか？

田中 いや、JWAの方が先ですよ。でも、あれは社会人プロレスで、大学でプロレスをやったのは僕らが最初です！（力強く）。

——じゃあ、JWAとは全然リンクしてないんですか？

田中 いや、まずボクはJWAにかかわったんです。あの当時、大阪の伊丹にJWAの創始者であるファイター藤本さんという方がいたんですね。猪木のキ●ガイ的な信仰者で、プロレスラーになりたかったみた

いだけど、当時は今みたいに団体も多くなかったから断られてね。それこそリトル浜田さんより小さかったから厳しかったんだろうけど。

——それは厳しいですねぇ。

田中 その人がJWAを始めたとき、そこにかかわり始めてね。同じことを大学でやってしまえと思って、DWAを始めたんです。

——じゃあ、JWAの支部みたいなモノだったんですね。

田中 そう。JWAの下部組織として活動を始めたんです。ところが、ボクらはズルいから、「立場を逆転して母屋を取ってしまえ」と思ってね。当時のDWAに、お茶の裏千家の御曹司がいて、当然大金持ちなんですよ。そいつにリングを発注させて作っちゃったんです。

——えーっ！ リングなんてメチャクチャ高価じゃないですか。

田中 いや、そうでもないですよ。100万くらいかな（あっさりと）。当時はJWAですら青いマットを敷いてやってた程度で、リングなんて持ってないしね。そんなときに下部組織のDWAがリングを持って、タイトルまで作ってしまったから立場は完全に逆転ですよ。アハハハハ！

——は、はあ。見事ですね……JWAは怒ったんじゃないですか？

田中 ファイター藤本さんは「DWAタイトルって何だよ」って言ってましたけどね。「でも、リング持っているのはウチですよ」と言い張ってましたから。

田中正志氏の"現役の思想"では「猪木の考え方はNG」となる。ここまで言い切ったマスコミは史上初か。

——リングで脅かすわけですね。

田中 そうそう。じゃあ客がどっちに来るんだという問題なんですよ。当時のJWAは、伊丹で近所の子供を集めて青いマットの上でやってるだけでしたから（笑）。ボクらは、学園祭で100人、200人は集めて大いに盛り上がってましたよ。

——JWAといえばタイガー今井（全女の今井良晴リングアナ）さんもいたんですよね？

田中 いましたねぇ。あの人のドロップキックは凄かったなぁ（しみじみ）。それに流血戦も得意でね。タイガー・ジェット・シンをモノマネしてたヤツと凄い抗争をしてたんだよ。

——"全女の良心"といわれる今井さんがシンもどきと抗争（笑）。凄いですね。DWAはどんな試合をやっていたんですか？

田中 凝ってますよね！ 剛竜馬と藤波が、ジャーマンを狙うんだけど足がロープに引っ掛かって……という試合が当時あったんですけど、それをそっくりそのまま再現したりしてましたよ。

——そういうコピープロレスのようなことをやってたんですか？ コピーバンドは嫌だったのに（笑）。

田中 そうです。コピープロレスなんだけど、違う要素をいくつも交ぜているから観客には分からないんですよ。

——そこで田中さんがブッカーと実況アナをやっていた、と。でも、いきなりブッカーとして団体にかかわるのって凄いですよね。

田中 みんなブッカーという言葉すら知らない時代でしたけどね。

——当時は、ブックのことは何と言ってたんですか？ 『あらすじ』ですか？

田中 そうですね。『あらすじ』とか『台本』だよね。でも、同窓会を開いたらいまだに文句言われるんですよ。

——えっ？ 何の文句ですか？

田中 ボクはずるいブッカーだったからレスラーに全部を言わないんですよ。例えば、AとBの試合があるとしますよね？ AとBには「こういうストーリーだよ」って最初に言うんです。ところが、突然まったく関係ないCを乱入させて、Aを死ぬほど竹刀で殴るというのをやるわけですよ。AとBは当然そんなこと知りませんから、ホントに呆気にとられるわけですよ。そうしたら、ひとり怪我をしたヤツがいてねぇ（遠い目）。

——アハハ、なんか札幌の藤原テロ事件みたいな話ですね（笑）。

田中 でも、ブッカーって辛い仕事ですよ。20年前のことをいまだに文句言われますから。そいつは「田中さんが仕組んだあの乱入、オレは聞いてなかった。いまだに傷が頭の上に残ってる。あんたの責任だ」とかね。彼らは、聞いてない試合っていうのをとても怒るんですよ。

——なんかプロにも似たようなことがあるような気がしますね。

田中 全くそうですよ。プロでもそうなんですよ。

——田中さんが選手に乱入のことを教えなかったのは、ワザと聞かせないでそのハプニングで面白くしようとしたわけですか？

田中 もちろんそうです！ そのナマのリアクションがほしかったわけですよ。その方が絶対面白いと知っているわけです。

——その当時から、田中さんはアルバイトで『ファイト』の記者をやっていたから、そういうことはわかっていたんですね？

田中 そう。でも、当時は『ファイト』に書かせて頂いていたんで、その秘密をたまたま知っているだけで、ボクはそれを守ろうとしていたわけですよ。DWAの他の部員に、"プロレスの真実"までは言いませんでしたからね。

——でも、そういうことを実践していたんですね（笑）。田中さんが学生プロレスをやってた頃、一番大ウケしたのは、どういう試合だったんですか？

田中 教授の中に一人だけ、プロレスファンがいたんですよ。だから説得して、協力してもらったんです。座って試合を観戦し

大学時代から執筆活動再開まで「ケーフェイは死ぬまで守らなければいかん」と思ってました

ていた教授がいきなりレスラーに襲われるという展開で。

――アハハハ！　大学でそれをやったらウケるでしょうねぇ！

田中　これはウケましたねぇ（しみじみ）。クレイジーなキャラのヤツが、普段の恨みで教授を襲ったんだろうというふうに見せてね。教授も上手い人で最後まで演技を貫いてくれて、それが仕組まれたものであることも黙っててくれてね。

――遊び心のある先生ですね（笑）。

田中　そうしたら、翌日は「昨日の試合は新日本より面白かったですよ」とか言われるわけです。そんなこと言われちゃったら、ブッカー・田中正志の鼻はピノキオ状態になりますよ！

――なるほど。それはブッカー冥利に尽きますね（笑）。

田中　自分でも「オレは山本小鉄より優れているに違いない」とか思いはじめてね（遠い目）。

――その仕込みは最後までバレなかったんですか？

田中　バレませんでした。それで、よくお客に「あの教授、大丈夫ですか？」って聞かれるんですよ、真剣に。だから、ボクもうかつにホントのこと言えないんですよ。そうしたら、もう死ぬまで守らなければいかんと思うわけです。

――さすがに、大学では「シュート活字」は出来ないですよね（笑）。

田中　「じつは、あれは教授と裏でつるんでてね、全然大丈夫なんだよ」とは、絶対言えないですよ！　当時は、業界の内部の人間なんだという意識もあったし。「友達がアングルを信じてくれるんなら、これは絶対墓場まで持っていかなければいかんのだ」と思いましたからね。

――墓場まで！　そこで、ケーフェイの思想が働くわけですね。

田中　そうです。そもそも、ボクは7年前にプロレスの執筆活動を開始するまで、「ケーフェイは死ぬまで守らなければいかん」と思っていたんですよ。

――意外ですね！　その田中さんの考え方を覆したのがWWFだったわけですか？

田中　いや。そこまでいったのは、93年の『パンクラス』、『K—1』、『UFC』が出現した「シュート革命」ですよ。リング上でこれをやるのならば、活字でもやらなければ、と思いましたね。時代が変わったんですよ、あそこで！（ドンとテーブルを叩く）。

――ちなみに「シュート革命」の頃、田中さんはサラリーマンをやってたんですよね？

田中　そうです。もうアメリカに留学して、向こうで就職してました。

――経歴を見ていて気になったんですけど、田中さんはアメリカでMBAまで取得してるんですよね。そして証券の世界に入ったわけなんですけど、なんでまた、そういう世界に飛び込んだんですか？

田中　学生時代に『ファイト』編集部で働いてみて、何というか……世間が見えたんです。就職とか社会の仕組みが分かってしまったんですね。社会的にムチャクチャな人たちばかりが揃ってましたから。そうすると、普通に就職なんてする気なくなりますよ。

――なくなりますか！

田中　普通に卒業して、日本の一般企業に就職することも可能だったんですけど、それが何になるんだろうと。そんなことを考えてたときに「アメリカに長期的に行くなら特派員にしてあげるから、フランク井上の交代としてアメリカに行くことができるよ」と言われたんです。「それならば、ボク、アメリカに留学しますよ」ということになってね。だから、ニューヨークにある大学以外は受けていないんです（笑）。ニューヨークにはMSG（＝〝プロレスの殿堂〟マジソン・ガーデン）がありましたから。

――それも凄い話ですね（笑）。特派員になるために、留学したようなもんですね。

田中　そう。それで、ミック・フォーリー（＝元マンカインド）が感動したという、金網の最上段からジミー・スヌーカーがスーパーフライを決めた試合とかを全部MSG定期戦で見て、『ファイト』に記事を書いたんです。その原稿料を学費の足しにしてね。

――そのときにMBAの学位を取得したんですよね。MBAって、いまはかなり話題になってますけど取得するのは相当難しいんじゃないですか？

田中　もちろん！（胸を張って）。でも、当時はボクですら取れたんですから、基準はいまよりも緩かったと思いますよ。アメリカ人というのは面白いところがあって、成績のいいヤツよりも個性のある人材を取りたがるという気質があるんですね。それがプラスになって、しかも推薦状を書いてくれたのが『ウィークリー・ファイト』の井上編集長でしょ？　面白がって合格させてくれてたんじゃないかなといまだに思っていますよね。おかげさまでコロンビア大学に入学できたんです。

――宇多田ヒカルの先輩になるわけですね（笑）。いまは結構、日本人でもMBAを取ろうという人が多いですけど、当時はいかがでした？

田中　当時も日本人は10人くらいいましたよ。ボク以外の9人は企業からの派遣で、ボクみたいに個人で行ってた人はいなかったですけど。それで、コロンビア大学を卒業した後は証券の世界に入ったんです。その頃には日本でもプロレスブームが終わってて、ボク自身プロレスに対して興味を失っていた時期でもあったしね……。

――当然、ライター業をやるよりもサラリーマンやってる方が稼げるわけですよね。

田中　それは当たり前ですよ！　ただね、アメリカではよくあることで、部門を縮小するとなったら一気にリストラされるわけです。それで、クビを切られたんですけど、退職金は多めにもらえましたから。

――決して悪いことやったわけではないと（笑）。

田中　話を面白く膨らませるんだったら、それでもいいですけどね（笑）。

――いやいや、大丈夫です。じゅうぶん面白いですから（笑）。

田中　その退職金も1年間遊んで暮らせるぐらいの額でした。それで、これだけもらえるんなら、この1年間を利用して昔から書きたかったプロレスの本を書こうと決意したんです。

――それで、誕生した本が、『プロレス・格闘技、縦横無尽』だったんですね。

田中　ところが、1年で本を出すはずが、そもそも出版のコネもないですから、書き終えてから出版が決まるまでかなり時間がかかりましてね。どんどん時間が経って、

気が付いたら2冊目の『開戦！　プロレス・シュート宣言』も書いていたと。

——1冊目が集英社で、2冊目が読売新聞社から出てますね。どちらも大手出版社じゃないですか！

田中　でも、結局は会社が大きい分、きちんとプロモーションしてくれませんでしたからね（しんみり）。本の内容が過激すぎる部分もあったんでプロレス本を出しているところに持っていくと、過去に書いた人を否定することになるから違うところに持っていったというのがあるんです。

——そういう執筆活動で種を蒔き続けて、最近ようやく日本でもシュート活字の渦みたいなモノが起こりつつあることをどう感じますか？

田中　まだまだ遅いとは思います。だけど、今はこれだけ「アングル」という言葉がファンの間で一般化して、冬木弘道がエンターテインメント宣言し、『週刊プロレス』の部数が一時期よりも落ちているということを考えても、〝シュート活字〟が完全に定着するのは時間の問題としか思ってませんよ。

——ちなみに現在も定期的に読んでいるプロレス専門誌はありますか？

田中　ないです。『紙プロ』は、アメリカで手に入らないし、『ゴング』と『週プロ』は手に入りますけど、読む気にならないですからね。

——よ、読む気にならない！

田中　『格通』も当然、読んでないです。『格通』は面白い時期もあったんですけどね。91、92年を『週プロ』のピークとするなら、93、94年は『格通』のピークですよね。

——K—1とグレイシーが台頭してきた頃ですね。

田中　（現・『格通』次長の）安西さんもブラジルまで行ったりして、あの時期は面白かったですよ。ついにプロレス界に黒船が来たんだって思いましたけどね……途中から「この人たちはオレとは考え方が違うな」と思いましたね。ちょっとずれてきてますよ。

——まあ、『格通』は非常に独特ですからね。

田中　プロレスにしても格闘技にしても、結局は幻想にどっぷり浸かってるとダメですね。プロレス幻想に浸かっていた反動で、安西さんみたいにグレイシー至上主義になったりね。安西さんなんて、あれだけS—VHSで新日本プロレス中継を全部録画していた男が、いきなり「もうグレイシーだけなんだ」とか言い出したりねぇ（怒）。

——アハハハハ！　S—VHS（笑）。その情熱はハンパじゃないですね。

田中　プロレス記者にはホント強烈な人が多いですけど、天然記念物・宍倉（『週プロ』）次長にトドメを刺しますね。あの人は、まず世界で一番遅く情報を得る男でしょ？　しかも女子プロの解釈から何からド素人ですよね。

——まあ、女子プロに関してはド素人というよりも、根本的にエロいですよね（笑）。ああいう見方はどうなんですか？

田中　別に構わないとは思うんですけど、原稿を読む限りあれは業界のためにならないんじゃないかな？と思います。ああいう人がいるのはいいんですけど、業界全体のパイを大きくするという観点からすると、やはりまずいんじゃないかなと思うんですよね。

——確かにそうですね。記者の主観で書くというのは、いい方向にも悪い方向にも作用しますからね。まあ、宍倉さんも安西さんも、いろんな意味で面白いからね。古巣の『ファイト』なり他の活字プロレスはいかがですか？

田中　英語のシュート活字週刊各紙と、日本から送られてくる膨大な量の『サムライTV！』とかのビデオ鑑賞で限界です。日刊スポーツの西日本版が、デルフィン師匠の『プロレス高座』で、「ジュースいったら、山いった（流血してケガしたこと）」の見出しで、隠語のことをしゃべらせるというのは唯一面白いかなとは思ったけど。

——なるほど。

田中　でもね、ボクは基本的には誰に対しても文句ないんですよ。そもそも趣味の世界なんだから、ファンの皆さんの楽しみ方だって十人十色。ファンタジー系の記事が喜ばれるなら、そっちを書いてるライターさんの方が偉いんです（キッパリ）。ボクは、お金さえもらえれば何だって書きますよ。別に「シュート活字」の原稿である必要もないし。

——あ、そうなんですか？

田中　田中正志の名前じゃなく、何のペンネームでもいいですよ。だから自分の書いてることは真実だけど、あっちは単なる提灯記事とかで批判してもしょうがないモン。第一、多数派の読者はくすぐって貰える記事のほうが読みやすい。

——ま、ウチに限っていえば、「誰が真実か？」を探すよりも、「真実は人の数だけある」というスタンスなんですけどね。やっぱり田中さんのやろうとしている「シュート活字」は、業界の中で食っていこうという人には煙たがられるのかもしれないですね。

田中　ボクは誰ともケンカもしていないし、誰でも関係ないんだけど、彼らが嫌うんですよねぇ（しみじみ）。気持ちは分かりますよ。彼等の今までの仕事が荒らされるという意識があるからね。でも、ボクにしてみれば、「SO WHAT?」って感じですよ。

——それがどうした、と（笑）。

田中　知人にも「フミ斉藤さんのUSAコラムのようにプロレスラーの人間味を出して書いたら？　田中さんはそれをやらずに『シュートだ』『ワークだ』ばっかりだから」とは言われてますよ。そんなのね、ボクだってポール・E（・デンジャラスリー）をはじめECWに親しい連中がいくらでもいますから書けますよ（怒）。お金さえもらえれば！

——お金さえ（笑）。

田中　（なおも怒りながら）でも、フミさんの文章は脚色が多過ぎてアメリカの現状やレスラーのことを完全には伝えていないと思うんです！

——ゲッ！　そ、そうなんですか？　でも、あれは斉藤さん独特の書き方ですからねぇ。

田中　あれは、本当のアメリカのプロレス界の凄さを伝えたことになってないですよ。日本ではアメリカでエンターテインメント革命が起こっていることを誰も正確に知らなかったでしょ？

——でも、斉藤さんも小さく電波は出していますよね。田中さんみたいに大々的には書いてませんでしたけど。『週プロ』という立場上、あまり大っぴらに出来ないと思いますし。だから、逆に田中さんみたいな身軽な活動が目障りになるんだと思いますよ。これはあくまでも想像ですけど（笑）。

田中　ボクは業界の内部にいないから出来

今後の日本のプロレス？長州力を消すことだね。根本的に選手と記者の意識改革をしないと！

るみたいに思われているのかもしれないですね。

――そうですよ。だから、文句を言う業界人がいたんだと思いますよ。彼らには、「こっちは業界を背負っているんだぞ！」という意識があるでしょうからね。

田中　でも、それは反対なんですよ。本当に業界を背負っているのはオレなんだという自負がありますから！　だって、ぶっちゃけた話、証券マンを続けていればもっと金は稼げましたからね。それでも、ボクは恩返しがしたいんですよ！

――それでも恩返し！

田中　ボクが最初にやったプロとしての職業がプロレスの記者ですから！　証券マンをクビになって、プロレスに対する恩返しのつもりでボクは2冊の単行本を書いたんですよ。退職金を食いつぶしてまで。それで本当に背負っているのはどちらですか？

――食いつぶしてまで（笑）。田中さんにしてみれば、現在のマスコミは、プロレスにぶら下がっているだけだということですね。

田中　井上さんが言っていたように、控え室に毎日入っているから偉いんじゃないんです！　今のマスコミは、業界のパイを縮めることばかりやってますよ。

――田中さん的には、文章を書くにしても、業界のためというが念頭にあるわけですか？

田中　そうです。ボクは単に裏を暴いているんじゃないです。日本のことに危機感を感じてやってるわけですから！　さっきも言ったようにボクはずっとアメリカの経済の世界で生きてきたわけですけど、プロレス界と経済界はホントに似てるんですよ。ボクが留学してた頃、日本からの企業派遣で来ていた人たちなんて完全にこれ（と天狗のポーズ）ですよ。「（80年代の）日本式経営こそ最高なんだ」とか「コロンビアのビジネススクールの教え方はぬるい」とか、そこまで言い切っているんです。ボクは、「そうなんですか？　すいません、ボクは何も知りませんから教えて下さい」って言ってたくらいでね。

――某業界人に冷たくされたときと同じリアクションですね（笑）。

田中　（ツッコミも耳に入らず）そしたら、どうですか！　90年代になってバブルが崩壊したら、コロッとアメリカが逆転して、アッという間に巨大な差をつけられましたよ。いまの日本の不景気は、日本の奢りが原因なんですよ！（ドンとテーブルを叩く）。

――はぁ〜、なるほど！　日本のプロレスも全く同じですねぇ。

田中　そうでしょ？　80年代はハンセンとか世界の強豪が来るのは日本だけでしたよ。日本のギャラが高くて、アメリカの団体なんてギャラが安いから一流の選手は行かなかったんですよ。でも、今はどうですか？　スコット・ノートンとかスーパーJとか、そんなのばかりで一流の選手なんかどこにも来やしないですよ！

今年1・4の長州力vs橋本真也で、また大きなミソをつけた新日本。だが、長州は完全復帰に向けて試運転中。「文句言ったヤツには数百倍にして返す」と宣言しているが……。

――新日は提携団体のはずなのにWCWの選手ですら呼べないですからね。

田中　こんなにえらい逆転をされたのはなぜなのか考えないと、ホントに日本のプロレスはヤバいですよ。

――では、今後の日本のプロレスはどういう方向に進めばいいんですかね？

田中　ボクと話している選手や関係者はたくさんいるんですよ。現実問題として、ボクは彼らをアメリカ式に感化してますからね。彼等は、ボクの意見を聞いて「日本のプロレスも変わらなければいけない」と思ってるはずですから。たとえば闘龍門などは、アメプロの路線に変えてきていますよね。あとはちょっと難しいけど……長州力をクビにして、長州力を消すことだね（キッパリ）。

――け、け、消しちゃいますか！　怖ろしいこと言いますね（笑）。

田中　もう古い考え方の選手出身者のブッカーは不要だから！　選手の気持ちよりも、他に優先すべきことがいくらでもあるでしょう？　日本のプロレス界は根本的に選手と記者の意識改革をしなきゃダメですよ。

――たとえば、日本のプロレス界に一石投じるために田中さん自身で雑誌を立ち上げるというような野望はないですか？

田中　やってもいいですけど、正直に言うとまだまだシュート活字のパイは小さいということを知ってますから。ただ、シュート活字を毛嫌いしてる関係者にも、これだけは言っておきます。「もっと真剣に21世紀は日本のプロレスをマット界の中心に再び戻そうよ」と。これがボクのメッセージです！（力強く）。

――みんな考えてることは同じなんでしょうけど、その方法が違うだけなんですね。

田中　そうなんです、日本のプロレスファンは胸を張っていいんですよ。アメリカのマニアも「やはり日本のプロレスが一番だ」と言っているんですから。たとえビジネスの規模で大差をつけられた現在でもね。

――試合のクオリティーの問題ですか？

田中　簡単に言えばそうです。いわゆる試合のクオリティーだけで年間最優秀試合賞を選ぶとすると、アメリカ人にとっても（元）全日本の四天王の試合が常にトップなんですよ。あるいは女子プロレス信者みたいな連中が、驚くべき規模で日本からの情報を毎日追いかけてる国なんです。そいつらにとって豊田真奈美は、もうずっと神様なんです。その代わり新日は全然ダメですけど。

――あっ、アメリカでも（笑）。

田中　やはり、新日本のビデオが一番手に入りやすいんでみんな見るんですけどね、物凄く評判悪いです！（キッパリ）。アメリカ人に「最近の新日は何でこんなにつまらないの」って、よく聞かれますからね。

――凄い話ですね、それも（笑）。

田中　しかも長州のことはボロクソに言われてますよ。日本では「現場監督」とか曖昧な表現を使うけど、ボクが関わってる『レスリング・オブザーバー』は「長州が、エクゼクティブ・ブッカーであり最終責任者だ」って書いてますからね。だから、「佐々木健介や中西学みたいにプロレスの下手な連中がトップを取ろうとするのは、長州が悪いからである！」とね。アメリカでは一誌だけが書いているんじゃなくて、合同キャンペーンのようになってますよね。

――え〜っ!?　〝長州下ろし〟キャンペーンですか？　ムチャクチャ凄いですねぇ！　ひ

謎に包まれたJd'スポーツ教室潜入リポート!

ReMixの藪下めぐみが

ょっとして、それって田中さんがかなり扇動している部分はないんですか?

田中　それはあります（笑）。ただし『レスリング・オブザーバー』以下で悪口書いてるのは、ボクだけじゃないですよ。フミ斉藤さんやウォーリー山口さんも、日本のメディアではいいことだけ書くんですよ。でも、英語のメディアでは違うことを伝えるという悪い傾向がありますね。フミ斉藤さんも、こないだアメリカのインターネット・ラジオに出演したときは「この一年間、新日本は全然面白くなかった」というようなことを延々と言ってましたからね。

——アハハハ! 日本で書いてる原稿とアメリカでの発言と、どちらが本音なんですかねぇ?

田中　ねえ（笑）。このインターネット時代、あらゆる情報はすべてもう繋がってますからね。たとえば、世界で一番最初に「前田日明が女性スタッフを殴ったらしい」ということを公開したのも、UFCとWCWの身売り話リークも、ECWの崩壊だって、すべてのニュースはボクが出演しているアメリカ発のインターネット・ラジオなんですね。

——まあ、前田さんの情報にも〝真実〟はたくさんあるみたいですけどね。最近そういう情報は全部ネットの方が先ですよね。

田中　速報性なら一番でしょうね。インターネット常時接続が可能になってもっと爆発的に普及すれば、アッという間に雑誌の生命は終わるかもしれませんよ。これからもシュート活字をやらない雑誌は、本当に廃刊に追い込まれる可能性があると思いますから。ボクは天下の『週プロ』ですら危ないと思ってるんですよ。

——近い将来、「プロレスの情報ならネットか『東スポ』か」という状態になるかもしれませんよね。

田中　最終的には、そうなるでしょうね。だから、そうなる前に「シュート活字」に手を染めた『紙プロ』は生き残る可能性があると思います（キッパリ）。

——アハハハハ、ありがとうございます。別の理由で潰れてるかもしれませんけどね（笑）。

【2000年12月19日、東京・品川プリンスホテルにて収録】

インタビュー後記■　プロレスマスコミの裏街道を歩み続けてきた田中氏だけに、その鬱憤や怨念はすさまじいものがある。こうした経歴についてボクの周辺などでは「しょせんミニコミあがりでしょ?」という声も上がってはいる。たしかに、この持論は20年前のマスコミでは当然掲載不可能なことやミニコミ展開せざるを得ないことは容易に想像がつく。そして「あいつはパクった!」と怒りをブチまけるのも、田中氏の芸風のひとつと考えていいだろう。もうプロレス・マスコミの中には「シュート活字」的な手法は数多く取り入れられている。ましてや、インターネット上では、個人が思い思いに意見を発信できる時代である。田中氏風に言えば、時代そのものが「田中正志のパクリ」となる日も、そう遠くはないであろう。いままでは「プロレス界のタブー」を突き抜けたところにしか存在し得なかった「シュート活字」だが、そのタガが外れてしまえば、堰を切ったようにそこに人が流れ込んでいくのは仕方のないこと。それにいちいち目くじらを立ててみても仕方がない。むしろ、他者がドンドン「シュート活字」に参入してくる中で、田中氏はどういった論旨を展開していくのだろうか? ボクは非常にそこが興味深い。

まあ、今回のインタビューを読んで頂ければおわかりになると思うが、田中氏自身にはいくつかの矛盾点がある。「オレは恋愛感情でプロレスは見ない」と言った直後に「杉山代表みたいな女を落としたいね」とか言ってみたり。こうした脱力系な矛盾こそが、田中氏の魅力ではないだろうか。

いつの時代も、革命を起こしたり、発明をするのは突飛な人間である。それはI編集長やターザン山本をご覧いただければわかると思う。そして、今回のインタビューで田中氏にその素質が十分に備わっていることもお伝えできたと思っている。

前回でも触れたように「ヤオガチ判定」などの感心できない点は多々あるものの、根底に「ビジネスとしてプロレス業界を発展させる」という志がある限り、ボクは「シュート活字」的なスタンスを取り入れて、今後も企画を立てていきたいと思っている。「シュート活字」に呼応するような形で、各団体も続々と変革しつつあるだけに、今後この渦がもっと大きくなる可能性は、決して否定できないはずだからである。

TADASHI TANAKA

1959年生まれ。同志社大学在学中に学生プロレス『DWA』を設立、同時期に『週刊ファイト』でアルバイト開始。卒業後はコロンビア大学大学院ビジネススクールを修了し、MBAを取得。現在はシカゴ在住で、アメリカのプロレス業界紙『レスリング・オブザーバー』で絶賛執筆中。なお、昨年12月に東京で行った田中正志氏のトークライブの模様を収録したCDを「観戦記ドットネット（http://www.kansenki.net/）」で絶賛発売中なので、興味のある方は、是非ともこちらを覗いてみていただければと思う。

田中氏の凄味を引き出すために 本誌は「シュート活字」を「シュート活字」します!

今号のインタビューの中で田中氏はいくつか原稿に修正を加えた。それは通常「原稿チェック」と呼ばれ、事実誤認や言い間違えによるトラブルなどを避けるために、どんなインタビューでも日常的に行われていることである。本来ならば、その前の状態のものを公開するのはルール違反なのだが、今回の田中氏の修正に添えられた文章は、その人間性を見事に反映しており、抜群に面白かったので、敢えて掲載することにした。田中氏が「シュート活字」を名乗る以上、本誌もシュートを仕掛けます!ま、そんな物騒な内容ではないので、気軽にお楽しみください。むしろ田中正志という人物の面白さがより一層わかるはずなので。

「（前略）フミ斎藤さんと宍倉さんには、機会があれば謝っておいてください。そもそもお二人とも知らないんです。新人の紹介インタビューがインパクトを持つためには、わかりやすく単純化することも重要です。それで門茂男、吉田豪、Showの部分はすべてカットお願いします。とりあえず『シュート活字』紹介のために、その対立概念として週プロを攻撃するのは仕方ないんですが、名前の数がそれ以上になると、なんだか狭い村業界の中の悪口大会になってしまい、紙プロにとってもよくない。まず門茂男さんに関しては、紙プロ読者の95%が名前さえ知らないと思いますよ。次に、吉田、Showさんは紙プロ・キャラなんでしょうが、本当に申し訳ないんですけど彼らの記事を読んだ記憶がないんです。知らないんですよ。確かにインタビューの席ではたまたま聞かれたんで答えましたけど、どういう方たちなのか何もわからない。ちょうど下書きになったインタビュー中に、『誰にも文句はないし、敵だとも思ってない』発言が出てきますが、あれは本音です。逆に少しだけ、当日のインタビューではなかったヘビメタ趣味なんかは、あえて発言部分を追加させていただきました。証券マン話よりも、こっちの方がキャラとしてはわかりやすいと思います。まだまだ業界は『シュート活字』に抵抗があるわけですから、謙虚にいくことと、明るくわかるやすく、さらに好感を持たれるようにお願いしたいと思います」

修正前には、田中氏が門茂男、吉田豪、Showに噛みつきまくっていたのだが、削られて、代わりにヘビメタの原稿が入っていたのだ。田中氏よりも全然若造なボクが偉そうに言うのもアレだが、ズバリ言わせてもらうとヘビメタ話→わかりやすい→高感度UPというのも解せない。読者のニーズをまったく無視したこの暴走ぶり、いかがだろう? 田中正志41歳——怪物だ!

※前号の田中氏のプロフィール部分がタナカ・マサシと誤って記載されていました。田中氏および関係者、読者の皆様にご迷惑をおかけしました。訂正いたします。

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間　AM11:00〜PM7:00　年中無休

新日本VS全日本、アルシオン総集編、大日本デスマッチ
続々見逃せない新作話題ビデオが登場!!

新日本vs全日本全面戦争 パート1&2

2/25発売　各約167分各7,140円

プロレスファンが夢見た新日本vs全日本がまさかの実現!話題の名勝負をビデオ化。パート1では10/9東京ドーム大会全試合と12/14の新日本vs全日本タッグ最強戦を収録。勿論、2000年最高試合賞に輝いた健介vs川田と飯塚&永田vs川田&淵の30分フルタイム戦はノーカット収録。他にもIWGPタッグ戦、IWGPJr戦、外国人最強戦、橋本復帰戦、大阪プロレスに波紋を呼んだライガーvsデルフィン等々、話題の試合満載!パート2では1/4東京ドーム大会を全試合収録。川田、健介、蝶野、天山、永田、小島が参加したIWGPヘビー級王座決定トーナメント、武藤&大谷の凱旋帰国試合、長州vs橋本の遺恨マッチ等などこちらもグッド!健介vs川田の再戦はノーカット収録。(DVDは3/25発売各5,040円)

●パート1収録試合　飯塚&永田vs川田&淵、健介vs川田、蝶野&Mr.Tvs淵&越中、ノートンvsウィリアムス、天山&小島vs中西&永田、高岩vs金本、フライvs飯塚、ライガーvsデルフィン、橋本vs藤波

●パート2収録試合　健介vs川田、長州vs橋本、武藤&大谷vs中西&ライガー、天山vs川田、健介vs蝶野、飯塚vsカシン、田中&金本vs高岩&真壁、天山vs永田、健介vs小島

新日本ベストバウトオブ1996-2000

DVD　2/25発売　6枚組758分31,500円

新日本の年毎のベスト試合を1巻にまとめてきた人気ビデオ「BESTBOUTS〜ベストバウツ〜」シリーズ初のDVD化、6枚組!熱狂と興奮に包まれた新日本プロレスの1996年から2000年までのベストバウツを200試合以上収録。2000年ベストバウツではビデオのロングバージョンで収録!

・1996　〜高田vs武藤、橋本vs高田、桜庭参加のタッグ戦等UWFインターとの対抗戦やサベージ、ノートン、スタイナーズらWCW勢大挙来襲、大谷vs桜庭、デルフィンvsTAKA、ライガーvs東郷のスカイダイビングJ.Jクラウン等を収録。

・1997　〜INOKI FINAL COUNTDOWNの猪木vsウィリー・ウィリアムス、vsタイガーキング、新日本vs大日本、大谷vs田尻等

・1998　〜長州引退試合、猪木引退試合、天龍vs武藤、天龍vs橋本等名勝負等

・1999　〜マサ・サイトー引退試合、蝶野vs大仁田、IWGP戦武藤vs天龍、ムタvsニタ、永田vsキモ等

・2000　〜IWGP戦健介vs天龍、鈴木健三デビュー戦、山崎一夫引退試合、長州vs大仁田、蝶野&後藤vs淵&太陽、健介vs川田等

BESTBOUTSof2000

147分¥10,290

長州vs大仁田の電流爆破、健介vs川田の新日本vs全日本頂上対決…2000年ミレニアムイヤーに繰り広げた新日本での熱き闘い全41試合を厳選収録。

収録試合　大谷&高岩vsカシン&田中、ライガーvs金本、中西vs健三、山崎vs永田、藤田vsキモ、蝶野vs武藤、健介vs天龍(1/4.東京ドーム)蝶野vs健介(2/20.両国)永田vsカシン、金本vsフライ、吉江vs天山、健介vsライガー(4/7.東京ドーム)健三vs真壁、藤波vs蝶野、パワーvsムタ(5/5.福岡ドーム)藤波vs西村、健介vs中西(6/2.武道館)高岩vs大谷(6/9.大阪)天山&小島vs永田&中西、健介vs飯塚(7/20.北海道立総合体育センター)長州vs大仁田(7/30.横浜)G1クライマックス 健介VSジョンストン(8/7.大阪)天山vs中西(8/7.大阪)永田vs藤波(8/8.大阪)健介vsH斉藤(8/9.広島)ライガーvs後藤(8/9.広島)永田vs飯塚(8/9.広島)中西vs西村(8/11.両国)健介vs小島(8/11.両国)高岩vs越中(8/12.両国)健介vs永田(8/13.両国)健介vs中西(8/13.両国)蝶野&後藤vs渕&太陽ケアー(9/16.愛知)橋本vs藤波、飯塚vsフライ、天山&小島vs中西&永田、ノートンvsウイリアムス、蝶野&Mr.Tvs渕&越中、健介vs川田

デスマッチバイブル2000 パート1.2

120分6,825円

世紀末の2000年にBJWが繰り広げたデスマッチを"ワールドエクストリームカップ""葛西VS松永""ファイヤーデスマッチ""BJW VS CZW"等の戦いを中心に1.2巻では2000年8月までを収録し同時発売。(3巻は発売日未定)

パート1では大日本の北の聖地、札幌テイセンホールから「シャドウWX VS 本間朋晃」「山川竜司・M・サンプラス VSザンディグ・ワイフビーター」「松永光広VS葛西純・蛍光灯&ボブワイヤーボード"裸足"デスマッチ」「松永光広VS葛西純・秋葉原ファイヤーデスマッチ」etc

パート2ではCZW来襲からWEC決勝などから「シャドウWX VSザンディグ・レモンソルト&ボブワイヤーボードデスマッチ」「本間朋晃VSザンディグ・レモンソルト&マスタードデスマッチ」「ジ・ウィンガーVSアシッド・CZW Jrタイトル戦　伝説のバルコニーセントーン」「ブッチャーVSテイオー」「ブッチャーVSテリーボーイ」etc

U-W-Fヘビー級トーナメント プロジェクトU

〜幻か、復活か、Uへの鎮魂歌〜　120分6,930円

2000.年9/2川崎市体育館。キングダムエルガイツ初ビデオ!藤原組長、内藤恒人、ビリー・スコットなどUWFに関係の深い選手たちが初のUWFベルトを争うトーナメント。ナガサキや大刀光や小坪らも参加。そして、忘れてならないのはこのトーナメントの主役、入江秀忠!勝ち上がるたびに涙、涙の感動が!他にも特別マッチとして中野vs高田慎一と今一番旬なレスラー村浜vsタノムサク鳥羽を収録。

府川唯未Perfect Collection

DVD　SAYONARA　360分10,500円

VIDEO　府川唯未CollectionSAYONARA　120分6,930円

・復帰が待たれていたアルシオン府川唯未が突然の引退発表!これは、ビジュアルレスラーNo.1の府川唯未のレスラー生涯を振り返るビデオ。アルシオンでの活躍を中心に名勝負や印象に残る試合を厳選!

●DVD&ビデオ共通主な収録試合

・デビュー〜アルシオン旗揚げ(1993〜1998)

長谷川&府川vs吉田&玉田(97年6月1日後楽園)玉田&府川vsアジャ&京子(97年6月17日札幌中島)府川vsキャンディー奥津(98年2月18日後楽園)大向&府川vs玉田&矢樹(98年12月18日横浜文化体育館)

・吉田との名勝負数え歌〜猛武闘賊の参戦(1999)

府川vs吉田(99年1月17日クラブチッタ川崎)府川vsアジャ(99年6月30日後楽園)府川&玉田vs下田&三田(99年7月25日後楽園)府川vs吉田(99年9月26日後楽園)大向&府川vs下田&三田(99年12月19日京都・KBSホール)

・V.I.P.の結成〜ラストファイト(2000)

府川&三田vs大向&下田(2000年1月30日Zepp Tokyo)府川vs大向(2000年5月7日後楽園)府川&大向&バイオニックJvsGAMI&玉田&レッド・リンクス(2000年7月16日後楽園)

●ビデオオリジナル内容

2000年11/20の引退記者会見をダイジェスト収録。発表の前の緊張した表情、涙の記者会見、府川選手の辛さが伝わってきます。

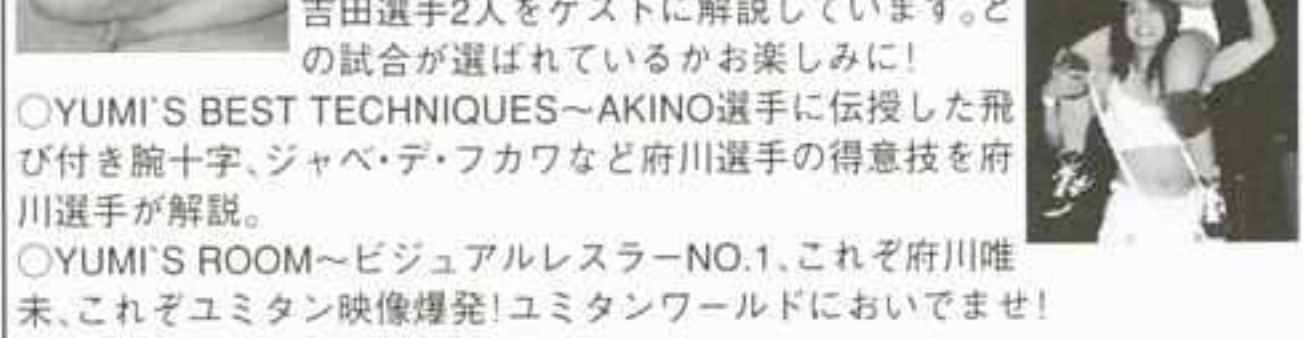
●DVDオリジナル内容

○本編〜ビデオではダイジェストでしか収録できなかった試合がほとんどノーカットで入っています。(例えば1999年9/26吉田選手からの感動の初勝利。)本編十ボーナストラックで400分も入ってます。超ボリューム!

○YUMI'S ROOM in the ARSION〜アルシオンでの3年間に渡る250試合以上ダイジェスト収録。北は北海道から南は沖縄までいろんな試合が入ってます。あなたの見に行った試合が入っているかも?

○BEST BOUT COUNT DOWN〜府川選手自ら選んだベストバウト10を府川選手自らの解説で収録。大向戦、吉田戦では大向選手、吉田選手2人をゲストに解説しています。どの試合が選ばれているかお楽しみに!

○YUMI'S BEST TECHNIQUES〜AKINO選手に伝授した飛び付き腕十字、ジャベ・デ・フカワなど府川選手の得意技を府川選手が解説。

○YUMI'S ROOM〜ビジュアルレスラーNO.1、これぞ府川唯未、これぞユミタン映像爆発!ユミタンワールドにおいでませ!

闘龍門ビデオシリーズVOL.3

ドラゴンズ ゲイト

〜闘龍門のエースは誰だ?〜　120分4,720円

ひざの怪我により、長期戦線離脱していた、正規軍マグナムTOKYOがいよいよ復活!軍団抗争はC-MAXvsM2Kの争いから、正規軍を含む三国志時代に突入し、闘龍門は次期エースの座をめぐる新たな局面を迎えた。本作では2000年度シリーズ後半の注目試合を中心に復帰に賭けるマグナムTOKYOインタビュー、地元鹿児島でのSUWAインタビュー、前回大好評だったストーカー市川名勝負パート2など、盛り沢山な内容と共に厳選収録しています。

収録内容　「復活!マグナムTOKYO」〜復帰にかけるマグナムTOKYOインタビュー十復帰第一戦マグナムvsSAITO、「SUWA in鹿児島」〜地元鹿児島でのインタビュー、「闘龍門のエースは誰だ?」〜マグナムvsSUWA、「ストーカー市川激闘史」〜vsアジャ・コング、新崎人生、アレクサンダー大塚他、「斉藤了〜T2Pの鳴動」〜vsSAITO、堀口元気、「闘うエグゼクティブ岡村隆志」、「C-MAXvsM2K R-2」〜10/1ディファ、11/7チキンジョージ、12/16チキンジョージ、「Fin de ano 2000」〜12/21後楽園ホールCIMA&SUWA&2000vsマグナム&キッド&新健、TARU&ストーカーvs神田&望月

DVD・VIDEO 新作情報

発売日	タイトル	価格
2月20日	武藤vs大谷	¥9,870
2月20日	DVD武藤敬司	¥5,040
2月20日	DVDグレート・ムタ	¥5,040
2月23日	PRIDE.12	¥9,975
2月23日	DVD PRIDE.12	¥5,040
2月23日	DVD 新日BEST BOUTS OF 1996〜2000	¥31,500
2月23日	新日本vs全日本 全面抗争 新世紀プロレス 1・2	各¥7,140
2月23日	Millennium Fighting Arts INOKI BOM-BA-YE	¥5,040
2月28日	船木誠勝(仮)	¥6,930
2月28日	DVD　船木誠勝(仮)	¥5,040
2月28日	Re-MIX	¥2,940
2月28日	DVD Re-MIX	¥2,940
2月25日	DVD 新日本vs全日本 全面抗争 新世紀プロレス 1・2	各¥5,040
3月4日	DVD Millennium Fighting Arts INOKI BOM-BA-YE	¥6,090
3月21日	DVD THE BEST OF K-1 GP1993-2000(仮)	¥7,140
3月21日	DVD THE BEST OF K-1 SPECIAL BOUTS1993-2000(仮)	¥7,140
3月23日	DVD桜庭和志スペシャル プロレスラー最強伝説	¥6,090

コンプリート アルシオン 6

2/中旬発売予定

〜女子大空中祭から浜田姉妹対決まで〜　120分6,930円

2000年7月〜12月日本全国&ハワイ&メキシコ。お馴染み大人気シリーズコンプリートアルシオンもはやくも第6作、今回は2000年後半の大総集編。クィーン、ツインスター、スカイ、P☆MIXの2000年後半の全てのタイトルマッチ、ツインスタータッグリーグ全戦やスペシャルマッチが沢山収録されてます。特に今回は府川、奥津、ソチ引退、JWPからPIKO&日向の参戦、山縣デビュー、浜田家族問題、文子のアジャ越え等など本当にいろんな事があり、アルシオン史上でももっとも重要な半年だったと思います!是非ともこの激動の半年をこのビデオで振り返って下さい。勿論、藤田&AKINO&文子のハワイ珍道中、水着撮影、ファンの集いなどオモシロ映像も沢山入ってます。

収録試合　○クィーンタイトルマッチ〜アジャvs下田、アジャvs文子、文子vsソチ○ツインスタータイトルマッチ〜大向&下田vsアジャ&吉田、大向&下田vsGAMI&玉田、GAMI&玉田vsリンクス&PIKO、GAMI&玉田vsアパッチェ姉妹、GAMI&玉田vs吉田&ASARI、GAMI&玉田vsラスカチョ(12/3&12/17)○スカイタイトルマッチ〜マリーvs文子(8/12&10/27)、文子vsASARI、文子vsAKINO、AKINOvsASARI○P☆MIXタイトルマッチ〜浜田親子vsアパッチェ親子、浜田親子(文子)vsペンタゴン&ソチ○スペシャルマッチ〜アパッチェ親子vs文子&AKINO&マルビン(7/30京都)、マリーvs吉田、アジャvsAKINO、浜田vsリンクス(8/20なみはや)、9/29文子メキシコ凱旋試合、ソチ浜田シングルカウントダウン、大向vs吉田(12/8福岡)、奥津札幌引退試合(12/16&17)、○アルシオンアワード2000

カーニバルアルシオン2000

120分6,930円

2000年11/19&12/3後楽園。アルシオンのビッグイベント「カーニバルアルシオン」。このビデオは3大タイトル戦、ミックスドマッチ、20世紀最後の新人デビュー戦等々内容盛り沢山!メインは文子vsアジャのクィーンタイトル戦。デビューからアジャを越えて21世紀の女王になるべく闘ってきた浜田文子。20世紀最後のアジャ戦のこの試合で見事勝利し、チャンピオンに!感動の女王の戴冠をじ〜くり見て下さい!ツインスタータイトルマッチではGAMI&玉田の王者チームに因縁の猛武闘賊が挑戦。どちらが勝つか最後の最後までわからない白熱の展開。そして、もう一つのタイトル戦、スカイでは空中戦プラス関節技戦を展開。吉田に教わった関節技で闘うASARIとアルシオンの申し子AKINOの戦いはこれこそアルシオンスタイル!最後は府川直伝の飛びつき腕十字で見事AKINOがスカイの女王に!他、衝撃の引退宣言をした奥津のミックスドマッチ、大向と日向、山縣デビュー戦、11月後楽園大会から文子と日向の一騎打ち、6人タッグトーナメント、高瀬初勝利と凄い内容目一杯。

収録試合　12/3文子vsアジャ、GAMI&玉田vs下田&三田、AKINOvsASARI、カカオ&奥津&藤田vsグラン&マリー&ファビー、大向&Jvs日向&ソチ、リンダvsPIKO、吉田vs山縣、11/19文子vs日向、GAMI&玉田&PIKOvs下田&三田&大向、アジャ&吉田&AKINOvs下田&三田&大向、GAMI&玉田&PIKOvsマリー&ファビー&ソチ、リンダvs高瀬

スカイハイ・ドスミル

パート1〜3　各120分7,140円

マスカラスが20世紀最後の編隊飛行!そしてミステル・カカオのデビューシリーズを完全収録。ミステル・カカオ、リッキー・マルビン、タルサン・ボーイのトリオ「AIR BLIZ」も注目を集めた「スカイハイ・ドスミル」シリーズが待望のビデオ化!パート1では7/29愛知・露橋大会と7/30京都大会を、パート2では7/31大阪大会と8/2静岡大会を、パート3では8/4後楽園大会と8/6横浜大会を各々収録。

大好評DVD発売中!!

タイトル	価格
●前田日明 闘いの証「天の章」815分・「地の章」716分	各¥31,290
●新日ラディカルファイト　100+α1・2	各170分¥7,140
●アントニオ猪木 物語.1(84分) 2 (89分)	各¥5,040
●一触即発.1 (151分) 2(152分)	各¥7,140
●愚零闘武多コンプリートBOX	585分¥21,000
●武藤敬司スペシャルBOX	287分¥10,500
●初代 タイガーマスク ファイナル コレクションBOX	796分¥31,500
●三銃士ヒストリー4・5　橋本・蝶野	120分¥5,040
●キラー猪木BOX	645分¥32,760
●HYPER HISTORY OF G1 CLIMAX	648分¥21,000
●パワー・オブ・ライガー	286分¥10,500
●長州vs大仁田 世紀末電流爆破決戦!	61分¥5,040
●長州 力	120分¥5,040
●激闘史.1、2	各¥3,990
●猪木 名勝負十番 I 十1 ストロングスタイル編	84分¥5,040
●猪木 名勝負十番 II 十1 異種格闘技戦編	89分¥5,040
●猪木 名勝負十番 III 十1 日本人抗争編	99分¥5,040
●PRIDE-1998 (1〜4)・1999 (5〜8)	各¥10,290
●PRIDE-GP 決勝戦	¥10,290
●PRIDE-10・11	各¥5,040
●コロシアム2000 船木誠勝vsヒクソン	120分¥5,040
●最強伝説ヒクソン・グレイシー柔術	67分¥5,040
●VALE TUDO JAPAN '96〜'97'　98〜'99	各¥5,880
●佐藤ルミナ　HYPER ATHLETE BODY (BASIC・ADVANCED・PROFESSIONAL)	各¥5,040
●MC vs NB	123分¥5,040
●カルガリー・スタンピード・レスリング	85分¥5,040
●地上最強のカラテ1 (114分) 2 (113分)	¥5,880
●府川 唯未　Perfect Collection	360分¥10,500
●キューティー鈴木 ガードレス	45分¥3,990

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本の場合¥500、2本以上は無料、グッズの送料は、お手数ですがお問い合わせ下さい。

1,000円お買い上げごとにスタンプを一つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる!(店頭・通販共)

【通信販売お申し込み方法】

住所・氏名・TEL・希望商品名を明記のうえ現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。また代金引換(税込¥5,000以上)の場合に限りハガキ又はFAXでの注文となります。(手数料¥315が加算されます。)

●郵便振込口座番号　00180-8-65236　レッスル通販

※郵便振替通販に関してのお問い合わせは池袋店にお願いします。

レッスル渋谷店　店頭TEL03-3464-0078 通販部&FAX 03-3464-1780

〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル

レッスル池袋店　店頭TEL 03-3989-0056 通販部&FAX 03-3987-7817

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306

ブレーキの壊れたダンプカー
スタン・ハンセンに続き あの島田裕二も引退!?

ポリープで壊れたシャベルカーが
本誌独占!! 謎の壮絶闘病日記を激筆!

『PRIDE』、『K−1』はもちろんバトでも活躍中の名物レフェリー・島田裕二。リング上では必要以上に「アクション!」と叫びまくり、またリングを降りれば“沈黙恐怖症男”と呼ばれるほどに喋りまくることで有名な男。そんな男が突如、一言も発しなくなった。どうやら原因は喉に出来たポリープであるという。憧れのアントンの試合をレフェリングするために手術を延期してまで『猪木祭り』に強行参戦。ポリープ発見から摘出手術まで彼の胸中を綴った手記を一挙公開!

思い起こせば、昨年の11月中頃、そうバトラーツ駒沢大会前あたりから喉の異変に気づいたのだった。軽い風邪で声がかすれているぐらいにしか考えてなかったのに。まさか我が人生最大の悲劇が始まるとは夢にも思わなかった。

2000年12月●日
レフェリーの俺に引退勧告が……

朝起きて、もういい加減声も治る頃なのに一向にかすれ声が良くならない。

「そんなに長い風邪なんかないからきっとポリープじゃない?」

私の自慢の美人妻・優子が言った。

「えーッ! そんなの歌手とかよくしゃべる人がなるんだろ?」

「そう、あなたよくしゃべるじゃん、一度病院行きなさいよ」という会話の後、私は耳鼻咽喉科の病院に行った。

「ポリープですよ。手術しなさい」

医者からの、まさに引退勧告にも似た切ない言葉（入院か?）この年まで元気で病気もしたことないのに。寂しい気持ちが私を襲った。

構成＆撮影／幸田珍
text & photographs by Chin Koda

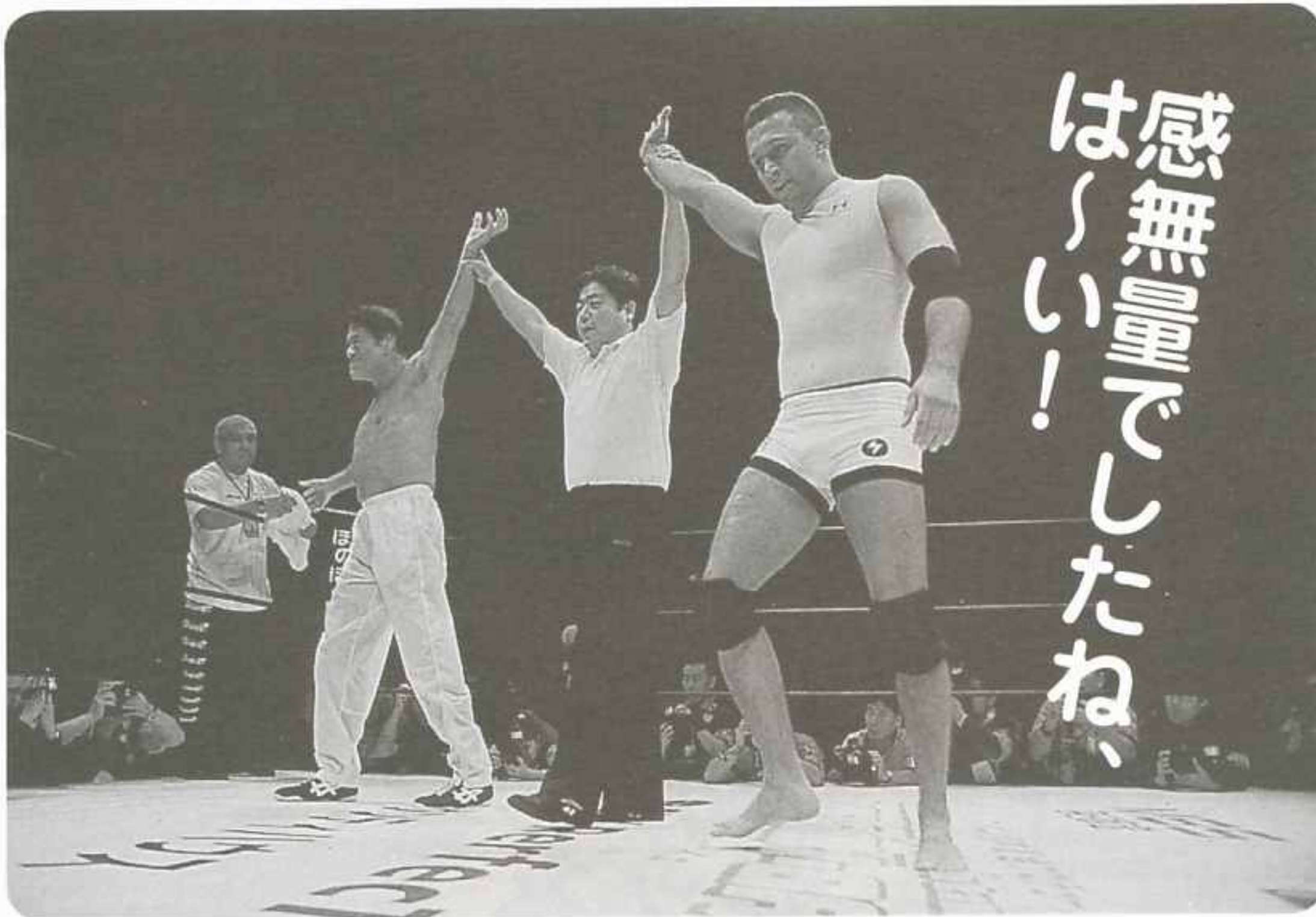
あ〜、しゃべりたい！

感無量でしたね、は〜い！

12月31日 夢が叶った！グレイトフルデイ！

この日は『猪木祭り』であった。この日のために手術を伸ばしたのだ。なぜなら猪木さんのレフェリーが出来るのだ。忘年会シーズン真っ只中、好きな酒、好きなカラオケ、好きなおしゃべりを控えたのも愛する猪木さんのレフェリーをしたいがためだった。大会も無事成功。キッチリ仕事し、これぞイノキイズムだと自問自答した。そう、迷わずやればできるのだ！

2001年1月15日 入院初日に打ちのめされた！

いよいよ入院日。選ばれし者の恍惚と不安、二つ我にあり。元気なのに入院とは結構つらいものがある。でもリフレッシュ休暇と思い入院生活をエンジョイしようと考えたのが甘かった。

1月18日 生か死か？ポリープ摘出手術！

手術当日だ。全身麻酔なので痛みは感じなかった。でもテレビで見るように麻酔を掛けられて自分が落ちて行く瞬間ははっきり覚えていた。「どこにいくの？ 私は誰？ 人造人間になるのか？」などとくだらないことをまどろみの中で感じた。

1月19日 あ〜、しゃべりたい！①

手術も無事成功。だ、だが医者からの非常通告。
「島田さん、1週間から10日の間、発声禁止です！」
なんということだ！ これでは桜庭ロックを使えない桜庭選手状態だ。あ〜、俺が一体何したの？

1月●日 あ〜、しゃべりたい！②

入院生活も3、4日すぎた。本当にしゃべれないのはつらい。自分の意志を筆談でしか伝えれなく、周りの人も気を使って話し掛けないし、まるで一人無人島に取り残されてるようだ。だんだんそれが苦痛になりストレスが溜まって来るのである。「早くしゃべりたい！ レフェリーしたい！」気持ちは、はやるが完全に意気消沈なのだ。

1月●日 あの伝説の放浪格闘家 芳賀元太、突如現れる！

この日ある人物がお見舞いに訪れた。彼は面会時間過ぎに来て私の背後にボォーと立っているだけなのだ。背後の気配に気付くとニヤニヤこちらを眺めている芳賀元太だった。《何で声掛けないんだ？》とボードに書き見せると、《発声禁止！》の札を指差した。《お前はいいんだ！ 俺が禁止なんだ》完全に彼のネタに声が出そうになってしまった。つくづく不思議な男だ。

最後には見舞いに来たのに私のいちごを食べていった。我が弟子・芳賀のおかげで少しストレスが発散できた。

人望の厚い（？）島田レフェリーの元へ見舞いに訪れたのは、バト所属選手はもちろん、元・バト営業の芳賀元太（詳しくは『紙プロ』10号参照）さらには仮面シューター・スーパーライダーの姿も。

1月●日 あ〜、しゃべりたい！③

いよいよ退院が近づいた。しかし、心は晴れない。なぜなら1週間近く入院し、筆談生活を余儀なくされ、世間とも断絶、楽しみは食事と愛する妻の面会のみ。さらに隣のジジィが夜中に大暴れ。注意したくても、しゃべれない。寝るに寝れない日々が続き、ストレスが増してきたのだった。あー、しゃべりたい!!

1月●日 「寡黙な男になる！」宣言！

いよいよ退院の日だ。先生から少しずつしゃべって良いとのこと。「あ！ 声が出た」とまるでクララが歩いた時のように私は、はしゃいだ。一時はこのまましゃべれず、陰気な引きこもり青年になるかと思い悩んだが、元の私に戻れた。献身的に看病してくれた妻のおかげである。

「山口さん、退院したよ」と電話するが多分女のとこにでも行っているのであろう、留守番電話だった。しゃべれないことがどんなにツライか体験できたのでこれからは無駄話をしない寡黙な男になります。

（編集部注：それは無理！）

皆さんもしゃべりすぎとカラオケには十分気を付けましょう。また、入院する人には芳賀を行かせます。退屈な日々を解消できるよ。

と、ここで日記は終わりだが、勝手にバトラーツの宣伝してやる。

（次のページへ急げ！）

『STILL LIFE』

3月1日後楽園ホール（試合開始／18：30）

関本大介（大日本）vs 沼沢直樹（大日本）
小野武士ＶＳ土方隆司
仮面シューター・スーパー・ライダー vs junji.com
アーバン・ケン vs 葛西純（大日本）
臼田勝美＆日高郁人 vs
カール・マレンコ＆松井大二郎（髙田道場）
アレクサンダー大塚 vs 藤原喜明（藤原組）
モハメドヨネ vs 村上一成（UFO）

****

3月1日後楽園ホールの対戦カードは、ここに注目！　あの女装男・村上がヨネと対決、アレクがレスリング勝負で藤原組長と師弟決戦、アーバン・ケンがＣＺＷの葛西と人間離れ対決など豪華カード目白押し。なんと来場者全員にキャッシュバックサービス（￥500の商品券）。『さくらや』みたいやろ？

気になるバトの今後の大会日程

3月 3日（土）埼玉・越谷桂スタジオ（18：00）
3月25日（日）神奈川・小田原川東タウンセンター・マロニエホール（18：00）
3月31日（土）東京・TOKYO FMホール（18：00）
4月13日（金）東京・後楽園ホール（18：30）
4月15日（日）宮城・Zepp Sendai（19：00）
4月17日（火）北海道・Zepp Sapporo（15：00）

****

そして４月13日後楽園はバトラーツ旗揚げ五周年記念大会！　石川雄規復帰戦、日高郁人vs松井大二郎の一騎打ち。サスケも友情参戦決定!!　見所たっぷりの大会やで！　15日は『Zepp Sendai』で、17日は『Zepp Sapporo』でも記念大会を行います。前売り券購入の方全員にＴシャツプレゼントや。バトも太っ腹やろ。みんな見に来て下さいね、は〜い！

◆緊急スクランブル書評◆

浅草キッド著
『お笑い　男の星座』
の感想駄文を偉大なる読者に捧ぐ

文／山口日昇
text by Noboru Yamaguchi

ある日、朝方に編集部に行くと、机の上に一冊の本が置いてあった。

『お笑い　男の星座』である。

後で聞いたら、ボクがいない間に水道橋博士本人がわざわざ持ってきてくれたらしい。しかも、サインまで入れてくれていた。

ありがとう、博士！　とターザン調にお礼を述べてみたが、吉田豪が言うには、ボクにこの本の書評をやってほしいということだった。サイケデリコといえばラブではなく、まずマスカラスの弟を連想してしまうボクでも、書評といえば吉田豪ということに異論はない。

でも、もうすでに豪ちゃんは、『TVブロス』誌上でこの本の書評をやっているらしく、ボクにお鉢が回ってきたということだ。

しかし、ボクに書評など書けるわけがない。だからこれは、感想駄文である。

ボクは、「駄っ文だ！」と志村けん調につぶやいて字数を埋めようと思ってみたり、締め切りが過ぎてからじゃないと一切原稿を書かないという人間だ。いや、普段は、原稿など書いてたまるか！　とさえ思っている人間である。

そういう人間がこの本を読むと、活字を本職にしている者以上の推敲っぷり、構成っぷりが、実に凄ェ！　ギラギラのぷりっぷりだ！　え〜、キッドもまだ燃えています！という感想がまず出てきてしまう。芸人稼業を続けながらの、非常に濃い執筆活動なので、10年もつ体が3年しかもたないということにならなければいいのだが。ンムフフフ。

キッドは歩みを止め「お笑い」を忘れたときに老いてゆく。ンムフフフ

ところでこれは、芸能界 or マット界で、妖しくも快い輝きを放つ"星"たちを、キッドが倍率を上げたり下げたりしながら仰ぎ見て、その"星"たちが織りなす滑稽な物語を紹介しながら、"男（女）よ、闘え！"というメッセージを滲み出している本である。

それに加えて、ビートたけし、アントン総帥、馬場さん、前田日明、高田延彦、ガッツ石松、故・宮路城南電気社長、水野晴郎、和田アキ子、岸部四郎、そしてターザン山本らの登場人物に対するエネルギーの注ぎ方が、危なっかしいくらいに尋常じゃないということを再発見できる本でもある。

巻末で、キッドの師匠であるビートたけしが、「おまえらは、誰かをすぐ好きになり過ぎるんだよ」というくだりが出てくるが、まさにキッドは、一連の登場人物の前に行くと、巨大に熱狂しているのがわかるのだ。

しかし、当然その裏では、しっかりと観察もしている。熱狂と観察、二つキッドにありである。

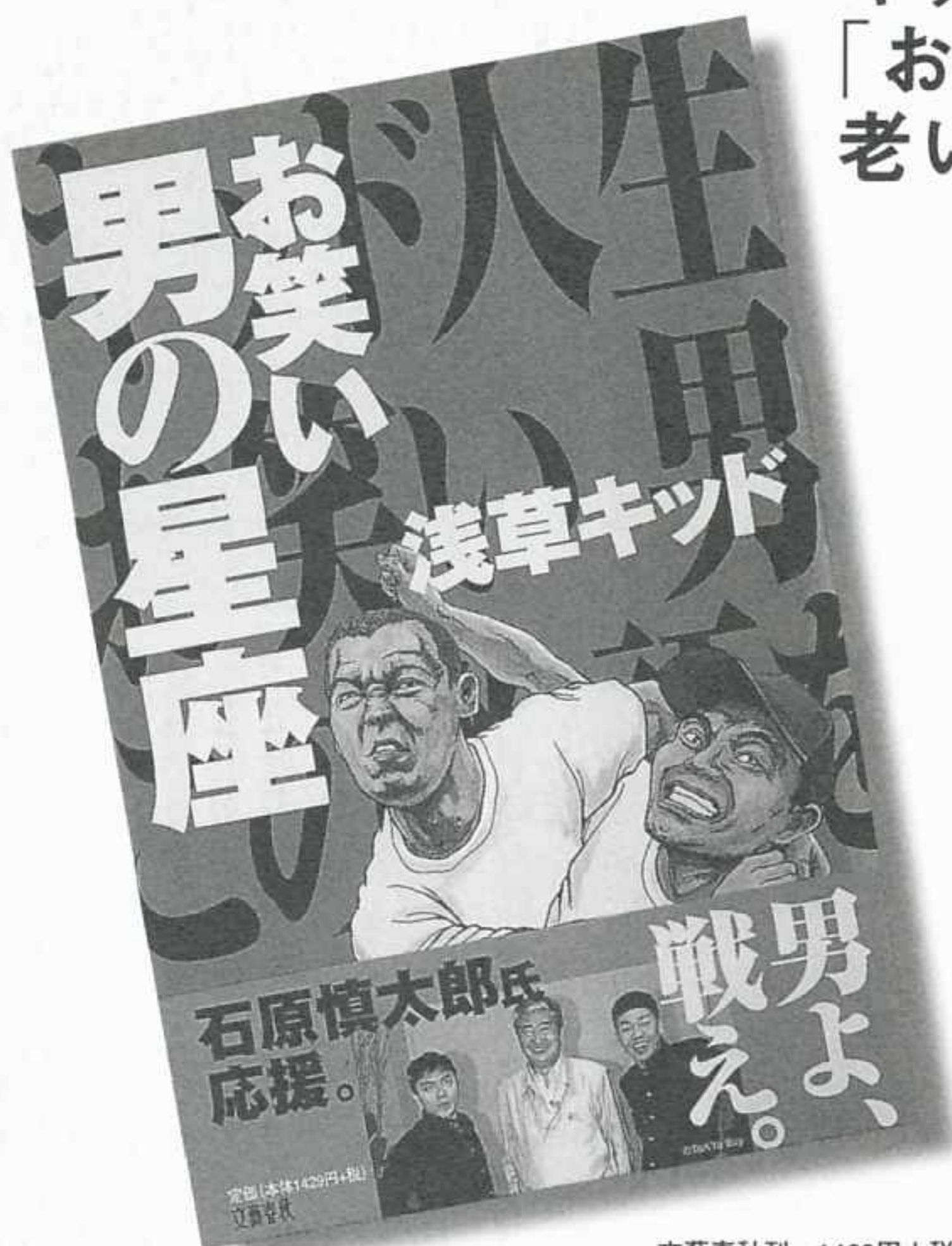
作家の村松友視さんは、『私、プロレスの味方です』の文庫版あとがきに、こう書いている。

「クソ真面目にプロレスを見るということは、徹底的に熱狂しながら徹底的に観察することであって、火傷と凍傷を同時に味わうような世界だ。しかし、火傷と凍傷が『痛い』という共通の感覚でつながるように、熱狂と観察も相似たところがあって、同時にこなすことができるような気がする」

キッドも、"星"たちに熱狂すると同時に観察しつつ、自分たちが世間に対峙するスタンスの取り方を考えていくという作業をしているのだろう。そして、ミーハーな精神とマニアックな精神の両輪を転がしながら、"星"たちの物語を紡いでいるのである。

な〜んて書くと、なんだか文芸書の書評でもしている気になってくるが、これは基本的には「お笑い」の本だ。個人的には、故・宮路社長と故・石井院長（大塚美容外科医院長）のロールスロイス戦争の顛末や、ターザン山本の芸人転向計画の大騒動話には、確実に笑いが3分は止まらなかった。ズバリ言って非常に面白ェというか。

師匠・ビートたけしが、闘いの末に「お笑い」のステータスをあげたとはいえ、「お笑い」と世間の闘いはまだまだ続いている。ズバリ言って、続かなければ、「お笑い」は終わる。この闘いの火種を、もっと燃えさかるようにするのがキッドの役割なのだろう、きっと。

つまり、キッドは歩みを止め「お笑い」を忘れたときに老いていくのである。

文藝春秋刊　1429円＋税

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――(ネール元インド首相の娘への手紙)

吉田文豪人生劇場

書評の星座 PART2

なぜか近頃、ボクの脳内では船木ブームが吹き荒れ中。ファンの間では全面肯定と全面否定の両極に別れがちな船木ではあるが、あんなに素晴らしい素材をプロレス界は失ったままでいいのだろうか？　せっかくヨガで若返ってタックルも覚えたんだから絶対に現役復帰して、代わりに(膝が)爆弾小僧・鈴木みのるがVシネマ俳優になるべきだとボクは思う。これが本当の適材適所。プロレスラーに必要不可欠な「狂気」を持つ最後の世代・船木の居場所は、芸能界ではないはずなのだから。……と、単なるアンチ・パンクラスだと誤解されがちな作者が心から訴える書評コーナー。〈e-mail:go-go@pdx.ne.jp〉

『つうさん、またね。』

(鶴田保子/ベースボールマガジン社/1500円)

つうさん、またね。
ジャンボ鶴田を支えた家族の記録
鶴田保子
ジャンボ鶴田闘病ストーリー
「最強」のプロレスラーは、もうひとつの敵にも挑んでいた。
B型肝炎、涙のリング復帰、大学院、アメリカ生活、そして…。
最期まで前だけを見て歩いた男の素顔を今、夫人が綴る。
定価(本体1,500円+税)
ベースボール・マガジン社
日本テレビ系全国ネット「知ってるつもり?!」放送!!

思えばバラエティ番組などで旦那の情けない話（ナサバナ）をクールに語る保子夫人と、その横で呑気にボケ続けるジャンボは、伝説のアントン&ミツコにも匹敵する素晴らしい夫婦であった。

なにしろ、ジャンボの死によって保子夫人は**「躁鬱の気が著しくなり、病院に通って」**いたのみならず、**「子供さえいなかったら後追い自殺していた」**としんみり語るほど深い愛を最後まで持ち続けていたぐらいなんだから、ボクはただもう憧れるばかり。

ジャンボが大学講師になった頃、保子夫人が弁当の**「ご飯の上の海苔をハート型にしたら、周囲の先生に冷やかされたらしく『恥ずかしいから、やめて！』と照れて」**いたなんてほのぼのぶりを聞くだけで、きっと誰もが幸せな気持ちになれるはずなのだ。

プロレスラーとしては確かに致命的な欠陥だったのかもしれないが、そんなジャンボのズバ抜けた呑気さがボクにとっては大好物だったのである。

たとえば、**「山育ちのくせしてセミにも触れないほどの怖がり」**で、**「毛虫などもってのほか。蚊を殺すのがせいぜい」**だったジャンボ……。子育てでも**「夜中にミルクを飲ませるのも嫌がらず、家の外でおむつを替えるのも誰が見ていようがお構いなし」**だったジャンボ……。そして、幼稚園のハーモニカの発表会で**「長男が苦手だったハーモニカを吹けるようになった」**のを見て、**「ビデオを構えたまま教室でワンワン泣いた」**ジャンボ……。

なんだか試合よりも家族サービスを重視するドラゴン社長と微妙に被る気もするが、ジャンボの場合はプロレスラーとしての素材が圧倒的だから不思議と全てを許せてしまうのであった。呑気が一番！

……かと思えば、保子夫人は**「怒った私が彼にお茶をひっかけたのに、それでも黙って」**いたとの衝撃告白もブチかましてくれるから、ジャンボの最強以上に夫人の最恐幻想も高まるばかり。

「毎朝、彼の歯ブラシには歯磨き粉をつけてあげていました。その程度のことでも素直に喜ぶ人でしたから、私としては実に操縦しやすい。逆に言えば、歯磨き粉がついていないだけで相手の気持ちが変わったのではないかと思うぐらい寂しがり屋でした」

そう、実はもともと**「『お天気』だけで何時間も話がもつ人」**であり、一度別れてから**「再会したとき、なんと1時間以上も別れたときの恨み話をしてきた」**ほど粘着質で無趣味な男だったジャンボがカラッと明るい巨大なシティボーイになったのも、すべては操縦してきた保子夫人の功績だったわけなのである。

「食事をしていても、ほとんど喋りません。自分をあまり表に出さないので、ボーイフレンドとして物足りなさを感じたこともありました。また、当時はニューミュージックが全盛なのに、車の中で聴く音楽といえば、都はるみ。オシャレというものにも鈍感な人でした」

そこまで世間知らずで、アマレス時代には**「下宿のおばさんに『訳のわからんスポーツをやって、メシの食べすぎ』と家から締め出された」**という、切ない過去を持つジャンボは、保子夫人によって家庭と子供を大切にする史上最強のマイホーム・パパ（別名マイホーム・コマンドー）へと生まれ変わった。

だからこそ、夫人が2人目の子供を流産したときにここまで激しすぎるショックを受けたのだという。

「その日の夕食のメニューはおでんでした。そして彼は次の子供ができるまで、一切おでんを食べませんでした」

嗚呼、ジャンボ……。ケタ外れな呑気さの裏にはここまで悲しい影が隠されていたわけなのだが、どうやら全日内部でもヘヴィな出来事があった様子。

なんとB型肝炎でセミリタイヤ後、学業のためアメリカに旅立つ決意をしたジャンボに対して、**「あるレスラー」**が**「今度はアメリカ？　全日本の金でアメリカに行くの？」**とあっさり言い放ったため、怒ったジャンボはドラゴンばりに**「こんな会社、辞めてやるよ！」**と憤慨していたというのである！

果たしてジャンボを怒らせたのは誰なのか？

それはいまも謎なんだが、とりあえず**「馬場さんの密葬のとき、寂しい人間関係の一端を垣間見ていました。全日本生え抜きのレスラーが隅のほうに追いやられ、新日本プロレス出身の人が中央で堂々としているのです。みんな同じ全日本の選手と言ってしまえばそれまでですが、主人には真似のできない“したたかな”生き方がそこにはありました」**というのが永源ラーメンのオーナーらしいことだけは、まず間違いないのであった。

『明日また生きろ。』

(船木誠勝/まんだらけ出版/1429円)

明日また生きろ。
船木誠勝 著
引退記念出版
悔いのない人生のために、俺は明日また生きる。
君も、今日悔いなく生きて、明日また生きろ。
エッセーを超えた格闘メッセージ集。初の書き下ろし。船木誠勝のすべてを感じ取れ！
まんだらけ出版

歴史的怪作『海人』に匹敵するほど面白い、「エッセーを超えた格闘メッセージ集」。その理由が3本ばかり収録された**「安田拡了特別寄稿」**のおかげでもあるのは、もちろん言うまでもないだろう。

「あのときの船木は怖かった。いまにも人をあやめてしまいそうな、そんな危ない状況だった。自分に関した、ある記事を読んだ船木は神経過敏になっていた。『船木にドスを突き付けてやりたい』という記事だった。船木のキレようは凄まじかった。その記者に会いたいとまで言ったらしい。もし、会っていたらどうなっていたのかはわからない」

こうしてターザンが『SRS-DX』で言い放った比喩表現に不可解なぐらい激怒する船木を見て、なぜか**「とうとう船木は狂いはじめたか！」**と思ったり、**「日本刀でヒクソンを斬ってしまいたい衝動にかられましたね。牢屋に入ってもいいと思いました」**と語る船木を見て、やっぱり**「あまり考えすぎて狂ってしまったのかと思った」**というヤスカクの見事な狂いっぷりは、ボクも迷わず全面支持！

しかもヤスカクに負けず、**「本当はヒクソン戦のことなんか二度と語りたくない」**とボヤく船木がいきなりこう言い放ったりもするのだから、もはや面白いなんてもんじゃない。そりゃあ並のエッセーぐらい軽々と超越していること確実なのであった。

「『負けて何が悪い』とは言えません。でも、けっこうしつこく非難されると俺も少しは言いたくなってくる。『じゃあ俺の命を救ってみろ』ってね。俺が命を懸けて試合して、もしも死んだとしたらみんなは俺の命を救えたの？　それをできないでしょ？」

なんと衝撃の「俺の命を救え！」発言炸裂！　整合性を求めるあまり無難なことしか言えなくなった格闘家ばかりが増殖した昨今にあって、矛盾を物ともしない船木のノー・ガードぶりは本当に貴重なのである。

たとえば、衝撃のステロイド告白に続いて**「実は22歳から25歳くらいまで、俺は白髪だらけだったんだ。黒く染めていたんだよ」**と白髪染めの過去も告白したり、**「洞察力をつけるには、人を信じないことだ」「俺って友達……いないよなあ」「家族でさえいづみ（夫人）以外にはいらないとさえ思うときもある」**という人間不信ぶりを告白したりと、その開けっ広げな馬鹿正直ぶりはまさに唯一無比！

当然、引退の理由についてもファンが聞きたくないことまで素直に告白してみせるのだ。

「引退したのは肉体的な限界が原因だけど、みんなに必要とされてないことを感じていたからだろうね。必要とされていないのに、なぜダラダラやらなきゃいけない？」

そりゃそうだ！　なお、かつて**「新日本プロレスを辞めた」**のも**「UWFの人たちに『必要だ』と言われたから」**とのことなので確かに筋は通ってるんだが、そのくせファンに必要とされれば逆に反発するから、つくづく船木は奥深いのであった。

「ファンと握手するのはパワーを取られそうでいやだった時期もあった。あのころは家庭が本当にうまくいっていなくて、そのことにものすごいパワーを取られていたから、人に会うことや、外に出ること自体がいやでしょうがなかった。だから、ファンが『頑張って下さい』と言いながら俺のパワーを吸い取っていく……みたいな気になってしまったのかもしれない」

明らかに気のせいなんだが、こうして船木はファンであろうとも容赦なく噛み付いていくわけなのである。

「一番イヤだったのは、途中で俺が神様みたいに扱われるようになったとき。あれが一番つらかった。『俺は人間だ！』とみんなに訴えたかったよ。人間だから風邪ひくんだよ。神様だったら風邪ひかないからね」

どうやら彼氏、ガイ・メッツァー戦で時間切れ判定負けを喫した直後の「風邪ひいちゃいました」発言でファンからバッシングされたのが、よっぽど悔しかった様子。

「リングの上っていうのは自分の家みたいなもの。そこに集まってくれるファンっていうのは、俺にとって家族みたいなものだ。俺は家族との縁が薄いから、そういうものをリング上に求めてい

たのかもしれない。だからメッツァー戦のときは、家族みたいに思っている人たちに罵声を浴びせられて本当につらかった」

これで「ファンから必要とされていない」と感じた船木はとうとう早すぎた引退を決意するわけだが、以下の発言を読む限りボクにはどうしても自業自得のような気がしてならないのだった。

「パンクラスでの悩み……。それは、真剣勝負でありながら『お客さんを楽しませなきゃいけない』というプロレス的な考え方からなかなか抜けられなかったことだった」

それが、バス・ルッテンやフランク・シャムロックに負けてからは「『面白く見せる』ということを考えなくなり、ようやく自分の闘いだけに集中できるようになった」そうなのだが、観客を意識しなくなった結果、船木とパンクラスから求心力がなくなってバッシングが増え始めたのは間違いないはずだろう。

ルッテン戦のように観客を意識した壮絶な負け様を船木が反省して観客を意識しない判定負けの道を選ぶようになったら、そりゃあ金を払っている観客からバッシングされるのも当たり前でしかないのである。

そして「レスラーには変人が多いと言われるが、今の俺は変人が変人をカバーして生きようとしているということだろう。次なる変人へのスタートだと思う」とのことで、よくわからないが芸能界という名の新たなる変人街道を歩み始めた船木。

「俺はバラエティの出演を断るつもりはない。必要とされてるわけだから。確かに俺はバラエティは向いていないことを知っているよ。『なんだ、船木ってバラエティに出られねえのかよ』と言われるのが嫌なんだ（笑）」

なるほど。考えてみれば映画に出たのも監督に「必要とされたから」だったのだから船木の姿勢は一貫しているし、格闘家が最終的な「あがり」として映画スターを目指すのは断じて正しいことだとボクは思う。

「格闘家と言いながら、みんな映画スターを目指しているじゃないか。ヒクソンだってそうだし。結局みんなそうなのに、俺がたまたま一本出ただけでなんであれこれ言われなきゃいけないんだと思うよ。みんな、やっていないだけで『出たい、出たい』って言ってるんじゃないかとも思う」

そこまで怒る気持ちはわかる。ただし船木の場合、まだ映画スターを目指すのには早すぎるから、みんな「あれこれ」言ってるだけのことではないのだろうか？

「格闘技って、本当は俺に似合っていないものだったんだと思う。辞めてますますそう感じてきた。だから俺は、やっちゃいけない男だったんだなと思う。見てるほうがよかった、やっちゃいけなかったんだよ」

「きっと『そんなお前のファンだった俺たちは一体どうなるんだ』って、ファンの人には怒られると思うんだけど」

いくら本人がいまになってそうボヤこうとも、船木を本当に必要としているのは映画界やバラエティではなく、格闘技界のはずなのだから。

『船木誠勝リアル護身術』
（大泉書店／1200円）

酔っ払って暴れがちな同業者ばかりいる格闘技界では少数派な非暴力主義者・船木が「明日また生きろ」とばかりに、「長生きしたけりゃ護身術です！」とアピールしまくる実践的護身マニュアル。

「もし仮にケンカになったら相手を殺してしまう可能性もあるので、ケンカになりそうな状況は避けて生きてきました」

そう言った舌の根も乾かないうちに、「目潰しは思いっきりえぐること」「相手の股間を踏みつける」「顔面踏みつけ」「顔面を狙ってのつま先蹴り」といったエゲツない急所攻撃や、「金的を掴んだら引きちぎるくらいの気持ちでねじり上げることがポイントです」なんて物騒なアドバイスを淡々と読者に叩き込んでいくから、つくづく船木恐るべし！

タックルへの対処法として「膝蹴りがポジション的に難しい場合は目潰し」「思いっきり耳に噛み付く」とアドバイスしたり、噛み付きから急所蹴りへ繋ぐ極悪なコンビネーションも教えたりと、ここには明らかに護身というには過剰防衛なスキルばかり詰め込まれているわけなのである。まさに喧嘩芸！

巻末の自社広告にある『使えるロープワーク』なる謎の本も気になるところなんだが、それより船木の噛み付き顔が何度も登場したり、船木が新弟子の頭にバットを振り落とす衝撃写真（仮想・須藤元気？）もあったりで、完全に突き抜けた顔写真を見るだけでも幸せな気持ちになれる一冊なのであった。

しかし、だ。名著『明日また生きろ。』（まんだらけ）に「船木の願いはバーリ・トゥードが日本に広まらないことだった。少年犯罪が多い世の中に、ひょっとして自分たちが犯罪に荷担しているのかもしれないと思うと、つらかった」というヤスカクによる衝撃の記述があったことを決して忘れてはならない。

それでいて、船木はバーリ・トゥードでさえ禁止している物騒な技術ばかりを、ここで素人相手に伝授しているというわけなのである。凄ぇ！

しかも冒頭部分では「自分も小学校入学した時に、すぐいじめられたんですよ。3人がかりで、鉛筆で頭刺されました。入学式当日に。その時は母親がいたんで助けてくれたんですけど、次からは俺、そいつらの仲間に入りました。今度は俺もいじめる側になったんです」などと、正直に「いじめ」の過去までカミングアウトしている船木。つくづく格闘技界は素晴らしい人材を失ってしまったと、いまさらながら痛感するばかりなのであった。

『REAL HEART「真心」』
（船木誠勝、監修・大谷"Show"泰顕／二見書房／1300円）

この度、とうとうパンクラス出入り禁止処分が下されたShow氏による、2冊目の船木本。

メディアワークスで出した1冊目の船木本『BRAIN』と構成から何からほぼ同じ本を別の版元から出すビッグハートぶりは相変わらずさすがだが、これだけ単行本を出したなら「ボクはライターじゃないから原稿は下手でもいい」というプロ意識皆無な言い訳も、さすがにもういい加減通用しないはず。

当然、単行本としてのクオリティが低いのは言うまでもないが、「今から7年以上前、パンクラスを設立した時に『完全実力主義』というスタイルをリング上で実現させることを宣言しました。（略）ところで、2000年はずっと『真心』の年でした」という飛距離の大きすぎる前書きも、巻末の「自分でやって面白く一番満足ができる職業プロレスラーになれたら、ぼくは『ああ、面白い人生だったなあ！』と満足して死ねるだろう」という中学の卒業文集再録も含めて、船木はやっぱりズバ抜けて面白いのであった。

たとえば昭和新日の素晴らしき伝統「覗き」について、船木は「17歳になったかならないかですから。普通の女の人が身体を洗っている場面ってなかなか見られないじゃないですか。凄いんですよ。結構、みんな入ってくるんですよ。興奮しますよ（冷静に）」と馬鹿正直に語るのみならず、とんでもなく恥ずかしいことまでわざわざ告白してみせるのだ！

「もう俺、我慢できなくなって、ひと足先に部屋へ帰ってセンズリしちゃったんですよ（笑）。それで知らないフリして座っていたら、猪木さんとかみんな集まってきて『なかなかよかったなあ』とかって。そしたら猪木さんに『お前、やったろ？』って言われちゃいましたね（苦笑）」

なんと船木、隠れてやったオナニーが猪木にあっさりバレていたわけなのである！　おら死なねばダメだ！

そして桜庭対ホイスという歴史的名勝負に対しても、「ヒクソンがあれを見てますから。ヒクソンもあれで勉強しちゃったと思うんですよ。ホントをいえば、なかった方がよかったと思います」と別に言わないでもいい本音をストレートにブチまけてみせるから、やっぱり船木はさすがなのだった。

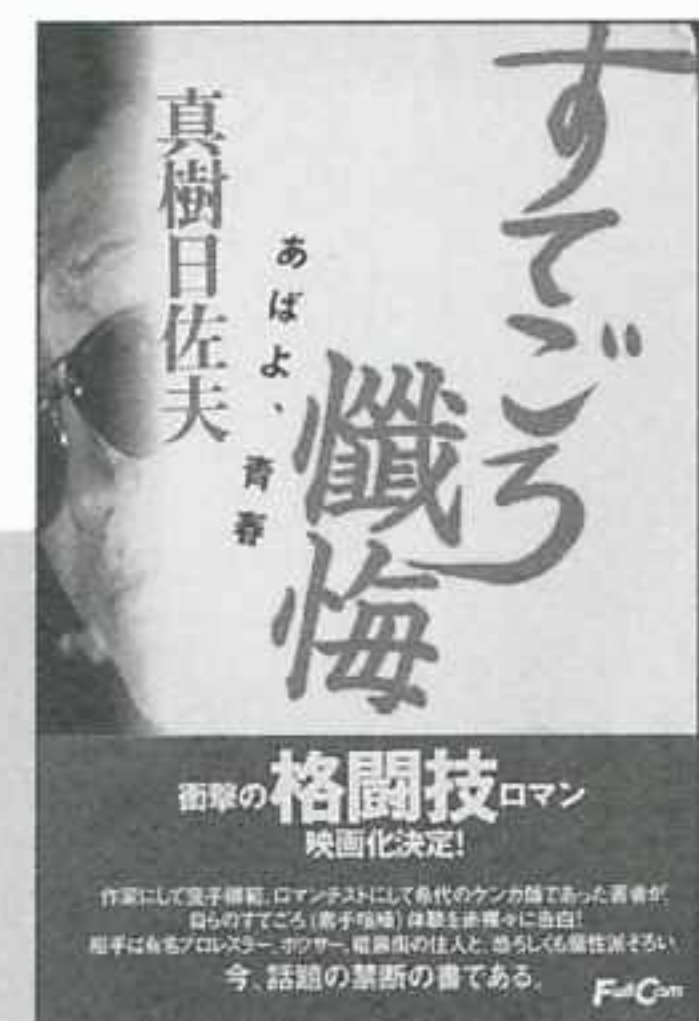
その後、近藤有己をオルグして『PRIDE』参戦表明をさせることになるShow氏が、「ボクはパンクラスの一番下の選手から全員、みんなで順番に（グレイシーの）道場破りに行かないとダメだと思ったんですよ」とどれだけ一人で熱くなろうとも、「そういう発言はやめた方がいいですよ。最近、物騒ですから」「だったら大谷さんが最初に自分で行ってください。人にやらせておいて、書くだけっていうのは良くないですね。責任感がないですよ」と、あくまでもクールに受け流す船木。

できることなら文才皆無なShow氏ではなく、他のライターや本人が書いた船木本（ヤスカクによる『海人』の続編『変人（かわりびと）』でも可）もどんどん読みたくなってきた今日この頃なのである。ヤスカクのヒクソン本『山人』も読んでみたいけど。

『すてごろ懺悔　あばよ、青春』
（真樹日佐夫／フル・コム／1500円）

平成の真樹日佐夫を目指して生きているボクはその過程で星の数ほどの真樹作品を読破してきたものだが、これは明らかに最高傑作だと断言できる逸品である。

以前、取材で会ったムツゴロウ先生は「文章よりも実人生の面白さを選んでしまったから、作家としては後悔している」と語っていたものだが、それは真樹先生もまた然り。だからこそフィクションの『無比人』のみで真樹先生を判断することなく、騙されたと思って読んで欲しいのであろう。

なにしろ、どれだけ優れた小説でも太刀打ちできないぐらいに実人生が面白すぎる以上、自伝がとんでもない傑作になるのは当たり前の話だろう。

美人OL（小説もキッチリ読み込んでいる真樹先生マニア）と飲み歩きながら真樹先生がその土地土地の想い出を語るというダンディズム溢れるドリーミーな構成はもとより、そこに描かれたリアル『カラテ地獄変』な暴走人生ぶりにも男ならシビレを感じること確実！　とにかく、文中に登場するフレーズだけでも男の魂が必要以上に揺さぶられまくるはずなのだ。

たとえば、真樹先生が「傷害、恐喝、窃盗、器物損壊、暴力行為と罪名のオンパレード」で少年院に送られ、3日に1度のペースで喧嘩を繰り返していた頃に院内の古株から喰らった「地獄の三丁目キック」。美人ホステスに惚れられたためにヤクザの親分から差し向けられた屈強な用心棒「スコルピオ」。ダンス好きの真樹先生が得意とした横浜ジルバ、通称「ハマジル」。やっぱり真樹先生と恋仲になったため彼女のパトロンである米軍兵から発砲される原因となった「クイーン亜里砂」。もはや真樹先生の人生そのものが劇画と言うしかないほどドラマチックなのである。

梶原先生がぼったくりバーのママを逆さ吊りにすればすぐに「下の口」からウィスキーを飲ませ「絶景かな絶景かな」、「心底、木戸銭を惜しくないと感じた」と素直に感想を述べる真樹先生。

当時はスケート場が不良の溜まり場だったとはいえ、「ローラーにはまって」「マイシューズを預けていた」ほどスケートが得意だったというほのぼのエピソードが登場したかと思えば、喧嘩相手の手を容赦なくアイススケートで轢き、「手指が何本か切断されて氷上に転がり、血が飛び散っている」とクールに描写したりするエゲツなさは、まさに劇画『ワル』の女殺しで冷酷な主人公・氷室洋二そのもの！　梶原先生が「劇画『ワル』は真樹日佐夫の自伝」と言い切った気持ちが、ようやくボクも理解できたのであった。

なお、『空手バカ一代』で描かれた蒲田駅前で29人を相手にしたバトルや、関東一ステゴロが強かったヤクザとのバトル、そして伝説の"キラー"バディ・オースチン戦なんかの真相も描かれているので、プロレスのみならず男の闘いが好きな者ならば絶対に必読！

なぜならオースチン戦ではピンチのとき梶原先生が背後からチョークスリーパーでフォローを入れていたことや、ついでに真樹先生がとんでもない強豪相手に無茶をしていたこともキッチリ描かれているのだから。

「ホテルのトイレを借りることにしたんだが、いい気分で用を足してたら突然目の前の壁が動いた。実は先客がいて、その背中をめがけてなにをやっていたわけなんだな。酔いがまわっていたのと、相手が黒ずくめの服装で覆面までしていたんで、うっかり壁だと錯覚してしまったんだねえ。これがなんとプロレスのミスターXだったのさ」

そう。なんと、あの伝説のシュート・レスラーとして知られる強豪・ビル・ミラーの背中に、命知らずな真樹先生は小便をぶっかけていたというわけなのだ！

案の定、ミラーは洒落にならないぐらい激怒したそうだが、この闘いを見終わったら20世紀どころか21世紀だってもう終わってもいいのである。

比人

巨匠入魂第26回
真樹日佐夫

illustration▶ 中川雅博

前回までのあらすじ

天性の格闘技センスを持つ男、万無比人。その素質をいち早く見抜きプロレスラーに仕立て上げたのがプロレス専門誌発行人の千堂であった。プロレスでは連勝街道を突き進み、異種格闘技戦でも、ある程度の成果を収めた無比人は標的をヒクソン・グレイシーに定めた。交渉は難航したものの、道場での非公開試合という形でヒクソンと運命の対峙を果たし、そこで無比人は互角の闘いを繰り広げたのだった——。

次に無比人は、WBC・IBF統一ヘビー級王座を防衛したレノックス・ルイスが勝ち名乗りをあげているところに乱入。リング上で王者に対し強烈な正拳突きを叩き込んだ。この無比人の突飛な行動は、最前列で観戦しているマイク・タイソンに対してのアピールであった。数ヵ月後、紆余曲折の末、実現の運びとなったタイソン対無比人戦。中盤まで淡々と進んだが、7Rに無比人の喉輪とタイソンの肘打ちが交差し両者共にダウン、互いに立ち上がることができずダブル・ノックアウトという結果に終わった。その後、巻道場主催の空手道選手権においては、なんと無比人対レノックス・ルイス戦が行われ、エキシビションとは名ばかりの激闘が繰り広げられた。そして、忘年会の席上で無比人の口から新世紀の仰天プラン構想が明かされた。

（55）

一月二度目の大雪に東京が見舞われた日、氷見子は十一時少し前に無比人と彼の運転するベンツでマンションを後にした。

積雪はすでに七センチには達していようか、国道十五号線へ出ても路面は白一色だったが、タイヤにはチェーンを履かせていてスリップの心配はなかった。

「前に降ったのも土曜だったよな」

「そっかー。四時か五時か、確かそんな時間からよね。今回は晩方からずっとだけれど」

「あの日は運転しないで終わったけどさ。この程度の雪でおたおたしてちゃ、北国のドライバーに笑われるよな」

横着をし、いつものままで出てきたものか立ち往生している車がそこかしこに見られ、無比人はなんとも小気味よげであった。

品川の手前で左折し、環状六号線へ入った。行き先は中目黒の絹子のマンション。

正午に訪う約束で雪による渋滞を見越し、余裕を持たせて出発したのだが、週末のせいか比較的スムーズで十一時半にならぬうちに着いてしまった。

「三十分あるな。童心に戻って、ひと遊びして行くか」

思いついたように無比人が言い、マンションの前を行き過ぎた。少し先、小公園の際に車を停めた。

「遊びって」

「いいから降りろよ」

無比人に随いて、氷見子も公園へ足を踏み入れた。

そこも一面の銀世界で、人っ子一人見当たらない。いきなり無比人は十メートルばかりダッシュし、なにをするかと思えば雪を手に掴み取って投げて寄こしたではないか。

「遊びというのは、雪合戦——」

「ピンポーン」

雪礫がまた飛んできた。革のコートの胸に当たり、びしゃっと弾けた。

「よーし、負けないから！」

氷見子も足許の雪を掬い取って固め、力に任せて投げつけた。無比人の頭上を高く越えて行った。

「ノーパンじゃなくて、ノーコンが」

「言ったわね！」

手早く二発目をつくり、いくらか力をセーブして抛った。

無比人の肩に当たって砕け散った。

「いいぞ、その調子！」

直後、頭にもぶつけられた。

雪合戦に興じるうち、ふと頬に冷たいものを氷見子は感じた。雪だけでなく、涙が溢れているせいだ、と知るに及んで不意打ちにも似て胸を衝かれた。

（こんな仕合わせ、何年振りだろうか……。いま、目の前にいる彼こそが、万無比人の真実の姿なのだ）

モーションを起こす無邪気なその顔が、涙の彼方にぼやけて揺れた。

五分前に遊びを切り上げ、車をマンションの来客用駐車場に駐めて、エレベーターで屋上へ上がった。

ペントハウスの玄関の呼鈴のボタンを無比人が押したら、待たされずにドアが開いて厚手のシルクのガウンを着けた絹子が姿を見せた。リビングルームへ招じ入れられた。

「少々お待ちを」

三人掛けのソファを二人に勧めたところで、そう言うと絹子はそそくさと奥へ引っ込んだ。

ソファに無比人と肩を並べて坐っていると、あの忌まわしい夜のことが思うまいとしても次から次から氷見子の脳裡をよぎって行く。グリセリンの異臭までしてくるようであった。

虚構と現実が交錯する
壮大な格闘ロマン

本格格闘プロレス小説

ゴージャスという形容が、これほど似合いのお尻もなかった

（このソファにマゾ豚二匹に押さえ込まれて、Sの女王としての矜持もなにもかも根絶やしにされ、そしてその現場をもう一匹の豚は冷笑を浮かべて……）

二年前の一月に隠れ家風のレストランがあるからと千堂に騙されてここへ連れ込まれ、待機していた真澄と絹子によって氷見子は全裸にされ後ろ手錠に足枷までされて、ビニールシートで覆ったソファの上で浣腸の洗礼を受けたのだ。堪えきれずに粗相する場面を余すところなく三人に見られ、一転してマゾ奴隷に堕とされた屈辱の日々がそれから一年も続いたのである。

絹子はじきに戻ってきた。銀行の物とおぼしい封筒を手にしており、

「どうぞ、お検め下さい」

無比人の手にそれを委ねた。

中身は小切手が一通で、算用数字の1の後に0が九つ並んでいるのが無比人の手許を横から覗き込み氷見子にも見届けられた。

「十億円の寄付ね。はい、確かに」

無比人はいくらか改まって言い、小切手を封筒に戻してダウンジャケットの内隠しにしまうと、そこで口調を一変させた。

「絹子よー、何様のつもりだ。え？」

途端に絹子のきつめの化粧を施した顔に怯えが奔った。どう受け応えしたらいいかわからぬといった、困惑した印象でもあった。

「マゾ豚奴隷がご主人様をお迎えするのに、そんなにちゃらちゃらしちゃってていいのかと、そこのところを言ってんだよ」

向かいのソファから、びくんと絹子は腰を跳ね浮かせた。肩を窄めて起った。そして身を捩るようにしながら、

「わ、悪うございました！　お赦しを――」

ガウンの紐を手早く解くと、足許にかなぐり捨てた。下はTバックに近い超ビキニのパンティー一枚。

「そいつも取っちまわんかい。あーん」

無比人に顎をしゃくられ、ためらわずに絹子はパンティーに手を掛けた。

「あ、待て」

そのひと声で、手が止まった。

「自分で脱ぐより、剥いじまってやった方が面白いか。氷見子女王様、行けや」

言われて氷見子は、打てば響くようにすっと立ち上がった。汚辱に塗れた記憶を甦らせてしまっていたところだけに、多大の寄付を受けた身にもあるまじき無比人の仕打ちを傍見して惨い感情を誘発された、そういうことかもしれなかった。

「床に手を突いて犬の格好をしてご覧」

「あ、はい。女王様」

絹子の表情にすでに怯えの色はなく、プレイのモードに入っている、そんな様子のうちに言われた通りのポーズを取った。

氷見子は後ろへ回ると、パンティーのTの字の接合部分を手で摘み、押っ立てられたヒップの割れ目深く布地を食い込ませた。菊の蕾の全容が明かりの下に曝け出され、ひくひくと気恥ずかしげに息づいた。

「なんて浅ましいの。丸見えだよ、アヌス」

「お、仰有らないで」

わななく肉置きから次いでパンティーを一気に膝関節の辺までずり下げた。

ふっくりした臀部全体、未だ衰えは見られない。瑞々しさの点では真澄に一歩を譲るが、手入れに金をかけているということで言えば、断然こっちが上だ。エステでのマッサージ効果か、表皮が抜けるように白い上に驚くほど薄い。磨きに磨かれたせいでもあろう、血行が透けて見え、乳白色にさらに淡紅色の輝きが加味されて匂い立つばかりだ。ゴージャスという形容が、これほど似合いのお尻もなかった。

「よーし。それでは、おまえの一番得意な芸はァ」

絹子は四つん這いの姿勢から上体だけを沈めて行き、乳房を床に突き、両手も無比人の方へとまっすぐに伸ばし、そして頤だけ上げて頭部を垂直に立てた。氷見子のところからはわからぬが、奴隷の目になり切って無比人を仰ぎ見ているものと思われた。

「そう、それ！　絶対服従、完全屈伏の証し――」

と高らかに言って、意志を失くした肉の嵩へ蹴りを一発。ひれ伏すようなそのポーズをいままた目の当たりにしたことで、氷見子の裡で時間が伊豆熱川温泉での忘年会の夜にアクセスした。

ホテルの広間で夕刻より宴会ははじめられたが、そこでの社長挨拶で新世紀には仰天プランがあると無比人はぶち上げた後、

――名付けて、ザ・ストロンゲスト――センチュリー21。プロレスも空手もK-1もプライドもボクシングも、どの分野からも超大物が参戦してのワンナイト・トーナメント、これをいつ頃実現に漕ぎつけられるか。上半期までに間に合うか、夏以降にずれ込むか。問題は金、資金面をどうクリアするかだが。

と続けた。そして勿体らしく、ひと呼吸置き、

――十億かかるか、それ以上か。まあ多いに越したことはないが、はっきり言って調達の自信はある。期待してもらっていいと思う。以上。

聴く側にとっては消化不良も起こしかねない、いかにも説明不足というか尻切れ蜻蛉の感じで話を終えた。

当の本人にすれば気を引いたつもりなのかも、と氷見子なりに推量してはみたものの、スケールが大き過ぎてぴんとこないせいもあろうか、はたまた自分たちの出番はなしと端から諦めてかかってか、気の毒なほど手応えは感じられないのだ。十億もの金策の当てなど思案の外で、千堂も呆っ気に取られた様子だった。

夜も更けて二次会、三次会と盛り上がった面々も部屋割り通りに自室へ引き取った。氷見子も無比人も最後まで付き合い、二人一緒の部屋へ引きあげる途中、彼女だけ酔いを覚ましたくなり大浴場へ寄ることにした。

入浴をすませ、いい気分で戻ってみると部屋のドアは半開きのままで、異様な音声が漏れ聞こえてきた。鶏が縊られる

ような、引き付けを起こした嬰児が発するかのような。
和室で十畳はあろうか、そこへ一歩を踏み入れて氷見子は、声にならぬ叫びを上げた。
夜具を並べて展べた手前側、掛布団もはぐられてない状態のままのその上に全裸の絹子が息も絶え絶えに転がっており、奥の掛布団の上ではこれまた一糸纏わぬ真澄が浴衣の無比人に馬乗りになられて、チョーク攻撃により人形のように整った顔を醜く歪めているではないか。
――何をする気！　止めなさいよ、あんた！
束の間、大王様として傅く相手であることも忘れ、高声を張って氷見子は二人へ駆け寄った。これはプレイなどではない、このままでは殺してしまう――。名状し難い恐怖に衝き動かされていた。
無比人の肩に取り付き、引き放そうとしたが忽ち吹っ飛ばされた。隅へ寄せた座卓の角に背中をしたたかぶつけて、目が眩んだ。
――おまえら白豚が、この万様のマゾ奴隷だって事実を客観的に証明するのは、写真もあればビデオもあるんで訳はない。そんな雌豚がおっ死んだところで、プレイ中の事故だと言い通しちまえば、どう転んでも執行猶予以上にはならないって。いいか、あの世へ金は持って行けやしないんだ。どーだ、これ以上強情を張り通すと、本当に頚の骨をへし折ってやるぜ。
氷見子のことなど眼中にもないかの如くに無比人が言い募るうち、大の字だった絹子が電気仕掛けの人形さながら半身を起こし、やにわにひれ伏すポーズを見せたのだ。そうして、咳込みつつこう叫んだ。
――差し上げます！　全財産でも差し上げますから、どうか殺すのだけは〜。
おっつかっつにアンモニア臭が鼻を突き、真澄が息苦しさの余り失禁したのが氷見子にもわかった。
――おーっ、お漏らしかよ。日頃は取り澄ましてやがって、こいつ、絹子よりもワンランク落ちるな。
と無比人。そのひとことで真澄の心も遂に挫けたか、両手で掛布団と畳をせわしくタップし、頚から手が放れるに至って、
――わ、わかりました。わたしも寄付を、絹子さんと同じだけ……。
荒い息の下から切れ切れに声を絞り出したのだった。
忘年会旅行には参加しなかったこのマゾ豚二匹が、宴会の直後に無比人に電話で召集をかけられ、一行が近間の店へ繰り出した留守中に到着したこと。実印をそれぞれ持参させられたことなどを、座卓の上に用意されていた誓約書に彼女らが署名捺印した後で氷見子は知らされた。
――東京へ帰ってからでもよかったんだが、思い立ったが吉日、鉄は熱いうちに打てって言うだろ。で、一気に勝負に出たわけよ。
魂を抜かれたような顔で坐り込んだ二人の頭を撫でさすりながら、傲然と無比人は言い放ったことであった――。
絶対服従完全屈伏のポーズからの連想で、忘年会の夜に氷見子が思いを致すうち、
「次へ回るが、尿意を催さないか」
無比人が言った。唐突でよく聞き取れないでいると、
「おしっこがしたくないかってこと」
「それは、まあ――」
「だったら、こいつを人間便器にしてやる」
悪魔のような笑いを浮かべて無比人は起ってきた。

（56）

無比人がぶち上げたのは、名付けて ザ・ストロングゲスト・センチュリー21

三月の第一月曜、以下のFAXがスポーツ紙並びに格闘技専門誌各編集部に送られてきた。
“ザ・ストロングゲスト――センチュリー21”
日時　平成十三年五月十五日
場所　東京ドーム
主催　ニュー東都プロレスリング
後援　オパール観光　オリエントフーズ
【出場予定選手及び対戦表】は以下の通り

〈以下次号〉

CAT FIGHT WORLD

第10回「豊満ファイトの魅力」

バトルビデオ企画・製作部 木根さん

“豊満ファイト”とは、読んで字の如く豊満な女性が繰り広げるバトルのことである。今回は、その魅力をバトルビデオ企画・制作部の木根さんに聞いてみました。

貴方は豊満な女性に組み敷かれたいと思ったことはないですか？

——今回のタイトルは、どう解釈していいものやら。

木根　どうも、バトルビデオ企画・制作部の木根です。

——あっ、これはご丁寧に、ありがとうございます。それで、今回のオススメビデオは〝豊満ファイト〟とありますが？

木根　ええ。豊満ファイトです。以前〝マッスルファイト〟の魅力についてはお話ししましたよね。

——確か、筋肉質な女性にボコボコにドミネート（支配＝負けてしまう）という奴でしたよね？

木根　そうですね。今回の豊満ファイトも、そんな感じです。体重百キロは超えている女性に、男性が圧迫され続けるというファイトです。

——それは……ファイトって言えるんですか？

木根　えっ？

——いや、だから、それのどこがファイトなんですか？

木根　関節技をガッチリ極められて、耐えつづけていればそれはファイトでしょう？　苦しい状況に置かれても、ギブアップしないで耐えるのは、ファイトでしょう!?

——無理矢理な気がするなあ。

木根　それに、豊満ファイトの場合、女性同士のファイトだってちゃんとあります。男性が一方的にやられてしまう、マゾ系ファイト（の中の豊満ファイト）の方が多いですけど。

——豊満な女性同士がキャットファイトするんですか!?

木根　いえ、どちらかと言えば美女vs豊満女性のパターンです。

——○○○vsグンダレンコみたいなもんですね!?

木根　えー……その人って美女？

——（うわっ、絶対に伏字にしておこう……）美女ってことで。

木根　あんなリアルファイトじゃありませんが、美女が巨体に押し潰されてしまって苦しがる！　というパターンです。美女が勝つ場合も無いわけじゃないんですが。

——それで、その〝豊満ファイト〟の魅力って何なんです？　ズバリ言って、デブ専ってことですか？

木根　率直なご意見ですな。まあ簡単に言ってしまえば「豊満な女性に組み敷かれたい」という欲望があるんでしょうね。柔らかい肉に押しつぶされたいという願望が。

——温かそうだなあ〜。

木根　そんな嫌そうな顔しないで下さいよ（苦笑）。キャットファイトというジャンル自体が、まだそんなに知られていない上に、豊満好きという要素も加わるわけですから。あ、それとドミネーション（マゾ）も加わりますね。

——では美女が豊満女性とキャットファイトする魅力と言うのは？

木根　そうですね。やっぱり、ドミネーションに期待するんでしょう。美女が大柄な女性に圧迫されてしまうシチュエーションとかを想像するんじゃないんですか？

——あ、なるほど。じゃあ、美女が勝ってしまう魅力と言うのは？

木根　1！　メーカー側がわざと期待を裏切った。2！　リアルファイトでたまたま美女が勝った。3！　強い美女が見たかった、のどれかじゃないですか？（笑）。

——3の場合だと豊満女性は、あくまで引き立て役ってことですな。

木根　あ、じゃあ4番で、豊満女性の苦悶の表情（負けている姿）が見たかった！　これですね!!

——なるほど（笑）。格闘界にも、キャットファイト界にも豊満女性は必要不可欠というわけですね。

木根　そうですね。はい。

今月のオススメビデオです!!

Queen Giantess Crushes Samson 1

豊満お姉様のねちっこい圧殺が貴方のソフトなM願望を叶えてくれる一本。下着姿に真赤なハイヒールも見逃せないところ。無抵抗の赤ブリーフ男に笑いかけながら…踏む!! 乗る!! 落ちる!! 必見!!（81分・¥9000）

OVERMATCHED

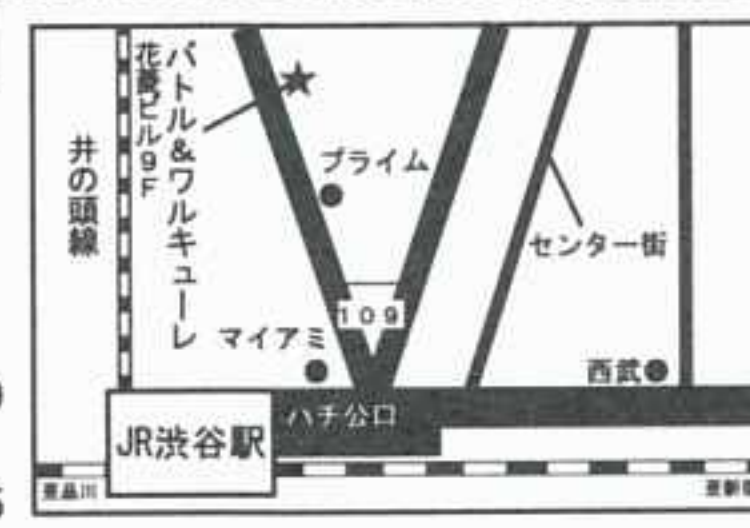
バンビのように、しなやかな体のビッキーと肉塊アレクサンドラとのキャット戦！　この体力差はあまりにも不公平！　アレクサンドラが一方的にビッキーを圧倒し、もう完全にイビリ楽しんでます。（32分・¥8200）

女子格闘技・キャットファイト・女子プロレス専門店『バトル』はこちらです

バトル上野本店＆ドミネーションバトル・ワールドバトル
〒110-0005
東京都台東区上野2－8－7
永谷ビル902・1001
●営業時間●
12：00～23：00
●TEL●
(本店) 03-3834-3869
(ワールド) 03-3834-3873

バトルUSA新宿
〒160-0023
東京都新宿区西新宿
7－1－7ダイカンプラザA館406
●営業時間●
12：00～23：00
●TEL●
03－3360－0830

アジアンバトル渋谷
〒150-0002
東京都渋谷区渋谷1－9－14
第三石栄ビル301
●営業時間●
12：00～23：00
●TEL●
03-5778-4080

バトル＆ワルキューレ
〒150-0043
東京都渋谷区道玄坂
2－16－7
花菱ビル9F
●営業時間●
12：00～22：00
●TEL●
03－3780－0335

九州地区・バトル福岡店
〒812－0016
福岡市博多区博多駅1－3－8博多パールビル303
[営業時間] 12:00～24:00 [TEL] 092-413-7577

●通販でのお買い求めは上記店舗までお問い合せください。
●カタログは「オリジナル・ビデオカタログ1」、「オリジナル・ビデオカタログ2（各¥2000・税別）と「総合カタログリスト」（¥1800・税別）があります。
●通信販売でお買い求めになる場合、大変お手数ですが必ず上記店舗にて商品の在庫確認をお願い致します。
●ホームページもオープンしました。
http://www.catfight.co.jp

ギョ! ウッシャーッ! 予想通り不人気だった幸田珍の『DOKU者PAGE』は終了や! 今回から新たに新・読者ページ幸田珍の『ハガキックの鬼』がスタート! 『キックの鬼』からパクったんやけどみんなわかった? 我ながらナイスやな〜。やっぱり「ギョ!」ってウザイやろ? みんなも言ったらええがな、「ギョ!」って。うざい? そんなの、オレ毎日、この会社で言われてるから、何ともないんや! 前号以上の罵詈雑言待っとるでぇ〜。今回もギョギョギョでいくでぇ!(そうやれって言われたから、しゃあないねん! いや、正味な話、オレも辛いんや。このコーナーもつまらんって声が多いけどな、ワシのせいやない! ワシがやりゃ面白くなんねん!)

編集部注・正直言います。前号はあまりに珍の原稿のデキが酷かったため、編集部総出で手を加えて、全面的に修正しました。が、どーやら、それは珍のご家族やら友人関係やらにえらく評判が悪かった模様。
なので、仕方なく今号では編集部は珍の原稿をノーチェックで、そのまま活かすことにしました。不快かつ下劣な文章が、何度も目に飛び込んで来るでしょうが、心してお読みください。

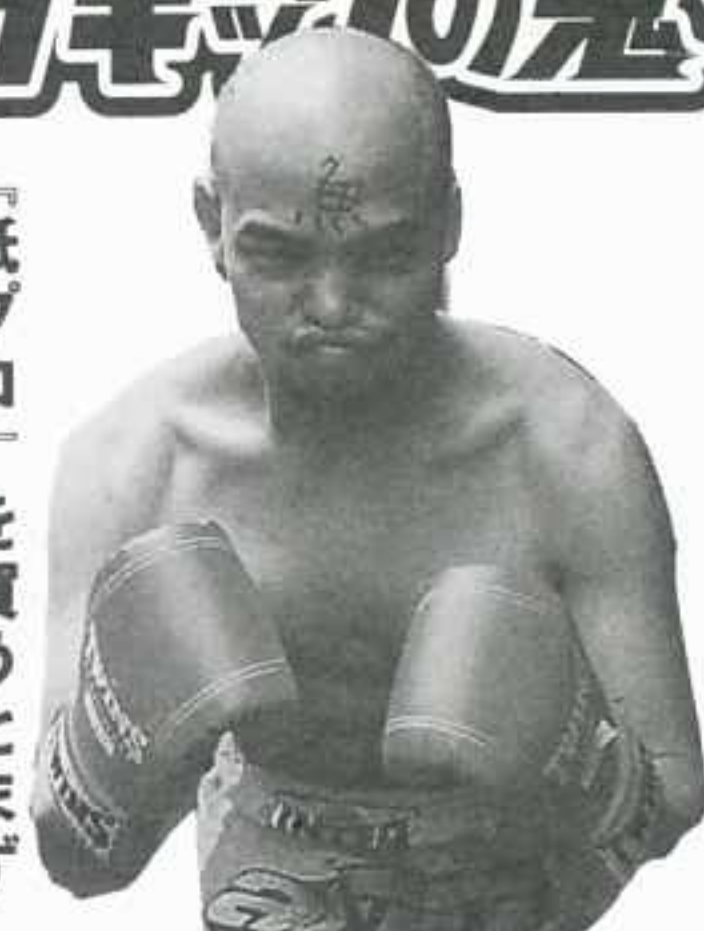
ギョ! ファンレターが来たんや!

はじめまして幸田くん。

これが女子高生から来たラブレターや! とくと読め!

「つーか、謙吾のフィギアがこっちをみています。そう『紙プロ』から初めて届いたのは、コレです。つーか、サクの『ギミック』みたんですがおなかよじって笑ったのが、稔選手とサクのうで毛、濃!!ってことで私はサクの大ファンです。どうや! 読プレのサクカレンダーくださいな。そしたら自分も「♪あ〜な〜たに女の子の一番ん〜大切な〜」●●●あげます!!! ではでは。(中略) 私のいってた塾には幸田くんそっくりの理科の講師がいる……。(ツルツルだけどネ)」(北海道 ネスカフェ 高校一年) 5点

ギョ! 「サクカレンダーくれたら女の子の●●●あげます!!!」とか言うてホンマはオレが好きなだけやろ? でもごめんな、オレは遠距離恋愛は無理な男やったんや(妄想開始!)。オマエの住む北海道で一緒に道産子(馬)に乗って時計台までツーリングした思い出は忘れへんで。だけどオレらの関係はもう終わったんや。冷たい言い方かもしれへんけどお前の為や、ヤケドする前にオレの事は諦めろ。フッ、ガキのくせに背伸びしやがって……(妄想終了!)。ギョ! そろそろ新宿のキャバクラに行く時間や。最近モテるねん、ちょっと、このメール見てよ。「一緒に映画いきたいんだけど、あたしアフターはしないって決めてるの。一応あたしって、雑誌とかにも載ってるし、売り出し中だからね。同伴だったら大丈夫なんだけど、どうする? 幸田君」。ギョ! これってビジネス? いや、そんなことないはずや! ガンガンいくでぇ〜!

ハガキックの鬼

かかってこんかい!!

『紙プロ』を買うとまずは書評の星座と座談会を読んでます。あと中川画伯の絵は見ていて楽しい。（東京都　安西直紀　20歳）3点

ギョ！　そやろ、そやろ、オレもいつもその2つからまず読むねん、つーか、そこしか読まないね。ちなみに今回の表紙は中川画伯なんやでぇ～！　画伯の絵は最高やろ！　オレが推薦したから表紙に決まったようなもんやな。でも感謝なんかいらんよ。だってオレと画伯はマブダチやんけ！　な！　中川ッチ！

『DOKU者PAGE』は『ギョ！』っていうのがしつこくて嫌！　あとわざとらしい幸田珍の阿呆キャラが鼻につきます。（埼玉県　中川雅博　23歳）3点

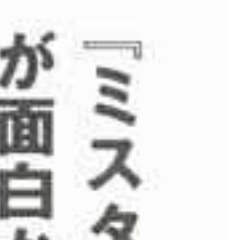
ギョ、ギョ、ギョ～（泣）。中川画伯ヒドイやんけ！　「画伯をプロデュースしてる」ってみんなに吹いてるのに「鼻につきます」ってあんまりや。オレを敵にまわすと『紙プロ』全員を敵にまわすんやでぇ～。チョロさ～ん、そうッスよね？（無視して部屋から出ていくチョロ）。そうかい、そうかいみんな画伯の味方なんかい！　こうなったら戦争じゃ、戦争じゃ～！（意味不明）

(埼玉県　中川雅博　23歳) 4点　ギョ！　画伯はヤノタク嫌い？ "洗濯バサミ" で絞め落として、自分で対戦相手の胸を押して蘇生術させたりして、最高やん。オレは好きやでぇ～。でも（偽）ってあるけど、どういう意味？　う～ん、わからん珍は、とっちめ珍（一休さん）。ギョ！　これはもしかして……。

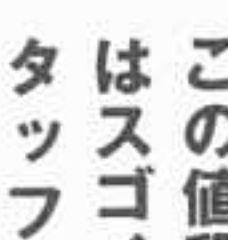
オーちゃんのファンです。こんど、オーちゃんの実物大の手型を載せて下さい。（神奈川県　渡部智也子　38歳）3点

ギョ！　実物大の手型って何に使うんスか？　手相？　いや、38歳のシッポリ度MAXの主婦がそんなことでハガキを送ってくるとは考え難い。奥さ～ん、赤裸々に答えてや～！　赤裸々にやでぇ～。

『ザ・検証』が面白くなかったです。原口あきまさが出てくるとお笑いみたいなページになってしまうから!!　やっぱり真剣な雑誌だから真剣に取りくんで欲しい!!（兵庫県　板倉圭輔　16歳）3点

ギョ！　『紙プロ』って真剣な雑誌なんスか？　わッ！　ホンマや、読んだら結構いいこと書いてあるやん（『キャットファイト』の広告を読みふける珍）。アカン活字読んでたら、眠たくなってき……ギョ～ギョ～ギョ～ギョ～（いびき）。

『ミスター・ヒト』インタビューが面白かったです。我々の知らないプロレスの裏側をたくさん知ることが出来ました。（神奈川県　竹田智宏　28歳）3点

読者アンケートの「面白かった記事」で2号連続でダントツ人気やった『ヒト・インタビュー』。オレも「アングル」って言葉も覚えたもんなぁ、意味は忘れたけど。でも、編集部の連中は「アレをそのまま信じるな」と言うねん。もうオレは何を信じていいのか、ようわからん。ああ、東京の空には星がない……。オレの頭には髪がない……。

この値段でこれだけのボリュームはスゴイ！　頭もさがります。スタッフの努力を実感。（群馬県　吉田雅央　31歳）3点

ギョ！　そやろ、そやろ。オレも誌面上は活躍してないけど、みんなの為に朝からパチンコ並んで席とったり、ヘルスの電話予約したりとかで頑張ってるんやでぇ～。今日もキャバクラの下見にいくんや。あ、仕事出来る男は忙しいなあ。

（編集部注・いかがでしたでしょうか？　史上最低&空前絶後の珍100%な読者ページが出来上がってしまいましたが、これならきっと幸田珍のご家族や友人関係は大喜びしてくれることでしょう。めでたし、めでたし。さて、この読者ページを今後も継続していくかどうか、読者の皆様に判定して頂きたいと思います。「不快だ！」『ギョ！』とか言うな」「死ね」「これ以上、「田舎、帰れ」「センスないからやめちまえ」等の温かいメッセージと共にアントンばりに「続行ーッ！」と叫ぶか、「我々は殺し合いじゃないんだ！」とドラゴンばりに止めるか、どちらかに投票して下さい。ハガキを送ってくれた人の中から抽選で素敵なプレゼントを珍が贈呈します。送り先はP151参照ということで、よろしくお願いします）

(東京都　白鳥大輔　26歳) 4点　ギョ！　可愛いオーちゃんのイラストって珍しいやん！　けどよく見ると右耳が『スタートレック』のスポック船長みたいに尖ってて、また渋いやんけ。オレのプロデュースリストに載せた！　「そんなの要らない」って言葉は認めん！

うまいやん！

(東京都　松嶌篤志　？歳) 4点　ギョ！　鉛筆画専門の絵描きからイラストがきたでぇ！　プロ鉛筆画家やぞ、プロ鉛筆画家！　松嶌ッチも幸田珍プロデュースで中川画伯のようにビッグにしたるで！　まかしとき！　これからもガンガン書いてや～！

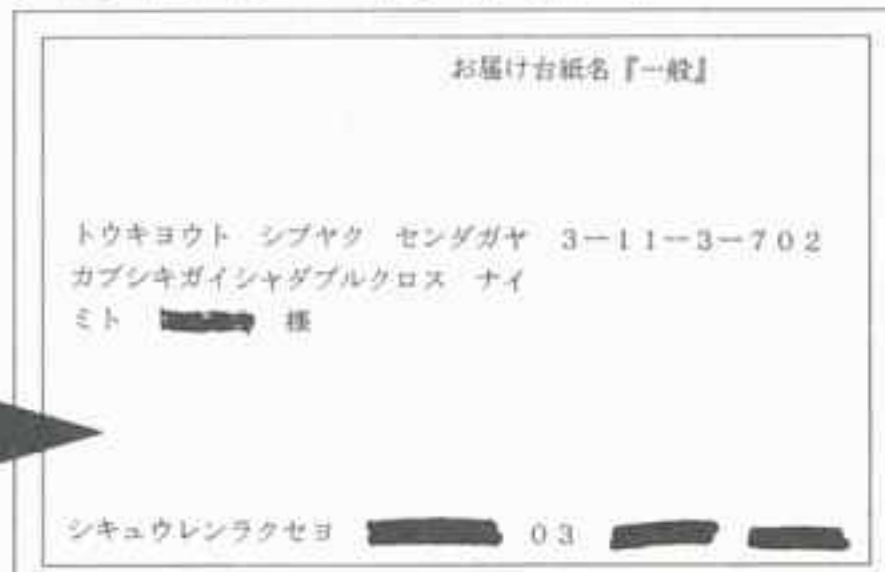
『クラブヤンナイ』渋谷店　オープン！
●場所／渋谷区道玄坂2-29-11 第92東京ビル1F（JR渋谷駅ハチ公口徒歩4分）　●営業時間／12:00～24:00　●設備・サービス☆電飾パネル型広告の展示　☆割引チケットの展示　☆熟練スタッフによる対話式の情報案内（お客さんからの依頼によるお店への出勤確認、混雑状況等のお問い合わせ代行。他）　☆自社制作ビデオ、雑誌の販売　☆各種イベント情報の紹介　☆インターネット閲覧　※『ヤンナイ』では本誌・『紙のプロレス』（出張版）も好評連載中！　オレも『ヤンナイ』には、お世話になってるでぇ～。ババ濡れやんけ！

ギョ！ 催促の電話が何件も！

借金まみれの本誌・水戸泉

【シキュウ　レンラク　セヨ】

ギョ！　初めて見た！　借金の催促電報。妻が絶賛妊娠中（厳密には未入籍のため内縁の妻）の本誌編集員・水戸泉がＭａｃのローンを2年半に渡って滞納した結果、これ（※下の図参照）が送られてきたんや。もちろん催促の電話も編集部に、ひっきりなしにかかってくるんや。そのたびに水戸泉は居留守を使い、「水戸は取材で外出しています」とシラーッと自作自演を繰り返していたんや。

なんや、お前、たいした取材しとらんやないけ！　とツッコミも入れたくもなるぐらいの図太い神経やで、ホンマに。その光景を見ていた本誌編集長・山口は「バカヤローッ！」と猪木ばりに一喝。さすが編集長、いいこと言うわ、と感心するのも束の間、続いた言葉が「自分から電話をかけて、払う意志があることを示すんだよ。あくまでも、意志だけだよ。そうしたら、追い込みも楽になるんだよ。頭使えよ！」とまったく見当はずれなアドバイス。さすが金融会社のブラックリスト・トップランカーである本誌鬼畜編集長だけに言うことが違う……って、感心している場合と違うやんけ！　よく考えてみたら編集部で借金ない奴の方が少ないやん。もし日本ダメ人間コンテストがあったら、入賞者続出の編集部やで。あ～、とんでもないとこに入社してしまったわ。ホンマ。

これが問題の電報だ！

お届け台紙名『一般』

トウキヨウト　シブヤク　センダガヤ　3－11－3－702
カブシキガイシヤダブルクロス　ナイ
ミト [illegible] 様

シキユウレンラクセヨ [illegible] 03 [illegible]

2001年 活躍すると思う選手

順位	選手	票数
1	桜庭和志	70票
2	小川直也	65票
3	秋山準	55票
4	金原弘光	45票
5	村上一成	30票
5	安田忠夫	30票
7	村浜武洋	20票
8	宇野薫	15票
8	力皇猛	15票
8	杉浦貴	15票
11	藤田和之	13票
12	大谷晋二郎	9票
13	ヴォルク・ハンの弟子	8票

大方の予想通り募集当初から1位サク、2位オーちゃんの順位は、変わらなかった。両選手とも女性票が多かったのが特徴と言える。また13位にランキングされた［ヴォルク・ハンの弟子］は前号の『ヴォルク・ハン　インタビュー』で紹介したように、対戦相手の足をキックでブチ砕いたり、アゴを粉砕して全治6ヶ月も入院させたり、極めつけは頭蓋骨を割ったりの強烈エピソード満載で堂々のランク入り。名前もまだ紹介されていないのに注目度はすでに師匠・ハンを超えている。日本デビューの日が待ち遠しい限りだ。

離婚＆借金カミングアウト企画
安田忠夫選手特集

（大阪府　英加直純　？歳）3点　ギョ！　これって切り絵なんやで！　知ってた？　先月も言ったけど、もう一度伝えたかったんや。しかも英加さんは『なんでもピカソ』に出展したことある凄腕なんやでぇ～。

（東京都　松嶌篤志　？歳）4点　ギョ！　なんか映画の看板みたいで格好ええやんけ！　タイトルは『ＯＧＡＷＡ～暴走～』って感じやな（そのまんま）。でも佐竹選手と破壊王の顔がなぜか似てるぞ！　それはさておき、今度オレも格好良く描いてくれへん？　無理？　やっぱりな……。

（青森県　青木雄大）3点　ギョ！　イラストとは関係ないけど青木ッチしかハガキ送って来てくれへんから『紙のＫＧＢ』終わったやんけ。復活出来るようオレと一緒にがんばろな！　ビッグな夢みようぜ！

（三重県　東篤志　２１歳）3点
ギョ！　安田選手っていうより『西部警察』のゲンさん（源田浩史：曲がったことが大嫌いな刑事）に似てるやんけ！　オレ的には大ブッシュの作品や！　また描いて来てや！

またまた意味はないけど

Pointランキング

順位	都道府県	氏名	点数
1位	埼玉県	中川雅博	51点
2位	青森県	青木雄大	25点
3位	住所不定	アントニオ文朱	21点
4位	大阪府	英加直純	13点
5位	東京都	白倉秀崇	9点

投稿＆ハガキ その他もろもろ大募集！

ハガキックの鬼では、皆さんからのご意見、ご感想、イラスト、投稿写真、恋文、罵詈雑言まで、様々なメッセージをお待ちしています。なんなら勝手に新コーナーを作ってくれてもかまいません。迷わず送ってこーい！
すべての宛先は…　〒151－0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702（株）ダブルクロス『シッポリ度MAX』係まで。

リング外情報通信▶提言・最近イベントが少ないぞーっ!…Vol.3

KamipuroWalker

グレート・チョロのハガキ劇場

お前らは2月2日放送の『東京ビックショット』（フジテレビ系）は見たか？　この番組で人気若手芸人のビビる&やるせなすと『猫の穴』軍団が5対5綱引きマッチで激突した。相手はお笑い芸人とはいえ、キャットファイトに関しては素人同然。心配するまでもなく我らが『猫の穴』の圧勝邪！　闘い終わってノーサイド、みんなで記念撮影をしたぜよ！

お腹が波打ってる人がタイプだというラブマスターｓｉｘｘチャンに自慢のお腹を押しつける杉Ｊ。両者の思惑が一致した素敵な写真じゃあ！

読者ページに続き、キャットファイター、紙プロウォーカーを占拠！

『猫の穴』増殖!

■ユッケ・チャン
●年齢／19歳●大学生●Ｂ81Ｗ57Ｈ82●得意技／ローキック●国籍不明　オイ、オイ、オイ、このユッケ・チャンはなぁ現役女子大生なんじゃあ！　カワイイじゃろ？　ファイヤー！

前号で初めて『紙プロ』読者の前に、お目見えした「猫の穴」。今回のＴＶマッチに向け、総帥シローが用意したメンバーは、暫定エースのメイプル、副将格のラブマスターsixx以外、なんとすべてが新加入の猫戦士たち。自らを「ＰＢ」と言い切る程のプロレスマニア「ＰＰ－７」、現役女子大生キャットファイター「ユッケ・チャン」、そして昨年末、「旗揚げ会見」にも参加した「ぼのぼの」と個性豊かなメンツがブラウン管を飾った。電波ジャックに成功したサスライ・シローの、次の仕掛けは、なんだ!?　【sixx選手（＝Mococo）HP→http://www.wasurena.sakura.ne.jp/~mo55/】

■PP-7（ピーピーセブン）
●年齢／25歳●フリーター●Ｂ80 W52Ｈ81●得意技／STF
【PP-7＝奈緒子HP
http://www.geocities.co.jp/MusicStar-Drum/7404/NAOKOROOM.html】

前号から動き出した美少女猫戦士軍団『猫の穴』が、なんとフジＴＶの深夜番組に出演したんじゃあ！　もちろんプロデューサーを気どる俺もリングアナとして出演。番組的には杉作さんの一人勝ちだったが、民放初進出としては上出来じゃろ！『猫の穴』では、ＴＶだけでなく、新宿プロレスやイベントの要請もガンガン届いて絶好調邪！「ファイターとしてのお前は認めるが、プロデューサーなんて、そんな肩書きをやった覚えはねえ！」と『猫の穴』総帥サスライ・シローは俺に難癖を付けてきたが、んなこたぁどうだっていいん邪！　それと「つまらなかった→変な女の人の水着の記事。男の人だけが見るんじゃないんだから、少しひかえめにしてほしい。気持ちよく見れないから」というハガキが大沼由衣ちゃん（14歳）から届いた。オイ、由衣ちゃんよぉ、『猫の穴』では、女の子でも気持ちよく見れるビジュアルファイターを揃えていくから大目に見てくれんかのぉ？

格闘自由空間へ集え！

キックに柔術にシューティング、ダイエットクラスにプロレスクラス（ウソ）まだ、まさに目潰し、金的、噛みつき以外何でもありのジム、その名も“ＳＳＳアカデミー”が練習生を絶賛募集中だ！　目指せチャンピオン！　億万長者も夢じゃない！　ひやかしでも可！　とにかく行け！　世界でも屈指の指導員が君を待ってるぞ！
［場所］ＪＲ水道橋駅東口を出て右へ200m、ヒグチ薬局を右に入って300mの左側、喫茶フラミンゴの４Ｆ。水道橋駅東口より徒歩４分。

格闘自由空間

キックに柔術にシューティング、ダイエットクラスにプロレスクラス（これは嘘）まで、まさに目潰し、金的、噛み付き以外何でもありの格闘技ジム。その名も"SSS アカデミー"

当ジムが誇る指導員

元ルンピニースタジアム　フライ級２位
ランバー・ソムデートＭ１６

ＭＡキック連盟元フェザー級チャンピオン
山口　元気

日本修斗コミッション　ライト級１位
植松　直哉

９８年世界柔術大会　青帯３位
和道　稔之

２０００度　紙のプロレス大賞第３９位
タノムサク　鳥羽

目指せチャンピオン！億万長者も夢じゃない！ひやかしでも可！

お問い合わせは０３－５２１２－７９２０

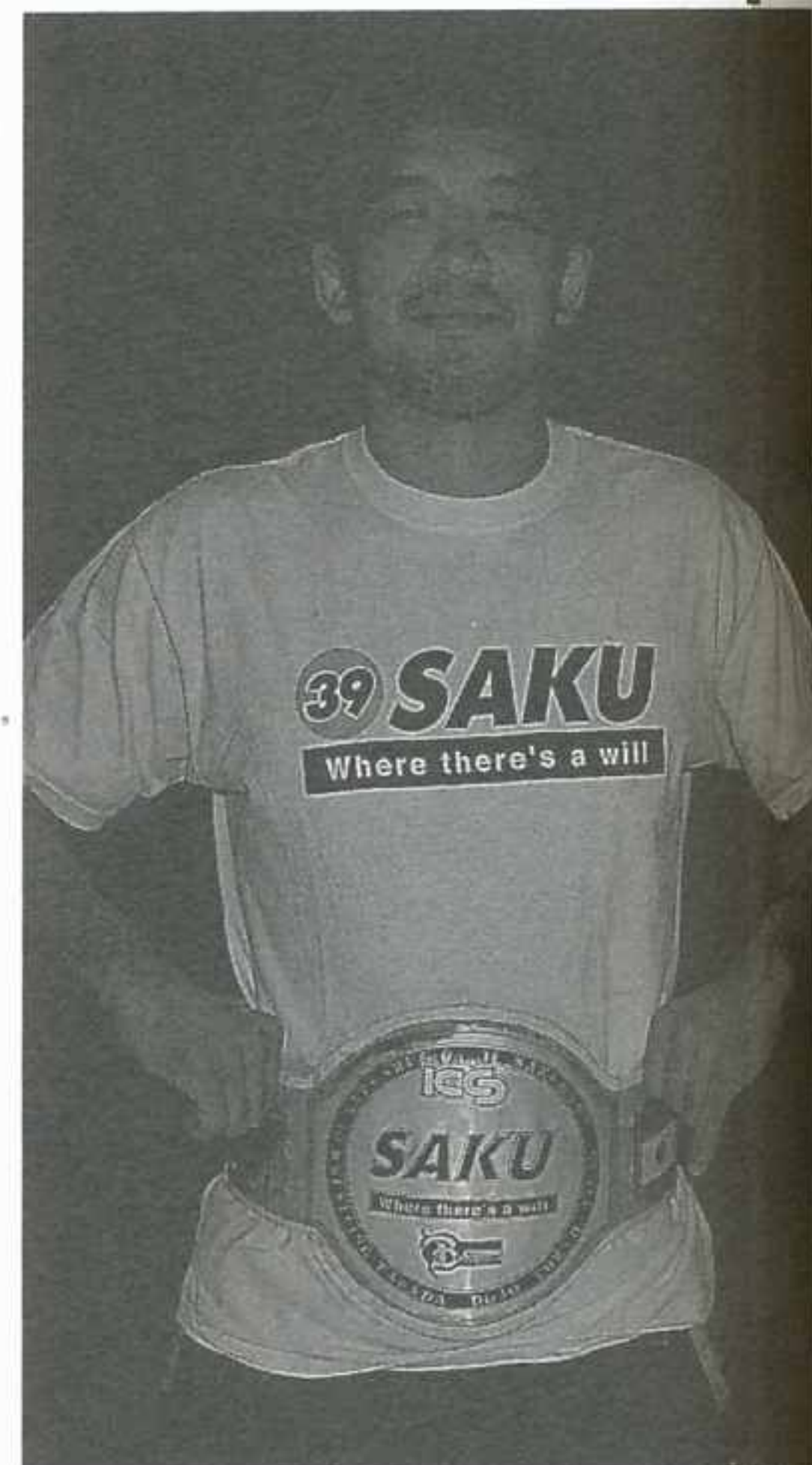
JR水道橋駅東口を出て右へ２００ｍ　ヒグチ薬局を右に入って３００ｍの左側　喫茶フラミンゴの４F　水道橋駅東口より徒歩４分です。

本誌がＤＤＴの会場でゲットした、同アカデミーのビラを見て驚愕！　あの修斗ライト級ランキング１位の植松、ランバー（元ルンピニースタジアム・フライ級２位）、柔術世界大会３位、ＭＡキックチャンピオンまで蒼々たる肩書きを誇る講師陣にタノムサク鳥羽まで名前を連ねているじゃないですか！　ちなみにタノムサクの肩書きは“2000年度『紙のプロレス大賞』第39位！　ビバ！　タノムサク！［お問い合わせ］
TEL.03-5212-7920

『紙プロ』大賞39位は佐々木健介と同ランクという快挙。

桜庭和志トークライブ＆握手会開催!

サクのニューTシャツがナントこの日に発売開始!

［日時］3月4日（日）14:00～
▶握手会案内
［開催場所］クイーンズスクエア横浜　B3Fスタジオ「アット！」
［参加方法］入場無料!　参加人数多数の場合、入場制限あり
▶握手会案内
［開催場所］
クイーンズタワー　AT　2F
ワールドスポーツプラザ横浜みなとみらい店前
［開催時間］トークライブ終了後、すぐに開始
［参加方法］
当日11:00～オープンするワールドスポーツプラザ横浜みなとみらい店で格闘技グッズを購入した先着300名に参加チケットを配布。
［お問い合わせ］
ワールドスポーツプラザＫＩＮＧＳ事務局
(03-3407-7175)

その他の情報

■『PRIDE』直前!　島田祐二プロデュースイベント
［日時］3月16日（金）開場18:30　開演19:00
［場所］渋谷ロックウエスト
（渋谷区宇田川町４-７トウセン宇田川町ビル７Ｆ）
※東急ハンズ向かい、ハーレーダビッドソンのお店の７階
［料金］入場無料！
出演：島田祐二、山口日昇、谷川貞治（予定）
［お問い合わせ］
渋谷ロックウエスト（03-5459-7988）

●

■アルシオン　オフィシャルカードコレクション2001発売記念サイン会
［日時］2月26日（月）18:30～19:30
［場所］さくらや新館ホビー館
（ＪＲ新宿駅東口下車徒歩3分紀伊国屋裏隣り）
［ゲスト］府川唯未、浜田文子
［お問い合わせ］
株式会社さくら堂（03-5686-7671）

●

■エンセン井上　トークライブ&サイン会
大和魂　梵字Ｔシャツの別注カラーを販売！
［日時］2月23日（金）18:00～
［場所］名古屋パルコ５Ｆ　エスカレーター前
［トークライブ参加方法］参加自由
［サイン会参加方法］
ワールドスポーツプラザＫＩＮＧＳ名古屋店で格闘技グッズを買い物した人が対象。イベント当日レシートを持参した先着100名様に参加券が配布される。※サインをしてもらうものは各自用意。
［お問い合わせ］
ワールドスポーツプラザＫＩＮＧＳ事務局（03-3407-7175）

●

■Jd' 通販専用サイトがオープン
なかなか試合会場に足を運べない人にはありがたすぎる「グッズショップ」がオープン！
Ｊｄ' グッズが購入できる便利サイトです。
(http://www.jdstar.com.jp)

●

■大仁田厚バンド「ひまわり」出演イベント情報
ヒマワリロックフェスティバルVol.1
［日時］3月20日
［場所］芝浦スタジオセントギガ
（ゆりかもめ線竹芝駅西出口を出て直進、信号を左折、湾岸道路につきあたったら左）
［お問い合わせ］
その他の詳細はダイプロデュース（03-5496-4900）までお問い合わせ下さい。

●

■バトラーツ　サイン会情報
2月25日、広島県宮島競艇場大会（第1部10:10～、第２部13:45～）において、第1部終了後12:30～初代タイガーマスク、スーパーライダーのサイン会が開催される。さらに全試合終了後には、大食い王モハメドヨネのサイン会まで開催！

●

■バトラーツ後楽園大会特別チケット情報
［日時］3月1日（木）後楽園ホール大会（18:30～）
欠場する石川雄規選手からのお詫びとして“俺は必ず戻ってくる”シートが発売される。
［料金］￥3000
［日時］４月13日（金）後楽園ホール大会（18:30～）
旗揚げ５周年記念プレゼントとして、“情念”シートが発売される。
［料金］なっなんと!　2001円!
※両大会ともバトラーツのみの販売となります。
［お問い合わせ］
バトラーツ（0489-63-0005）

●

■『総合格闘技道場ＵＷＦ』が入会金半額キャンペーンを実施中
現在、ヒクソン戦に向け絶賛疾走中（失踪中）の入江が率いる『総合格闘技道場ＵＷＦ』では3月末まで入会金の半額キャンペーンを実施中。入会時に“ボクは入江対ヤマケン戦が見たいです”と言えば通常１万円の入会金が５千円に!　詳細については各自連絡!
［お問い合わせ］
キングダム・エルガイツ（042-331-2797）

DOUBLE CROSS REVIEW

本誌鬼畜編集長・山口日昇&スーパー・バイザー・吉田豪の"二大巨頭"を除いた『紙プロ』編集部員6人衆が、
それぞれの熱い気持ちをお伝えする当コーナー。戸高アビバが退社し、今月から5人衆でリスタート！

1.28 TFMホール
バトラーツ

さっそく遺恨を生んだ
バトのBルール
選手の潜在能力が
大爆発するぞ!!

アレクの失言（「ノアのマットはフワフワだった」「桜庭が勝ち続けてるのはたまたま。ワイが負け続けているのもたまたま」などなど）ばかりがひとり歩きして（ネガティブな）話題をふりまいている昨今のバトラーツに新たな風が吹いた！ バトラーツの原点回帰プロジェクト『Bルール』が、1月28日のTFM大会からスタートしたのだ。

いわゆる打撃技を禁止したキャッチレスリング・スタイルで、タップを奪うか、双方併せて5エスケープを喫した後で最初にエスケープを奪うか、スープレックス・ホールドで2カウント奪うかしないと決着は付かない。いざやってみるまでは関係者も選手も観客も不安混じりだったこの新ルールが、藤原組直系の"秘めたる実力"を見せつける格好の舞台となった。

最も光っていたのは小野武志であろう。普段の悪党ファイトを封印された形となったわけだが、鋭いタックルと切れ味バツグンの関節技は「モノが違う！」と唸らされるだけのハイレベルなシロモノだった。VTに出ても面白そうだ！ だが、試合後の小野は「最高につまらないルール。言いだしっぺ（＝アレク？）がやればいい」と、乗り気でない様子。選手の提示したいモノと観客の求めるモノとこのルール自体がまだ噛み合っていないなという印象は受けたものの、これは間違いなく選手の違った側面を引き出すには有効だ。

そして、アマレス出身の仮面シューター・スーパーライダーもDDTでは100%発揮できずにいたグランドの技術を惜しげもなく披露して、junji.comから一本奪った（この試合はjunjiも大健闘！）。試合後にはDDT離脱のいきさつをブチまけながらも、その表情には満足感が溢れていた……まあ、マスクで見えなかったけど。さっそく、さまざまなドラマを生み出したこのルールが、きっと新たな展開（遺恨？）を生みだすはずだ。 （ノブ）

2.3 朝日新聞紙上
DDT

朝日新聞ぐれぇでビビんな！
次の一手、いや四十八手まで
考えている!!
（by高木三四郎）

プロレスは"連ドラ"
格闘技
技より物語に磨き

プロレスはショーであり、百%エンターテインメント」との発言が、夕刊とはいえ、あの天下の朝日新聞に掲載された。「プロレスはショーだ」と公言した団体というとWWFが有名であるが、そこで紹介されていたプロレス団体とは日本のエンターテイメント集団・DDTであり、冒頭の、ある意味ショッキングな発言をしているのが高木三四郎である。これは、なにげに快挙と言えるだろう。前号で読売新聞での連載記事を紹介した小川直也とは違い、マット界的には、ちっぽけなインディー団体と、そのエース（三四郎、曰く"主役"の）が日本三大紙にデカデカと登場したのだ。

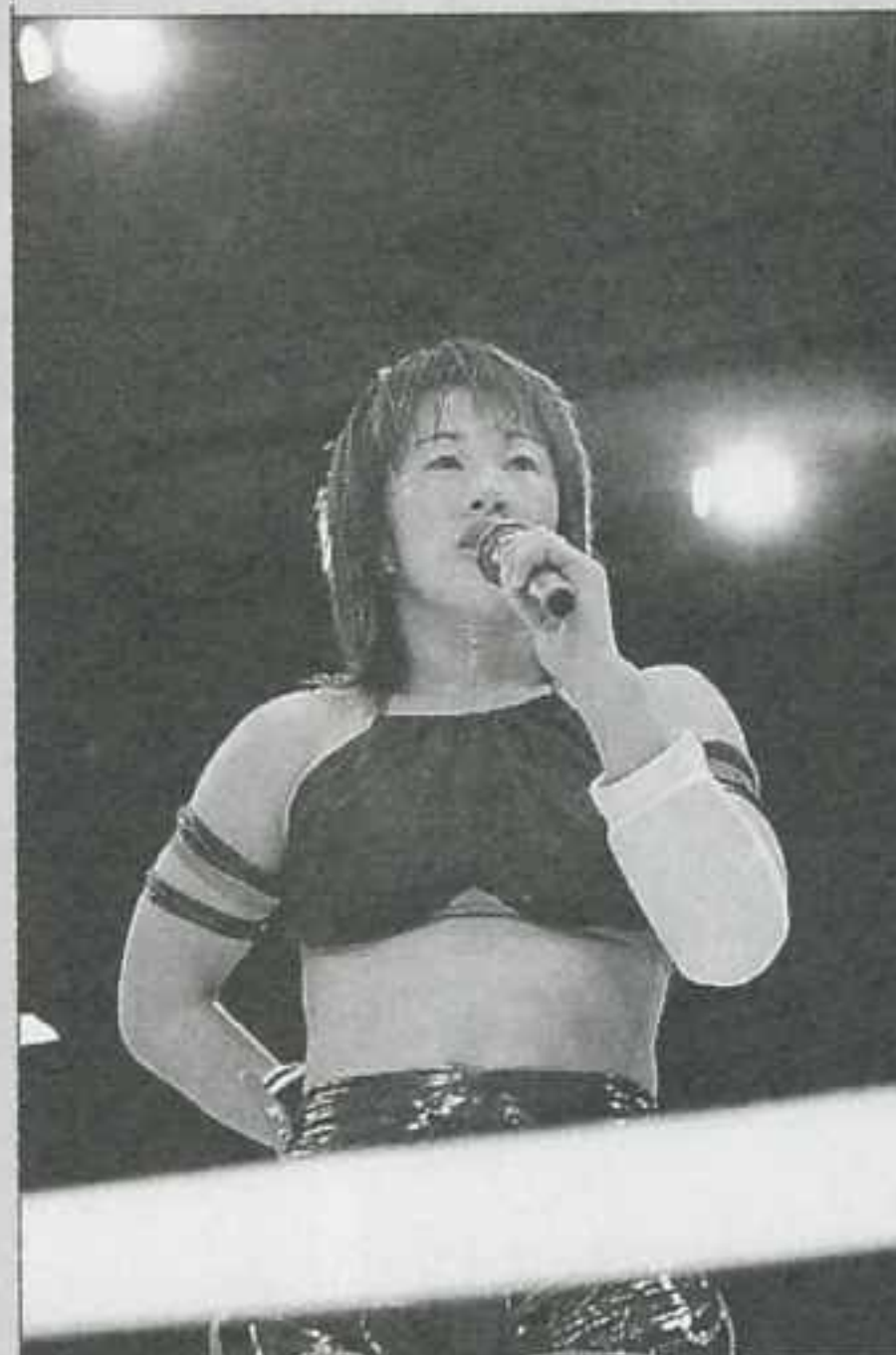
なにかと雑誌やらテレビやら、メディアに取り上げられることが多いDDT。最近もTBSの『ジャスト』で紹介されたばかりだ。「なんかコネでもあるんだろ？」と勘ぐる関係者も多いが、まあ、何も悪いことではないし、実際にそういうこともあるのだろうが、聞くところによると、取材を申し込まれることの方が断然多いという。常打ち会場の渋谷club『ATOM』でも他団体と比べて格段にプレスの数が多いのに気づく。知り合いの編集者、カメラマン、さらには他団体関係者等から「DDT見てみたい」という声もよく聞かれる。そういった人達から口コミで多方面に浸透していった結果が現在の注目度を勝ち取ったと言えるだろう。もちろん、そこで行われている"ショー"のクオリティーが期待にそわないものだったら、ここまでの世間に対する広がりは見せなかったはず。

まだまだ規模は小さいが、DDTは純プロレス界の『PRIDE』と言っていいほど、一般マスコミがこぞって注目している団体というのは間違いない。おまけとして言えば、DDTのケーブル放送が行われている東京の中野区には、テレビ中継が見たいがために中野区民となる人も少なくないという。これ、ホント！

そんなDDTの秘密を知るにはATOMへGO！ （チョロ）

2.10 後楽園ホール

J'd

アングルと本音のらせん構造それが女子プロレスだ！

「阿部幸江、負けたら即リストラマッチ」

いささか食傷ぎみ、且つちょっぴり語呂が悪いネーミングが付いたこの日のメインイベント。『紙プロ』読者で、Jd'の流れを熟知している人は皆無と思われるので、ちょっと説明すると、藪下、坂井澄江らが『ID4』というユニットを結成したために、タナボタで世紀軍のトップになってしまった〝貧乳〟阿部ちゃんが、標的にされて迎えたこの一戦。〝貧乳〟というだけで、巨乳好きが大半を占める『紙プロ』読者（勝手な推測）には読み飛ばされそうだが構わず続けます！

だいたい「負けたら即〜」系の常として、負けはするけど、なんだかんだと理屈をつけて引退問題は結局うやむやになるものだが、この試合もやはり例にもれず、阿部ちゃんがボロボロにされて敗れ、卯木代表がドラゴンよろしく「引退は認めん！」と言い放つという直球ど真ん中の展開（王道すぎて大満足）。

結局、結論は翌日の大阪大会に持ち越しにされたが、そこで急転直下「2・24ディファで金網決着戦」が決定！　この時の阿部ちゃんのマイクが振るっている。

「私は小杉夕子にはならない！」

誰もが「Jd'」＋「金網」＝「小杉夕子署名に御協力下さい」→「いつのまにか引退」という、触れてはならない公式が頭に浮かぶ中でのこのマイク。アングルと本音が一体になっていて、実に素晴らしい。合格です！

これで金網戦の結末が、「殺し合いじゃないんだ」ばりの不透明決着になったら万歳三唱ものだが、ボクは当日KOK決勝があるので足を運べない。実に残念である。……などと書いているウチに、本来書く予定だった坂井澄江（こちらも貧乳）に触れる前に紙が尽きてしまった。このつづきは次号で（シッシー調）。（ガンツ）

1.28 後楽園ホール

大日本プロレス

世の中の穀潰し共よ、関本を見ならえ！これぞ真の〝10代〟だ！お肌もツヤツヤ！

偶然なのか、必然なのか、東京ドームで他団体がビッグマッチを開催するたびに、なぜか首都圏のどこかで興行を行う大日本プロレス。しかも、この日の会場は、ドームから徒歩30秒圏内の後楽園ホール。まさに文字通りの〝裏ドーム〟である。

スタン・ハンセン引退セレモニーで、去りゆく不沈艦に惜しみない拍手を送る観客達。そんな牧歌的な空気が充満した東京ドーム。その頃、お隣りの後楽園ホールでは、頭から蛍光灯に飛び込んだ山川竜司に惜しみない喝采が贈られていたのであった。

よりによって、こんなに大事な興行で葛西を除いたCZWの外人勢が不参加、さらにはエースの本間が失踪中と抜け目のありすぎるところが、逆にお隣（ドーム）を意識しすぎてない感じがしてよかったと思うんだけど…。どう？

というわけで、選手の大半が1日2試合を闘うととなった〝裏ドーム興行〟MVPに輝いたのは関本大介！　デスマッチ団体の大日本でストロングスタイルを貫き通す19歳（現在は20歳）。

大日本の会場に行くたびに、どんどんゴツくなっていく身体、不良女子レスラー市来よりもツヤツヤなお肌の持ち主として、昨年夏頃からボク（&三浦店長）の中ではブレイク済みだった関本。失礼を承知で言わせて貰うが、10代の若さで、いつ沈んでもおかしくないんだけど、しぶとく生き残り続ける「株式会社大日本プロレス」なる不安定な職場に身を捧げた勇気には感服だ。同年代の穀潰し共が、青春を謳歌しているのを尻目にひたすらに邁進し、この日ついにテイオー先輩とのタッグでBJWタッグ王者を奪取！　ボクが19歳だった頃を思い返してみると、あまりにも見上げた若者の登場に心から拍手を送りたい。オメデトーッ！

次の大日本の後楽園は2月24日。今度は〝裏リングス〟だ！　横浜アリーナまではあと288日。やれんのかーっ！（水戸泉）

1.28 北沢タウンホール

キャプチャー

どこでやっても地下室マッチたとえオシャレ街下北沢であってもだ

ギョ！　体育館マットに照明4個。

たったこれだけの簡素なリング（？）でキャプチャーの地下室マッチは行われてるんや。

この日も第1試合からメインまで、ガチガチのハードファイトの連続連続。特にメインの6人タッグはまさに強烈の一言。1本目で中村に足首を完全に極められた北原光騎は、あまりの激痛にレスリングシューズを脱ぎすて、コールドスプレーでアイシング。そこまではよくある光景かもしれないが、この日は3本勝負、ナント北原は残り2試合を片足はレスリングシューズ、片足は靴下という非常に珍しいスタイルで闘い通したんや。正直言ってあまりイカしてない格好やけど、ファイトはイカしてたんや。

北原は、カットに入る時でも、トコトコって近づいて、グラウンドで攻めている石井の顔面にサッカーボールキックをバシッ！　まるで、映画でケンカ慣れしたヤクザみたいにサラリとエゲツナイ攻撃をするんや。ワルって感じがビンビン伝わって格好いいんや。

あ、言い忘れてたけどキャプチャーは非常にスポーツライクな団体で反則したらサッカーみたいに〝イエローカード〟とか〝レッドカード〟をレフェリーが差し出すんや。でも、そのレッドカードが出ても注意されるだけで反則負けにならないのも特徴なんやで。このへんの懐の広さ&ユルさもキャプチャーの良さやと思うんや。

今は人気選手であったニーハオとオレが大好きな久保田有希ちゃんが脱退して、選手が少なく厳しい状況だと思うけど、この日も各選手が2試合以上をこなして、キャプチャーを支えていた。しかも手抜きなど一切ナシ。こんなに体を張ってる団体をオレは断然支持したい。

ああ、文章が下手で読者に上手く伝えることができないけど、一度見て！　絶対、面白いって。（幸田珍）

★★★プロレス&格闘技専門ビデオショップ★★★

チャンピオン

Champion

【広告のページです】

プロレスを愛する全ての者たちよ チャンピオンへ集え!

ギョ!チャンピオンとは ギョ!こんなにいい店やで〜

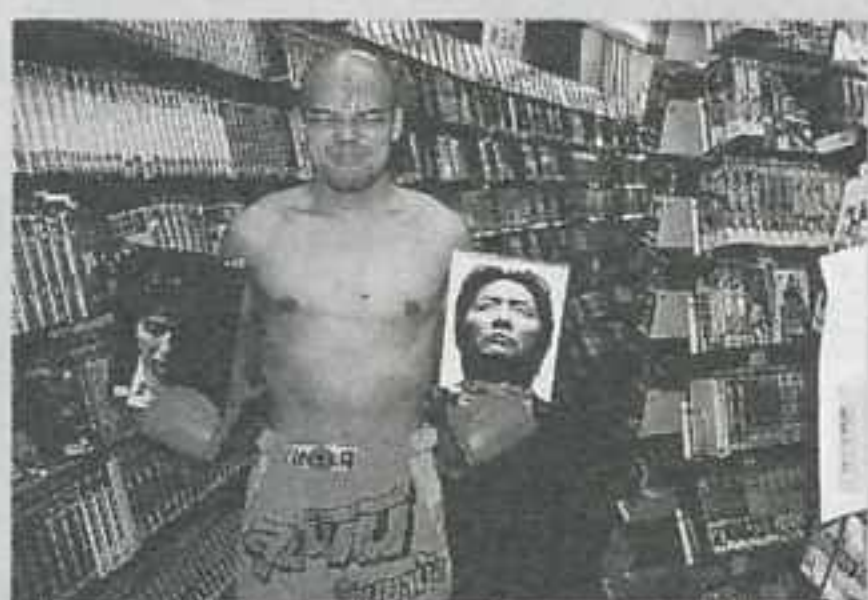
ギョ! 幸田珍やで〜! 今月はワイがチャンピオンを案内したるで! 水道橋駅から徒歩30秒! この看板が目印やで! ここのビルの6Fやで!

ギョ! 新発売の『紙プロ』Tシャツ(¥3800)がもう売っとるやないかい! 冬でもムエタイパンツ一丁のワイでもこれだけは買っとくで!

たとえ冬でもニューTシャツが常時入荷!

遂にノアのTシャツが発売されたぞ! みんな待ってたでしょ? ロゴTはもちろん、三沢のエルボーTシャツとWAVEのTシャツはかなりの出来映えだ!(各¥3000)

ど〜ですか! この野獣覚醒Tシャツのバックプリント! 覚醒しっぱなしのソウルの新作Tシャツは何種類でもほしい! 藤田ファンならずとも「PRIDE」の会場にはこれを着てから行け!(野獣覚醒Tシャツ¥4095、他2種類ともに¥3045)

ギョ! 『紙プロ』バックナンバーまで常備しとるがな! ホンマにえらいお店やな〜。サクが表紙の号は完売寸前らしいで! ワイのおかげや。

ギョ! 前田日明のDVDボックスセット(各¥31290)やで! 4枚組やぞ、4枚組! ワイは棺桶の中まで持ってくで! 当たり前やがな!

ギョ! 破壊王のビデオは3・2両国までにチェックしとくべきやで(真闘記¥9400、破壊王復活¥3700)! ホンマにええ品物が一杯やがな!

プロレスTシャツ史上に残る不滅のロングセラーTシャツとなったオーちゃんTシャツ(¥3675)&メガトン級のヒットとなったサクTシャツ(¥3990)はもはや定番です!

店がどんなに遠くても、笑いながら歩こうぜ! いつ何時、誰の注文でも受ける通販方法!

<グッズ通信販売>

チャンピオンには、ビデオを中心に、雑誌の最新号&バックナンバー、単行本、Tシャツ、フィギュア、テレカ、トレーディング・カード、マスク、選手のコスチュームなどなど、古今東西のありとあらゆるプロレスグッズが揃ってます!! もちろん『紙プロ』のバックナンバーもズラリとあります。さらに限定販売中の『紙プロ』Tシャツも、ここなら買える! プロレスファンよ、いますぐ来い!

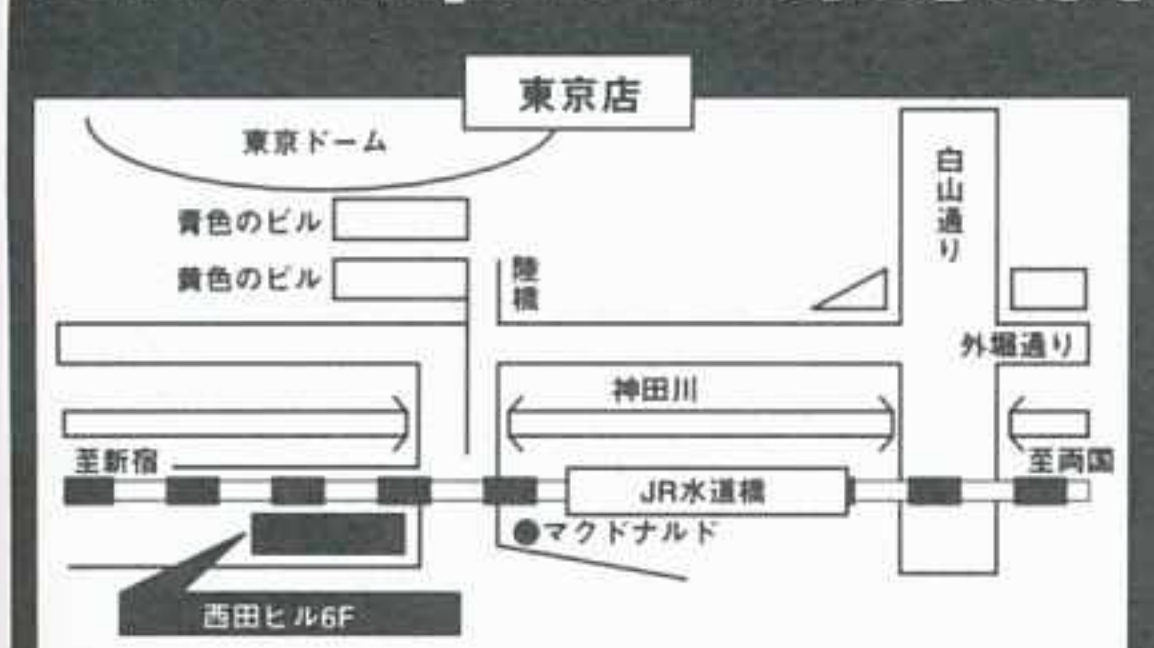
通販を希望される方は住所・氏名・電話番号を明記の上、1電話・2ハガキ・3FAXいずれかの方法にてご注文ください。代金引換になりますので、代金+送料をお支払いください。入金確認後、商品を発送いたします。在庫がないものもありますので、TELにて確認の上お申し込みください。

<ビデオのレンタル方法>

地方からも利用可能なチャンピオン独自の便利なビデオ・レンタルシステムの妙技を味わいやがれ!! レンタル方法は以下の3通り! どう借りるかは、あなたの都合に合わせてくれ!

1. **店頭にてレンタル、店頭へのご返却**
2. **店頭にてレンタル、宅配便でのご返送**
3. **TEL・FAXにてご注文、往復宅配便レンタル**

いずれかの方法で注文をお願いします! 東日本地区に住んでいる方は東京店で構いませんが、西日本地区の方は大阪店を利用してください。また、通信レンタル会員を希望される方は、400円切手を同封の上、住所、氏名、電話番号を必ず記入してChampionまで郵送してください。

Champion東京店

〒101-0061
東京都千代田区三崎町3-8-1西田ビル6F
TEL.03-3221-6237 FAX.03-3221-6267
営業時間 11:00〜22:20(年中無休)

Champion大阪店

〒556-0011
大阪市浪速区難波中3-3-23桧ビル4F
TEL.06-6645-5186 FAX.06-6645-5187
営業時間 11:00〜22:00(年中無休)

オフィシャルビデオランキング

今やすっかり定説ですが、チャンピオンはビデオレンタル業が本業なのであります。現在は昨年のリングスKOKトーナメントが人気爆発中! 見応え抜群の3本組は要チェックだ!

1位 リングス『キング・オブ・キングス(3本組)』(ポリスター)
2位 FMW『STORY OF THE F V』(東芝EMI)
3位 WAR『革命天火』(クエスト)
4位 『PRIDE.10』(メディアファクトリー)
5位 FMW『バックドラフト』(東芝EMI)

※前号、ケガにより欠場したダンチョー(水道橋のカリスマ店長)ですが、帰郷のため今号も欠席とさせて頂きます。次回の登場にご期待下さい。

Championホームページアドレス:http://www.champion-j.com

濃縮還元200%で、リ・スタート!!

Title&Illustration/Jerry Ukai for ADS

ひっそり増刷発売中の『リングの汁』（アートン刊）よろしく♥
あと『格通』さま、「汗」じゃないですよ。「汁」です。

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL

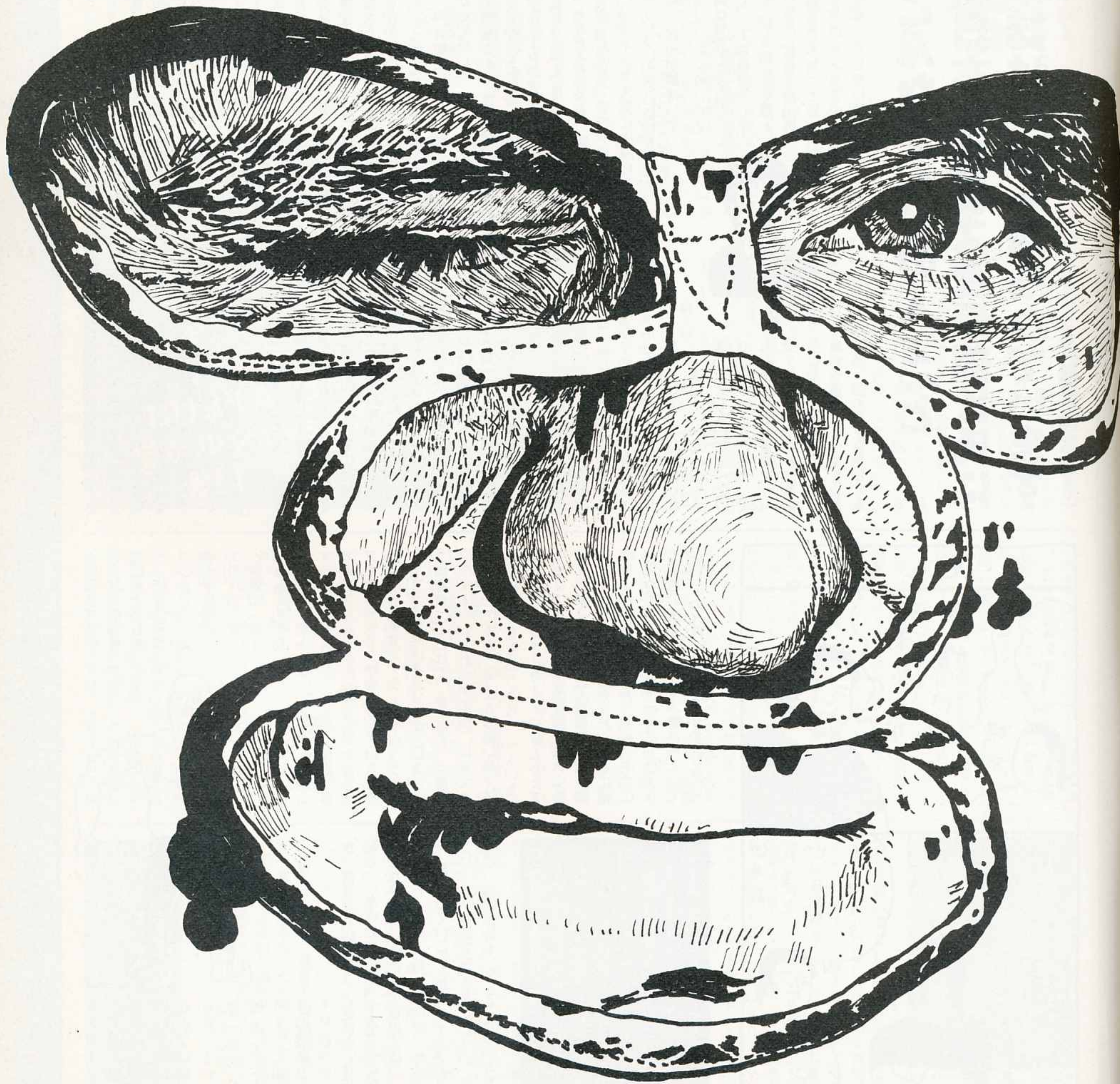
がんばれ ヤマケン

安生

BEST OF THE スパコラム

くるりのCMでの船木、健介のマイク（「これからは俺たちの時代だ！」）と少しオモシロかった日本の1月。けど昭和の1月なら、『トラック野郎』の看板ポスターが町に貼られ、全日のマーク・ルーインなどのメンバーで固めたヌルい新春シリーズを眺め、雪が降れば喜んだりしてもっとオモシろかったなあ〜。今は雪なんか絶対ヤダもんね、誰か日本を一年中夏にしてくんねえかな？　それか俺を昭和の小学生に戻して人生やり直させてくれ（もちろん今の思考もちこみで）！　21世紀だろ、誰かそんな発明しろ！　あとモー娘。のベストCDに「恋はロケンロー」がなんで入ってねえんだよ！　真心のライブにハルがベースで参加するらしいけど、ピーズ復活すんのかなあ〜……。

と、ダメ人間作文で300字埋めてみました。ごめんなさい、今回書くことがあまりない。

1月、まず見に行ったのは後楽園のプロ修斗。門脇&戸井田の慧舟會コンビの寝技の強さは、見てて楽しめるプロの強さだね、見てて面白いよ。それにしてもあれだけ寝技の強い門脇にわざとポジション与えた上で勝ったヤノタクや、戸井田に圧勝した植松の強さをあらためて感じる。

その植松だが、今回も前回の朝日戦のようにしっくりしないうちに終わってしまった。1Rのアキレスで終わってれば、長かったこの日の大会もなんとか締まったんだろうけどね。みんなガックシして帰ったけど、宇野や戸井田やエリック・ペインや大賀に圧勝した時のあのピリピリした恐い植松を見ちゃってるから、みんな期待してんですよ！　ノゲーラとやる時は爆発してくれ！

バレットは負けてしまった。試合前に友達と「つまんない試合で勝田の判定勝ちかもね」と話してたらそのマンマで少しゲンナリ。たしかに勝田の完勝だが、前回の梅村戦と同じであの闘いぶりはつまんない。あの戦法で強いんだから仕方ないけど、相手の光りを消すどころか試合の光りも消している。判定勝ち告げられすごい喜んでたけど、対照的に会場は冷えきっていた。今後、上に行けば変わるのかもしれないが……。

そんな勝田と試合したとき、「おねがいだから組み合って寝技しよう！　この腕極めてもいいからさ」ってな感じで無防備に腕を差し出して勝田に寝技を誘ったヤノタクの姿は感動的だったよね、あれからもう一年か。

そういえば木戸フィギアが出たんだよね、西村も出ねえかな？　時代が違う男・西村だが、昭和どころか21世紀になっちゃってどこへ行くのか。「小島&天山がIWGPタッグ王者なのは、宇宙の秩序に反する」みたいな発言をしてたけど、もう僕らの考えるはるか彼方へ行ってしまったんだろうか。

あと昔は、新日の契約更改ってガチに見えてワクワクしてたけど、最近のは全部アングルに見えちゃうんだけどどうなんでしょ？「契約はしない。退団だ」となっても全然ハッとしないです、どうせつながってんだろと。それと新日記者会見を『サムライTV！』で見かけるようになって数年になるが、あの子供面にヒゲ生やした社員（図1）が会見してるとどうしても子供会社の記者会見に見えてしまう（社長はドラゴンだし）。お金も子供銀行のお札では？と。

図1

「こんなかんじの人」こと新日本プロレス宣伝部K氏に本誌はいつも怒られています
（編集部スモー）

前号の「スーパスター列伝ミスター・ヒトインビュー」にアイアン・シークの話題が出てたけど、アイアン・シークは今どうしているのだろうか。アイアン・シークやバックランド、ブラッド・レイガンスなどレスリング出身者ってだけで、昔の僕ら（『週刊ファイト』かぶれの中学生）は多大な幻想もってたが、今そんな思い持てる選手いるかなと思ったら、一人いた。前に『サムライTV！』つけたらたまたまノアの番組やってて若手芸人（たぶん）がノアの道場で練習する図が映ってたんだけど、それだけならすぐに他のチャンネルに変えるとこだが、そこには僕がイメージするノアの若手とはえらく毛色の違う強そうな人物が一人いて「誰だこの人!?」となって身を乗りだし、そのコーナー（ほとんど終わりかけだったが）を食い入るように凝視した。それ以来「あの人、誰なんだろう？」と脳みその隅にひっそり思ってたが、前号の「語ろうノア座談会」見てたら、「あの人は杉浦って人なんだな」とつながった。今のノア自体には、まだまったく興味を持たないが、杉浦だけは気にしていこうと思う。そんで女子プロでは、浜田文子を気にしていこうと思う。理由はかわいくてやらしいから。

はなくま・ゆうさく■ いまCMでたけしと山田辰夫が共演してるね！昔たけしの映画の本で『狂い咲きサンダーロード』ほめてたよな〜。あの頃のニューイヤーロックフェスでたけしが『翼なき野郎ども』を歌ったらしいけど、「見てえ！」と20年間ずーっと思ってる。誰かビデオ見せて!!

そそり立つ男魂バンド『ロマンポルシェ。』の
説教担当・掟ポルシェPRESENTS

来☆勝ちます

激闘、『罵詈通道』の巻

BEST OF THE スパコラム

『罵詈通道（バリトウドウ）』とは何か？　ポルトガル語だかタガログ語だか知らん〝バーリ・トゥード〟なる格闘ダンスの意ではない。古来より北海道は長万部―倶知安地方に伝わる、なんでもアリを超えた「スーパーなんでもアリ」それが罵詈通道なのである。なんでもアリだと銘打っておきながら目潰し金的なしだの5分何ラウンドだの全くなんでもアリではないV・Tとは競技の本質からして異なり、まずビックリするほどルールが無い。麻雀だと思って打っていたら途中から浜省そっくりコンテストにチェンジ、新宿コマ劇場前でギター持ってるフリの空ストロークを交えて『奴等にBIGマネー叩きつけてやる!!』と五百円玉貯金箱片手に大絶叫したかと思えば、その辺に寝てるホームレスに「オマエはミス花子！　オマエはプロパガン太！　オマエはキャプテン（和田）！」と、やおらニックネームをつけまくる方向にシフトする。しかもいつ終わるという時間制限もないため、対戦相手があまりのバカバカしさに戦意喪失するまで続く、下手をすると一生を棒に振りかねないのが真のなんでもアリなのである。

負けず嫌いのための負けず嫌いによる絶対負けを認めない恐ろしくもやる気のしない伝説の競技、それが、罵詈通道……。誰もやらないので、思いついた途端伝説となってしまったという幻のバカくらべだ。

俺も小学校時代から常に鼻の穴にエンピツを二本挿し、幾千もの近所のバカ決定戦を勝ち抜いてきた名うてのバカであり、そんじょそこらのバカとはレベルが違うと自負している。いつ何時誰の挑戦でも受けるとばかりに、外出前には鼻の頭を真っ赤っ赤に塗りたくることを忘れないし、ズボンのチャックはいつでも全開、どれだけ重要な社内会議の最中にもキャンタマ袋を愛撫し続け、気合い十分な態勢をとっているのである。

だが、ある日俺の視界に罵詈通道人（バリ・トウダー）として強敵となると思われる男が入ってきた。山前五十洋氏……倉木麻衣の実父である。皆さん、新聞各紙などで既にどのような人物か御存知だろうが、倉木麻衣の実母と離婚後、一度は親権を放棄した娘に会いたい一心で、娘の成長記録を過激な編集でつむいだビデオ作品『MAI　MAI』（涙が出る程セッコイCGのUFOがぴょ～んと飛来し、倉木家前に着陸するという四次元映像多量に含む）を発売しようとして、娘の所属事務所から訴えられたりしたあの国民的お父さんのことだ。彼の存在が俺の罵詈通道人としての資質を呼び覚ましてしまった。「倉木パパとヤリたい！」もちろんハメッコ的意味合いではなく、この日本一トチ狂ったオヤジと戦って死ねるなら本望だと思ってしまったからには誰も俺を止められない。ブレーキの壊れた一輪車と化した俺は、某罵詈通道マガジン『BUBKA』に山前氏との対戦企画を持ち込んでみたんだが、そしたらなんかアッサリ通ってしまった。

一流の罵詈通道人は皆挙動不審で目が半開き、呼びかけると全て「んあ？」及び「えあ？」という生返事が返ってくるものなんだが、決戦のリングに現れた山前氏は違っていた。殺気立った表情で唐突にマスコミ批判をはじめたのである。「私が麻衣の事務所から10億円ユスろうとしたということは断じて無いんですよ!!　私はただ麻衣ちゃんに会いたい一心であのビデオを出そうとしたんだ。「あぁ、パパはこんなに私のことを思ってくれている」とわかってほしいだけだった……。親が娘に会いたいのが何故悪いんですか!!」だから俺はマスコミじゃないって。俺にそんなこと言われても困るって、とは思ったが、罵詈通道のファーストアタックとしてこのベクトルの間違えっぷりは有効だ。のっけからひるんだ俺に対して親父は更に続けた。「まぁね、私も本職は映画のプロデューサーだ。『娘にタカって喰ってるゴロつきだ』とかいった間違った世間の評価を仕事で払拭しますよ！　今年はもうマイちゃんマイちゃん言ってられないからね……。ガンガン行きますよ!!」ちなみに山前氏の監督したVシネマの代表作は「セーラー服刑事シリーズ」だそうだ。なんか斉藤由貴がヨーヨー持ってるあの映像が思い浮かぶが……。そしてその発言から30秒後、親父は本年の抱負を語り出した。「で、これから撮る映画のタイトルなんだけどね、『歌姫・倉木麻衣物語』っていうんだよ!!　麻衣ちゃんの半生をドラマ化して、その主役の女の子を第2の倉木麻衣として私がプロデュース!!　主題歌も歌わせる！　どう、コレ？」さっき、今年はもう「マイちゃん」×2言ってられないよ！　とブチ上げたのと同じ口から出たとは思えないスゴイ抱負。パンチ一発もらってないのに俺の脳はグラグラだ。さすが「最強罵詈通道人」の冠はダテではない。戦いはもう始まっているのだ。

親父をトラックスーツに着替えさせ、俺自身も黒パン一丁＋シューティンググローブを装着し、一応そこからゴング鳴らしてニセタイタンファイトも敢行。（その辺の試合経過はBUBKA3月号参照）最後は俺のフロントチョークがキマる形で親父がオチたんだが、V・Tはこれで決着でも、どっちかが口をポカーンと開けるまで続くのが罵詈通道。親父のV・T前とは打って変わった笑顔から試合再開だ。「イヤ～、久々にいい汗かいた～。ところで君、ミュージックやってるって聞いたけど、ソレってロックンロールみたいなモノなの？」いえ、歌謡曲……っていうかなんかチャラいテクノポップみたいなモンですかね、と俺が答えた途端、倉木パパの顔つきが急に真顔になった。「じゃあ君！　作曲はデキるの!?」なにやら非常にイヤな予感がしたが素直にそうですね、と答えると、親父は希望に満ちた表情でこう続けた。「キミ……〝パクリ〟ってものに抵抗はない？」え？　「倉木麻衣……でもない、宇多田ヒカル……でもない、でも、な～んか、こう、どっかで聴いたことのあるような～っていう曲。……それをキミに作曲して欲しい!!」ええ!?　ロマンポルシェ。のCDを聴いたこともなく、どんなバンドか全く知らないにもかかわらず、いきなり映画サントラのオファー……。本物の男と男、見つめ合うだけで全てわかりあえると常日頃から提唱している俺だが、倉木パパの俺の活動形態を思いきり無視した無謀な仕事の振りっぷりに、ついに口をアングリと開けてしまった。……俺の負けだ。罵詈通道無敗の男・掟ポルシェは無残にも一敗地にまみれ、新世紀覇王・山前五十洋誕生の瞬間を見たのだった。「君との出逢い……ボクは大事にしたい。第2の倉木サウンドを僕と一緒に作っていきましょう。じゃあ、今日はこのヘンで。あ！　曲出来たらココに連絡してね！　待ってマース!!」ニコヤカに差し出された山前氏の名刺には、本人の顔と、更にその倍以上デカイ倉木麻衣の顔がドーンとプリントされていた……。

山前五十洋――罵詈通道最強の男。現在、倉木麻衣を生んだ元妻に対し、離婚を無効とする裁判を提訴中。その理由は「娘が倉木麻衣としてデビューしてんのを知らなかったから」だそうである。

『BUBKA』3月号で実現した
掟ポルシェVS倉木麻衣パパの
激烈“罵詈通道”外伝!!

撮影／梅原渉

倉木パパの完勝でサントラ参加も実現なのか!?　どーなる!?

おきて・ぽるしぇ■3月17日宇都宮PLANETでロマンポルシェ。ライブ有り。問い合わせ：PLANET　028・649・5999

プロレスが好きな人、この指止まれ!!

構成／イナズマ★K

PROFILE

400戦無敗のハードコア・バンド
No.12 セパルトゥラ
（左からイゴール、パウロ、デリック、アンドレアス）

86年結成のブラジリアン・ラウド・ロック・バンド。先代ヴォーカリスト、マックス（現ソウルフライ）が脱退後、元ハードコアバンド上がりのデリックが加入して現在もバリバリ活動中。あの素晴らしくカッコいいドン・フライのテーマは彼らの『ルーツ』というアルバムに収録されてるぞ。グレイシーファミリー出演のビデオクリップは『アティテュード』というナンバーだ。あと、ベースのパウロは、日本のバンド、ココバットの同じくベーシスト、TAKE-SHITクンとメル友だという。ブラジルと日本の格闘ビデオの交換をしているそうだ。まさしく格闘技と音楽に国境は無い事を証明している。次回の来日の際は、ぜひとも柔術をやってる二人に直撃したいものだ。さて、デリック参加後、2枚目に当たる新作『Nation』がこの程完成。バッキバキにコアなサウンドが極まってる！　プロ格野郎ならばこれ聴かなきゃイカンでしょ!!

ブラジルのラウド・ロック・バンド、とくれば『紙プロ』読者ならピンとくるはず。ドン・フライの、あの強力にカッコいい入場テーマ『ケイオスB.C.』で知られるセパラトゥラだ。メンバーが格闘技好きで、しかもグレイシー柔術をやってるという話はかなり有名。ビデオ・クリップにはオクタゴンをバックにホイスやエリオも出演してるし、これはもうホンモノ。そんなわけで、新作のプロモーションの為メンバーが日本に来ているという情報をゲットし、さっそく直撃取材敢行だ。今回来日したメンバーのデリックは、セパラトゥラ二代目ヴォーカリスト。彼だけはアメリカ人なんだけど、公称2メートルの大巨人。しかもドレッドのブラックでゴツイときてる。もう、見た目だけでオッケーって感じだ。

「オレはハイスクール時代に2年半レスリングを本気でやってたよ。グレコローマンさ。でもあまりにストイックにやり過ぎて、燃え尽きちゃったよ。若かったから音楽やアートにも興味あったし、このままやり続けてどうなるんだ？　将来なんの為になるんだ？　いつか大けがするぜって。そのくらい体作ってたからなあ」

ウーン、こんなデカい男がずーっとレスリングを続けていたら、ムチャクチャ凄いことになっていたかも。黒いマーク・ケアー、カート・アングル……おぉ、なんて恐ろしいんだ。

「格闘技？　もちろん好きさ。最初の頃のUFCなんか良く見てたよ。ホイスすげーって」

そのホイスが出演してるセパラトゥラのビデオは彼がまだ加入する以前の曲だった。

「凄いクールだって思ってた。曲名が『アティテュード』でさ。あのビデオを見て人を殴ってやろうってヤツはいないと思う。そこには心とかアティチュードが感じられる。グレイシー一族のスピリットは素晴らしい。そう、オレが入ったこの前のアルバムにも『チョーク』って曲があるよ」

彼もばっちりグレイシー・ファン。ブラジルでグレイシー・アカデミーに通ってるのはベースのパウロとドラムのイゴールだそうだ。

「以前のツアーでは、柔術の先生を同行して二人はトレーニングしてたって（笑）。レコーディングでサンディエゴに行った時も道場に通ってて、そこにホイスがいて、オレもやれよって誘われたけど、僕がいったら君を負かしてしまうからって（笑）適当にごまかして行かなかったんだ、ガハハハ！」

そんなデリックは現在、軽いウェイトと早歩きでライヴの持久力を鍛えてるそうだ。身体のデカさと反比例する几帳面さがさらに好感度アップ！　そんな彼のお気に入りスポーツマンは？

「マーシャルアーツだと、やっぱりグレイシーだね。ヒクソン、ホイス、グレイシーは皆好きさ。バスケットだとベンツ・カーターとラトル・スプリーウェル。あとボクシングだとホリフィールドさ」

おや？　ObeyのアンドレTシャツを着てるけどプロレスもいけるのかな？

「オー！　ワハハハ、日本人は皆アンドレ知ってるのか!?　アメリカじゃ誰も知らないよ。今は見て無いけど、アンドレが出てた頃のWWFは好きだったなー。そうだ、NYでミックス作業の時に『バックヤードレスリング』ってビデオを注文したよ。家の上からジャンプしたりしててさあ（笑）。スゲー面白かった」

なんと一部で話題のエクストリーム・ビデオをチェックしてるとは、ナイスです。さて、そんなデリックにとって、アマレスと音楽では重なるとこはあったのだろうか。

「問題は心、アティチュードが共通してる。レスリングで、たとえ負けていても自分を向上させたい気持ちが大事。それは音楽も同じさ。もっと成功したいって思って、よりベストを目指す。自分の限界を常に越えようとする心意気はレスリングで培ったものさ」

まさに武道家そのもの。そう、押忍の精神はデリックの胸にも宿っていたのだった。

NEW ALBUM『NATION』¥2.548（税込）
3月16日、日本先行発売!!　必聴です。

プロレスとエロどっちも裸のおしごとです

文・大坪ケムタ

エロ・サムライ

vol.2　安売王プロレスの真実の巻

「インディーズ」という言葉、コレを聞いて思いつくのは音楽レーベル、プロレス、そしてAV。当コラムは後者ふたつを追っかけてるワケだけども、「インディーズ」が付くとことさらウサンクサイ雰囲気が漂う。どっちもエロ実話誌が好きなネタだしねぇ、根源的な繋がりがあるのかしらん。血みどろも薄消しもエクストリームだし。

「プロレスラーってひとりひとり自意識過剰だし、いっぱい分裂すんじゃん。インディーズなんていう連中まで出てくるわけじゃないですか。それはAVも同じなんだよね、みんな社長になろうと新しい会社旗揚げしちゃう。人のこと言えないけど（笑）」

と語るのはインディーズAVメーカー・ディープスの社長であり監督の元マメゾウ氏（元は元プリンスの元と同じ）。街頭にマジックミラー張りの車を準備し、車内でナンパした素人娘を脱がして行くガチンコナンパAVの傑作『マジックミラー号』の監督といえばご存知の方も多いんじゃないの？

前回ビデオ制作する人にもプロレス仕事に関わったことがある人は多い、と書いたけれどこの元マメゾウ監督もそのひとり。7年前、セルビデオの開祖である『ビデオ安売王』が「テリー伊藤プロデュース」として出した伝説のカルトプロレスビデオ群の監督が元マメゾウ監督なのだ！

「全女のWWFミゼット世界王者のリトルフランキーとCMLLミゼット世界王者のナントカが統一戦やったんですよ。もう一試合はブッダマン&角掛とメキシコの覆面ミゼットの電流爆破、それが最初ですね。その後がIWAジャパンの『一軒家プロレス』、今度引退する府川の『闇討ちプロレス』、その後が大日本プロレス『商店街ヴァーリトゥード』。その後がターザン後藤の『銭湯プロレス』。さらに言うと、ターザン後藤の『きみもプロレスラーになれる』ってビデオも作ったんです、それはあんまり知られてないんですけど」

いずれも専門誌等では無視された闇のプロレスビデオ。今となってはある意味前田vsアンドレ戦なみの価値があるかもしれんですな。

「一番凄かったのが『商店街』のケンドー・ナガサキさん。ホントに狂っちゃって冷蔵庫とかレジスターを本気で投げるんですよ。で、もうみんな危ないからってホントに逃げちゃって、当時の山川選手が鉄のレジスターでボコボコにやられて救急車で運ばれて12針縫っちゃった。レジスターとか冷蔵庫とか、壊していいものは最初に買ってナガサキさんにコレとコレは壊していいですけど他はダメですよ、って言ってるけど関係ないんです（笑）。関係ない自動販売機まで壊しちゃって、社長のグレート小鹿さんが来て『なんてことすんだ！　桜田は止められないんだよ！』だって（笑）。ナガサキさんが素手喧嘩最強といわれてた頃で、駒沢のシューティングの前だから、僕的には『日プロ時代のプロレスラー＝怪物&常人離れ』ってイメージが被さって感心しましたけどね」

じっくりと人間のコアなフェチ的部分を追いかけようとするインディーズAVと作品いうものはライブ感が伝わってくるものが多い。そして、まだまだ闇に眠っているもの凄い企画や秘蔵映像が存在するのだ！　詳しくは次号に続く！

京王線車内でブル様と府川がファイト！　無茶な企画も安売王ならでは。

おおつぼ・けむた■知人より「知ってる某インディレスラーがAVに出たがってるんだけど」てな相談を受ける。こちとら男優斡旋業じゃねぇっつーの、でも10人男優志望レスラー集めて売り込んだら面白いかも。ということで残り9人募集。

ラーメン王・石神秀幸の 闘魂★たべある記 VOL.1『チャーシュー力』

プロレス関係者や熱烈ファンが経営する飲食店は少なくないが、残念ながらキワモノとして扱われがちでグルメ誌への登場頻度は少なく、実体は謎に包まれている。そこでラーメン界のバーリトゥダーと呼ばれる私・石神がその覆面を剥がして正体を暴いてまいります！

埼玉『チャーシュー力』

プロレス関係者やファンが営む飲食店を調査するこの企画、栄えある第一回は「チャーシュー力」。やはりGKが常連だったりするのか？　いやむしろ「神聖なる長州を！」と烈火のごとく怒りそうな気も。新宿からはるばる一時間、これで「長州力？　はて、存じませんが」なんてチャーシューに力を入れてるだけの店だったら目も当てられない。不安を胸に駅を降りると信じられない光景が！　UFOと長州力が並んで看板を掲げている！あまりの衝撃に舐めていた干し梅を飲み込んでしまったが、よく見るとここが目的の店、UFOはごく普通のゲームセンターだった。しかしなんという因縁か。ビビって入るのをためらっていると、心を奮い立たす貼り紙が！「迷わず並べよ食べれば分かるさ」だーっ！猛然と入場。壁には試合のポスターや東スポがビッシリ。本棚には当然プロレス雑誌が。やはりゴングと週プロの割合は9対1、新日に取材拒否されてる紙プロは一冊もなし。しかし、ハードな面ばかりではない。女性は嬉しい髪を束ねる「闘魂ゴム」、戦いで疲れた心を癒してくれる、相田みつをのお言葉（ドラゴンお気に入り）も用意。もちろん消臭力も完備、いくらプロレス系とはいえ飲食店、汗臭いのは禁物だ。

当初、味には期待していなかったが予想外に（失礼）ウマくて驚いた。背脂たっぷりの味噌ラーメンは実にパワフル、力強いコクをみなぎらせている。さすがに店名に冠しているだけあってチャーシューは口の中でトロける逸品。店主は長州というよりも健介似のコワモテ、若手時代の天山とケンカしたという壮絶な経歴の持ち主だ！「花道で誰かに叩かれたのを俺と勘違いしやがって、地下に連れてかれてボコられた。後で飯塚達に謝られたけど、ドラゴンはボケッとしてた」さすがドラゴン、責任感なんてありゃしない。「この店名は夢に出てきたんだ、みんなに反対されたけどな」周囲の正確な判断に頷いていると「闘魂らくがきノート」なるものを発見。「友達の輪、恋人づくり」の副題が付いているが、こんなノートがきっかけの結婚は嫌だ。パラパラめくっていると「ぷろれすやおちょー、ちょーしゅーよえー」という挑発的な殴り書きが！　店長の機嫌を損ねてはいかんと、気付かれないようにそっと戻しておいた。やっぱり店長は長州信者？「一番好きなのは猪木、長州の親分だからな」とのこと。さすが店長、上下関係は厳しい。ポスターの健介に×が書いてたけど？「お客が書いたんだ。健介はダメ、単なる長州の子分」レスラーにダメ出しするラーメン店、恐るべしチャーシュー力。

「今度二軒目を出すんだ。店名はチャーシュー力Z。ドラゴンボールからヒントを得たんだけど、どう？」どうって……。あまり事業広げるとアントンの二の舞だぞ「それはない、俺は慎重派だから」慎重派はこんな店名つけねぇよ！　次々と繰り出される突飛な発言に頭痛を起こしたので「チャーシュー力神社」でお参りして帰ることに。神社って何かって？それは自分の目で確かめるべし！

チャーシュー力DATA■埼玉県川越市南台2-5 TEL．0492-44-1367　西武新宿線の「南台」駅から徒歩1分です。

いしがみ・ひでゆき■『TVチャンピオン』で二連覇を達成した日本一のラーメン通。"神の舌"を駆使しフードライターとして活躍中。ビッグコミックスペリオール、ポパイなど連載多数。

武田いづみの ディスカバー・シンニホン VOL.1 プロレスファンの実家って？の巻

『紙のプロレスRADICAL』もめでたく創刊4周年を迎え、その記念企画と銘打たれた「紙のプロレス大賞」（NO．34参照）。そこで私は大変な事件に巻き込まれました。それは「回答改ざん事件」です。

その瞬間は突然訪れました。誌面に目をやると、自分の名前があるにもかかわらず、そこにある回答は私が書いたものとはあきらかに違うのです。短い文章の中にしつこく踊る「♥」、「〜」。書いた覚えのない女言葉。

「……つぶされる」。

戦慄とはああいうものを言うのでしょう。私がこんなに「♥」を使うとすれば、猥談くらいなもの。知人が見たらきっと「誌上で猥談している」と思われるに違いない……いや、誰が見ても。もう嫁にもいけない。

怒りによって闘魂降臨。「バカヤローッ！」と、ごく穏便に話し合い、スッキリとしたところにコラムの依頼まで頂きました。話し合いってスゴイね！　せっかくなので、最近思うところをぶちまけさせてください。

☆

親をないがしろにすれば「親不孝」、地元の友達をないがしろにすれば「アイツ、変わったよね」というように、発生したところを大切にする、コレが人の道というもの。

ところが最近、どうも人の道に外れた人間が目立ちます。

プロレスファンの「実家」はどこか、「地元」はどこか。新日本でしょうが。

と、全日派を無視するように始めてしまいましたが、こと批判に関して全日本を凌駕しているのが新日本であることは、もはや疑いのないところ。ダメと言われて幾年月、私そろそろ飽きてきました。

新日っ子である私にとって、新日こそが「プロレス」。今ならば「純プロレス」と言いかえるべきでしょうか。進化していくもののために、純プロレスが排除されていくとしたら…そう考えた時の寂しさを、『プロレス　スーパースター列伝』を握り締め、耐える毎日です。

宿無しの宿、親無しの親であったはずのプロレス。純プロレスは、本当にもうダメなのでしょうか。

現在進行形のダメ、もがけばもがくほどダメ、そもそもダメって気づいてるのか、売れてんのか、それ（言い過ぎ）。そんな非難轟々のシンニホンの、見落とされたちょっといいものをディスカバーするのが、「ディスカバー・シンニホン」の目指すところであります。

しかし、現時点では私自身、「無理っぽい」という不安が8割の散々な志の低さなので、自問自答の場になることは、まず間違いないでしょう。ともかく、「賛美」でなく「ディスカバー」ですので、どうしようもないものをディスカバーしてしまう可能性もあります。

が、すべては郷土愛です。

たけだ・いづみ■片足無職。ギリギリ学生。名前が平仮名なのはフリーになったからではなく、生まれたときから。最近見た"いいもの"は、「筋肉番付」でヒクソンにことごとく勝つ清原。海よりも山よりも、銀座ですか。やっぱ。

スペースローン・ワイフ 真下純子の ひりきな奥さん VOL.1 家事vsPPVの巻

嵐、大好き!!（横浜銀蝿）。

どうしてこんなことになってしまったのかさっぱりわかりませんが、また作文を書かせていただくことになりました。戸惑うわたくし（31歳本厄）に坂井ノブ記者（24歳本厄）が授けて下さったキャッチフレーズは「スペースローン・ワイフ」。いきなり呼び出しておいて孤独呼ばわりです。なんなの最近の若い人は。

今の武藤選手ならあのヘルメット似合うだろうなあと思いつつ、三十路主婦の所帯くささ・さらに倍の作文をお届けしたいと思います。

なかなか観戦に出掛けられないわたくしですが『PRIDE』に関してはスカパー！のPPVのお陰でその日その時に観戦することができます。もちろん会場に出掛けて観戦したいのは山々なんですが家庭を預かる身としてはなかなか難しいことです。

そこで家庭内観戦とあいなるわけですが実はこれもなかなか難しいのです。家事があるからです。第一試合から選手の乳毛の一本も見逃すまいとテレビにかじりついて見ていたくとも、この時間は普段細々と家事をやっている時間帯なのです。

まあ最近は、『PRIDE』も回を重ね、PPV観戦にもようやくコツを見出すことが出来かけてきました。

試合前、どことなく乳製品的なたたずまいの解説の方とアナウンサーの方が石より役に立たないお話をされているのを聞きながらお米を研いでタイマーをセット、おかずの下ごしらえ及び制作を小走りにいたします。こういう時は調理時間が短くすむ炒め物か、煮っぱなし物（カレー等）になります。

そうこうしていると試合が始まります。居間と台所を激しく行き来しつつ選手の入場や試合を細切れに見ながら調理＆盛りつけ＆配膳、そしてテレビを前に夕ご飯をいただきます。テレビの前に座ってしまえばあとはこっちのものです。ラウンドごとのインターバルや休憩を利用して風呂釜を洗ったり、食器の片付けをしたりと小刻みに活動しながら選手の皆様の闘いを慌ただしいながらも自分なりに集中して観戦です。

ときおり、ピタリ密着・寝たきり・あらまこの人達動かないよ的な静かな試合もございます。こういうときは乾いた洗濯物を「葬式やってんじゃねえんだよ！　くそしんきくせえ」とつぶやきながら黙々とたたみます。会場での退屈のしのぎ方を心得ていない（つーか寝技の攻防の醍醐味を心得てない）わたくしですので、こういうときとてもラクです。家事があって良かった！　ビバおさんどん!!

ました・じゅんこ■今年も素晴らしい闘いをこの茶の間でたくさん見たいと思います。血がしぶき、骨がきしむ男と男の闘いを。娘への情操教育的配慮一切なしに……やっぱり外行って見てきたほうがいいような気がすごくしてきました。

ザ・検証

プロレス点と線

今回は特別編成のため全体的に減ページ。『ザ・検証』もいつもより凝縮してお届けします！ 次号からは何とか元に戻したいと思いますです。あと、前号で募集した斉藤彰俊選手の死神Tシャツ・デザイン案は引き続き募集中！ なんと採用者には、入場時に彰俊選手が着用しているのと同じ死神魂の詰まったネックレス（指で鎌を象ったもの）を差し上げます！ ありがとう、彰俊選手！ プロorアマ、自薦or他薦は問いません。ガンガン応募してください！　宛先はP151を参照。　（編集部）

ザ・検証

【今月の検証】

「素顔のマスカラス」

by 椎名基樹

「願いま〜す！」ってことで、花輪和一先生の「刑務所の中」を読んで以来、ムショ語が抜けない椎名であります。

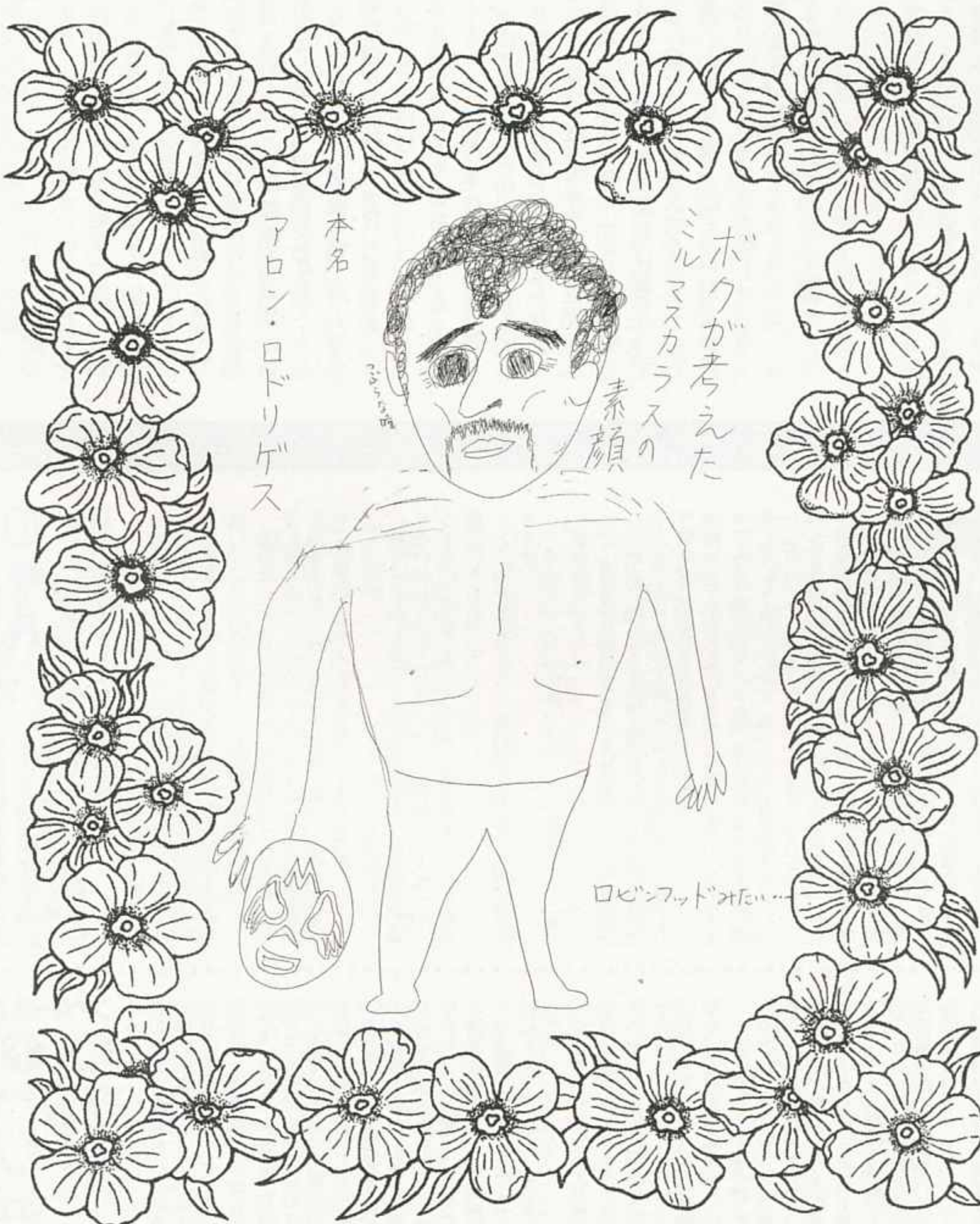
しかし、あの本を読む限り、花輪先生他日本の受刑者は「食べ物」のことばかり、もんもんと、それこそただもんもんと考えているにもかかわらず、我らがビッグダディー・マサ斉藤はムショ生活を綴った著書の中で、ただただ「女が欲しい〜、女が抱きたい〜、ガ〜ッデム！」と嘆いているのを読むと、日本とアメリカのムショ環境の違いを痛感させられる。マサに至っては出所後「ムショで考えたから監獄固め」なる不謹慎にもほどがあるが、納得せざるをえない技まで披露するのだから、転んでもただじゃ起きない根性には脱帽だ。でも、花輪先生もその体験を漫画にしたのだから同じか（最初から作品にしようと入獄したフシもあり）。とにかく、花輪先生の「刑務所の中」は、ここ2年くらいでは、間違いなく仏恥義理におもしろい、衝撃の本であった。

衝撃といえば、見てしまった。俺は見てしまった。見なけりゃよかった。知らなきゃよかった、女性器の本当の形、否、マスカラスの素顔。友人からマスカラス・ブラザースが素顔で出演している映画のビデオを入手したとの連絡があり、「きっとショックを受けるに違いない、昔の恋人に会うように、就職して太ってしまったイソップを見るように、悪い方でショックを受けるに違いない」とわかっていながら、見てしまった。夢は夢のままがいいに決まってる。バカバカバカバカ、俺のバカ！　そして、マスカラスの素顔の衝撃は、（死んだハズなのに）太ってしまったイソップの100倍、猪木vsホーガン戦のアックスボンバーの500倍、初めて見たドラゴン・ラナの1000倍、高見山の2倍2倍の衝撃だった（くどい？）。

プロレススーパースター列伝には「素顔は俳優アル・パシーノにそっくり」などと書いてあったし、俺が持っていた少年用のプロレス百科にはアラン・ドロンに似ているなど書いてあった。しかし、俺が見たマスカラスの素顔は、どっから見ても、ド●タの親分。『仮面貴族』というより『漫画ゴラク』といった感じの〝華麗なるドン〟であった。何より、髪型が角刈りなのだ。しかも、真っ黒。さらに、硬そうで放射線状に伸びる黒崎健時タイプ。おまけに真っ黒の口ひげ。あのブッチャー戦で見えた、柔らかな栗色の髪の毛はどこにいったのだ。ブッチャーにマスクを剥がされそうになったとき子供ながらに感じたエロティシズムをどうしてくれる。そして、なにより少年時代「GO GO ミル」と、ちょっと首をかしげたくなる横断幕を作って応援したという、マスカラス少年応援団長だった、山口編集長の気持ちを考えたことがあるのか？　ええ？ミルよ！

年をとったせいもあるだろうが、目もなんだか小っちゃく、見る影もないマスカラス。しかし、それでも、確かにマスカラスだと確認できるたのは、あの背筋を伸ばした、威厳に満ちた、独特の姿勢だ。

俺が中学生のとき大事にしていた『ルチャリブレ』という本に、マスカラスのメッセージとしてこう書いてあった。「プライドを持て。そうすれば美しく生きることができる」。だったら、金のために素顔晒して、映画なんか出るな！　そして、ツラにあったプライドを持つこと！　本当にも〜！　プロレスにまた一つ大人にされました！

脱稿。

担当編集・坂井ノブの
線路歩いて絵を描いて……vol.5

ザ・検証

【今月の検証】『ヒクソンの次の相手は誰だ!?』

by せき詩郎

対橋本戦以来、長州の評価がガタ落ちのようである。ファンは口をそろえて反長州を唱えている。やっと維震意識(反長州→打倒長州→本隊をぶっ潰す)がファンの間にも浸透したということだろう。いや、本当は違うだろう。違うとはわかっている。わかっているけど……(涙声)。

ところで長州といえば、ヒクソンの次期対戦相手に名前が挙がっていた。いくらかホームレスにお金を渡して入手した情報によると、どうやら次の相手は小川に決まったらしいとのこと。小川対ヒクソン。見たくないわけではないが、今の流れを考えるとヒクソンは長州と戦った方がメリット大であろう。日本ではどちらかというとヒール的扱いを受けるヒクソンだが、長州と闘うとなると、いまならファンの声援を一人占めできることは間違いない。ヒクソンが侍に憧れるのなら、自らを侍と呼ぶのなら、サムライ・ヒクソンならば、あのスキンヘッドが〝決起〟の意味を込めたものならば、一族でお揃いの道着で試合をするというならば、そういった維震魂があるのならば、ヒクソンは長州と闘うべきである。本隊をぶっ潰すべきなのである。ヒクソンの狙いは長州の長髪だけだ！

ヒクソン「あれをバッサリ切ってやれば、二度と俺達一族と闘うなんて考えないだろう。

果たして、誰になるのか？　現時点では小川→桜庭→長州というランキングで高田は圏外だが……一発逆転はあるのか？

長州の長い髪はヤツにとっての歴史そのものだ。一時、アキレス健を痛めて休んでただろう。あの時に短くしたんだったよね。復帰した頃は短いままでさ、何だか変な感じがあった。オレはあのくらいじゃ済まさない。丸坊主だよ、丸坊主。恥ずかしくてリングに上がれないようにしてやる！」

いまこそ一族の団結力をみせてくれ、ヒクソン！

がしかし、水を差すようだが、ここで私は「ちょっと待った」と言いたい。ここまで自分勝手に話しを進めておきながら「待った」をかけたい。遊ぶ約束を自分からしておきながら、ただ眠いという理由だけで、もしくは見たいテレビがあるからという理由でドタキャンをする気分で、私は「待った」と言いたい。ヒクソンの相手といえば、大事な男を忘れてはいないだろうか？　それは桜庭でも小川でもない。そう、高田だ。

ヒクソンといえば高田ではないか。オールド『PRIDE』ファン(昭和じゃないけど昭和『PRIDE』ファン)にとって、ヒクソンの相手は高田以外いない。すでに2回もやったではないかと反論する人もいると思うが、それは違う〝2回も〟ではなく〝2回しか〟やっていないのだ。3回、4回と回を重ねるに連れて、反対派の人も「またやるのか！」という怒りが「まだやるの……」という一種の諦めへと変化し、最後には「プッ、まだやってるよ！」と面白くなってしまうはずである。毎年10月頃に行われる恒例行事。ヒクソン対高田は平成の名勝負数え唄。そしてそれを超え、一種の祭りへと変化し、伝統へと化ける可能性を秘めている。

とにかく相手は高田だ。過去2戦して2敗の高田ではあるが、3戦目は違う。一筋縄ではいかないはずだ。なぜならあの頃の高田と今の高田は違うからだ。まったくの別人といってもいいかもしれない。最近の高田からはお馴染み「もう一丁」に代表されるように良い意味での開き直りが感じられる。過去のヒクソン戦時にみられた気負いも使命感も悲壮感もない。今の高田は自由なのだ。周囲がなんて言おうが、ファンがどんなに騒ごうが知ったことではない、「俺は誰にも縛られねえ」、そんな自由状態に高田はある。やりたいようにやる高田、もはや誰の指図も受けないし、誰の命令も聞かない。高田は食いたい時に食い、飲みたい時に飲む！　そう、それはまるで空に浮かぶ雲のごとく自由に……。

高田の「もう一丁」、あれは雲ゆえの気まぐれだったのである。

●

——そして実現したヒクソン対高田の第3戦目。はたして高田に勝機はあるのか？

桜庭のアマレス、小川の柔道のようにバックボーンが存在しない高田の格闘技、それは我流。いまさらどんなテクニックを学ぼうと、それは付け焼刃にすぎない。ならば我流のまま闘おう、高田は思っていた。我流は無型。無型ゆえに誰にも読めぬ！　ゴングが鳴る。高田はノーガードで「さあ、打って来い」とヒクソンを挑発する。

格下と高田を完全に見下していたヒクソンがこの挑発に冷静でいられるわけがない。

「む〜〜ん!!　よかろう!!　では地獄へ行くが良い。おおお!!　りゃっ!!」

ヒクソンの強烈なストレートが放たれる！

真後ろに吹っ飛ぶ高田。またしても高田は負けるのか、しかもパンチ一発で秒殺!?　会場全体がそう思った。しかし高田は後ろに倒れながらも、ストレートを打つために伸ばしきったヒクソンの腕に両足をからめたのである！

予想だにしなかった高田の動きが、ヒクソンの表情を戸惑いに変えた。

「冥土の土産に腕一本貰っていくぞ！」

高田はそう叫び、そのまま腕ひしぎ逆十字へと移行した。腕ひしぎ逆十字。過去2戦とも高田はこれで負けていた。しかしその技を、今度は逆に極めたのだ。掟破りの腕ひしぎ。故意の演出なのか偶然なのかはわからなかったが、その腕ひしぎ逆十字が会場のボルテージを一気に頂点へと引き上げた。

「うぬは己の命を腕一本と引き換えにする気か！」

「ぬわりゃ！　あ、あとひとひねりでヒクソン、貴様の腕は砕け折れる！」

ヒクソンの腕が折れる！　誰もがそう思った。桜庭戦のホイラーのようにヒクソンもまたグレイシーのプライドのみで耐えるのか？　しかしあの時の桜庭と決定的に違う点があった。高田は折る気なのだ。高田のただならぬ殺気を感じたレフリーが近寄り、試合を止めようとした。が、ヒクソンはニヤリと不敵な笑いを浮かべ、レフリーを制止した。

「高田、うぬはこのヒクソンの力を見誤ったわ！」

……。次の瞬間、会場が静まり返った。

なんとヒクソンは腕ひしぎを極められたまま、高田をその腕で持ち上げ、立ち上がったのだ！　恐るべしヒクソン。猪木にキーロックをかけられたまま持ち上げたアンドレ並のパワーを、アンドレとは似ても似つかない風貌の中に秘めていたのだ。これには観客もレフリーもただただ唖然とするしかなかった。中でも一番驚いたのは持ち上げられた高田本人であろう。高田の表情が一瞬にして固まった。

「ハハハ〜！　ヒクソンの肉体は砕けぬ！　折れぬ！　朽ちぬ！」

ヒクソンはそう叫んだ後、強引に技を振りほどき、そのまま高田の身体を頭上へと持ち上げた。

もはや手も足も出ない高田。計算外のヒクソンのパワーに高田の思考は完全に停止する。何が一体起こったのか、自分は一体何をすべきなのか、何もわからなかった。そんな状態の高田に向かってヒクソンは勝ち誇ったかのように叫んだ。

「さあ、高田、ギブアップと言え！」

秘策だったの腕ひしぎが破れ散った今、しかもヒクソンに持ち上げられている状態である。高田にはもはやなす術はなかった。

「ギ……」

もういい高田、ギブアップと言ってしまえ！　観客全員がそう思った。ギブアップして楽になってしまえ、高田。ヒクソンの強さは桁外れ過ぎたのだ。負けたところで誰も高田を責めたりはしないだろう。

「そうだ、言ってしまえ高田！」

「……ギ……」

口をぱくつかせる高田。

「ん〜〜？」

高田がギブアップと言うのをハッキリと聞いてやろうと、おどけた表情で耳を近づけるヒクソン。余裕すら漂っている。しかし、高田が次に発した言葉は、自らの負けを認めるものでも、試合を終わらせるものでもなかった。

「ヒ…ヒクソンの……ク・ソ・バ・カ・ヤ・ロ・ウ…」

「!!」

ヒクソンの表情が怒りへと変わった。

「お…おのれ〜え高田！」

持ち上げていた高田を力任せにマットへと叩きつけた。

「死ねえ!!」

とどめを刺そうとするヒクソン。今度こそ負ける。ヒクソンのパンチ連打に高田はKOされてしまう。振り上げられるヒクソンの腕。レフリーさえも目を覆った。が、ここで高田が叫んだ！

「俺は雲！　俺は俺の意志で動く！　ざまあみたかヒクソン！　俺は最期の最期まで雲の高田！」

そして高田はタップした。

自ら試合を終わらせた。

高田の敗戦だ……。

しかし、その負け方はまさに雲であった。ヒクソンに強制されてのタップではない。ヒクソンの攻撃を受けてのタップでもない。自ら進んでのタップ。自分の意思によるタップ。これぞ雲の生き方。

……振り下ろされることなく、止められていた腕を静かに降ろし、ヒクソンはこう呟いた。

「敵ながら見事であった、高田……」

以上、投げっぱなしでまとめずに終了！といきたいところだけど、それだとあれなんで、最期に維震軍なぞなぞを出題するぞ！

Q・世界で一番強い軍団はな〜んだ？
答えは欄外に！

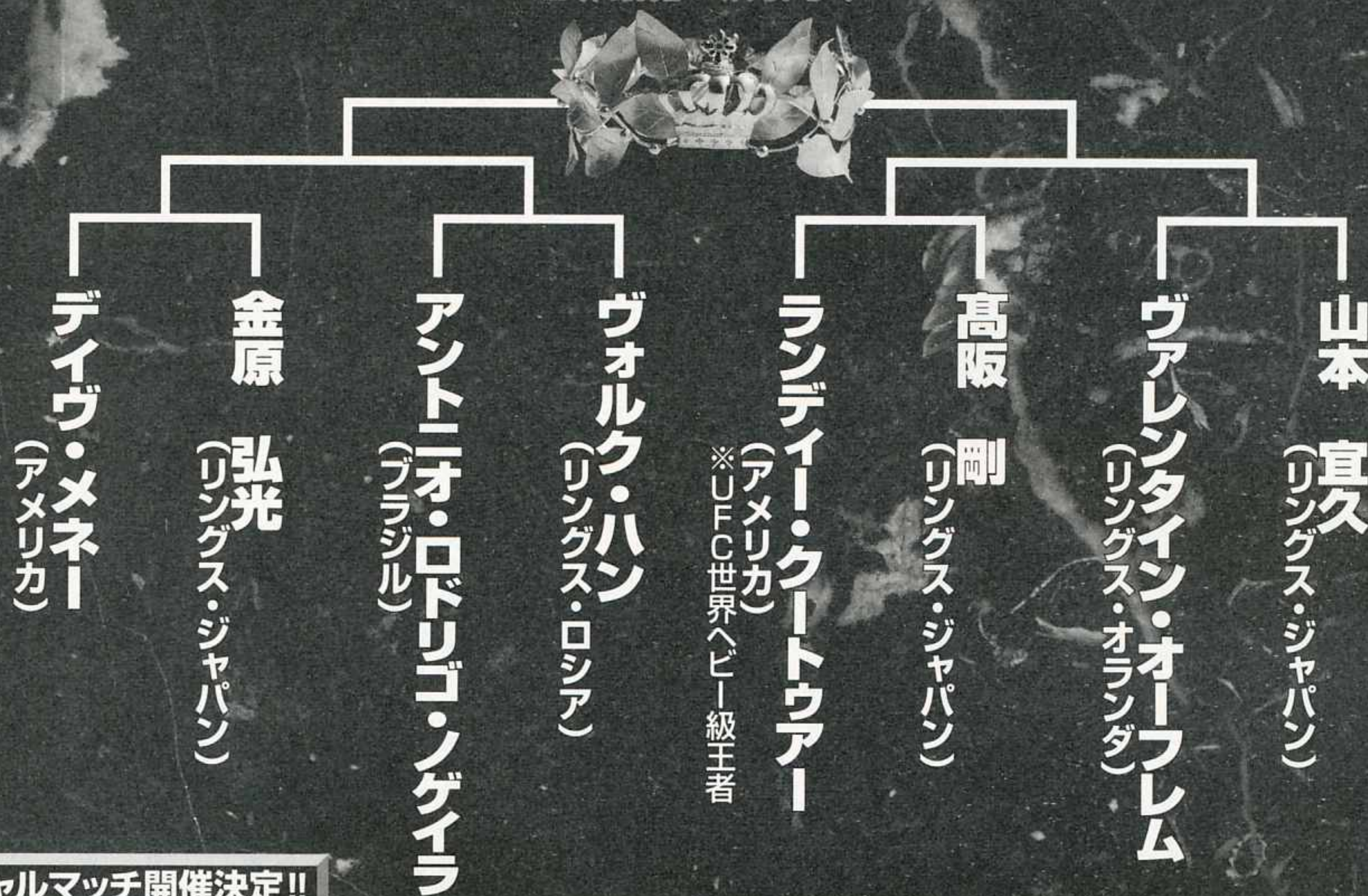
❍答・平成維震軍

FIGHTING NETWORK RINGS

WORLD MEGA-BATTLE OPEN TOURNAMENT 2000

KING of KINGS Grand Final

賞金20万ドルを懸けて
21世紀最初の
世界最強が決まる！

- 山本　宜久（リングス・ジャパン）
- ヴァレンタイン・オーフレム（リングス・オランダ）
- 髙阪　剛（リングス・ジャパン）
- ランディー・クートゥアー（アメリカ）※UFC世界ヘビー級王者
- ヴォルク・ハン（リングス・ロシア）
- アントニオ・ロドリゴ・ノゲイラ（ブラジル）
- 金原　弘光（リングス・ジャパン）
- デイヴ・メネー（アメリカ）

スペシャルマッチ開催決定!!

田村　潔司（リングス・ジャパン） vs レナート・ババル（リングス・ブラジル）／坂田　亘（リングス・ジャパン） vs 柳澤　龍志（チーム・ドラゴン）／アリスター・オーフレイム（リングス・オランダ） vs ウラジミール・チャントゥーリア（リングス・グルシア）

2001.2.24（土）両国国技館 OPEN 14:00 START 15:00

入場料金 ロイヤルリングサイド：¥20,000　アリーナリングサイド：¥15,000　リングサイド：¥10,000　SS（1F桝席）：¥7,000　スタンドS：¥7,000　スタンドA：¥5,000　スタンドB：¥3,000　学生特別優待席A：¥2,000　学生特別優待席B：¥1,000　※学生特別優待席はチケットぴあのみでの販売となります。なお、高校生以下に限らせていただき、ご購入の際、学生証の提示が必要となります

●主催：WOWOW　FIGHTING NETWORK RINGS／後援：日刊スポーツ新聞社　東京スポーツ新聞社／協力：日ロスポーツ交流協会　日本コマンドサンボ連盟

●お問い合わせ：オデッセー TEL:03-3796-9999　WOWOW情報ダイヤル（24時間テープ案内）TEL:045-683-8009

BATTLE GENESIS Vol. VII

成瀬　昌由〈リングス・ジャパン〉 vs リカルド・フィエート〈リングス・オランダ〉

平　直行〈ストライプル〉 vs 港　太郎

滑川　康仁〈リングス・ジャパン〉 vs 園田　隆〈A3ジム〉

上山　龍紀〈FIGHTING NETWORK RINGS U-FILE CAMP〉 vs 江　宗勲〈和術慧舟會東京本部〉

★村浜　武洋〈大阪プロレス〉 出場決定!!

2001.3.20（火・祝） OPEN 16:00 START 17:00 ディファ有明

入場料金 RRS席（1～3列目）：¥10,000　RS席：¥8,000　S：¥6,000　A：¥4,000　学生特別優待席：¥2,000

●お問い合わせ：（株）リングス TEL:03-3461-0257

KOK GRAND FINAL
5秒前!
興奮度立ちバック!!
リングス大展望スペシャル
見ないと
タイホ
しちゃ〜うゾ♡
COMBAT CLUB
WOLF

KOKとは世界規模の〝気骨〟と〝土性っ骨(どしょっぽね)〟が立ち昇る場である

文・山口日昇

『北野組 世界、照準』――。というのは、『BROTHER』のCMキャッチコピーである。ボクはまだ見てないのだが、たけし映画では『3×4X――』が一番好きです。

んなこたぁどうでもいいんだけども（高木三四郎じゃなくコージー富田の口調）、ド目前の2・24は、優勝賞金20万ドルを賭けた、リングスKOK2000決勝の日だ。

こっちは、『前田ワールド 世界、照準』である。

いや、『前田ワールド 世界、標準』というべきだろうか。

とにかく前田日明総帥が提唱したルールが、ホントに〝世界標準〟になるのも近いんじゃないかと思わせるくらい、このKOKは急速に浸透した。

99年10月から施行されたこのルールは、グ

前田ワールド「世界、照準」から「世界、標準」へ――

ラウンドでの顔面パンチは禁止され、膠着ブレイクがあるという点に一番の特色がある。

図らずも酷評を買ってしまった『ＰＲＩＤＥ．12』のように、グラウンド無制限のバーリ・トゥードだと、膠着地獄に陥るケースが、ままある。その点を考慮に入れ、デザインされたのが、ＫＯＫルールというわけだ。

始まった当初は、選手から「ブレイクが早すぎる！」「グラウンドで顔面パンチがないのはおかしい！」などと食いつかれ、ファンからは「あれは初期修斗ルールのパクリ！」「やっぱりバーリ・トゥードのほうが決闘ムードもあって、〝最強〟を決めるには相応しい！」「あまりにもスポーツライクすぎて、格闘技に求めてる〝凄み〟が見えない！」などと文句も言われたが、前田は「ディス・イズ・ジャパニーズ・スタイル！」と固い机をバーンッとヘコませながら、真正面から、このルールを普及させることに心血を注いだ。

「ルールを整備すると技術が見えやすくなる。技術が見えやすくなると、キャラクターが見えやすくなるんや」と前田日明は言っていたが、要は、〝制限するからこそ見えてくるもの〟に賭けたということである。

しかも、いま日本の格闘技界で〝上位概念〟として認識されているものに対して、ＫＯＫは「それだけがすべてではない」ということを証明してきたのだから恐れ入る。

ＫＯＫは、いまや世界の総合格闘技界の国際貨幣となった〝なんでもあり〟ではない。しかし、いまではハイレベルな攻防が繰り広げられるようになり、選手個々の能力という意味でのパフォーマンス、キャラクターも十分リング上から立ち昇るようになった。

〝なんでもあり〟では本家であり、圧倒的な強さを発揮する〝ブラジル勢〟に対しても、ジャパン勢やロシア勢が自らの経験をベースにして、一泡吹かすことに成功している。

その〝ブラジル勢〟が世界に流行させ、闘いを絶対的有利に運ぶ〝マウント・ポジション〟に対しても、いままで見たこともないような切り返しが見れるシーンもある。

そして、格闘技興行のステータスの証となった〝ドーム〟で、ＫＯＫは大会を開いたこともない。

つまり、ルール・流派・技術・興行の各分野で、日本マット界のブランドとなっている〝なんでもあり〟〝ブラジル勢〟〝マウント〟〝ドーム〟を、リングスは上位概念としていないのである。

そこにボクは、前田日明の情念を感じる。

「俺がやりたいのは、打ち上げ花火じゃなくて、残っていくもの。〝骨〟と〝血〟を残したいんだよ、〝骨〟と〝血〟を」――。一昨年の春頃だったか、前田日明はリングスの方向性について、そう語っていた。

その前田日明が辿ってきた道程、試行錯誤、考え方をリングスの〝血〟とするなら、リングス初期から活躍し、いまなお現役で、今度の決勝にまで進出したヴォルク・ハンという存在は、リングスにとっての〝骨〟に当たる。

ついでに骨繋がりで言うわけではないが、ハンの闘いの哲学には「気骨」があるのだ。

ハンは、共産圏「ソ連」の軍隊で、もっとも過酷なパラシュート部隊の出身者らしく「俺はマエダの兵隊だ！　将軍がやれというなら、やる！」と豪語し、40歳という年齢でガチンコな新ルールに挑んだ。自分が寝技を得意とするにも関わらず、キックボクシング出身の選手に殴られれば、ムキになって殴り返していった。

もちろんハンは〝プロレスラー〟ではないが、旧リングスルールでは、芸術的な技を披露することによって自らの経験を表現してきた選手だ。

しかし、この世界規模のガチンコ・ルールでは、ムキになって勝ちに行く。ある意味、これは〝プロレスラー〟に対して、ファンが求めていたものの最たる姿勢ではないだろうか。つまり、現在の〝プロレスラー〟、あるいは日本人そのものが忘れてしまった気骨が、ハンの闘いぶりからは見事に立ち昇るのだ。

このハンに限らず、ＫＯＫに出陣するロシア勢には、闘いに対する〝プライド〟と〝馬鹿さ加減〟がある。

サンボ現役世界王者という立派すぎる肩書きを持つ癖に、不得意な打撃で「相手の庭」に入っていくバラチンスキー。自らの経験をベースに猛者・アローナの猛攻を切り返したヒョードル。酔いどれ殺法を駆使して倒れないコピィロフ――。彼らの中には、現在の〝プロレスラー〟が忘れてしまった気骨、そして「俺は殴られたら殴り返す！　極めに来たら極めに行く！　なにがあっても絶対に負けない！」という〝土性っ骨（どしょっぽね＝意味は各自調査！）〟が見えるのである。

前田総帥は「ディス・イズ・ジャパニーズ・スタイル」と机をドカンと叩きながらも、〝骨〟と〝血〟をリング上で表現してくれるのは、もはや日本人じゃなくてもいい、という考え方に行きつつある。日本人じゃなくても、気骨が見える選手がもっとたくさん出てきてくれればいいと思っている節があるのだ。

ここらへんに、「後継者は日本人じゃなくてもいいんです」と言い切るアントン総帥の、世界を照準に入れ放題の〝猪木イズム〟の一端を垣間見るのはボクだけだろうか。さすがは、「俺は猪木さんの一番真面目な弟子」と公言する前田日明である。

しかし、そうは言いながらも今回の決勝には、ＴＫ、ヤマヨシ、金原と、ジャパン勢が3人も決勝に残った。エース・田村が2回戦で敗退してしまったものの、これは前田総帥にとって実に嬉しい誤算だろう。このジャパン勢の活躍いかんによって、21世紀のリングスの〝血〟は、バツグンに活性化されるかもしれない。

いずれにしても、2・24は、リングスの〝骨〟と〝血〟を残したＫＯＫが、「世界標準」に向けての大きな試金石となるだろう。でしょ？

KOK GRAND FINAL
ワールドメガバトルオープントーナメント
見どころ大解剖

2月24日は、これを持って両国国技館へ行こう!

2・24両国『KOK GRAND FINAL』は、男なら女房を質に入れてでも見に行かねばならぬと断言できる実に素晴らしいカードが出揃った！しかし、この凄さが広く知れ渡っていないのもまた事実。というわけで知らなきゃ損するKOKの見どころを例によって大紹介だ！

文／堀江ガンツ
text by Gunts Horie

●金原弘光 vs デイヴ・メネー

金原がCEOに「緒戦はとりあえず同じ位の体重ですよね」と念を押したことでまんまと実現したこの一戦。それだけに、「まず金原の勝ちは動かない」と思っているファンも多いだろうが、メネーを侮ってはならない。日本での評価が低すぎるだけで、アメリカではミレティッチや桜井速人を押さえてライト級世界1位に堂々ランクされる実力者なのである。しかも「ミスター判定勝ち」と呼ばれるほど、どんな相手でも手堅く判定勝ちしてしまう曲者。2月8日にクウェートで行われたMMA大会でもC・ニュートン、ペレらが参加する中、見事優勝を飾ったが、それも全試合判定勝ちでの優勝というのだから徹底している。早くも金原のボヤキが聞こえてきそうだが、逆に言えばメネーが一本負けを喫すれば世界的には大きなニュースになるということ。「一本勝ち」が信条の金ちゃんにとっては「世界の金原」になるビッグチャンス到来ともいえるのだ。しかも今回、金原に求められているのはとにかく結果。昨年ヘンゾ・グレイシーを破ってベスト4の成績を残した田村の評価を上回るには決勝進出するより他なく、メネー戦でつまずいてはいられないのだ。また自分が第一試合に出場し田村がセミに登場することも「これじゃ田村さんの前座みたいじゃん」との理由で不満らしい金原。田村より上のメインで闘う為にもやはり決勝進出が必須条件なのだ。

●ヴォルク・ハン vs A・R・ノゲイラ

リングスのドル箱カード、「コマンド・サンボ vs ブラジリアン柔術」の頂上対決。そして「千の関節技を持つ男」ハンと今や〝極め〟の強さは世界一との呼び声も高いノゲイラの「サブミッション・ファイター世界一決定戦」がいよいよ実現する。

ノゲイラの強さについてはP126からの記事で詳しく書いたので、そちらを見ていただきたい。とにかくこの日の主役はハンである。今年10周年を迎えるリングスで、旗揚げの年からメインに出場。地味な格闘家が多かった当時のリングスで、出れば必ず観客を満足させた救世主。その後、今日まで芸術品としか言い様のない技術でファンを魅了。そしてKOKで勝利し「戦場の殺人術・コマンドサンボの達人」という幻想を幻想のまま終わらせなかったハンには本当に恐れ入る。そんなハンが40歳を目前にして、25歳の柔術王者と激突！ 結果に関わらず、今大会が最後の大一番になるであろうハン。リングス最大の功労者の最後の挑戦を見届けよ！

●高阪剛 vs ランディー・クートゥアー

1・2回戦でその強さを見せつけたランディー・クートゥアーが、UFC世界ヘビー級王者のベルトを手土産にグランドファイナルに乗り込んでくる。迎え討つはもちろん、我らが〝世界のTK〟高阪剛！ リングスで育った自らの力を世界で試すべく、米・シアトルに移り住み、主戦場をUFCに変えて早2年半。そのUFCのヘビー級王者とリングスマットで対戦することは、TKにとってまさに「UFCでやってきた2年半が何であったかを確かめる」一戦と言える。

展開としては「でっかいダン・ヘンダーソン」と化して、KOKルールに見事に順応したクートゥアーのペースにTKがいかにハマらないかが鍵。TKの一本負けはまず考え難く、スタンドでの間合いが勝負の分かれ目になるだろう。これまでメジャータイトルの獲得がなく、その実力を正当に評価されているとは言い難い高阪。クートゥアーに勝って、〝霊長類最強のゴリラーマン〟の実力を全世界に見せつけてほしい。

●山本宜久 vs ヴァレンタイン・オーフレイム

新格闘術藤原道場での血便・血尿を出すほどの特訓を経て、見事に意地の『グランドファイナル』進出を果たしたヤマヨシ。しかし、その勝利の代償は大きく、パンチを放った際右手親指を骨折。親指を固定するボルトを抜くのが両国の一週間前という重傷を負ってしまった。いくら気持ちで闘うヤマヨシとはいえ、この状態はキツイ。なんといっても相手は優勝候補のババルと現役サンボ王者スレンを破り、乗りに乗るオーフレイムである。そのオーフレイムは、これまではアイブルの陰に隠れていた感があるが、ここに来て評価が急上昇。正確かつ破壊力抜群の打撃と田村、ババルをも極めた足関節は「スーパーヘビー級のルッテン」と呼びたくなるほどだ。この男と真っ向から打ち合うのはあまりに危険だが、それでも立ち向かうのがヤマヨシ。ヤマヨシには、ディック・フライをシバキ倒した一戦の再現に期待したい。

〈スペシャルマッチ3試合〉

●アリスター vs V・チャントゥーリア

スペシャルマッチも見逃せないカードが出揃った。兄ヴァレンタインと共に、このところ評価が急上昇のアリスターが久々の登場。今年1月には『K―1オランダ予選』に出場するなど、闘いのフィールドをさらに広げており、その成長ぶりは実に楽しみだ。対するチャントゥーリアは先のシドニー五輪ボクシングの銅メダリスト。しかも元々はレスラーで現在はサンボと柔道の練習も積んでいるという強豪だ。はたしてチャントゥーリアは〝リングスのボブチャンチン〟となれるか!? それともカンダラッキー（なつかしい）の再来か!?

●坂田亘 vs 柳澤龍志

仮想リングスvsパンクラス日本人対決が遂に実現！ 10・9『KOK・Aブロック』に続くリングス2度目の登場になる柳澤の相手は〝リングスの切り込み隊長〟坂田に決定した。かつて高橋義生の「殺す」発言の際に真っ先に立ち上がった坂田だけに、本人達の意志とは無関係に対決ムードは高まるだろう。問題は身長で15センチ、体重15キロの体格差。『K―1』で角田がなかなか踏み込めなかったように、坂田がいかに距離を詰められるかが、焦点となるだろう。

●田村潔司 vs レナート・ババル

〝渦中の男〟田村潔司が登場！ その相手は階級制を訴える田村の声も空しく、金原が対戦し「重過ぎる」とボヤいたババルに決定した。ババルはオーフレイムに不覚をとったものの、1月に「本戦よりレベルは上」と言われる『アブダビ』のブラジル予選で優勝するなど、絶好調。モチベーションが下がっている田村には危険過ぎる相手だ。しかし、追い込まれた時に見せる「鬼神」ぶり、こそ田村の魅力。あらゆる雑音、逆風を吹き飛ばす闘いぶりを見せて欲しい。試合後の「田村発言」も含めて、ある意味最も注目すべき一戦とも言える。ムキ出しの田村潔司を見よ！

このように見どころあり過ぎの2・24両国。ハッキリ言ってこれを見ない人は馬鹿である（GK調）。

スペシャルマッチ3試合も見逃せない！

田村潔司
（リングス・ジャパン）
99KOKトーナメント
ベスト4

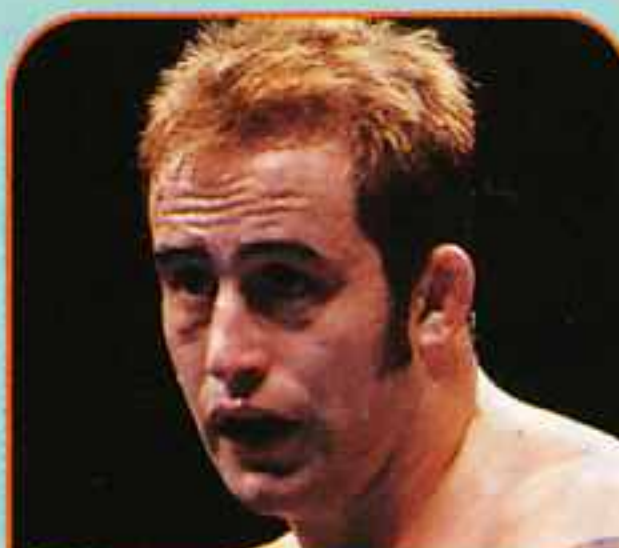
レナート・ババル
（リングス・ブラジル）
99KOKトーナメント
準優勝

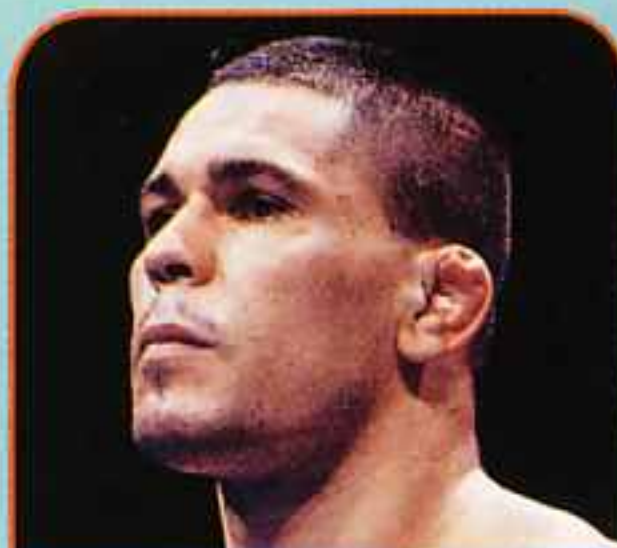
坂田亘
（リングス・ジャパン）
99&2000KOK
トーナメント出場

柳澤龍志
（チーム・ドラゴン）
元パンクラス無差別級
ランキング3位

アリスター・オーフレイム
（リングス・オランダ）
2000K－1
オランダ予選出場

ウラジミール・チャントゥーリア
（リングス・グルジア）
シドニー五輪ボク
シング銅メダリスト

金原弘光
（リングス・ジャパン）
99KOKトーナメント
ベスト16

デイヴ・メネー
（ミネソタ・マーシャルアーツセンター）
ウォリアーズウォー優勝
WEFクルーザー級王者

ヴォルク・ハン
（リングス・ロシア）
94・96メガバトル
トーナメント優勝

アントニオ・R・ノゲイラ
（ブラジリアン・トップチーム）
99KOKトーナメント
ベスト4

KING OF KINGS 優勝賞金20万ドル！

髙阪剛
（リングス・ジャパン）
99KOKトーナメント
ベスト16

ランディー・クートゥアー
（チーム・クエスト）
第3代・第5代
UFCヘビー級王者

山本憲尚
（リングス・ジャパン）
95メガバトル
トーナメント準優勝

ヴァレンタイン・オーフレイム
（リングス・オランダ）
99KOK
トーナメント出場

毎度恒例 全くあてにならない『紙プロ』編集部 大予想

坂井ノブ

ヴァレンタイン・オーフレイム
山本憲尚
ランディ・クートゥアー
高坂剛
アントニオ・R・ノゲイラ
ヴォルク・ハン
デイヴ・メネー
金原弘光

今月、『サバイバー』という番組にハマった。無人島に放り出された男女15人が39日間をサバイバル生活で過ごしていく中で、3日に1人ずつ投票によって追放されていき、最後に1人だけが生き残るという番組だ。まるでプロレス業界のように裏切りと陰口と派閥争いの連続で、生き残ったのは、勝つための策略と生き残る技術を持ち、己の力を知っていた39歳の男！　トーナメントで生き残るのもそんな男（つまりハン）に違いない。

優勝：ヴォルク・ハン

吉田豪

吉田豪、予想拒否！　なにごとかと思いきや、リングスを2回しか観戦したことがないこの男が、なんと2・24両国のWOWOW生中継で、山口日昇と共にスペシャル・コメンテーターとして出演が決定したという！（実況放送席とは別）。いったい何を喋ろうと言うのか。というわけで「いまはまだトーナメントを語らず」だそうだ。とにかくWOWOWを見ろ！　そういうことです！

優勝：××××××××

山口日昇

ヴァレンタイン・オーフレイム
山本憲尚
ランディ・クートゥアー
高坂剛
アントニオ・R・ノゲイラ
ヴォルク・ハン
デイヴ・メネー
金原弘光

2年半位前にTKがハンたちを差して「今の技術を全く学んでない」というようなこと言っていたんだよ。だから俺もハンたちは当然フェイドアウトしていくのかと思ったから、今回KOKにも対応して、底力を見せたのは驚いた。だから決勝は技術革新を常に行ってきたTKと、自分の経験を愛して諦めなかったハンとのリアルな新旧世代闘争が見たいね。そして思いきりのいいTKを見せて真の世代交代を成し遂げて欲しい。以上！（談）

優勝：髙阪剛

幸田珍

ギョ！　オレが予想？　…ッキリ…まり格…んので…ら、…ッス…ーフ…優勝…優…ど…で…本に勝…原は選…もの凄…はずや。…んでもえ…ッス。

優勝：…イム

水戸泉（仮）

ヒョードル、コピィロフといった噛めば噛むほど味の出る外人勢が登場しないのがちょっと残念ですが、スペシャルマッチも含めて、好カード揃いなんで今回も楽しみなことこの上なし！　ダークホースが優勝してしまうのが、トーナメントの常なんで、優勝はメネーと言いたいところですが、金ちゃんに勝ってほしいのでオーフレイムが本命。というわけで2・24はザンディグが登場する大日本の後楽園に行こうと思います。

優勝：V・オーフレイム

堀江ガンツ

ヴァレンタイン・オーフレイム
山本憲尚
ランディ・クートゥアー
高坂剛
アントニオ・R・ノゲイラ
ヴォルク・ハン
デイヴ・メネー
金原弘光

これだけ実力が伯仲したトーナメントだと、勝負の決め手となるのは、やはり勝利への執着心。KOKの場合は20万ドルという大金への執着心と言い換えてもいいだろう。そう考えると、大本命は早くも外車のパンフレットを多数取り寄せ、休日は車選びに余念がないという予想通りの皮算用ぶりをみせる金ちゃんに他ならない。しかし、なんとなく20万ドルを目前にして力尽き、試合後ボヤく姿が目に浮かぶので、優勝はTKにしておこう。

優勝：髙阪剛

松澤チョロ

“最後の日本男児”小路晃が解説を務める、この大会。やはり日本男児としてはジャパン勢にガンガンいってもらいたいが、俺が予想する優勝者はオーフレイムなんじゃあ！　Aブロックでの、現役サンボ王者、そしてババルを撃破した、あの感動をもう一度味わせてくれんかのぉ。優勝した暁には10日遅れのヴァレンタイン・プレゼントを差し上げるぜよ！（弱火）。個人的には最近“ミスター判定勝ち”として大活躍のメネーにも注目邪！

優勝：V・オーフレイム

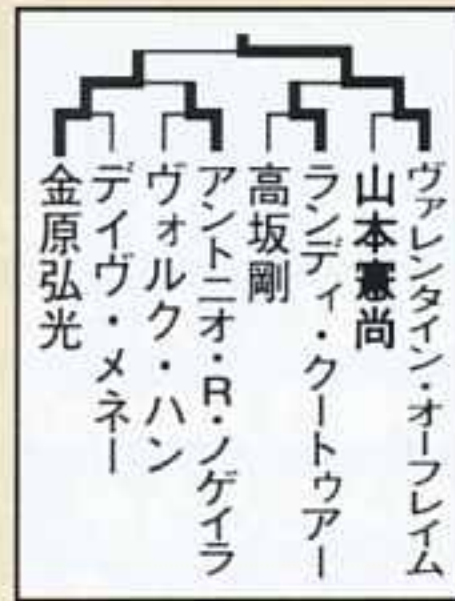
とび込み速報！　山本宜久が山本憲尚（ノリヒサ）に急遽改名！　突然の改名の真相は不明！

リングス・ジャパン勢に告ぐ!

2人をみろ!!

ヤマヨシ、TK、金ちゃんの3人が見事『FINAL』に進出し、大いに盛り上がるKOK。このジャパン勢3人の中から優勝者が出るのが、ファンの望みだろうが、その前には大きな壁が立ちはだかった！　それがR・クートゥアーとA・R・ノゲイラである。この二人の強さをここではじっくり検証してみたい。

構成／堀江ガンツ
text by Gunts Horie

Randy Cutour
ランディー・クートゥアー

ランディ・クートゥアーがケビン・ランデルマンからUFCヘビー級王座を奪取！

昨年11月にこのニュースを聞いて「よくやった、クートゥアー！」と思ったリングスファンは多いことだろう。今回の『KOK』は柔術世界王者や現役サンボ王者、アブダビ王者など、それこそ世界中の「トップやで、トップ！」が集結した空前の大会であるが、ここに現役UFCヘビー級王者の金看板が加わったことで、さらにグレードを増した感があるからだ。

クートゥアーは37歳での返り咲きという今回の快挙で、ようやく日本でもその評価が高まりつつあるが、これまではUFCでトーナメントを制し、さらに第3代王者にも輝いた世界的には超大物であるにも関わらず、日本ではあまりにも過小評価されていた。その原因は、やはり98年に「バリジャパ」でエンセンに、リングスでミーシャに一本負けしたイメージが強過ぎるからだろう。しかし、下のクートゥアーの戦績を見てほしい。実際負けているのは、その2試合だけなのである。そしてエンセンやミーシャに負けた時のクートゥアーと現在のクートゥアーはまったくの別人と考えた方がいい。なぜなら現在はすっかりトータルなテクニックを持ち合わせたMMAファイターに変貌したクートゥアーであるが、KOK出場以前は押さえ込んで殴って勝つだけという、典型的なひと昔前のアマレス系ファイターでしかなかったからだ。

逆に言えばほとんどアマレスのバックボーンだけで、UFC13でアッサリ優勝したり、当時柔術界の超新星と騒がれたビクトーをTKOしたり、遂にはUFCヘビー級王者にまでなってしまうのだから、その地力の凄さたるや並み大抵のものではない。

そしてクートゥアーを真の総合格闘家に変貌させたきっかけこそが、盟友ダン・ヘンダーソンのKOK優勝なのである。

昨日まで公共料金を滞納しているような激貧アマチュアレスラーであったヘンダーソンが、「現ナマ」20万ドルを手にしたところを目の当たりにした時、クートゥアーの意識は変わった。すぐさま次回KOKへの出場を強く決意し、遂に地力だけでUFC王者になってしまうような男が本格的に総合格闘技用のトレーニングを開始してしまったのだ！　そう、目を覚ましたジャンボ鶴田状態である。

PROFILE
【Randy Cutour】
チーム・クエスト所属。1963年6月22日、
アメリカ・オレゴン州出身。185cm、103kg。
グレコローマン・レスリングにおいて数々の優勝経験を持つ。
『UFC13』でVTデビュー。
いきなりヘビー級トーナメントを制す。
その後、『UFC－J』の第1回大会で、
M・スミスを破り第3代UFCヘビー級
王座に輝く。99年3月以来
VTから離れていたが、昨年11月に
第5代UFCヘビー級王座に返り咲いた。

【ランディ・クートゥアーの主な戦績】

97年5月30日　UFC13ヘビー級トーナメント優勝
97年10月17日　UFC 15　スーパー・ファイト　15分1R
○**ビクトー・ベウフォート**（8分16秒　TKO）
97年12月21日【Ultimate Japan】UFCヘビー級王者選手権　12分1R延長3分2R
□**モーリス・スミス**（延長R　判定2―0）
98年10月25日　バーリ・トゥード・ジャパン98
●**エンセン井上**（1R1分39秒　腕ひしぎ十字固め）
99年3月22日　RINGS Rise 1st
●**イリューヒン・ミーシャ**（7分43秒　リバース・アームロック）
2000年10月9日　RINGS　KOK2000　トーナメント1回戦
□**ジェレミー・ホーン**　5分2R（延長R　判定3―0）
2000年10月9日　RINGS　KOK2000　トーナメント2回戦　5分2R
□**柳澤　龍志**（2R　判定3―0）
2000/11/17　UFC28　UFCヘビー級王者選手権　5分5R
○**ケビン・ランデルマン**（3R4分13秒　TKO）

それ以降、クートゥアーはレスリングと平行して行っていた練習を総合一本に切り替え、KOK直前にはオーストラリアにまで飛び、修斗で活躍するラリー・パパドポロスに総合技術を習う入れ込みよう。その甲斐あって、10・9代々木では見事なまでにKOKファイターに変貌。そのダン・ヘンダーソンをパワフルにしたようなファイトスタイルは、隙がなく、このままいくと、このスター性皆無のハゲオヤジ（失礼）がKOKチャンプになる可能性は非常に高いのである。

続いてもうひとりの優勝候補、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラを紹介しよう。第1回KOKの1・2回戦で圧倒的な強さを見せつけ、田村に「コイツが優勝ですよ……」と呟かせたノゲイラ。結局前回大会は準決勝でヘンダーソンに僅差の判定で敗れ優勝を逃したが、その強さは冒頭の田村の言葉に集約されるように、あまりに衝撃的だった。そして今回、そのただでさえ衝撃的に強い男がますます実力を上げて再登場。1年遅れながら、今度こそ「コイツが優勝ですよ」という、田村の予言が的中しそうな勢いなのである。

今回のノゲイラは田村を寝技地獄に沈めたことに象徴されるように、グラウンドで攻めに攻めまくる姿が印象的だ。昨年までは他の柔術家同様、相手のミスを待って極めに行っていたノゲイラが、このように超攻撃的な選手に変貌した理由とは一体何なのか？　実はそれこそが昨年のKOK準決勝ヘンダーソン戦での判定負け裁定なのである。

この試合でノゲイラは柔術的なポジション取りでヘンダーソンを圧倒したものの、ポジショニングがあまり反映されないルールと、体重判定でまさかの敗北。これによりノゲイラの中で「自分がKOKで勝つには一本勝ちしかない」という意識が芽生え、「必ず一本勝ちを奪える極めの強さ」を身につけることを決意。そのためにノゲイラは師範代を努めていたフロリダの「マルコ・ファス道場」を離れ、〝最強集団〟ブラジリアン・トップチームに衝撃入団。そこでの最高峰のメンバーとのスパーリングによって、いまや世界一の声も上がる極めの強さを身につけることに成功したのである。

そして迎える『KOKグランドファイナル』。ノゲイラはもちろん全試合一本勝ちでの優勝を狙ってくるだろう。はたして緒戦で当たるヴォルク・ハンはこの男に勝つことができるのか？

いや、ハンだけではない、クートゥアーとノゲイラの二人を止められる選手は本当に現れるのか？　この大仕事を金原、高阪、山本のジャパン勢には、ゼヒとも成し遂げてもらいたい。2・24のテーマは『ストップ・ザ・ノゲイラ&クートゥアー』である。

PROFILE
【Antonio Rodrigo Nogueira】
ブラジリアン・トップチーム所属。1976年1月2日、ブラジル・バイア州出身。191cm、103kg。ブラジリアン柔術世界選手権では97年に準優勝、99年には3位に輝く。その他にリオデジャネイロ選手権優勝7回、ノースイースタン選手権に6回優勝するなど、25歳にして柔術ではトップクラスの実績を持つ。恵まれた肉体と確かな技術を合わせ持つこの男が、“最強”と呼ばれる日も近いだろう。

【アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラの主な戦績】

99年10月28日　RINGS　KOKトーナメント1回戦
○ヴァレンタイン・オーフレイム
99年10月28日　RINGS　KOKトーナメント2回戦
○コーチキン・ユーリー
2000年1月15日　WEF
□ジェレミー・ホーン（判定）
2000年2月26日　RINGS　KOKトーナメント準々決勝
□アンドレイ・コピィロフ（2R　判定3—0）
2000年2月26日　RINGS　KOKトーナメント準決勝
■ダン・ヘンダーソン（2R　判定1—2）
2000年　8月24日　RINGS
△高阪　剛（2R　ドロー）
2000年10月9日　RINGS　KOK2000　トーナメント1回戦
○ラバザノフ・アフメッド（1R　腕ひしぎ十字固め）
2000年10月9日　RINGS　KOK2000　トーナメント2回戦
○田村　潔司（2R2分29秒　腕ひしぎ十字固め）

いくら話をしても「俺の言うことに従え！」じゃ歴史は繰り返されるよ

2・24両国
“仮想リングスvsパンクラス”
対柳澤龍志戦直前！

坂田　さあ、今日は何をボヤこうか（笑）。

ンクラスの選手は、「見せる」という意識が

は客が「団体」として見るのは、もう見飽き

"田村派"がまたしても爆弾投下!

坂田亘

前号で賛否両論の嵐を巻き起こした田村潔司インタビューに続き、今回はその田村と行動を共にする"田村派"の坂田亘が登場！　またしてもリングスに爆弾を投下する、魂の訴えを行った！　ファンの一部では田村&坂田のリングス離脱説まで流れる中、彼らは何を考え、そしてこれから何をしていこうというのか？　100%本音爆発のデンジャラス・インタビュー。リングス改革推進委員長、坂田の言葉に耳を傾けろ！

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／吉場正和
photographs by Masakazu Yoshiba

『DEEP』でパンクラスの試合見たけど「あんな試合でええの?」って思った

坂田　さあ、今日は何をボヤこうか（笑）。

――アハハハ！　何ですか突然！　2代目ボヤキング襲名ですか？（笑）。

坂田　金原さんのマネしただけだよ（笑）。

――てっきりボヤキたいことがたまっているのかと思いました（笑）。

坂田　ボヤキたいことねぇ……、それは後々話すことにするよ（笑）。それよりさぁ、最近、古いリングスのビデオをよく見るんだよ。

――「古い」っていうと、いつごろですか？

坂田　KOKの直前くらいのなんだけど、なんか面白いんだよな、エスケープありの試合。あのルールがベストってわけじゃないけど、あれはあれで凄い面白いと思うんだよ。田村さんが「なくしちゃいけない」って言うのもわかるよ。オレも見てたらやりたくなったし。

――坂田さん的にはKOKより、旧リングスルールの方がいまはやりたいって感じですか？

坂田　そういうわけじゃなくて、プロなんだから面白い試合を提供しなきゃダメなんじゃないかってことだよ。オレ、『DEEP』でパンクラスの選手の試合見て、「あんな試合でええんかな？」って思ったからね。

――ゲ！「あんな試合」ですか！

坂田　うん。オレもパンクラスの選手に対して勘違いしてるのかもしれないよ。それに彼らもプロだから技術はあるし強いんだろうけど、『DEEP』を見てオレが面白いと思ったのは、美濃輪選手の試合だけだから（キッパリ）。悪いけどあとはみんな同じに見えた。

――確かにいわゆる膠着した試合は多かったですね。謙吾vs大刀光は別として（笑）。

坂田　判定がないのに守ってばかりでさ、どうせ負けるんだったら、もっと派手に負けたらいいのにって思うよ。あれを見る限り、パンクラスの選手は、「見せる」という意識がまだまだだなと思ったね。あれだったら滑川（康仁）が出ればいいんだよ。

――経験を積むっていう意味でですか？

坂田　経験積むっていうよりも、滑川なんてああいう試合したら一気に上がると思うんだよ。『DEEP』に出たパンクラスの選手も滑川とやったら強さがわかると思うよ。それぐらい、いまの滑川は強いよ。

――金原さんも言ってますけど、選手間での滑川選手の評価は高いですね。

坂田　でもアイツは身体が格好悪いよな、腹出てるしさ（笑）。

――猫背だし（笑）。

坂田　滑川はそこだけなんとかしないとね（笑）。オレは上山も「強い」って認めてるんだけど、もし上山vs窪田戦が、滑川vs窪田戦だったら、窪田選手は壊されちゃうと思う！

――こ、壊されますか！

坂田　窪田選手も押さえ付ける力は強いけど、滑川とやったらどこかしら壊されると思う。そういう意味ではパンクラスの若い選手は滑川より上山とやった方がいいんじゃない。

――坂田さん自身はパンクラス勢とやりたいとは思いませんか？

坂田　オレはしいて言うなら上の世代にしか興味ないね。若い選手でも近藤選手は体格的にも合うんでやりたいかな、あとは「試合したい！」とはべつに思わない。

――『DEEP』を見ても自分が燃えてくるものを感じなかったということですか？

坂田　それはなかった！（キッパリ）。

――では対戦相手は別として、『DEEP』みたいな大会に出てみたいとは思いませんか？

坂田　それはもちろん出ていきたいよ。いまは客が「団体」として見るのは、もう見飽きてるんじゃねぇかなって思うからね。「団体」っていうシステムもいいところがあるんだけど、第三者的なリングに上がって闘うっていうのが流れなのかなって。そういうところに出て話題作って自分のとこに引っ張ってくるっていうのが、いま出来る一番の方法なのかなって思うし。

――完全なフリーになるよりも所属しつつ出ていける形の方がベストなわけですよね？

坂田　もちろん。その方がファンも感情移入できるだろうし、自分の団体にお客を引っ張ってもこれるしね。

――坂田さんは2・24両国で柳澤選手と試合をしますけど、これも柳澤選手が「パンクラス所属」だったら盛り上がりも違ってくるでしょうしね。

坂田　そうそう。それだったらオレももっとモチベーション上がるんだろうけど、いまいちピンとこないんだよね。

――「パンクラス所属」じゃない柳澤選手には、あまり魅力を感じないってことですか？

坂田　というよりさ、両国でやるようなカードじゃねえなって思うんだよ。だってトーナメントで（日本人が）みんな残ってるのにさ、オレがワンマッチで出るなんてみんなに悪いなって。それだったらディファ（有明）でメイン取れるカードなんだから、そっちでやった方が客も湧くし、いいと思うんだよ。

――坂田さん的には今回の柳澤戦に「対パンクラス」って意識は全然ないんですか？

坂田　オレの中ではまったくない。だって柳澤さんパンクラス嫌いでしょ？（笑）。

――アハハハ！　そうなんですかね（笑）。では、対抗意識もないし、あまり気合いは入

VSパンクラスの意識はない。だって柳澤さんパンクラス嫌いでしょ？（笑）

らない、と。

坂田　でも体重差が約20キロ、身長が15センチは差があるでしょ。それだけ体格差があると、ナメてたら壊されちゃうからさ。そういう意味でちゃんと練習しなきゃいけないとは思ってる。でもテクニックとかで負ける気はまったくしない！（キッパリ）。

―それは柳澤選手の『KOK』での試合を見て、恐るるに足らずということですか？

坂田　いや、見てねぇんだよ（笑）。でも別にナメてるわけじゃなくて、強いとは思うよ。このあいだ『K―1』でやった角田さんとの試合見てても、オレは判定で柳澤選手の勝ちだと思うし。それでもオレが柳澤選手に「テクニックで負ける気がしない」って言えるってことは、自分の中で気合いが入ってきた証拠だと思うんだよ。だから気合いの現れだと思ってほしい。

―本人同士は思ってなくても、周りはどうしても「仮想リングス対パンクラス」って見方をしますからね。

坂田　だからプレッシャーみたいなものは感じてる。やっぱり周りは無理矢理にでもそうやって見るからさ。

―そうなると負けられませんしね。

坂田　でも負けない試合をしようと思ったらいくらでも出来るわけだけど、そうなるのが一番嫌だね。トーナメント中にもかかわらず、こういうカードを組んでるんだから、やっぱり面白い試合にしたいしね。

―ところで坂田さんの体調の方はどうなんですか？　昨年10月のKOK1回戦のときは腰がかなり悪そうでしたけど。

坂田　あの時だけじゃなくて、1年半ぐらい腰がヘルニアで調子悪いままでやってたんだよ。特に去年の年末なんて首も腰も最悪でさ、メネー戦のときも2週間前からブロック注射何本も打って出てたからね。成瀬さんじゃないけど「1年ぐらい試合できないんじゃないか？」ってずっと考えてた。

―そこまでひどかったんですか。

坂田　ところがいい先生を紹介してもらってさ、ビックリするくらい楽になったんだよ。おかげで久々に立っても寝ても全開でいけそうだから、そういう意味では試合するのが楽しみだね。正月3週間ぐらいサボったから、これから気合い入れて練習するよ。

1・8『DEEP20001』、リングスとパンクラスの闘いとなった上山vs窪田戦で、上山のセコンドに付き、大きな声でアドバイスを送っていた坂田。性格的に「対抗戦向き」と言われるだけに、パンクラス勢との対戦が実現すれば楽しみだ。はたして次回『DEEP』に坂田の出場は実現するか？

―「坂田さんは前田道場に全然顔を見せてない」って話を聞いていたんですけど、そういう理由があったんですね。

坂田　うん、あと正月は、考えることがあって、いろいろ準備でズッと名古屋にいたんだよ。でも、休んでる間にいろいろ考えたよ。会社のことだけじゃなくて自分のことも真剣に考える時期だと思うから。いま、時代の流れが速いからね。

―以前、坂田さんにインタビューした時「リングスの体質は古い」って言ってましたけど、いまでもそう思いますか？

坂田　うん、なんか広報の手の打ち方も下手だもんね、正直いって。なんでもっと上手く出来ないかなって。こんなにキャラクター揃った団体なんてないでしょ？　そう考えたらもうちょっとねぇ……。

―リングスは日本人、外人ともに実に個性的な実力者揃いですもんね。

坂田　だから絶対にもっと面白いことが出来るハズなんだよ。でも新しいものを作ってさ、何かを壊さないと出てこないじゃん。なんでそこにいつまでもしがみつくのかなっていう思いがあるよ。

―「そこ」っていうのは具体的にどんなことですか？　例えば興行スタイルとか。

99・12・22大阪　第1回KOK1回戦でヘンゾ・グレイシーと激突した坂田は、試合前の握手を拒否しメンチを切り、あのヘンゾを激怒させる。しかし、試合は腕十字でタップ。密度の濃い試合ではあった。

00・4・20代々木　田村、山宣、滑川と日本勢が全滅するなか、ただひとりB・リー・ヒンクルをグラウンドで翻弄し、足首固めで破った坂田。その動きは早く、KOKでも"回転体"ができることを証明した。

00・9・5後楽園　ヒンクル戦後、WEFでも勝利を上げるなど絶好調だった坂田であるが、夏に腰が爆発。この日も負傷を押して出場したが、ルタの強豪相手にその体調で闘うのは、あまりに無謀だった。

00・10・9代々木　腰に爆弾を抱えたままKOKに強行出場した坂田。しかし、試合開始早々に激痛が走り、その後は防戦一方。なんとか判定に持ち込むのがやっとだった。

坂田　いや一つや二つじゃないからさ、オレや田村さんが壊すって言ってるのは。階級別にしても真剣に考えてるし。それを「そんな甘くない」ってやる前から否定されてもね。

——田村さんとはよくそういうことを話すんですか？

坂田　オレと田村さんは去年の秋ぐらいから飲みに行ってもそういう話ばっかりだよ！　もしくは田村さんのエロ話（笑）。

——アハハハ！　田村さんのエロ話（笑）。

坂田　そう、「田村さんの」エロ話だから（笑）。

——その田村さんも凄く団体のことやこれからの業界のことを考えてるにも関わらず、具体的にどうしたいのかわからないから「桜庭にジェラシー抱いてるだけだ」とか「イジけてるだけだ」とか言われるんじゃないですか？

坂田　でもジェラシーとかあるのは当然だと思うよ。だって、やっぱり桜庭さんと田村さんの違いっていうのは、どちらも一級品の技術を持ちながら、田村さんは桜庭さんほど名前が通ってないということに尽きると思うんだよ。なんでその差が出るかって言ったら、それはもうわかるでしょ？

——ええ。言わんとしてることはよくわかります。

坂田　やりようによったら、こっちの方がタマは揃ってるんだからできないことはないんだよ。例えばいまヒクソンの次の相手が取り沙汰されてるでしょ？　本当なら、もっと会社とかでバックアップしてあげてたら、オレは田村さんでいいと思う。それがなんで田村さんが「ヒクソンとやる！」って言わないかって言ったら、やっぱり自分でそういう状況じゃないってわかってるからだよ！

——そういう意味では『コロシアム』はいいチャンスだったんですけどね。

坂田　いま思えば強引にでも言わせとけばよかったと思うよ。自然の流れでいったら桜庭さんなんだろうけど、田村さんと桜庭さんっていうのは同じぐらいの実力だと思うから。持っていき方次第で「桜庭か田村か」っていう盛り上がり方もしてたハズなんだよ！

——実際、桜庭さんがホイスを破る前にヘンゾを破った田村さんが、次のヒクソンの相手として名前も出ないのは寂しいし、田村さんもこのところ目標を失ってるような気はしますね。

坂田　うん、それで田村さん自身も変にモチベーションが下がってるから。お互い団体は選手を活かして欲しいし、団体も活かしたいし。上手くバランスとれたらいいんだけどね。

——具体的にはどうしたらいいんですかね？　早く言っちゃえばテレビの地上波に乗ればいいとなりますけど。

坂田　でも、それを仕切るのは会社なんだよ。本気で考えてくれてんのかね、社長は。いまはいいけどさ、先々のことを考えるとこのままでいいのかなって思うよ。多分『ＷＯＷＯＷ』だって厳しいと思うしさ。不安なんていっぱいあるよ。だから社長はもうちょっとオレらと話して欲しいよね。

——話す機会はなかなかないわけですか？

坂田　たまに作ってはくれるよ。ただ最後は一緒だもん。「お前らそうは言うけどな」っていう話で終わっちゃうからさ。

——話を聞くだけなんですね（笑）。

坂田　オレらそんな話聞きたくないの。前田さんの言うこともわかってるんだから。オレらがわかった上で、こっちの意見を社長がどこまで聞いてくれてるかなんだから。それなのに最後はいつも「オレの言うことに従え！」みたいな感じだからさ。それじゃあ時代は繰り返されるよね（笑）。

——そういうことでいろんな噂も出ちゃうわけですね（笑）。

坂田　別にいいんだけどさ、そう言われるのは。オレもいまはあんまり具体的には言えないけど、春ぐらいにいろいろ考えてることがあるわけ。そしたらオレもなかなか忙しくなりそうなんで、やれるうちに田村さんとか金原さんと自分の時間が空く限り練習したいんだよね。そういうのも全部ひっくるめて一試合一試合にもっと集中したいんだよ。

会社がもっとバックアップしてたら
ヒクソンの相手は田村さんでよかった

——やはりいまの試合数は多過ぎるわけですか？

坂田　「じゃあ、お前ら何試合ぐらいやりたいんや？」って言われたってしょうがないんだけどさ。試合を消化するだけみたいなのはもう嫌なの。デビューした当時はそれでも良かったんだけど、おかげで身体にガタが来てるわけだからさ。今回も柳澤戦のあとリングスＵＳＡ大会まで１ヶ月もないでしょ。これじゃ集中できないって！　ケツの穴の小っちぇようなこと言ってるかもしんねえけどさ、一戦一戦大事だと思うから言うんだから。

——『ＫＯＫ』ルールになって、消耗度も激しくなったでしょうからね。

坂田　それを言うと社長なんかは「オレが新日本の頃は年間２５０試合やってたんや」とか言うけど、ハッキリ言ってやってること全然違うんだから！

——前田社長は「気持ちの部分や」と言いたいんでしょうけどね（笑）。

坂田　確かにそれはそれで凄いと思うよ。オレはいまでも新日本の小島（聡）さんとか大谷（晋二郎）さんとか会うと話したりするけど、向こうは向こうでやっぱりこっちがやってることは大したもんだと思ってるはずだし。なんもかんも一緒にして欲しくないよね。

——完全な別モンなんですけど前田さんの中で繋がってる部分があるんでしょうね（笑）。

坂田　思わない？　だって自分が新日本のこと喋るときは長州さんのこととかケチョンケチョンに言うのにさ、オレらがそういうこと言えば「新日本の頃は年間２５０試合〜」ってさ。これじゃ「なんなんだ！」って思うよ。じゃあ、そういうスタイルにこっちを切り換えるの？

——リングスが巡業し始めて、年２５０試合やり始めたら驚きですけどね（笑）。

坂田　そんなことしなくても、ウチは上山や滑川まで個性派揃いなんだから、例えば二つに選手をわけて月1回交互に興行打ってもいいと思うんだよ。

――いまのリングスの興行は贅沢過ぎる弊害っていうのは確かにありますよね。フルメンバーで外人もたくさん呼ぶのが当たり前になって、ファンが豪華メンバーにあまり有り難みを感じなくなってるんですよ。逆にパンクラスなんかはこの間の後楽園に久しぶりに近藤、菊田、高橋っていう主力が揃ったんですよ。そしたらそれだけで「後楽園でこんな豪華なメンバーが！」ってなりましたからね。

坂田　そういうの考えたらさ、ウチは日本人を半々に分けて興行打ってもソフト的には全然平気だと思うよ。

――例えば田村、TK揃い踏みなんていうのは、それだけでビッグマッチにならないといけませんよね。『PRIDE』なんかは桜庭選手と藤田選手が両方出る大会っていうとドーム興行になるくらいですからね。

坂田　そういうふうになるのがベストだしさ。『PRIDE』なんかはそういう意味で宣伝上手かったよね。だから結局オレが言いたいのはさ、前田さんは社長だから一番権限はあるのは当然だし、オレらはそれに従うべきっていうのはわかるんだよ。でも、どんなに発言権があろうと実際に闘ってるのはオレたちなんだからさ。社長にはそれを手の平で転がすような感じでいて欲しいのよ。

――逆にいえばリング上は任せてほしい、と。

坂田　だからお互いの役割だよね。ただ試合をお客に提供するだけじゃなくてさ、もっと前振りにしろ演出にしろ、「これ以上はない」っていうぐらいやってくれれば、みんな「頑張ろう」っていう気持ちがいま以上に出ると思うんだよ。いまはお互いの役割がしっかり出来てないじゃん。

――前田さんと選手のすれ違い感は誌面からも凄い伝わってきますもんね（笑）。

坂田　すれ違いっていうよりも交わらない！

――すれ違いもしない（笑）。

坂田　オレらだってリングスを大事に思って言ってるんだから、わかってほしいよね。前田さんは「リングスで一流ならば、外では超一流だ」ってよく言うでしょ。でも世間の目をそういうふうにさせるのは会社の仕事なわけじゃん。それが出来てるのかって言ったら、出来てないんだよ。こっちはそう思って一生懸命やってるのに……。オレらもリング上の闘いという部分でしっかりと結果出してるかって言ったら、あんまりそういうことは言えないけどさ。

――まぁ、リングスに来る外人は強豪ばかりで、簡単に勝てるような相手じゃないのも確かですけどね。

坂田　ハッキリ言ってウチは凄いレベル高いよ、日本人にしても外人にしても。

――だから本当ならどの試合も、意味があってしかるべき対戦相手ではあるんですよね。

坂田　そうそう！　しっかりとした実績のある本物の強豪と闘っているのに、なぜそういうふうに持って行くことが出来ないかってことだよね、簡単に言えば。ただ漠然とやってるような感じがするんだよ。

――ただ漠然とブラジルの強豪とかとやりたくないですよね（笑）。

坂田　だからウチはちょっとしたことで人気が爆発すると思うんだけどね。

――闘いにテーマというか意味があるように見せないとダメなんですよね。例えば『PRIDE』なんかはリングスよりもレベルが高いから盛り上がってるっていうワケでもないですからね。

坂田　レベル的にはウチは全然劣ってないよ！　それなのに『K―1』『PRIDE』は知ってるけどリングスは知らないっていう人は凄く多いでしょ。それはオレらにも責任はあるんだろうけど、それだけじゃないし。役割としてはむしろ会社の方にあるわけだからさ。

前田さんは「若い頃、年間250試合やってた」と言うけど、やってる内容が違うよ！

――だから田村さんや坂田さんが『PRIDE』なりに出たいというのは、もっと強い相手とやりたいというより、意味がある闘いがしたいってことですよね？

坂田　そうそう。ただ強い相手とやるだけなら、リングス内でも闘いたい相手はいくらでもいるからね。だから対戦相手に意味合いを持たせてくれれば、第三者的な立場のリングに上がる必要もないんだよ。

――逆に言えば、意味のある闘いができないなら、第三者のリングに上がるしかないと。

坂田　実はオレにも『DEEP』からオファーがあったんだよ。

――え！　そうなんですか!?

坂田　うん、いろんなことがあって叶わなかったけど。自分が頑張って自分に返ってくる試合であり、リングスのためにもなると思うし、もちろん『DEEP』だってオレが出てたら随分違ったと思うよ。

――「リングスジャパン」の選手がパンクラスの選手と闘ったら、もしかしたら起爆剤になるような、凄い話題になったでしょうね。

坂田　こういう大きなチャンスを会社側が受け入れてくれないとね……。わかるんだよ。パンクラスとリングスは尾崎社長と前田さんの関係があるから。でもそれが関係あるのか!?　オレにはなんの関係もねえんだから！

――でも坂田さんは高橋（義生）選手の「前田を殺す！」発言の時に、真っ先に名乗りを上げてますよね（笑）。

坂田　あの時、オレは本気でやる気だったよ！　でも、いまオレはパンクラスに対して何もないよ。逆に菊田選手や美濃輪選手とは一緒にみっちり練習したいと思ってる。あの二人がどんな性格なのかも知らないけど、なんか他の選手とは違うものを感じるよね。

――確かに二人ともパンクラス生え抜きじゃないからか、イメージとしてパンクラスらしくないところがありますよね。

坂田　なんか独自の味がでてるよね。だから

彼らとは肌を合わせてみたい。

――闘ってみたいとは思いませんか?

坂田　「闘ってみたい」となると、もっと他の選手で生意気そうなのがいるからそっちとやりたいよ（笑）。

――アハハハ！　生意気なヤツを殴ってやりたい、と（笑）。

坂田　基本的にオレも生意気なんだろうし、現役である以上それが悪いとは思わないけど、そのオレから見ても態度悪いヤツがいるからさ（笑）、そいつとはやりたいね。

――それはゼヒ見たいですねぇ（笑）。やっぱり、せっかくリングスvsパンクラスという対立概念があるんだから、見てる方としたら練習するより、敵意剥き出しの試合が実現した方が面白いですからね。

坂田　そういう意味では、演出は出来てるよね、前田さんと尾崎さんは（笑）。

【さかた　わたる】1973年3月11日、愛知県出身。前田道場と田村のジム『U−FILE　CAMP』を行き来する唯一の選手。持ち前の気の強さと、浜口ジム出身者らしい特攻精神で、他流試合にも積極的に打って出る。『PRIDE』や『DEEP』への出場はあるのか?　175cm、88kg。

WATARU SAKATA

春頃に俺も考えてることがあるから その為にも柳澤戦は負けられない

――アハハハ！　対立概念としてはバッグンですよ！（笑）。これを興行に結び付けたら昔の新日対Uインターみたいになるんじゃないですか（笑）。

坂田　あっちはアングルじゃん、でもこっちはリアルだからね（笑）。でも、そういうので本当にやったら無茶苦茶緊張感あるよね。

――そういう試合はファンも本気になるだろうし絶対見たいですよ。だから総合格闘技系はそういうモメ事をアングルにするっていう貪欲さが足りない気がしますよね。

坂田　していいのかな?

――リング外はいくらやってもいいと思いますよ。そういうことで試合の意味付けにもなるだろうし。そもそも格闘家同士みんな仲良くっていうのはありえないと思いますしね。

坂田　それはオレも同感だね。いまそういう人多いじゃない。個人的に仲のいい選手がいるのはいいけど、みんながみんな仲いいのはちょっとね。慣れ合いみたいになったらいざやるとなった時に本気で殴れねえじゃん。

――だから前田さんもよく言ってますよね、「ボクシングのヘビー級の世界戦とか見てみ。試合前に言い合いして盛り上げるんや。そういうのが足りないんや！」って。

坂田　でも、前田さんはやりすぎだって（笑）。

――アハハハ！　確かに（笑）。

坂田　選手じゃないんだから、社長なんだからさ。社長がそんなこと言ってどうすんの（笑）。例えばオレらがどんなにいい試合したって、前田さんがブチキレるだけでそっちに話題が集中しちゃうんだからさ（笑）。

――リングスで不思議なのはあれだけ前田さんが目立っているのに、それが興行にはまったく活かされてないっていう点ですね（笑）。『PRIDE』の猪木さんぐらい派手に出てこいとはいいませんけど（笑）。

坂田　こうなったら長州さんみたいに、前田さんにも現役復帰してもらおうか（笑）。……これは冗談だよ。

――いずれにしても、リングスvsパンクラスっていうせっかくの対立概念を今度の柳澤戦に活かさない手はないですよ。それが意味のある闘いにもなりますし。

坂田　うん、そういう意味ではオレは春から考えてることもあるし、大事だなとは思ってる。ここで負けたら「負けたくせに何言ってんだ」ってことにもなるからね。それに向こうは向こうでフリーで食いつなぎゃなきゃいけないから、必死になってると思うし。だから気持ち的にはぶつかりあえると思うよ。ただじゃ終らせないよ！

――ただじゃ終わらせない！　やっぱり坂田さんはそうでなきゃダメですよ（笑）。ところでその4月から考えてることって何なんですか?

坂田　それは正式に決まったら、こちらから「取材してください」ってお願いするよ（笑）。いまはいろんなことを考えてるからさ。

【01年2月6日　前田道場前鶴見川の土手で収録】

成瀬昌由

椎間板ヘルニア どん底から生還！

聞き手／松澤チョロ
interview by Choro Matsuzawa
撮影／丸山剛史
photographs by Takashi Maruyama

『紙プロNO20』で「覚悟を決めて、腹を括って身体を治します」と宣言し、それ以来、地下に潜り、ヘルニアの治療に専念していた成瀬昌由が1年9ヶ月振りに復活することとなった。成瀬の欠場中、リングスではKOKルールの導入、田村の爆弾投下発言をはじめ様々な事件が勃発した。格闘家にとっての難病ヘルニアと闘いながら、その間のリングスマットを冷静に見守ってきた成瀬に、闘病生活、復帰戦への意気込み、そしてリングスの現状を語ってもらった。

1年9ヵ月の沈黙を破り 3・20ディファ有明で 遂に復活！

ヘルニアを克服した前例がないなら、俺が前例になってやります！

成瀬　で、今日は、なに話せばいいの？

——なにって復帰戦についてですよ！（笑）。

成瀬　決まったみたいだね（笑）。

——人ごとじゃないんですから（笑）。

成瀬　まあ軍隊で言えば指揮官、それでヴォルク・ハン風に言えば将軍命令ですからね。将軍に「行け！」と言われれば行くしかないと。一回ロシアで「行け！」って、復帰戦が発表されたことあったけど（苦笑）。

——そんなこともありましたね（笑）。しかも（イリューヒン・）ミーシャ戦でしたよね。

成瀬　そうそう（笑）。あの時は今なんかよりも全然話にならない体調だったんだけど、その時も俺は「アイアイサー！」したんですよ。「わかりました。何とかします」って。

——結果的には、何とかならなかったと。

成瀬　そうだね。急ピッチで仕上げようとしたら「ブチ」って肉離れ起こしちゃって。まあ、その辺は一兵卒というか雇われてる側の人間だから、シビアな話だけどオーナーにでもならないと好きな事は出来ないから（笑）。俺もギャラを貰ってる側だから、いつまでも休んでるわけにいかないってのもあるし。

——まあ、よく言ってたのが桜の咲く頃とか、紫陽花の咲く頃までには復帰したいと（笑）。

成瀬　ひまわりなのかコスモスなのかわかんないけどね（笑）。結局、その後の二回目のギックリ腰で全てが狂ったんですよ。それでＭＲＩっていうのを撮り直したら、凄い飛び出ちゃってて。今度見せますから、それ雑誌に載せちゃってもいいですよ、俺のヘルニア（Ｐ１３６参照）。それ見たら、これは復帰なんて物理的に無理だということになって。

——逆に言えば、日常生活にも支障をきたすというか、手術しないと、どうにもならなかったみたいですよね。

成瀬　そうですね。それで俺なりにいろいろ調べたんですよ。コンタクトスポーツで、これぐらいのヘルニアが出てて競技に復帰した前例があるのかを。相撲、柔道、アメフト、ラグビーとか、ヘルニアになりやすい競技を。あと土建屋の親父とか（笑）。

——アハハハ！　まあそうですね（笑）。

成瀬　で、調べたら、手術して一般生活は支障なくこなせても競技に復帰した例はほとんど無かったんですよ。みんな復帰したくて手術してトレーニングするんだけど、結局それで引退するらしいんですよね。それを聞いて、「俺ってやべえじゃん」って思って。

——それは相当やばいですよね。

成瀬　それで、ちょっとだけ途方に暮れたけど、俺、悩むの嫌いなんですよ。悩んでる時間がもったいないし、ちょっとの間で凄く深く悩んで……ていうか、答えは出てるじゃないですか？　辞めるか、手術するか、それとも新興宗教にのめり込んだりとかね（笑）。

——まあ、そういう選択もあるでしょうね（笑）。ボクのおぼろげなヘルニア知識によると、格闘家でヘルニアになっちゃった人はもうダメだっていう認識があるんですけど。

成瀬　マッチョ・ドラゴン藤波さんも苦労されたそうですし。でも俺は、復帰した前例がないからダメっていうのが気にくわなくて。だったら前例になっちゃえばいいじゃんって。

——ヘルニア克服一番乗りを目指すと。

成瀬　そうそう。ヘルニアにメスを入れて手術しての一番乗りね。でも復活は半信半疑っていうか、暗中模索状態でしたよ。前例がないから自分で結果出してくしかないでしょ。もしかしたらダメかもしれないじゃない？

MASAYUKI NARUSE

——正直、そういう可能性も強いですよね。

成瀬　でも、結局はこういう身体でリングスの様なハードな所で70戦以上もしてれば、こうなってもおかしくないしね。だから結果は結果として受け入れて、この困難を克服したら、リングの上だけじゃなくて、人間的な強さも手に入れられると思ってね。せっかく何かの因果でこういうことになったわけだから、これで潰れるのも自分次第だし、またここから不死鳥のように蘇るのも自分次第だし、逆にこの困難を男を磨くためってわけじゃないけど、肝を練るっていうか、試練だと思ってね。それでやった荒行みたいなもんですよ。

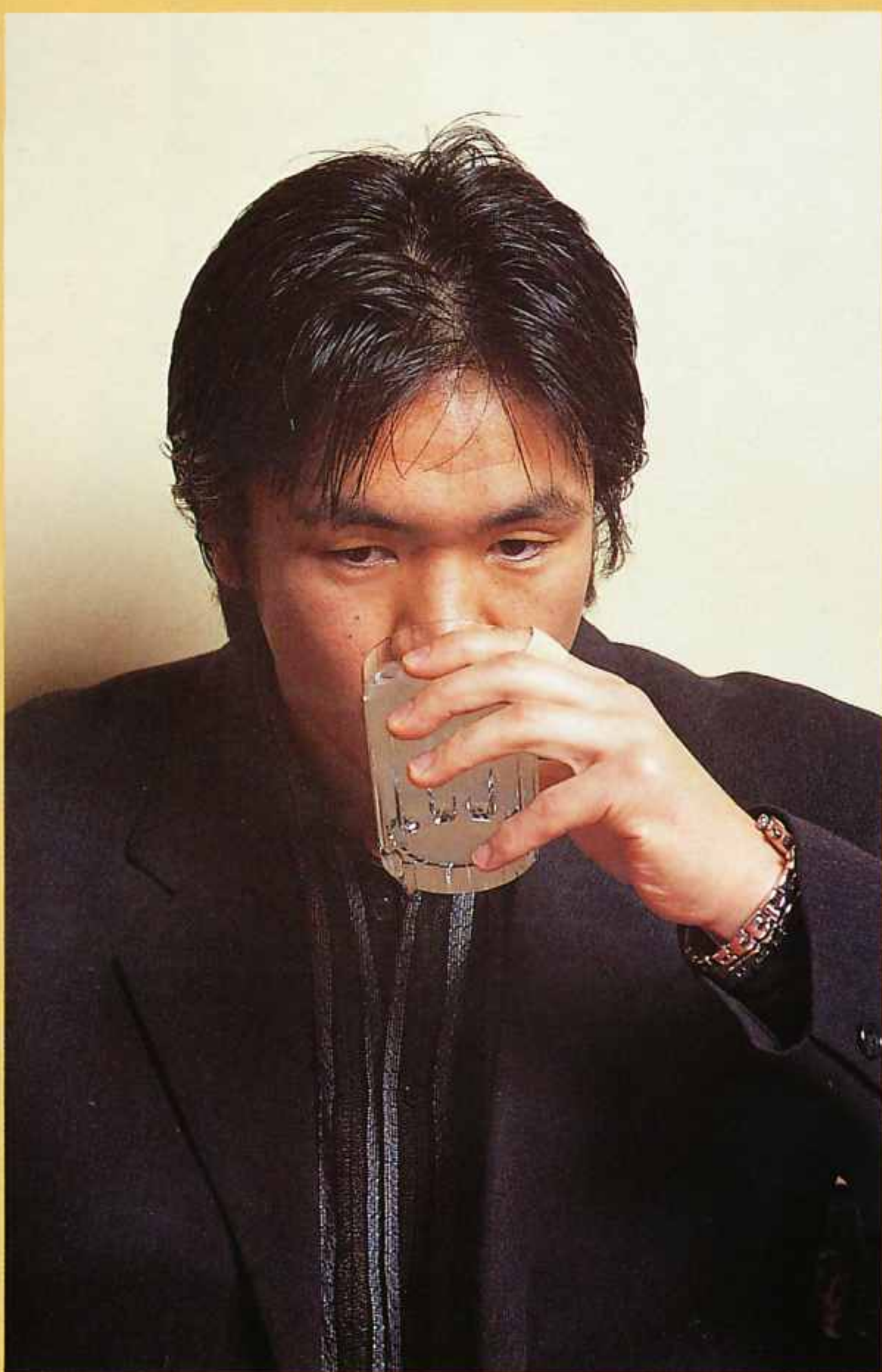
——荒行だったわけですか（笑）。

成瀬　それで克服すればいいじゃんって思ったし、それに他に道なんかないし、やっぱり選手としてやり残したことがありすぎるから。諦められればそれで終わりでいいんだけど、わがままなのかどうか知らないけど、まだこの歳だし、納得いくまでやらないと気が済まないたちだから。何よりも格闘技より、自分が熱くなれるモノが他に無いから。でもどうなんだろ？　復帰が決まって、こうやってインタビュー受けたり、雑誌に載ったりしてるけど、今でも半信半疑だよ。

——現時点では、実際に試合できる体調ではないわけですか？

成瀬　うん、ないよ（アッサリと）。だって、急に御大のゴーサインが出ちゃったから（笑）。「ディファでメインを張る選手はお前しかいないんや」って言われて。金原さんとか山本とかみんな決勝大会に出ちゃうから、メイン張る人がいないっていうのもわかるし、そこまで言われたら出るしかないなと。やっぱり前田さんから頼まれたら、やるしかないでしょ。必要とされてるんだと意気に感じるし、これだけ休んでてもメインで復活させてくれるっていうのはありがたいですよ。

——ある意味、感謝していると。

成瀬　そうですね。ごますってるわけじゃないけど、これは本当にそう思ったんで。正直言うと、ドクターサイドからも4月ぐらいが期間的には頃合だと言われていて、4月の代々木大会だったら結構余裕持って調整できると思

「あぁ〜効くなぁ〜、久々にお酒を飲むと！　別に俺は山本みたいにストイックな食事はしてないから、酒も飲みますよ（笑）」

文句言うんだったら、田村さんは自分で旗揚げすればいいんですよ

ってたんだけど。自分としても、前田さんに言ったんですよ。「やっぱり現時点でも不安はあるし、心配です。正直言って怖いです」と。「手術して1年9ヶ月も休ませてもらって、直すためにやってきたのに、急いで仕上げて、まだ身体が出来上がってないのに試合してブッ壊れたら、それこそ泣くに泣けないどころか、死ぬに死にきれません」って言ったら、「でもなあ、フィエートなんか寝かせたら、いちころやで！」って（笑）。

――アハハハ！　そうきましたか（笑）。

成瀬　俺も昨日今日リングスに入った人間じゃないし、いろいろと分かってるつもりですから。だって、俺と山本だけですからね、前田さんと旗揚げからずっと一緒にやって来てるのは。そういう意味では、俺は愛社精神はあるんですよ。愛社精神だ・け・は・ネ！

――アハハハ！　曖昧な表現ですね（笑）。

成瀬　愛・リングス精神っていうか、愛社精神は凄いあるし、だからそういう風に言われたらなんとか頑張りたいっていう、まだそういう心が俺にも残ってたんだなって。そういうピュアな心が（笑）。

――ピュアハートですか（笑）。

成瀬　もし4月に復帰するとしても不安は絶対にその後も一生付いて回るものだし。逆に躊躇して一歩踏み出せない自分を前田さんが後押ししてくれたと思って感謝もしてるし。一歩先は凄い崖かもしれないし、ほんの僅かな隙間だけかもしれないから、それはやってみないと分からないけどね。……なんて美談にまとめてみました（笑）。

――アハハハ！

成瀬　でも本当にそうだなと思いますよ。まあ、復帰を決めてからは練習メニューのクオリティーをちょっと変えたんだけど、スパーリングなんてやったのは昨日が久しぶりだからね、実際。1年9ヶ月ぶりですね。

――久々のスパーリングはどうでしたか？

成瀬　伊藤（練習生）とやったんだけど、意外と動けたね。手術前は全然動けなかったし、退院してから軽～く動いてもね、お触りパブ程度だったからね（笑）。

――アハハハ！　ボクはお触りパブでも、かなり動きますけどね（笑）。

成瀬　そうなんだ（笑）。まあ、ソープまではいかないぐらいですよ。

――ちょっと疑似っぽくですね（笑）。

成瀬　今のは冗談だよ。チョロさんに合わせて、わかりやく言っただけだから（笑）。まあでも、日々ほんのちょっとずつだけどレベルが上がってるって感じるしね。やっぱり、何かを取ろう思って指示したりとか、モノが飛んできてよけたりとか、全部脳からの神経の伝達でしょ。それが麻痺して鈍くなってるから、新弟子に極められることはないけど、思うように動けないし、力もスタミナもないんだけど、自分の中では動けた方で、ホント赤飯炊いて祝いたいぐらいだったね。ホントに一人餅つき、一人胴上げしたいぐらい嬉しくてね（笑）。そういうのもあって「結構復活してきてるじゃん、俺」って感じだったよ。

――階段を一段ずつ上ってる感覚ですか？

成瀬　人間の可能性を体現してますよ、俺は。

――「人間の可能性をなめるな」って、確か前田さんも言ってましたね。

成瀬　えっ！　いつ仰ってたの？　●●●の時？（笑）。

――違いますよ（笑）。

成瀬　あっそう。

MASAYUKI NARUSE

――1年9ヶ月も休んでると、リングスという組織自体を客観的に引いたところから見れたと思うんですけど、どうですか、現在のリングスは？　ルール改正とか、ジャパン勢への田村さんの発言とかありますけど。

成瀬　俺は問題発言のパイオニアとして言わせてもらうけどね（笑）、田村さんは、この間の『紙プロ』で、リングスのプロモーションの仕方が悪いとか、内部的なことを批判してたじゃない？　あれは誌面で言っちゃいけないんですよ。ああいうのを誌面とかで言うと●●●とかに●●されちゃうんだよ（笑）。

――あぁ、いろいろとありましたよね（笑）。

成瀬　あれはマスコミが言うならともかく選手が言っちゃいけないですよ。俺も経験あるけどね。ていうか、今さらジローです（笑）。

――今さらジローですか（笑）。

成瀬　「今さら何を言うてんねん」と。雑誌で言うんじゃなくて、前田さんに直に言えばいいんだよね。前田さんは、真正面から堂々とぶつかって行けば、きちっと話を聞いてくれる方です！　ただごく稀にお忘れになることがありますけど（笑）。

――お忘れになりますか（笑）。田村さんのインタビューを読んだ読者の間では「何いじけてるんだ」とか「何かたくらんでる」とかいろんな受け取り方をされてますけどね。

成瀬　でも、田村さんは前からそういうとこあるけど、嫌だったら辞めればいいんですよ。俺が今度の試合も無理を押して出るのは、会社に1年9ヶ月も養ってもらって、治療費まで出してもらってるわけだし、会社が困ってる時に何かしなければいけないって思ってるからですよ。そういう意味では、嫌で文句言うんだったら自分で旗揚げすればいいんですよ。この世界は何でもありなんですから。誰かが付いていく、付いていかないと言うのは別にしてね。でしょ？

――まあそうですね。でも、田村さんは文句を言いたいというより、いろいろと改善していきたい点があるみたいですけどね。

成瀬　それは凄くわかるよ。でも、田村さん

これを見ろ！これが成瀬昌由の欠場原因、ヘルニアだ!!

自ら図を書き説明しながらヘルニア講座を始めた成瀬。「椎間板ヘルニアっていうのは、椎間板が後方にビョって飛び出して、せきついとか神経を圧迫する病気なんだけど。俺の場合は右足の動きを司る神経にヘルニアが飛び出て圧迫してたんですよ。それも飛び出まくりだったんで、しょうがないから、これをメスで切除したんです。」と、ド素人のボクでもわかりやすくヘルニアのメカニズムを教えてくれた。確かに上のMRIを見れば椎間板が飛び出しているのがわかるだろう。もし知り合いにお医者さんがいたら、このMRIを見せて説明してもらえば、成瀬のヘルニアがどれだけ酷かったかが理解できるはず。

『紙プロ』独占！
そう絶 悶絶

成瀬昌由 闘病写真大公開!!

「手術直前、麻酔が効き始めて目がうつろな状態」格闘家にとっては、まさにイチかバチかの選択、ヘルニア摘出手術を受ける直前の成瀬昌由を捉えた貴重な写真である。「出産の時ぐらいの痛みを感じたね（笑）」（by成瀬）。撮影は森田トレーナー

「手術直後、血栓を防ぐため両手両足に包帯を巻いている」（by成瀬）。手術は昨年の9月1日に行われ、それから約1ヶ月の入院生活を過ごした成瀬。手術から2週間ぐらいは寝たきりの生活が続いたという。写真右下に『紙プロNO29』を発見！

「手術直後、カメラマンの森田トレーナーに『ウ～、気持ち悪い～！　吐く～！　撮ってくれ～』と、苦悶の表情を浮かべる俺」（by成瀬）。情けない姿を見られたくなかったため、成瀬は入院していることを周りにはほとんど知らせなかったという。

「手術後5日目、起き上がってはいけないため、寝たきりで食事をとる」（by成瀬）。写真を見ているだけでも、そのつらさが伝わってくる。なにげに成瀬が着ているのは宇野Tシャツだったりする。ルパン三世のマグカップも気になるところだ。

は前田さんの性格だって知ってるわけでしょ。そりゃ確かになかなか話が通らないっていうのもわかるけど、でも、それはしょうがないよ、リングスにいるんだから。前田さんだって片腹痛いと思うよ。だから、良くしていきたいんだったら、やり方があると思うし、それでダメだったらおいとますればいいし。

——おいとまですか（笑）。

成瀬　まあ、この世界にいればいろいろ不満とかも出てくるだろうけど、それで前田さんだってご自分で旗揚げして、分裂したりしたわけでしょ。そういう意味ではもっと大きな目で考えればいいんですよ。格闘家として自分の腕に自信があるなら、ドカーンと大きくいけばいいと思うしね。まあ、前田さんの言葉を借りるなら男の子らしくしろと（笑）。

——アハハハ！

成瀬　俺なんかは1年9ヶ月間も休んでた人間だし、偉そうなことが言える立場じゃないから、逆に今は保守的な考えしか言えないですけどね。だけど、俺も復帰して不満が出てきたら、もっと大きな考えで行きたいですね。田村さんが日本人がどうとか言うのは、考えがあってのことだとは思うけど、それで日本人が結果を出しても、それはそれで、またひねくれた言い方してるじゃん（笑）。それはキャラなのか何なのかはわかんないけどね。あの人は嫌みキャラなのかな？

——シェ～！　どうなんですかね（笑）。

成瀬　まあ、プロなんだから何言ってもいいと思いますけどね。それを周りがどう思うかだから。どう思われようが関係ないって言うんだったら、それで突き進めばいいと思うし、選手もそういうスタンスをとってもいいと思うんですよ。別に離脱を後押ししてるとか、そそのかしてるワケじゃなくて、それはもう自分の人生だから。

——一度きりの人生だから、好きにやりゃあいいじゃねえかと？

成瀬　そうそう。身体が動くウチにいろんな所で試合をしたいっていう気持ちは格闘家としてあって当然だしね。ホントに外でやりたかったらやればいいし、でも、やるんだったら、ちゃんと筋を通して、不義理とかしないで腹割って話せば前田さんは人格者ですから、わかってくれますよ。そういう意味では、前田さんが業界で一番苦労してると思うからね。それこそ荒行ですよ（笑）。逆に変に前田さんから遠ざかったりとか、いないところでコチョコチョ言ってると気に食わないって思われるんですよ。高阪（剛）の例を見ても、あいつは正攻法でいってきちんと対処してたし、ヤマケンなんかも引き際は見事でしたよ。あいつはマシンガントークで前田さんにぐうの音も言わさなかったらしいからね（笑）。

——何となく目に浮かびますね（笑）。

成瀬　そういう例もあるからね。ただ、やっぱり大事なのは、今後自分が何をしていきたいかですよ。ただの一兵卒で終わっちゃうのか、そうじゃなくて自分で新しい流れを作りたいのかっていうね。

——今後、リングスがより良い方向に向かうためには、どうすればいいと思いますか？

成瀬　それは船の舵取りをしてる人間次第で

復帰戦でダメになってもいいっていうぐらいの気持ちで闘います！

すよ。俺らは一兵卒ですから。一兵卒なりの魂を見せていくしかないですよね。自分はまず実戦のコンディションとか勘を取り戻してからだけど、それが整ってきたら、外には向いて行きたいですね。

——外っていうのは、それはリングス以外での闘いということですか？

成瀬 そうだね。自分は今後リングス内で実績を残したら、外に出ていきたいっていう希望はありますよ。変にリングス離脱とかじゃなくて、ちゃんとリングスで培ってきたものを試すっていうスタンスで。こうやって復帰まで漕ぎ着けたんだから、つまんない人生は送りたくないしね。「面白きこともなき世を面白く」って。誰の言葉か知ってる？

——全くわかりません！（笑）。

成瀬 高杉晋作の辞世の句なんですけど、今の世の中も本当に「面白きこともない世」だと思うんですよ。彼も争乱期の沸騰してる時代に生まれて、早く死んじゃったけど、自分の活躍の場をしっかりと見つけてるんですよ。こういう話をすると、なんか前田さんっぽいですけどね（笑）。

——アハハハハ！

成瀬 まあ、取りあえずは復帰して勘を取り戻すことが先決だし、今後リングスがどうなっていくかは自分でも読めないですけど、とにかく楽しくやりたいですね。あと、ルールは変わって良かったよ。逆に今のルールになってなかったらと考えると恐かったですね。

——それは時代的にということですか？

成瀬 それもあるしね。KOKになって、アレルギー起こした昔からのリングスファンとか、昔のエスケープがあった方が良かったって言う選手もいたけど、あの頃は2ヶ月に1

回っていう考えじゃなかったから。やっぱり毎月やるんだったらエスケープをナシにして、ラウンド制にしてやらないと、格闘技もどんどん進化していってるでしょ。昔はガードポジションとかポジショニングは重要視されてなかったけど、どんどん変わって来てるし、選手の健康管理を考えてもKOKルールに変えたのは良かったんですよ。それに自分にとっても、あのルールは良かったですね。

——それはどういった点でですか？

成瀬 やっぱりKOKルールならグーで殴れるし。前のリングスルールの時もそうだったんだけど、普段の練習って掌底じゃなくてグローブで殴ってるからね。今まではグーで殴っちゃって反則貰って負けちゃったこともあったし。今は一発でKO狙えるし、まあ、その代わり自分も一発貰ったらお終いなんでスリリングで楽しみですね。ゾクゾクしますよ。

——ホントに殺るか、殺られるかですよね。

成瀬 90キロ前後の連中が殴り合ったら、それはそれは凄いですよ。K－1もあるけど、あれよりももっと薄いグローブですからね。それで顔面パンチがダメだからグラップリングの技術がないとダメだしね。まあリングスは元々選手のクオリティーが高いですから、ルールが変わっても対応しますけどね。ハンもなんだかんだで対応してるし。この間は疑惑の判定だったけど（笑）。でも、やっぱり一番凄いと思ったのは、この間のBブロックで日本人が全員勝ち残ったことですよ。

MASAYUKI
NARUSE

——出来すぎの結果でしたからね（笑）。

成瀬 それに山本がしっかりメインを締めてくれたしね。でも、山本のセコンド付いたり、練習のサポートして改めて感じたのは、山本とか俺は不器用だなって。やっぱり前田さんから直で育ったテイストを受け継いでるんだなって気がしますね。やっぱり前田さんも俺とか山本には無茶なこと言うんですよ。

——こいつらなら、ここまでやらせても大丈夫だっていうのがあるんでしょうね。

成瀬 いま思えば結構無茶なスケジュールがあったり（苦笑）、それでも俺とか山本なんかは、これが最後だと思いつつ「押忍！」って言っちゃいますからね。まあ、そういう変な絆っていうのはあるのかも知れないですね。そういう意味で、休んでる間に思ったのは、やっぱり俺とか山本がリングスを考えていかなきゃいけないんだなって。前田さんが引退して、KOKが出来て結構受け入れられてるけど、これからのリングスをどうするかって言ったら、マット界の中心になりたいって言って簡単になれるもんじゃないけど、そういう意気込みでやっていかなきゃいけないなとは思いましたね。

——田村さんじゃないですけど、やっぱりジャパン勢には頑張って欲しいですからね。

成瀬 まあ今は、なんかドロドロしてる部分もあるけどね（笑）。

——ジャパン勢はドロドロしてますか（笑）。

成瀬 変な意味じゃないけど、それでいいんじゃないですか。それをドロドロしたままで終わらせるんじゃなくてね。

——スキャンダルを経営に結びつけられればいいわけですよね。

成瀬 そう。悪い方向に行くと安生さんみたいになっちゃうけどね（笑）。前田さんもよく言うでしょ。「格闘技はドロドロしたもんなんや」って。だから襲撃されたのかな？

今回の取材場所は成瀬選手の高校時代の友人がマスターを務める西麻布のBAR『LAND'S END』。運が良ければ成瀬選手にあえるかも ■OPEN PM.7：00～AM.5：00 ■年中無休
東京都港区西麻布4-4-11麻布クレセントB1 ☎03-5469-0878

（笑）。でも、いい方向に行けばお客さんも見にくるじゃないですか。長州さんと橋本さんの試合も賛否両論だけど、なんであれだけ盛り上がったかというと、もっとドロドロした闘いが見れると思ったからでしょ。そういう意味でリングスもドロドロしてていいと思いますよ。その方が面白いじゃないですか。

——ドロドロはしてないと思いますけど（笑）、田村対金原戦とかは見たいですね。

成瀬　見たいよね（笑）。金原さんが言ってたけど「ノゲイラに勝ったら、もうなんでも言えるよ」って。俺も「コメント楽しみにしてますから」って期待してるんですけど（笑）。そういえば「田村さんはアブダビに行けばいい」って『紙プロ』で言ってたじゃない？　あれ最高だったなぁ（笑）。金原さんはホントに嫌いだから言うんだろうけどね。

——まあ、結果を出した選手は何を言っても許されますからね（笑）。でも、好き嫌いは別にして、今のリングスで田村さんの力っていうのは、かなり大きいじゃないですか。

成瀬　それは認めてるけど、やっぱり彼に頼りっぱなしも良くないというか、それは情けない状況ですから。でも、直接対決で言わせたわけじゃないけど、今回、彼は一回戦で負けて、他のジャパン勢は勝ったってことで、ある程度示したと思うから。俺はまだ示してないのは残念だけど、自分も頑張って結果を出そうと思ってるしね。まあホントは今でもたくさん言いたいことあるんだけど、気の利いたことが言えないくらい今回の欠場期間っていうのはキツかったんですよ（苦笑）。

——今回、話を聞いてヘルニアの、つらさは十二分に伝わりましたよ。

成瀬　俺も結果出したら、言うこと言いますよ。有言実行じゃないけど、やってもいないのに言うのは良くないですからね。まあ、そうなったら残念だけど、復帰戦ではダメになってもいいぐらいの気持ちで闘いますよ。せっかく、試合組まれちゃったわけだから（笑）。

——組まれちゃいましたからね（笑）。でも、ファンならずとも復帰戦は必見ですね。

成瀬　そうですね。医療関係者も見とけ！

——「ヘルニア克服一番乗りは誰にも譲らねえぞ！」と（笑）。

成瀬　そうだね。だって、このまま終わってしまったらあんまりだぁ！（笑）。

——駄々っ子じゃないんだから（笑）。

成瀬　ハッハッハッ！……今日はあんまり面白いこと言えなくて読者の人にも申し訳ないけど、それほど深刻だったんで……なんか、今日の俺の発言『紙プロ』らしくないね（笑）。ちょっとシリアスすぎない？

——なに言ってんですか！　ウチはメチャメチャ、シリアスな雑誌ですよ（笑）。

成瀬　あぁ、そうか（笑）。でもまだ、ふざけられないし、復帰できるかどうかもわかんないしね……死んでもするんだけどね！

——月並みですけど、期待してます。ちなみに、いま興味のある格闘家って誰かいます？

成瀬　う〜ん、加藤鷹さんかな（笑）。

——アハハハ！　まあ鷹さんは男の憧れですからね（笑）。復帰戦では、加藤鷹級のテクでフィエートをいかせちゃって下さい！

【01年2月1日／西麻布のバーで収録】

和田レフェリー最強説を追え！

リングス・ジャパン勢はみんな和田さんの軍門にくだってるから！

前号の金ちゃんインタビューによって一部のファンの間で話題沸騰となっている和田レフェリー最強説！「和田さん強いんだよ。金原、桜庭を極める和田って（笑）。和田さんはリングスの最終兵器だから」との金ちゃんの発言を受け、成瀬にも和田レフェリー最強説は真実なのかを確認してみた。

——金原さんが言ってましたけど、和田レフェリーって、金原さんや桜庭さんも極めちゃうみたいですね？

成瀬　そうそう。リングス・ジャパンの選手はみんな軍門にくだってるから。アブダビとか、社会人のグレコの大会とかに出たら、絶対にいい所まで行くと思うよ。それ誰よりもベンチプレス上げるんですよ。

——ベンチプレスもリングス・ジャパン最強なんですか！（笑）。

成瀬　そうそう（笑）。スクワットだって誰よりもするし、誰よりもメシ食うしね。

——アハハハハ！　食べる量も選手以上なんですね（笑）。

成瀬　ホントによく食うね。それで、和田さんはスタミナは無いんだけど、身体能力が凄いんですよ。昔、陸上やってたみたいだから、特に瞬発力がずば抜けてるね。打撃はチキンなんだけど（笑）。

——スタミナと打撃が弱点と（笑）。

成瀬　そうそう。でもね、3分間だけだったら、技術をカバーする力があるんですよ。全員極められてるからね。これはホントだよ。

——得意技って何なんですか？

成瀬　アキレス腱固めだね（笑）。それに和田さんって、とにかく馬鹿力なんですよ。でも、ああ見えて凄く優しくて、道場の前の土手に階段があるんですけど、あそこに自転車のカゴに荷物を入れたおばちゃんとかがいると、走っていって手伝ってあげるんですよ。それで「お名前は？」って聞かれても、「名乗るほどの者ではございません」なんて言ってたりしてるからね（笑）。

——アハハハハ！　気は優しくて力持ちなんですね（笑）。

成瀬　あと、和田さんは愛妻家としても有名だしね。

——綺麗な奥さんなんですよね。

成瀬　そうなんですよ。まさに美女と野獣だよね（笑）。でも、本当にリングスの裏の実力者ですよ。裏ランキング1位だね（笑）。今度、桜庭さんに会った時に聞けばいいよ。和田さんは強いって言うと思うよ。

——なんといっても、金原、桜庭を極めた男ですからね（笑）。

成瀬　よく、和田さんには「アブダビとか、タイタン・ファイトに出て賞金稼ぎしたら」って言ってるんだけどね（笑）。

——出て欲しいですね。足関節が得意でスタミナがないコピィロフとのスパーリングは見たいですね（笑）。

成瀬　ホント同じようなタイプだよ。クソ力だし、誰よりもチャンコ食うし、誰よりも『東スポ』のエロ記事読んでるし（笑）。まあ、奥さんも子供もいるから、あんまりいじりすぎるのもあれなんで、こんなとこですね。でも、「冗談抜きで強いですよ、和田ポリスは（笑）。

※果たして、平直行に続き、リングス影の実力者・和田レフェリーの試合が見られる日は来るのだろうか？　ちょっとだけ期待して待とう！

3.20 RINGS『BATTLE GENESIS Vol.7』

ディファ有明にて 戦慄の“狂”対決実現！

リカルド・フィエート VS 成瀬昌由

「聞くところによると、フィエートは細く見えるけど打撃は重いし、力もあるって。グラウンドはそうでもないらしいけど、身体能力があってメチャメチャ暴れるから押さえ込むのはなかなか難しいだろうね。機会があれば打ち合おうと思ってるけど」とフィエートの感想を語った成瀬。今年のテーマは“狂”という成瀬。闘いに狂う男の姿を見逃すな！

BATTLE GENESIS Vol.7

3.20ディファ有明

聞き手／堀江ガンツ
interview by Gunts Horie
撮影／吉場正和
photographs by Masakazu Yoshiba

祝！　入門5年目にして遂に雑用から解放！

滑川康仁

金ちゃんの練習相手として、道場での強さには定評がありながら、なかなか結果が出せなかった滑川にようやくチャンス到来！　約11ヶ月ぶりの日本での試合としてA3ジムの園田との対戦が決定したのだ。負けは許されない他流試合。いま滑川の秘めたる闘志が爆発する！

滑川　すいませんね、園田戦ごときで話聞きに来ていただいて。

――園田戦「ごとき」ですか！　自信満々ですね！

滑川　ハイ！　ハッキリ言って、いま凄い自信あります！

――でも、園田選手もボクシングの実績があって、自信たっぷりらしいですよ。

滑川　ボクに勝てるって言ってるんスか？「言ってろ！」って感じですね。もしそれがボクの昔の試合のビデオを見て「自信ある」って言ってるんだったら、そんなの参考にならないっスから！

――昔のオレとは違う！　と。

滑川　前回日本でやったのはもう一年も前（H12年4月20日）ですからね（苦笑）。準備期間があるすぎるくらいあって、寝技も立ち技も凄い集中して練習できたんで、いまは誰がきても自信あるんスよ。

――じゃあ今回は相手にとって不足アリって感じですか？（笑）。

滑川　そんなことはないですけど、油断はしませんよ！

――園田選手は小路選手のジム所属ですから、「勝ったら小路とやらせろ」みたいな気持ちはあるんですか？

滑川　やらせていただけるならやりたいですね。ボクいま92キロで小路さんとは体重が同じくらいなんですよ。でもボクと同じくらいの体重でマーク・コールマンとかとやってるんだからやっぱり凄いっスよ。だから小路さんみたいな選手とマッチメークされるくらいの実績を今年は作ります。自信はあるんで。

――いやぁ、こんな強気な滑川さんは初めてですね（笑）。その自信はいったいどこから来るんですか？

滑川　一年前に入門した新弟子が仕事覚えたので、ボクの負担がかなり軽くなったんですよ（笑）。

――あっ、遂に雑用から解放されつつある、と（笑）。

滑川　まだまだ気は抜けないんですけどね。新弟子の帰りとか遅いと「あいつどこ行ってんのかな？」って心配になりますから（笑）。でも負担が減ったのはホント大きいっスよ！

――雑用の時間が減って、必然的に練習量が増えたわけですね？

滑川　もう全然違いますよ！　それに練習量だけじゃなくて、練習環境も申し分ないっスから。金原さんに言われたんですよ「オレと桜庭の二人に練習してもらえるのは、お前と松井（大二郎）だけだ」って。そういう意味でいまは誰とやっても自信ありますね。

――もともと滑川さんは道場での評判は無茶苦茶高いですもんね。金原さんだけじゃなく、坂田さんも「滑川は強くなった」って言ってますから。

滑川　そうですか。ありがたいです。

――だからそれを絶対試合に出さないとダメですよ！

滑川　もう、任せてください！　今回のボクは闘争本能がありまくりなんで。一年間日本で試合が出来なかった分、次の試合で爆発しますよ！

――今日の滑川さんはホントにいいですね！（笑）。

滑川　勝ったらデカイこと言いますよ！　ずっと言うこと考えてたんですけど、一年間言うチャンスがなかったんで（笑）。

――アハハハハ！

滑川　田村さんに対してボクが噛みついたっていいじゃないですか。いままでは試合もしてないし、何の実績もなかったので、言えたもんじゃなかったんですけど（笑）。ボクは田村さんが嫌いでもあり大好きでもあるんで、いつか胸をお借りしたいですね。

――今日は滑川さんのインタビュー史上最高の内容ですよ。残念ながら、わずか1ページなんですけど（笑）。

滑川　今年は結果出しますよ！　そういえばこの間、前田さんが「ブラジル人に勝ったらなんか買ってやる」って言ってくださったんですよ（笑）。

――ロレックスですか（笑）。

滑川　だから買ってもらえるようにブラジル人と組まれるくらいになりたいですね。

――最後に何か言いたいことはありますか？

滑川　言いたいことは勝ってからいいます！

――期待してます！

滑川の対戦相手は小路晃からの刺客！

ブッ倒すことしか考えてないまぁ、どうにかなりますよ

――今回、初めてのリングス参戦になるわけですけど、意気込みを聞かせて下さい。

園田　いや別に。自分は、どんなルールでも組まれたら闘うんで。不景気ですから（笑）。

――KOKルールは自信はあるんですか？

園田　KOKも相手の滑川選手のビデオもまだ見てないんすよ。まあ、ブレイクが早いっていうのは聞きましたけど、自分はあんまり寝技は得意じゃないんで良かったッスね（苦笑）。

――ボクシング歴が長いだけに、当然、スタンド中心の展開に持ち込みたいわけですよね。

園田　そう言われると寝技でやりたくなりますね。ひねくれもんなんで（笑）。勝算ですか？もちろん勝つつもりでやるけど、勝負に絶対ってないし、わかんないッスよ。でも、自分はスタミナないんで早めに倒せたら嬉しいッスね。

――小路さんは、「魂を見せてもらいたい」って言ってましたけど。

園田　なんとか見せられるようにしますよ。

――初めて園田選手を見るお客さんも多いと思いますけど、セールスポイントを教えて下さい。

園田　いや、客は関係ないッス。自分が満足できればそれで充分なんで。それで周りが見て面白かったら良かったねって感じで。

――園田さんの得意技は何ですか？

園田　寝技よりは立ち技の方が得意ですけど、試合になると大振りになるんですよ（笑）。もうブッ倒してやろうってしか考えないんで。あと自分は技っていうより間を外すのが得意ッスね。相手が来たなって時に、わざと引いてみたりとか。まあ、どうにかなりますよ（ニヤリ）。

園田 隆　1975年5月8日、埼玉県出身。182cm・90kg。小路晃が主催するA3ジムから初参戦。プロボクシングでは5戦4勝を挙げ、掣圏道、ウルフレボリューションにと参戦経験を持つ。柳澤龍志を打撃で追い込むなど実力者であることは間違いない。（オフィシャルより）

BATTLE GENESIS Vol.7

3月20日(火・祝)ディファ有明(17：00ゴング)

大阪プロレス、ストライプル、慧舟會、A³ジム……
実力とネームバリューを兼ね備えた他流派が続々集結！

リングス磁場復活!!

これは"実験リーグ"の興奮だ！

"グレイシーハンター"
村浜武洋がリングス再登場！

村浜武洋(大阪プロレス) VS **ブライアン・ロアニュー**(リングス・オランダ)

リングスの総力を結集した2・24両国『KOKグランドファイナル』のわずか1ヶ月後。しかも会場も後楽園より若干小さいディファということで、対戦カード的には正直言って期待薄だった3・20ディファ有明『バトルジャネシスVo.7』であるが、予想を大きく上回る刺激的なカードがズラリと出揃った！

今年創立十周年を迎え、大攻勢を仕掛けてくるリングスが、いよいよ中量級に本腰を入れてきた、そんな意気込みがヒシヒシと伝わってくるラインナップである。では早速、各対戦カードの見どころを紹介していこう。

まず、なんといっても注目は1・8『DEEP2001』で、ホイラー・グレイシーと殊勲のドローを演じ、総合格闘家としての評価を一気に上げた村浜武洋のリングス〝凱旋〟。対戦相手のブライアン・ロアニューはリングス・オランダの新鋭。総合デビューとなった昨年9月はP・ミレティッチの弟子、第2戦はホイラーと総合のセオリーを身につけた相手が続いた村浜だが、今度は〝喧嘩屋〟オランダ軍団が相手ということで、村浜本来の魅力である大打撃戦が見れることは確実だ。またロアニューは1月28日に行われたリングスオランダ大会で、キック界の大物ギルバート・バレンティーニにTKO負けを喫しており、SB時代にバレンティーニを破っている村浜には豪快なKO勝ちを期待したい。

続いてリングスではレフェリーを務める平直行が満を持して選手として登場！　現在はバトラーツでプロレスラーとして活躍する平だが、ST、SB、柔術を身につけ、かつては「総合格闘技の申し子」と呼ばれたことは有名。しかも、次々と派手な技を繰り出す「早過ぎた桜庭」的存在だけに、今回のKOKデビューも大いに期待できる。その対戦相手は驚くべきことに港太郎！　港と言えば金泰泳、吉鷹弘らと名勝負を繰り広げた90年代を代表するキックボクサー。港は昨年キックを引退したが、元々キックをやる前はST（修斗）で非凡な才能を見せ、現在はレスリング特訓に余念がないという。このような二人の対戦となると、どうしても93年に行われた「第1回実験リーグ」のメイン「平 vs 後川俊之（正道会館）」を思い出さずにはいられない。

「実験リーグ」とは、まだ修斗がブレイクする遥か前に、リングスが「中量級の活性化」を目指し、多くの団体から一線級の選手を募り開催した文字どおり実験的な大会。そこには、何か新しいものが生まれそうな期待感に溢れており、当時のリングスの先鋭的なイメージにピッタリの大会だった。今回の「バトジェネ」のカード、メンバー、コンセプトは、そんな当時の「実験リーグ」の興奮を彷彿させる。そしてメインに登場するは、かって「実験リーグ男」と呼ばれた成瀬昌由！

はたしてリングスは、この大会を機にかつての先鋭的でグローバルな〝イメージ〟を取り戻すことができるか？　絶対に見のがせない大会である。

（堀江ガンツ）

レフェリーシャツを脱ぎ捨て平直行登場！
相手はなんと"あの"港太郎!!

平直行(ストライプル) VS **港太郎**(フリー)

その他のカード

成瀬　昌由(リングス・ジャパン)	VS	リカルド・フィエート(リングス・オランダ)
滑川　康仁(リングス・ジャパン)	VS	園田　隆(A3ジム)
上山　龍紀(U−FILE　CAMP)	VS	江　宗勲(和術慧舟會東京本部)
大久保　一樹(U−FILE　CAMP)	VS	森　素道(SK　ABSOLUTE)

チケット情報

■入場料金　RRS席（1〜3列目）¥10,000ー RS席¥8,000ー S席 ¥6,000ー A席 ¥4,000ー　学生特別優待席 ¥2,000ー　※学生特別優待席は「チケットぴあ」のみでの販売。なお、高校生以下に限る。要学生証提示。

■発売場所
チケットぴあ　03-5237-9999
チケットぴあPコード予約　03-5237-9966(Pコード594-030)
ローソンチケット　03-3569-9900(Lコード36605)ほか
■お問い合わせ　(株)リングス　03-3461-0257

BATTLE GENESIS Vol.7

小路晃 [A³-gym]

聞き手/チョロ
interview by Choro
撮影/モーリー
photographs by Morry

昨年暮れの『PRIDE.12』では無名の強豪・ヒカルド・アルメイダに血まみれの判定負けを喫し、続いて行われた大晦日の『猪木祭り』では宇野薫とタッグを結成、プロレスのリングへ登場するという激動の世紀末を送った小路晃。新世紀とともに、ここ何年か連れ添ってきた盲腸とおさらばした小路は、満を持してマット界最前線へと殴り込みをかけるはず。そこで、小路に「2001年に懸ける意気込み」を熱く語ってもらった。今年の小路はちょっと…いやっ、かなり違う！　読めばわかるさッ!!

—小路さん、ズバリ言って、現在の体調は百点満点で何点ぐらいですか？

小路　え、百点満点？　いやぁ～、体調は80点ぐらいかなぁ（苦笑）。

—そうですか。小路さんは、21世紀早々に盲腸の手術をしたみたいですけど、まだまだ本調子ではないみたいですね。

小路　そうッスね。まだ、なんかしっくりこないですねぇ。あっ、でも、体調が悪いとかっていうのは、あまり書かないで下さい(微笑)。今度の試合までにはバッチリ仕上げますから！（キッパリ）。でもちょっと風邪もひいちゃってて、大丈夫かなぁ……（突然、キリッとした表情に変わり）いや、大丈夫ですッ！

—自問自答しないで下さいよ（笑）。なんか、盲腸は長い間引きずってたみたいですね。

小路　はぁ、引っ張っちゃいましたねぇ（微笑）。薬で5回も6回も散らしてるっていう人もいるみたいですけど、さすがに、そろそろ手術しないとヤバイなぁって感じて、21世紀になったし、思いきって切っちゃえと。

—思いきりましたか（笑）。ちょっと遡りますけど、アルメイダ戦は残念ながら判定負けという結果になりましたね。

小路　（悔しそうに）はぁい。

—試合後は、小路さんにしては珍しくノーコメントでしたけど。

小路　あぁ、そうッスね。あの時は自分で蹴った足が痛くて歩けなかったっていうのもありますし、（小声で）やっぱり悔しくて、人前に出たくなかったっていうのも正直あったし、言い訳はしたくなかったですから。それにホントは内緒にしてたんですけど、どっからか盲腸っていうのが漏れてたみたいで。

—だいぶ漏れちゃってましたね（笑）。

小路　こうなったら、この悔しい思いは『猪木祭り』でぶつけるしかないと！

—アハハハ！　でも『猪木祭り』の時もバックステージでは足を引きずってましたよね。

小路　足にはテーピングをグルグル巻きにして、それと、痛み止めをケツから突っ込んでリングに向かいました（微笑）。

—そこまでしてまでも、あの日はリングに上がりたかったわけですか？

小路　そうッスね！　お話を頂いた時点でやりたいと思いました。まあ、「俺が出ないで誰が出る！」って思いもあったし（微笑）。

—それは頼もしいですね（笑）。

小路　絶対にやりたいと。それに、どうせやるならルチャでって決めてましたから！

—決めてましたか（笑）。聞いてるとは思いますけど、猪木さんは、小路さん達の試合は、あまり認めてなかったみたいですね。

小路　（肩を落として）そうみたいッスね。でも、ボクも猪木さんの試合を見て育ちましたけど、やっぱり猪木さんの闘い方っていうのは三日坊主じゃ出来ないですから。

—三日坊主じゃ難しいでしょうね（笑）。

小路　だからってルチャが出来るかって言われたらそうじゃないですけどぉ（微笑）、そういうルチャの練習っていうのは、今でも道場で遊びでやったりしてますから。

—遊びでやってますか（笑）。

小路　（焦って）いや、道場で遊んじゃいけないんですけど（苦笑）。でも学生時代、マットでルチャの技を研究したりしてたんで。

—ルタ・リーブレよりルチャ・リブレを取り入れたりしてたわけですね（笑）。

小路　そうッスね（微笑）。

—でも、プロレスにも様々なジャンルがありますけど、ルチャって難しいですよね。

小路　ほんっと難しいッスよ。ボクはルチャの中でも表面的なところだけちょっと見よう見まねでやらせてもらったんですけど、ブラソ・デ・プラタとかブラソス兄弟なんかの試合を見てもすっごい奥が深いですよね。

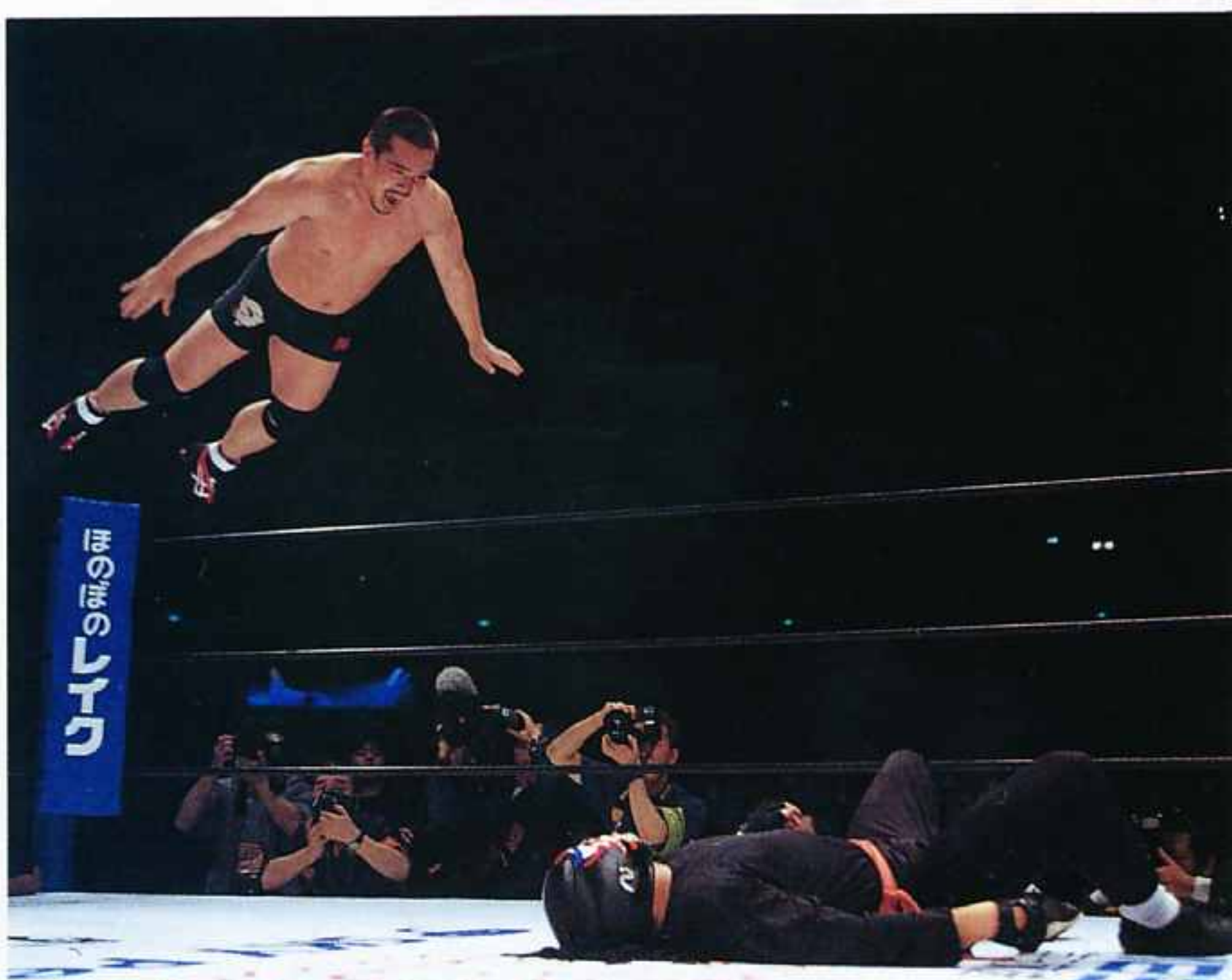
—毎回毎回、お約束の攻防も、何度見ても飽きないですからね。

小路　面白いッスよ。それにルチャにも〝闘い〟はありますからね。プロレスの奥深さもボクは知ってるつもりですけど、ルチャだってかなり奥が深いですよ。やっぱり、ルチャは猪木さんのストロングスタイルとは全然違うんで、ボクはやろうと思っても身体が小さいし、出来ないですよ。「じゃあどこで見せるんだ？」っていったらそういうところでしか見せられないですからね。

—逆に全対戦カードを見て、どういう試合が小路さん達に望まれているかっていったら、小路さんがやったような「明るく楽しく激しい」スタイルだと思うんですけどね。

小路　そうッスよね。ちょうどそういうポジションだったんで……ボク的にはそんなに悪い試合だとは思わなかったんですけど。

—確かに会場では、小川対安田戦の次ぐら

『猪木祭り』は「俺が出ないで誰が出る！」って思いがありましたから

見よ！　これがアルメイダ戦で何度も飛び出した小路晃のジャンピングニー！　この技で勝利を収めたら、みんなで「オーッ！（×30）」だ。今年の小路は〝明るく激しく楽しい〟格闘技を見せてくれるはずだ！

見よ！　これが『イノキ・ボンバイエ』でのサスケ&松井戦で飛び出したダイナマイト・キッドばりの小路晃のダイビング・ヘッドバット！　今年の小路は〝明るく激しく楽しい〟プロレスも見せてくれるはずだ！

いに沸かせてたのは事実ですからね。

小路 でも、そうでしたよね（笑）。

——そうだったんですけど、格闘技マスコミからもあまりよく思われてなくて、プロレスマスコミからも「学生プロレス以下」とか、ヒドイこと書かれてましたからね（笑）。

小路 （不機嫌そうに）正直言って、なんでそこまで言われなきゃいけないのかなぁって思いましたね。

——『ゴング』の金沢編集長は「あの試合は学プロ以下。あれは、温泉旅館の大広間でやってればいい」って書いてましたし（笑）。

小路 マジっすか！（怒）。ボロクソじゃないですか。ムカつきますね。正当な評価して欲しいですよ。（悔しそうに）そんな悪くなかったと思うんだけどなぁ。

——『猪木祭り』は『ゴング』的にはダメで、逆に1・4の新日ドームがいかに素晴らしかったかっていう論調なんですよ（笑）。

小路 （小声で）なんかお金が絡んだりしてるんですかねぇ……冗談ですけど（微笑）。

——アハハハハ！ それはわかりません（笑）。小川（直也）さんなんかは『週刊長州力』とか言ってますからね（笑）。

小路 ボクもそう思います！ やっぱり『週刊長州力』ですよ（微笑）。今のは書いておいて下さいよ！ 『ゴング』の編集長は金沢さんでしたっけ？

——ファンからは、GKって親しまれてますけどね（笑）。

小路 ちゃんと名前覚えておかなきゃ。長州さんとベタベタなんでしたっけ？

——「おい、金沢！」って呼ばれてますからね（笑）。でも「小路、この野郎！」と言いながらも、サスケさんは小路さんに百点満点をあげてましたよね。

小路 あれは素直に嬉しかったですね（微笑）。チャンピオンから点を付けて頂いて。

——タイミングがあったらもう一回プロレスのリングに上がりたいと言ってましたね。

小路 そうッス。新たな敵を求めて、みちのく方面をぶらり一人旅したいですね。（急に思い出して）あぁ～、でも「学生プロレス以下」って、ナメるなって感じですね！ ちっきしょ～う！ あっ、そうだ！ あと「SRS・DX」も評価悪かったですね。

——そうでしたね。『紙プロ』的には面白かったっていう声が多かったですよ。

小路晃2001年の抱負

その1

今年はPRIDEはもちろん、リングス、オクタゴンでも暴れるゼ。!!
2001 小路晃

何やら自信ありげに抱負を掲げる小路。宣言どおりに、リングス、オクタゴン、さらには長州力とのバーリ・トゥード戦まで漕ぎつけることは出来るのか？ 今年の小路の動向には要注目！（マジで）

田村さん、ハンさん、長州さん、サスケさん……ボクの挑戦をうけて下さい！

小路 （嬉しそうに）ありがとうございます（微笑）。やってて面白かったし、見てても面白かったんだけどなぁ。それに『猪木祭り』で最後にモチ投げてた時は目頭熱くなってましたからね。

——アハハハハ！

小路 「なんで俺はここにいるんだ！」って。夢かと思いましたからね。隣に猪木さんがいて、だって、餅ついてるんですよ！

——確かに餅ついてましたけどね（笑）。

小路 自分はもともと青柳館長に拾われて……拾われてって言ったらおかしいですけど（笑）、それでインディー系で何試合かやらせてもらったっていうとこから考えたら、もう大舞台ですよね。

——確かに、今はなきインディー団体からドームレベルの興行に出るといったら凄いことですからね。大出世ですよ！

小路 ホントにオールスター戦っていうか紅白歌合戦みたいなノリでしたからね。

——小路さん的にはホントに歌いたかったんじゃないですか？ 尾崎豊とかを（笑）。

小路 やっぱ、ドームとかで歌えたら気持ちいいんでしょうね（微笑）。

——でも、『猪木祭り』の控室とかで、橋本（真也）さんに『ZERO―ONE』に誘われたりとかしなかったですか？（笑）。

小路 あぁ、それはなかったですけど、橋本さんには、いろいろと話しかけてもらいましたね。あと、武藤（敬司）さんとはいっぱい話しました。

——そういえば、小路さんは、武藤さんと『SAMURAI！』の収録で対談したことがありましたからね。

小路 そうッス。でも、会場で最初に見た時は、さすがにビックリしましたね（微笑）。

——いきなりスキンヘッドになってましたからね（笑）。

小路 武藤さんからは「プロレス学校やろうと思ってるんだけど、誰かいい選手いない？」って言われたんですよ。思わず「ボク行きます！」って言いそうになりましたね（微笑）。

——アハハハハ！ 武藤さんのプロレス学校と小路さんのA^3―gymジムが提携とかしたら、いろいろと夢は広がりますよね。

小路 それはいいッスね。夢ありますね。

——『猪木祭り』には小路さんの他にも『PRIDE』で活躍している（マーク・）コールマンとかマーク・ケアーも出場したわけですけど、そういった選手が、これから新日にも上がるんじゃないかって言われてますけど、小路さん的にはどう思います？

小路 やっぱり上がるんですかね？ 一回貸したらお返ししなきゃいけないと。行って来いですね（微笑）。

——アハハハハ！ さすが元レスラー（笑）。

小路 はぁい（微笑）。でも、ボクもなんかのタイミングで新日に出る機会があるんだったらライガー選手とやりたいッスね。

——小路さんは、前からライガーさんと闘ってみたいって言ってますよね。

小路 やりたいッスね。まあでも、二足の草鞋は難しいと思いますけど、ボクはプロレスも好きなんでタイミングが合えばやってみたいです。平（直行）さんに会うと「早くおいでよ」って言われますからね（笑）。

——アハハハ！ でも、その平さんも今度リングスでKOKルールに挑戦しますからね。

小路 （驚いて）えっ、そうなんですか！ それは見たいですねぇ。

——リングスといえば、『ゴン格』の企画で前田社長と会ったみたいですけど、今年は〝ミスタープライド〟小路晃のリングス参戦もありそうな勢いですよね。

小路 そうッスね。リングスさんにも強くて凄くいい選手がたくさん揃ってますからね。今年中にはリングスにも上がると思います！

——それは楽しみですね。『PRIDE』、『猪木祭り』、リングスをまたに掛ける選手っていないですからね。小路さんはパンクラスにも出てますし（笑）、まさに、ひとり夢の架け橋状態ですよ。

小路 言われてみるとそうッスよね。やっぱ

——30回はやり過ぎですけど（笑）、それは

小路　言われてみるとそうッスよね。やっぱり、やるからには強い選手とやりたいです！
——具体的に誰とやりたいとかありますか？
小路　自分は日本人対決がやりたいッス！
——小路さんは『PRIDE』でも「藤田さんと闘いたい」とか、日本人対決をアピールしてましたけど、なかなか希望するカードは組んでもらえないですよね（笑）。
小路　はぁい（微笑）。意地張っていきたいッス。田村（潔司）さんとも闘ってみたいし。
——田村対小路戦ですか？　それは見たい！
小路　あと、ボクはヴォルク・ハン選手ともやってみたいんですよ。なんか最後の幻想ってイメージがありますし。小さい頃からずっと見てたんで。自分の中ではヒクソンよりハン選手の方が幻想がデカイですからね。
——みんながヒクソンに走るんで、小路さんはハンとやりたいと（笑）。
小路　はぁい（微笑）。最初に見たとき、ハンは前田さんと闘ってたんですけど、凄い選手がいるなぁ、世界は広いなぁって、幼心に思った記憶があります。
——幼心に（笑）。でも、小路さん的にKOKルールはどう思います？
小路　初めて見たとき、これは面白そうだなって思いましたね。見てて面白いんですけど、やったらキツイんだろうなっていうのが第一印象です（笑）。
——確かに、しんどそうですよね。
小路　でも、それからちょっとKOKっぽい練習もやってみたりしてるんで、もし決まったとしても、それに向けて練習を重ねていけば大丈夫だと思います！（キッパリ）。
——なにげにって言ったら失礼ですけど、小路さんは打撃も相当いけるんで、すぐ対応できそうですけどね。
小路　（謙遜して）いえいえ。パンチももっともっと練習しないと難しいでしょうね。でも、今年はKOKだけじゃなくオクタゴンとかもガンガン上がりたいッスね。
——今年は無差別に攻めて行くわけですね。
小路　今年はいろいろと攻めていきます！
——去年一年は桜庭さんとか藤田さんが『PRIDE』の中で目立ってましたけど、小路さんは今年、どうやってその中に食い込んでいけるかっていう勝負だと思うんですよ。
小路　ボクも今年はその中に一枚加わりたいッスね！
——結果だけ見たら小路さんも全然ひけを取らないですからね。
小路　そうですよね（微笑）。そのためには、やっぱりスカッと勝つっていうのが一番見栄えがいいと思うし、あとは打撃で勝つっていうのもひとつだと思いますし……そこら辺ですかね？　どうすればいいスかね（笑）。
——アハハハ。その調子で、迷わずガンガン行けばいいと思いますよ。
小路　行けばわかりますかね（微笑）。
——おそらく（笑）。なんか、打撃で勝つっていうのも狙ってるみたいですけど、アルメイダ戦でも跳びヒザ蹴りとか派手な技もガンガン出してましたよね。
小路　そうッスね。でも、あれは跳びヒザじゃなくて、ボクの中ではジャンピングニーなんですよ。
——ジャンボ鶴田ばりに（笑）。
小路　はぁい（微笑）。でも、ちょっと連発しすぎでしたねぇ。あれで勝ったらセカンドロープに登って「オー！　オー！」って30回ぐらいやろうと思ってたんですけど。

——30回はやり過ぎですけど（笑）、それは見てみたいですね。『猪木祭り』での松井さんとのラリアットとヤクザキックの応酬も凄かったですからね（笑）。
小路　あぁ、ヤクザキックも『PRIDE』とかで出したいですねぇ。
——プロレス心のある選手だと『PRIDE』のリングとはいえムキになってやり合うこともありえるでしょうけどね。
小路　なんか、アレクさんとかだったら返してくれそうですよね（微笑）。
——まあでも、『PRIDE』で、そういうことしたら批判する人もいるでしょうね。
小路　叩かれるかもしれないですけど、それは意地の張り合いなんでいいッスよね。亀になって「来てみろ！」とかやりたいッスね。
——アハハハ！　では、今年の『PRIDE』での目標を聞かせて下さい。
小路　『PRIDE』での今年の目標は……テレビにちゃんとダイジェストじゃなくて、ノーカットで出れるようになりたいです！
——アハハハハ！　でも、それは重要ですね。やっぱり、テレビの力って大きいですからね。
小路　そうッスね。大きいです！

小路晃2001年の抱負

その2

『猪木祭り』で因縁勃発（笑）の小路とサスケ。やれんのかーッ！　この「小路晃・今年の抱負サイン」を2名の方にプレゼントするんじゃあ！　ガンガン、ハガキを送ってくれ！　宛先はP151参照。

―となると、ダイジェスト扱いされないようなインパクトのある試合をするしかないですね。やれんのかーッ！（笑）。

小路　やりますよ！　でも、自分で満足したと思ってもカットされちゃったらダメなんで、みんなに評価されるような試合をします！　桜庭さんだけが『ＰＲＩＤＥ』の顔じゃないんで、ボクも頑張ります！

―かなりやる気ですね。そういえば、小路さんは、1月31日で27歳になったんですよね。

小路　（恥ずかしそうに）こう見えて桜庭さんとかより全然若いんですよね（微笑）。

―桜庭さんは32ですし、藤田さんや田村さんとか30代の選手は多いですからね。

小路　みんなボクの方が年上だと思ってますよね（微笑）。

―それはないでしょう（笑）。でも最近、小路さんは、今の桜庭さんの年になったら同じぐらいの活躍をしてたいって言ってますけど、でも、よく考えたら27歳っていったらバリバリじゃないですか（笑）。

小路　そうですかね？　話は変わるんですけど、やっぱり、自分が目立たないのは、地味だからですかねぇ？（微笑）。

―いや、そんなことないですけど、小路さんは自分で地味だと思ってるんですか？

小路　そうですねぇ。ホントは、ちょっと派手にリック・フレアーみたいな感じでやりたいんですけどね（微笑）。

―アハハハハ！　ゴージャスなガウンを着た小路さんはぜひ見たいですね（笑）。

小路　一回やってみたいですねぇ。三歩歩いて倒れたりしてみたいッス（笑）。

―アハハハハ！　でも、最近はファイトスタイルもアグレッシブになってきてるし、それに茶髪だし（笑）、いろいろと派手になってきてますよね。

小路　そうッスね（微笑）。「変わらなきゃ」ってＣＭで見たんで、ボクも変わらなきゃって思いまして。

―アハハハハ！　そういえば、去年の『ゴン格』での魔裟斗さんとの対談では、「オッサン連中はぶっ飛ばして俺達の力で盛り上げたい」って言ってましたけど、オッサン連中と試合をしたいとかは思わないですか？（笑）。例えば谷津さんとか。オリャ？

小路　谷津さんはやりづらいッスね。ボク小学校の時一緒に写真撮ってもらったんで。

今年はTV中継でダイジェストじゃなくノーカットで出られるようになりたい！

―アハハハハ！　そんな理由ですか（笑）。

小路　実家にまだ飾ってありますから。そういう人とはやりたくないですね（微笑）。

―ボク的には長州さんなんかと是非やって欲しいですけどね。

小路　（即座に）それは、やりたいッスね！　桜庭さんも言ってましたけど「長州さんはプロレスラーがすぐバーリ・トゥードも対応できるとか言っちゃダメだ」って。自分もそう思いますし、それはおかしいですよね。（急に大仁田口調になり）オイ、オイ、オイ、じゃあやってみろよ、長州さんよぉ！

―アハハハハ！　長州さんとは写真撮ってもらってないんですか？

小路　長州さんとは撮ってないです（微笑）。

―それなら大丈夫ですね（笑）。長州対ヒクソン戦もあるんじゃないかってよく言われてますけど、「ヒクソンの前に俺と闘え！」っていうのもいいですよね。

小路　あぁ、いいですねぇ（微笑）。長州さんは完全復帰しましたもんね？

―そうですね。この間の全日のドーム大会で、健介さんが天龍さんに向かって「今は俺達の時代だ！」って言ってたんですよ。会場的には「えっ？」って感じでしたけど（笑）。

小路　今さらですよね（微笑）。でも、ボクも俺達の時代宣言しようかな。もう27なんで俺達の時代でもいいですよね？

―全然いいと思いますよ（笑）。でも、俺達ってどの辺の選手になるんですか？

小路　そうですねぇ……（ボソッと）塚ちん（塚本徳臣）。いまお騒がせ中ですけど（笑）。

―お騒がせしてますね（笑）。小路さんも一緒に悪さしてるんじゃないかって心配してる人もいると思うんですけど。

小路　いやいや、ボクはしてないッスよ（苦笑）。まあ、塚ちんは魔が刺したんでしょうね。いまは神様がちょっと休憩しろと言ってるんでしょう。でもまあ、ああいう男なんでしっかり復活すると思いますし。塚ちんにはエールを送りたいですね。

―他には誰かいますか？

小路　あとは魔裟斗もそうですし、もちろん慧舟會のみんなもそうですし、パンクラスの近藤（有己）選手とも塚ちんと一緒にメシを食べに行こうって言ってるんで。

―ずいぶんとバラエティーに富んだ俺達の時代ですね（笑）。俺達の時代を証明するために、今年は何を見せてくれますか？

小路　そうですね、とにかくテレビでダイジェストにはされたくない！（キッパリ）。

―アハハハ！　こだわりますね（笑）。

小路　はぁい（微笑）。脱ザイ……脱ジャイ……脱＆■％◆＄＃★（噛んでうまく言えず）

―アハハハ！　言えてないですよ（笑）。

小路　（気を取り直して元気に）今年は脱ダイジェスト宣言です！（微笑）。

―期待してます（笑）。

小路　あと、やっぱり、みちのく一人旅は実現させたいッスね（微笑）。

―もちろん、それも期待してます（笑）。

小路　ガンガンいくぞぉ、ガンガン!!

【平成13年2月6日／東京・板橋A^{3}·Gymにて収録】

紙の新聞

2月号

あのワンギャルがむさ苦しい『紙プロ』編集部にやってきた！ これはワンギャル（と他約1名）が専門各誌に「ヒクソンを倒すのは誰か？」を聞いてまわる企画だったが、本誌は例によって山口日昇が失踪！ 苦肉の策で影武者ガンツが出演し「もちろん長州力選手ですよ！ たかが400勝しかしてないヒクソンが、プロレスで1000勝以上してる長州に勝てるわけがない！」と熱弁を振るったが、案の定カットされた。ま、浜部さんの話が全面カットされた週プロよりいいか。

編集長／堀江ガンツ　　助手／水戸泉、珍

TBS『ワンダフル』が紙プロ編集部を襲撃!!
しかし、オンエアはされず……ハァ～、カックン

紙プロ命

1/16 【新日本プロレス】
ドラゴン、新生WCWに興味津々

1月11日にかねてから噂されたWCWの身売りが正式に発表され、新社長にはあのNWOの黒幕E・ビショフが就任することが判明した。この衝撃ニュースによせばいいのにドラゴンが強い関心を示した。ドラゴンはこれまでゴールドバーグ招聘失敗等、WCWにほとんど相手にされていなかったにも関わらず、旧知のビショフが社長就任したというだけの理由で「いい形に戻る。今までできなかったことができる」と脳天気に断言。早速渡米準備に取りかかった。しかし、99年にビショフ氏と会談した際は結局何の成果も残せず「あの会社とは仕事ができない!」と吐き捨てたドラゴンだけに、あまり期待はしないでおこう。

【FMW】後楽園　冬木が勝てば引退、負ければ離婚。黒田が負ければ京子と結婚という理不尽マッチで、冬木が辛勝。

1/21 【ワールド・レスリング・フェデレーション】
WWFが横綱・曙にラブコール

引退を表明した横綱・曙に対し、WWFが遂に獲得の名乗りを上げた！ これはWWFの解説者であり幹部であるジム・ロスが「WWFとしてはゼヒ欲しいタレント。費用は掛かるだろうがそれだけの価値がある」と獲得意志を表明したもの。これに合わせたように元力士のキング・ハクがWWFに電撃参戦するなど、WWFの受け入れ体勢は早くも万全といえる。一方、日本に目を向けてみると新日本の社長、ドラゴンは「大巨人アンドレの再現。咽から手が出るほど欲しい!」と熱烈歓迎を表明したかと思えば「相撲協会との問題もあり、じっくり見守りたい」と、いつものように玉虫色で優柔不断な発言（by武藤）。ここでもやはり遅れをとったようだ……。

1/23 【リングス】新東京交際空港
前田、ロシアで英雄扱いされ凱旋

第1回コマンドサンボ選手権大会視察を終え、この日前田日明がロシアから帰国した。ロシアでは「日本の英雄」「カレリンを苦しめた男」として英雄扱いされたらしく、この日の前田は成田恒例の（?）暴言もなく上機嫌。予定されていたプーチン大統領との会談こそ見送られたものの、内務省、軍、さらには旧KGB幹部との会談に成功し、コマンド・サンビストのみならず、柔道、レスリングの五輪級の選手の招聘の確約を得ることにも成功したという。さらに、9月に予定される「コマンドサンボ世界大会」ではKOKルールの採用が内定。世界に広がるリングス・ネットワーク！　でも、ルール無用のコマンド・サンボとスポーツ性の高いKOKは相反するような……。

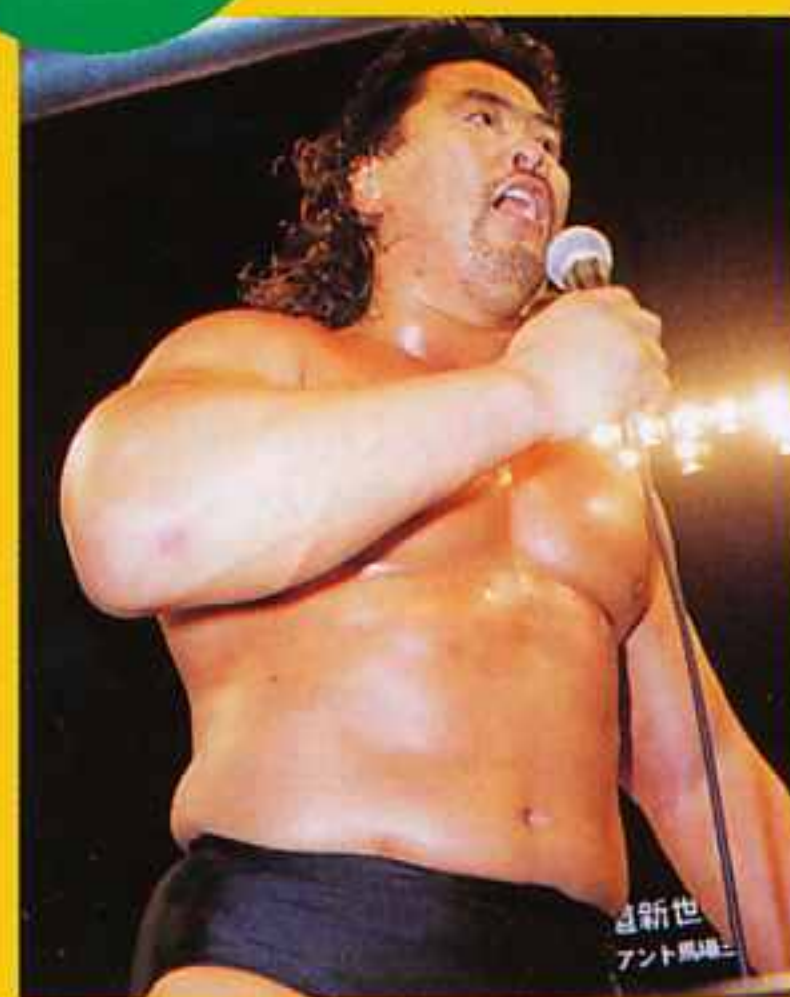
1/25 【新日本プロレス】新日本プロレス事務所
"永島のオヤジ"が武藤vs白覆面をブチ挙げる！

"タヌキおやじ"こと新日本プロレスの永島取締役が、アントンが2・18両国へ登場に対して出した「3つの条件」への返答として、両国の武藤の対戦相手をなんと"白覆面"と発表した。この発表にアントンが激怒！ なぜかドラゴンを呼びつけ、「カードをひっくり返すこともあるから覚悟しろ!」と頭ごなしに叱りつけたという。またしてもドラゴンがとばっちりを受ける笑撃の展開となったが、問題はなぜアントンがドラゴンに対して「カード変更」を告げたかである。まさか！ 武藤の対戦相手は白覆面ではなく"城"覆面（ドラゴン）なのでは……！

1/26 【新日本プロレス】新日本プロレス事務所
ドラゴン、またもや妄言！

大阪スポーツ
秋山 VS 小川

1・4のIWGP王座決定トーナメントに、ノア勢の参加を突如呼び掛け、ミセス元子を激怒させたドラゴンが、またしても軽はずみな発言！　今度は秋山準にラブコールを送った。「秋山選手にはいつも注目している。ウチにできることがあれば全面的にバックアップする。小川や藤田とのバトルも夢じゃない」と熱く語るドラゴン。新日本内部の決定権もあまり持ち合わせていなさそうなドラゴンが、秋山、小川、藤田という他団体の大物同士の試合をプロデュースできるとは到底思えないが、恐らく誰も本気にしていないのでノー問題だろう。それにしてもこの発言、「ノアに上がりたい」と発言した破壊王を解雇した人間の言うことなのか……。

1/28 【全日本プロレス】東京ドーム
仰天！ 健介が「俺たちの時代」宣言！

「ジャイアント馬場3回忌追悼記念興行」というタイトルとは裏腹に、「馬場さん追悼ムード」が皆無だった全日本の東京ドーム。その原因を考えるとやはり「川田&健介vs天龍&馳」という、メインのカードにあるような気がしてならない。長州のライバルである天龍、長州戦を熱望する川田、元・長州派（いまは反）の馳、そして2代目長州力の名をほしいままにする健介と、「馬場祭り」というより、これではまるで「長州祭り」。まさに「ビッグラリアット・フェスティバル」である。そしてトドメが健介の場違いな「俺たちの時代」宣言！　嗚呼、全日本までもが「ジャパンプロレス」にされてしまうのか……。長州力恐るべし！

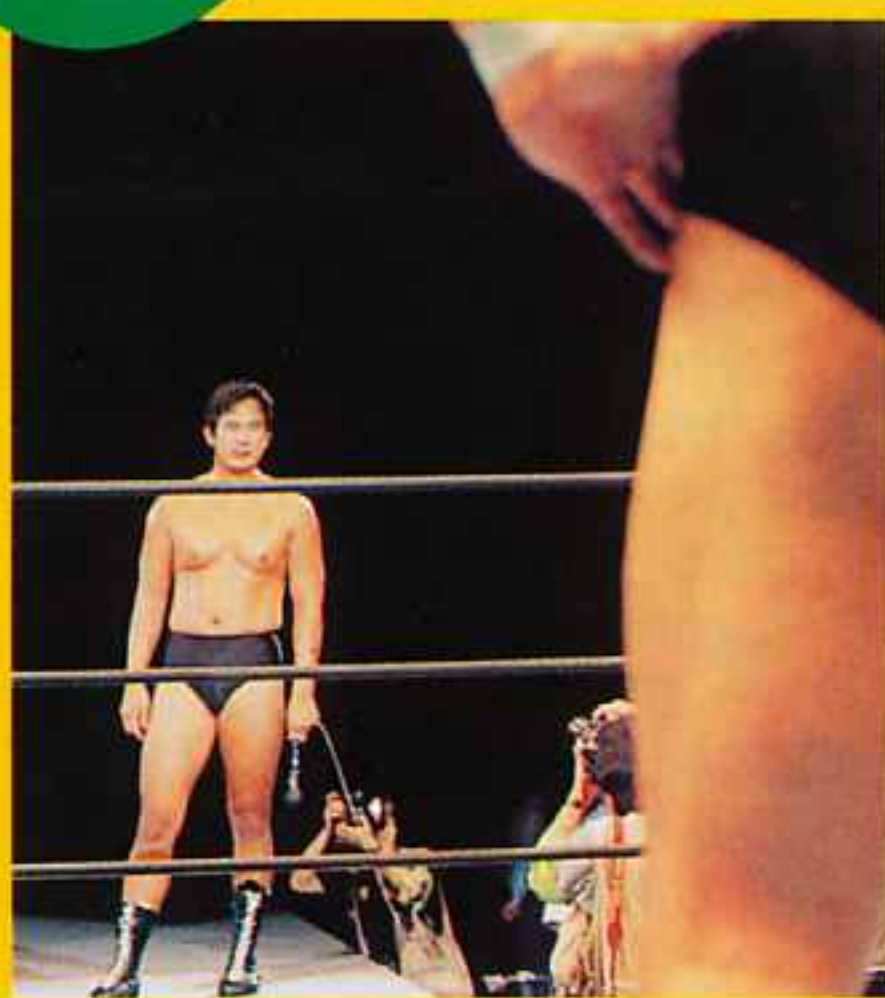
1/29 【新日本プロレス】新日本プロレス事務所
武藤が太陽ケアにラブコール

"闘う松山千春"こと武藤敬司が「ビッグマッチ限定出場」+「出来高払い」のVIP待遇で契約を更改した。これによって他団体出場も、以前よりし易くなった武藤は、前日の全日本ドーム大会で一騎討ちを行った太陽ケアに早くもラブコール。「確か俺に負けたら坊主頭にすると言っていたよな？　だったら俺とタッグを組んで"チーム太陽坊主"または"太陽入道コンビ"を結成しよう」と、スキンヘッドの道連れにすべく、エールを送った。はたして「反選手会同盟」以来の"つるっぱげ軍団"は実現するか？

【K−1】石井館長、ZERO−ONEに選手派遣表明

【猪木事務所】新東京国際空港
アントン軍団、いつの間にか大増殖！

すっかり恒例となった成田空港でのアントン劇場。この日は橋本、藤田、安田、そしてなぜか高岩までもが参加し、豪華キャストでの公演となった。そんな中で主役となったのが、ロスへ武者修行に出る"さすらいのギャンブラー"安田忠夫。「あいつは飛行機代あんのか」とアントンが心配する中、安田はキャラ通り遅刻して登場。「ローマ字も読めない」（橋本談）という安田に対し、アントンは「遺言はあるか？　お前、生きて帰ってくるつもりなの？」と地獄の特訓を示唆した。ちなみに突如闘魂注入を申し出た高岩に対しては、「ロスで乞食をやれ！」と仰天指令！　新婚早々乞食を言い渡される高岩って一体……。

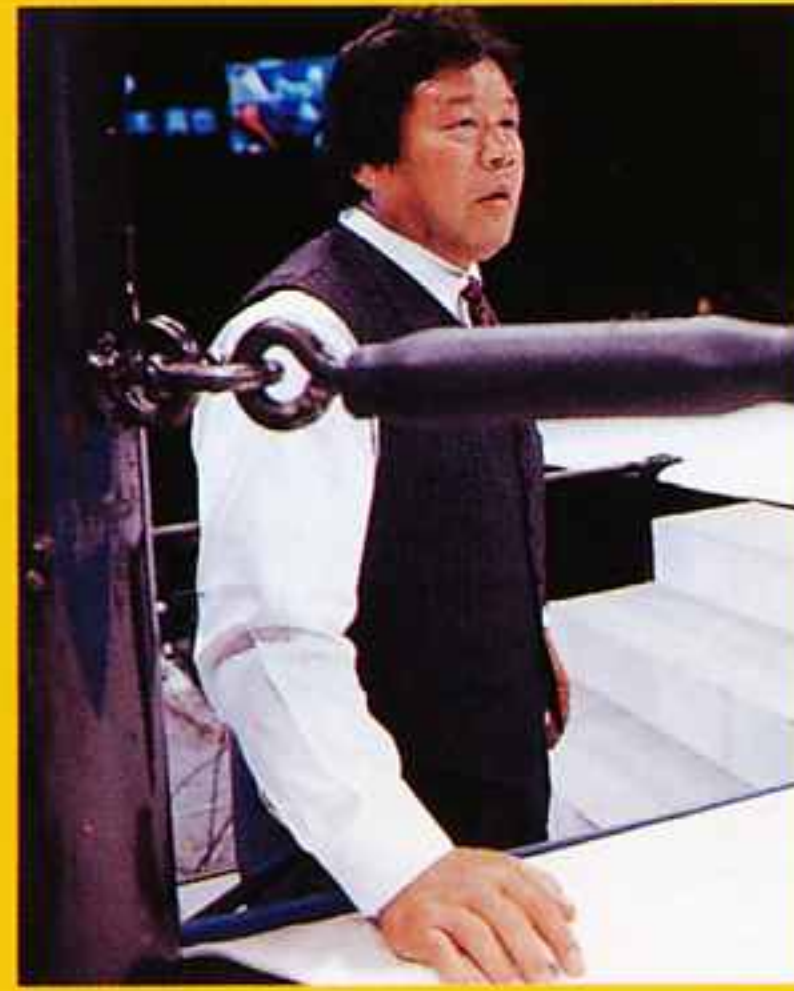
1/30 【新日本プロレス】新日本プロレス事務所
西村修「宇宙の秩序」を語る

リーダーであるはずのドラゴンが、"無我"の精神から懸け離れたところで迷走する中、たったひとりで無我を守り続ける男・西村修が、この日一発サインで契約を更改した。「ボクは金銭的なモノでプロレスをやっているのではない」と公言する西村だけに、契約内容には不満はないようだが、茶番が横行する現在の新日マットには不満がアリアリ。「大体、天山と小島がIWGP王者でいることこと自体、世の中が病んでいる証拠。宇宙の秩序に反しています」と、抜群の西村節を轟かせてくれた。こんな西村に「健介がIWGP王者でいること」についてどう思うか、聞いてみたくてしかたがない今日この頃である。

【新宿プロレス】クラブハイツ
「新宿プロレス」がキャバレーに進出！

これまでに東京大飯店を舞台に歌あり、酒あり、メシあり、さらにはエロありで新宿の夜を彩ってきた新宿プロレス（以下、ジュクプロ）。世界一の歓楽街と言われる新宿の中でも老舗中の老舗として知られる名門キャバレー「クラブハイツ」が新たなジュクプロの聖地となることが発表された。全席ソファー席で喫煙可能、その席数は板橋産文ホール規模の会場を遥かにしのぐ600席！　普段はお酒を飲めない人は入店お断りという、泣く子も黙るグランドキャバレーに舞台を移し、ストリップの方もよりゴージャスにして頂きたい次第である。（水戸泉）

1/31 【全日本プロレス】
ハンセンがPWF会長に就任

1・28ドームで引退式を行ったスタン・ハンセンが、この日、全日本プロレスの3冠タイトルを管理するPWFの第2代会長に就任した。これによって今後ハンセンが、3冠戦や「チャンピオンカーニバル」「最強タッグ」の立ち会い人として来日することになる。新日や『PRIDE』立会人のアントンが闘魂棒を片手に入場するように、是非ともハンセンもブルロープを振り回してほしいものだ。ちなみに前PWF会長のロード・ブレアース氏は、PWF会長からSPWFの会長に華麗に転身。今後は谷津嘉章を全面サポートする……わけはなく、PWF名誉会長となる模様。長い間お疲れ様でした。

【新日本プロレス】ディファ有明
ドラゴン激怒！ ディファが「ノアの半分」の入り

あの暴動騒ぎがあった1・4ドーム後、初の大会となったこの日のディファ有明。しかし、蓋を空けてみると観客はわずか900人！同所でのノアの半分（セカプロの3倍）の動員数という惨状にドラゴンが切れた！「プロレス界はゴタゴタと事件が多くて面白いかもしれないが、これは肝心なリング上の闘いに何も注目が集まっていない証拠」と翌日の朝礼で全社員を怒鳴りつけ、新日大改革を宣言した。しかし普通に考えて、この観客数は1・4でのドラゴンの不可解裁定による、ファンの信用喪失が原因なのは明らか。最も見直しが必要なのは間違いなくドラゴン自身だろう。

2/3 【新日本プロレス】北海道立総合体育館"きたえ〜る"
「エピローグ・ドラゴン」またしても凍結！

昨年12月にようやく再開されたばかりの「ドラゴン引退カウントダウン」が、またしても一時凍結させられた。この日、「雪の札幌事件」の因縁（古いねどうも）の相手である藤原組長に辛勝したドラゴンだが試合後「体が動かない。自分自身に納得いかない。引き際だからこそ、もう1度ベストな状態になるまで試合はしない」という勝手な理由で、カウントダウン無期限停止宣言！　ドラゴン屁理屈ここに極まれり。まったくもって我々ドラゴン・ウォッチャーをどこまで楽しませたら気が済むのか。あまけに藤原には「もう1回やろう」と再戦を要求。ドラゴンの生涯現役計画は着々と進んでいる。

1/31 【IWAジャパン】タワーレコード渋谷店
「2丁目劇場」渋谷タワレコに進出！

「2丁目劇場」が『HMV』に続いて『タワーレコード』（しかも渋谷）に進出！　これはカブキが人気バンド『山嵐』と共に『タワレコ』のキャンペーンキャラに選ばれたもので、この日はそのお披露目会見となるはずだった……しかし！　会見で披露されたポスターにはなぜかカブキの代わりに一宮章一の顔が！　そこへ「男前が写ってるな」と一宮本人が登場。やっぱり一宮の偽造とわかり、自分の顔に泥を塗られた……というかシールを張られたカブキは激怒。すぐさま12・4横浜大会のレフェリーに名乗り出て、浅野社長も即了承した。……ってな事を渋谷のど真ん中でやってるIジャは凄い。

2/4 【パンクラス】後楽園ホール

近藤が桜庭に挑戦状! そこには黒幕が……!?

近藤有己爆言! ヒクソン戦、田村戦に続いて、この日の試合後、突如「パンクラスはハッキリ言って落ち目。桜庭さんと闘ってみたい」とサクへの挑戦をブチ上げた! この発言は業界に波紋を投げかけたが、高田が「実績を作れ!」と一蹴し、DSE森下社長は、まずはヘンゾ戦を打診。そして尾崎社長が「3月はなみはやドームがあるから無理ですよ〜」と否定したことで、あっという間に沈静化。結局、近藤に「桜庭戦アピール」を進言したとされる、P'slab永久会員のShow氏が、パンクラスを出入り禁止になるという、トホホな結果が残るだけとなった。は〜カックン。

【新日本】きたえ〜る　長州力が本格復帰。【XFL】現地時間の3日、マクマホンが手掛けた新プロフットボールリーグ「XFL」が開幕。

【CMLL JAPAN】後楽園ホール

CMLL JAPAN豪華メンバーで有終の美

資金難から、この日が最後の興行になってしまったCMLL JAPAN。団体の最終興行というのは、得てして寂しい末路となりがちだが、CMLLは実に華やかなラストを飾ることとなった。なんといっても出場メンバーが必要以上に豪華。この日、来日30周年を祝われたマスカラスを初めとして、ドスカラス親子、サントなどエストレージャばかりが大集合。こんなメンバーを集めてたら10年もつ団体が、4年で潰れてしまうのも当然と言えば当然であるが、全国のルチャマニアはいい夢見させてもらったことだろう。今後、代表のカカオはみちプロに戦場を求めていくという。アディオス、CMLL!

2/5 【新日本プロレス】

ドラゴン、4・7大阪ドームまで休養宣言!

「引き際だからこそ、ベストな状態になるまでやめられない」という、理由と言うより屁理屈で、まんまと「カウントダウン」無期限延期に成功したドラゴンが、今度は「できれば1〜2ヶ月休んで体を作り直したい」と正月休みが明けたばかりだというのに、早くも冬休み宣言!「引退はしないが試合はあまりしたくない」というわがままぶりに心から乾杯だ。

2/6 【プロレスリングZERO−ONE】

ZERO-ONE旗揚げ戦にK-1の刺客

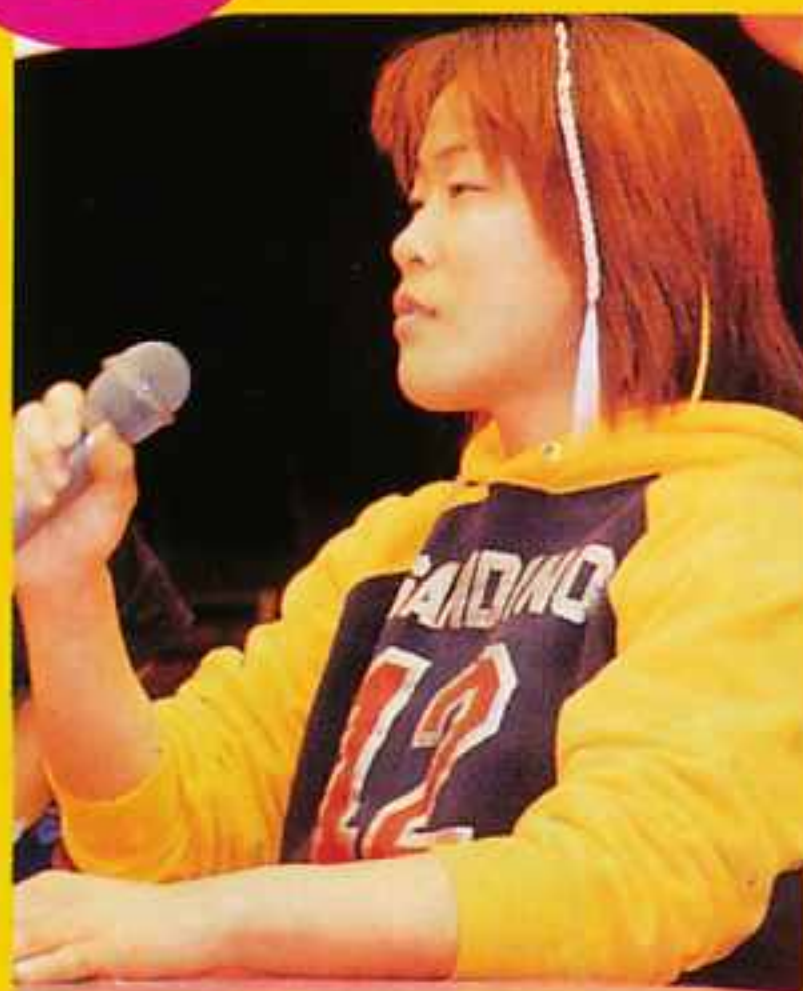
ZERO−ONE旗揚げ戦に正道会館石井館長が、負傷した角田信朗の代打として謎の怪人「ミスターX」を送り込むことが明らかになった。この「ミスターX」、身長2メートル以上の大男であること以外は一切不明。とりあえず、いまは3・11「カメモ」で破壊王を戦慄のエルボードロップで沈めたビッグバン・ジョーンズが正体でないことを祈るだけだ。

2/7 【みちのくプロレス】

ウイリーさん、4月みちプロ復帰

昨年5月、向精神薬6000錠をタイから密輸したとして、向精神剤取締法違反で逮捕された、ウイリーさんことビーフ・ウエリントンのみちプロ復帰がこの日、発表された。この席でウイリーさんは密売の疑いを改めて否定した上で「ファンの皆さんゴメンナサイ」と陳謝。これからは、リング上でファンの信頼回復につとめることになる。サスケ社長はその復帰プランとして「囚人服を着て『コンビクト2号』で出るとかね。ガハハハハ!」と珍案を提示。その他にも「四国八十八ケ所を懺悔してまわる(もちろん台車をひきながら)」というプランも浮上しているという。ビバ、サスケ!

2/10 【Jd'】後楽園ホール

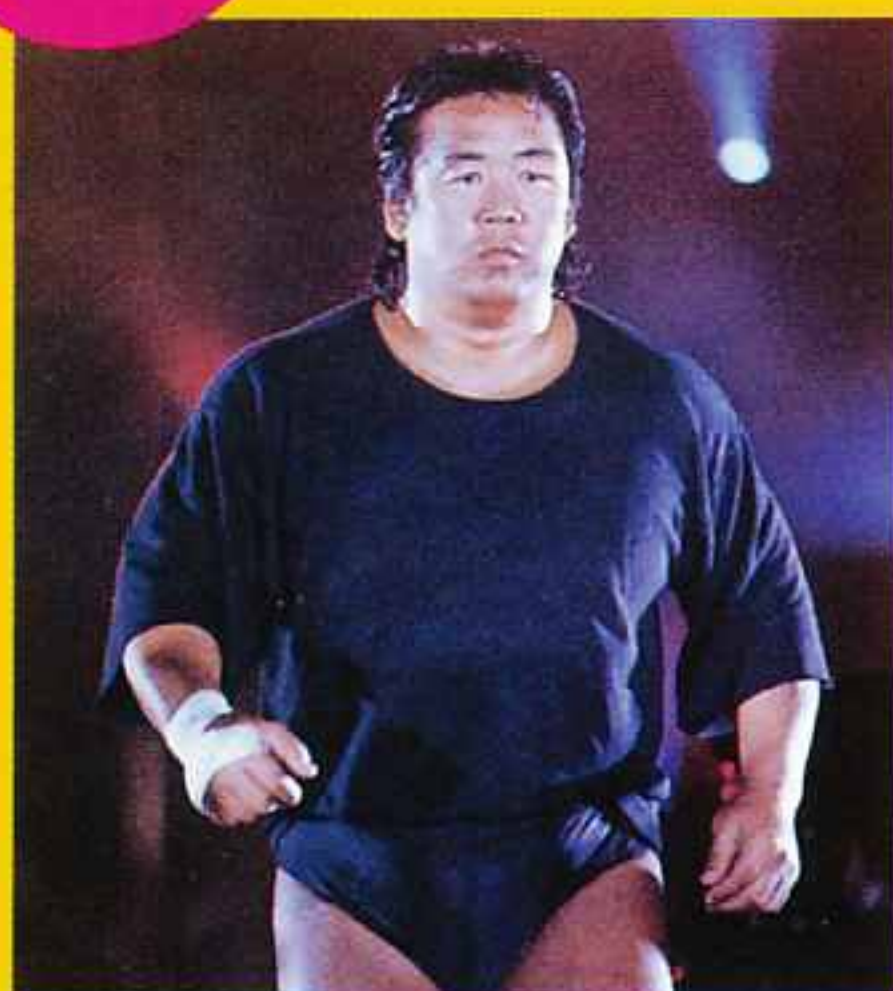
訃報、ブラディーの母が観戦中に倒れ急死

この日、観戦に来ていたザ・ブラディーの実母美ゑ子さんが、観戦中に持病の心臓発作が起き、救急車で病院に運ばれたが帰らぬ人となった。ブラディーは試合終了後、病院に直行したが、死に目に会うことはできなかったという。ブラディーの悲しみは計りしれないが、なんとその日の夜にファンと深夜バスで行く大阪大会観戦バスツアーに休むことなく参加。周囲にはそんなことがあったとは、おくびにも出さず試合も出場したという。そのプロ根性には本当に頭が下がる。そして美ゑ子さんの御冥福を心よりお祈りします。

2/11 【プロレスリング・ノア】ディファ有明

佐野巧真(改名)がノアに登場!

1月末、高田道場の佐野なおきが突然、退団を宣言した。理由は「プロレスに専念したいから」というもの。そして、10日後のこの日、フリー第1戦としてプロレスリング・ノアの丸藤正道と対戦した。両者とも天才ぶりをいかんなく発揮して一進一退の攻防を展開したが、最後はサクと共同開発したという秘技「ゆりかもめ」で佐野が丸藤からタップを奪取。ディファ有明(ゆりかもめ「有明」駅から徒歩7分)大会にふさわしいフィニッシュだ! 変幻自在なテクで丸藤を翻弄しつつ、変幻自在な改名(今回は「佐野巧真=たくま」)にファンも翻弄させた佐野。当分はノアに定着か?(ノブ)

2/12 【新日本プロレス】大阪・舞洲アリーナ

長州力、してやったりの2連敗

2・4札幌の本格復帰後、地方でゲリラ参戦を続ける新日本の親方、長州力。しかし、その試合結果はというと実に芳しくなく2・8福島で小島にタッグながらフォール負けに続き屈辱の2連敗となった。この結果だけを見ると長州復帰失敗と映るかもしれないが、それは全く違う。考えてみてほしい。ジャパンから新日に出戻った長州が、いまの地位を築いたのは猪木、藤波らに負けることで居場所を作るという「負けるが勝ち」戦略の賜物。今回の負けもまた同様と考えるべきなのだ。まったく長州は侮れない。「カウントダウン」を延長すればするほど居場所がなくなるドラゴンとは一味違う。

【アリフラワーアレイ・クラブ】

アントン、米国で「プロレス栄誉賞」受賞!

元気ですか——ッ!! 元気が売り物、我らがアントニオ猪木が、プロレス版名球会としてお馴染み『カリフラワー・アレイ・クラブ』(会長ルー・テーズ)の年次総会で、長年の活躍が評価され、「プロレス栄誉賞」とでも言うべき「マーシャルアーツ功労賞」を受賞。この日、喜びの帰国会見となった。しかしアントンは受賞のコメントもそこそこに、「今年は中国に進出!」と相変わらずのグローバルなアドバルーンをブチ上げる、いつものアントンぶりであった。

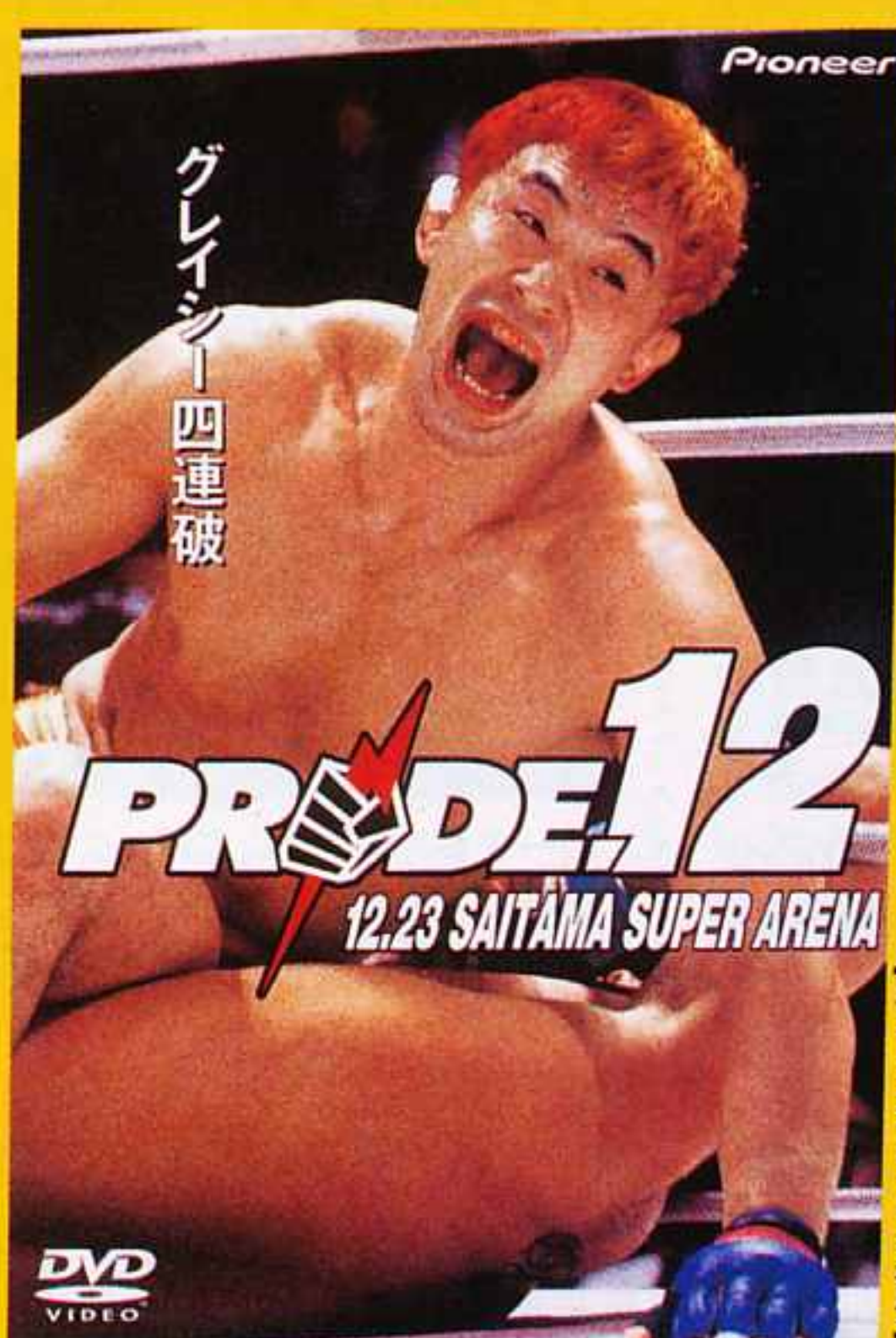
【アルシオン】後楽園　「ケジメをつける」と事前に離脱を臭わせていた美幸涼だけでなく、取締役であるアジャ・コングまでが「あの人(ロッシー小川社長)の操り人形はゴメン」と突如アルシオンを脱退! 【みちプロ】クラブハイツ　D・東郷みちプロに現る! 低姿勢でサスケに出戻りを直談判。

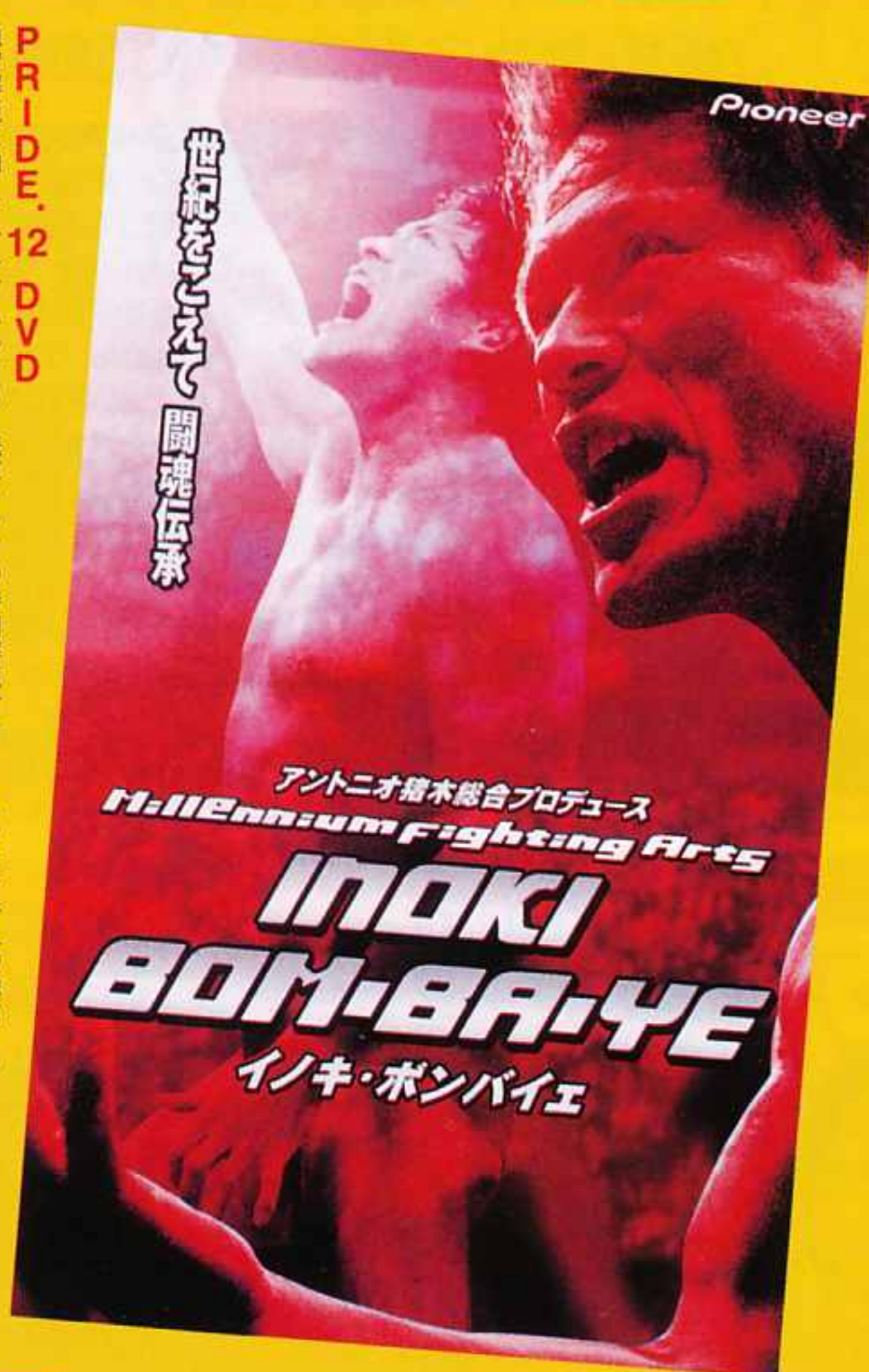
あの世紀末イベントが早くもビデオ&DVDに！ 元気でっ！

PRIDE.12 ビデオ

真冬の寒さも吹っ飛ぶ全9試合！ 【メディアファクトリー提供】

商品のお問い合わせは（tel. 03・5469・4880）まで。

2名様

PRIDE.12 DVD

通常解説に加えて、サダハルンバ&浅草キッドの特別解説付き！ エンセン井上の独占インタビューも収録！ 見所ありすぎ！ ￥4800で2月23日発売！ 【パイオニアLDC提供】

イノキ・ボン・バ・イエ DVD&ビデオ

アントニオ猪木総合プロデュースによる世紀越えイベント「INOKI BOM・BA・YE」のビデオ&DVDで遂にリリース！ 豪華な特典もついてくる！ ビデオは2月23日発売で￥4800、DVDは3月9日発売で￥5800！ 全身で感じ取れ！ 【パイオニアLDC提供】

通常実況に加えて、アントン&百瀬先生&浅草キッドのやじうま解説verも収録！

ジャイアント読者サービス

アントンからのご神託！ 直筆短冊入り！（61×364mm）

カプコンさんと『紙プロ』がガッチリ強力タッグ結成！

鬼武者

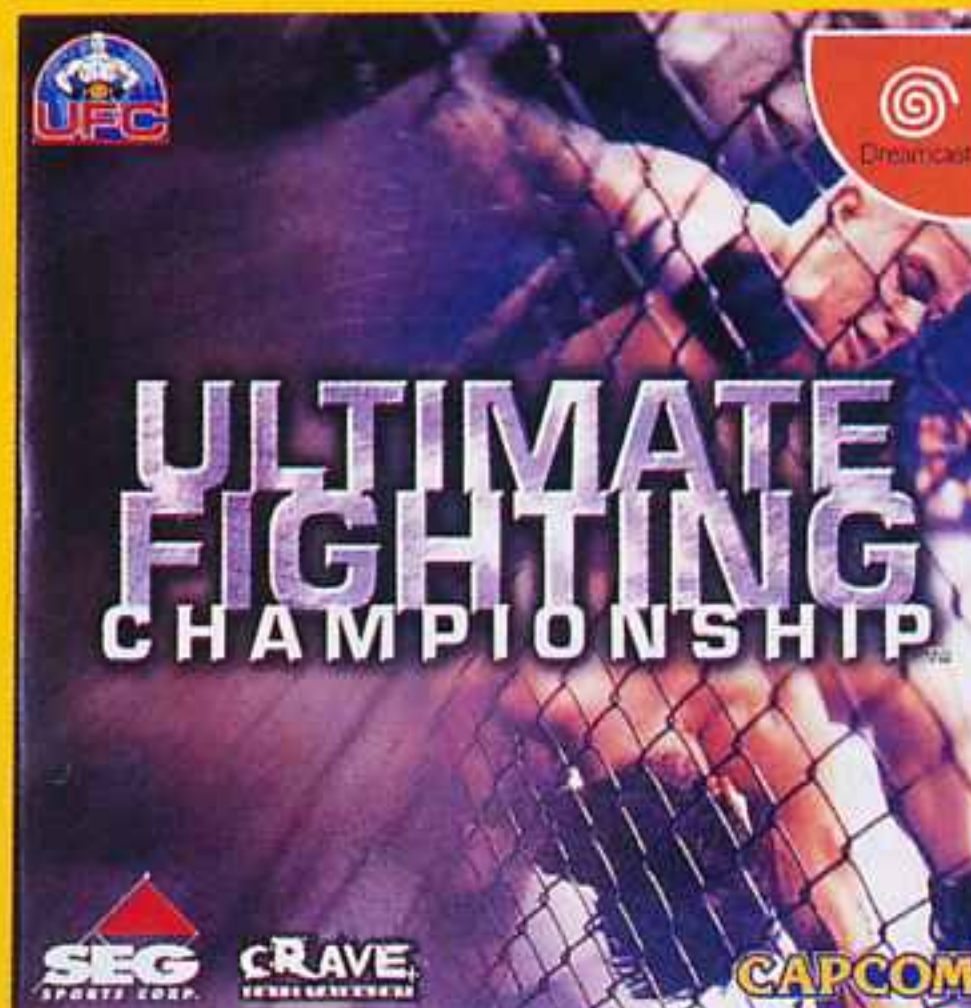
現在メガヒット中！ 世界が認めた！ 21世紀最初の名作ゲームが誕生！ PS2専用だけに、エクセレントすぎる映像で戦国時代をリアルに再現！ 【カプコン提供】

燃えろ！ ジャスティス学園

ドリームキャスト専用ソフト。個性的かつユニークなキャラが登場しまくりの格闘ゲーム！ 一度やったら、会社や学校どころじゃなくなります。 【カプコン提供】

各3名様

スノーボード ヘブン

PS2専用ソフトだけに、飛び散る雪飛沫、パウダースノーからアイスバーンまで高いクオリティでリアルに再現した人気スノーボードゲーム！ 【カプコン提供】

UFC

前号でもプレゼントしたところ、人気大爆発！ ティト、ヒーゾ、TKまでUFCの人気選手が総登場！ 話題騒然の好ゲーム！ ドリキャス専用です。 【カプコン提供】

番外編

3名様

Catfight LIVE

"本誌キャットファイター"チョロももちろん参加！　日本のキャットファイト界の夜明けを告げる激レアビデオ！　【チョロ提供】

今こそ新日！

各3名様

橋本真也1992〜1995（DVD）

ZERO-ONE旗揚げ戦3秒前！　今だからこそ、あえて破壊王の足跡を辿れ！　3・2両国の前にぜひ！【ヴァリス提供】

蝶野正洋1992〜1997（DVD）

NWOムーブメントからTEAM2000までの21世紀プロレスを感じろ！　謎のフリー宣言直後の今だからこそ！【ヴァリス提供】

新日事件簿2

どんどん飛び出てくる新日本のハプニングファイト集！　新日本に何かがおこりつつある今だからこそ刮目せよ！【ヴァリス提供】

Final Battle 2000

TEAM2000、G-EGGS、正規軍による20世紀ファイナルバトル！　これぞ本物の四角いジャングルだ！【ヴァリス提供】

カード所持は当たり前！

各3名様

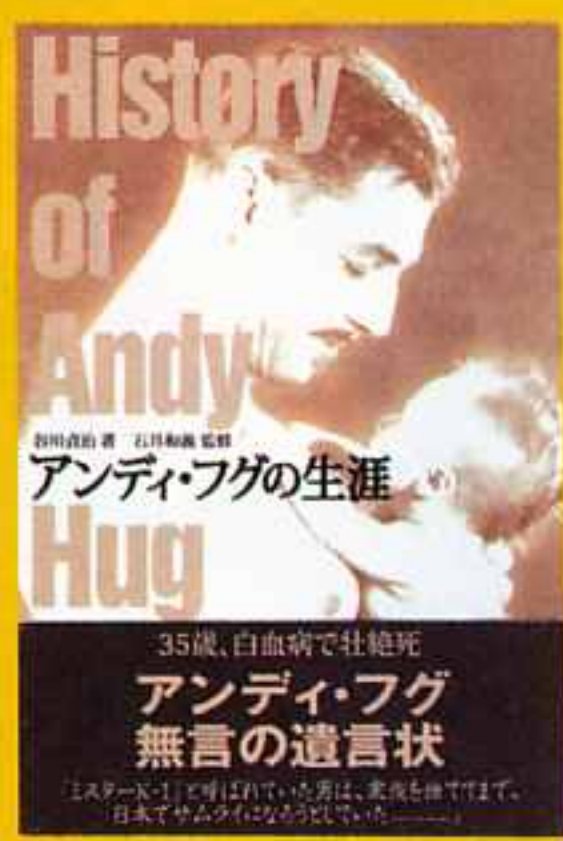
アルシオンオフィシャルカード

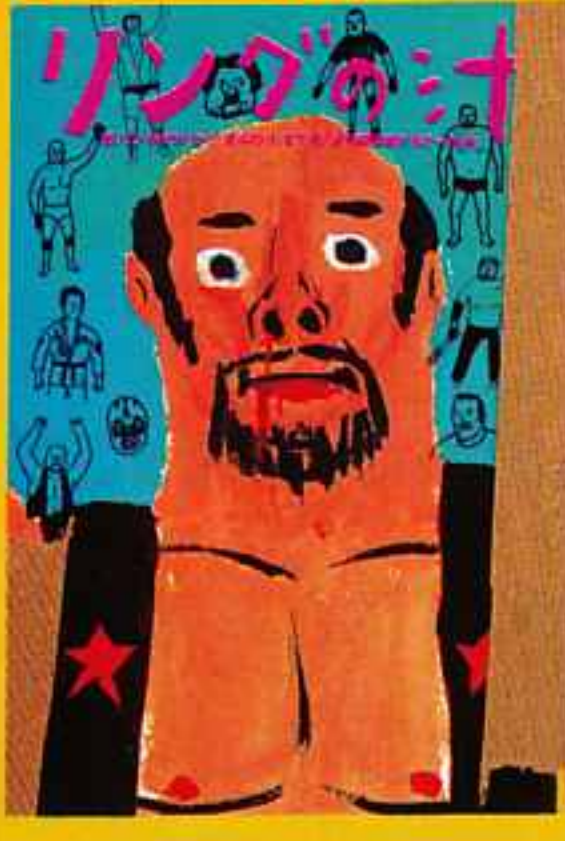
大人気のさくら堂のプロレスカードに今度はアルシオンが登場！　もっちろんコスチュームの一部もインサート！　【さくら堂提供】

筋肉番付トレーディングカード

実際に選手が着用したジャージ＆ヒクソンのグローブの一部が入った特殊カード入り！　1パック（8枚入り、￥800）で発売中！　3パックセットで大提供！　【コナミ提供】

読書の春一番！　読まずに死ねるか！

各3名様

アンディ・フグの生涯

監修・石井館長、著・サダハルンバという最高の布陣によるフグ・ヒストリー。フグの壮絶な人生で大いに泣け！　【廣済堂提供】

リングの汁

本誌が誇る人気コラムの集大成！　花くまゆうさく先生の入魂の格闘魂がここに！　帯のヤノタクも最高だ！　【アートン提供】

REAL HEART

もちろん本人が激語り！　特別収録の中学時代の卒業文集は必読。ついでに監修はShow氏という船木本。【二見書房提供】

お笑い 男の星座

時は来た！　テレビブロス誌上で大人気連載作品が遂に書籍化！　ここに迫真の男像がある。必読。　【文藝春秋提供】

プロレスがわかるのはオレだけだ

説明無用のターザン山本によるターザン山本のための禁断の一冊！　【KKベストセラーズ提供】

プロレスLOVE論

ご存じターザン山本＆浅草キッドのI♥プロレスを感じてほしい。プロレスと心中するつもりで読め！　【東邦出版提供】

300個限定！　豪華ボックス仕様！

前号から募集殺到につき、再度大募集敢行ーッ！これが最後のチャンス！

超精密なサクマシンのシルバーリング！　一緒に入っているトレカもかなり貴重品！　さらにそのトレカを郵送すればサクの直筆サインを入れて送り返して頂けるという、サクファン号泣必至の史上最大のサクグッズ！　こんなお宝を掴みそこねたら、一生後悔することは間違いナシ！　￥28000、残り僅か！　販売方法等のお問い合わせはスパイスバンク　tel.(03-3203-4618)　HPアドレス（http://www.digipad.com/spicebk/）まで。

大日魂フォーエーバー！

李 キャップ

2名様

裏ドームTシャツ

SIZE M　SIZE L

各サイズ1名様

山川竜司Tシャツ

SIZE M　SIZE L

李 日韓Tシャツ

SIZE M　SIZE L

新規オープンのＨＰ（http://www20.big.or.jp/^dainihon/）か会場でゲットできる魅惑の大日グッズ！　知る人ぞ知る、1・28裏ドーム興行を記念したＴシャツはレア化必至！　ロングセラーを続ける山川Ｔシャツ、人気レフェリー李日韓グッズもぜひとも持っておきたい！　横浜アリーナまであと288日！　がんばれ大日本！　【大日本プロレス提供】

応募要項

え〜、ころころタイトルの変わる本誌の読プレページですが、この度、中川画伯のイラストレーター就任を祝し、ジャイアント読者サービスを正式タイトルとすることを勝手に決意しました！　ダメ？

応募券

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名
❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼「紙プロ」に登場してほしい人は誰ですか？

【宛　先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ケ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「G・読者サービス」係まで

※締切は2001年3月20日です

超限定！

バンバンビガロ作成！スーパーレッスルTシャツ

ＤＤＴの会場のみで販売！　なんと、あのバンバンビガロが制作！　ＤＤＴの会場へ急ぐか、ハガキを出すか、迷ってるひまがあるなら応募しろ！
【木村浩一郎＆橋本友彦提供】

紙のプロレス RADICAL
No.34
2001年3月25日発行

No.36は
3月25日『PRIDE.13』
の前には発売予定

※地域によっては多少発売日が遅れます。

SATFF

●編集兼発行人
山口日昇

●編集スタッフ
坂井“スモー”ノブ
松澤チョロ
堀江ガンツ
水戸泉
エキサイティング幸田
八木賢太郎（黒板五郎にハマッたため非番）

●スーパーバイザー
吉田豪

●助っ人
中村愚乱
金田謙太郎

●アートディレクター
出田さん（TwoThree）

●デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
モリやん（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上さおとめの事務所）
古賀ゆきえ
海老沢勇（ZERO graphics）

●出前
出前持ち入江（TwoThree）

●カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
黒田史夫
戸成嘉則
松本崇
丸山剛
吉場正和

●試合写真
平工幸雄
乾晋也

●義理チョコ
ジャイ子

●お勘定
林ヘックション一枝

●フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所

●印刷
図書印刷株式会社

●印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元●株式会社ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地 TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元●株式会社ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 TEL.03-3403-5188（編集・制作）

阪神ファンは特にオススメします!!

色がバッチリ♥

黒と黄色のニクいヤツ

KIKAKU, SYUZAI & SATSUEI
U.M.F.
UNIVERSAL MAGAZINE FEDERATION
STARTING OVER
JANUARY.15th 1997

U.M.F.

U.M.F. Tシャツ
（黒×黄）
¥3.800
サイズ S or M or L

SS Tシャツ半ソデ〈赤〉
¥3,500 SOLD OUT ~~S~~ or M or L

すっかりおなじみになったプロレスTシャツのNEWスタンダード！ 花くまゆうさく先生・画。

SS Tシャツ半ソデ〈紺〉
¥3,500 SOLD OUT ~~S~~ or M or L

最近、某団体も似た色のTシャツを出しましたね。こっちもカッコいいゾ！ 同じく花くまゆうさく先生・画。

SS Tシャツ長ソデ〈赤〉
¥4,500 SOLD OUT SOLD OUT SOLD OUT

通販分は完売しました。チャンピオン東京店or大阪店でお求め下さい。

リングおじさんトレーナー
¥5,500 SOLD OUT SOLD OUT

通販分は完売しました。チャンピオン東京店or大阪店でお求め下さい。

バトTシャツ
¥3,500 SOLD OUT SOLD OUT SOLD OUT

通販分は完売しました。チャンピオン東京店or大阪店でお求め下さい。

ジャイ子Tシャツ
¥3,000 SOLD OUT SOLD OUT
ホワイトorアッシュグレー

通販分は完売しました。チャンピオン東京店or大阪店でお求め下さい。

紙プロネックピース
¥~~1,200~~ ➡ 大特価 ¥600

決算のため、大処分特価でご奉仕します！ 数に限りがあるのでお早めにお申し込み下さい!!

通販方法

望商品の代金＋送料￥500（何枚でも：ネックピースだけなら￥300）を現金書留で、下記住所まで送ってください。あなたの郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品（サイズとカラーをちゃんと書いてね♥）を明記したメモを必ず同封すること！ これがないと商品の発送が出来ないのであしからず。隣のページのU.M.F. Tシャツと一緒に申し込みもOKですよ。通販以外では『チャンピオン東京店＆大阪店』、札幌『リングパレス』、新たに仙台『スクワット』と岐阜県大垣市『バンザイ商会』で販売中なので、こちらもヨロシク！ こちらで買っても長ソデTシャツにネックピースがついてきますので、ご安心あれ。

〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷3-11-3-702
株式会社ダブルクロス
「買っていいとも!!」係まで

お問い合わせ先 (株)ダブルクロス TEL03-3403-5188

●紙プロウェアは通販以外だとチャンピオン東京店（TEL.03-3221-6237）、チャンピオン大阪店（TEL.06-6645-5186）、岐阜・バンザイ商会（TEL.0584-75-4966）、宮城・スクワット（TEL.022-264-8160）、大阪・少年ジェッター（TEL.06-6541-3551）入手可能です!!

紙のプロレス WANIMAGAZIN MOOK 164 RADICAL 2001 NO.35
「純プロレス」に風雲急!! "ジャングル"をつくれ!!
平成13年3月25日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体800円+税

9784898296455
ISBN4-89829-645-9
C9476 ¥800E
1929476008008
雑誌 69862-64

印刷：図書印刷株式会社

TLINDEX

団体名	電話	住所
全日本プロレス	03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
プロレスリング・ノア	03-3527-5311	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
新日本プロレス	03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
FMW	03-5496-0671	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-23-15 ダヴィンチ下目黒6F
リングス	03-3461-0257	〒150-0036 東京都渋谷区南平台13-1 サトウビル202
WAR	03-5477-0461	〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23 萬豊ビル2F
みちのくプロレス	019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
SPWF	03-3814-6371	〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4 クロサキビル
パンクラス	03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
IWAジャパン	03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401
大日本プロレス	045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
バトラーツ	0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
DDT	03-3356-8493	〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-17-18 オリエンタル千駄ヶ谷102プリントオフィス内
高田道場	03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワイルドパレス武蔵小山1F-B1
UFO	03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F
大阪プロレス	06-6243-5131	〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場3-1-7 日宝東心斎橋ビル301
闘龍門JAPAN	078-333-9797	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8-901
ダイプロデュース(大仁田興行)	03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-28-3 ハイラーク五反田505
世界のプロレス	093-203-5170	〒807-0054 福岡県遠賀郡水巻町二東2-8-6
掣圏道	03-5456-7333	〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14 恵比寿スカイハイツ607
レッスル夢ファクトリー	03-5828-8494	〒165-0032 東京都中野区鷺宮5-15-11
キングダム・エルガイツ	0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
キャプチャー	044-959-3333	〒215-0011神奈川県川崎市麻生区百合丘2-2-1 横山ビルB1
国際プロレス	0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
メビウス	03-5382-6991	〒167-0034東京都杉並区桃井4-1-15
つぼプロモーション	03-3498-4710	〒107-0062 東京都港区南青山6-15-1 アパルトマン青山2F−E
華☆激	092-522-1901	〒810-0022 福岡市中央区薬院4-8-29 エステートピア薬院302
喧嘩プロレス二瓶組	044-588-2438	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2 二瓶ビル
ZIPANG	0427-54-8851	〒229-0002 神奈川県相模原市渕野辺本町2-37-19 コスモハイグランド106
T.A.M.A	042-572-6795	〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5
CMLL・JAPAN	075-601-7816	〒612-8221 京都府京都市伏見区禅正町151
UNW	03-3362-3014	〒164-0003 東京都中野区東中野4-4-5-311
栗栖ジム	06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
ドリームステージエンターテインメント	03-5775-5700	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4 ルーメリ赤坂103
K−1事務局	03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
修斗コミッション	03-5725-7338	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南1-2-10 エビスユニオンビル202サステイン
GCM COMUNICATION(和術慧舟會、A^2GYM、RJW)	03-5200-3546	〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-3-11 山田ビル5F
シュートボクシング協会	03-3843-1212	〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ1〜3F
UFC−J事務局	03-3343-2444	〒163-0430 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル30F
怪獣王国	03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
コロシアム事務局	03-5473-3148	〒105-8012 東京都港区虎ノ門4-3-12 テレビ東京事業部内
全日本女子プロレス	03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
JWP	03-3839-4161	〒110-0005 東京都台東区上野1-15-10 大秀ビル502
LLPW	03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ビクセル文京105
GAEA JAPAN	03-3795-2555	〒154-0004 東京都世田谷区太子堂5-15-3 COVAMOC BUILDING 2F
Jd’	03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-12-10 国際溜池ビル7F
アルシオン	03-5720-5217	〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南3-7-1 代官山島田ビル3F
NEO	03-5452-0344	〒153-0042 東京都目黒区青葉台4-2-22-101

VIVA メヒコ!!

いつ何時でも陽気なメキシカン
ブラソ・デ・プラタ選手

ニッポンのルチャファンのみなさん、アディオス・アミ〜ゴ!!

"The SuperStar Series /#2 Tribute to Antonio Inoki"
Artwork=m.magic.KOBAYASHI (soulmark d.o.)
©soulmark d.o./undercoverd ADS 2001 & ADS & UNDERGROUND ADS

CAL CALENDAR

(18:30)

(18:30)

トホール(18:30)

♥

0)

(15:00)

闘龍門■宮城・Zepp　Sendai(17:00)
掣圏道■東京・ディファ有明(18:00)
全日本女子■東京・東京マリン大ホール(15:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(18:30)
Jd'■大阪・NGKスタジオ(15:00)

12 MON.

闘龍門■秋田・大館市民体育館(18:30)
アルシオン■群馬・伊勢崎市民体育館(18:30)

13 TUE.

新日本■北九州・西日本総合展示場(18:30)
FMW■東京・後楽園ホール(18:30)
みちのく■福島・原町市体育館(18:30)
闘龍門■岩手・岩手県営体育館(18:30)♠

14 WED.

新日本■広島・東広島運動公園体育館(18:30)
みちのく■山形・余目町総合体育館(18:30)
闘龍門■新潟・新潟フェイズ(17:30)

15 THU.

新日本■京都・京都市体育館(18:30)
みちのく■秋田・横手市平鹿広域圏民体育館(18:30)
DDT■東京・渋谷club　ATOM(18:30)
闘龍門■新潟・上越リージョンプラザ(18:30)
アルシオン■愛知・豊田市体育館(18:30)

16 FRI.

新日本■鳥取・米子産業体育館(18:30)
みちのく■山形・上山市体育文化センター(18:30)
闘龍門■長野・長野市総合運動公園体育館(18:30)
アルシオン■愛知・岡崎市六名体育館(18:30)

17 SAT.

新日本■名古屋・愛知県体育館(18:30)
みちのく■秋田・秋田市立茨島体育館(18:30)
大日本■福岡・甘木青果市場(18:00)
闘龍門■東京・ディファ有明(18:30)
アルシオン■愛知・春日井市総合体育館(18:30)

18 SUN.

新日本■兵庫・尼崎市記念公園総合体育館(16:00)
FMW■新潟・かきざきドーム(16:00)
みちのく■岩手・矢巾町民総合体育館(14:00)
大日本■福岡・博多スターレーン(15:00)
闘龍門■岡山・卸センターオレンジホール(17:00)
ノア■東京・ディファ有明(15:00)◎
全日本女子■香川・高松国際ホテル別館大ホール(17:00)
アルシオン■岐阜・土岐市スポーツセンター(13:00)
GAEA■京都・KBSホール(13:00)
Jd'■東京・後楽園ホール(18:30)

19 MON.

新日本■静岡・キラメッセ沼津(18:30)
みちのく■青森・はちのへハイツ(18:30)
大日本■福岡・大牟田市民体育館(18:30)

20 TUE.

新日本■東京・代々木第2体育館(15:00)
みちのく■青森・青森県民体育館サブアリーナ(15:00)
大日本■福岡・博多スターレーン(15:00)
リングス■東京・ディファ有明(17:00)★◆
闘龍門■愛知・名古屋市体育館(17:30)
全日本女子■香川・坂出サティホール(17:00)
ノア■千葉・木更津市民体育館(17:00)
アルシオン■東京・後楽園ホール(18:30)

21 WED.

大日本■長崎・平戸文化センター(18:30)
ノア■神奈川・相模原市立総合体育館(18:30)
修斗■東京・北沢タウンホール(18:00)

22 THU.

みちのく■岩手・前沢町民スポーツセンター(18:30)
ノア■東京・後楽園ホール(18:30)
アルシオン■青森・十和田市民体育館(18:30)

23 FRI.

新日本■新潟・苗場プリンスホテル(18:30)
みちのく■岩手・宮古市千徳地区体育館(18:30)
アルシオン■青森・むつ市民体育館(18:30)

24 SAT.

新日本■新潟・苗場プリンスホテル(18:30)
みちのく■福島・福島市国体記念体育館サブアリーナ(18:30)
大日本■静岡・伊藤青果市場(18:30)
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(19:00)
ノア■福井・福井市体育館(18:00)
アルシオン■青森・弘前市河西体育センター(18:30)

25 SUN.

みちのく■宮城・Zepp　Sendai(15:00)
バトラーツ■神奈川・小田原市川東タウンセンターマロニエホール(13:00)
闘龍門■和歌山・和歌山県立体育館(17:00)
ノア■京都・京都市体育館(15:00)
イーグルプロ■栃木・小山市文化センター小ホール(13:00)
DSE『PRIDE.13』■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(17:00)★
タイタンファイト■東京・アールンホール
アルシオン■青森・青森県民体育館(18:30)
GAEA■新潟・新潟フェイズ(15:00)
NEO■東京・北沢タウンホール(17:00)

26 MON.

大日本■東京・後楽園ホール(18:30)□
アルシオン■青森・はちのへハイツ(18:30)

27 TUE.

大日本■千葉・銚子市体育館(18:30)
ノア■福山・広島県立ふくやま産業交流館(18:30)

28 WED.

DDT■東京・北沢タウンホール(19:00)♥

29 THU.

ノア■鹿児島・鹿児島アリーナ(18:30)
アルシオン■岐阜・岐阜産業会館(18:30)

30 FRI.

大日本■岡山・岡山オレンジホール(18:30)
ノア■熊本・熊本市総合体育館(18:30)
アルシオン■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場(18:30)

31 SAT.

FMW■神奈川・横須賀市総合体育会館(18:30)
大日本■兵庫・高砂市総合体育館(18:00)
パンクラス■大阪・なみはやドームサブアリーナ(18:30)
バトラーツ■半蔵門・TOKYO　FMホール(18:00)◎

不定期連載 格闘芸術ピンナップ

アントニオ猪木が提唱する「格闘芸術」とは、格闘が昇華して芸術の領域に踏み込んだモノを指す言葉だが、逆もまた真なり。芸術が昇華して格闘になってしまうような、そんなバーニング・スピリットに溢れた作品を紹介するのが、この裏で展開される不定期連載『格闘芸術ピンナップ』だ。今回は本誌のコラム扉イラストを毎号手がけるアントニオ・デザイン・サービス（＝ADS）・ジェリー鵜飼氏推薦のこの方ですっ！

マサヒロ・マジック・コバヤシ■soulmark d.o主宰。裏ADS。いわゆるグラフィックデザイナー？であり芸術的日曜画家でもある。「俺はガキの頃から夜空を見上げるのが大好きだった。んで、星空を観上げているうちに意識は宇宙まで飛んでた。だから宇宙大好き! 宇宙最高! スタートレック最高!『スペースチャンネル5』のＰＳ２版発売決定! んで、皆さん！ 心に永遠のスターはいますか？ 俺には生涯のスターが何人かいます。憧れの人物やスターって青空に浮かぶ雲や夜空の星を見上げてると浮かんでくるよな！ そおいやぁ夜空に輝く星と憧れのスーパースターってどっちもキラキラでビッカビカの★じゃん!??!?! そんなノールール系俺シリーズ作品の第二作目がアントニオ猪木氏です。猪木さんなので特別にＵＦＯも飛んでます」（作者のコメント）。

RADICAL CA

2 February

22 THU.
全日本■山口・柳井市体育館（18:30）
DDT■東京・渋谷club　ATOM（19:00）
ノア■千葉・成田市体育館（18:30）
アルシオン■長野・佐久市体育館（18:30）

23 FRI.
全日本■長崎・佐世保市民体育文化館（18:30）
FMW■東京・後楽園ホール（18:30）
アルシオン■長野・飯田勤労者センター（18:30）

24 SAT.
全日本■福岡・博多スターレーン（18:00）
大日本■東京・後楽園ホール（18:30）□
リングス■東京・両国国技館（15:00）★◆
大阪■大阪・なんばNGKホール（19:00）
ノア■愛知・豊橋市総合体育館（18:00）
アルシオン■三重・津市（予定）
Jd’■東京・ディファ有明（18:00）

25 SUN.
みちのく■京都・KBSホール（14:00）
IWA■東京・後楽園ホール（18:30）
バトラーツ■広島・宮島競艇場（10:10）
キングダム■神奈川・稲城市総合体育館（12:00）
大阪■大阪・なんばNGKホール（15:00）
闘龍門■東京・ディファ有明（18:30）
ノア■兵庫・神戸ワールド記念ホール（15:00）
全日本女子■東京・後楽園ホール（12:00）
GAEA■大阪・梅田ステラホール（15:00）
アルシオン■岐阜・土岐スポーツセンター（13:00）

26 MON.
全日本■宮崎・都城市体育（18:30）
みちのく■三重・四日市オーストラリア記念館（18:30）

27 TUE.
全日本■熊本・本渡市民センター（18:30）
みちのく■愛知・岡崎市竜美ヶ丘会館（18:30）

28 WED.
全日本女子■東京・大田区体育館（18:00）
NEO■東京・北沢タウンホール（19:00）

『紙プロ』編集部
おススメ興行

★ 山口日昇
◎ スモーノブ
♠ 松澤チョロ記者
◆ ガンツ堀江
□ 水戸泉（仮）
♡ エキサイティング幸田

3 March

1 THU.
全日本■広島・広島県立ふくやま産業交流館（18:30）
みちのく■徳島・徳島市立体育館（19:00）
バトラーツ■東京・後楽園ホール（18:30）
DDT■東京・渋谷club　ATOM（18:30）

2 FRI.
全日本■大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:30）
ZERO-ONE■東京・両国国技館（19:00）★
修斗■東京・後楽園ホール（18:30）
アルシオン■福島・郡山市総合体育館（18:30）

3 SAT.
全日本■神奈川・横浜文化体育館（18:00）
新日本■新潟・新潟市体育館（18:00）
みちのく■高知・土佐市民体育館（18:30）
バトラーツ■埼玉・越谷桂スタジオ（18:00）
ノア■東京・ディファ有明（18:00）◎
アルシオン■静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール（18:30）
NEO■東京・板橋産文ホール（18:00）

4 SUN.
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
FMW■神奈川・鶴見青果市場（15:00）
みちのく■高知・南国市民体育館（15:00）
クラブファイト■名古屋・Club OZON（22:30）♥
全日本女子■東京・後楽園ホール（12:00）
アルシオン■栃木県立県北体育館（18:00）
Jd’■東京・ディファ有明（16:00）

5 MON.
FMW■東京・後楽園ホール（18:30）

6 TUE.
新日本■東京・大田区体育館（18:30）
みちのく■滋賀・野洲町立総合体育館（19:00）

7 WED.
FMW■岩手・一関文化センター体育館（18:30）
NEO■東京・板橋産文ホール（19:00）

8 THU.
新日本■栃木・鹿沼総合体育館（18:30）
DDT■東京・渋谷club　ATOM（18:30）

9 FRI.
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
FMW■青森・青森県民体育館（18:30）
Jd’■東京・北沢タウンホール（18:30）

10 SAT.
新日本■神奈川・平塚市総合体育館（18:30）
FMW■弘前・青森県武道館（18:30）
みちのく■東京・後楽園ホール（18:30）♠

11 SUN.
新日本■埼玉・吉川市総合体育館（15:00）
FMW■福島・いわき市平体育館（14:00）
みちのく■福島・郡山市ビッグパレットふくしま（15:00）
IWA■東京・ディファ有明（12:00）
闘龍門■宮城・Zepp
掣圏道■東京・ディフ
全日本女子■東京・
GAEA■東京・後楽
Jd’■大阪・NGKス

12 MON.
闘龍門■秋田・大館
アルシオン■群馬・伊

13 TUE.
新日本■北九州・西
FMW■東京・後楽
みちのく■福島・原
闘龍門■岩手・岩手

14 WED.
新日本■広島・東広
みちのく■山形・余
闘龍門■新潟・新潟

15 THU.
新日本■京都・京都
みちのく■秋田・横
DDT■東京・渋谷cl
闘龍門■新潟・上越
アルシオン■愛知・

16 FRI.
新日本■鳥取・米子
みちのく■山形・上
闘龍門■長野・長野
アルシオン■愛知・

17 SAT.
新日本■名古屋・愛
みちのく■秋田・秋
大日本■福岡・甘木
闘龍門■東京・ディ
アルシオン■愛知・

18 SUN.
新日本■兵庫・尼崎
FMW■新潟・かき
みちのく■岩手・矢
大日本■福岡・博多
闘龍門■岡山・卸セ
ノア■東京・ディファ
全日本女子■香川
アルシオン■岐阜・
GAEA■京都・KBS
Jd’■東京・後楽園

19 MON.
新日本■静岡・キラ
みちのく■青森・は
大日本■福岡・大牟

20 TUE.
新日本■東京・代々
みちのく■青森・青
大日本■福岡・博多
リングス■東京・デ
闘龍門■愛知・名古
全日本女子■香川
ノア■千葉・木更津
アルシオン■東京・

21 WED.
大日本■長崎・平戸
ノア■神奈川・相模
修斗■東京・北沢